

石塚遺跡・東木津遺跡調査報告

—都市計画道路下伏間江福田線築造に伴う平成9・10年度の調査—

2001年3月

高岡市教育委員会

序

“難波津に咲くや木の花冬ごもり今は春べと咲くや木の花”

都市計画道路「下伏間江福田線」築造にかかる発掘調査で、東木津遺跡より、この難波津の歌を記した木簡が出土しました。古代人が手習いとした和歌であり、当時の地方文化に想いをはせる上で興味深い資料です。

高岡市幹線道路網を構成する路線である都市計画道路「下伏間江福田線」は、高岡市街地の郊外を東西に貫く幹線道路として計画されたものです。この路線の西側に当たる国道156号から国道8号までの間は、「市道六家佐野線」とも呼ばれ、昭和48年に事業に着手して以来、JR北陸本線にかかる西佐野和田跨線橋の工事竣工をもって、平成12年に完成しました。延長2,350mの4車線の道路です。

この路線上には、石塚遺跡と東木津遺跡の2つの遺跡が存在しています。これらの遺跡は高岡市街地の南西郊外に分布する遺跡のなかでも主要なものです。今回の工事にともない、これらの遺跡の発掘調査を平成9・10年度に実施し、その後の整理作業の結果をまとめたものが本書です。

石塚遺跡は弥生時代中期の遺跡として著名な遺跡です。今回はこの遺跡の東側に該当する部分の発掘調査を実施しました。弥生時代中期の土器の出土や、出現期の古墳が確認されました。またこの遺跡の北東端部の状況の一端が判明しました。

東木津遺跡は、奈良・平安時代の律令期を中心とする遺跡です。当初推定していた範囲が拡大することが判明したほか、官衙的な遺構・遺物が確認されました。出土遺物は、木簡・陶瓦・和同開珎等の銅錢・祭祀具をはじめとした木製品・墨書き器等多彩な内容です。遺跡の性格をどのように捉えるか問題となる内容となりました。

最後になりましたが、この調査に御協力頂きました、関係各位、地元のみなさまに感謝の意を表します。

平成13年3月

高岡市教育委員会
教育長 細呂木 六良

例　言

1. 本書は、都市計画道路下伏岡江橋田線築造に伴う、石塚遺跡・東木津遺跡の発掘調査の報告書である。
2. 当調査は、高岡市建設部道路建設課から委託を受けて、高岡市教育委員会文化財課が実施した。
3. 各遺跡の調査地区及び現地調査期間は以下の通りである。
 - 石塚遺跡：富山県高岡市和田、平成9年6月26日～同年12月25日
 - 東木津遺跡：富山県高岡市木津、平成10年6月3日～平成11年4月12日
4. 報告書作成業者は、平成11・12年度事業として実施した。
5. 調査関係者は以下の通りである。
 - 文化財課長：川村晴彦（平成10年3月まで）
 - 文化財課長：宮村勝博（平成10年4月から）
 - 課長補佐：大石　茂
〔埋蔵文化財担当〕
 - 主幹：石浦正雄（平成12年3月まで）
 - 主幹：天谷隆夫（平成12年4月から）
 - 主査：山口辰一
 - 文化財保護主事：
 - 根津明義、荒井　隆、太田浩司
6. 現地調査は、山口・荒井が担当者として実施し、清水広晃（山式考古学研究所）、高階敬昭（山式考古学研究所）、岡田一広（富山大学学生）が補佐・協力した。
7. 整理・報告書作成業者は、山口・荒井が担当し、岡田が補佐・協力した。
8. 現地調査及び報告書作成において、以下の各氏より御教示、御援助を得た。

（順不同・敬称略）

 - 浅野良治、上野章、牛島茂、宇野降夫、岡本淳一郎、川崎晃、河合忍、久々忠義
 - 高森洋成、坂上有紀、下山田誠、杉本和樹、小島俊彰、齐藤隆、酒井清治、高橋克寿
 - 高橋真美、竹花宏之、館野和己、塚原二郎、中谷正和、中村一郎、西井龍儀、橋本正春
 - 服部敬史、馬場基、平川南、福海貴子、古瀬英明、堀沢祐一、宮田明、宮田進一
 - 向井裕知、邑木順亮、山下信一郎、山中敏史、山本正敏、吉川聰、渡辺晃宏
9. 個別的な指導については、以下の通りである。
 - 岩石の鑑定は邑木順亮氏（高岡市文化財保護審議委員）による。
 - 木簡・墨書き上端の訳文は館野和己、馬場基、山下信一郎、古川聰、渡辺晃宏の各氏（奈良国立文化財研究所）、及び川崎晃氏（高岡市万葉歴史館）による。
 - 種差の同定については株式会社古環境研究所のもので、報告していただいた。
10. 本書の執筆分担は以下の通りである。

第1章—山口、第2・3章—岡田、第4章—荒井、第5章—山口。

凡 例

遺構説明・遺構実測図について

1. 本書における遺構記号は、次の通りである。

S A - 標址、S B - 指立柱建物址、S D - 溝、S F - 道路址、S I - 堅穴状遺構、S K - 土坑、S P - ピット
S X - その他の遺構（横梁渡岸施設・凹地・土坑状遺構・缺状遺構・不明遺構）、S Z - 墳墓（古墳）

2. 断面図における上層の内容は、個別に記している以外は次の通りである。これは主となる上層をアラビア数字の1~40で示し、これに必要に応じて、アルファベット小文字のa~n、大文字のA・Bで示した土層を組み合わせて、その内容を説明している。

1. 黒色粘質土。	15. 黄褐色弱粘質土。	29. 暗灰褐色シルト。	c. 黑褐色シルトを含む。
2. 黒色シルト。	16. 黄褐色シルト。	30. 暗灰褐色砂質土。	d. 黑褐色砂質土を含む。
3. 黑褐色粘質土。	17. 黄褐色沙。	31. 灰褐色粘質土。	e. 哈褐色粘質土を含む。
4. 黑褐色弱粘質土。	18. 黄褐色砂質土。	32. 灰褐色弱粘質土。	f. 哈褐色シルトを含む。
5. 黑褐色シルト。	19. 明黄褐色粘質土。	33. 灰褐色シルト。	g. 哈褐色砂質土を含む。
6. 褐色砂質土。	20. 黄白色シルト。	34. 灰褐色沙。	h. 哈灰色粘質土を含む。
7. 灰褐色粘質土。	21. 黄褐色砂質土。	35. 灰褐色砂質土。	i. 灰褐色粘質土を含む。
8. 哈褐色弱粘質土。	22. 哈灰色粘質土。	36. 灰色粘質土。	j. 灰褐色シルトを含む。
9. 哈褐色シルト。	23. 哈灰色弱粘質土。	37. 灰色沙質土。	k. 灰褐色砂質土を含む。
10. 哈褐色沙。	24. 哈灰色シルト。	38. 青灰色粘質土。	l. 褐色沙を含む。
11. 哈褐色砂質土。	25. 哈褐色沙。	39. 青灰色沙。	m. 褐色砂質土を含む。
12. 褐色沙。	26. 哈灰色砂質土。	40. 青灰色沙質土。	n. 地山土を含む。
13. 褐色砂質土。	27. 暗灰褐色粘質土。	a. 黑色粘質土を含む。	A. 柱痕。
14. 黄褐色粘質土。	28. 暗灰褐色弱粘質土。	b. 黑褐色粘質土を含む。	B. 塗砂。

遺物説明・遺物実測図について

1. 土器類の口径は、口端部外縁ではなく、口端部上端で計測している。

2. 本書における遺物番号は、次の通りである。

1101~1187	石塚遺跡、弥生時代の土器類
1201~1217	石塚遺跡、古墳時代前期の土器類
1301~1323	石塚遺跡、奈良平安時代の土器類
1401~1421	石塚遺跡、中世近世の土器類
1501~1504	石塚遺跡、木製品
1601~1613	石塚遺跡、土製品
1701~1720	石塚遺跡、石製品
2001~2051	東木津遺跡、古墳時代の土器類
3001~3027	東木津遺跡、奈良平安時代の土器類、西側調査地区・溝S D60以外の出土土器
4001~4168	東木津遺跡、奈良平安時代の土器類、西側調査地区・溝S D60出土土器、土師器
5001~5926	東木津遺跡、奈良平安時代の土器類、西側調査地区・溝S D60出土土器、須恵器
6001~6130	東木津遺跡、奈良平安時代の土器類、中央調査地区出土土器
7001~7098	東木津遺跡、奈良平安時代の土器類、東側調査地区出土土器
8001~8206	東木津遺跡、木製品
9101~9115	東木津遺跡、土製品
9201~9210	東木津遺跡、銅製品
9301~9311	東木津遺跡、石製品
0101~0140	東木津遺跡、奈良平安時代の土器類、掘立柱建物址出土土器
0201~0208	東木津遺跡、古代・中世の土器類

調査参加者名簿

発報 石田健一、上田工、浦上忍、大田欣和、桶谷潤、尾崎智道、尾崎裕計
尾山久美子、角田知津江、河原康弘、北行進、木原和美、京田直子、小島善雄
小林央、佐賀一貴、佐野寛、沢田和明、新谷晴紀子、杉本広政、岡伊季子
高木知子、高田えみ子、橋英公子、田畠吉史、寺井久了、寺田里織、寺山知子
上合良子、戸井知佳、道谷美奈子、中島恒、仲谷巧正、中山賢富、南部昭一
苗田朋江、幡薫、八幡柳治、早川由紀子、広沢隆太郎、福澤雪、藤井美紀
古岡弘之、放生千絵、木江博美、前田武蔵、増本幸了、松本直典、三國世理子
水外一郎、向井美江、安田武雄、山岸朋子、山崎一男、山城一夫、山田雅江
山本好美、若杉賢二、脇智恵子

整理 池田宏子、磯部夏子、井田まさみ、上田晶子、梅沢征津子、大出欣和、小形里香
小川由紀、桶谷潤、樋谷知世、小田紀子、小竹由紀子、小野余津美、尾山久美子
折原美子、垣地慶子、笠谷幸代、加地勝子、金田あゆみ、鎌仲勝子、川井理恵子
河内由夏、河島宏美、川田純子、北出幸子、木原和美、京田直子、神林友里
小島善雄、小林央、三箇正子、式庄恵子、嶋田健治、新谷晴紀子、杉村いく子
高井久美、高木麻里、高口直美、高島淳、高田えみ子、瀧井伸子、竹原弥香
竹綱優子、竹本耕一、橋英公子、田辺幸代、谷内恵子、寺井久子、寺下昌子
上合良子、道谷美奈子、中三希子、中川弓子、中村亜矢、中村恭子、仁木菜穂湖
西野有実、西野由香、西本真由美、苗田朋江、萩原京、長谷川清美、轄薫
島山輝美、原島眞、針原美佳、水見智子、平井智美、福澤雪、藤井美紀、藤木麗
藤崎文博、放生千絵、朴木香保利、坂田委月子、牧田里恵、松原美樹、三浦千秋
三國世理子、三島幸代、水島優美子、水谷祐子、宮籠沙綾、宮田洋子、明前雅江
村井美江、村井和佳子、村上みのり、村田智恵子、村田理恵、審崎真弓
村中由加利、森亜希、欠田美千豊、山崎千鶴子、山崎美和、山田博、山田宮子
山田恵、山本好美、横田静佳、芳川ちひろ

事務 片岡千賀子、田中美徳子

高岡市埋蔵文化財調査報告第7冊

石塚遺跡・東木津遺跡調査報告

目 次

序

例言

凡例

目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡概観	3
第1節 環 境	3
第2節 遺跡の分布状態	7
第3章 石塚遺跡	11
第1節 序 説	11
第2節 遺 構	21
第3節 遺 物	26
第4節 結 語	30
第4章 東木津遺跡	45
第1節 序 説	45
第2節 遺 構	50
第3節 遺 物 [1]	58
第4節 遺 物 [2]	63
第5節 種 実	71
第6節 結 語	79
第5章 総 括	93

図面目次

図面001	遺構実測図	石塚道路	図面配置図 (1 / 1,000)
図面002	遺構実測図	石塚道路	調査地区全体図 [1] (1 / 400)
図面003	遺構実測図	石塚道路	調査地区全体図 [2] (1 / 400)
図面004	遺構実測図	石塚道路	調査地区全体図 [3] (1 / 400)
図面005	遺構実測図	石塚道路	調査地区全体図 [4] (1 / 400)
図面006	遺構実測図	石塚道路	西側調査地区遺構平面図 [1] (1 / 200)
図面007	遺構実測図	石塚道路	西側調査地区遺構平面図 [2] (1 / 200)
図面008	遺構実測図	石塚道路	東側調査地区遺構平面図 [1] (1 / 200)
図面009	遺構実測図	石塚道路	東側調査地区遺構平面図 [2] (1 / 200)
図面010	遺構実測図	石塚道路	古墳 S Z-08 (石塚 4 号墳) 実測図 (1 / 80)
図面011	遺構実測図	石塚道路	豊穴式遺構 S 1-02 実測図 (1 / 40)
図面012	遺構実測図	石塚道路	土坑式実測図 (1 / 80)
図面013	遺構実測図	東木津道路	図面配置図 (1 / 1,000)
図面014	遺構実測図	東木津道路	西側調査地区全体図 (1 / 400)
図面015	遺構実測図	東木津道路	中央調査地区全体図 (1 / 400)
図面016	遺構実測図	東木津道路	東側調査地区全体図 (1 / 400)
図面017	遺構実測図	東木津道路	西側調査地区遺構平面図 [1] (1 / 200)
図面018	遺構実測図	東木津道路	西側調査地区遺構平面図 [2] (1 / 200)
図面019	遺構実測図	東木津道路	西側調査地区遺構平面図 [3] (1 / 200)
図面020	遺構実測図	東木津道路	中央調査地区遺構平面図 [1] (1 / 200)
図面021	遺構実測図	東木津道路	中央調査地区遺構平面図 [2] (1 / 200)
図面022	遺構実測図	東木津道路	東側調査地区遺構平面図 [1] (1 / 200)
図面023	遺構実測図	東木津道路	東側調査地区遺構平面図 [2] (1 / 200)
図面024	遺構実測図	東木津道路	1. 挖立柱建物址 S B-07 実測図 (1 / 80, 1 / 40) 2. 挖立柱建物址 S B-08 実測図 (1 / 80)
図面025	遺構実測図	東木津道路	掘立柱建物址 S B-09 実測図 (1 / 80, 1 / 40)
図面026	遺構実測図	東木津道路	掘立柱建物址 S B-10 実測図 (1 / 80, 1 / 40)
図面027	遺構実測図	東木津道路	掘立柱建物址 S B-11 実測図 (1 / 80, 1 / 40)
図面028	遺構実測図	東木津道路	掘立柱建物址 S B-12 実測図 (1 / 80, 1 / 40)
図面029	遺構実測図	東木津道路	1. 掘立柱建物址 S B-13 実測図 (1 / 80, 1 / 40) 2. 掘立柱建物址 S B-14 実測図 (1 / 80, 1 / 40)
図面030	遺構実測図	東木津道路	掘立柱建物址 S B-15 実測図 (1 / 80, 1 / 40)
図面031	遺構実測図	東木津道路	1. 掘立柱建物址 S B-16 実測図 (1 / 80, 1 / 40) 2. 掘立柱建物址 S B-17 実測図 (1 / 80, 1 / 40)
図面032	遺構実測図	東木津道路	掘立柱建物址 S B-18 実測図 (1 / 80, 1 / 40)
図面033	遺構実測図	東木津道路	掘立柱建物址 S B-19 実測図 (1 / 80, 1 / 40)
図面034	遺構実測図	東木津道路	掘立柱建物址 S B-20 実測図 (1 / 80, 1 / 40)
図面035	遺構実測図	東木津道路	櫛址 S A-06~08 実測図 (1 / 80, 1 / 40)

- 図面036 遺構実測図 東木津遺跡 橋梁護岸施設S X11=溝S D60大測図 (1/80)
図面037 遺構実測図 東木津遺跡 橋梁護岸施設S X11詳細図 (1/60)
図面038 遺構実測図 東木津遺跡 橋梁護岸施設S X11部材出土位置図 (1/100)
図面039 遺構実測図 東木津遺跡 溝S D60土層断面図 (1/60)
図面040 遺構実測図 東木津遺跡 溝S D60主要遺物出土位置図〔1〕 (1/80)
図面041 遺構実測図 東木津遺跡 溝S D60主要遺物出土位置図〔2〕 (1/80)
図面042 遺構実測図 東木津遺跡 道路址S F01・02実測図〔1〕 (1/200、1/60)
図面043 遺構実測図 東木津遺跡 道路址S F01・02実測図〔2〕 (1/200、1/60)
図面044 遺構実測図 東木津遺跡 土坑実測図〔1〕 (1/80)
図面045 遺構実測図 東木津遺跡 土坑実測図〔2〕 (1/80)
図面046 遺構実測図 東木津遺跡 土坑実測図〔3〕 (1/80)
図面047 遺構実測図 東木津遺跡 土坑実測図〔4〕 (1/80)
図面048 遺構実測図 東木津遺跡 土坑実測図〔5〕 (1/80)
図面049 遺構実測図 東木津遺跡 上坑大測図〔6〕 (1/80)
図面050 遺構実測図 東木津遺跡 凹地S X06土層断面図 (1/60)
図面051 遺物実測図 石塚遺跡 弥生時代の土器類 (1/3)
図面052 遺物実測図 石塚遺跡 弥生時代の土器類 (1/3)
図面053 遺物実測図 石塚遺跡 弥生時代の土器類 (1/3)
図面054 遺物実測図 石塚遺跡 弥生時代の土器類 (1/3)
図面055 遺物実測図 石塚遺跡 弥生時代の土器類 (1/3)
図面056 遺物実測図 石塚遺跡 弥生時代の土器類 (1/3)
図面057 遺物実測図 石塚遺跡 弥生時代の土器類 (1/3)
図面058 遺物実測図 石塚遺跡 弥生時代の土器類 (1/3)
図面059 遺物実測図 石塚遺跡 弥生時代の土器類 (1/3)
図面060 遺物実測図 石塚遺跡 弥生時代の土器類 (1/3)
図面061 遺物実測図 石塚遺跡 古墳時代前期の土器類 (1/3)
図面062 遺物実測図 石塚遺跡 古墳時代前期の土器類 (1/3)
図面063 遺物実測図 石塚遺跡 奈良平安時代の土器類 (1/3)
図面064 遺物実測図 石塚遺跡 中近世の土器類 (1/3)
図面065 遺物実測図 石塚遺跡 木製品 (1/3)
図面066 遺物実測図 石塚遺跡 土製品 (1/2、実大)
図面067 遺物実測図 石塚遺跡 石製品 (1/2)
図面068 遺物実測図 石塚遺跡 石製品 (1/2)
図面069 遺物実測図 石塚遺跡 石製品 (実大)
図面070 遺物実測図 石塚遺跡 石製品 (1/2)
図面071 遺物実測図 東木津遺跡 古墳時代の土器類 (1/3)
図面072 遺物実測図 東木津遺跡 古墳時代の土器類 (1/3)
図面073 遺物実測図 東木津遺跡 古墳時代の土器類 (1/3)
図面074 遺物実測図 東木津遺跡 古墳時代の土器類 (1/3)
図面075 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の土器類 西側調査地区・溝S D60以外の出土土器 (1/3)
図面076 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の土器類 西側調査地区・溝S D60出土土器 (1/3)

- 図面118 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の土器類 西側調査地区・溝S D60出土上器 (1/3)
- 図面119 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の上器類 西側調査地区・溝S D60出土上器 (1/3)
- 図面120 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の土器類 西側調査地区・溝S D60出土土器 (1/3)
- 図面121 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の土器類 西側調査地区・溝S D60出土土器 (1/3)
- 図面122 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の土器類 中央調査地区出土上器 (1/3)
- 図面123 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の土器類 中央調査地区出土土器 (1/3)
- 図面124 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の土器類 中央調査地区出土土器 (1/3)
- 図面125 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の土器類 中央調査地区出土土器 (1/3)
- 図面126 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の土器類 中央調査地区出土土器 (1/3)
- 図面127 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の土器類 中央調査地区出土土器 (1/3)
- 図面128 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の上器類 東側調査地区出土土器 (1/3)
- 図面129 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の上器類 東側調査地区出土土器 (1/3)
- 図面130 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の土器類 東側調査地区出土土器 (1/3)
- 図面131 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の土器類 東側調査地区出土土器 (1/3)
- 図面132 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の土器類 東側調査地区出土土器 (1/3)
- 図面133 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の土器類 捩立柱建物址出土上器 (1/3)
- 図面134 遺物実測図 東木津遺跡 奈良平安時代の土器類 捩立柱建物址出土土器 (1/3)
- 古代・中世の土器類 (1/3)
- 図面135 遺物実測図 東木津遺跡 余良平安時代の土器類 油煙付土器 (1/3)
- 図面136 遺物実測図 東木津遺跡 余良平安時代の土器類 油煙付土器 (1/3)
- 図面137 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面138 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面139 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面140 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面141 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面142 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面143 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面144 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面145 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面146 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面147 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面148 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面149 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面150 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面151 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面152 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面153 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面154 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/3)
- 図面155 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/3)
- 図面156 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)
- 図面157 遺物実測図 東木津遺跡 木製品 (1/2)

- 図面158 遺物実測図 東木津遺跡 木製品（1／2）
- 図面159 遺物実測図 東木津遺跡 木製品（1／2）
- 図面160 遺物実測図 東木津遺跡 木製品（1／2）
- 図面161 遺物実測図 東木津遺跡 木製品（1／3）
- 図面162 遺物実測図 東木津遺跡 上製品（1／2）
- 図面163 遺物実測図 東木津遺跡 石製品（大型、1／2）
- 図面164 遺物実測図 東木津遺跡 石製品（1／2）

図 版 目 次

- 図版001 造構写真 石塚遺跡 1. 遺跡遠景（西）
2. 遺跡遠景（南東）
- 図版002 造構写真 石塚遺跡 1. 調査地区遠景（南西）
2. 調査地区遠景（南）
- 図版003 造構写真 石塚遺跡 1. 西側調査地区遠景（南）
2. 内側調査地区全景（西）
- 図版004 造構写真 石塚遺跡 1. 西側調査地区全景（北東）
2. 西側調査地区全景（南西）
- 図版005 造構写真 石塚遺跡 1. 東側調査地区遠景（南西）
2. 東側調査地区全景（南）
- 図版006 造構写真 石塚遺跡 1. 占墳S Z08全景（南西）
2. 占墳S Z08全景（上方）
- 図版007 造構写真 石塚遺跡 1. 占墳S Z08周溝断面（西）
2. 占墳S Z08周溝断面（南東）
- 図版008 造構写真 石塚遺跡 1. 整穴状造構 S I 02全景（南）
2. 整穴状造構 S I 02断面（南）
- 図版009 造構写真 石塚遺跡 1. 両地S X01遺物出土状態、弦生土器（南）
2. 両地S X01遺物出土状態、弦生土器（南）
3. 両地S X01遺物出土状態、須恵器（南西）
- 図版010 造構写真 東木津遺跡 1. 調査地区遠景（南）
2. 調査地区遠景（上方）
- 図版011 造構写真 東木津遺跡 1. 調査地区遠景（北西）
2. 調査地区遠景（南東）
- 図版012 造構写真 東木津遺跡 1. 西側調査地区遠景（南）
2. 西側調査地区全景（上方）
- 図版013 造構写真 東木津遺跡 1. 西側調査地区全景（北西）
2. 西側調査地区全景（南東）
- 図版014 造構写真 東木津遺跡 1. 中央調査地区全景（南西）

2. 中央調査地区全景（上方）
- 図版015 造構写真 東木津遺跡 1. 中央調査地区全景（北西）
2. 中央調査地区全景（南東）
- 図版016 造構写真 東木津遺跡 1. 東側調査地区遠景（南西）
2. 東側調査地区全景（上方）
- 図版017 造構写真 東木津遺跡 1. 東側調査地区全景（北西）
2. 東側調査地区全景（南東）
- 図版018 造構写真 東木津遺跡 1. 捩立柱建物址S B07検出状態（南西）
2. 捩立柱建物址S B07検出状態（西）
- 図版019 造構写真 東木津遺跡 1. 捩立柱建物址S B07全景（南西）
2. 捩立柱建物址S B07全景（西）
- 図版020 造構写真 東木津遺跡 1. 捩立柱建物址S B08・09全景（北西）
2. 捩立柱建物址S B08・09全景（北東）
- 図版021 造構写真 東木津遺跡 1. 捩立柱建物址S B10・11検出状態（北）
2. 捩立柱建物址S B10・11検出状態（東）
- 図版022 造構写真 東木津遺跡 1. 捩立柱建物址S B10・11全景（北西）
2. 捩立柱建物址S B10・11全景（上方）
- 図版023 造構写真 東木津遺跡 1. 捩立柱建物址S B12～15全景（上方）
2. 捩立柱建物址S B12～15全景（北西）
- 図版024 造構写真 東木津遺跡 1. 捩立柱建物址S B15検出状態（北西）
2. 捩立柱建物址S B15検出状態（北）
- 図版025 造構写真 東木津遺跡 1. 捩立柱建物址S B14全景（南西）
2. 捩立柱建物址S B15全景（北西）
- 図版026 造構写真 東木津遺跡 1. 捩立柱建物址S B16・17検出状態（北西）
2. 捩立柱建物址S B16・17全景（北）
- 図版027 造構写真 東木津遺跡 1. 捩立柱建物址S B16～19全景（上方）
2. 捩立柱建物址S B18・19検出状態（南西）
- 図版028 造構写真 東木津遺跡 1. 捩立柱建物址S B19検出状態（北東）
2. 捩立柱建物址S B19全景（北西）
- 図版029 造構写真 東木津遺跡 1. 捩立柱建物址S B20全景（北東）
2. 捩立柱建物址S B20全景（上方）
- 図版030 造構写真 東木津遺跡 1. 橋梁護岸施設S X11＝溝S D60検出状態（北東）
2. 橋梁護岸施設S X11＝溝S D60検出状態（南西）
- 図版031 造構写真 東木津遺跡 1. 橋梁護岸施設S X11＝溝S D60検出状態（東）
2. 橋梁護岸施設S X11＝溝S D60検出状態（北）
- 図版032 造構写真 東木津遺跡 1. 橋梁護岸施設S X11南東側張出部全景（南南東）
2. 橋梁護岸施設S X11南東側張出部断面（南西）
- 図版033 造構写真 東木津遺跡 1. 溝S D60全景（南西）
2. 溝S D60全景（東）
- 図版034 造構写真 東木津遺跡 1. 溝S D60全景（上方）
2. 橋梁護岸施設S X11全景（上方）

図版035	遺構写真 東木津遺跡	1. 橋梁護岸施設 S X 11全景 (北) 2. 橋梁護岸施設 S X 11全景 (南)
図版036	遺構写真 東木津遺跡	1. 溝 S D 60土層断面 (南西) 2. 溝 S D 60土層断面 (北東)
図版037	遺構写真 東木津遺跡	1. 溝 S D 60遺物出土状態、上器類 (南) 2. 溝 S D 60遺物出土状態、土器類 (南東) 3. 溝 S D 60遺物出土状態、土器類 (南)
図版038	遺構写真 東木津遺跡	1. 道路址 S F 01全景 (西) 2. 道路址 S F 01全景 (上方)
図版039	遺物写真 石塚遺跡	土器類 弥生土器
図版040	遺物写真 石塚遺跡	土器類 弥生土器
図版041	遺物写真 石塚遺跡	土器類 弥生土器
図版042	遺物写真 石塚遺跡	土器類 弥生土器・古墳時代前期の上師器
図版043	遺物写真 石塚遺跡	土器類 古墳時代前期の上師器
図版044	遺物写真 石塚遺跡	土器類 奈良平安時代の須恵器・越中漬戸
図版045	遺物写真 石塚遺跡	木製品・土製品
図版046	遺物写真 石塚遺跡	石製品
図版047	遺物写真 石塚遺跡	石製品
図版048	遺物写真 石塚遺跡	石製品
図版049	遺物写真 東木津遺跡	土器類 古墳時代の上師器
図版050	遺物写真 東木津遺跡	土器類 古墳時代の土師器
図版051	遺物写真 東木津遺跡	上器類 安良平安時代の土師器
図版052	遺物写真 東木津遺跡	上器類 安良平安時代の土師器
図版053	遺物写真 東木津遺跡	上器類 安良平安時代の須恵器
図版054	遺物写真 東木津遺跡	上器類 安良平安時代の須恵器
図版055	遺物写真 東木津遺跡	上器類 安良平安時代の須恵器
図版056	遺物写真 東木津遺跡	上器類 安良平安時代の須恵器
図版057	遺物写真 東木津遺跡	上器類 安良平安時代の須恵器
図版058	遺物写真 東木津遺跡	上器類 安良平安時代の須恵器
図版059	遺物写真 東木津遺跡	木製品 木筒
図版060	遺物写真 東木津遺跡	木製品 木筒
図版061	遺物写真 東木津遺跡	木製品 木筒
図版062	遺物写真 東木津遺跡	木製品 木筒形
図版063	遺物写真 東木津遺跡	木製品 人形
図版064	遺物写真 東木津遺跡	木製品 斧串
図版065	遺物写真 東木津遺跡	木製品 斧串
図版066	遺物写真 東木津遺跡	木製品 斧串
図版067	遺物写真 東木津遺跡	木製品 祭祀用品・服飾具
図版068	遺物写真 東木津遺跡	木製品 服飾具
図版069	遺物写真 東木津遺跡	木製品 挽物
図版070	遺物写真 東木津遺跡	木製品 挽物

- 図版071 遺物写真 東木津遺跡 木製品 挽物
- 図版072 遺物写真 東木津遺跡 木製品 挽物・蓋
- 図版073 遺物写真 東木津遺跡 木製品 曲物
- 図版074 遺物写真 東木津遺跡 木製品 曲物
- 図版075 遺物写真 東木津遺跡 木製品 曲物
- 図版076 遺物写真 東木津遺跡 木製品 曲物
- 図版077 遺物写真 東木津遺跡 木製品 雜具
- 図版078 遺物写真 東木津遺跡 木製品 雜具・用途不明品
- 図版079 遺物写真 東木津遺跡 木製品 柄状品・蓋
- 図版080 遺物写真 東木津遺跡 木製品 柄状品・用途不明品・部材
- 図版081 遺物写真 東木津遺跡 土製品
- 図版082 遺物写真 東木津遺跡 銅製品
- 図版083 遺物写真 東木津遺跡 石製品
- 図版084 種実写真 東木津遺跡
- 図版085 種実写真 東木津遺跡

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図 (1/15万)	1
第2図 工事区域位置図 (1/2万5千)	2
第3図 庄川扇状地 (1/15万)	5
第4図 佐野台地とその周辺地形 (1/5万)	6
第5図 遺跡分布図 (1/2万5千)	7
第6・7図 遺跡地図〔1〕・〔2〕 (1/1万5千)	8~9
第8図 石塚遺跡、調査地区位置図 (1/5,000)	13
第9~14図 石塚遺跡、既往の調査地区〔1〕~〔6〕 (1/1,000)	14~19
第15図 石塚遺跡、西側調査地区時期別遺構図 (1/200)	22
第16図 石塚遺跡、西側調査地区平な弥生土器・土師器出土位置図 (1/200)	24
第17・18図 石塚遺跡、弥生土器分類図〔1〕・〔2〕 (1/6)	32~33
第19・20図 石塚遺跡、弥生土器変遷図〔1〕・〔2〕 (1/6)	34~35
第21・22図 石塚遺跡、弥生土器表・無表蓋・蓋変遷図〔1〕・〔2〕 (1/6)	36~37
第23・24図 石塚遺跡、弥生土器表・鉢変遷図〔1〕・〔2〕 (1/6)	38~39
第25図 石塚遺跡、古墳時代前期土師器変遷図 (1/6)	41
第26図 石塚占墳群分布図 (1/1,000)	43
第27図 石塚2号墳実測図 (1/200)	44
第28図 東木津遺跡、調査地区位置図 (1/5,000)	45
第29・30図 東木津遺跡、既往の調査地区〔1〕・〔2〕 (1/1,000)	48~49
第31~33図 東木津遺跡、掘立柱建物址概略図〔1〕~〔3〕 (1/200)	50~52

第34図 東木津遺跡、銅製品実測図（実大）	67
第35図 東木津遺跡、溝S D60における種実ダイアグラム	75
第36図 東木津遺跡、遺跡概略図（1／1,500）	79
第37図 東木津遺跡、占墳時代土器器変遷図（1／6）	80
第38図 東木津遺跡、食器具法量計測図	83
第39図 東木津遺跡、掘立柱建物址現状一覧図	85
第40図 東木津遺跡、掘立柱建物址方位一覧図	85
第41図 東木津遺跡、奈良平安時代区割り想定図（1／1,000）	86
第42図 東木津遺跡、栄榮海岸施設S X11等断面模式図（1／80）	87
第43～45図 東木津遺跡、奈良平安時代遺構変遷図〔1〕～〔3〕（1／1,000）	88～89
第46・47図 佐野台地の主要遺跡変遷図〔1〕・〔2〕	93～94
第48図 東木津遺跡関連考古歴史地図（1／10万）	95

挿 表 目 次

第1表 石塚遺跡、都市計畫道路埋蔵調査地区一覧表	11
第2表 幼生土器編年対照表	40
第3表 石塚古墳群の計測値と尺度	43
第4・5表 東木津遺跡、墨書き上器一覧表〔1〕・〔2〕	69～70
第6・7表 東木津遺跡、種実同定結果一覧表〔1〕・〔2〕	76～77
第8表 東木津遺跡、モモ核計測値一覧表	78
第9表 東木津遺跡、墨書き上器記載内容別分類表	91

別 表 目 次

別表1 東木津遺跡、掘立柱建物址一覧表	97～100
別表2 東木津遺跡、柵址一覧表	101
別表3 東木津遺跡、上坑一覧表	102～110
別表4 東木津遺跡、溝一覧表	111～114
別表5 石塚遺跡、土器類觀察表	115～119
別表6 東木津遺跡、上器類觀察表	120～154
別表7 東木津遺跡、木製品觀察表	155～159

第1章 調査に至る経緯

工事計画

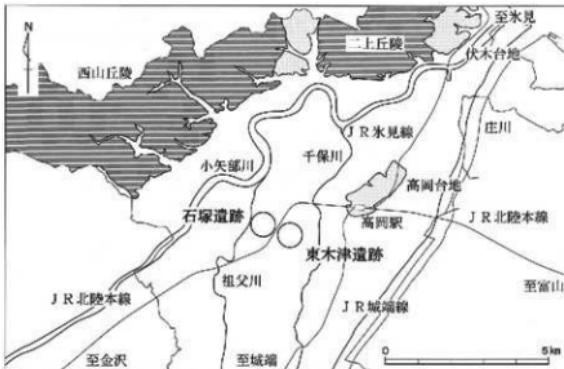
都市計画道路「下伏間江福田線」は、高岡市幹線道路網の外環状を構成する路線であり、高岡問屋センターの南側、下伏間江地内より、福田地区の国道8号へ至る幅員18mの道路である。高岡市街地の南側郊外を貫く道路で、JR高岡駅からは約1.5km南側の地点を走るものである。

この道路は、ほぼ南北に走っている道路等一東側から、JR城端線・千保川・国道156号・和田川・JR北陸本線・祖父川へを横断するものである。

この都市計画道路は昭和40年代に策定された富山・高岡広域都市計画に盛り込まれ、高岡市建設部が整備を進めてきたものである。

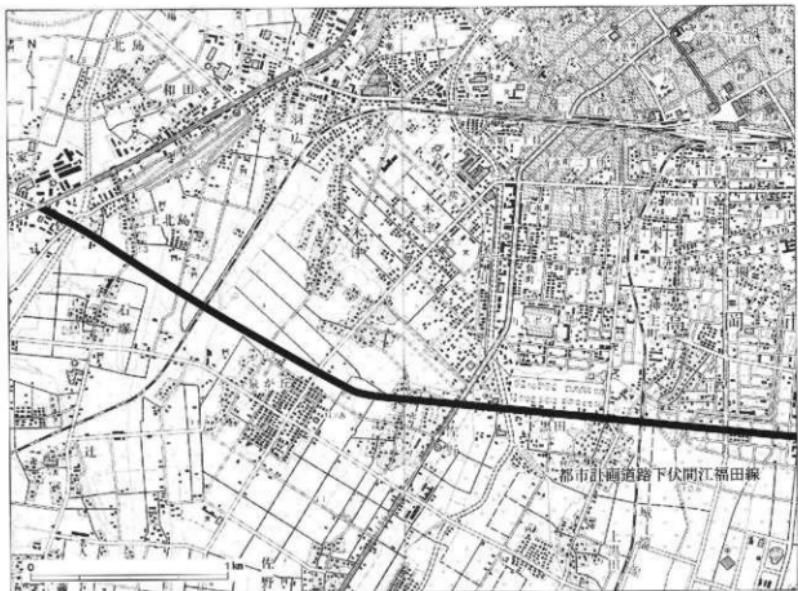
東側の千保川と西側の祖父川との間に、幾つかの遺跡が存在するが、当時これらの遺跡は点的に知られていたのみで、遺跡を直接分断する路線との認識はなかった。和田川と祖父川との間に石塚遺跡が存在していたが、この道路は遺跡の北側を走るものとされていた。昭和59年度にこの道路工事中に石塚遺跡の北側において土器等の遺物が出土し、当遺跡がさらに北側へ拡がるものと推定されたので、昭和60年度にこの地区において試掘調査を実施した。そして、これにより確定された遺跡の範囲を昭和61・62年度の両年にわたり本調査を実施した。

高岡市では、昭和58年度から昭和62年度にかけて、市域の北西側の西山丘陵・二上丘陵とその付近一帯で「西山丘陵埋蔵文化財分布調査事業」を実施した。これは、「西山地区」で大規模な開発計画があったことにもよる。その他の平野部での分布調査は、平成元年度から平成10年度にかけて「高岡市埋蔵文化財分布調査事業」として実施した。遺物の表面採集を中心とした調査であったが、遺跡の範囲を面的に捉えることができた。また、開発行為に伴う試掘調査等により、遺跡の範囲が徐々に判明してきた。



第1図 遺跡位置図

(1/15万)



第2図 工事区域位置図（1／2万5千）

試掘調査の実施

都市計画道路「下伏間江福田線」にかかるもので、石塚遺跡や東木津遺跡は、従来想定していたものよりも範囲が拡がることが確実になってきた。工事担当の高岡市建設部道路建設課と高岡市教育委員会社会教育課（平成7年度からは組織改正により文化財課）との協議が行われ、これらの遺跡で路線にかかる部分の試掘調査を実施することになった。

東木津遺跡に対する試掘調査は、平成7年5月1日から5月19日の間に実施した。調査地区は泉ヶ丘団地の北東側である。試掘調査の結果、全域にわたり土坑や溝等の遺構が検出され、遺物が出土した。

石塚遺跡に対する試掘調査は、平成8年10月17日から12月2日の間に実施した。調査地区は遺跡推定範囲の北東側地区で前波神社の南側である。東側にはJR北陸本線が走っているが、線路を越えた東側にも遺跡が拡がっている可能性があり、また石名瀬B遺跡も付近に所在しているので、この部分も試掘調査対象地とした。試掘調査の結果、JR北陸本線付近は砂礫層からなる旧河遺跡であった。ここが当遺跡の北東側の範囲外であることが判明した。西側一帯では遺構が確認され遺物が出土したので、遺跡の範囲内とした。

このような試掘調査の結果を受けて、本調査を実施するに至った。平成9年度に石塚遺跡の発掘調査を、平成10年度に東木津遺跡の発掘調査を行った。

第2章 遺跡概観

第1節 環 境

1. 地誌

福田と佐野

高岡市街地の南西郊外は、かつての福田村、佐野村の地である。石塚遺跡は福田地区石塚集落の東側に位置している。東木津遺跡は佐野地区木津集落の南側、佐野集落の北西側に位置している。

石塚集落とその周辺

庄川扇状地を形成する支流の1つに祖父川がある。祖父川を小矢部川との合流地点から約1.5km遡った右岸に石塚集落が位置する。石塚集落には県道高岡環状線が貫き、祖父川の対岸には近世北陸道に当たる県道鶴島立野線が走り、県道高岡環状線と県道鶴島立野線は北接する集落である上北島集落で合流する。石塚の名は砺波郡古積莊に属する村として「石塚村」が南北朝時代の文献に見えるものである。石塚集落の北側は上北島（旧上北島村）、東側は佐野（旧佐野村）、南側は辻（旧辻村）、西側は六家（旧六家村）である。

石塚地区は江戸時代から明治22年までの石塚村であり、その後は明治22年に成立した福田村に所属した。福田村は、佐野・福田新・上北島・石塚・辻・藏野町・荒見崎の7箇村を合併したものである。昭和24年に福田村が高岡市と併合することに伴い、高岡市の大字となり現在に至っている。福田の地名は福田郷・福田荘として鎌倉時代から戦国時代の文献に見えるものである。福田郷の惣社は、延喜式内社とされる前波神社である。福田村は砺波郡、郡の分割後は西砺波郡に含まれてきた地域である。高岡市においては中央部にあたり、北側は旧射水郡横田村、東側は旧射水郡佐野村、南側は川砺波郡戸出町、西側は旧砺波郡東五位村の地域である。福田地区の北および東の境界は川射水郡と旧砺波郡の境となり、古代の郡界もこの付近に推定され、ここまでが砺波郡とされている。福田地内の西側には北東から南西方向に国道8号が走り、また並行して近世北陸道である県道立野鶴島線が走る。また、近世城廻道である県道高岡環状線は上北島地内で県道立野鶴島線から分岐し、戸出・砺波方面へ延びている。

木津集落とその周辺

庄川扇状地を形成する支流の1つに千保川がある。千保川は江戸時代までは庄川の本流となっており、寛文10（1670）年から正徳4（1714）年にかけて実施された加賀藩による河川改修によって現在の流路となつた。千保川を小矢部川との合流地点から約3.0km遡った左岸に木津集落が位置する。木津集落は佐野台地の北東端部に位置し、ここより北東方は千保川の氾濫源となる。この氾濫源の対岸は高岡台地（現市街地中心部）である。集落の北側は高岡市街地（旧高岡町）、東側は下黒田（旧下黒田村）、南側は佐野（旧佐野村）、西側は羽広（旧羽広村）である。

木津地区は江戸時代から明治22年までは木津村であり、その後は北部が高岡市に、南部は佐野村に所属した。佐野村は、佐野・西藤平蔵・十二町鳥・北蔵新・中坪新・木津新・上岡新の7箇村と鶯島新・木津・鶯

島・上岡・上黒田・下黒田の一部が合併したものである。昭和17年に佐野村が高岡市と合併することに伴い、高岡市の大字となり現在に至っている。佐野村は射水郡二上莊に属し、佐野郡として鎌倉時代の文献にみられる。佐野郷、佐野村は射水郡に含まれてきた地域である。高岡市においては中央部にあたり、北側は旧射水郡高岡町、東側は旧射水郡二塚村、南側は旧砺波郡戸出町、西側は旧砺波郡福田村の地域である。佐野地区の南および西の境界で旧射水郡と旧砺波郡の境となり、古代の郡界もこの付近に推定され、ここまでが射水郡とされている。

佐野地区は庄川扇状地の豊富な伏流水の湧水帯に当たり、特に木津地区では昭和2年に高岡市上水道計画における水源地として指定された。近年、佐野地区では大型の宅地化が進み、北側には南星町、中央部には泉ヶ丘団地など造成が行われている。佐野地区の東部には高岡を起点とする国道156号が南北に走り、砺波・五箇山を通り岐阜県岐阜市に達している。

2. 地勢

庄川扇状地

庄川は、飛騨高地の中央部、岐阜県庄川村鳥帽子岳に発し、庄川町金屋で平野部へ出て、砺波平野の東端を北流し、新湊市六渡寺で富山湾へ注ぐ全長132kmの川である。庄川町金屋で平野部へ出ると、北西方向に拡がる扇状地を形成し、この扇状地は砺波平野の主要部となる。現在の庄川は庄川扇状地の東端部を北流しているが、これは寛文10（1670）年から正徳4（1714）年にかけて実施された加賀藩による河川改修と流路の固定化によるもので、それ以前は千保川筋が庄川本流であった。この加賀藩の河川改修では、高岡市能町地区で小矢部川と合流していた。明治29（1896）年に伏木地区で相次いで洪水し、また伏木港の建設のため、小矢部川と庄川を分流する工事が行われ、明治45（1912）年に工事が完了し現在のように富山湾へ直接注ぐようになった。現在は庄川の上流部には幾多のダムが建造され、また砺波平野の灌漑用水源として利用されているため、河床の低下が著しくなっている。

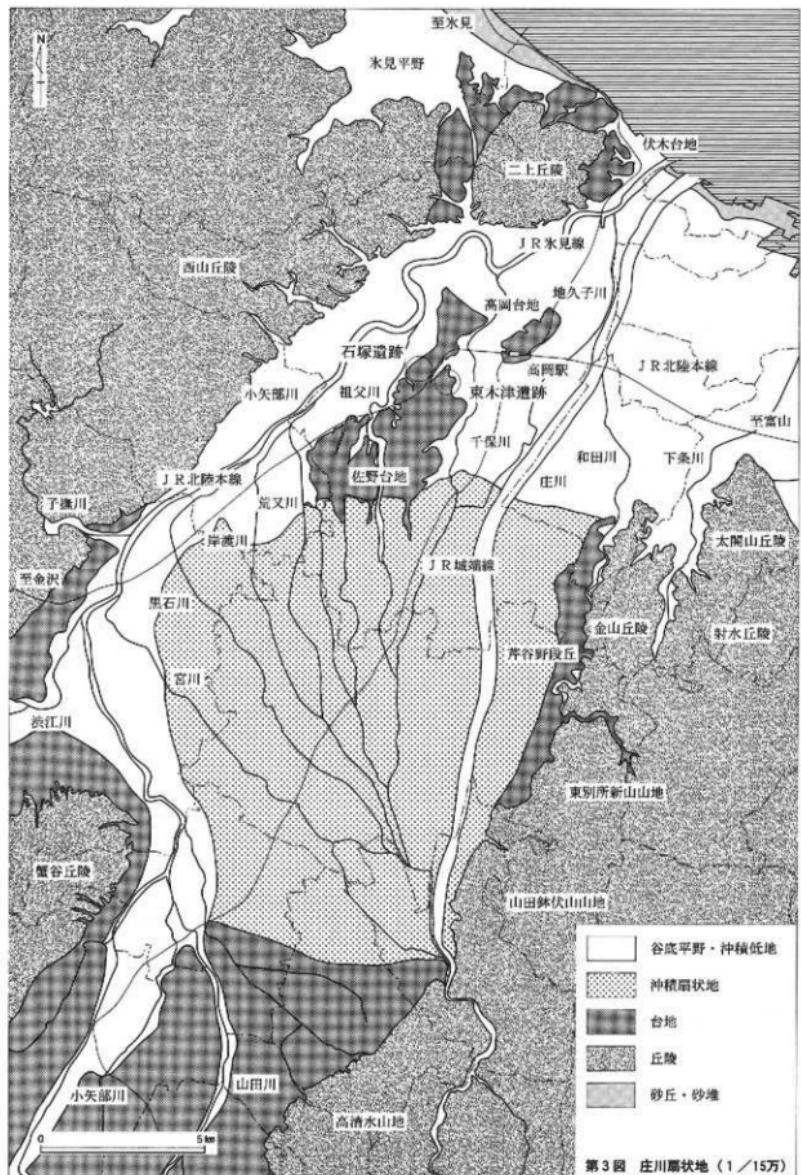
庄川扇状地を形成する庄川の支流は、いずれも扇状地の西端部を北流する小矢部川に注ぎ込む。小矢部川は、石川県と富山県との境の大門山に発し、福光町網掛で平野部へ出る。砺波平野とこれに続く射水平野の西側を緩やかに曲流した後、二上山の南麓から東麓へ走り、高岡市伏木より富山湾へと注ぐ、全長67kmの川である。大小いくつもの川がこの小矢部川へ流れ込み、排水河川として機能している。

祖父川

庄川の支流で小矢部川へと流れ込む川の1つに祖父川がある。祖父川は庄川扇状地扇央部の砺波市三郎丸で舟戸口用水から流れ出し、高岡市早川にて小矢部川へ注ぎ込む全長13.9kmの川である。舟戸口用水は庄川扇状地の扇頂部にあたる庄川町金屋から砺波市三郎丸までの灌漑用水であり、三郎丸にて祖父川と千保川に分流する。祖父川は高岡市南西部の灌漑用水、また伏流水などの排水路として機能している。

千保川

庄川の支流で小矢部川へと流れ込む川の1つに千保川がある。千保川は庄川扇状地の扇頂部にあたる庄川町金屋で庄川から流れ出し、高岡市街地の中央部を縦断し、高岡市四屋にて小矢部川へ注ぎ込む全長18kmの川である。江戸中期までは庄川の本流であり、小矢部川との合流点は木町として、初期高岡町の港津として発展したが、庄川が現在の流路になると小矢部川の流量が減り、港津の機能は伏木へと移った。

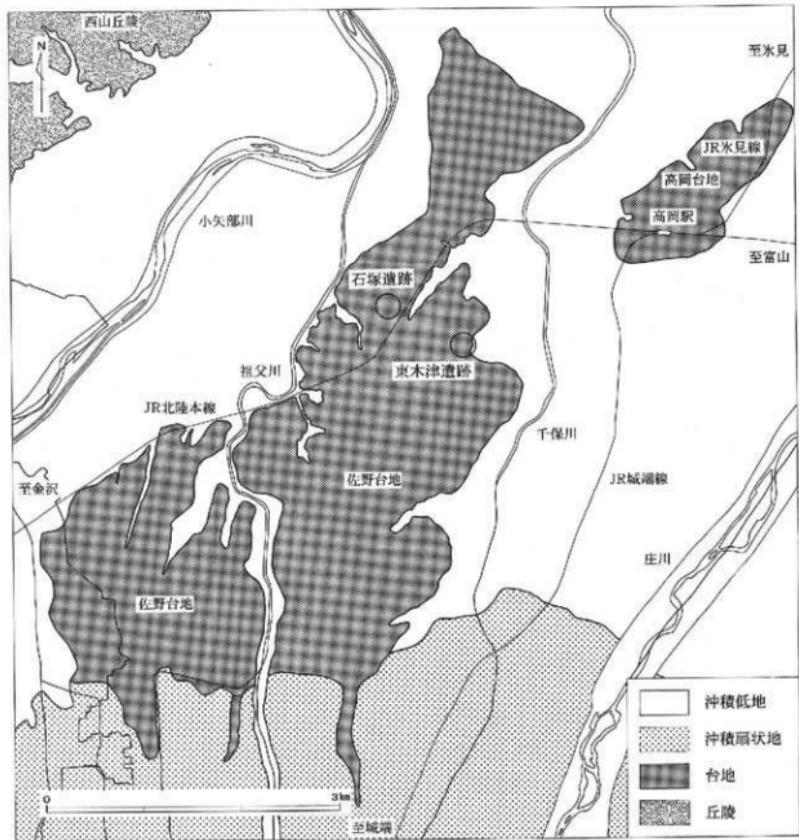


第3図 庄川累状地 (1/15万)

佐野台地

佐野台地は往古の庄川が形成した扇状地の扇端部で、西は小矢部川、東は千保川の浸食によって段丘化した標高10~20mの台地である。千保川の対岸には高岡台地があり、本台地と高岡台地は連続する台地であったと考えられている。本台地の中央部には祖父川が北流し2分している。本台地では庄川の伏流水による湧水が非常に豊富で、台地の端には伏流水がつくる小河川によって浸食谷が形成されている。

本台地上では繩文時代後期から人々の定住が確認され、弥生時代中期以降は台地の端部に中核的集落が形成される。現在は半島状に突出した部分は高岡市街地となり、それ以外は田園地帯が広がっている。

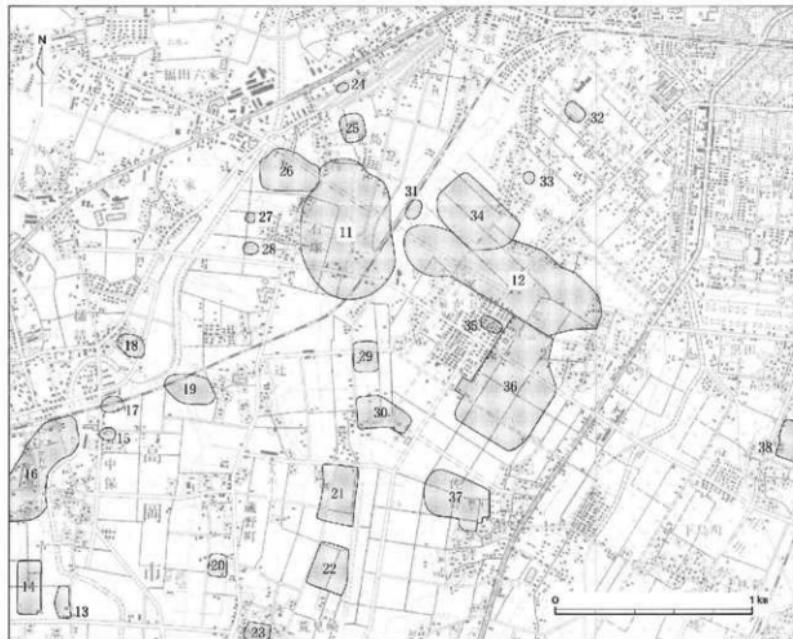


第4図 佐野台地とその周辺地形 (1/5万)

第2節 遺跡の分布状態

1. 石塚遺跡と東木津遺跡

高岡市街地の南西郊外、祖父川と千保川とに挟まれた標高11~12mの微高地に、石塚遺跡と東木津遺跡が立地する。ここは往古の庄川が形成した扇状地の末端部に当たり、佐野台地とも呼ばれている。両遺跡の間には和田川とその周辺の谷状の低地部が走り、微高地を大きく2区分し、西側に石塚遺跡、東側に東木津遺跡が位置する形となっている。石塚遺跡は縄文時代後期以来の複合集落跡であると共に古墳群も所在している。東木津遺跡は弥生時代以来の複合集落跡であるが、近接して縄文時代晩期の遺跡も所在している。



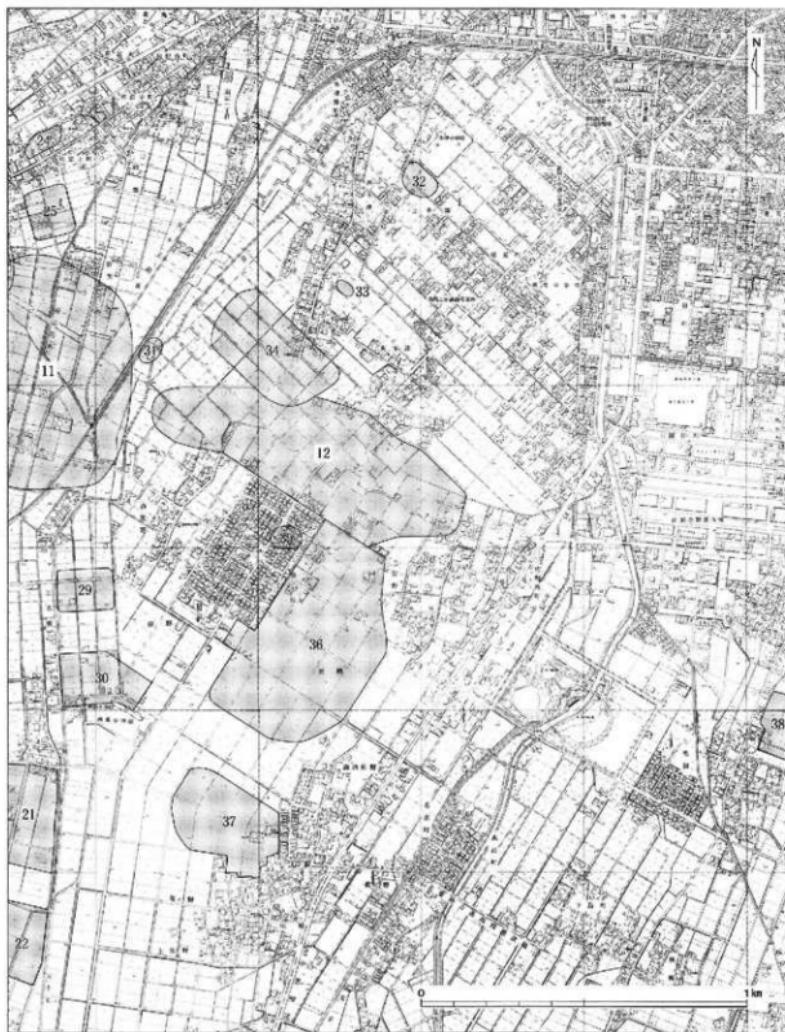
第5図 遺跡分布図 (1/2万5千)

11. 石塚遺跡、12. 東木津遺跡、13. 小竹B遺跡、14. 小竹C遺跡、15. 中保A遺跡、16. 中保B遺跡、17. 中保C遺跡
18. 構築遺跡、19. 辻遺跡、20. 蔦野町遺跡、21. 辻南遺跡、22. 荒見崎北遺跡、23. 荒見崎村内遺跡、24. 下北島住吉遺跡
25. 上北島遺跡、26. 石塚江之戸遺跡、27. 石塚五俵山遺跡、28. 石塚蛸保遺跡、29. 石名瀬A遺跡、30. 西佐野千代遺跡
31. 石名瀬B遺跡、32. 北木津遺跡、33. 西木津遺跡、34. 木津神社遺跡、35. 泉ヶ丘遺跡、36. 下佐野遺跡、37. 諏訪遺跡
38. 上黒田遺跡



第6図 道跡地図〔1〕 (1/1万5千)

11. 石塚遺跡、12. 東木津遺跡、13. 小竹B遺跡、14. 小竹C遺跡、15. 中保A遺跡、16. 中保B遺跡、17. 中保C遺跡
 18. 橋詰遺跡、19. 辻遺跡、20. 蔵野町遺跡、21. 辻南遺跡、22. 荒見崎北遺跡、24. 下北島住吉遺跡、25. 上北島遺跡
 26. 石塚江之戸遺跡、27. 石塚五俵田遺跡、28. 石塚鎧保遺跡、29. 石名瀬A遺跡、30. 西佐野千代遺跡、31. 石名瀬B遺跡
 37. 諏訪遺跡



第7図 遺跡地図〔2〕 (1/1万5千)

11. 石塚遺跡、12. 東木津遺跡、21. 辻南遺跡、22. 荒見崎北遺跡、24. 下北島住吉遺跡、25. 上北島遺跡
 29. 石名瀬A遺跡、30. 西佐野千代遺跡、31. 石名瀬B遺跡、32. 北木津遺跡、33. 西木津遺跡、34. 木津神社遺跡
 35. 泉ヶ丘遺跡、36. 下佐野遺跡、37. 諏訪遺跡、38. 上黒田遺跡

2. 祖父川沿いの遺跡

石塚遺跡周辺の遺跡

佐野台地の北西部は半島状に突出しており、その付け根の位置に石塚遺跡は所在する。石塚遺跡の北側には下北島住古遺跡・上北島遺跡が所在する。石塚集落の北側には湧水による浸食谷が東西方向にあり、谷の北側の台地上には石塚江之戸遺跡がある。石塚江之戸遺跡は縄文土器（晩期）が出土し、中世の遺構・遺物が確認されている。石塚遺跡の南西側には石塚五俵田遺跡・石塚蛸保遺跡が所在し、縄文土器（後～晩期）が表採されている。石塚遺跡が南に拡張することが判明し、南接していた石塚屋敷田遺跡は石塚遺跡に含まれることになった。石塚遺跡の北東側には石名瀬B遺跡がある。

立野地区の遺跡

立野地区はJR西高岡駅周辺に位置し、ここでは祖父川が大きく蛇行している。この蛇行部では佐野台地が半島状に西へ突出しており、この突出部に辻遺跡が所在する。祖父川を挟んで辻遺跡の対岸には桶詰遺跡が所在する。祖父川が大きく北西方向に張り出す部分の右岸微高地に中保A遺跡・中保C遺跡が所在する。祖父川を挟んで中保A遺跡の西側の対岸には中保B遺跡が所在する。中保B遺跡は平成6年度以来の調査にて、縄文時代後期からの複合遺跡であることが判明している。中保B遺跡の西側には立野地頭田遺跡があり、祖父川をやや遡った位置に小竹A遺跡・小竹B遺跡・小竹C遺跡が所在する。佐野台地の最西端には駒形遺跡・高田新茅遺跡・高田新西後遺跡が所在し、これらの遺跡は高岡工芸高等学校地理歴史クラブOB会により調査され、縄文時代後～晩期の遺跡であることが判明している。佐野台地の最西端には弥生時代後期の中核的集落遺跡である下老子笹川遺跡が所在する。

3. 千保川沿いの遺跡

東木津遺跡周辺の遺跡

佐野台地の北東端に東木津遺跡は所在する。東木津遺跡の西半部からは佐野台地が半島状に北東に延び、この上に南から木津神社遺跡・西木津遺跡・北木津遺跡が所在する。東木津遺跡に南接する遺跡として、泉ヶ丘遺跡と下佐野遺跡がある。泉ヶ丘遺跡は昭和37年から造成が始まった泉ヶ丘団地の造成中に確認され、縄文土器（晩期）が採集されている。下佐野遺跡からは弥生時代終末期～古墳時代初期の堅穴式住居址や中世の本組み片戸が確認されている。下佐野遺跡の西側には、石名瀬A遺跡・西佐野千代遺跡があり、南側には諏訪遺跡がある。祖父川と千保川の中間地点に荒見崎集落が位置し、集落の北東側に荒見崎北遺跡、北西側には蔵野町遺跡、南東側には荒見崎村内遺跡がある。荒見崎村内遺跡は弥生時代中期を中心とし、昭和56・57年にかけて開場整備に伴う試掘調査が行われ荒見崎遺跡として報告されている。

高岡台地の遺跡

千保川を挟み佐野台地の対岸には高岡台地が並ぶ。東木津遺跡の北東3.0kmのところには、近世高岡の中心となった高岡城跡がある。この城は加賀藩2代目藩主前田利長が築いた城である。この高岡城跡内には2つの縄文時代の遺跡がある。高岡城の南西部には大手町遺跡が所在し、北東部には小竹戸遺跡が所在する。高岡城跡の北方には中川遺跡・占定塚遺跡がある。中川遺跡は縄文時代晩期を中心とした遺跡であり、占定塚遺跡は旧石器の採集地である。

第3章 石塚遺跡

第1節 序 説

1. 従来の知見

石塚弥生遺跡の発見

当石塚遺跡は高岡市街地の南西郊外に位置し、遺跡範囲は東西約500m×南北約700mである。当遺跡が所在する福田地区において遺物が出土することは古くから地元住民の間では知られていた。昭和41年より石塚地区土地改良事業が実施され、昭和42年、この工事に伴う弥生土器・炭化米等の出土により、遺跡の存在が明確になった。昭和43年には高岡工芸高等学校地理歴史クラブOB会（オジャラ会）が発掘調査を行い、直径17mの環状遺構と10個のピット遺構を検出した。昭和47年、上野章氏は『富山県史考古編』で、当遺跡を富山県下の弥生時代中期の式部遺跡として提示した。昭和55年度以降は、埋蔵文化財調査専門職員が配置されたこともあり、高岡市教育委員会による開発工事にかかる調査が随時実施されることになった。昭和55・56年度には宅地造成に伴い、試掘調査・本調査を実施した。昭和56・57年度には県営圃場整備事業に伴う試掘調査を実施した。これは遺跡推定範囲の西側を広範囲に対象としたものである。

昭和60年度には都市計画道路「下伏間江福線」築造にかかり試掘調査を実施した。遺跡推定範囲の北側に該当する所である。そして昭和61年度（第1次調査）と昭和62年度（第2次調査）に本調査を実施した。これらの調査地区は今回報告の平成9年度（第3次調査）調査地区的西北西側延長線上に位置している。

当石塚遺跡は、弥生時代中期の中核的集落跡との評価を得てきた。この都市計画道路にかかる調査を通じて弥生時代中期以外にも、古墳時代前期や中世にも、遺構の拡がりがあり、大規模な複合集落跡であると認識されるに至った。

NO.	本調査次数	本調査年度	試掘調査年度	概報・報告書名	備考
1	—	—	昭和60（1985）年度	石塚遺跡－富山県高岡市石塚所在 の弥生遺跡調査概報－ 1986年3月発行	60年度試掘地区的西側地区 試掘のみ実施
2	第1次調査	昭和61（1986）年度	昭和60（1985）年度	高岡市埋蔵文化財調査概報第3冊 石塚遺跡調査概報Ⅰ 1987年3月発行	60年度試掘地区的東側地区 ・西半部
3	第2次調査	昭和62（1987）年度	昭和60（1985）年度	高岡市埋蔵文化財調査概報第6冊 石塚遺跡調査概報Ⅱ 1988年3月発行	60年度試掘地区的東側地区 ・東半部
4	第3次調査	平成9（1997）年度	平成8（1996）年度	高岡市埋蔵文化財調査報告第7冊 石塚遺跡・東木津道防調査報告 2001年3月発行（本巻）	第1・2次調査地区的東南 東側一帯

第1表 石塚遺跡、都市計画道路関係調査地区一覧表

石塚古墳群の確認

第1・2次調査地区、これらと北接し平成3年度に調査した「林地区」、そして今回報告する第3次調査地区、これらの調査を通じて4基の出現期古墳が確認された。石塚古墳群と称しているものである。かつて当地には塚状の高まりが存在していたとの話もあるが、現在、水田耕作などで古墳の封土が削平されているため現状では視認できず、この周辺での発掘調査等で新たに古墳が確認される可能性は高い。

各古墳の概要は以下の通りである。

第1号墳（S Z01）：コ字状に廻ると推定される溝が検出され、この部分を後方部とし、規模より前方後方墳としている。後方部長約22mを計る。

第2号墳（S Z02）：前方後方墳である。主軸は座標北から100度東へ振る。全長29m、前方部長12m、前方部幅10m、後方部長17m、後方部幅17m、くびれ部幅5mを計る。前方部周溝は幅0.7~0.9m、深さ10~40cm、後方部周溝は上面幅1.8~3.9m、底面幅0.8~3.0m、深さ52~58cmを計る。出土遺物は弥生土器・土師器である。古墳に伴う土器は、古府クルビ式併行期のものである。

第3号墳（S Z03）：L字状に廻る溝が検出された。方墳と推定される。出土遺物は弥生土器・土師器・土製紡錘車である。土師器は赤彩された完形の複合口縁壺で、口径12.8cm、器高14.3cmを計り、胴下部と底部中央には外面から内面への穿孔が見られる。時期は古府クルビ式併行期である。

第4号墳（S Z08）：コ字状に廻る溝が検出された。方墳と推定される。

なお、第2号墳（S Z02）は全体の墳形が明瞭に検出され、実測図を当市教育委員会発行の『市内遺跡調査概報Ⅰ』に掲載した。しかし、今回の報告書作成作業中にこの実測図が第2次調査地区と林地区とを合成する際に林地区を北へ1m多く合成したことが判明した。したがって、第2号墳の規模は上記のように訂正する（第27図参照）。また今回調査の第4号墳（S Z08）の詳細については第2節述べる。

石塚遺跡発掘調査の進展

平成3年度以降は個人住宅建設等に伴う小規模な試掘・発掘調査を継続的に行っている。注目される遺構として、「森出地区」では溝を共有する形の方形周溝墓3基（S Z04~06）、「高田地区」では玉作り工房址1基・方形周溝墓1基（S Z07）が検出されている。また墳墓と推定している上坑は「林地区」「旭建設地区」「日本海ホーム地区」「宮崎地区」等、各調査地区で検出されている。これらは弥生時代中期に所属する。また、縄文時代後~晩期、古墳時代中期後半、奈良時代の遺構・遺物も確認された。これらの調査を通じて、当石塚遺跡の範囲は従来推定していたものより拡がることが確認された。また遺構・遺物や時期的にも、複雑な遺跡との認識が深まってきた。

2. 発掘調査の経過

発掘調査の開始

発掘調査は高岡市教育委員会文化財課が担当し、山武考古学研究所（所長：半岡和夫）から調査員1名の派遣協力を受けた。現地調査は平成9年6月26日から同年12月25日まで実施した。調査地区は西北西~東南東への東西に長いものであり、JR北陸本線から五十玉用水路の間を東側調査地区、五十玉用水路から市道の

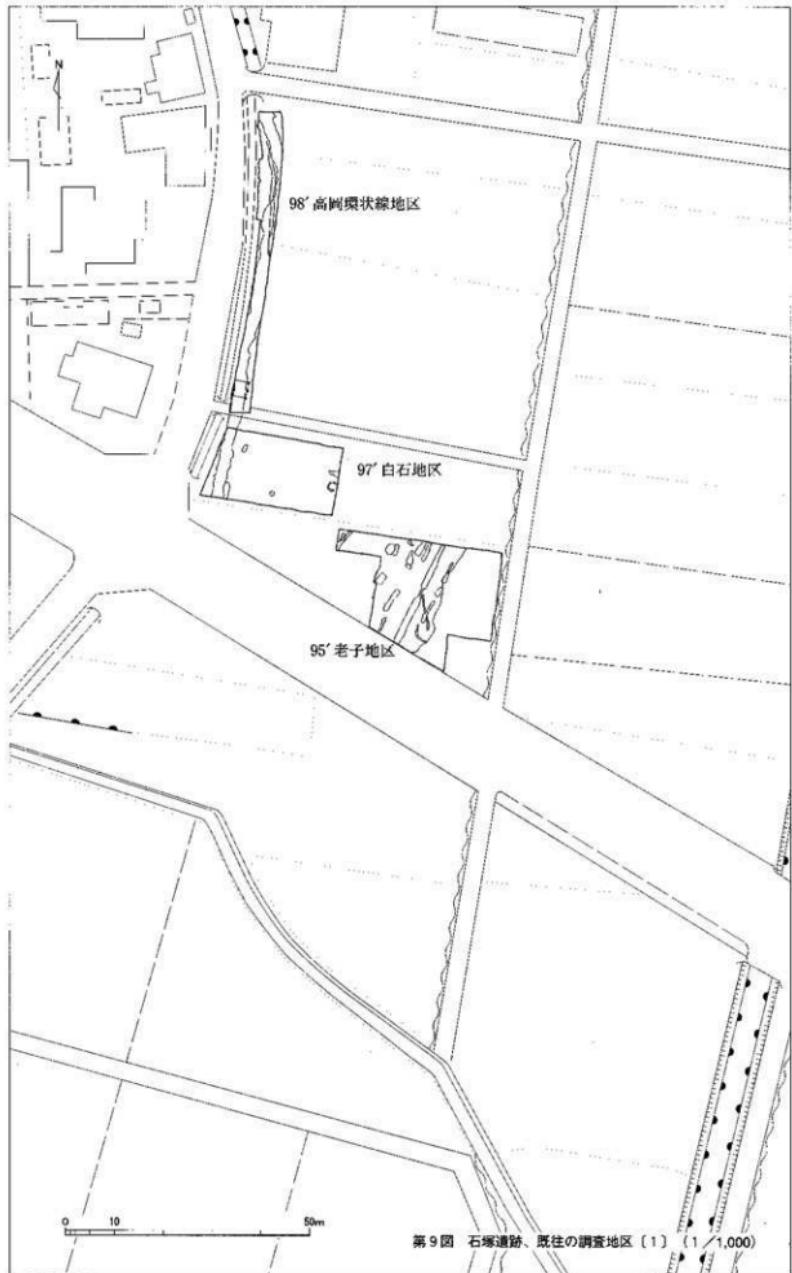
間を西側調査地区として2つの調査地区に区分した。東側調査地区から調査を始め、東側調査地区的調査を完了させて後、西側調査地区的調査へと移った。東側調査地区及び西側調査地区とも、当地域での圃場整備時に盛られた残土が多量に残り、また搅乱にはコンクリートブロックが多量に埋めてあった。これらを除去するのにバックフォーを使用した。東側調査地区の残土と堆土は西側調査地区に一時的に盛り、東側調査地区的調査終了後に西側調査地区的残土とともに搬出した。西側調査地区的堆土は絶えずバックフォーとダンプカーによって場外へ搬出しなければならなかった。

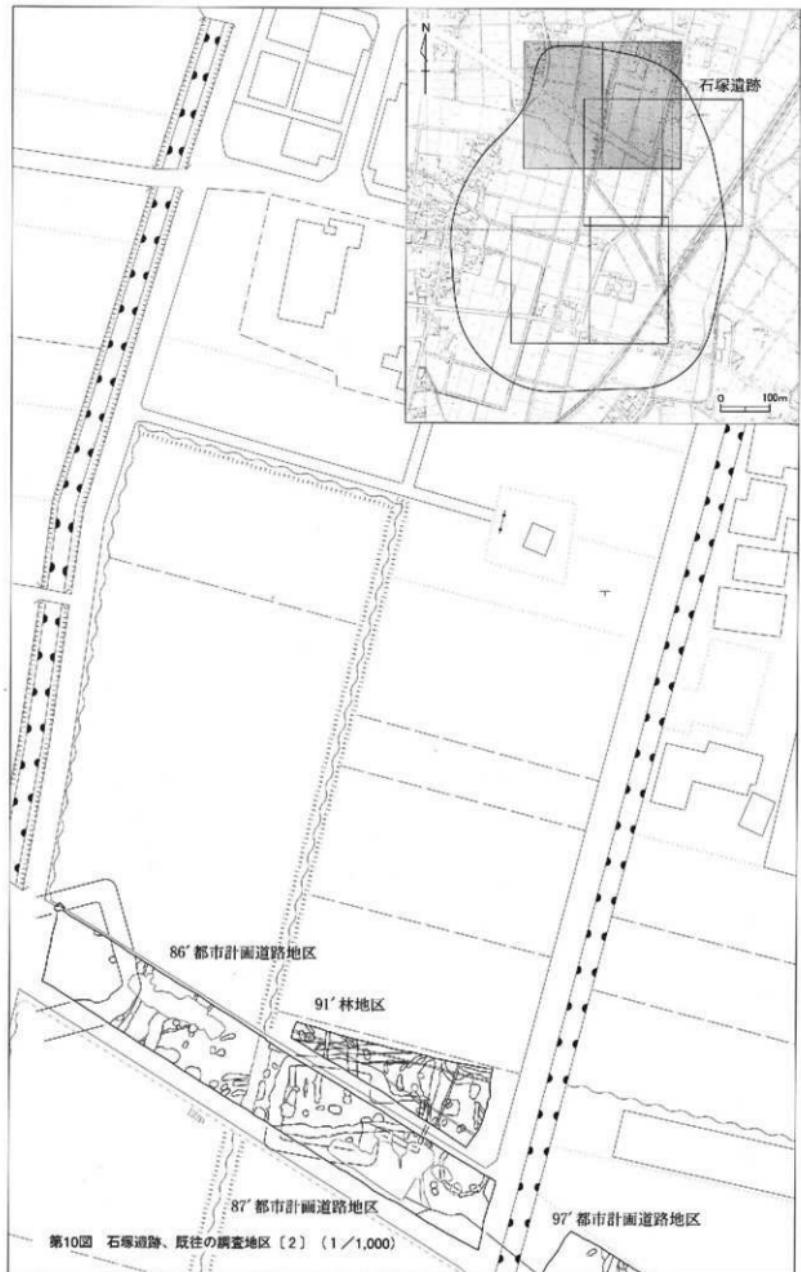
東側調査地区的調査

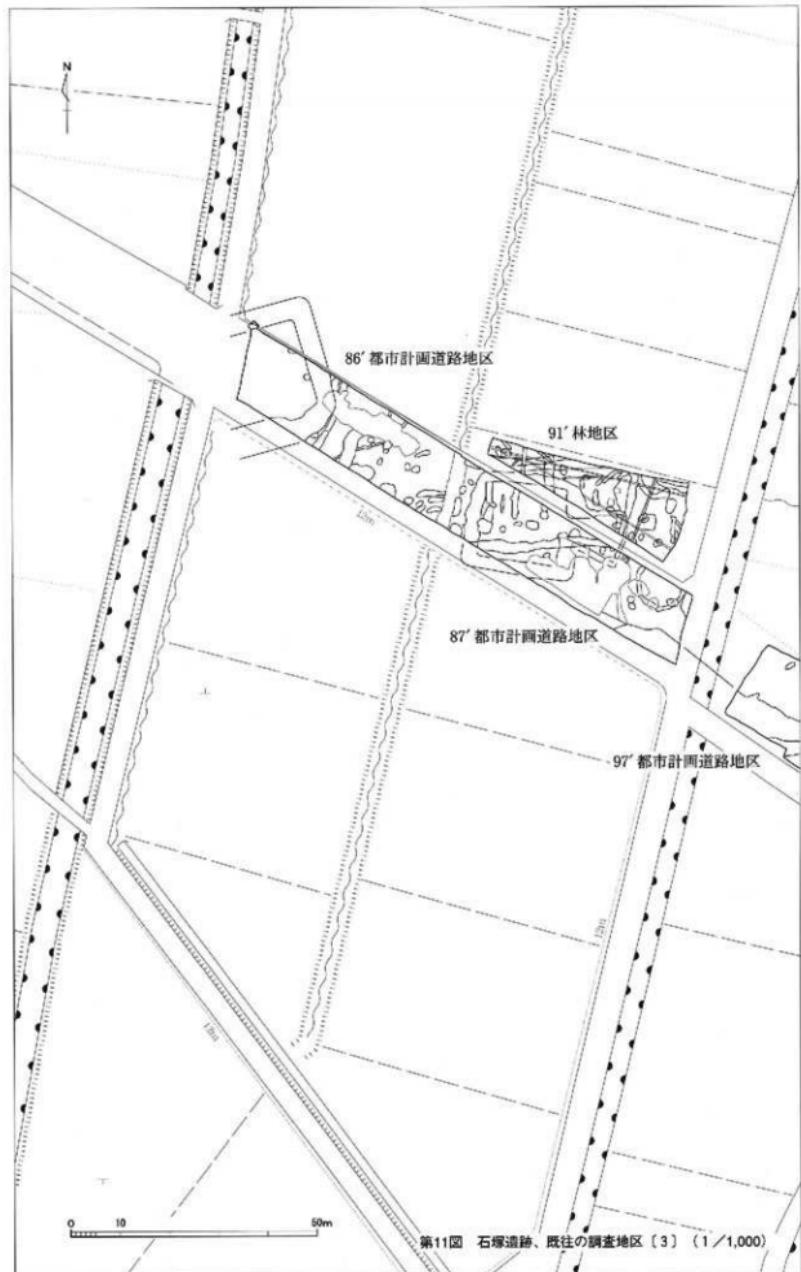
東側調査地区は平成9年6月26日から同年10月16日まで現地調査を実施した。調査面積は1,224m²である。東側調査地区的東部では残土を約20cm除去すると、北西～南東方向に走る疊層を確認し、この疊層の検出上面の高さでバックフォーによる掘削を中止し、精査を行った。疊層は当地区の東側を北流する和田川に伴うものと考えられ、当調査地区はこの川の氾濫源と低湿地帯に位置するものと推定した。低湿地のために掘削する土量が多くなることが予想されたため、安全等を考慮すると、調査地区的中央部を段階状に掘らざるを得なかった。10月15日に空中写真測量を行い、10月16日に調査が終了した。（※本文は20頁へ続く）



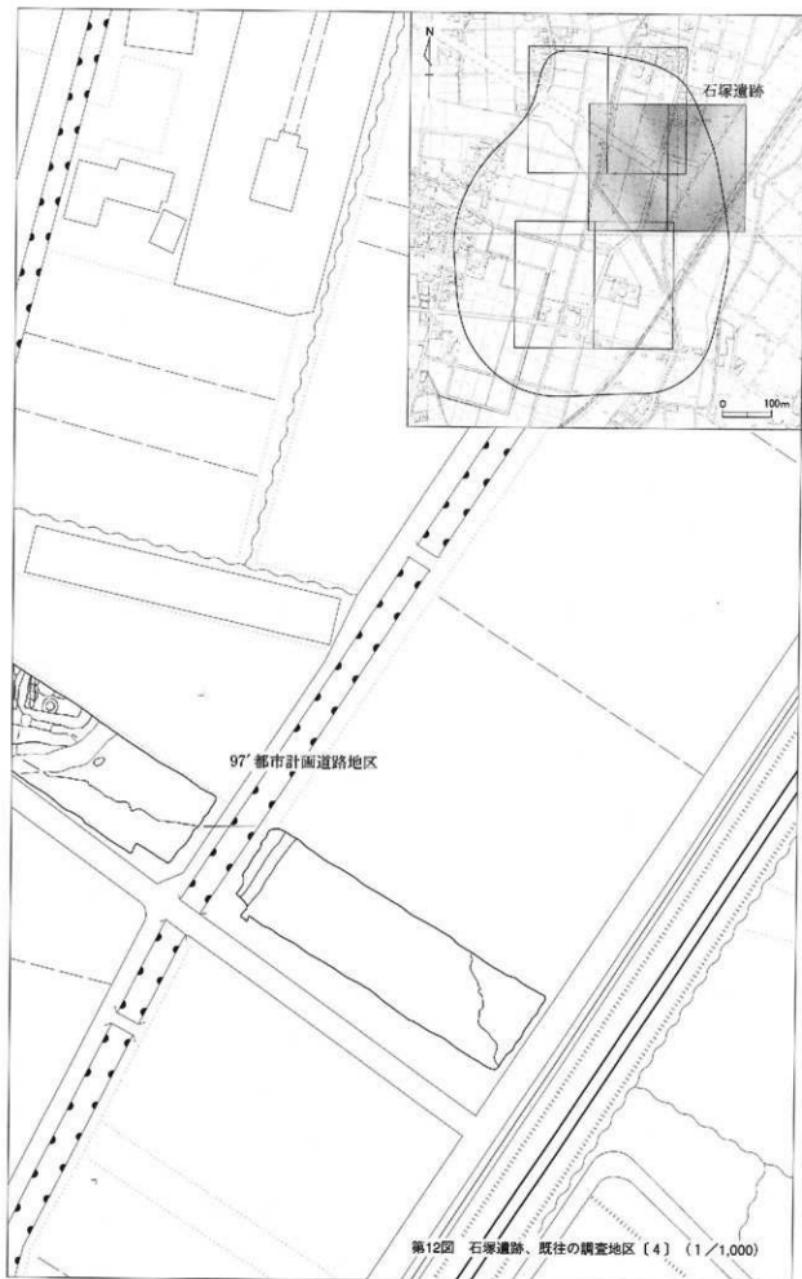
第8図 石塚遺跡、調査地区位置図 (1/5,000)

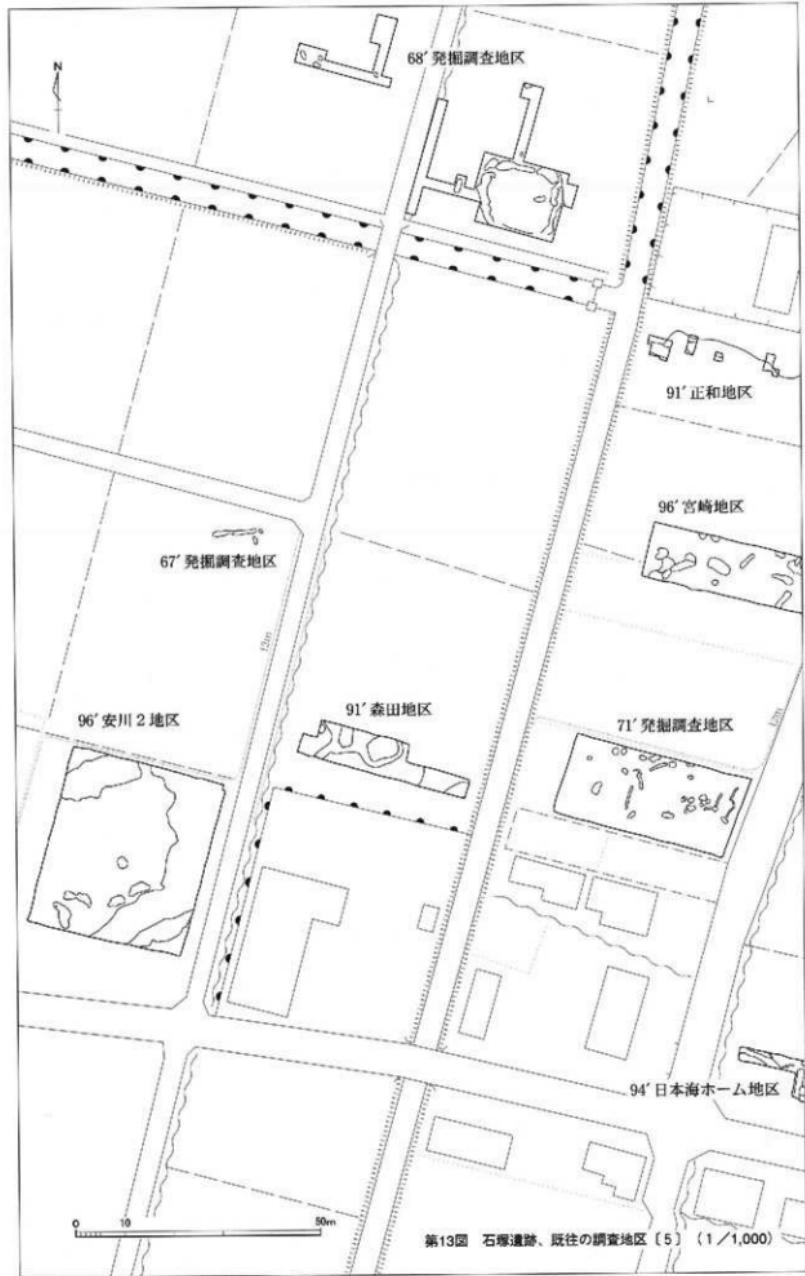






第11図 石塚遺跡、既往の調査地区〔3〕 (1/1,000)







第14図 石塚遺跡、既往の調査地区〔6〕 (1/1,000)

西側調査地区の調査

西側調査地区は平成9年10月16日から同年12月25日まで現地調査を実施した。調査面積は1,002m²である。残土を除去すると、旧表土が確認され精査をしていった。調査地区的北西側では、旧表土を除去した時点での方形に廻る溝として検出した古墳（4号墳=S Z 08）とその周溝を切るように走る溝S D 60、そして古墳の墳丘内から土坑S K 159・溝S D 61を検出した。また、調査地区的南半部は自然地形の凹地S X 01があり、このS X 01の南西部では多量の弥生土器が出土したため、これらの出土位置を記録していった。古墳S Z 08の周溝の調査が終了した時点で1回目の空中写真測量を実施した。古墳S Z 08の内部には封土の残りと考えられる暗灰色砂質土が残存しており、これを除去すると竪穴状遺構及び土坑群が現われた。これらの遺構の掘り下げが終了した時点で2回目の空中写真測量を実施し、12月25日に調査が終了した。

3. 調査の概要

基本層序

東側調査地区および西側調査地区では、当地域において圃場整備を実施した際の残土が多量に盛られている。東側調査地区では残土・盛土が約30cm堆積する。残土の下には暗褐色粘質土層（旧表土）があり、この下は凹地S X 01の堆積土である。凹地S X 01の土層は2層に分かれ、その下は褐色粘質土層（地山）である。西側調査地区では残土・盛土が約60cm堆積し、その下には黒色粘質土層（旧表土）が堆積する。黒色粘質土層の下は黄白色粘質土層（地山）である。

検出遺構

検出遺構は次の通りである。弥生時代中期と古墳時代前期の遺構が中心である。

古墳1基（S Z 08）

竪穴状遺構1基（S I 02）

土坑9基（S K 159～167）

溝4条（S D 60～63）

凹地1基（S X 01）

出土遺物

出土遺物は次の通りである。弥生時代中期の上器が中心で、次いで古墳時代前期の土師器が多い。

上器類：弥生土器、土師器、須恵器、珠洲、越中瀬戸

木製品：挽物、曲物、箸

土製品：土製紡錘車、土鍤、土玉

石製品：磨製石斧、打製石斧、石包丁、石鍤、石冠、石鐵、砾石、菅玉未製品、荒削品（緑色凝灰岩）、

剥片（鉄石英・緑色凝灰岩・玉髓・瑪瑙・安山岩）

グリッド

調査地区的グリッドは平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯36° 00' 00"・東経137° 10' 00"）に合わせた。東西をX軸、南北をY軸とし、グリッドの南西隅の数値がそのグリッドを表すものとし、X=1、Y=1の地点は、原点より西へ16.135km、北へ81.050km向かった位置である。一辺5m四方を一区画としてグリッドを割り付け、メッシュを表示した。

第2節 遺構

1. 古墳

古墳S Z 08（石塚4号墳）

西側調査地区の北西部（24～27、15～18）区で検出された。古墳（周溝墓）の南側部分を検出し、北側は調査地区外となる。古墳の封土（盛土）は大半が削平されて一部のみの残存であり、主体部は封土の削平とともに消滅したものと推測する。周溝が「コ」字状に検出され、周溝内には封土と推測する暗灰色砂質土が20cm前後で堆積していた。墳丘の南半部しか検出していなかったため、南北長は確認できた長さで7.0mを計る。東西長は13.0mを計る。墳形は方墳（方形周溝墓）乃至前方後方墳（前方後方形周溝墓）と推定できるが、本古墳の規模を考慮すると、方墳（方形周溝墓）と考えるのが妥当である。

周溝は南側周溝が東・西側周溝よりも幅が狭く深くなる。南西隅部の周溝は最も狭く浅くなることから、ここが墳丘への入口となる可能性が高い。南側周溝は長さ14.0m、幅1.2～2.4m、深さ20～52cmを計る。東側周溝は長さ4.4m以上、幅2.4m、深さ22～28cmを計る。西側周溝は長さ9.5m以上、幅1.2～3.0m、深さ20～36cmを計る。周溝内の土層は、基本的に3層から構成され以下の通りである。

第Ⅰ層：第1・2層、黒褐色粘質土が主体となる層。

第Ⅱ層：第3・4層、暗灰色砂質土が主体となる層（封土の流入と堆積した層）。

第Ⅲ層：第5層、黒色粘質土の層。

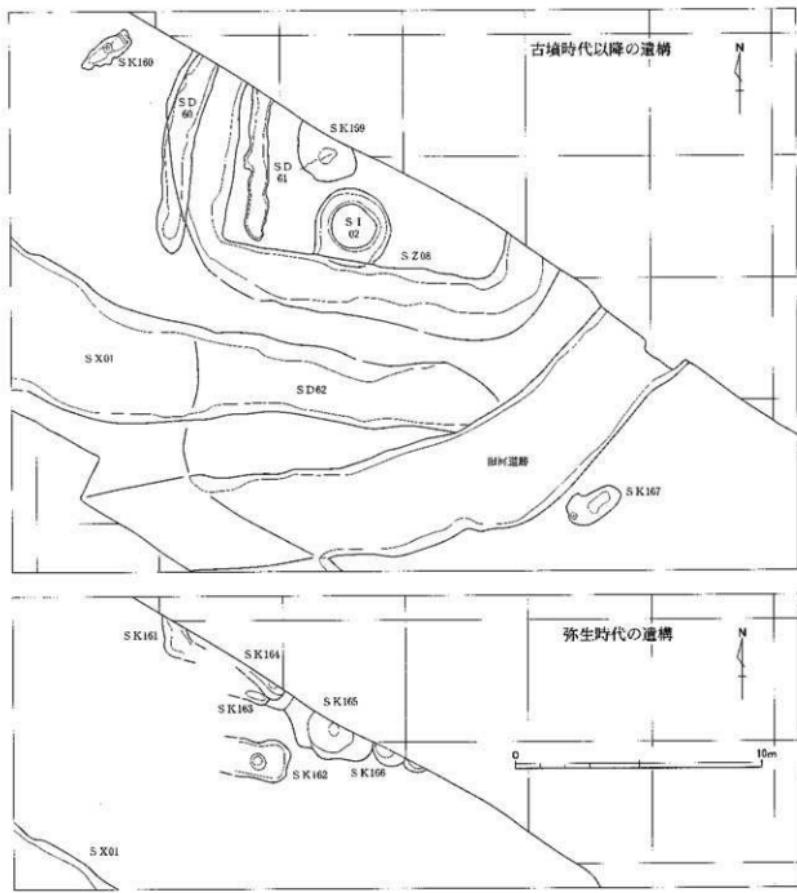
本古墳の東側周溝の東端から南東隅部は擾乱に切られる。墳丘内の封土は土坑S K 159・溝S D 61に切られる。西側周溝は溝S D 60に切られる。封土を除去すると、竪穴状遺構S I 02及び土坑S K 165・166が検出できた。西側周溝は土坑S K 161～164を切っている。

周溝からの出土遺物は弥生土器・土師器、土製品（土玉）、石製品（石鏡）である。図示した遺物は、図面051～1125、図面053～1120、図面051～1129、図面055～1134・1137、図面058～1159、図面059～1172、図面066～1611、図面069～1716である。弥生土器・土玉・石鏡は周溝が埋没する際の混入品である。この古墳に伴うものとしては土師器がある。細片のため時期は特定できないが、古墳時代初期頃と考えている。図示できた土器は弥生時代中期のものである。当古墳の南辺と南側に位置する溝S D 62が平行することから、関連する遺構と捉えている。そしてこの溝の時期が古墳の時期を示すものである可能性を考えている。

2. 竪穴状遺構

竪穴状遺構S I 02

西側調査地区の西側（25、16）区で検出された。溝が環状に彌る周溝遺構である。平地式住居址として評価され、小屋としての利用が想定されているものである。規模は長軸3.1m、短軸2.8m以上である。周溝はU字溝で、幅62～71cm、深さ10～20cmを計る。周溝の埋土は単層で、暗灰色砂質土と地山土との混上層である。古墳S Z 08と重複するが、古墳の封土が上部を覆っていることから、古墳S Z 08の造成直前まで使用されていたものと推定できる。出土遺物は弥生土器である。図示した遺物は、図面053～1117・1118である。



第15図 石塚遺跡、西側調査地区時期別遺構図（1／200）

3. 土 坑

土坑は9基（SK159～167）検出された。SK161～164の4基は古墳SZ08の周溝に切られ、SK165・166はSZ08の封土の下である。これらは弥生時代中期のものである。SK159・160は古墳時代前期以降のものと推定される。SK167は奈良時代頃の須恵器が出土しており、奈良時代乃至これ以降と推定される。

土坑 S K 159

西側調査地区の西側（25、16・17）区で検出された。北側は調査地区外である。平面形は不整楕円形で、規模は長軸3.00m、短軸1.75m以上、深さ25cmを計る。古墳S Z 08を切っている。出土遺物は弥生土器・土師器、土製品（土瓦）である。図示した遺物は、図面054-1151、図面056-1142、図面066-1612である。

土坑 S K 160

西側調査地区の西側（23、17・18）区で検出された。平面形は不整楕円形で、規模は長軸2.20m、短軸0.85m、深さ25cmを計る。出土遺物は弥生土器・土師器である。

土坑 S K 161

西側調査地区の西側（24、17・18）区で検出された。平面形は不整楕円形で、規模は長軸1.85m以上、短軸1.00m、深さ38cmを計る。北側は調査地区外に延びており、南側は古墳S Z 08の西側周溝に切られる。出土遺物は弥生土器である。図示した遺物は、図面053-1121、図面059-1167、図面060-1185である。

土坑 S K 162

西側調査地区の西側（24・25、16）区で検出された。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸2.05m以上、短軸1.70m、深さ23cmを計る。西側は古墳S Z 08の西側周溝に切られる。出土遺物は弥生土器である。

土坑 S K 163

西側調査地区の西側（24、17）区で検出された。平面形は不整楕円形で、規模は長軸1.15m、短軸0.50m、深さ45cmを計る。北側は土坑S K 164、西側は古墳S Z 08の西側周溝に切られる。出土遺物は弥生土器である。図示した遺物は、図面054-1123、図面055-1133である。

土坑 S K 164

西側調査地区の西側（24・25、17）区で検出された。平面形は不整楕円形で、規模は長軸1.60m、短軸0.55m以上、深さ40cmを計る。北側は調査地区外である。土坑S K 163を切っており、西側は古墳S Z 08の西側周溝に切られている。出土遺物は弥生土器である。図示した遺物は、図面051-1107、図面056-1149、図面060-1180である。

土坑 S K 165

西側調査地区の西側（25、16・17）区で検出された。平面形は不整楕円形で、規模は長軸3.92m、短軸1.75m以上、深さ63cmを計る。北側は調査地区外である。古墳S Z 08と重複する。出土遺物は弥生土器である。図示した遺物は、図面051-1127、図面053-1119である。

土坑 S K 166

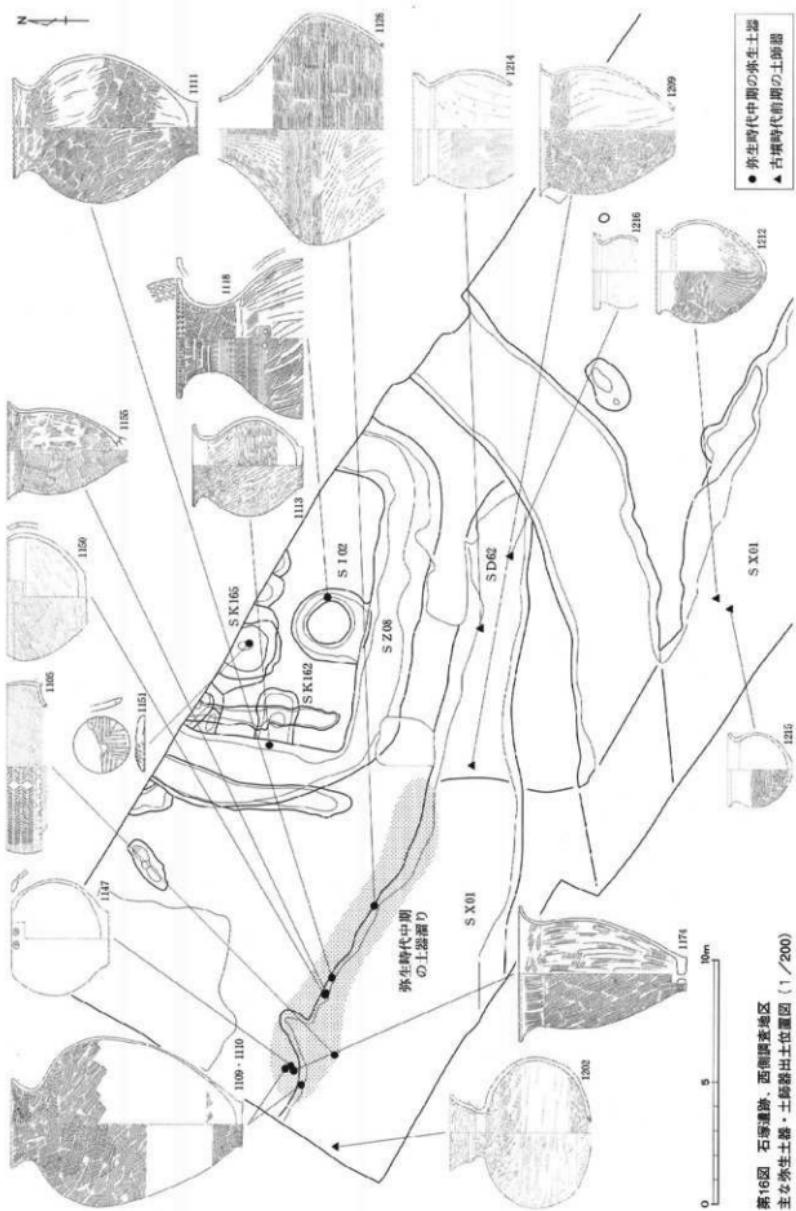
西側調査地区の西側（25、16）区で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸1.65m、短軸0.70m以上、深さ15cmを計る。北側は調査地区外である。古墳S Z 08と重複する。出土遺物は弥生土器である。

土坑 S K 167

西側調査地区の中央部（25・26、16）区で検出された。平面形は不整楕円形で、規模は長軸2.26m、短軸1.15m、深さ27cmを計る。出土遺物は土師器・須恵器である。

4. 溝

溝は4条（S D 60～63）検出された。S D 60は古墳S Z 08の周溝を切っており、S D 61はS Z 08の墳丘内



第16図 石塚遺跡 西側腰塚地区
主な水生土器・土師器出土位置図 (1 / 200)

を切っている。これらは古墳時代前期のものと推定される。S D 62はS Z 08の南側周溝と平行しており、出土遺物の点からもS Z 08と同時期と捉えたものである。S D 63は近世のものである。

溝 S D 60

西側調査地区の西部（24、16・17）区で検出された。南北に走る溝である。規模は幅1.0～1.6m、深さ22cmを計る。長さ8.0m以上に亘り検出され、北側は調査地区外へと延びている。古墳S Z 08の周溝を切っている。出土遺物は弥生土器・土師器、石製品（石鎌）である。図示した遺物は、図面069～1713である。

溝 S D 61

西側調査地区の西部（24、16・17）区で検出された。南北に走る溝である。規模は幅0.7～1.0m、深さ27cmを計る。長さ5.9m以上に亘り検出され、北側は調査地区外へと延びている。古墳S Z 08を切っている。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器、土製品（土製紡錘車）である。図示した遺物は、図面055～1137、図面066～1605である。

溝 S D 62

西側調査地区の西部（24～26、14・15）区で検出された。東西に走る溝である。規模は幅2.5～3.4m、深さ28cmを計る。長さ11.8m以上に亘り検出され、東端は擾乱に切られ、西端は凹地S X 01に繋がる。出土遺物は弥生土器・土師器、土製品（土製紡錘車）、石製品（石鎌）である。図示した遺物は、図面052～1113、図面054～1124、図面055～1135、図面056～1144、図面059～1169、図面060～1178・1184、図面062～1214・1216、図面066～1607、図面069～1711である。

溝 S D 63

東側調査地区の西部（33～35、8～11）区で検出された。北東～南西方向に走る溝である。規模は幅1.7m～2.4m、深さ50cmを計る。長さ14.9m以上に亘り検出され、北側および南側は調査地区外へと延びている。凹地S X 01を切っている。出土遺物は珠洲・越中瀬戸である。図示した遺物は、図面064～1421である。

5. 凹 地

凹地 S X 01

西側調査地区的南部および東側調査地区的全域で検出された。東西方向に走る自然の谷地形で、西端は昭和62年度の調査で確認しており、東端は和田川へ繋がるものと推測できる。西側調査地区は谷地形の部分であり、東側調査地区は和田川へ繋がる低湿地部分と考えられる。また東側調査地区的北東部で確認された縄群は、和田川のものと考えられる。規模は長さ161m以上、幅16m以上を計る。本遺構では弥生時代中期から中世までの多量の遺物を含み、特に西側肩部では、弥生土器がまとまって出土した。出土遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・木製品（挽物・曲物・箸）、土製品（土製紡錘車・土鍬・土臼）、石製品（磨製石斧・打製石斧・石包丁・石鎌・砥石）である。図示した遺物は、土器類（図面051～064）では、1101～1106・1108～1112・1114～1117・1122・1126・1128・1130・1132・1136・1140・1141・1143・1145～1148・1150・1152・1153・1155～1158・1160～1166・1168・1170・1171・1173～1177・1179・1181～1183・1186・1187・1201～1213・1215・1217・1301～1303・1306～1310・1312～1323・1401～1405・1407～1411・1413、その他の遺物（図面065～070）では、1501～1504・1601～1604・1609・1610・1613・1702～1704・1706・1709・1710・1712・1714・1715・1717～1720である。

第3節 遺 物

1. 土器類〔1〕 弥生土器

弥生時代中期の土器である。高杯1101のみ後期のものである。土器分類は、既往の調査資料も含めて分類した。そのため、今回の報告分には含まれない型式もある。土器の分類は第4節に提示している。土器の型式は口頭部で分類した。

高杯裾部 図面051-1101。筒状の柱状部になる高杯である。裾部は緩く内窪し、端部はW字状を呈す。

弥生時代後期の法式のものである。

鉢A 図面051-1102・1103。脚部がない鉢である。

A 1類 (1102) : 直線的に延びるものである。

A 2類 (1103) : 内窪し素文のものである。

壺A 図面051-1104-1107。有段のII縁部を持つものである。

A 1類 (1104-1107) : 口縁部外面に櫛描文を施すものである。1104・1105は有段部分に突帯をもつ。

壺B 図面052-1108-1114。口頭部が短いものである。

B 1類 (1108-1110) : 口唇面を形成しないものである。1108は口端部を波状にする [B 1 a]。1109・1110は同一のものの可能性があり、口縁部は素文のもの [B 1 c] である。

B 2類 (1111-1114) : 口端部を横ナデして凹線状の口唇面を形成するもの。1111・1112はII端部を波状にする [B 2 a]。1113・1114は口唇面を櫛描文で加飾する [B 2 b]。

壺C 図面053-1115-1121、図面054-1122-1124。口頭部が長く、大きく外反するものである。

C 1類 (1115・1116) : II唇面を形成しないもの。1115・1116はII縁部を櫛描文で加飾する [C 1 b]。

C 2類 (1117-1123) : 口端部を横ナデして凹線状のII唇面を形成するもの。1117-1123は口縁部を櫛描文で加飾する [C 2 b]。

C 3類 (1124) : 口端部に貼付突帯を持つものである。1124は貼付突帯に櫛描文を施す。

壺E 図面051-1125-1127。頭部が細長く延びるものである。

壺G 図面051-1128。東日本に系譜を持つものである。

壺頸部 図面054-1129。外面に突帯が廻る。

壺胴部 図面054-1130-1132。1131は口縁部を欠損する。

壺底部 図面055-1133-1137。1135は胴部最大径34.8cm以上の大型のもの。

壺脚部 図面054-1138・1139。水差しなどの脚部と考えられる。

無頸壺A 図面056-1140-1149。胴部最大径から口縁部までが長く、大きく内窪するもの。

A 1類 (1140-1146) : 口縁部の厚さが均一のものである。1140は口縁部から胴上部まで櫛描文を施す [A 1 a]。1141はII縁部にのみ櫛描文を施す [A 1 b]。1142は胴上部に繩文と沈線文を施す [A 1 d]。1143-1146は素文のもの [A 1 e] である。

A 2類 (1147・1148) : 口縁部の厚さが均一で、水平に内側へ伸びるものである。

A 3類 (1149) : 口縁部を厚くするものである。1149は口縁部にのみ櫛描文を施す [A 3 b]。

無頸壺B 図面056-1150。胴部最大径が上部にあり腰高のもの。

蓋 図面054～1151。つまみが付かない笠状の蓋である。外面は磨き、綾杉状の沈線文を施す。

甕A 図面057～1152～1158、図面058～1159～1165、図面059～1166～1173、図面060～1174～1180。口縁部が緩く外反して括がるもの。

A 1 類 (1152～1158) : II唇面を形成しないもの。1152・1153は口縁部を櫛描文で加飾する [A 1 b]。1154～1158はII縁部が素文のもの [A 1 c] である。

A 2 類 (1159～1180) : 口唇面を横ナデにより形成するもの。1159・1160は口端部を指圧で波状にする [A 2 a]。1161～1173はII縁部を櫛描文で加飾する [A 2 b]。1174～1180はII端部が素文のもの [A 2 c] である。

甕B 図面057～1181～1183。受け口状II縁のものである。

甕底部 図面057～1186・1187、図面060～1184・1185。1184・1185は通有の甕の底部である。1186・1187は台状の底部をもつ甕である。鉢Bの可能性もある。

2. 土器類〔2〕 古墳時代前期の土師器

古墳時代前期の土師器である。

壺A 図面061～1201・1202。口縁部が複合口縁で頸部が短く、胴部が扁平球胴を呈する大型の壺である。1201は口頸部を欠損しているが、1202と胴部の形状および調整手法が同一のため、この分類に合めた。1202は底部尖部を欠損しているが、丸底と推定される。

壺B 図面061～1203・1204。受けII状の複合口縁を呈するものである。

壺C 図面061～1205・1206。口縁部が複合II縁で頸部が短く、胴部が扁平球胴を呈する小型の壺である。1205・1206は同一個体の可能性が高い。

壺D 図面061～1207。小型丸底壺である。

壺E 図面061～1208。口縁部がくの字状に折れる壺である。

甕A 図面062～1209～1214。通有の大きさの甕。直II縁のもの（1209～1212）と複合口縁のもの（1213・1214）とがある。前者にはII端部を横ナデによって口唇面を形成するものがある。

甕B 図面062～1215～1217。小型の甕。直II縁で口唇面を形成するものと複合口縁のものとがある。

3. 土器類〔3〕 奈良平安時代の土器類

奈良平安時代の土師器・須恵器である。

土師器

鉢 図面063～1301。口縁部がくの字に折れる鉢である。

甕 図面063～1302・1303。口縁部が外上方へ括がる甕である。口端部は肥厚する。

須恵器

杯A 図面063～1304・1305。高台が付かない杯である。

杯A底部 図面063～1306・1307。高台が付かない杯の底部である。

杯B 図面063-1308-1311。高台が付く杯である。高台は外下方へやや踏ん張る。

杯B底部 図面063-1312-1314。高台が付く杯の底部である。高台は外下方へやや踏ん張る。

双耳杯底部 図面063-1315。双耳杯の体底部である。耳部は基部のみ残存している。

杯口縁部 図面063-1316-1318。杯の口縁部である。

杯蓋 図面063-1319-1322。口縁部は下方へ短く折れ曲がる。

横瓶 図面063-1323。口縁部は外反し、端部を水平に面取っている。

4. 土器類〔4〕 中近世の土器類

中近世の土器・陶磁器である。内容は、中世のものに上師器・珠洲、近世のものに越中瀬戸がある。

土師器

皿類 図面064-1401-1411。非ロクロの手づくり手法の製品である。

珠洲

鉢口縁部 図面064-1412。オロシ目のある描鉢の口縁部である。

壺口縁部 図面064-1413。壺の口縁部である。

甕口縁部 図面064-1414・1415。甕の口縁部である。

越中瀬戸

椀口縁部 図面064-1416。椀の口縁部である。鉄釉を施釉する。

皿口縁部 国面064-1417。皿の口縁部である。銷釉を施釉する。

椀・皿類底部 国面064-1418-1420。椀・皿類の底部である。

壺 国面064-1421。2箇所に耳状取っ手が付くおはぐろ壺である。

5. 木製品

木製品は挽物・曲物・箸で、すべて問地S X 01からの出土である。

挽物 国面065-1501。ロクロを使って削り出した盤である。口径18.4cm、底径11.6cm、器高1.8cmを計る。

曲物 国面065-1502・1503。1502は曲物の蓋底板である。直径17.3cmを計る。2箇所の木釘の跡がある。

1503は薄い曲物容器である。直径10.4cm、器高1.7cmを計る。側板は桜の皮で留め、底板と側板を5箇所の木釘で留めている。

箸 国面065-1504。側面を丸く加工した箸である。長さ23.4cm、直径6mmを計る。

6. 土製品

土製品は土製紡錘車・土鍤・土玉である。

土製紡錘車 国面066-1601-1608。弥生土器片を円形に削り出し穿孔して、紡錘車として再利用したも

のである。いずれも直徑5～6mmの穴を両側から穿孔している。1602は穿孔途中でやめた穴の痕跡が1箇所残っている。1607・1608は未製品である。出土位置は、溝S D61-1605、溝S D62-1607、凹地S X01-1601-1604、表土-1606・1608である。

土錐 図面066-1609・1610。上部質で管状の土錐である。両者とも凹地S X01からの出土である。

土玉 図面066-1611-1613。環形の玉である。中心は穿孔されている。1611が古墳S Z08、1612が土坑S K159、1613が凹地S X01からの出土である。

7. 石製品

石製品としたものは、縄文時代・弥生時代の石器（磨製石斧、打製石斧、石包丁、石錐、石冠、石環）と時期を特定できない砥石である。図面067-070に1701-1720の20点図示した。出土位置は、古墳S Z08-1716、溝S D60-1713、溝S D62-1711、凹地S X01-1702-1704・1706・1709・1710・1712・1714・1715・1717-1720、表土-1701・1705・1707・1708である。

磨製石斧 図面067-1701・1702、図面069-1703。1701は太型船刃石斧の未成品である。刃部側は一部欠損している。全体に敲打により形を整えている。頭部には一部自然面が残っている。中央部には擦痕が付く。長さ19.2cm残存している。綠色凝灰岩製である。1702は大型船刃石斧の刃部と推定されるものである。頭部側が大きくなっている。刃部側を再利用するため、欠損部側を水平に整え、楔のように使用したものと推定される。刃部側からの大小の剥離痕が付いている。これは楔等として使用したときに付いたものと思われる。長さ9.0cm、幅6.8cmを計る。硬質砂岩製である。1703は小型の幅平片刃石斧である。刃部は斜めに付いている。片方の側縁は段状になり施溝技法による剥離を示している。全体的に丁寧に研磨されている。長さ3.9cm、幅2.7cmを計る。蛇紋岩製である。

打製石斧 図面067-1704。分銅型の打製石斧である。刃部側は欠損していて、頭部側のみ残存している。片面には自然面が残っている。安山岩製である。

石庖丁 図面068-1705・1706。磨製の石包丁2点である。2点とも一部のみの残存である。1705は大型の製品で、残存幅は最大11cmを計る。刃部には押圧剥離状の刃こぼれが付く。溶結凝灰岩製である。1706は刃部が外弯状になる。刃部には押圧剥離状の刃こぼれが付く。硬質泥岩製である。

石錐 図面068-1707。楕円型の円錐を利用した石錐である。自然縁の短軸に沿って敲打して鉢巻き状に溝を形成している。幅7.3cmを計る。砂岩製である。

石冠 図面068-1708。長方形の基部に連続して把手状の頭部が付く形となっている。基部から頭部へは連続しており、横断面は三角形となる。側面には擦痕が付く。花崗片麻岩製である。

石錐 図面069-1709-1716。打製石錐である。凸基式5点(1709-1713)、凹基式2点(1714・1715)、石錐の破片1点(1716)である。石材は、チャートが1709-1712・1716の5点で最も多く。その他は1713が安山岩、1714が綠色凝灰岩、1715が瑪瑙である。

砥石 図面070-1717-1720。1717は角柱形で長さ10cmを計る。長側面は3面が使用面で残りが整形面である。両端面は整形面である。溶結凝灰岩製である。1718はやや大型のものの破片である。自然縁に近いもので、砂岩製である。1719・1720は板状で小型のものである。板状凝灰岩(層灰岩)製である。長側面は3面が使用面で、残りが槓理面(剥離面)である。

第4節 結語

1. 弥生土器

はじめに

石塚遺跡は富山県における弥生時代中期の様式遺跡として位置付けられている。富山県下の弥生時代中期における土器編年は、『富山県史考古編』で、上野章氏が石塚遺跡出土資料を中心にして体系化した（上野1972）。後は、久々忠義氏による上市町江上遺跡群における研究（久々他1984）や森（三鶴）秀典氏による立山町浦田遺跡における研究（森他1987）がある。富山県下では、当該期の遺跡数が少ないと発掘調査があまり進んでいないため、その後の研究は滞っている。石川県では、近年当該期の発掘調査が相次ぎ研究が飛躍的に進んでいる。増山仁氏を中心とした金沢市北部地域の遺跡群の調査研究（増山1988等）、河合忍氏の第Ⅲ様式から第Ⅳ様式にかけての土器の編年と交流の研究（河合1996等）、北陸弥生土器研究会による戸水B式についての研究（安他2000）がある。新潟県では坂上由紀氏を中心とした新穂村平田遺跡の研究（坂上他2000）がある。

近年の当石塚遺跡の小規模な発掘調査と今回報告する都市計画道路地区にてまとまって当該期土器が出土し、整理・公表できた資料が増えたので、改めて総括的に弥生時代中期の土器編年を行ってみる。

分類

型式分類は、当遺跡出土の土器は全体の形態が判明しているものが少ないと、当該期の土器は口頭部に特徴があるため、土器の型式は口頭部で分類した。

1. 壺

A類：有段口縁の壺である。

A 1=口縁部外面に櫛描羽状文を施すもの。口縁外面に縦位の突帯を持つものや有段部分につらら状に下垂する突帯を持つものもある。

A 2=口縁部外面が素文のもの。口縁外面に縦位の突帯を持ち、有段部分に刻み目を施す。

B類：口頭部が短いもの。

B 1=口唇面を形成しないもの。口縁部を波状にするもの〔B 1 a〕、口縁部に櫛描文を施すもの〔B 1 b〕、素文のもの〔b 1 c〕に細分できる。

B 2=口唇面を形成するもの。口縁部を波状にするもの〔B 2 a〕、口縁部に櫛描文を施すもの〔B 2 b〕、素文のもの〔B 2 c〕に細分できる。

C類：口頭部が長く、大きく外反するもの。

C 1=口唇面を形成しないもの。口縁部を波状にするもの〔C 1 a〕、口縁部に櫛描文を施すもの〔C 1 b〕、素文のもの〔C 1 c〕に細分できる。C 1 aは現在確認されていないが、便宜上分類してある。

C 2=口唇面を形成するもの。口縁部を波状にするもの〔C 2 a〕、口縁部に櫛描文を施すもの〔C 2 b〕、素文のもの〔C 2 c〕に細分できる。C 2 aは現在確認されていないが分類しておく。

C 3=口端部に貼付突帯を持つもの。貼付突帯部分には櫛描文を施す。

D類：口縁部が水平近くになるまで大きく拡がるもの。

E類：頸部が細長く伸びるもの。

F類：西日本に系譜を持つもの。

G類：東日本に系譜を持つもの。

2. 無頸壺

A類：胴部最大径から口縁部まで大きく内窪するもの。

A 1 = 口縁部の厚さが均一のもの。口縁部から胴上部まで櫛描文を施すもの〔A 1 a〕、口縁部のみ
櫛描文を施すもの〔A 1 b〕、胴上部に縦文と沈線文を施すもの〔A 1 d〕、素文のもの〔A 1 e〕に細分できる。

A 2 = 口縁部の厚さが均一で、水平に内側へ伸びるもの。

A 3 = 口縁部を厚くするもの。口縁部から胴上部にかけて櫛描文を施すもの〔A 3 a〕、口縁部にのみ
櫛描文を施すもの〔A 3 b〕、口縁部に凹線文を施すもの〔A 3 c〕、素文のもの〔A 3 e〕に細分できる。A 3 e 類は絹片が確認されている。

B類：胴部最大径が上部にあり腰高のもの。

3. 壺蓋

円錐状の壺の蓋である。上面には練衫状の沈線文が施される。

4. 壺

A類：口縁部が緩く外反して拡がるもの。

A 1 = 口唇面を形成しないもの。口縁部を波状にするもの〔A 1 a〕、口縁部に櫛描文を施すもの〔A 1 b〕、素文のもの〔A 1 c〕に細分できる。

A 2 = 口唇面を形成するもの。口縁部を波状にするもの〔A 2 a〕、口縁部に櫛描文を施すもの〔A 2 b〕、素文のもの〔A 2 c〕に細分できる。

B類：受け口状口縁のもの。北陸では一般的に受け口状口縁は近江の影響を受けたものとして捉えているが、当遺跡から出土するものは、受け口部分の立ち上がりが弱く、石川県でみられるものと若干異なるので、今回は在地の型式ととらえた。

C類：西日本に系譜を持つもの。

D類：東日本に系譜を持つもの。

5. 鉢

A類：頸部がないもの。

A 1 = 直線的に延びるもの。口端部を厚くして櫛描文を施すもの〔A 1 a〕と素文のもの〔A 1 b〕に細分できる。

A 2 = 内窪するもの。

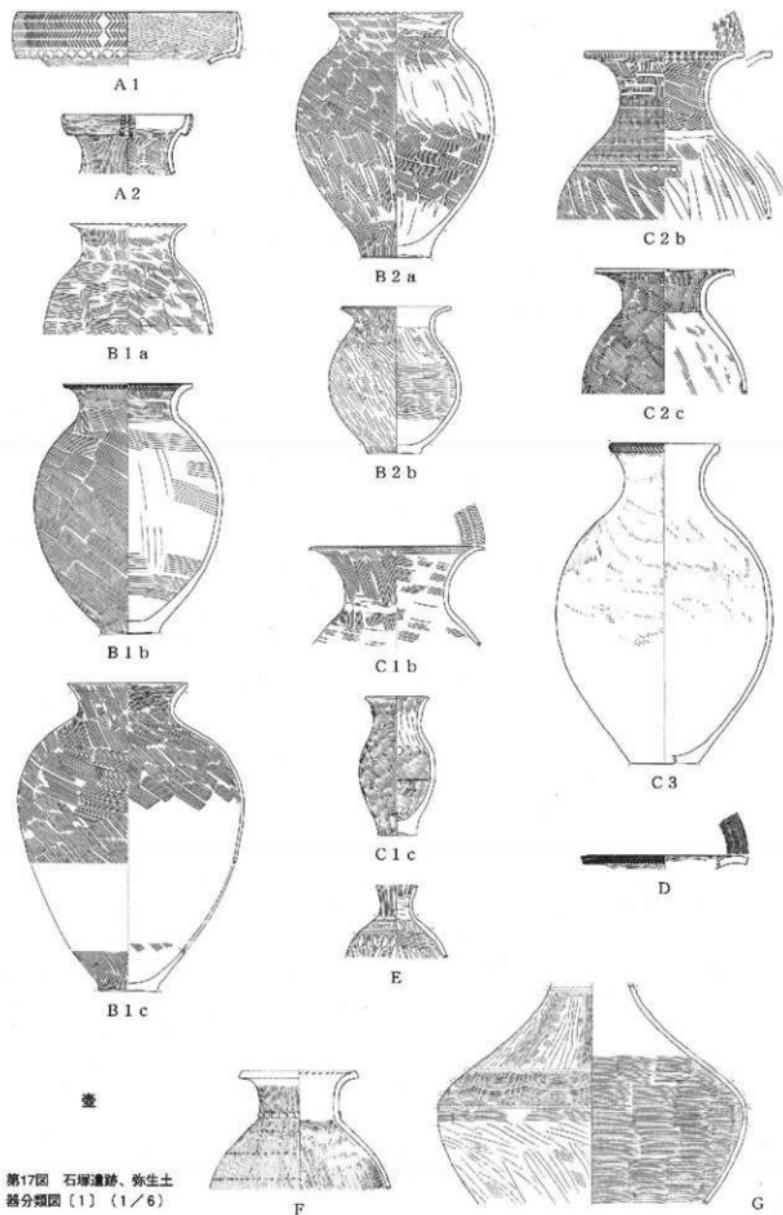
B：脚部が付くもの。

6. その他

型式として図示していないが、条痕文系土器（森田地区：302）、木製品を模倣した土器（第1次都市計画道路地区：104）、水注形土器（第2次都市計画道路地区：109他）がある。

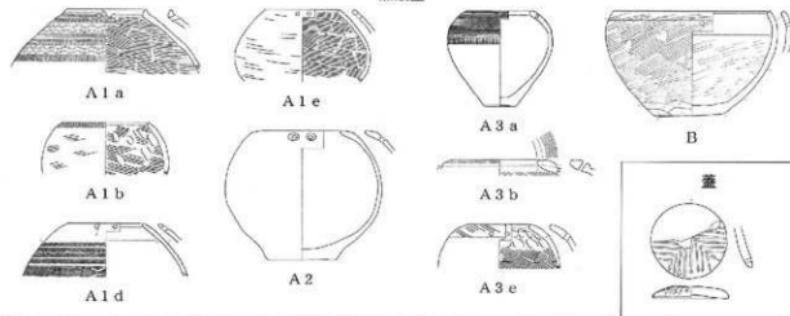
各時期の概説

I：壺群を以下の5つの時期に分類した。土器変遷図は第19図から第24図に、周辺地域との編年の対照は第2表に提示した。変遷図に使用した土器の出土地区は第21図を参照されたい。（※本文は40頁へ続く）



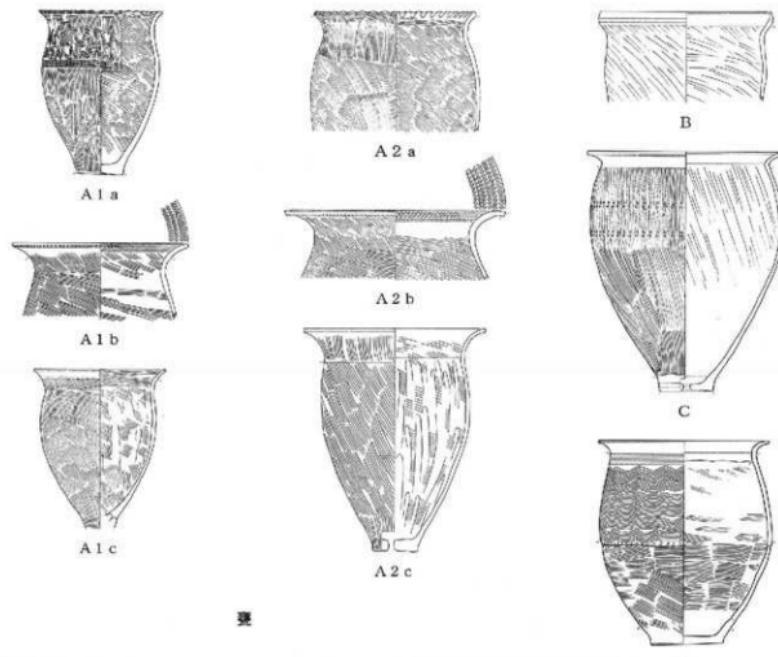
第17図 石塚遺跡、弥生土器分類図〔1〕(1/6)

無頭壺



B

蓋

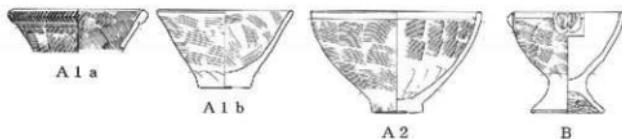


B

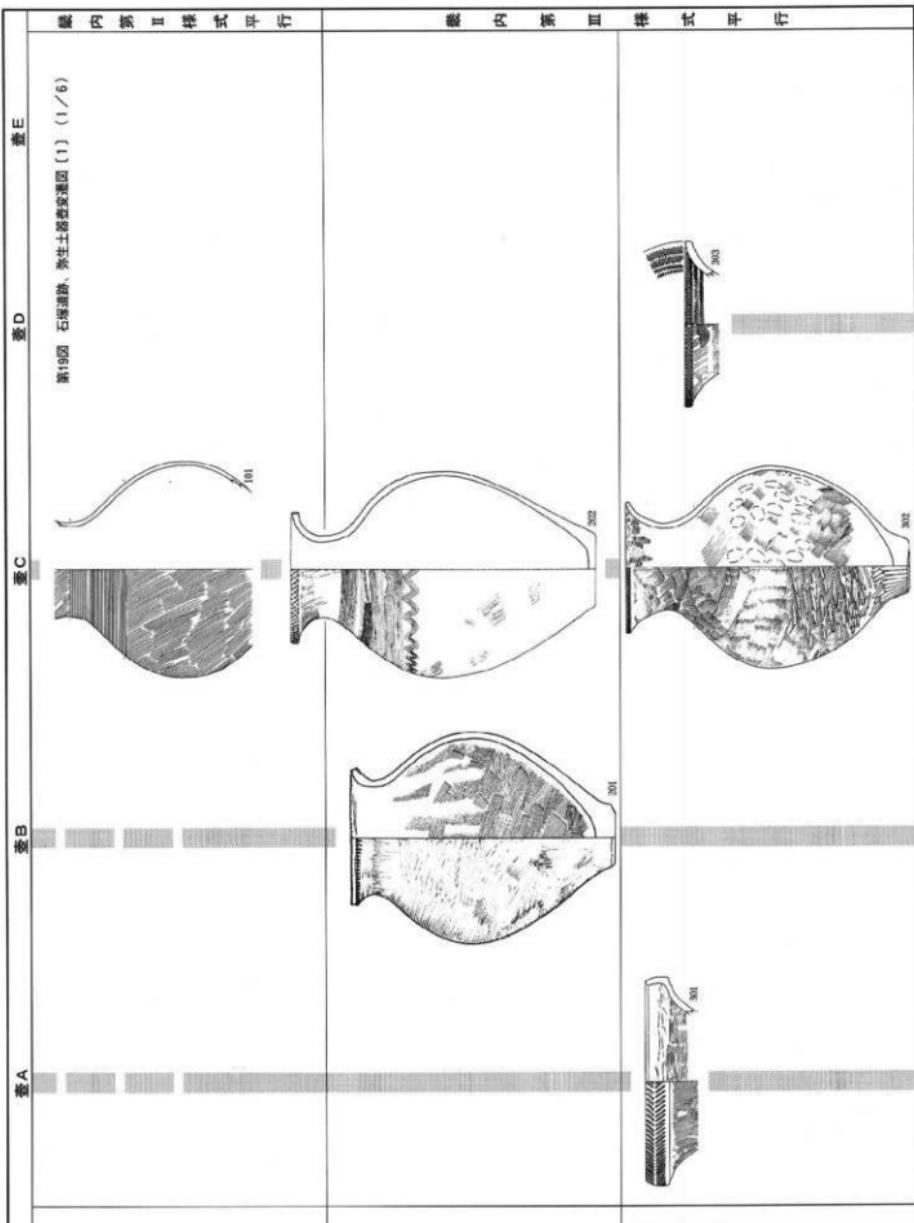
C

D

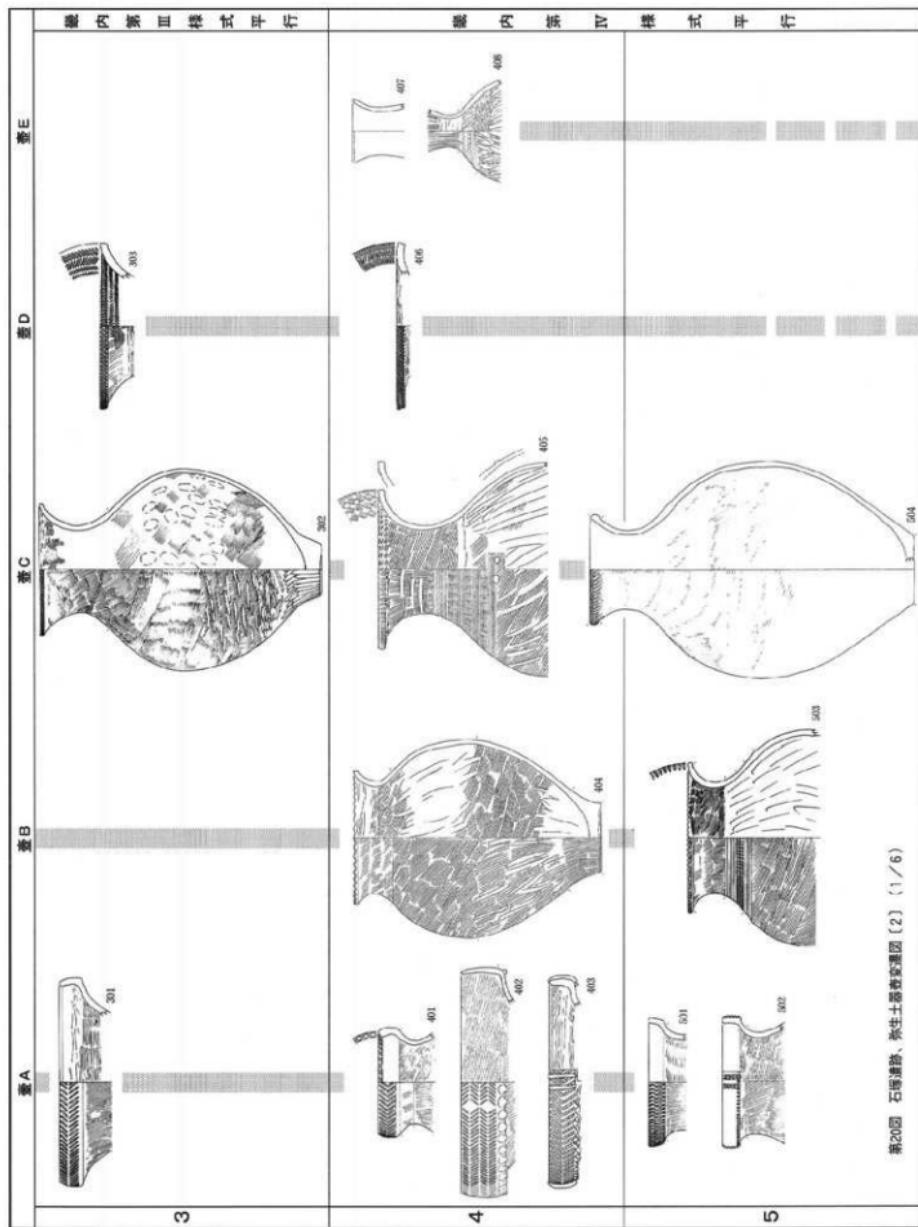
鉢



第18回
石器遺跡、弥生
土器分類図(2)
(1/6)



第20圖 石垣造路、水生土器和陶器 [2] [1 / 6]



臺 F		臺 G		無頭臺 A		無頭臺 B		臺	
編號	地區	名	發表番號	地	區	名	發表番號	備	考
101	森 田 地 区	303	概 稿 22	412	第3次都計道路	1147	本 書	普	
201	昭和43年 調査	13	富山県史	413	第3次都計道路	1140	本 書	普	
202	昭和43年 調査	8	富山県史	414	第3次都計道路	1150	本 書	普	
203	昭和43年 調査	25	富山県史	415	第3次都計道路	1151	本 書	普	
204	昭和43年 調査	27	富山県史	416	第3次都計道路	1174	本 書	普	
205	昭和43年 調査	18	富山県史	417	第3次都計道路	1181	本 書	普	
301	高 田 地 区	104	概 稿 1	419	第1次都計道路	1149	概 報	36	
302	旭 城 地 区	101	概 稿 29	420	林 地 区	1103	概 報	18	
303	旭 城 地 区	104	概 稿 29	421	林 地 区	1102	概 報	18	
				422	林 地 区	1101	概 報	18	
401	宮 崎 地 区	1120	概 稿 36	501	宮 崎 地 区	1118	概 報	36	
402	第3次都計道路	1105	本 書	502	宮 崎 地 区	1116	概 報	36	
403	宮 崎 地 区	1113	概 稿 36	503	宮 崎 地 区	1102	概 報	29	
404	第3次都計道路	1111	本 書	504	宮 崎 地 区	1124	概 報	36	
405	第3次都計道路	1118	本 書	505	宮 崎 地 区	1107	概 報	36	
406	宮 崎 地 区	1131	概 稿 36	506	宮 崎 地 区	1109	概 報	36	
407	第3次都計道路	1126	本 書	507	宮 崎 地 区	1112	概 報	36	
408	第3次都計道路	1127	本 書	508	宮 崎 地 区	1111	概 報	36	
409	昭和43年 調査	68	富山県史	509	旭 城 地 区	1120	概 報	29	
410	正 和 地 区	2005	概 稿 35	510	宮 崎 地 区	1104	概 報	36	
411	第3次都計道路	1128	本 書	511	宮 崎 地 区	1103	概 報	36	

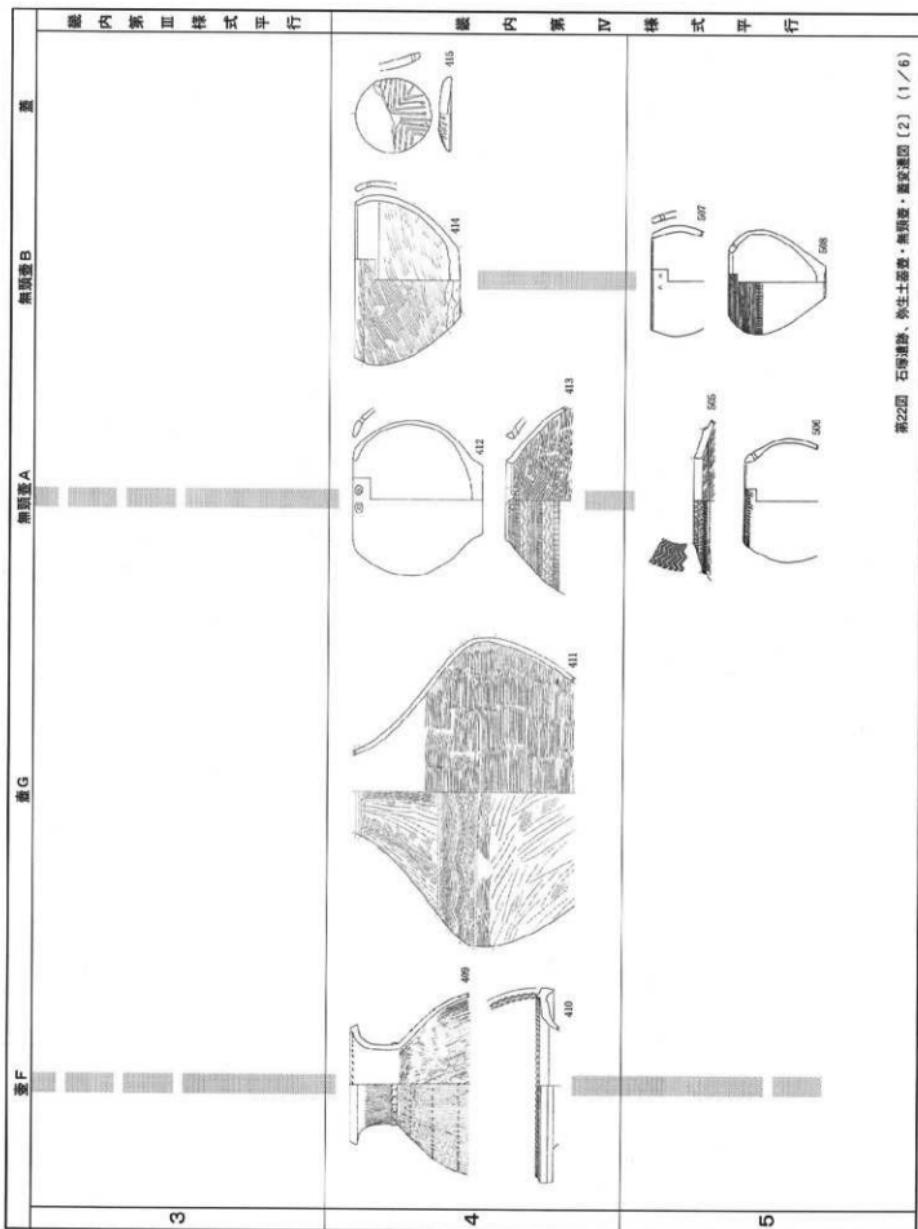
機 内 第 II 様 式 平 行

機 内 第 III 様 式 平 行

第21回 石塚通路、赤生土路、無頭査・道溝査 (1) (1/6)

(報告書名)
 機報 3 : 「石塚通路調査報告書」J 1987.3
 機報 18 : 「市内道溝調査報告書」J 1992.3
 機報 22 : 「市内道溝調査報告書III」J 1993.3
 機報 27 : 「石塚通路調査報告書IV」J 1996.3
 機報 29 : 「石塚通路調査報告書V」J 1997.3
 機報 35 : 「市内道溝調査報告書VI」J 1997.3
 機報 36 : 「市内道溝調査報告書VII」J 1997.3

圖22四 石海遺跡，外生土基壘·無頭壘·圓穴遺跡（2）（1／6）



縫内第Ⅱ様式平行		縫内第Ⅲ様式平行	
縫A	縫B	縫C	縫D
1			

縫内第Ⅱ様式平行		縫内第Ⅲ様式平行	
縫A	縫B	縫C	縫D
1			

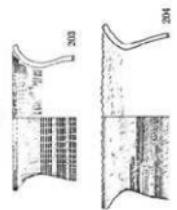
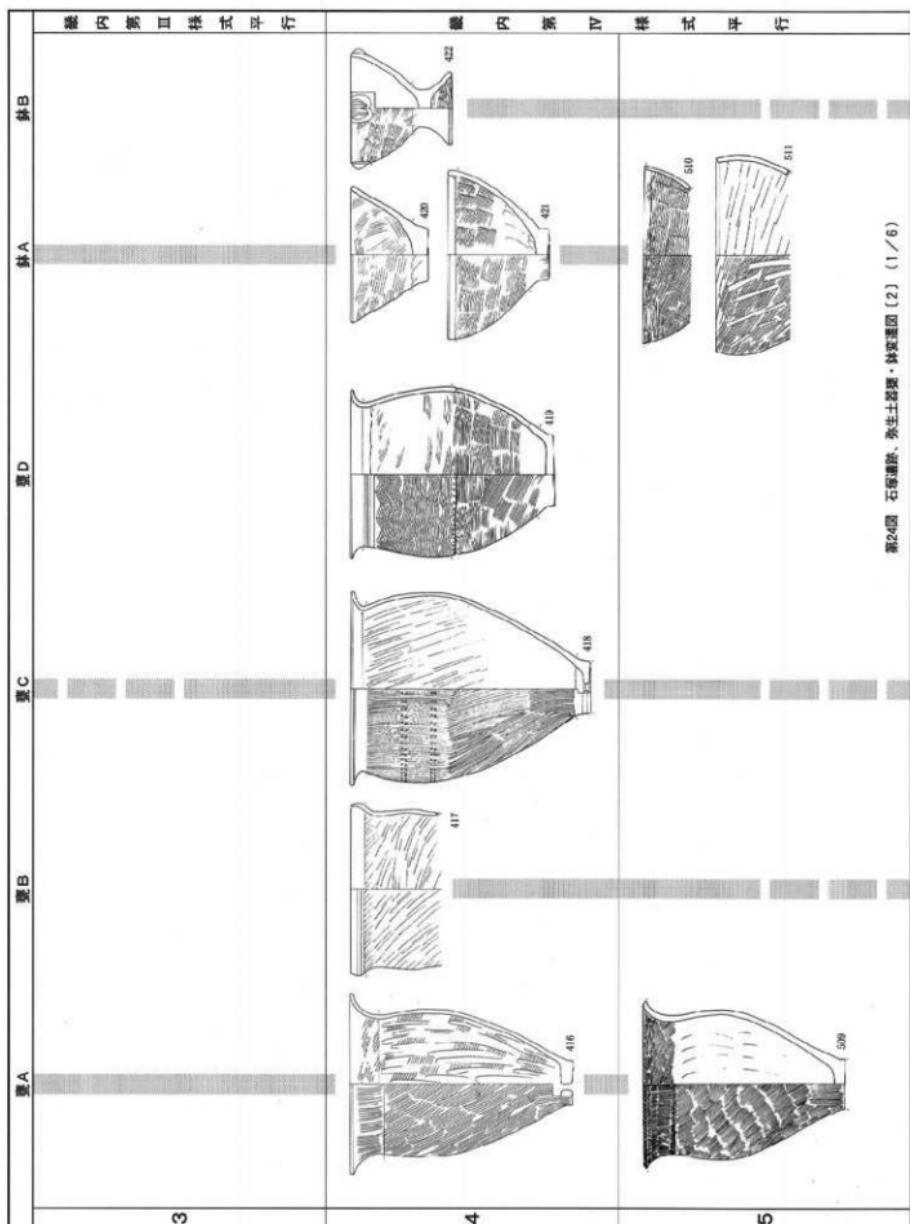


図23 石槨刺繡、弦生土器類・鉢蓋窯〔1〕(1/6)

圖24 石器遺跡、灰土器皿・鉢文選圖〔2〕(1/6)



歳内 編年試案	石塚	基準資料	石川県		富山県	新潟県		長野県
			能登	北加賀		越後	潟後	
第Ⅱ様式	石塚1期	森田地区 S Z04下層	(+)	矢木ジワリ	正印新	(+)	(+)	(+)
第Ⅲ様式	石塚2期	昭和43年調査地区 4号ピット	古崎・次場 V-5号土坑・溝	寺中	(+)			栗林古 新相
第Ⅳ様式	石塚3期	旭建設地区 SK103	吉崎・次場 I-4号溝	(+)		浦田 SK09	下谷地	栗林中 古相
第Ⅴ様式	石塚4期	都市計画道路地区 SX01 宮崎地区 SK131	細口源田山	嶺部	西念 ・ 南新	I-1 浦田 SD05		平田
	石塚5期	旭建設地区 SK99 宮崎地区 SK134	山王丸山	専光寺	I-2 中小泉	山草荷 小丸山	(+)	栗林中 新相
		杉谷 チャノバタケ	戸木B	保	I-3	(+)	松ノ脇	栗林新

第2表 弥生土器編年対照表

第1期：基準資料は方形周溝墓 S Z04下層遺構である。条痕文系土器と櫛描文土器の供伴関係がみられる。器種は壺Cがある。調整手法は刷毛目を基調とする。櫛描文様は直線文がある。また、条痕文系土器が当該期に存在し、器種として壺がある。現在のところ1点のみの出土であるため、変遷図には提示していない。

第2期：基準資料は昭和43年調査地区の4号ピットである。条痕文系土器はみられなくなる。器種は壺B・C、甕A、鉢Aがある。調整手法は刷毛目を基調とする。櫛描文様は流水文・直線文・波状文・簾状文・斜格子文がある。

第3期：基準資料は旭建設地区 SK 103である。器種は壺B・C・D、甕A、鉢Aがある。調整手法は、刷毛目を基調とする。櫛描文様は、直線文・波状文・簾状文・羽状文がある。

第4期：基準資料は林地区 SK 84・旭建設地区 SK 103・宮崎地区 SK 131・都市計画道路地区 SX 01である。最も遺物量がある時期で、西日本や東日本の各地と活発な交流がみられる。器種は全種類が見られる。調整手法は刷毛目を基調とし、胴部内面に刷毛目調整後、縦位のナデを施すものもある。また、大型の壺の外面にはナデや磨きを施すものもある。櫛描文様は直線文・波状文・簾状文・羽状文・扇形文・斜格子文・斜行短線文がある。また、細い竹の刺突による竹管文が加わる。

第5期：基準資料は旭建設地区 SK 99・宮崎地区 SK 134・SK 135である。器種は壺A・B・C・D、E、甕A、無頭甕A・B、鉢Aがある。調整手法は刷毛目を基調とし、胴部内面を刷毛目調整後ナデを施す。櫛描文様は直線文・簾状文・羽状文がある。

小結

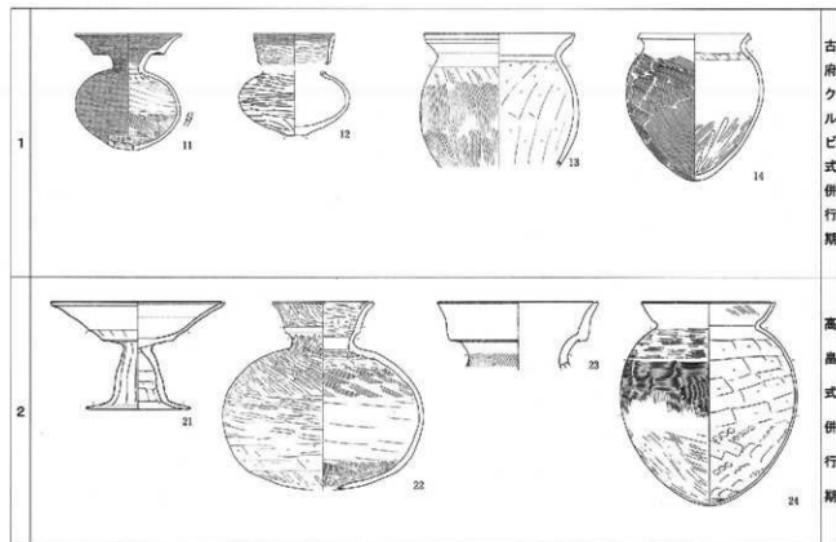
石塚遺跡の変遷案と北陸地方の指標となっている北加賀地域との併行関係については、当遺跡の主体となる第4期の遺物を基準に考えたい。第4期の土器の特徴は、①壺の口径と肩部最大径の差がほとんどない、②壺の内面が刷毛目調整後にナデを底部から頸部方向へ施す、③信濃系土器の流入などから、北加賀編年の穂部式、西念・南新保Ⅳ-1式併行に相当する。

2. 古墳時代前期の土師器

はじめに

富山県の古墳時代前期の土器編年は、谷内尾晋司氏の北加賀における編年（谷内尾1983）や田島明人氏による漆町遺跡の編年（田島1986）など石川県の土器編年に依拠している。近年、富山県の弥生時代後期～古墳時代前期の資料が増え、見直しがなされ始めた。岡本淳一郎氏らの猫橋式から白江式にかけての佐野台地上にある遺跡の編年（岡本他1999）、久々忠義氏の当該期の編年（久々1999）がある。

当遺跡では、現在のところ弥生時代後期に当たる猫橋式から弥生時代終末期に当たる白江式にかけての土器はほとんど出土していない。当遺跡に古墳群が形成される古府クルビ式・高畠式併行期に1つの集中がみられ、その後また一時途絶え、古墳時代中期後半（陶邑須恵器編年T K 208併行期頃）に集中がみられる。



第25図 石塚遺跡、古墳時代前期土師器変遷図（1／6）

ここでは今回の調査で一定量出土した古墳時代前期の土師器について位置付けを行うこととする。

時期について

前述したとおり、当遺跡では古府クルビ式併行期と高島式併行期の土師器が確認されている。当該期の土師器の主要な型式の変遷図を第25図に提示した。

第1期：古府クルビ式併行期。遺構は古墳S Z02（石塚2号墳）・古墳S Z03（石塚3号墳）・溝S D62

・凹地S X01である。また、古墳S Z08（石塚4号墳）は溝S D62と平行するので、この時期に推定する。壺は複合口縁壺がある。甕は有段口縁甕と「くの字」甕がある。壺は胴部外面及び口縁部内外面は横方向の磨き、胴部内面は刷毛目調整を基調とする。壺は外面が刷毛目、胴部内面は削りや刷毛目調整後ナデを基調とする。（11=林地区；1121、12=第3次都計道路地区；1205・1206、13=第3次都計道路地区；1214、14=第3次都計道路地区；1212）

第2期：高島式併行期。遺構は豊穴住居址S I 01・凹地S X01。また、古墳S Z01（石塚1号墳）は付近で当該期の高杯が出土しているためこの時期に推定する。高杯はいずれも大きく口縁が拡がる有段口縁である。壺は胴部外面および口縁部内外面は磨き、内面は刷毛目調整を基調とする。甕は胴部外面は刷毛目を基調とし、内面は胴上部が削り・胴下部はナデ・指圧が基調となる。（21=60年試掘；201、22=第3次都計道路地区；1202、23=高田地区；125、24=高田地区；127）

当遺跡出土の土器は、前述した岡本氏らによる佐野台地編年に後続する土器群と捉えることができる。なお、佐野台地編年では白江式併行期以降を古墳時代とするが、本報告書では白江式併行期を弥生時代終末期に含め、古府クルビ式併行期から古墳時代とした。

3. 石塚古墳群

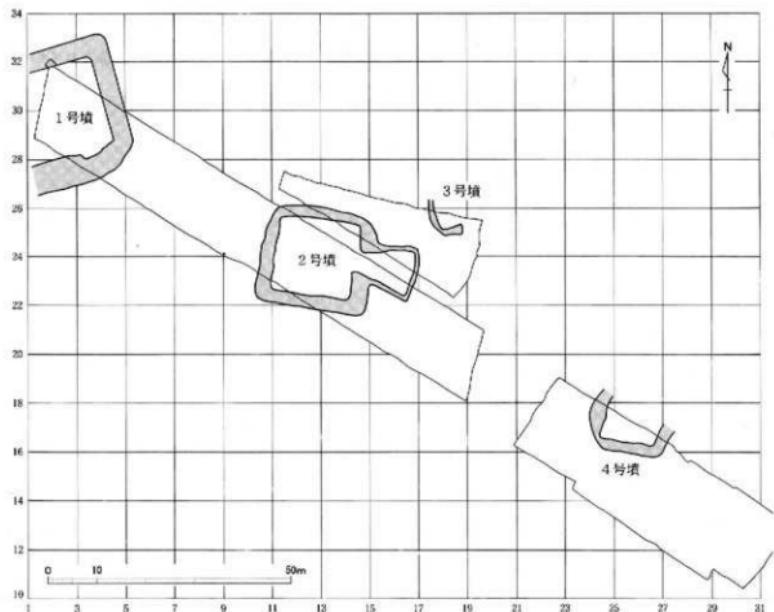
古墳の形態

石塚遺跡では、現在4基からなる古墳群が確認されている。平野部における出現期の古墳である。そのうち、2号墳は前方後方墳であることが判明している。そのほかの古墳については、部分的な発掘調査であり古墳全体の形態は不明確であるが、規模などから1号墳は前方後方墳の可能性が高い。3号墳はL字形の周溝を持ち、周溝は開口部がやや拡張する。この型式は赤塚次郎氏の前方後方墳分類（赤塚1992）によるとB2型に相当する。4号墳は北半部の調査はしていないが、規模から方墳の可能性が高い。今回の調査では、東西に延びる凹地であるS X01が確認されており、このS X01より南では今のところは古墳が確認されておらず、また北側は遺跡の範囲外であることなどから、古墳群の範囲は石塚遺跡の北東部に位置すると言える。

計測値と尺度

古墳の築造に関していろいろな尺度が用いられていることが知られている。主に用いられる単位として推測されているものは、漢尺・西晋尺・小尋・大尋がある。これらの尺度を現在のメートル法に換算すると、漢尺=23.1cm、西晋尺=24.2cm、大尋=1.60cm、小尋=1.50cmである。これらの尺度を石塚古墳群に当てはめると第3表の通りになる。漢尺と西晋尺は6尺=1歩として用いられているため、併せて「歩」による換算も示しておく。

2号墳以外は部分的な発掘のため、全貌が明らかではないが、1辺の長さが判明している1号墳・4号墳については、この1辺を当てはめた。3号墳については、1辺の長さも判明してないため記載していない。

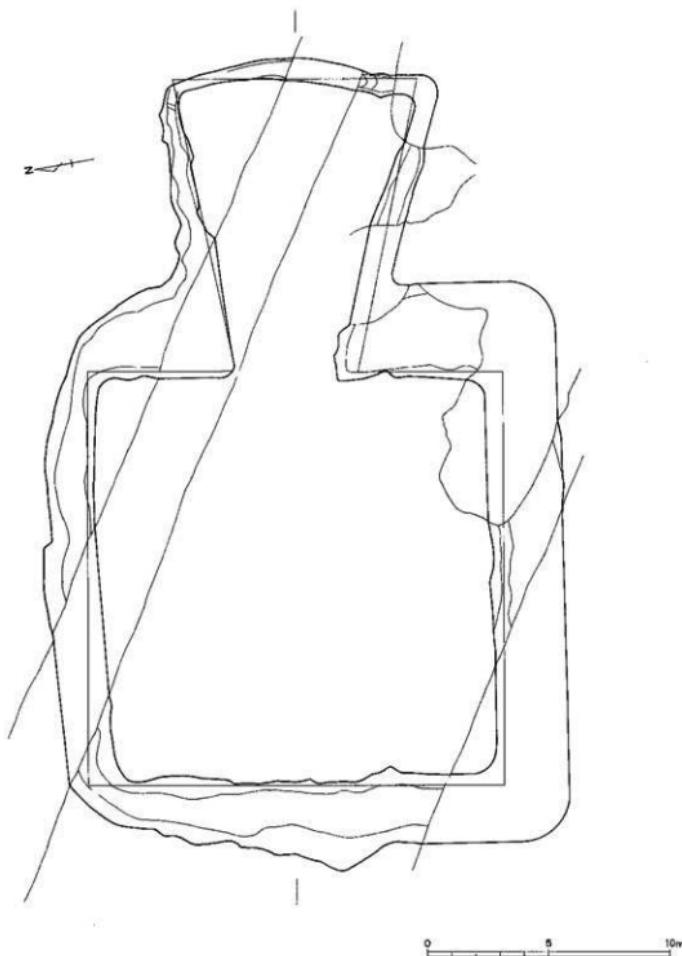


第26図 石塚古墳群分布図 (1/1,000)

番号	墳形	計測値	溝尺(歩)	西晋尺(歩)	大尋	小尋
1号墳	前方後方墳?	22m(一辺)	95.2 (15.8)	90.9 (15.2)	13.8	14.7
2号墳	前方後方墳	29m(全長)	125.5 (20.9)	119.8 (20.0)	18.1	19.3
		12m(前方部長)	51.9 (8.7)	49.6 (8.3)	7.5	8.0
		10m(前方部幅)	43.3 (7.2)	41.3 (6.9)	6.3	6.7
		17m(後方部長)	73.6 (12.3)	70.2 (11.7)	10.6	11.3
		17m(後方部幅)	73.6 (12.3)	70.2 (11.7)	10.6	11.3
4号墳	方墳?	14m(一辺)	60.6 (10.1)	57.9 (9.6)	8.8	9.3

第3表 石塚古墳群の計測値と尺度

これらのことより、漢尺もしくは西晋尺でもって計画している可能性がある。特に西晋尺の歩で換算すると、1号墳（1辺）：15歩、2号墳（全長）：20歩、4号墳（1辺）：10歩となり、5の倍数で構築されていることになる。すなわち、当古墳群は西晋尺を用いている可能性が高い。



第27図 石塚2号墳実測図（1／200）

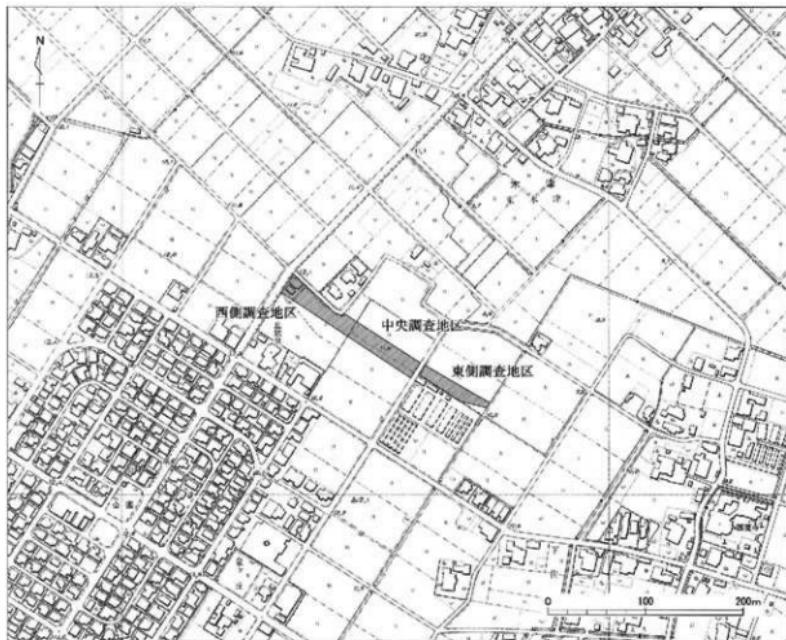
第4章 東木津遺跡

第1節 序 説

1. 従来の知見

東木津遺跡の範囲

当東木津遺跡は高岡市街地の南西郊外に位置し、遺跡範囲は東西600m×南北200mである。高岡工芸高等学校地理歴史クラブO B会の機関紙『オジャラ1』（1967年10月発行）に、この遺跡が掲載されていることが示すように、古くから知られている遺跡の1つである。その後、分布調査や発掘調査等を通じて遺跡の面



第28図 東木津遺跡、調査地区位置図 (1/5,000)

的な把握がなされ今日に至っている。北西側には木津神社遺跡が接し、南側には泉ヶ丘遺跡・下佐野遺跡が接しており、これらを合わせた大規模な遺跡とも言える。

既往の調査

当遺跡に対する最初の発掘調査は昭和61年度に実施した。これは店舗建設に伴う試掘調査及び本調査である。調査の結果、溝1条が検出され、8~9世紀の土師器・須恵器が出土した。その後、店舗建設・宅地造成・資材置場造成等、比較的小規模な開発工事に伴い、約10箇所余りで試掘調査・本調査を実施してきた。

遺跡の北東側に当たる平成11年度調査の「堀井地区」では、凹地に遺物包含層があり、奈良平安時代の木簡を含むところの木製品が多数出土した。遺跡の中央南側に当たる平成9年度調査の「丹羽地区」では、古墳時代後期の青銅鏡（漢式鏡；四獸形鏡）が出土し、同じく平成11年度調査の「チックタック地区」からは奈良平安時代の掘立柱建物址が多数検出された。遺跡の中央北東側に当たり、今回報告の都市計画道路「下伏間江福田線」地区に接する、平成11年度調査の「月安地区」でも、掘立柱建物址等が検出された。

これら調査では、奈良時代～平安時代前期頃の遺構・遺物を中心に、古墳時代の遺物等が確認されている。中世のものは少ない。

2. 発掘調査の経過

発掘調査の開始

発掘調査は高岡市教育委員会文化財課が担当し、山武考古学研究所（所長：平岡和夫）から調査員1名の派遣協力を受けた。調査は平成10年6月3日から実施し、調査の準備等に手間取り本格的な着手は7月に入つてからとなった。本調査開始に先行して調査対象範囲の南東側部分（東側調査地区と称している所、平成7年度の試掘調査対象外の所）の試掘調査を実施した。調査の結果、土師器・須恵器などの遺物が多数出土した。この結果を受けてこの南東側部分も本調査範囲に含めることになった。調査地区は道路や用水を挟んで、西側調査地区、中央調査地区、東側調査地区の3つの地区を設定した。表土除去は重機により行った。作業は東側調査地区より着手し随時西側へ作業地区を拡げて行った。

発掘調査の展開

東側調査地区は試掘調査により東半分が凹地（S X 06）となり深く落ち込むことが確認された。壁面が崩落する恐れがあるため、平面的には落ち込み際の検出を中心としたものに止めた。またサブトレレンチ設定の形で、部分的には深掘りを行った。東側調査地区的調査が一定程度進行した段階で、中央・西側調査地区的遺構検出を実施したところ、両調査地区全域から遺構が検出され多量の遺物が出土した。西側調査地区南東側の大規模な溝（S D 60）では土器類や木製品等の遺物が多量に遺存していることが確認された。平成10年11月14日には調査成果の中間報告と普及活動の一環として現地説明会を行った。

西側調査地区南東側の大溝 S D 60付近以外の調査は、12月末までに完了した。本格的降雪期を迎えた平成11年1月上旬、一旦現地調査を終了することにし、記者発表と資料の撤去等を行った。大溝 S D 60の上には農業用水が走っており、用水の切り回し工事が完了しない段階では、この溝をすべて掘り上げることができない事情も考慮しての調査の中止である。その後この切り回し工事が実施され、雪溶けを待つて平成11年3月16日に調査を再開した。そして大溝 S D 60付近の調査を実施し、年度が替わった4月12日にすべての現地調査が終了した。

3. 調査の概要

基本層序

基本層序は、第Ⅰ層：表土（耕作土）、第Ⅱ層：盛土層（圃場整備時の盛土層で、表土と基盤層との混土層）、第Ⅲ層：中世以降の遺物包含層（黒褐色粘質土層）、第Ⅳ層：古代＝奈良平安時代の遺物包含層（暗褐色粘質土層）、第Ⅴ層：基盤層（黄褐色砂質土層）となる。

台地上に当たる西側・中央調査地区では、第Ⅰ層～表土の下は第Ⅴ層～基盤層となり、所々に第Ⅲ層～中世以降の遺物包含層と第Ⅳ層～古代の遺物包含層が堆積している。東側調査地区西部は低湿地へ移行する傾斜地に当たり、近年の圃場整備時に削平を受けており、第Ⅰ層～表土の下は第Ⅴ層～基盤層となる。中央から東部にかけて第Ⅱ層～盛土層が見られるようになる。東側調査地区東部は低湿地部分に当たり、第Ⅰ層～表土の下に第Ⅱ層～盛土層があり、その下は凹地S X 06とした低湿地での堆積層となる。

検出遺構

検出遺構は次の通りである。奈良時代～平安時代前期頃が中心である。

掘立柱建物址14棟（S B 07～20）

柵址3条（S A 05～07）

橋梁護岸施設1箇所（S X 11）

道路址2条（S F 01・02）

土坑120基（S K 100～219）

溝45条（S D 18・25・44・60～101）

凹地1基（S X 06）

土坑状遺構1基（S X 12）

竪状遺構3基（S X 13・16・17）

不明遺構3基（S X 14・15・18）

ピット多数（主なS P 01～05のみ遺構番号を付けた）

上記の内、溝S D 18・25・44は平成10年度調査の「月安地区」で検出したものの延長とし、凹地S X 06は平成11年度調査の「堀井地区」で検出したものに繋がるものと考え、同一の遺構番号とした。

出土遺物

出土遺物は次の通りである。奈良時代～平安時代前期頃が中心である。

土器類；土師器、須恵器、灰釉陶器、珠洲、八尾、青磁、白磁、瀬戸美濃、越中瀬戸

（灰釉陶器・珠洲・常滑、瀬戸美濃・越中瀬戸は細片であり、少量のため図示はしていない）

木製品；木筒、木筒形、斎中、人形、刀形、琴形、檜局、横櫛、針、下駄、挽物、轆、曲物、火襖板、

火鐵棒、刷毛状具、楔、刻み目、棒状品、箸、用途不明品、部材

土製品；陶硯、瓦塔、土鍤、轆羽口

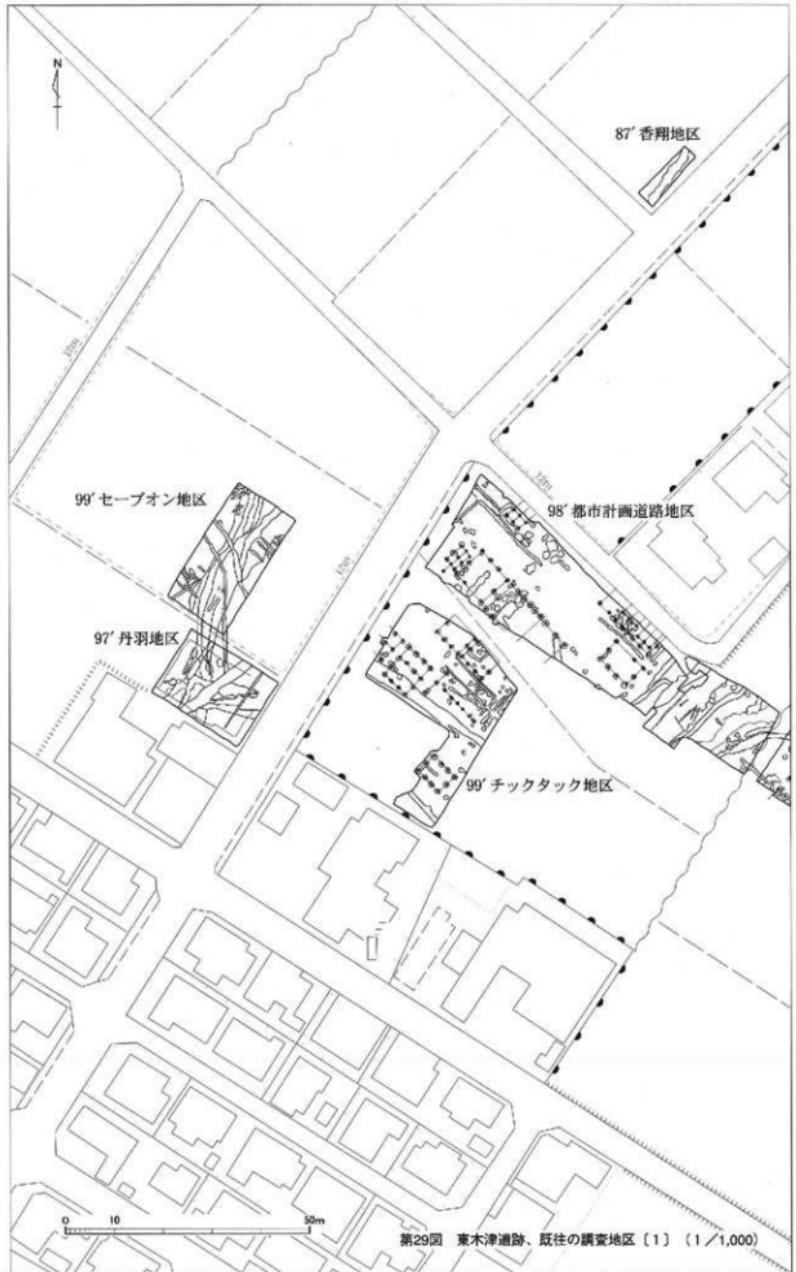
銅製品；銅鋗丸柄、銅鏡、銅錢

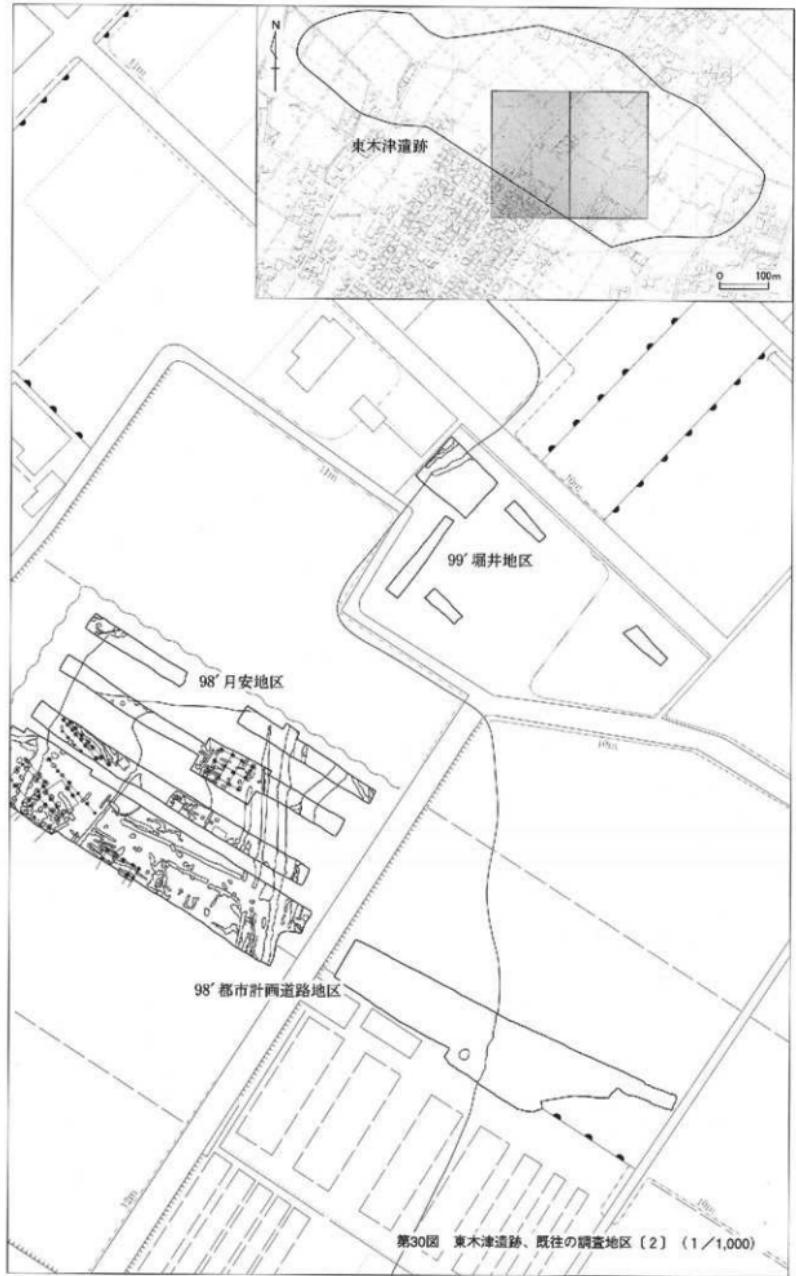
石製品；紡錘車形石製品、管玉未製品、細形棒状品、砾石

その他；鉄滓

グリッド

グリッドは平面直角座標形の第7座標系に合わせ、一辺5m四方を一区画とした。





第2節 遺構

1. 堀立柱建物址

堀立柱建物址は14棟検出された。調査地区による内訳は、西側調査地区が9棟（S B07～15）、中央調査地区が5棟（S B16～20）である。これらについては別表1に「東木津遺跡、堀立柱建物址一覧表」として取りまとめた。掘り方（柱穴）については、南西隅の掘り方を基点に、東西方向をX軸に、南北方向をY軸に取り、何番目に当たるかを座標で示した。南西隅の掘り方をP 1-1と称する。南西隅の掘り方が不明の場合は、その掘り方が最低何番目の掘り方になるか可能性を考えてその番号に「a」をつけて示した。建物の方位が45度近くになっているので、実際には北西～南東方向がX軸、北東～南西方向がY軸となっている。すなわち、西端部の掘り方が起点となりP 1-1と称している。

堀立柱建物址 S B07

西側調査地区北西端部で検出された堀立柱建物址である。北東～南西1間乃至2間以上×北西～南東2間を計る。北東側は調査地区外に拡がる。周囲に溝S D64がL字状に廻る。雨落溝乃至区画溝と推測する。掘り方の切断調査により、6個ある掘り方の内、全ての掘り方から柱の痕跡と推測する土層を確認している。

堀立柱建物址 S B08

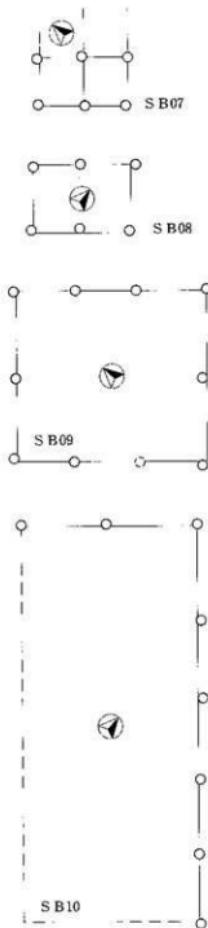
西側調査地区北西端部で検出された。側柱の堀立柱建物址である。桁行2間×梁行1間である。棚址S A06が建物の中央を通る。S A06と掘り方相互の切り合は見られず、この建物との前後関係は不明である。掘り方の切断調査により、6個ある掘り方の内、3個から柱の痕跡と推測する上層を確認している。P 1-3・3-3からは礎板が出土している。

堀立柱建物址 S B09

西側調査地区北西端部で検出された。側柱の堀立柱建物址である。桁行3間×梁行2間である。P 3-1は溝S D67に切られている。掘り方の切断調査により、9個ある掘り方の内、5個から柱の痕跡と推測する土層を確認している。P 1-3・3-3からは礎板が出土している。

堀立柱建物址 S B10

西側調査地区中央西寄りで検出された。側柱の堀立柱建物址である。桁行5間×梁行2間乃至3間以上である。P 2-1aはS X12に切られている。P 5-3aはS D68に上面を切られている。P 6-2aは削平を受けているため、確認できなかった。南東側は調査地区外に拡がる。掘り方の切断調査により、8個ある掘り方の内、4個から柱の痕跡と推



第31図 東木津遺跡、
堀立柱建物址概略図〔1〕
(1/200)

測する土層を確認している。P 1-3 αからは礎板が出土している。

掘立柱建物址 S B11

西側調査地区中央西寄りで検出された。側柱の掘立柱建物址である。桁行2間乃至3間以上×梁行2間である。P 1-2 α・P 3-2 αは削平を受けていたため確認できなかった。P 2-1 αはS X12に切られている可能性もある。南東側は一部調査地区外に拡がる。S B10と棟方向を直交し、重複して建てられているが、掘り方に切り合いが見られないため前後関係は明確でない。掘り方の切断調査により、4個ある掘り方の内、2個から柱の痕跡と推測する土層を確認している。

掘立柱建物址 S B12

西側調査地区中央東寄りで検出された掘立柱建物址である。桁行6間×梁行2間以上である。北東側は調査地区外に拡がる。P 1-2は調査地区壁面で痕跡を確認した。S B13と切り合い関係にある。P 3-1はS B13の掘り方=P 1-1を切る。また、P 4-1はS B13の掘り方=P 2-1を切る。周間に溝S D69・70が埋る。掘り方の切断調査により、8個ある掘り方の内、4個から柱の痕跡と推測する土層を確認している。

掘立柱建物址 S B13

西側調査地区中央東寄りで検出された掘立柱建物址である。北東～南西1間乃至2間以上×北西～南東2間である。北東側は調査地区外に拡がる。S B12と切り合い関係にある。P 1-1はS B12の掘り方=P 3-1に切られる。また、P 2-1はS B12の掘り方=P 4-1に切られる。P 3-2はSK137に上面を切られる。掘り方の切断調査により、6個ある掘り方の内、5個から柱の痕跡と推測する土層を確認している。

掘立柱建物址 S B14

西側調査地区中央東寄りで検出された掘立柱建物址である。北東～南西1間乃至2間以上×北西～南東2間である。北東側は調査地区外に拡がる。掘り方の南西側は暗渠に切られる。掘り方は3個を1列に検出したに止まるが、掘り方の間隔、規模から建物址とした。S B12の内部に位置し、掘り方の切り合い関係は確認できない。掘り方の切断調査により、3個ある掘り方の内、全ての掘り方から柱の痕跡と推測する土層を確認している。

掘立柱建物址 S B15

西側調査地区中央東寄りで検出された。側柱の掘立柱建物址である。桁行3間×梁行2間である。P 2-3は搅乱に切られて検出できなかった。南東側はS D60に臨み、地形はそこへ向かって緩やかに落ち込んでいる。この肩部に隣接して建てられている。掘り方の切断調査により、



第32図 東木津遺跡、
掘立柱建物址標跡図〔2〕
(1/200)

9個ある掘り方の内、全ての掘り方から柱の痕跡と推測する土層を確認している。

掘立柱建物址 S B16

中央調査地区の北西側で検出された。側柱の掘立柱建物址である。桁行3間×梁行2間である。S D85にP 3-1、P 3-2は切られて検出していない。北側の柵址S A07と掘り方の並びを同じくするが、掘り方の間隔が近すぎることや若干方向が異なるため他の遺構とした。掘り方の切削調査により、8個ある掘り方の内、5個から柱の痕跡と推測する上層を確認している。

掘立柱建物址 S B17

中央調査地区北西部南側で検出された掘立柱建物址である。北東～南西1間乃至2間以上×北西～南東2間乃至3間以上である。南西側は調査地区外に拡がる。掘り方は3個を1列に検出したに止まるが、掘り方の形態、規模から建物址とした。東側を走るS D85により掘り方が切られている可能性もある。掘り方の切削調査により、3個ある掘り方の内、全ての掘り方から柱の痕跡と推測する上層を確認している。

掘立柱建物址 S B18

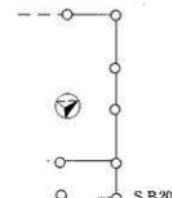
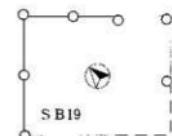
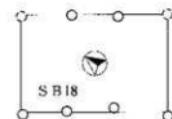
中央調査地区北西側で検出された掘立柱建物址である。桁行3間×梁行2間である。妻側の中央の掘り方（P 1-2、P 4-2）は検出していないが、削平により失われたものと判断した。P 4-2はS K169にも切られている。P 1-3、P 4-3も削平を受けており確認できなかった。掘り方の切削調査により、6個ある掘り方の内、4個から柱の痕跡と推測する土層を確認している。

掘立柱建物址 S B19

中央調査地区北西部南側で検出された。側柱の掘立柱建物址である。桁行（北西～南東）3間×梁行（北東～南西）2間と推定した。南側は調査地区外に拡がり、全体の規模は不明である。P 1-2はS K176に切られている。掘り方の切削調査により、7個ある掘り方の内、4個から柱の痕跡と推測する上層を確認している。この周囲には土坑が密集しており、今後の調査では他の建物が存在する可能性がある。

掘立柱建物址 S B20

中央調査地区中央西寄りで検出された。側柱の掘立柱建物址である。北東～南西2間以上×北西～南東4間である。庇付き建物址と思われる。身舎が北東～南西2間以上×北西～南東3間を計る。南東側に柱間の狭い柱穴が1列あることから、この部分に庇が1間付くと思われる。南西側は調査地区外に拡がる。周辺に帆状遺構S X13があり、掘り方の上面が切られている。掘り方の切削調査により、8個ある掘り方の内、7個から柱の痕跡と推測する土層を確認している。



第33図 東木津遺跡、
掘立柱建物址概略図〔3〕
(1/200)

2. 檻址

櫻址は3条検出された。西側調査地区で1条（S A06）、中央調査地区で2条（S A07・08）である。掘り方の順番は南西から北東へ乃至北西から南東へ向かってP1・P2・P3等と呼称する。

櫻址 S A06

西側調査地区で検出された南西から北東へ延びる櫻址である。規模は3間（6.0m）で、柱間寸法は2.0mの等間隔を計る。S B08と方位を略同じくしている。南側は調査地区外へ延びる可能性がある。S B08と重複しているが掘り方同士の切り合いはなく前後関係は不明である。

櫻址 S A07

中央調査地区で検出された北西から南東へ延びる櫻址である。規模は2間以上で、3間と思われる。柱間寸法は2.0mの等間隔を計る。P2はSD85に切られて検出できなかった。P3はSB16の掘り方=P4-3を切る。位置的にSB16と近すぎることや並びに若干のずれがあり、SB16とは直接の関係はないと考え櫻址とした。

櫻址 S A08

中央調査地区西側で検出された北西から南東へ延びる櫻址である。規模は5周（14.3m）で、柱間寸法は2.4~3.4mと不揃いである。平成10年度に北側の隣接地で調査した「月安地区」では櫻址が3条検出されており、この櫻址と方位を同じくすることから何らかの関連性が考えられる。

3. 橋梁護岸施設

橋梁護岸施設は西側調査地区的溝SD60中央部から検出された。SX11である。

橋梁護岸施設 SX 11 (図面036~038, 図版030~032・034・035)

西側調査地区的南東側で検出された。西側調査地区的掘立柱建物址群の南東側の一段低い場所に南西から北東方向に流れる溝SD60がある。この溝SD60と道路址SF01の北西側の延長線との交点に、護岸施設及び構脚と推定できる杭列群が構築されている。これらの施設をまとめて橋梁護岸施設SX11とした。

北西側の護岸施設は、溝SD60左岸に構築されているものである。座標北より44度東に振る。長さ10.1mを計る。長さ1.0~4.3m、幅20~50cm、厚さ5cm前後の長大な板材を6本使用する。ほとんどの板材は枘穴を持つ。これらの板材は倒れた状態で検出した。護岸した後の裏込土と溝SD60第2層とは類似したものであり、両者の区別はできなかった。北西側護岸の北東側は多数の網杭が狭い範囲に集中する。これらの網杭群は地固めに伴うものと推測する。

南東側の護岸施設は、溝SD60右岸に構築されているものである。大きく2つの時期に分かれる。当初の段階（古段階）は、護岸施設として構築されている。座標北より東へ30度振り道路址SF01と略直交する。長さ2.5mを計る。板材は杭によって固定している。次の段階（新段階）では溝内部に大きく張り出し（以下、南東側張出部）、角度も座標北より46度東に振り多数の掘立柱建物址群と略直交する向きを示す。北東端部は当初の段階と接している。規模は南北4.3m、東西2.1mを計り、L字状に組んでいる。板材は角杭や丸杭によって固定がなされている。南北方向は上下2段の横板で組んでいる。南東側張出部の裏込土（=溝SD60；第5層）は砂と砂質土を交互に埋めている。

北西側護岸施設と南東側護岸施設の北東端部は、溝 S D 60に対し略同一直の場所となり、南北端部は北西側護岸施設が4.5m長い。これらの護岸施設は調査範囲よりも外側には延びていない。溝 S D 60の遺物出土位置を確認すると、護岸施設、特に南東側張出部より北東側（下流側）に遺物の出土密度が高い。このことから、南東側張出部において水辺の祭祀が行われていたことを推定したい。

溝内部には溝と平行に走る杭列を検出した。この杭列は北西（左岸）から南東（右岸）へ、①板杭2本で、根元を補強するもの（A列）、②板杭2本のものの（B列）、③角杭4本のものの（C列）の3つに分かれる。A列（図面038-06・07）は幅2.1mを計る。板杭は先端を尖らせ、溝に対して直交に打ち込んでいる。06の上部には欠込状の納がある。板杭の根元には直径約10cmの丸木を対角に渡し、丸木は4本の杭によって固定する。B列（図面038-08・09）は幅1.2mを計る。板杭は先端を尖らせ、溝に対して直交に打ち込んでいる。C列（図面038-10-13）は幅1.5mを計る。これらの杭列群は幅が略同一直で、溝 S D 60に対して、対岸に渡るように北西～南東方向に延びており、またA列では欠込状の納があり上部構造を支える形となっていることから、この杭列群を橋脚とする橋の存在が推定できる。

以上のことから、橋梁の構造について推測してみる。橋の幅は杭列の長さから約1.5~2.0mと推定できる。北西側護岸施設は南東側護岸施設より低い位置になるため、同じ高さになる場所まで北西に延び、橋の長さは約5mと推定できる。板杭で支えていることから強固な構造の橋ではなく、橋板を両岸に渡し、溝内部を3組の杭列で支える構造であったと推測する。特に、杭列の内A列は両端が板杭で、この板杭には欠込状の納があることから、この板杭列に桁材を渡し、橋板を受けていたことが推定できる。

護岸施設の部材に納穴が開いているものがほとんどなので、護岸施設の部材は橋材を転用したものではないかと考えたが、護岸施設の部材の表面には工具で削った痕跡が明瞭に残っており橋板として使用した際につく風化や腐食といったものが見られず、また納穴同士が合致する部材もなかったため、護岸施設の部材が橋材からの転用とは考えられない。この他に橋材に相当する大型の部材は出土していないので、この構造を裏付けることはできなかった。

南東側護岸施設の南東側には5つのピットがある。S P 02-06である。S P 02・04には直径15~20cmの柱根があり、周りには3本ずつ杭がある。このことから柱を3本の杭で支えていたことが推測できる。S P 04からは癒串4点（図面141-8039・8046、図面142-8055、図面143-8074）出土する。ピット群は橋梁と道路址 S F 01とを結ぶ位置にあり、また南東側張出部は祭祀場の役割を担っていることから、柵址というよりは門や鳥居状の構造物が建っていた可能性がある。

4. 道路址

2本の溝が直線的に並行して走るものを見出し、これらを道路址とした。中央調査地区南東部で2条（S F 01・02）検出している。当地区の北側に隣接して、平成10年度に調査した「月安地区」がある。ここで直線的に並行して走る2本の溝、S D 18・25を検出している。今回の調査でこれらが当地区へ延びていることを確認し、合わせて道路址 S F 02とした。

道路址 S F 02（図面042-043、図版038）

中央調査地区的中央北東寄りを中心に検出された。道路址 S F 02から分岐して東南東から西北西に延び、中央調査地区中央西寄りで途切れている。方向は座標北より西へ約65度振っている。2本の平行に走る溝 S

D93とS D94=95を伴う。長さ約30m、幅は溝の心々間で約3.5mを計る。北側の側溝であるS D93は規模が大きく、深さは約40cm程度で底面も一定している。中央調査地区中央西寄りまで延びている。南側の側溝であるS D94=95は全体に浅く底面は一定せず、中央調査地区中央で途切れている。側溝からは8世紀前半から9世紀後半の遺物が出土しており、道路址の廃絶した時期は9世紀後半以降と考えている。側溝間の遺構検出面には整地層や織等の硬化面を確認することはできなかった。土坑SK204・207に切られる。土坑SK199・202・211を切る。土坑SK196・203・205・206・209・210と重複する。

道路址SF02（図面042・043）

中央調査地区南東端部で検出された。2本の溝SD18とSD25=100を伴い略南北方向（北北東～南南西）に延びる。当調査地区内では、長さ約15mを計る。北西側で西側の側溝が途切れ道路址SF01に分岐している。この部分を境として溝の心々間での幅は、北側は幅約4m、南側は幅約6mとなり、違いが見られる。東側の側溝であるSD18は西側の側溝であるSD25=100に比べ規模が大きく断面形は逆台形を呈する。溝の肩部は掘り返されており、南北方向は調査地区外に延び、北側は「月安地区」に繋がる。全体規模は「月安地区」で検出した部分を含めると、総延長約48mとなる。出土遺物から9世紀後半以降に廃絶したものと考えている。土坑SK215・217を切る。土坑SK216と重複する。畝状遺構SX16は当遺構上面を切っており道路址廃絶後のものである。

5. 土坑

土坑は120基検出された。時期的には、SK119・133・137の3基が近世のものである。これ以外の117基が奈良平安時代のものである。調査地区による内訳は、西側調査地区が50基（SK100～149）、中央調査地区が69基（SK150～218）、東側調査地区が1基（SK219）である。不整形凸形、不整形を呈するものが多い。各土坑の個別の内容については、別表3に「東木津遺跡、土坑一覧表」として取りまとめた。

6. 溝

溝は45条検出された。調査地区による内訳は、西側調査地区が22条（SD60～81）、中央調査地区が23条（SD18・25・44・82～101）である。この内溝SD18・25・44は北接する平成10年度調査の「月安地区」検出にかかる溝の延長である。時期的には、SD67・73が中世、SD68・78・85が近世、SD75～77・79・101が不明で、これ以外の35条が奈良平安時代のものである。各溝の個別の内容については、別表4に「東木津遺跡、溝一覧表」として取りまとめた。ここでは、橋梁護岸施設SX11が構築された溝SD60、道路址に伴う側溝のSD18・93～95・100について記述する。

溝SD60

西側調査地区南東側（10～14、16～19）区で検出された。南西～北東方向に走る溝である。規模は、長さ17.8m以上、幅4.0～8.4m、深さ88cmを計る。不明遺構SX18に切られる。土坑SK144・146・147、溝SD72を切っている。南西側、北東側は調査地区外へ延びている。検出範囲の中央には橋梁護岸施設SX11が構築されている。出土遺物は奈良平安時代のものである。基本的な層序は以下のとおりである。

第1層：暗褐色シルトを中心とする層（基本層序Ⅳ層＝奈良平安時代の包含層）

第2層：黄褐色・灰褐色砂を中心とする層（溝の主体となる層）

第3層：暗褐色粘質土を中心とする層

第4層：青灰色砂を中心とする層（ $\pm 1\sim10\text{mm}$ の礫を含む）

第5層：S X 11埋土（構築に伴うもの）

第1層は基本層序Ⅳ層にあたる。葦等の植物による腐食物が多量に含まれる。9世紀後半以降の遺物はこの層にのみ出土する。この層からは「難波津」の歌を記した木简（図面137-8001）が出土している。第2層は溝の主体となる層である。8世紀前半～9世紀前半までの多量の遺物がこの層から出土している。特に記号を記した墨書き土器、油煙付土器、人形、舟串といった木製品など祭祀具はほとんどがこの層から出土している。また土器類は完形品が多いことから、この層の遺物は意図的に溝へ投棄していたものと推定する。第3・4層は第2層とほぼ同様に遺物が出土するが、第2層よりは量が少ない。

この溝から出土する遺物は、S X 11の構築推定地より北東側（下流側）と南西側（上流側）では遺物の出土量が著しく異なり、前者が多い。このことについては、構築付近において祭祀等が行われ、意図的に遺物を投棄する行為の存在を示しているものとしたい。

以上のことから、第2～4層の段階で橋梁や護岸施設が構築され祭祀場として機能し、9世紀後半以降には溝が埋まり低湿地となっていたと推定する。

溝 S D 18

中央調査地区南東端部で検出された。北北東～南南西に走る溝である。規模は、長さ14.5m、幅0.8～1.5m、深さ80cmを計る。平成10年度に調査した「月安地区」で検出された溝S D 18と同様の規模を持つことから、今回検出されたのは南側の延長部分と判断した。断面による観察では3回程度掘り直されている。造構内からは礫が多数出土しており、溝が廃棄された段階で埋まったものと推測する。方向が若干南西方向に振れている。溝S D 100と共に道路址S F 02の側溝として機能していたと推定している。北側で土坑S K 215を切っている。「月安地区」の部分を含めると全体の長さは48m以上となる。

溝 S D 93

中央調査地区中央北側で検出された。西北西～東南東に直線的に走る溝である。規模は、長さ27.2m、幅0.5～1.0m、深さ30cmを計る。東側へ行くに従って次第に浅くなっていく。土坑S K 199・202を切っている。土層断面を観察すると最低2回は掘り直されている。溝S D 94・95と並行して走ることから道路址S F 01の側溝と推定している。

溝 S D 94

中央調査地区中央部で検出された。西北西～東南東に直線的に走る溝である。規模は、長さ10.7m、幅0.5～0.7m、深さ46cmを計る。北側の溝S D 93に比べると総じて浅い。土坑S K 204・207に切られている。南側は基盤層が一段高くなっている、北側の造構上面は削平を受けている。

溝 S D 95

中央調査地区東側で検出された。西北西～東南東に直線的に走る溝である。規模は、長さ7.0m、幅0.3～0.8m、深さ24cmを計る。土坑S K 211、溝S D 96を切っている。北側にはS D 93が並行して走る。西北西側の延長線上にはS D 94が位置することから、一連の溝である可能性がある。

溝 S D 100

中央調査地区南東側で検出された。北北東～南南西方向に直線的に走る溝である。規模は、長さ7.4m以

上、幅0.6~0.9m、深さ38cmを計る。溝S D98・99を切っている。南側に向かって次第に深くなる。北側は道路址S F01との合流する箇所で途切れる。南側は調査地区壁面手前で一旦浅くなるが、調査地区外へ延びている。土層断面を観察すると1回は掘り直されている。東側のS D18と並行に走ることから、道路址S F02の側溝と推定している。上坑S K217、溝S D98・99を切る。

7. その他の遺構

その他の遺構とし遺構記号S Xで示したものは、西側調査地区から3基(S X11・12・18)、中央調査地区から5基(S X13~17)、東側調査地区から1基(S X06)検出されたもので、以下の通りである。

西側調査地区：橋梁護岸施設1基(S X11)、土坑状遺構1基(S X12)、不明遺構1基(S X18)

中央調査地区：畝状遺構3基(S X13・16・17)、不明遺構2基(S X14・15)

東側調査地区：凹地1基(S X06)

橋梁護岸施設S X11については先述した。不明遺構S X18は溝S D60北東側断面で確認された中近世の遺構で、平面的に検出できなかった遺構である。ここでは東側調査地区的凹地S X06について記述する。

凹地S X06

東側調査地区東半部で検出された。泉ヶ丘団地の位置する微高地から下った低地(谷地形)で、北~北東側の一帯に拡がると思われる。当遺跡より東へ約700mに千保川が北流しており、この川に伴うものと推測する。調査地区東側が削平を受けており旧地形を留めていないが、東側に向かって急激に落ち込んでいる。基本的な層序は以下のとおりである。

第1層：黒色粘質土を中心とする層(中世以降の遺物包含層)

第2層：黒褐色粘質土を中心とする層(奈良平安時代以降の遺物包含層)

第3層：青灰色砂を中心とする層(遺物を少量包含している)

第4層：黄褐色粘質土を中心とする層(弥生時代末~古墳時代の遺物包含層)

第5層：黒色粘質土を中心とする層(遺物を包含していない)

第1・2層は水平堆積し、厚みを増して東側に拡がる。調査地区南東端部では表土を含め厚さ約2.5mを計る。地山土は黄褐色砂質土、青灰色粘質土からなる。落ち込みの際から谷地形底部(第5層下層)については、地山土は不明瞭となる。谷部の落ち際にサブトレーンチを設定したところ、厚さ1mに渡って青灰色砂と黒色粘質土の薄い層が互層となり堆積していた。それ以下は湧水が激しく確認できなかった。

第1層検出面においては近世の用水路址や遺物を確認している。第1・2層では奈良平安時代の土器類が主に出土し、この時期及び中世以降の遺物包含層と思われる。また、木製品(祭祀用具、生活雑器)が多数出土している。谷地形の落ち際では、第3・4層がレンズ状に堆積し、古墳時代頃の上器類・木製品が出土している。木製品の内、図示したものは曲物底板1点(図面155-8160)である。この土層は自然流路の址と推定され、南側と北側で調査地区外へ延びる。当初、古墳の周溝とも考えていたが、この層が南東方向に向かって薄く堆積していることを確認し、この凹地に伴う自然流路址とした。遺物の出土状態は、谷地形の肩部に集中的に見られ、下層へ層位が移り、東側へ行くほど散発的になり、量的に少なくなる。

今回検出の部分は、平成11年度に調査した「堀井地区」で検出された凹地S X06から連続すると推定できるため、同じ遺構番号を使用している。

第3節 遺物〔1〕

1. はじめに

この節では土器類について報告する。これについては、①古墳時代の土器類、②奈良平安時代の土器類、③その他（古代・中世の土器類）に区分した。①は飛鳥時代前半頃を含む古墳時代の土師器である。②は8世紀後半～9世紀前半頃を中心とした土器類である。奈良平安時代としたが、平安時代後半のものは含んでいない。出土量が多いので西側・中央・東側の各調査地区ごとに細分した。西側調査地区では溝SD60よりも多く出土しているので、この溝出土のものとこれ以外のものとに分けて示した。また掘立柱建物址出土の土器類は、小破片も図示することとし、これらを分離独立して示した。なおこの地区・遺構ごとの報告の前に、当該期の土器類の分類を行っている。③としたものは、②と同時期の可能性があるが特殊なもの、位置付けが明確にできないもの、平安時代後半～中世のものを取り上げる。

図面071～134に1,448点図示した。別表6に「東木津遺跡、土器類観察表」として、これらについての概略の内容を示した。120～154頁である。写真図版については代表的なものの掲載に止めた。

2. 古墳時代の土器類

古墳時代の土器（土師器）については出土量も少なく、東側調査地区でほとんどが出土しているため調査地区全体をまとめて記載した。時期的には古墳時代前期から後期（飛鳥時代前半頃）まで見られる。

高杯 図面071～2001～2009。残存状態より次の通り区分できる。全体の形態が判明するもの：2001～2003、杯部片：2004～2005、脚部片：2006～2009。杯部は緩く外反して外上方へ拡がる。杯口縁部と杯底部との境は、弱い稜が付くものと強い稜が付くものがある。脚部は外反してそのまま末端部に至るものが多いが、2001・2003は柱状部と末端部との境が屈曲している。調整手法は、内面杯部と外面全体はヘラ磨きが主体となっている。

杯 図面071～2010。弧状の底部より口縁・体部は内湾して立ち上がる。外面の調整手法は、口縁部が横ナデ・刷毛目、体部がナデ・指圧、底部がヘラ削り。外面全体を赤彩している。

壺A 図面072～2011、図面073～2012・2013。大型の壺。2011は球形の肩部をもつ極めて大きい壺で、肩部外面は細かい刷毛目が付く。2012は複合口縁気味に屈曲する口縁部をもつ。球形の肩部より底部は突出した形となる。肩部は内外とも粗らか刷毛目が付く。2013は張りのない肩部に外反する短い口縁部が付く。

壺B 図面071～2014～2020。小型の壺。2014は複合口縁であり、2015は複合口縁状になる。2016は小型丸底壺。2017は口頭部が長く伸びる形態である。2018～2020は鉢状の形態とも言えるもの。

壺C 図面072～2021～2024。壺の底部。2021・2022は突出した形態となる。2023は削下部からそのまま底部へ移行する。2024は底・脚部である。

壺把手 図面074～2025。壺の把手と考えた破片である。赤彩され沈線が付く。

蓋壺 図面072～2026。壺の蓋と考えたものである。小型の製品である。

器台 図面072～2027～2032。2027・2028は大型の器台の受部である。外面に強い稜をなして外上方へ拡

がる。2029～2032は小型器台の脚部である。2029・2030の脚部は直線的に外下方へ延びるものである。2031・2032は脚下部が欠損しているが、類似したものと推定している。

斐A 図面074～2034～2038。複合口縁の斐。口縁部外面に擬回線文が付くもの（2033・2034）と付かないもの（2035～2038）に区分される。

斐B 図面073～2039～2046。口頭部がくの字状に緩く折れ、口端部に横ナデによって口唇面を形成する斐。大きさは通有のものである。口唇面は、外傾するもの；2039、直立するもの；2040・2041、内傾するもの；2042～2046となる。

斐C 図面074～2047～2051。口頭部がくの字状に折れる斐。器壁が薄いもの（2047～2049）と厚いもの（2050・2051）に区分される。これは時期差も示していると考える。2047は一応丸底だが、尖底の名残りを止めている。胴・底部は、内面がヘラ削り、外面が刷毛目でヘラ削りが少しみられる。2051は胴上部が張らず胴下部がやや膨らむ形態となる。胴部は内外面とも刷毛目である。

3. 奈良平安時代の土器分類

奈良平安時代の土器としたものは、奈良時代～平安時代前期頃のものである。図示したものは土師器と須恵器である。これ以外には図示していないが、灰釉陶器の細片がある。他の国産の施釉陶器や輸入陶磁器でこの時期に該当するものは確認していない。

土師器

椀・皿・皿蓋・鉢・甕・鍋である。

椀は略同¹の形態である。成形手法はロクロを使用し、底部の切り離し手法は糸切りである。底部が2次に調整され糸切りを確認できないものもこのようないものと類推される。器表面の黒色処理や赤彩により4つに分類した。

椀a：通有の土師器、赤彩や黒色処理を施さないもの。

椀b：内外面全体に赤彩を施すもの。

椀c：内面全体と外面口縁部を黒色処理するもの、内黒土器。

椀d：内面全体と外面口縁部を黒色処理し、外面体・底部を赤彩するもの、内面黒色外面赤彩土器。

椀aは、内面にヘラ磨きを施すものと施さないものの2者に細分できる。前者は外面にも何らかの調整を施すものが多い。椀cと椀dは、内面全体と外面口縁部を黒色処理するものである。内外面全体を黒色処理する上器に比べると内面を中心に黒色処理しているので、内黒土器とも呼ばれている。内外面全体を黒色処理するものが存在しない土器群の場合は、分類としては単に「黒色土器」と称されることもある。

椀の内面の調整手法については、赤彩や黒色処理を施す椀b・c・dについてはヘラ磨きをするのが原則である。椀の外面の調整手法についてはやや複雑なものとなっている。部位的には次の通りである。①全体、②体部ないし体下部のみ、③体部ないし体下部と底部外周、④体部ないし体下部と底部全面、⑤底部外周、⑥底部全体となる。調整の方法としては次の通りである。①ヘラ磨き、②回転を利用したヘラ磨き＝ヘラ削り、すなわちヘラ磨き的なヘラ削りを回転を利用して行うもの、③ヘラ削り（手持ちヘラ削り）、④回転ヘラ削り、⑤ナデ（2次的ナデ）となる。この各部位と各方法が結び付き、外面調整は究めてバラエティーに富んだものとなっている。

皿は形態的に大きく2つに区分される。

皿A：口径に比べて底径の割り合いが大きく、口縁部が短く立ち上がる。奈良時代を中心に見られ
れ律令的様式と言えるもの。

皿B：口径に比べて底径の割り合いが小さく、口縁部が大きく開くもの。平安時代前期以降に見られ
る壺系の様式と言えるもの。

器表面を赤彩するものがあり、これにより、a一赤彩を施さないもの、b一赤彩（全面赤彩）を施すもの
との2者に分類される。図面の配置ではこれに従ったものにした。皿Aでは通有のもの以外に脚部が付くもの
の（高盤）と高台が付くものがある。皿Bでは高台が付くものと付かないものがある。

赤彩を施した蓋があるが、皿Aと組み合うものとし皿蓋とした。

鉢は口頭部が直口のものと、くの字状に折れ、さらに口縁部が加曲するものがある。前者は古墳時代～飛
鳥時代に属するものかもしれない。後者はロクロ使用のものであり、カキ目調整を施している。

甕は通有の大きさで長胴になると推定されるもの（甕A）と、小型で短胴のもの（甕B）がある。

鍋は口径約30cmを計るもので、略同一の形態のものとなっている。

須恵器

杯・杯蓋・鉢・壺・壺蓋・瓶・甕に分類される。

杯は通有の杯とこれ以外の稜杯・双耳杯がある。通有の杯は高台の有無により、高台が付かない杯A（無
台杯）と高台付の杯B（有台杯）に区分される。杯Aはロクロ調整の後、底部をヘラ切りして調整を行わな
いものが基本である。僅かだが底部を糸切りするものもある。内面の調整では、底部を2次的にナデるもの
がある。外面の調整では、体下部や底部を手持ちヘラ削りするものがある。また底部を2次的にややナデる
ものがある。杯Bはロクロ調整の後、底部をヘラ切りして、外周部に高台を貼り付けるのが基本である。
僅かだが底部を糸切りするものもある。また底部内面ないし外面を2次的にナデるものもある。

杯蓋は口縁部が下方へ短く折れるもので、天井部中央に宝珠形つまみが付く。切り離し手法はヘラ切りで
ある。内面の調整では、天井部を2次的にナデするものがある。外面の調整では、天井部をヘラ削り（回転ヘ
ラ削り）したり、2次的にナデを施するものもある。杯蓋では僅かだが、口縁部内面にかえりが付くものがあ
る。これらの杯蓋については、ほんどのものが高台付杯の杯Bと組み合うものと考えているが、一部は無
高台の杯、杯Aに伴うものと考え、杯B蓋とはせず、単に杯蓋とした。

鉢としたもので全体の形態が判明するものは大型で把手付きのものである。

壺では広口壺・短頭壺があり、短頭壺と組み合うものと考えているものに壺蓋がある。壺蓋は天井部中央
に宝珠形つまみが付く。瓶では双耳瓶？・細頸瓶・横瓶である。甕は大小のものがある。

4. 西側調査地区一溝S D 60以外の出土土器

図面075に3001～3027の27点図示した。検察表は121～122頁である。

土器器

楕b；図面075-3001。皿A；図面075-3002。甕B；図面075-3003。

須恵器

杯A；図面075-3004-3015。杯B；図面075-3016-3019。杯蓋；図面075-3020-3027。

5. 西側調査地区一溝 S D 60出土土器

図面076～121に4001～4168、5001～5926の1,094点図示した。観察表は122～148頁である。

土師器

椀 a : 図面076-4001～4027、図面077-4028～4035。椀 b : 図面077-4036～4051。椀 c : 図面078-4052～4076、図面079-4077～4104。椀 d : 図面080-4105～4132。皿 A a : 図面081-4133～4141。皿 B a : 図面081-4142～4146。皿 A b : 図面081-4147～4159。皿 B b : 図面081-4160・4161。皿蓋 : 図面081-4162。甕 B : 図面082-4163～4165。鍋 : 図面082-4166～4168。

須恵器

杯 A : 図面083-5001～5024、図面084-5025～5053、図面085-5054～5080、図面086-5081～5108、図面087-5109～5140、図面088-5141～5168、図面089-5169～5200、図面090-5201～5226、図面091-5227～5256、図面092-5257～5281、図面093-5282～5313、図面094-5314～5339、図面095-5340～5369、図面096-5370～5398、図面097-5399～5429、図面098-5430～5459、図面099-5460～5490、図面100-5491～5495。杯 B : 図面100-5496～5505、図面101-5506～5526、図面102-5527～5547、図面103-5548～5570、図面104-5571～5592、図面105-5593～5610、図面106-5611～5636、図面107-5637～5642。杯口縁部 : 図面107-5643～5649。稜杯 : 図面107-5650～5654。双耳杯 : 図面107-5655。杯蓋 : 図面108-5656～5666、図面109-5677～5679、図面110-5680～5710、図面111-5711～5734、図面112-5735～5762、図面113-5763～5779、図面114-5780～5801、図面115-5802～5821、図面116-5822～5843、図面117-5844～5872、図面118-5873～5900。鉢 : 図面119-5901。広口壺 : 図面119-5902～5904。短頸壺 : 図面119-5905・5906。壺蓋 : 図面119-5907～5913。双耳瓶 ? : 図面120-5914。細頸瓶 : 図面120-5915・5916。横瓶 : 図面120-5917・5918、図面121-5919～5921。甕 : 図面121-5922～5926。

6. 中央調査地区出土土器

図面122～127に6001～6130の130点図示した。観察表は148～151頁である。

土師器

椀 b : 図面122-6001・6002。椀 c : 図面122-6003～6005。椀 d : 図面122-6006。甕 A : 図面122-6007～6010。甕 B : 図面122-6011・6012。鍋 : 図面122-6013・6014。

須恵器

杯 A : 図面123-6015～6044、図面124-6045～6067。杯 B : 図面125-6068～6092。稜杯 : 図面124-6093・6094。杯蓋 : 図面126-6095～6117。鉢 : 図面124-6118・6119。壺 : 図面127-6120・6121。広口壺 : 図面127-6122。短頸壺 : 図面127-6123～6126。壺蓋 : 図面124-6127・6128。甕 : 図面127-6129・6130。

7. 東側調査地区出土土器

図面128～132に7001～7098の98点図示した。観察表は151～153頁である。

土器類

椀 a : 図面128-7001~7010。椀 c : 図面128-7011。椀 d : 図面128-7012。皿 B a : 図面128-7013。皿 A b : 図面128-7014・7015。鉢 : 図面129-7016~7020。甕 A : 図面129-7021~7024。甕 B : 図面129-7025~7027。

須恵器

杯 A : 図面130-7028~7052、図面131-7053~7058。杯 B : 図面131-7059~7075。稜杯 : 図面128-7076。杯蓋 : 図面132-7077~7093。鉢 : 図面128-7094・7095。壺 : 図面128-7096。横瓶 : 図面132-7097。甕 : 図面128-7098。

8. 挖立柱建物址出土土器

掘立柱建物址の掘り方から出土した上器類については、小破片でもできる限り図示することにした。図面133・134に0101~0140の40点図示した。観察表は153・154頁である。

土器類

椀 b : 図面133-0101・0102。皿 B : 図面133-0103。

須恵器

杯 A : 図面133-0104~0112。杯 B : 図面133-0113~0119。杯口縁部 : 図面133-0120~0128。杯蓋 : 図面134-0129~0138。横瓶 : 図面134-0139。壺蓋 : 図面133-0140。

9. 古代・中世の土器類

ここでの土器類は、特殊なもの、位置付けを明確にできないもの、平安時代後半～中世のものである。図面134に0201~0208の8点図示した。観察表は154頁である。

土器類

鉢 図面134-0201・0202。0201は小型の深鉢で口径11.4cmを計る。全体的に剥離しており脆いものである。繩文土器や製塙土器とする見方もあるが、これらとは異質である。奈良平安時代のものの可能性が高い。0202はミニチュア土器で祭祀用とされているものである。口径4.4cmを計る。古墳時代と思われる。

甕 図面134-0203。甕の底部分と思われる。調整は内外面とも刷毛目である。底径15.8cmを計る。古墳時代～平安時代前期頃と思われる。

皿 図面134-0204・0205。ロクロ使用の皿である。0204は底部外面に回転糸切り痕のみが付く。口径9.8cmを計る。平安時代後半のものと推定される。0205は、口縁部は外傾する口唇部をなす。口縁部下部外面はヘラ削りする。底部外面は静止糸切り痕が付く。内面には油煙や付着物があり灯明皿として使用したと思われる。近世の所産とする見方もあるが、出土状況から判断して奈良平安時代に含めるのが妥当と思われる。

陶磁器

青磁碗 図面134-0206・0207。中世の輸入陶磁器である。0206は口縁部片、0207は底部片である。

白磁碗 図面134-0208。底部片である。中世の輸入陶磁器である。

第4節 遺物〔2〕

1. はじめに

この節では、土器類以外のものとして、①木製品、②土製品、③銅製品、④石製品について報告する。また土器類に付属する資料としての、漆紙文書、墨書き器、ヘラ文字、油焼付土器を取り上げる。

2. 木製品

木製品は西側調査地区溝S D60と東側調査地区凹地S X06から主に出土したものである。これらの木製品を、木簡・祭祀用品・服飾具・容器・雜具・棒状品・用途不明品・部材に大分類した。図面137~161に8001~8206の206点図示した。また別表7に「東木津遺跡、木製品觀察表」としてまとめた。この内、曲物8160は占墳時代、挽物椀8100は中世乃至これ以降のものである。これ以外は奈良平安時代のものである。

木簡

木簡としたものは、墨で文字が書かれている短冊形乃至付札状等の木の札（木簡）、及び文字は確認できないが付札状等の形態になる木の札（木簡形）である。

木簡 図面137~8001~8007、図面138~8008~8011。木簡は11点である。形態的には短冊形や付札状のものが見られるが、断片で全体の形態が不明なものもある。出土位置は、8003、8004が東側調査地区凹地S X06から出土している以外、他の9点は西側調査地区溝S D60からの出土である。

木簡8001 短冊状の木簡である。全長250mm、幅34mm、厚さ6mmを計る。

[七ヶ]

「はルマ止左くや古乃は□」

右側面は欠失している可能性がある。ひらがな、カタカナ、漢字で記している。墨痕が薄く文字の一部は不鮮明である。「難波津の歌」の下の句である。西側調査地区溝S D60の第1層より出土している。

木簡8002 木簡の断片である。残存長95mm、幅24mm、厚さ7mmを計る。



両端が欠損しており、木簡の原型は不明である。墨痕が薄く文字の判読ができない。

木簡8003 下部と右側面が削られている木簡である。残存長164mm、幅20mm、厚さ3mmを計る。

・ 「十万呂□□□□□□□」

[周ヶ]

・ 「□□□□□□□ 風門」

十万呂は人名と思われる。裏側は文字の半分が削れているため文字の判読ができない。

木簡8004 短冊形の木簡である。全長154mm、幅21mm、厚さ5mmを計る。

・ 「氣多大神宮寺涅槃淨土幣米入使」

・ 「□曆二年九月廿三枚入布師三□」

「氣多大神宮寺」は能登国氣多神社（氣多大社）に付属する寺名の可能性があり、「日本文徳天皇実錄」に見える齊衡二年（855年）の記事が初見である。「米」の上の字は「幣」乃至「弊」となる。「幣」は紙の異体字もしくは紙布である。「□曆二年」は年号と考えられるが文字が不鮮明で明確にできない。「布師三□」は文面から人名と思われ、布師郷との関連が考えられる。「三」の次の文字は門構えの文字である以外は判読できなかった。文意は「氣多大神宮寺」に「涅槃淨土」への往生を祈願するため、紙（布）米、あるいは弊米を納めることを記したものと思われる。東側調査地区凹地S X06の第2層より出土している。

木簡8005 付札状の木簡である。全長142mm、幅13mm、厚さ6mmを計る。

〔石一斗ヶ〕

「<□□一□□□」

左右から切り込みを入れている。上端を圭頭状に、下端を劍先状に尖らせている。末端は僅かに欠損している。墨痕が薄く一部の文字しか判読できない。

木簡8006 付札状の木簡である。全長122mm、幅12mm、厚さ5.5mmを計る。

「<一月 □□ □」

左右から切り込みを入れている。上端を圭頭状に、下端を劍先状に尖らせている。「十月」と書いた後「一」と書き加えた可能性がある。下半部は墨痕が薄い。

木簡8007 付札状の木簡である。残存長109mm、幅12mm、厚さ6mmを計る。

〔稻ヶ〕

「<白□」

左右から切り込みを入れている。上端を圭頭状に尖らせている。下方は欠損している。「白稻」であれば稻の品種名の可能性が高い。

木簡8008 付札状の木簡である。全長128mm、幅16mm、厚さ3mmを計る。

「<□子四斗」

左右から切り込みを入れている。上端を圭頭状に、下端を劍先状に尖らせている。上端の一部が欠損している。「□子」は稻初の品種名等を表す可能性がある。その荷に付けられた荷札木簡と思われる。

木簡8009 付札状？の木簡である。残存長122mm、幅20mm、厚さ7mmを計る。

〔方ヶ〕

「<方□」

左右から切り込みを入れている。上端はやや圭頭状となり、下方は窄まる。下端部を切り折っている。墨痕が薄く文字が判読できない。

木簡8010 付札状？の木簡である。残存長70mm、幅12mm、厚さ5mmを計る。

「□萬」

下端を圭頭状に尖らせている。上方は欠損している。「萬」の上の文字は、不偏（のぎへん）の文字である。文字の右半分が割れて失われている。

木簡8011 付札状の木簡である。残存長92mm、幅17mm、厚さ4.5mmを計る。

・ 「□□□」

・ 「□□□ □」

下端を劍先状に尖らせている。上方と末端は欠損している。木簡表面を削っており再利用されているもの

である。墨痕が残っているだけで文字は判読できない。

木簡形 図面138-8012-8015、図面139-8016-8023。木簡形の木製品12点である。8012-8021は左右から切り込みを入れている。上端は生頭形（8013・8016-8018）、略生頭形（8012・8014・8015・8021）、方頭形（8019・8020）の3つの形態となる。下端は丸頭形になるもの（8012-8014・8016）と略丸頭状になるもの（8015）が見られる。8022-8023は圭頭形になる端部を持つ。上方が欠損している。斎串とするには異質であり、付札状の木簡に類するものと考えた。

祭祀用品

人形・斎串・刀形・琴形である。

人形 図面140-8024-8033。正面像の人形10点である。8024・8025は全体の形態が略判明する。8026・8027は脚部が欠損している。8028-8033は頭部のみの破片である。頭頂部は丸頭状に、肩部を撫で肩に整えている。手の表現は下方からの切り込みでなされている。脚部はコ字状に切り欠きを入れて形成されている。8026・8027には頭部に3箇所の刺突痕が付いている。8028には鳥帽子・目・鼻・口・額縁を表現した墨痕が残る。

斎串 図面141-8034-8047、図面142-8048-8058、図面143-8059-8075、図面144-8076-8086。全体の形態が判明するもの及び類推が可能なものは、次のように分類できる。A類：両端が丸頭状になるもの、8034・8035。B類：上端が丸頭状に下端が剣先状になるもの、8040-8059。C類：大型で特殊なもの、8086。全体の形態が不明な破片は次の通りである。a類：下端が丸頭状になるもの、8036-8039。b類：上端が丸頭状になるもの、8060-8070。c類：下端が剣先状になるもの、8071-8085。C類とした8086を例外とすれば、上端を確認できるものはすべて丸頭状であり、a類はA類に含まれることになる。また同様に、b類はA・B類のいずれかに含まれることになり、c類はB類に含まれることになる。切り込み方は、A類とした8034・8035は上端近くの側面より入れている。B類とした8040-8059は上端木口及び上端近くの側面付近より2回以上入れているものが多い。上端のみ残存しているものも同様である。A・B類の規模は、8048が全長30.5cmを計り大型品である以外、全長16.0cm以下を計るものである。C類は幅6.4cmの大型の斎串である。上端は丸頭になる。両側縁に各2箇所の切り欠きがある。三角形の深いものである。

刀形 図面145-8087・8088。8087は剣形の刃先である。棒状の板目材を削り刃部を表現している。8088は刃部の基部と柄である。刃部の先は欠損している。

琴形 図面145-8089。小型の琴形である。細長い板材を使用している。一方に弦孔が3箇所付く。一方には切り欠き（櫛形）が2箇所付き、そこから2本の沈線が延びる。弦を表現したものと思われる。

服飾具

檜扇・横櫛・針・下駄である。

檜扇 図面146-8090・8091。檜扇の薄板である。8091の下端には要の孔と思われる円孔が付く。

横櫛 図面146-8092-8095。横櫛の破片である。いずれも断面形はV字形である。8092は背が水平になり肩が丸くなるものである。8094は背が水平になり肩が角張るものである。

針 図面146-8096・8097。木針である。

下駄 図面145-8098、図面146-8099。台と壺を一本から作る連体下駄である。8098は前壺が右側にあり左足用である。8099は前壺が左側にあり右足用である。共に同じ大きさで左右対になると思われる。

容器

挽物・蓋・曲物である。

漆物 図面147-8101~8103、図面148-8104~8106、図面149-8107~8110、図面150-8111~8113。図面151-8100。漆塗りの椀8100と白木の盤・蓋8101~8113である。8100は全体的に黒漆が塗られている。溝S D85からの出土である。遺物の形態及び遺構の時期より中世乃至これ以降のものである。8101~8110は無高台の皿形である。ただし8108は底部中央が下方へやや突出した形態となっている。8111・8112は高台付の皿形である。8113は蓋としたものである。天井部が丸くなり、口端部は下方へやや折れ曲がる。

蓋 図面151-8114~8122。円形の板材である。側面に木釘が付かないことから容器の蓋とした。

曲物 図面152-8123~8131、図面153-8132~8143、図面154-8144~8159、図面155-8160。曲物の底蓋板である。8160は大型曲物の底板である。長辺の両端部が突起状に張り出し、一方には小孔が2箇所付く。底板の周囲には6箇所の小孔が付き一部に側板と底板をつなぐ縦じ紐が残る。

雑具

火鐵棒・火鐵棒・刷毛状具・楔・刻み目（刻み目のある木製品）・範状具である。

火鐵棒 図面156-8161・8162。棒状の材の一面に綫に溝を掘り、溝に接する箇所に窪み（臼部）を作る。

火鐵棒 図面156-8163・8164。材の側面を面取りし丸い棒状に仕上げるものである。上部は欠損し下端部は丸く焦げ目が付く。

刷毛状具 図面156-8165~8166。細長い板材の先端を平たく削り刷毛状に仕上げる。側面は面取りする。8165には先端に漆の付着した痕跡が見られる。

楔 図面157-8167~8170。板材の木口を斧状に削るものである。

刻み目 図面157-8171~8173。薄い棒の片面に鋸齒状に刻みを付けるものである。祭祀具にあるササラ状の木製品とする説もある。

範状具 図面157-8174。細長い板材の先端を平たく削り、端部は丸く角をおとす。側面は面取りする。

棒状品

棒状品である。この内小型で細いものを箸（箸状品）とした。

棒状品 図面158-8175~8180。端部や側面に加工痕の付く棒状の木製品である。

箸 図面159-8181~8193。8181は完存しており他は断片である。細い棒状の材の側面や端部を削るものである。断面形は多角形で、先端を丸く面取りしているものもある。

用途不明品

図面160-8194~8200、図面161-8201。

8194は鐵形の可能性がある。8200と8201は、紡織具の糸巻きの横木になる可能性がある。8200は相欠き仕口と軸孔の一部が残存している。8201も相欠き仕口と軸孔の一部が残存している。枝部の片側が残存しており、復元した長さは約137.9cmで充めて大型となる。枝部が片方残存しており、小孔が5個穿たれている。

部材

図面161-8202~8206。

柄や柄穴状のもの、相欠き状のものが見られるので部材とした。

3. 土製品

円面鏡 図面912-9101~9104。須恵質の陶鏡4点である。9101は唯一全体の形態が判明するものである。

硯面が凸面になる。陸部と海部の間に境がなく、外上方へ短く延びる外堤が廻る。脚体部には宝珠形の透し孔とヘラ状具により書かれた篆書「木」がそれぞれ交互に4箇所付く。東側調査地区凹地S X06からの出土である。9102は脚部片で、末端部は確認できない。脚体部には沈線による文様が付く。西側調査地区溝S D 60第2層からの出土である。9103は脚部片で、沈線が付き透し孔が確認できる。西側調査地区溝S D 60第2層からの出土である。9104は脚部片で、脚口縁部から内面側に段が付き硯面へ移行すると推定される。脚体部には極めて細い竹管状の連続した文様が付き、透し孔が確認できる。西側調査地区溝S D 60第2層からの出土である。

瓦塔 図面162-9105・9106。瓦塔の一部と考えた破片である。9105は須恵質で青灰色を呈する。焼成は良好である。断面長方形の細長い角棒状を呈する。側面全体を丁寧にナデている。両端部は欠損している。高欄の一部と思われるが、小破片のため束柱か横木かは不明である。西側調査地区溝S D 60第3層からの出土である。9106は瓦質で暗褐色を呈する。9105と比べると焼成は良くない。屋蓋部の一部と思われる。西側調査地区表土からの出土である。

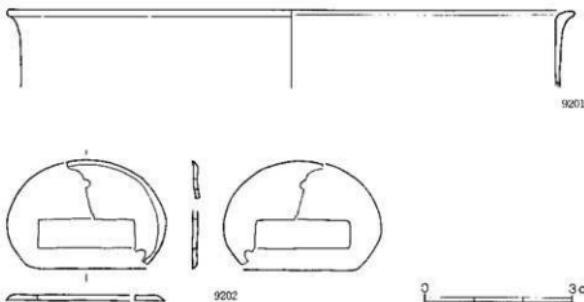
土鍤 図面162-9107~9115。土鍤質の柱状の土鍤である。出土位置は、9108が西側調査地区溝S D 60第2層から出土しており、9107・9109~9115が各調査地区表土からの出土である。

4. 銅製品

銅鏡 第34図-9201。小片であるが銅鏡と考えた。端部が若干屈曲しており、口端部と思われる。西側調査地区溝S D 60からの出土である。

鈎帶金具 第34図-9202。銅鈎丸輪の裏金具である。間に小孔が2箇所確認できる。全体に腐食が進んでおり、全体の内半分を残す。西側調査地区溝S D 60からの出土である。

銅錢 図版082-9203~9210。銅錢が8枚出土している。日本古代銭貨；いわゆる皇朝十二銭（本朝十二銭）が3点出土している。和同開珎（708年発行）、萬年通寶（760年発行）、神功開寶（765年発行）が各1点で、9203~9205である。すべて西側調査地区溝S D 60からの出土である。中国の銭貨；北宋銭が3点出土している。元祐通宝（北宋、元祐元年、1086）、元符通宝（北宋、元符元年、1098）、大觀通宝（北宋、



第34図 東木津遺跡、

銅製品実測図（実大）

9201：銅鏡

9202：銅鈎丸輪

大觀元年、1107) が各 1 点で、9206~9208 である。すべて西側調査地区表土からの出土である。近世の錢貨；9209 の寛永通宝である。東側調査地区田地 S X 06 第 2 層からの出土である。不明の錢貨；9210 で銭名不明である。東側調査地区表土からの出土である。

5. 石製品

効鍊車形石製品 図面163~9301。砂質泥岩製である。全体的に摩滅しており少し緑を含んだ白色を呈する。表面は 4 つの段が付き裏面は若干凹んでいる。中央に小孔が両方より穿孔されている。中央調査地区表土からの出土である。

管玉 図面163~9302。砂質泥岩の管玉未製品である。側面は断面 6 角形となり、粗く整形されている。両端部は磨いてある。穿孔はされていない。東側調査地区田地 S X 06 からの出土である。

細形棒状品 図面163~9303。滑石製の細い棒状品である。褐色を呈し全体を平滑に磨く。断面形は梢円形で両端部は丸く仕上げる。縄文時代後期から晩期にかけて見られるものである。西側調査地区表土からの出土である。

砥石 図面163~9304~9305、図面164~9306~9311 の 8 点である。それぞれの内容は、次の通りである。9304：砂岩製、西側調査地区溝 S D 60 第 2 層出土。9305：砂質凝灰岩製、西側調査地区表土出土。9306：細粒砂岩製、西側調査地区溝 S D 73 出土。9307：硬質泥岩製、西側調査地区溝 S D 60 第 2 層出土。9308：細粒砂岩製、西側調査地区表土出土。9309：硬質泥岩製、中央調査地区表土出土。9310：泥質凝灰岩、西側調査地区表土出土。9011：凝灰岩質砂岩製、中央調査地区表土出土。

6. 土器類付属資料

漆紙文書 漆紙文書は図面084~5036、図面091~5229 の須恵器である。漆の付着した土器を赤外線像で精査して、内面に文書が付着していることを確認したものである。いずれも文字が反転しており裏面を表に向かた状態である。杯 A に反古紙を敷きその上で漆をおいて使用した結果遺存したものである。5036 は、II 壁部内面に当たる部分に複数の文字を確認した。判読できたのは「大」一文字のみである。またこの文字の脇には縦線が見え、算綴と思われる。5229 は、体部内面に複数の文字を確認したが、判読はできない。

墨書き土器 記号を含むところの墨書き土器については第 4・5 表にまとめた。土師器櫛、須恵器の杯・杯蓋に書かれている。102 点に見られるが、1 つの土器に複数書かれているものもある。内容による内訳は、文字 38 点、記号 57 点、不明 7 点となる。記号としたもので草冠状の「++」はカタカナの「キ」と一応統一した。また漢字の「」のようなものは「×」に、カタカナの「」のようなものはイコール「=」に、ひらがなのにようなものは「|=」で取りまとめた。記号はキが 53 点、× が 1 点、= が 1 点、|= が 2 点となる。

ヘラ文字 ヘラ状具により文字や記号を記したものは 78 点確認した。内訳は、文字が 3 点、文様状のものが 1 点、記号状のものが 74 点である。文字では、5221 が一部分のため不明の文字、5637 が出、5917 が布芯繩である。4095 は花弁状の暗文である。記号状のものは、× が 36 点、= が 9 点、一 が 28 点、* が 1 点である。

油煙付土器 油煙の付着した土器がある。これについては代表的なものを図面135・136 で 12 点示した。

番号	図面番号	出土遺構	文 字	種類	器種	口径	器高	記載箇所	備考
001	図面076-4005	S D60	竹原	土師器	椀 a	12.6	4.2	体部外面・側位	
002	図面076-4014	S D60	田中	土師器	椀 a	11.9	4.2	体部外面・正位	
003	図面077-4046	S D60	牛	土師器	碗 a	11.4	3.5	底部外面	
004	図面081-4146	S D60	キ／□	土師器	皿 A	—	—	口縁部・底部外面	墨書き2箇所
005	図面083-5001	S D60	牛	須恵器	杯 A	15.1	3.2	底部外面	
006	図面083-5003	S D60	小□	須恵器	杯 A	14.0	3.3	底部外面	
007	図面083-5012	S D60	乾木	須恵器	杯 A	12.8	3.7	底部外面	
008	図面085-5071	S D60	牛	須恵器	杯 A	12.2	3.2	体部外面	
009	図面085-5072	S D60	牛	須恵器	杯 A	12.2	2.9	体部外面	
010	図面086-5073	S D60	□	須恵器	杯 A	12.2	3.2	底部外面	
011	図面088-5155	S D60	牛	須恵器	杯 A	11.9	3.4	底部外面	
012	図面088-5156	S D60	家万昌	須恵器	杯 A	11.9	3.4	体部外面・横位	
013	図面089-5180	S D60	牛	須恵器	杯 A	11.8	3.3	体部外面	油煙付着
014	図面089-5181	S D60	牛	須恵器	杯 A	11.8	3.4	体部外面	油煙付着
015	図面090-5217	S D60	牛	須恵器	杯 A	11.7	3.2	底部外面	油煙付着
016	図面090-5218	S D60	牛	須恵器	杯 A	11.7	3.1	体部外面	
017	図面090-5219	S D60	牛	須恵器	杯 A	11.7	3.0	体部外面	
018	図面090-5220	S D60	静	須恵器	杯 A	11.7	3.4	底部外面	
019	図面092-5257	S D60	節	須恵器	杯 A	11.6	2.9	底部外面	
020	図面092-5258	S D60	牛	須恵器	杯 A	11.6	3.2	底部外面	油煙付着
021	図面092-5259	S D60	牛	須恵器	杯 A	11.6	3.3	底部外面	油煙付着
022	図面093-5300	S D60	牛	須恵器	杯 A	11.5	3.3	体部外面	
023	図面093-5301	S D60	牛	須恵器	杯 A	11.5	3.1	体部外面	油煙付着
024	図面094-5322	S D60	牛	須恵器	杯 A	11.4	3.3	体部外面	
025	図面094-5323	S D60	牛	須恵器	杯 A	11.4	3.1	体部外面	
026	図面094-5324	S D60	牛	須恵器	杯 A	11.4	3.2	体部外面	
027	図面094-5325	S D60	牛	須恵器	杯 A	11.4	2.9	体部外面	
028	図面094-5326	S D60	牛	須恵器	杯 A	11.4	3.1	体部外面	
029	図面094-5327	S D60	牛	須恵器	杯 A	11.4	3.3	底部外面	油煙付着
030	図面095-5366	S D60	□合	須恵器	杯 A	11.3	3.1	底部外面	
031	図面095-5367	S D60	二	須恵器	杯 A	11.3	3.7	体部外面	
032	図面096-5388	S D60	庄	須恵器	杯 A	11.2	3.3	底部外面	
033	図面096-5389	S D60	井	須恵器	杯 A	11.2	3.1	体部外面	
034	図面097-5421	S D60	キ	須恵器	杯 A	11.1	3.1	体部外面	
035	図面097-5422	S D60	キ	須恵器	杯 A	11.1	3.3	体部外面	
036	図面098-5442	S D60	南	須恵器	杯 A	11.0	3.3	底部外面	
037	図面099-5490	S D60	明家	須恵器	杯 A	—	—	底部外面	
038	図面100-5491	S D60	南	須恵器	杯 A	—	—	底部外面	
039	図面100-5492	S D60	南	須恵器	杯 A	—	—	底部外面	
040	図面100-5493	S D60	中	須恵器	杯 A	—	—	底部外面	
041	図面100-5505	S D60	寺万昌	須恵器	杯 B	14.2	6.4	底部外面	
042	図面101-5510	S D60	大	須恵器	杯 B	12.7	6.6	体部外面・正位	
043	図面101-5520	S D60	達	須恵器	杯 B	11.7	3.5	体部外面・横位	
044	図面102-5531	S D60	成賀	須恵器	杯 B	11.3	4.6	底部外面	
045	図面102-5545	S D60	牛	須恵器	杯 B	11.1	4.4	体部外面	
046	図面103-5555	S D60	平／□	須恵器	杯 B	11.0	4.4	底部・体部外面	ヘラ記号付 墨書き2箇所
047	図面103-5563	S D60	牛	須恵器	杯 B	10.9	4.0	体部外面	
048	図面104-5573	S D60	牛？	須恵器	杯 B	10.8	4.8	体部外面	
049	図面104-5579	S D60	牛？	須恵器	杯 B	10.7	4.5	体部外面	
050	図面104-5587	S D60	醇	須恵器	杯 B	10.7	3.9	底部外面	
051	図面104-5588	S D60	牛	須恵器	杯 B	10.7	4.0	体部外面	

第4表 東木津遺跡、墨書き土器一覧表〔1〕

番号	図面番号	出土遺構	文 字	種類	器種	口径	器高	記載箇所	備考
052	図面104-5592	S D60	川相	須恵器	杯B	10.6	4.4	武部外面	
053	図面105-5593	S D60	ヰ	須恵器	杯B	10.6	4.2	底部外面	
054	図面105-5594	S D60	×	須恵器	杯B	10.6	4.0	底部外面	
055	図面105-5595	S D60	ヰ	須恵器	杯B	10.6	4.2	底部外面	
056	図面105-5596	S D60	ヰ	須恵器	杯B	10.6	4.3	体部外面	
057	図面105-5596	S D60	ヰ	須恵器	杯B	10.6	4.7	体部外面	
058	図面106-5616	S D60	ヰ	須恵器	杯B	10.3	4.2	体部外面	
059	図面106-5622	S D60	ヰ	須恵器	杯B	10.2	4.3	体部外面	
060	図面106-5629	S D60	傳遞	須恵器	杯B	10.1	3.9	底部外面	
061	図面107-5638	S D60	達万呂	須恵器	杯B	-	-	底部外面	
062	図面107-5643	S D60	ヰ	須恵器	杯類	12.0	-	体部外面	
063	図面107-5644	S D60	ヰ	須恵器	杯類	11.8	-	体部外面	
064	図面107-5645	S D60	ヰ	須恵器	杯類	11.4	-	体部外面	
065	図面107-5646	S D60	ヰ	須恵器	杯類	11.4	-	体部外面	
066	図面107-5647	S D60	ヰ	須恵器	杯類	11.5	-	体部外面	
067	図面107-5648	S D60	ヰ	須恵器	杯類	11.3	-	体部外面	
068	図面107-5649	S D60	ヰ	須恵器	杯A	-	-	体部外面	
069	図面108-5661	S D60	安	須恵器	杯蓋	16.9	3.9	内面	
070	図面109-5678	S D60	ヰ?	須恵器	杯蓋	15.6	3.5	内面	
071	図面109-5679	S D60	達万呂	須恵器	杯蓋	15.6	3.9	天井部外面	
072	図面110-5691	S D60	達万呂	須恵器	杯蓋	13.9	1.65	内面	
073	図面111-5720	S D60	ヰ	須恵器	杯蓋	12.7	3.1	口縁部外面	
074	図面112-5747	S D60	=	須恵器	杯蓋	12.3	3.2	口縁部外面	
075	図面113-5767	S D60	舒	須恵器	杯蓋	12.1	2.7	天井部外面	
076	図面113-5770	S D60	□口/口△/□	須恵器	杯蓋	12.1	3.5	天井部外面	
077	図面113-5771	S D60	ヰ	須恵器	杯蓋	12.1	2.5	口縁部外面	
078	図面113-5772	S D60	ヰ	須恵器	杯蓋	12.1	2.1	内面	
079	図面113-5775	S D60	寺万呂	須恵器	杯蓋	12.0	3.2	天井部外面	
080	図面114-5785	S D60	傳遞	須恵器	杯蓋	11.9	2.9	内面	
081	図面114-5789	S D60	ヰ	須恵器	杯蓋	11.9	2.2	内面	
082	図面114-5797	S D60	ヰ	須恵器	杯蓋	11.8	2.8	外面	
083	図面115-5813	S D60	ヰ	須恵器	杯蓋	11.7	2.9	内面	
084	図面115-5814	S D60	ヰ・□	須恵器	杯蓋	11.7	3.2	口縁部外面	油煙付着
085	図面115-5815	S D60	達	須恵器	杯蓋	11.7	3.3	天井部外面	
086	図面115-5819	S D60	石見	須恵器	杯蓋	11.6	3.1	内面	
087	図面115-5820	S D60	宅	須恵器	杯蓋	11.6	2.9	天井部外面	
088	図面116-5822	S D60	ヰ/ヰ	須恵器	杯蓋	11.6	2.7	口縁部外面・内面	墨書2箇所
089	図面116-5840	S D60	ヰ/ヰ	須恵器	杯蓋	11.4	2.9	口縁部外面・内面	墨書2箇所
090	図面116-5841	S D60	比ノ/□	須恵器	杯蓋	11.4	3.1	外面	墨書2箇所
091	図面117-5853	S D60	達万呂	須恵器	杯蓋	11.3	3.6	口縁部内面	
092	図面117-5867	S D60	ヰ	須恵器	杯蓋	11.0	2.8	口縁部内面	
093	図面118-5894	S D60	=	須恵器	杯蓋	12.4	-	天井部外面	
094	図面118-5897	S D60	□	須恵器	杯蓋	11.8	-	天井部外面	
095	図面118-5900	S D60	平?	須恵器	杯蓋	-	-	外面	
096	図面124-5667	S D84	ヰ	須恵器	杯A	-	-	底部外面	
097	図面128-7007	S X06	□/□	土師器	碗a	10.8	4.1	体部外面	墨書2箇所
098	図面130-7031	S X06	八	須恵器	杯A	12.5	3.7	体部外面・倒位	
099	図面130-7040	S X06	傳遞	須恵器	杯A	12.0	3.6	底部外面	ヘラ記付
100	図面131-7073	S X06	□	須恵器	杯B	10.4	4.4	底部外面	
101	図面131-7075	S X06	傳遞	須恵器	杯B	-	-	底部外面	
102	図面132-7078	S X06	□	須恵器	杯蓋	18.4	3.3	内面	

第5表 東木津遺跡、墨書き器一覧表〔2〕

第5節 種 実

株式会社 古環境研究所

1. 概要

はじめに

植物の種子や果実には比較的強靭なものが多く、堆積物中に残存している場合がある。堆積物から種実を検出し、その群集の構成や組成を調べることで、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし、古環境の推定を行うことが可能である。

試料

試料は、西側調査地区＝掘立柱建物址 S B 11、溝 S D 60・71～73・75、ピット S P 01・02、中央調査地区＝掘立柱建物址 S B 16、東側調査地区＝凹地 S X 06 の合計 10 個の遺構より採取され、水洗選別された種実類である。

方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

2. 分類群

樹木 19、草本 14 の計 33 が同定された。学名、和名および粒数を第 6・7 表に、モモ核の計測値（長さ、幅、厚さ）を第 8 表に示した。主要な分類群を図版 084・085 として写真で示した。

以下に同定の根拠となる形態的特徴を記す。

樹木

カヤ *Torreya nucifera* Sieb. et Zucc. 種子 イチイ科

茶褐色で長卵形を呈す。表面には縱方向の隆起が走る。断面は円形である。

イヌガヤ *Cephalotaxus barringtonia* K. Koch 種子 イヌガヤ科

茶褐色で長楕円形を呈す。表面には顆粒状の隆起がある。断面は両凸レンズ形である。

オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. 核 クルミ科

茶褐色で円形～楕円形を呈し、一端がとがる。側面には縦に走る一本の縫合線がめぐる。表面全体に不規則な隆起がある。断面は円形である。

ハンノキ属 *Alnus* 果苞・種子 カバノキ科

種子は広卵形や卵形、倒卵形を呈し、扁平である。暗褐色で平滑となる。

果苞は暗褐色でくさび形～さじ形を呈する。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 堅果 ブナ科

堅果は三角状扁円形を呈す。一側面は凹みがあり、反対面は平らな形が多い。

コナラ属 *Quercus* 堅果 ブナ科

黒褐色で楕円形を呈し、一端につき部がある。表面は平滑である。この分類群は破片であったため、属レベルの同定にとどまる。

コブシ *Magnolia kobus* DC. 種子 モクレン科

種子は黒褐色で広卵形を呈す。断面は腎形。下端にへそがある。種皮は薄く堅い。

ナシ属 *Pyrus* 種子 バラ科

黒褐色で円形を呈し、一端が突出している。

モモ *Prunus persica* Batsch 果 バラ科

黄褐色～黒褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。

スモモ *Prunus salicina* Lindley 果 バラ科

淡褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が走る。表面には不明瞭で微細な凸凹がある。断面は扁平である。

サンショウ *Zanthoxylum piperitum* DC. 種子 ミカン科

黒色で楕円形を呈し、側面に短いへソがある。表面は網目模様である。

ウルシ属 *Rhus* 種子 ウルシ科

茶褐色で楕円形を呈す。断面は扁平である。

トチノキ *Aesculus turbinata* Blume 種子 トチノキ科

黒色と茶褐色の部分とに分かれ、黒色の部分に光沢がある。

ブドウ属 *Vitis* 種子 ブドウ科

黒褐色で倒卵形を呈す。腹面に「ハ」字状の孔が2つあり、背面には楕円形のカラザがある。

ツバキ属 *Camellia* L. 種子 ツバキ科

種子は黒色で三角状楕円形を呈し、一端に点状のへソがある。暗褐色で表面は平滑である。

ミズキ *Cornus controversa* Hemsley 果 ミズキ科

黒褐色で横長の楕円形を呈す。表面には縱方向に深い筋が走る。

ハクウンボク *Styrax obassia* Sieb. et Zucc. 果 エゴノキ科

黒褐色で楕円形を呈し、下端にへソがある。表面に3本の浅い溝と、低い稜がある。

カキノキ属 *Diospyros* L. 種子 カキノキ科

長楕円形～楕円形を呈する。扁平である。

ガマズミ属 *Viburnum* 果 スイカズラ科

茶褐色で楕円形を呈す。腹面に1本と背面に2本の溝が走り、下端に小さなへソがある。

草本

イネ *Oryza sativa* L. 穂 イネ科

穂は黒色で扁平楕円形を呈し、下端に枝梗が残る。表面には微細な顆粒状の突起がある。

イネ科 *Gramineae* 果実

果実は楕円形を呈す。胚の部分はとれていてくぼんでいる。

カナムグラ *Humulus scandens* Merrill 種子 クワ科

黒色で円形を呈し、断面は両凸レンズ状である。側面には心形を呈するへソがある。

コウホネ *Nuphar japonicum* DC. 種子 スイレン科

種子は倒卵形を呈し、表面は平滑。種子の一側にへソから先端までのびる線条がある。

ツヅラフジ属 *Cocculus orbiculatus* DC. 種子 ツヅラフジ科

種子は馬蹄形を呈する。中心部に腎臓状の縁のある深い凹みがある。

ササゲ属 *Vigna* 種子 マメ科

黒色で橢円形を呈す。へそは縱に細長い。

ササゲ属にはリョクトウ、アズキ、ササゲなどの栽培植物が含まれるが、現状の研究では識別は困難である。

ツリフネソウ属 *Impatiens textori* Miq. 種子 ツリフネソウ科

黒褐色でやや光沢がある。倒卵形を呈し、一端にやや突出したへそがある。表面には隆起が不規則に走る。

ナス科 Solanaceae 種子

黄褐色で円形を呈す。表面にはやや大きい網目模様がある。

ゴキヅル *Actinostemma lobatum* Maxim. 種子 ウリ科

黄褐色で卵形を呈し、断面は扁平である。表面は粗い。破片の状態であった。

トウガン *Benincasa cerifera* 種子 ウリ科

倒卵形を呈し、扁平。周辺部の縁は平行に一段高くなる。

キカラスウリ *Trichosanthus kirilowii* Maxim. var. *japonica* Kitam. 種子 ウリ科

淡褐色で扁平橢円形を呈す。中央部がやや膨らみ、周辺はざらつく。

ヒヨウタン類 *Lagenaria siceraria* Standl. 種子 ウリ科

淡褐色で橢円形を呈す。上端にはへそと発芽孔があり、下端は波うつ切形を呈す。表面には縦に2本の低い稜が走る。

藤下（1992）がヒヨウタン仲間とするものには、ヒヨウタン・フクベ・カンビヨウが含まれ、このうちフクベ・カンビヨウは食用になる。

ウリ類 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

淡褐色～黄褐色である。橢円形を呈し、一端には「ハ」字状のへこみがある。

藤下（1992）による長さ8.1mm以上の大粒種子（モモルディカ型）にあたる。

オナモミ *Xanthium strumarium* L. 果実 キク科

黒褐色で長楕円形を呈し、先端は2本の突起が伸びる。表面にかぎ状の突起が全体に分布する。

3. 種実群集の特徴

西側調査地区

掘立柱建物址S B11；モモ、イネが同定された。

溝SD60；モモ、ウリ類が非常に多い。他に、オニグルミ、ヒヨウタン類、ハクウンボクが多く同定された。

溝SD71；ハクウンボク、モモ、オニグルミ、カナムグラが同定された。

溝SD72；モモ、オニグルミ、ウリ類が同定された。

溝SD73；モモ、ウリ類が同定された。

ピットSP01；モモが同定された。

ピットSP02；オニグルミが同定された。

中央調査地区

掘立柱建物址SB16；モモが同定された。

東側調査地区

凹地SX06；ヒョウタン類、モモ、オニグルミ、カヤ、スマモ、ナス科がやや多い。

4. 考察

同定の結果、東木津遺跡の種実類は、栽培植物乃至食用となる植物が大部分を占めるという特徴をもつ。また、これら種実には1.0~1.5mm以下の種実が欠落しており、大型のものの群集である。雑草類はほとんど同定されなかったが、そのほとんどが1.0~1.5mm以下の種実であり、採取されなかつたとみられる。溝SD60では種実数が非常に多く、遺構周辺で生育していたりまたは利用された後、投棄された遺体と考えられる。

これらの種実類は、栽培植物、食用または利用された有用植物、周囲に生育する植物の3つに大きく分けられる。

1. 栽培植物

明らかな栽培植物として、モモ、スマモ、ナシ属の樹木、ウリ類、ヒョウタン類、トウガン、ササゲ属、イネの草本があげられる。周辺で栽培されたり、近隣からもたらされたものが、食用後に投棄されたと考えられる。

2. 有用植物

自然に生育するが食用になることから、採取し利用されたと考えられるものとして、カヤ、イスガヤ、オニグルミ、クリ、サンショウ、ブドウ属、トチノキ、ガマズミ属があげられる。これらの多くは人為環境に近い林縁周辺に分布する樹木である。

3. 周囲に生育していたとみられる植物

カナムグラ、ゴキヅル、キカラスウリ、オナモミなどの草本は、陽当たりのよい乾燥地を好む人里植物や耕地雜草であり、溝SD60周辺に畠や居住城のやや乾燥した開地の人為環境が分布していたと考えられる。ミズキやハクウンボク、ハンノキ属は水際や水路沿いなどに生育する樹木であり、溝SD60沿いに生育していたと推定される。コウホネは水深0.5~1.0m程度の水域に生育する浮葉植物であるため、溝SD60は0.5~1.0m程度の水深の箇所があり、滞水していたとみなされる。

5. まとめ

東木津遺跡の出土種実類を同定した結果、モモ、スマモ、ナシ属、ウリ類、ヒョウタン類、トウガン、ササゲ属、イネなどの栽培植物が多く、次いでカヤ、イスガヤ、オニグルミ、クリ、サンショウ、ブドウ属、トチノキ、ガマズミ属などの食用となる有用植物が多かった。他にカナムグラ、ゴキヅル、キカラスウリ、オナモミ、ハクウンボク、ハンノキ属など人為環境乃至水路際に生育する植物が同定された。

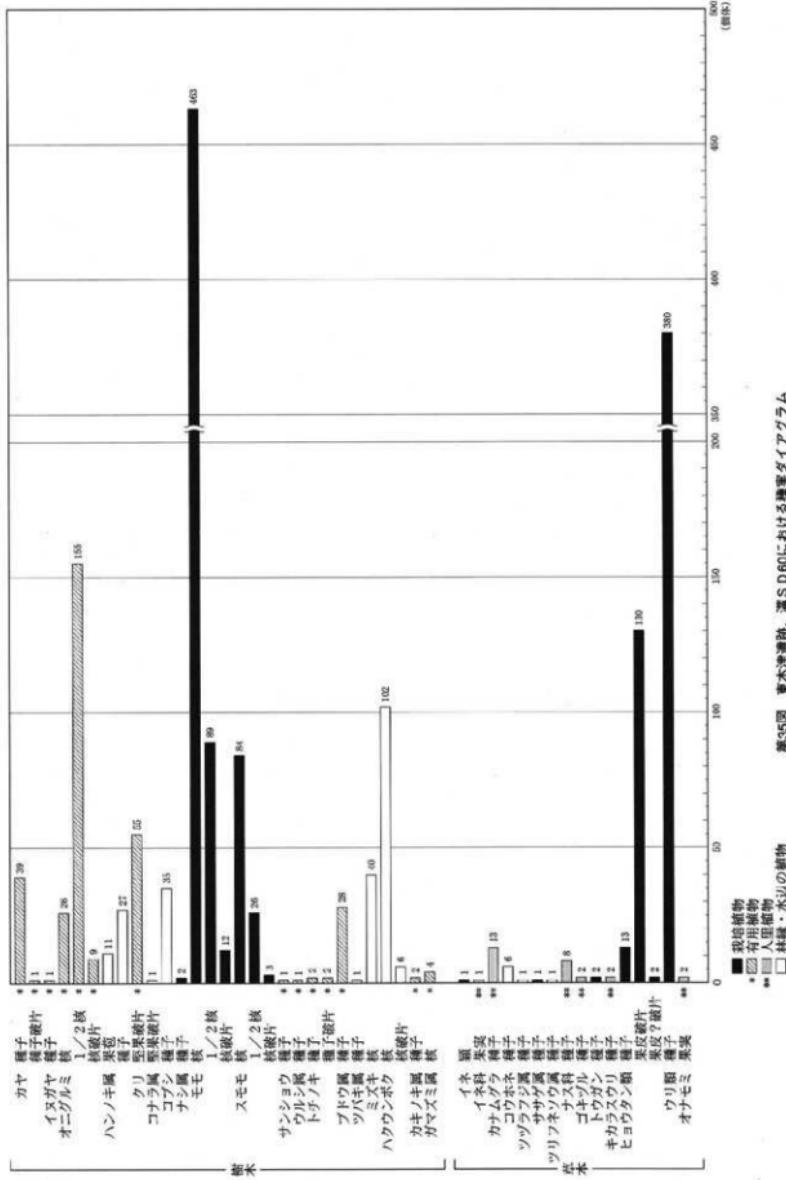


図35 樹木沖満地、灌木S D60における種類ダイアグラム

■栽培植物
▲有用植物
■人里植物
□林縁・木山の植物

番 号	分類群		
	学名	和名	部位
樹木		樹木	
01	<i>Torreya nucifera</i> Sieb. et Zucc.	カヤ	種子
02			種子破片
03	<i>Cephalotaxus harringtonia</i> K.Koch	イスガヤ	種子
04	<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.	オニグルミ	核
05			1/2核
06			核破片
07	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	果苞
08			種子
09	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ	堅果破片
10	<i>Quercus</i>	コナラ属	堅果破片
11	<i>Magnolia kobus</i> DC.	コブシ	種子
12	<i>Pyrus</i>	ナシ属	種子
13	<i>Prunus persica</i> Batsch	モモ	核
14			1/2核
15			核破片
16	<i>Prunus salicina</i> Lindley	スモモ	核
17			1/2核
18			核破片
19	<i>Zanthoxylum piperitum</i> DC.	サンショウ	種子
20	<i>Rhus</i>	ウルシ属	種子
21	<i>Aesculus turbinata</i> Blume	トチノキ	種子
22			種子破片
23	<i>Vitis</i>	ブドウ属	種子
24	<i>Camellia</i> L.	ツバキ属	種子
25	<i>Cornus controversa</i> Hemsl.	ミズキ	核
26	<i>Styrax obassia</i> Sieb. et Zucc.	ハクウンボク	核
27			核破片
28	<i>Diospyros</i> L.	カキノキ属	種子
29	<i>Viburnum</i>	ガマズミ属	核
草本	Herb	草本	
30	<i>Oryza sativa</i> L.	イネ	穎
31	Gramineae	イネ科	果実
32	<i>Humulus scandens</i> Merrill.	カナムグラ	種子
33	<i>Nuphar japonicum</i> DC.	コウホネ	種子
34	<i>Coccinia orbiculata</i> DC.	ツヅラフジ属	種子
35	<i>Vigna</i>	ササゲ属	種子
36	<i>Impatiens textori</i> Miq.	ツリフネソウ属	種子
37	Solanaceae	ナス科	種子
38	<i>Actinostemma lobatum</i> Maxim.	ゴキヅル	種子
39	<i>Benincasa cerifera</i>	トウガン	種子
40	<i>Trichosanthes kirilowii</i> Maxim. var. <i>japonica</i> Kitam.	キカラスウリ	種子
41	<i>Lagenaria siceraria</i> Standl.	ヒョウタン類	種子
42			果皮破片
43			果皮？破片
44	<i>Cucumis melo</i> L.	ウリ類	種子
45	<i>Xanthium strumarium</i> L.	オナモミ	果実
46	Total	合計	
47	Unknown	不明種実	
48		不明植物遺体	

第6表 東木津遺跡、種実同定結果一覧表〔1〕

番 号	西側調査地区							中央調査地区	東側調査地区
	S B11	S D60	S D71	S D72	S D73	S P01	S P02		
樹木									
01		39							1
02		1							
03		1							
04		26							
05		155	1	1				1	8
06		9							1
07		11							
08		27							
09		55							
10		1							
11		35							
12		2							
13	2	463	9	1	3	1		1	15
14		89	7		1				
15		12							
16		84							1
17		26							
18		3							
19		1							
20		1							
21		2							
22		2							
23		28							
24		1							
25		40							
26		102	18						
27		6							
28		2							
29		4							
草本									
30	1	1							
31		1							
32		13	1						
33		6							
34		1							
35		1							
36		1							
37		8							1
38		2							
39		2							
40		2							
41		13							
42		130							1
43		2							23
44		380		1	1				1
45		2							
46	3	1793	36	3	5	1	1	1	52
47		9							
48		9							7

第7表 東木津遺跡、種実同定結果一覧表〔2〕

試料	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	試料	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)
01	29.31	23.98	17.65	26	21.17	17.90	14.23
02	28.61	19.82	15.39	27	30.74	22.40	15.19
03	27.73	21.42	18.11	28	33.80	22.07	15.34
04	30.74	20.51	15.20	29	27.33	19.52	14.90
05	26.98	19.64	14.30	30	24.06	17.72	14.08
06	25.15	20.75	15.11	31	28.74	20.68	13.93
07	34.64	25.18	16.34	32	29.95	22.37	17.52
08	32.30	23.06	16.50	33	27.05	20.86	16.24
09	26.73	19.46	14.97	34	31.26	22.06	16.04
10	26.44	22.00	16.59	35	29.11	20.92	15.66
11	27.00	17.89	13.49	36	38.50	25.17	17.26
12	27.44	21.22	14.99	37	28.50	21.22	15.05
13	22.50	17.89	14.46	38	30.49	19.43	15.44
14	25.75	18.55	13.17	39	26.68	19.03	14.13
15	24.30	20.93	16.99	40	29.10	21.77	17.58
16	29.01	20.98	14.88	41	26.43	19.35	14.55
17	30.80	21.07	15.17	42	28.05	21.13	14.16
18	34.24	22.01	13.55	43	24.23	21.02	16.05
19	29.20	20.83	15.73	44	36.01	22.33	15.49
20	30.80	21.07	16.32	45	22.96	17.10	13.78
21	26.79	20.13	15.33	46	28.71	20.33	14.49
22	29.13	20.86	15.16	47	25.11	18.91	15.60
23	20.59	18.56	13.96	48	28.90	18.85	13.72
24	24.28	19.82	14.90	49	29.52	19.95	14.80
25	30.20	21.83	15.46	50	21.64	17.36	14.59

第8表 東木津遺跡、モモ核計測値一覧表

〔関連資料〕

- 笠原安夫 1985 「日本雜草図説」 養賢堂
- 笠原安夫 1988 「作物および田畠雜草種類」『弥生文化の研究』第2巻 雄山閣出版
- 金原正明 1996 「古代モモの形態と品種」『考古学ジャーナル』409 ニューサイエンス社
- 南下陸彦 1991 「栽培植物」『古墳時代の研究』第4巻 雄山閣出版
- 蘿下典之 1992 「出土種子からみた古代日本のメロンの仲間、その種類、渡米、伝播、利用について」
『考古学ジャーナル』354 ニューサイエンス社

第6節 結語

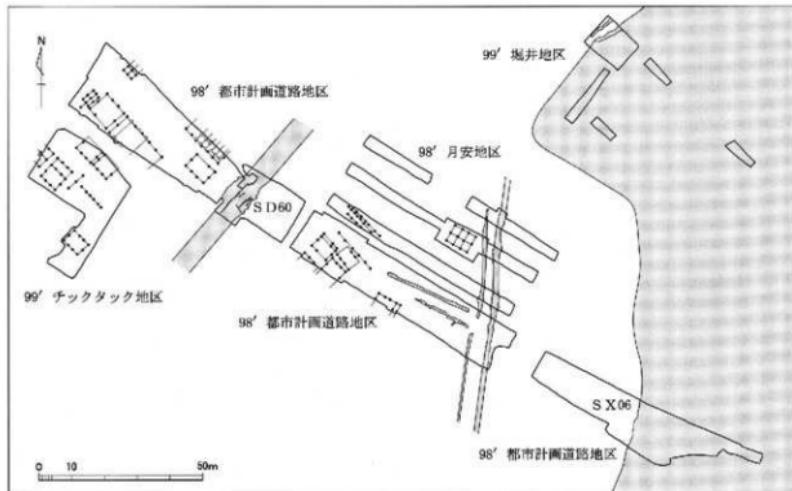
1. 遺跡の変遷

立地

当遺跡は佐野台地の北東端部に位置する遺跡である。当遺跡の東部から北東部にかけては千保川に瀕がる低湿地帯となっている。この低湿地帯部分は凹地 S X06として平成11年度調査の「堀井地区」や今回の「都市計画道路地区（以下、都計道路地区）」で検出した。この低湿地帯を形成する千保川は、江戸時代中期まで庄川の本流であり、奈良平安時代も庄川の本流と想定できる。佐野台地は庄川扇状地の末端部に当たり、豊富な伏流水が湧き出すところで、この湧水による小河川が台地上にいくつもある。平成9年度調査の「丹羽地区」、平成11年度調査の「セーブオン地区」で検出した溝 S D12や「都計道路地区」で検出した溝 S D60も湧水による小河川の1つであると推定できる。これら的小河川はいずれも南西→北東方向へ北流している。こうした小河川がいくつも台地上にあるため、正方位で集落を整備するよりは小河川の方位で整備する方が土地を有効に活用できるので、当遺跡はこれらの小河川に直交する方位で整備されたと推定される。

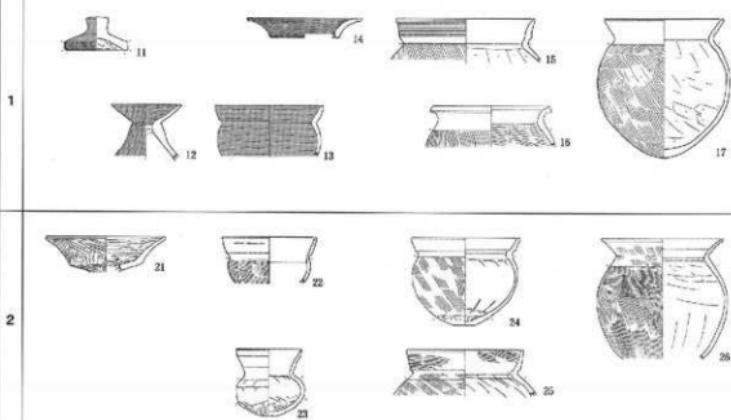
環境

溝 S D60や凹地 S X06からは多くの植物の種実が出土した。これらの種実からは、①モモ・ウリ等の栽培植物、②カヤ・オニグルミ等の有用植物、③カナムグラ、ゴキヅル等の人为環境ないし水路際に生育する植物が同定されている。特に、植生から溝 S D60は水深0.5~1.0m程度の溜水が確認された。

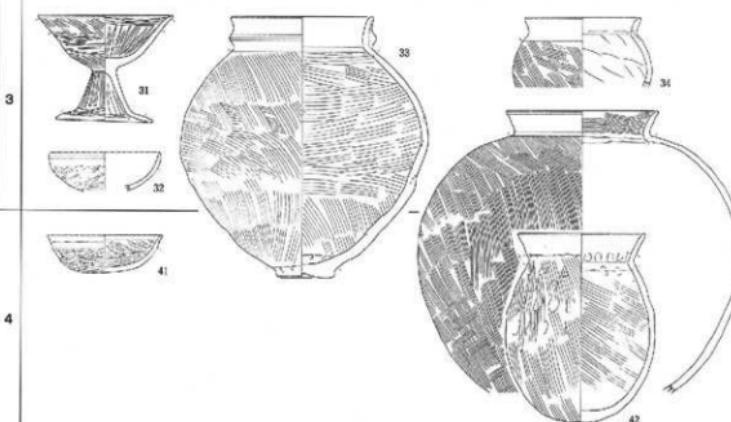


第36図 東木津道路、遺跡概略図 (1/1,500)

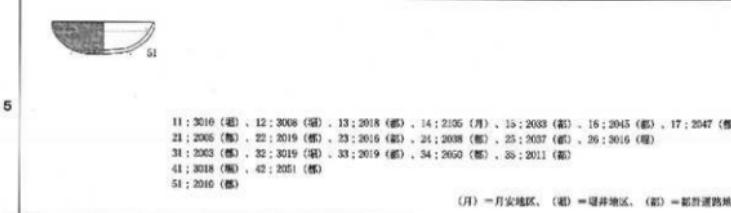
古墳時代前期



古墳時代中期



古墳時代後期



飛鳥時代前期

第37図 東木津遺跡、古墳時代土器変遷図 (1 / 6)

古墳時代の遺跡

古墳時代に所属する明確な遺構は検出していないが、この時期の土器類が一定量出土した。東側調査地区東半部の凹地S X 06第6層からの出土が中心である。この第6層は凹地S X 06の文化層としての最下層で、弥生時代終末期～古墳時代の遺物包含層である。これ以外では、凹地S X 06の上層、中央調査地区的奈良・平安時代の遺構、中央・東側調査地区的表土等からの出土である。また中央調査地区表土から筋縫車形石製品が出土している。形態等より古墳時代前期のものと考えている。平成9年度調査の「丹羽地区」からは古墳時代後期の青銅鏡が出土している。これらの遺物の出土から、当地周辺において、古墳や古墳時代の集落跡が存在している可能性が高い。

今回出土の古墳時代の土師器については、古墳時代初期のものから古墳時代終末期の飛鳥時代前期頃までのものと考えている。今回の「都計道路地区」出土土器に、平成10年度調査の「月安地区」、平成11年度調査の「堀井地区」出土土器を加えて、東木津遺跡出土の古墳時代土師器を5段階に区分して、変遷図を第37図として示した。

第1期：古墳時代前期前半、古府クルビ式併行期。複合口縁壺・小型壺・器台等がある。壺には複合口縁のものと直口縁のものがある。複合口縁のものでは口縁部に凹線文が付くものと付かないものがある。直口縁としたものには、14のように口脣部が単純にくの字状に折れるものと、15のようにII頭部が緩く折れ、II端部を横ナデによって口唇面を形成するものがある。この口唇面は、内傾・直立・外傾の3形態が見られる。

第2期：古墳時代前期後半、高扁式併行期。畿内の布留式土器の影響が強い時期として設定している。石塚遺跡ではこの系譜の壺が出土しているが、当遺跡では確認していない。複合II縁の壺がこの段階まで残る可能性を考え、24・25を掲げておいたが、前段階のものかもしれない。直口縁の壺では、くの字型で器壁が薄くなるものがあり、この段階を中心とするものと考えている。

第3期：古墳時代中期。この時期の後半は陶色須恵器編年TK 216～TK 23に併行する。石塚遺跡「老子地区」凹地S X 47から、この第3期後半期のまとまった資料が出土している。土師器では、杯・椀形の器形が現われ、壺が厚手長胴へ向かう。今回の出土土器では、高杯31や大型の複合II縁状の壺33をこの時期のものとした。

第4期：古墳時代後期。略6世紀代で陶色須恵器編年TK 47～TK 43に併行する。高岡市麻生谷新牛園遺跡から、TK 10～TK 43頃の土器類が一定量出土している。土師器では高杯・杯・椀・壺等である。今回の出土土器では、長胴気味でやや厚手の壺42や大型壺43をこの時期のものとした。

第5期：古墳時代終末期で飛鳥時代前期。7世紀前半頃としたもの。今回の出土土器では、杯51をこの時期のものとした。

奈良平安時代の遺跡

検出した遺構の内、中心となるものが奈良平安時代である。特に奈良時代前半から平安時代前期頃に所属するものである。これらは以下のものである。

掘立柱建物址SB 07～20、櫛址SA 05～07、横梁溝岸施設SX 11、道路址SF 01・02、土坑SK 100～118・120～132・134～136・138～219、溝SD 18・25・44・60～66・69～72・74・80～84・86～100、凹地SX 06の一部。

掘立柱建物址・櫛址・道路址はすべて当該期のものである。土坑は120基の内、117基が、溝は45条の内、35条のものが所属する。

中近世の遺跡

中世の遺構としては、西側調査地区の溝S D67・73がある。近世では西側調査地区の土坑S K119・133・137、溝S D68、中央調査地区北西端部の溝S D78・85が掲げられる。S D85については近現代の遺物が多く出土しており近年まで使用された溝と思われる。遺物は主に中世前期の土器類が出土した。土師器ではロクロ整形の皿があり、時期は平安時代後期と思われる。陶磁器類では青磁、白磁の碗が出土している。青磁は12世紀後半～13世紀前半の龍泉窯のものと思われる。銅錢では元祐通宝、元符通宝、大觀通宝がある。この他、寛永通宝が東側調査地区から採集されている。

2. 奈良平安時代、土器群の変遷

溝S D60出土土器

西側調査地区で検出した大溝S D60からは多量の土器が出土した。今回出土した奈良平安時代の土器の約8割がここからの出土である。種類・形態より次の食膳貝が主要なものである。①土師器椀、②須恵器杯A（無台杯）、③須恵器杯B（有台杯）、④須恵器杯蓋（基本的に須恵器杯Bと組み合うもの）。以下図示したものを中心見て行く。

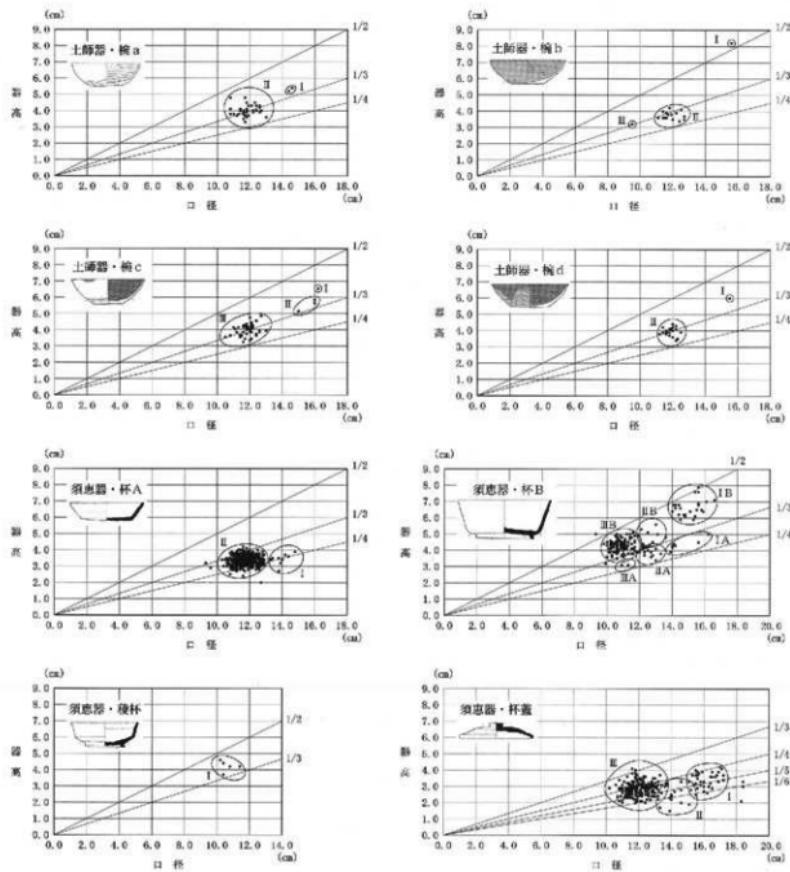
土師器椀；器表面の処理により4種類に分類した。a一通常の土師器、b一内外面赤彩土師器、c一黒色土器で内面黒色のもの、d一黒色土器で内面黒色外面赤彩のものとなる。この4種類ではc類がもっとも多い。形態的には、平底の底部より口縁・体部が内窪して外上方へ拡がるものであり、略同一のものと言える。成形調整手法もロクロを使用し底部を糸切りすることは共通している。法量としては、口径11.0～12.8cmの間にほとんどのものが収まる。口径12.0cmを中心とした法量と言える。器高は4.0cmが基本となっている。

須恵器杯A；高台の付かない杯、無台杯である。図面083～100に495点図示した。成形調整手法は、底部をヘラ切りして調整を施さないものが基本である。底部を糸切りするものは6点（5097・5299・5387・5418・5440・5466）と極めて僅かである。体下部や底部を手持ちヘラ削りするものは2点（5465・5488）のみである。回転ヘラ削り調整するものは存在しない。法量からは、口径15.1～13.4cmを計る大型のものが7点あるが、これ以外は口径12.9～10.3cmを計るものが一群となっている。これは482点である。残り6点は口縁部を欠損しているものである。大型のものは時期的に占い可能性がある。その他のものは法量からの区分ができるず、口径11.0～12.0cmを中心とするものと言える。

須恵器杯B；高台付の杯、有台杯である。図面100～107に147点図示した。底部をヘラ切りして調整を施さないものが基本である。底部を糸切りするものは4点（5582・5633・5635・5636）である。この両者以外では、底部をヘラ削りするものが1点（5496）、底部を2次的にナデするものが1点（5626）である。法量・形態からは次の通り分類される。口径から、I一口径16.0～14.0cmを中心とするもの、II一口径14.0～12.0cmを中心とするもの、III一口径12.0～10.0cmを中心とするものに3区分される。III類としたものが7割5分余りを占める。器高は浅いものと深いものがあり、器高が口径の3分の1を示すものを基準に、浅いものをA類、深いものをB類とすると、B類が多い。口径との組み合わせでは6種類になるが、この中では、III B類をなすわちII口径10.0～12.0cmで器高が深いものが、一番多數を占めている。

須恵器杯蓋；須恵器杯Bと組み合うものがほとんどと考えられる蓋である。図面108～118に245点図示した。天井部に宝珠形つまみが付き、口縁部が下方へ短く折れるものである。II縁部内面にかえりが付くもの

が I 点 (5656) あるが、これは古い時期のものである。これを除いた244点の内、天井部外面にヘラ削りを施すものは、43点を数える。口径から、I一口径17.2~15.3cmを中心とするもの、II一口径15.1~13.1cmを中心とするもの、III一口径13.0~10.6cmを中心とするものに区分される。これは須恵器杯BのI~III類に対応するものと考えられる。口縁部の形態から型式分類できるが、このことから一定度の時期幅を推定しておきたい。



第38図 東木津遺跡、食器具法量計測図

食膳具の分類

今回出土の土器で、供膳形態すなわち食膳具は、土師器椀と須恵器杯（及び杯蓋）である。溝S D 60についておおよその傾向をみてきたが、今回図示したものすべてについて、法量計測図を第38図として示した。土師器椀では例外的に大きいものもあるが、口径12.0cm、器高4.0cmを中心としたものが主体となっている。須恵器杯類についても、溝S D 60出土土器で指摘したことと同様のことがみて取れる。

器種構成

今回出土土器の器種構成を図示したもので検討してみる。杯・椀類の食膳具が非常に多く94.7%を占める。他の器種は、壺・瓶等の貯蔵具3.3%、甕・鍋等の煮炊具2.0%となり究めて少ない。食膳具では、須恵器杯A（無台杯）が45.6%ともっとも多く、次いで須恵器杯B（有台杯）が15.2%となる。土師器椀は11.7%であり、先述した器表面の処理の違いによる区分では、椀a（通有のもの）3.5%、椀b（内外面赤彩）1.6%、椀c（内面黒色）4.3%、椀d（内面黒色外面赤彩）2.3%になる。

編年的研究

当遺跡からは、奈良一平安時代前期にかけての土器が多量に出土した。当該期の富山県下における土器編年は、主に須恵器窯などの生産遺跡によるところが大きい。射水郡諸窯に対する池野正男氏等の研究（池野1986等）、砺波郡諸窯に対する西井龍義氏等の研究（西井1987等）、婦負・新川郡諸窯に対する宇野隆大氏等の研究（宇野1989等）があり、基準資料となっている。集落跡等の消費地における研究は、婦負郡域におけるものが中心である。富山市長岡杉林遺跡での編年（久々他1987）や高山県総合運動公園内遺跡群における編年（窟藤他1991等）がある。砺波郡域での砺波市高沢島II遺跡出土土器群は、長らく8世紀末の基準資料とされてきたが、最近ではやや新しくする見方が一般的で、中には9世紀中葉まで下げる見解もある。射水郡域の大島町荒畠遺跡出土土器群も、8世紀後葉のものとされてきたが、最近ではこれよりやや新しいものと見られている。高岡市越中國府関連遺跡では、奈良平安時代については、ほぼ全期間に亘り見られる。一括資料は少ないが市内における基準と言える。これら県内の出土遺物とその編年的研究を基礎に、石川県内での研究成果も参考として、当遺跡出土土器群の編年的位置付けや暦年代を検討してみた。

奈良時代の土器群

須恵器杯蓋において口縁部内面にかえりが付くものが出土している。7世紀後半に位置付けられるものである。破片が数点出土しているに過ぎないので、この段階のものは少ないと見える。次の段階とも言うべき8世紀前半ごろの須恵器窯跡出土資料と比較するに、8世紀前半に位置付けられるものは一定量見られるが、8世紀中葉以後に増大すると見える。一方土師器椀については、金属器模倣タイプと言えるものはなく、奈良時代でも後半以降に展開するものが中心となっている。

平安時代の土器群

平安時代前半期の9～10世紀における土器群の変遷は、須恵器窯の終焉や壺器系器形の展開の中で捉えられる。土師器椀類は調整手法が簡略になるが、今回の資料はヘラ磨きやヘラ削り等を行うものが多く、平安時代でも古いものである。土師器壺類は口端部を巻き込むものが多く、これ以前の形態である。須恵器杯類は楕円形となり、杯蓋はつまみが付かなくなるが、今回の資料ではこれ以前と言える。須恵器壺瓶類は出土量は少ないが、略9世紀前半以前と言える横瓶が一定量出土している。一方9～10世紀代が中心と言える双耳瓶については明確なものが出土していない。灰釉陶器については小破片が2点のみであり、これが多く流入してくる以前のものと言えよう。壺器系陶器の展開も少なく、結じて、9世紀前半までの土器類で、一部9世紀後半のものもあると理解される。

3. 奈良平安時代、構築物の変遷

掘立柱建物址の分類

今回の調査では、掘立柱建物址は調査地区全体で14棟検出された。内訳は西側調査地区が9棟、中央調査地区が5棟である。東側調査地区からは検出されていない。隣接する調査地区でも検出されている。平成10年度調査の「月安地区」で1棟、平成12年度調査の「チックタック地区」で5棟検出されており、これらを合わせると合計20棟の掘立柱建物址が検出されたことになる。

規模により分類すると、大型・中型・小型の3者に区分される。この中で数量が多く中核とも言うべきものが中型としたタイプのものである。平面積は24~40m²で2間×3間のものが基本である。居住のためのものと推定される。大型に分類したものは、桁行が5間以上あるが、全体を検出したものはない。小型に分類したものは総柱で倉庫になるものと推定される。

建物群全体としては、棟の方向が概ね北西~南東乃至北東~南西を取る規格性が伺われる。棟の方向より区分すると以下のように5つの群に分類され、座標北から西へ振る角度の大きさ順にA~E群とした。なお、北東~南西方向のもの、及び北西~南東方向か北東~南西方向か不分明のものは、分類を簡略化するためにすべて北西~南東方向のものとした。

A群：棟の方向が座標北から西へ60度振るもの

S B01 (月安地区)

S B02 (都計道路地区)

B群：棟の方向が座標北から西へ46度振るもの

S B03 (チックタック地区)

S B14・19 (都計道路地区)

C群：棟の方向が座標北から西へ43度振るもの

S B11・12・16・17 (都計道路地区)

D群：棟の方向が座標北から西へ41度振るもの

S B04~06 (都計道路地区)

E群：棟の方向が座標北から西へ36度振るもの

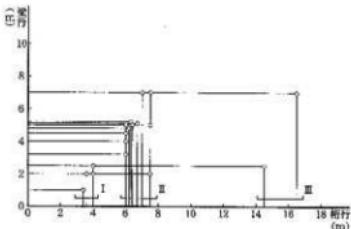
S B18 (都計道路地区)

道路址の方向

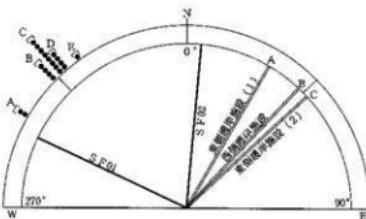
側溝を持つ道路址（側溝により道路址と判断した）が2条検出されている。S F01は東南東~西北西へ延び、座標北より西へ65度振っている。S F02は北北東~南南西へ延び、座標北より東へ7度振っている。

溝と区画

大溝 S D60や道路址に伴う溝以外に、当該期のもので比較的小規模な溝がいくつか検出されている。これらを検討してみると、北東~南西方向乃至これと直交する形で北西~南東方向を取るもの



第39図 東木津遺跡、掘立柱建物址規模一覧図



第40図 東木津遺跡、掘立柱建物址方位一覧図

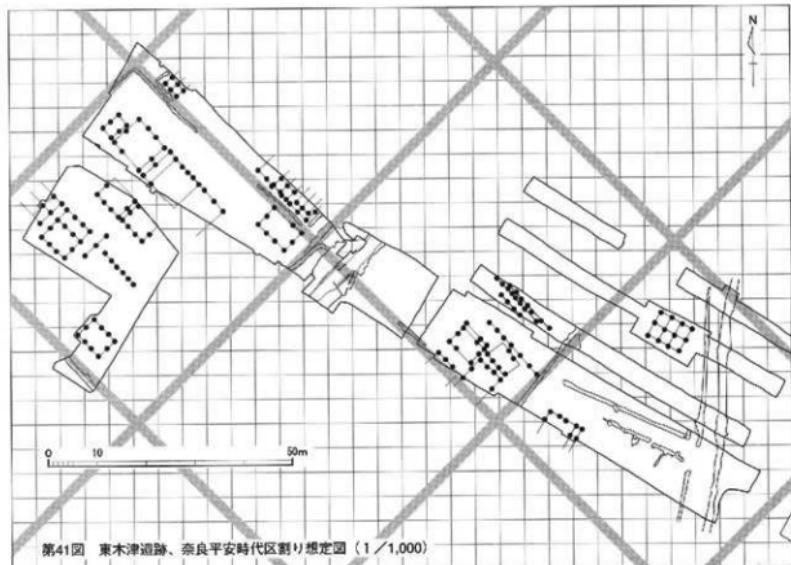
が多い。そしてこれらの間隔は約52mを計る。当遺跡に座標北から約45度振り、52m間隔の区割りがあった可能性が指摘できる。

溝 S D 60 と橋梁護岸施設 S X 11

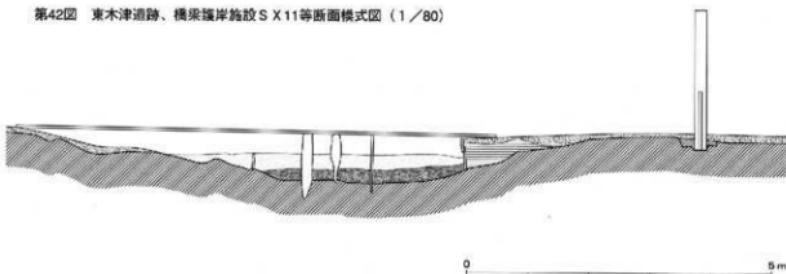
西側調査地区南東部において南西～北東方向に流れる溝 S D 60を検出した。橋梁護岸施設 S X 11は溝 S D 60を挟んで両岸に作られた土留めや杭列からなり、溝中央部より検出した。今回はこれらを総称して橋梁護岸施設とした。護岸施設は道路址 S F 01の北西側の延長線上に位置する。南東側（右岸）護岸施設は作り替えられている。古段階は北北東～南南西方向の護岸施設であった。新段階は溝内に突出する形で張出部が設定され、方向も東側へ振り、北東～南西方向を示すものとなった。この新段階の角度と西側・中央調査地区の掘立柱建物址の棟方向と近似するものがあることから相互の関連性を推定している。また護岸施設に付随する杭列の配置からこの北東側に橋（橋梁）が架けられていたと考えている。橋梁については橋板などの上部構造が出土していないため詳しい構造までは明確にできないが、長い板材を何枚か渡す程度の簡単なものと推定している。この橋梁は S X 11の新段階であるが、古段階も同様なものがあったと思われる。

水辺と祭祀場

溝 S D 60は、北西方の掘立柱建物址群（西側調査地区南西側で検出されたもの）と南東方の掘立柱建物址群（中央調査地区で検出されたもの）を分断する形となっている。当初は自然の流路と推定している溝で、集落・地域として一体的に機能するためには、両区域を結ぶための施設が必要であり、今回 S X 11とした橋梁護岸施設の検出をみたのである。またこより南東側に道路址 S F 01が検出されたことにより、道路・橋梁を通りさらにも北西方へ向う連絡路があった可能性も出てきた。



第42図 東木津道跡、橋梁護岸施設 S X11等断面模式図 (1/80)



一方このS X11付近からは多数の祭祀信仰関連遺物が出土していることにより、単なる通路部分ではなく、祭祀ごとに溝S D60を利用した水辺の祭祀が行われたことを推定するものである。溝S D60の埋土は基本的に第1～4層に区分されるが、第2層の下面＝第3層の上面が溝の機能していた時が最終的な底面と判断される。ここから完形の土器を中心に多数の遺物が出土している。

橋梁護岸施設の東南東側2.0mの所に位置するピット=S P02～06から柱根が出土している。周囲のピットともども、北北東～南南西方向に延びる柵址とも思える。しかし柵址とした場合、柵や道路の通路としての機能を塞ぐ形となる。ここでは祭祀信仰と関連するものとして、門や鳥居状の施設があり、これと関連するピットの可能性を指摘しておきたい。

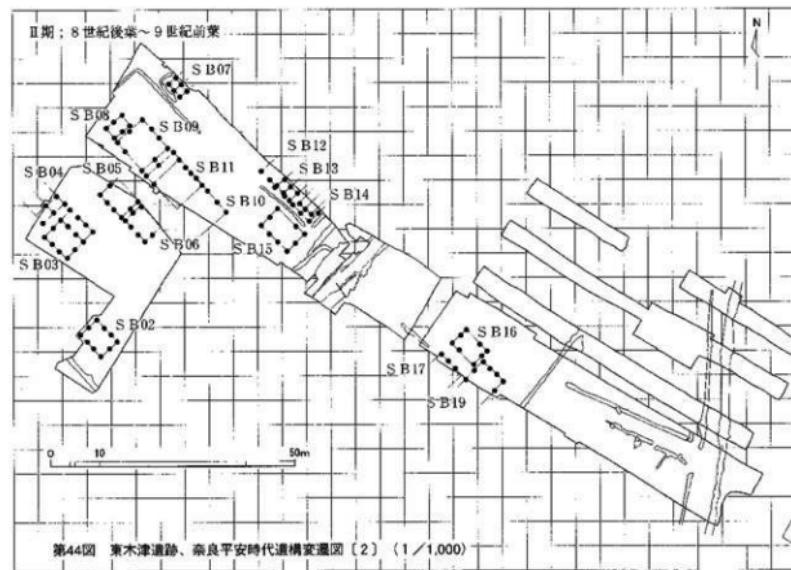
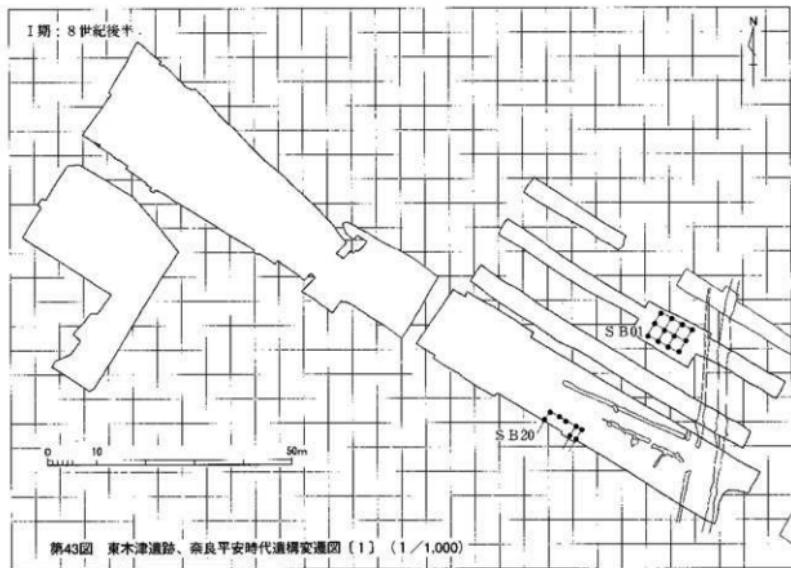
構築物の変遷と時期

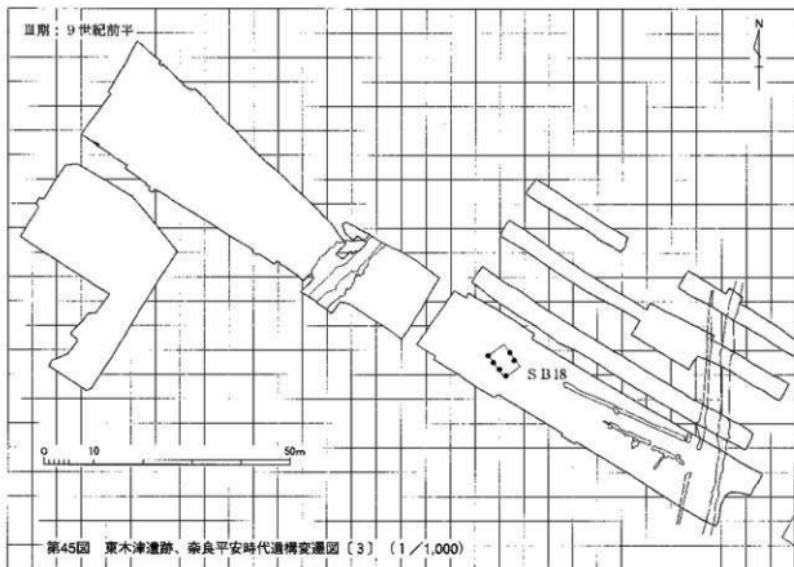
掘立柱建物址の変遷を考えるに当たって、建物相互の切り合い、掘り方の形態、掘り方からの出土土器等を検討した。これを先に分類した棟の方向によるA～E群に当てはめて区分すると次のようになる。I群：A群、II群；B・C・D群、III群；E群となりこの順に変遷したと考えられる。II群は、II-1；C群、II-2；B群、II-3；D群と細分される。これら掘立柱建物址に道路址・溝・橋梁護岸施設を加え、遺跡全体としての構築物の変遷を想定してみた。

第Ⅰ期：調査地区の東側を中心に少数の建物が建ち始め集落が形成される段階である。台地の東側縁辺に略北へ向かって道路址S F02が構築され、これと略直交して道路址S F01が西北西へ延びる。これに規制された形で区画が設定され、建物が構築されたと考えられる。S B01・02、橋梁護岸施設S X11南東側護岸施設の古段階の向き、これらが道路址S F01の向きと略直交乃至平行している。

第Ⅱ期：掘立柱建物址が増え、遺物の出土量も多く、集落が飛躍的に拡大する時期である。II-1期、II-2期、II-3期と細分されるが、II-1期とII-2期との差は少ない。北西～南東乃至北東～南西の座標北に対して約45度の傾き、幅約52m方眼の区画があり、これがII群となった時期である。II-1・2期では、S B02～10・13～15・19の棟の方向からS X11の北西側護岸施設・南東側護岸施設張出部（新段階）の方向と略直交している。道路址との関係では、II-1・2期から緩むが、II-3期ではさらに道路を無視した配置がなされるようになる。道路址S F01の延長線上にS B16・17が建てられるようになる。

第Ⅲ期：集落としては衰退していく段階である。約45度の規制は緩んでいく。建物は減少し、方向もこれまでとは違ったものになる。





各時期の層年代については以下のように推定している。

第Ⅰ期：8世紀後半

第Ⅱ期：8世紀後葉～9世紀前葉

第Ⅲ期：9世紀前半

4. 奈良平安時代、祭祀宗教遺物

祭祀宗教遺物

祭祀・宗教・信仰にかかる遺物として以下のものが出土している。

1. 木製模造品（人形・畜生他）
2. 瓦塔
3. 黒青土器の「悔過」
4. 油煙の付着した土器

律令的祭祀遺物

律令的祭祀の内容を示すとされる考古学上の遺物がある。人形・鳥形・馬形・畜生等の木製品模造品、黒青人面土器、小型土器（模型土器）、土馬等の土製品、鏡・鉢等の金属製品である。道教系の祭祀が基本にあるとされている。

今回の「都計道路地区」の調査では、木製模造品の祭祀具が出土している。出土位置は、溝S D 60を中心に出土し、付近のピットS P 04や調査地区の東端部の土坑S K 219・凹地S X 06からも出土している。また平成11年度調査の「堀井地区」からも出土している。これらの内容は以下の通りである。都計道路地区溝S D 60：人形・斎申・刀形・琴形・都計道路地区ピットS P 04：斎申・都計道路地区土坑S K 219：斎申・都計道路地区凹地S X 06：人形・斎申・堀井地区凹地S X 06：人形・斎申・鳥形・馬形・舟形・琴柱形・刀子形。溝S D 60からは、都計道路地区凹地S X 06が東南東偏約150m、堀井地区凹地S X 06が東北東偏約120mの地点である。両方の凹地S X 06は遺跡が立地する台地の東側縁辺部の湿地部分である。これに対して溝S D 60は、遺跡のある台地を開析する形の溝で凹地S X 06に繋がるものと考えている。凹地S X 06のものは台地縁辺部での祭祀に伴うものか、他の場所での祭祀用品がここで廃棄されたものと思われる。溝S D 60は橋梁護岸施設S X 11を作り、周囲には掘立柱建物址群も並ぶ。集落中心部の祭祀場と推測する。伴出している上器群の年代観より8世紀後半～9世紀前半に祭祀場として機能したと推定できる。

仏教関連遺物

溝S D 60から瓦塔の高欄の一部と推定した遺物が出土している。図面162-9105である。伴出した上器類より8世紀後半～9世紀前半頃のものである可能性が高い。北陸において瓦塔は8世紀中頃から10世紀にかけて出土が確認されている。高欄を備える瓦塔は類例が少なく、県内では福岡町石名田木舟遺跡に次いで2例目となる。この形態のものは奈良時代初期まで遡るものがあるので、8世紀後半より占くなる可能性もある。また図面162-9106は瓦塔の天蓋部と思われる破片である。

罪過を悔いあらためたり、謝過の報いから逃れる儀式を示す仏教用語「悔過」を記した墨書き土器が4点出土している。いずれも須恵器で、図面106-5629、図面114-5785、図面130-7040、図面131-7075である。また油煙の付いた上器が多数出土している。灯明として用いられたことを示している。これら、瓦塔・墨書き土器「悔過」・油煙の付いた土器は集落内での仏教の展開を示す考古資料と言える。仏堂と言える建物は検出されていないが、仏教儀礼や「村落内寺院」の存在を想定させるものである。

神祇信仰・道教信仰・仏教信仰

在来の神祇信仰は当然行われていたと推定されるが、これ以外に外来のものである道教信仰や仏教信仰が集落内で行われていたことを示すものが、上述の遺物と言える。

5. 奈良平安時代、文字資料

文字資料の分類

今回の調査で出土した文字資料は材質上より分類すると以下の通りとなる。

1. 土：墨書き土器、ヘラ文字・ヘラ記号。陶碗に書かれたヘラ文字を含む。
2. 木：木簡。
3. 紙：漆紙文書。
4. 金石：錢貨。皇朝十二錢の内、和同開珎・萬年通寶・神功開寶が各1点。

墨書き土器

今回の調査では102個体の墨書き土器が確認されている。意味が認識できるものでは人名、地名等がある。人名のうち「寺万呂」「達万呂」については複数出土していることから集落内において特別な人物と思われ

る。「船木」は能登国に見られる船木氏との関連が想定される。人名の記載箇所は杯A、杯Bの頃に底部外面に記すものが多く、次いで杯蓋の天井部外面に記すものが見られる。地名乃至人名と思われるものに「石見」「竹原」「田中」「川相」がある。「明家」「宅」「南」は建物乃至施設を示す文字と思われる。信仰に関するものとしては仏教用語である「悔過」が4点見られる。他に「節」は節会を表す可能性がある。

全体の中で大半を占めるのは「井」や「キ」等の記号である。記号の中では「キ」が大半を占める。記入位置は杯類は体部外面に記す傾向が強い。杯蓋は内外面問わず記入している。「井」については呪符に書かれる例があり祭祀行為に伴う記号とされる。

仏教用語「悔過」は杯Bが最も多く、杯Aと杯蓋はほぼ同数である。人名については杯蓋の天井部外面に記すものが半数以上を占め、杯Aが最も少ない。逆に記号や一文字のみを記したものについては杯Aが半数近くの割合を占める。これらのことから、記号や一文字のみを記したものは、使用頻度が高いため集落内の土器のうち流通量の多いものを選択したと考える。

また満SD60出土の墨書き器の出土状態を検討したところ、文字が書かれた土器については満の複土（理土）中のうち各層から出土している。特に記号については満SD60以外の出土例ではなく、ほとんどが第2層より出土している。護岸施設を築造した段階で集中的に使用されたことが伺える。記号の性格としては、支配者層が集団を管理するために使用したもの、同じ祭祀行為を持つ集団を示す等の説がある。今回はその性格を特定するまでには至らないが祭祀に伴う遺構から出土しており後者の説が妥当ではないかと考えている。

越中国の郷名

古代越中国は能登国（現在の石川県能登地域）を併合していた一時期を除き、略現在の富山県の範囲に該当し、砺波・射水・婦負・新川の4郡で構成されていた。当東木津遺跡は砺波郡と射水郡の境界付近に所在しているとされている。砺波郡は富山県の南西部を射水郡は北西部を占めるものである。

「倭名類聚抄」には、越中国砺波郡の郷として、川上・八田・川合・拜師・長岡・人岡・高楊・陽知（陽如）・三野・意赤・大野・小野の12郷が記載されている。同じく越中国射水郡の郷として、阿努・宇納・古江・布西・三輪・伴・布師・川口・御田・塞口（寒江）の10郷が記載されている。墨書き器「川相」は須恵器杯A底部外面に書かれている。この「川相」は、砺波郡川合郷を示す郷名である可能性がある。ヘラ文字の土器「布志郷」は須恵器横瓶脚部外面に書かれている。布忍・布師はいずれも「ぬのし」と呼ばれている。

種類	個数	内容	器種
仮用語	5	悔過(4)、節(1)	須恵器=杯A(2)、杯B(2)、杯蓋(1)
人名・地名	21	船木(1)、家方呂(1)、寺万呂(2) 達万呂(4)、達(2)、成賀(1)、比才(1) 南(3)、明家(1)、川相(1)、石見(1) 宅(1)、竹原(1)、田中(1)	土師器=楕a(2) 須恵器=杯A(6)、杯B(5)、杯蓋(8)
その他文字	18	小口(1)、静(3)、庄(1)、口合(1) 巾(1)、大(1)、平(2)、八(1) 安(1)、不明(6)	土師器=楕a(1) 須恵器=杯A(7)、杯B(4)、杯蓋(6)
記号	58	キ(53)、井(1)、=(1)、×(1) 卍(2)	土師器=楕a(1)、皿A(1) 須恵器=杯A(25)、杯B(12)、杯類(6) 杯蓋(13)

第9表 東木津遺跡、墨書き器記載内容別分類表

ものであり、この「布忍郷」は射水郡布師郷を示すものと言える。須恵器横瓶であり形態等より8世紀後半頃の所産と判断される。9世紀へ降るとしても前半頃のものと推定される。このことから布忍郷が8世紀に遡って存在していた可能性が出てきた。一方、木簡8004「氣多大神宮寺木簡」にも「布師三口」と布師がある。この布師は地名由来する人名と解釈すれば、ヘラ文字「布忍郷」の出土との関連も推定できる。当地（東木津遺跡）が布師郷に含まれていたか、この郷と関連した地区であったと理解できよう。この木簡は「□曆二年」とあり年号と考えられる。2文字目に脚が付くものは、延暦（782～810）、天暦（947～957）、正暦（990～995）等がある。残西とスペースの関係からは「正暦」の可能性もあるが不明確である。出土遺物からは、10世紀以降に所属するものが極めて少ないとから、多くの遺物が出土している時期に含まれる「延暦」の可能性が指摘できる。

難波津木簡

木簡8001の「難波津木簡」は「難波津の歌」の下句である。「はルマ止左くや古乃は□」と訛読している。難波津の歌は、「古今和歌集」の仮名序に見え、古代に手写いに用いられたことで著名な歌である。第2次目の「ル」は片假名が用いられている。平安時代初期の調点資料にみられるものである。「マ」は「部」の略体字である。「止」は中国の上古音によるものである。最後の「□」は「七」あるいは「奈」と考えられる。木簡の文字の草化から、9世紀後半から10世紀前半の間と考えられる。この木簡の出土位置は、溝S D60の第1層で、溝を覆っている土層の最上層に当たる。この溝からの出土遺物は8世紀後半～9世紀前半頃を中心に8世紀前半や9世紀後半頃のものも一部含んでると位置付けしている。そして9世紀の終り頃には埋まったものと理解している。10世紀以降に所属するものが極めて少ないとから、出土遺物から推定されるこの木簡の時期は、9世紀後半及びこれ以前と推定される。

「種子札」の木簡

上述の「氣多大神宮寺木簡」「難波津木簡」を含め、木簡は11点出土している。この中に稻の品種名を記したと判断される「種子札」の木簡がある（平川1999参照）。形態的には上端に左右からの切り込みがあり、下端を尖らせているものである。以下の3点である。

木簡8005：「<□□一□□□」。□□一石一斗？不明である前の2文字は稻の品種名の可能性がある。

木簡8007：「<白□（稻カ）」。白稻と推定される。白稻は「しきいね」「しきしね」と訓み、近世の文献にも稻の品種名として見られるもの。

木簡8008：「<□（富カ）子四斗」。□（富カ）子は稻の品種名の可能性がある。

このような「種子札」と推定される木簡の出土については、当地において稻の管理等において用いられたものの可能性がある。当遺跡の性格の一端を示していると言える。

漆紙文書

須恵器杯2点に認められた。判読できたのは「大」1文字のみである。

陶器と転用窯

円面窯9101の脚部に篆書「木」がヘラ書きされている。この脚部には宝珠形の透し孔とヘラ文字=篆書「木」が交互にそれぞれ1箇所付いている。小型の円面窯であり、奈良時代末期～平安時代初期頃のものと推定している。円面窯はこれ以外に3点出土している。また須恵器の杯蓋類を利用した転用窯も多く出土している。溝S D60出土土器の内、図示した杯蓋類245点あるが、これらの中の21点が転用窯である。

陶窯・転用窯は文字資料と直接かかわるものであるが、これらを使用して常駐している識字層が、木簡や墨書き土器に見られる頻繁な文字を記載したと思われる。

第5章 総括

1. 遺跡の変遷

遺跡の立地

都市計画道路下伏間江福田線の築造に伴って、平成9年度に石塚遺跡、平成10年度に東木津遺跡の発掘調査を実施した。石塚遺跡では遺跡範囲の北東側縁辺部に当たる所である。東木津遺跡では遺跡範囲の中央部東側に当たる所である。石塚遺跡と東木津遺跡は、佐野台地の北東端部で、東側の千保川と西側の祖父川に挟まれた標高約11~12mの微高地上に立地している。

縄文時代から弥生時代へ

石塚遺跡では、縄文時代後~晩期の遺物が出土している。弥生時代の基盤層の下層より当該期の遺物包含層を確認している調査地区があり、縄文時代後~晩期と弥生時代中期との間に、堆積作用があったことが判明している。縄文時代後~晩期の遺物は、石塚遺跡の西側に位置する石塚江之戸遺跡や東木津遺跡の南西側に位置する泉ヶ丘遺跡でも出土しており、石塚・東木津遺跡一帯では、この時期から遺跡が形成されたと認識している。石塚遺跡ではその後、弥生時代中期に人規模な集落が形成される。今回の調査では、弥生時代中期集落の北東側の遺跡範囲を把握することができたと言える。弥生時代後期~終末期の遺物は数少なく、古墳時代初期に再び増加する。東木津遺跡に接する下佐野遺跡では、弥生時代終末期に集落を形成する。東木津遺跡でも、当該期の遺物が出土している。

石塚弥生遺跡

石塚遺跡の弥生時代については、弥生時代中期が中心となっている。この時期の遺構・遺物の確認は遺跡全体に及んでいるので、石塚遺跡の範囲がそのまま石塚弥生遺跡の範囲となる。一応集落跡をしているが、遺構の中心は、方形周溝墓や埴輪と考えている土坑(土壙墓)である。この遺構等を取り囲む環濠は確認されていない。今回の調査において、北東側は自然の河川や低湿地帯が境界をなしていることが判明した。

	縄文時代			弥生時代			古墳時代		
	後期	晩期	(前期)	中期	後期	終末期	前期	中期	後期
石塚江之戸遺跡							---		
石塚遺跡				---	---	---	---	---	---
東木津遺跡				---	---	---	---	---	---
泉ヶ丘遺跡	---	---	---	---	---	---	---	---	---
下佐野遺跡				---	---	---	---	---	---

第46図 佐野台地の主要遺跡変遷図(1)

	飛鳥時代	奈良	平	安	時	代	鎌	倉	時代	南北朝	室	町	時代
	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500			
石塚江戸遺跡											■	■	
石塚遺跡				■	■						■	■	
東木津遺跡	■	■	■										
泉ヶ丘遺跡													
下佐野遺跡		■	■								■	■	

第47図 佐野台地の主要遺跡変遷図（2）

石塚古墳群

石塚遺跡では古墳時代初期の古墳が確認され、石塚古墳群とも称している。今回の調査で検出されたものも加えて4基である。いわゆる出現期における平野部の古墳であり、方形周溝墓とする見解もあるタイプである。調査範囲が限定されており、古墳はこれ以外にも存在している可能性が高い。その後における石塚遺跡の古墳時代では、前期や中期後半の遺物がややまとまって出土している。東木津遺跡では古墳や古墳時代の遺構を確認するまでには至っていない。しかし、当該期の上器が出土していることや、青銅鏡や紡錘車形石製品が出土しており、これらが存在している可能性が高い。

律令時代

東木津遺跡一帯からは、弥生時代終末期から飛鳥時代を経て奈良時代前半の遺物が出土しており、生活の場になってきたことが伺える。石塚遺跡においても奈良時代前半頃の遺物が一定量出土している。今回の調査では、東木津遺跡から奈良時代後半～平安時代前期の遺物が多量に出土し、遺構の中心的時期も当該期と推定されるものである。奈良時代後半に極めて意図的・計画的に集落の形成がなされたと把握している。

古代末期から中世へ

平安時代後期については、石塚・東木津遺跡一帯では遺構が確認されていない。遺物も極めて僅かである。中世については、石塚遺跡や石塚江戸遺跡、そして下佐野遺跡において遺構を検出している。東木津遺跡では溝が検出されている。遺物の出土は僅かである。

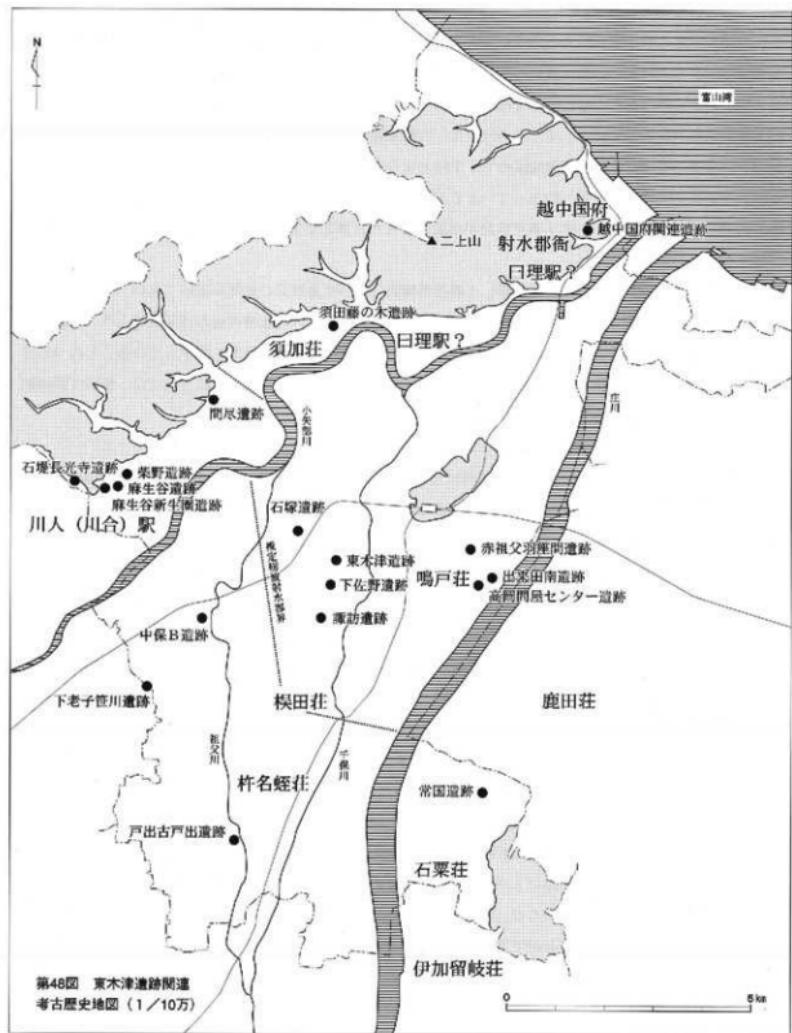
2. 東木津遺跡の性格

律令時代の郡域

律令時代の越中国は能登国を併合していた一時期を除けば、略現在の富山県の範囲に該当し、砺波・射水・婦負・新川の4郡で構成されていた。律令時代の郡域・都界については、近世・近代のものも参考に一応、その範囲が推定されている（第48図の郡界は、金田1998を参照）。砺波郡は富山県の南西側、射水郡は北西側を占めている。高岡市域では、南西側は砺波郡、北東側は射水郡に所属していたと推定されている。当東木津遺跡は射水郡に含まれていたと推定されるが、砺波郡に近い地域と言える所である。

道路址とその延長

道路址が検出されている。北北東ー南南西方向と西北西方向へ延びるものである。遺構名としてはS F 01・02の2つに分けたが、丁字路として検出されたものである。集落内の道路址としては規模が大きいので集



第48図 東木津道跡関連
考古歴史地図 (1/10万)

落間を結ぶものである可能性がある。北北東方向へ目を向けると小矢部川を経て、二上山が望める。この山頂を基準に計画されたとの可能性も指摘できよう。小矢部川に至る間にには有力な律令時代の遺跡を確認していない。二上山南麓一帯は、越中国府跡を指呼に望む所であり、二上山塊の裾を回るようにして越中国府跡へ達することができる。またこの地域は、古代北陸道の曰理駅推定地の1つであり、北陸道が国府まで達せず、ここにおいて小矢部川を渡河し、さらに東方へ向っていたとする説がある。律令時代において興味深い地区である。これと逆方向の南南西方向における律令時代の遺跡としては、約1.5kmの所に諏訪遺跡が、約6kmの所に戸出古戸出遺跡がある。またこの方向に、桜田莊・杵名蛭莊の比定地の1つが位置する。一方西北西方向へ目を向けると、石塚遺跡の中央部を横断して小矢部川を経て、西方の丘陵地帯（西山丘陵）へ至る。この西山丘陵の裾部一帯に、律令時代の遺跡でもある、柴野遺跡・麻生谷遺跡・麻生谷新生園遺跡・石堤長光寺遺跡が位置している。またこの付近は、古代北陸道川人（川合）駅推定地でもある。西北西方向へ延びている道路址は、今回の調査地区内で丁字路となり行き止まっている形になっている。しかし、鉤の手に曲がり、さらに東方乃至南東方へ向かっているものかもしれない。東側には千保川の低地部が控えており、これらを渡河するためには何らかの工事や施設が必要であったと推定できる。

官衙的遺構と遺物

当東木津遺跡では、計画的な建物配置、土器類の構成において食糧具の比率が極めて高い、木簡の出土に代表されるように文字の使用、瓦塔や油煙の付いた土器等による宗教的施設存在の可能性等より、官衙的な集落と言える内容をもっている。遺構や遺物の時期が8世紀後半～9世紀前半に集中していることについては、それ以前からの遺跡地帯ではあるが、突出した内容をもっている。この現象については、極めて計画的で権力の介在を予想させるものである。

律令時代の各施設との位置関係

越中国府跡（国庁跡推定地）は小矢部川河口左岸の伏木台地に位置している。ここは約8.5km離れている。この付近に越中国分寺跡や射水郡衙跡も比定されている。砺波郡衙跡については小矢部市道林寺遺跡付近への比定が有力な説となっている。当地とは約15km離れている。古代北陸道の道筋は「延喜式」の記載より、小矢部川の左岸ルートを一応当てている。越中国第1駅の坂本駅は砺波郡衙跡付近とされている。第2駅の川人（川合）駅推定地とは約5km、第3駅の曰理駅推定地とは約5～8km離れている。

律令政府の土地政策の変更により、8世紀中葉には初期莊園の成立をみる。東大寺領莊園は、砺波郡に4箇所、射水郡に4箇所設定された。その比定地の研究をみると、いずれも当地とは離れている（莊園の比定地については、主に金田章裕氏の見解を参照、金田1998等）。比較的近いものをみると、須加莊比定地とは、小矢部川を挟んで約3～4km、鳴戸莊比定地とは千保川を挟んで約3km離れている。南南西方向の桜田莊・杵名蛭莊とは、それぞれ約3km、約4.5km離れている。

遺跡の性格

東木津遺跡と付近一帯は律令時代の地方支配機構や莊園等の比定地とはなっていない。しかし8世紀後半～9世紀前半頃の約100年間という限定された期間での遺跡の消長の理由を考えるに、究めて政治的・行政的なものが背後にあったことが浮び上がる。郡の出先機関や郷の施設の存在も昨今論議されている。また莊園の管理施設（莊所）と莊園そのもの（墾田地）が離れている形態が存在していたとの指摘もある。具体的な官衙名や莊園名等を挙げることができないが、律令行政の末端支配機構や莊園開発とのからみで出現し消滅していく遺跡と思える。特に遺跡の主要な時期が8世紀後半～9世紀前半であることは初期莊園の存続期間と符合し、これとの関連を伺わせるものである。

別表 1

東木津遺跡、掘立柱建物址一覧表

S B 07	図面024、図版018・019
調査地区 グリッド 規模 方位	西側調査地区。 (5・6、25・26) 区。 北東～南西1間 (2.0m) 乃至2間以上×北西～南東2間 (3.6m)。 北東～南東乃至北西～南東様。様の方向を北西～南東として、建物方位は座標北に対して41°西へ偏している。
柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	北東～南西2.0m等間、北西～南東1.8m等間。 梢円形乃至不整梢円形。 長軸50～70×短軸45～69×深さ21～47cm。 上飾器。 なし。 周囲に溝S D 64がL字状に廻る。
S B 08	図面024、図版020
調査地区 グリッド 規模 方位	西側調査地区。 (2・3、23・24) 区。 桁行2間 (4.0m) ×梁行1間 (2.8m)。 北東～南西様。建物方位は座標北に対して49°東へ偏している。
柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	桁行2.0m等間、梁行2.8m等間。 不整梢円形。 長軸44～137×短軸36～111×深さ22～40cm。 上飾器・須恵器。 なし。 S A 96と重複する。
S B 09	図面025、図版020
調査地区 グリッド 規模 方位	西側調査地区。 (3・5、22～24) 区。 桁行3間 (7.8m) ×梁行2間 (7.0m)。 北西～南東様。建物方位は座標北に対して41°西へ偏している。
柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	桁行2.6m等間、梁行3.5m等間。 不整方形乃至不整梢円形。 長軸68～105×短軸44～101×深さ12～36cm。 土師器・須恵器、磚板・木片。 図面133～0109。 S K 67、攪乱に切られる。S K 105～107と重複する。P 1～3・3～3から磚板が出土している。

S B10	図面026、図版021・022
調査地区 グリッド 規模 方 柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	西側調査地区。 (4~7, 20~23) 区。 桁行5間(16.5m)×梁行2間(7.2m)乃至3間以上。 北西~南東棟。建物方位は座標北に対して41°西へ偏している。 桁行不同で、北西より4・3.25・3.25・3・3mとなる。梁行3.6m等間。 不整方形乃至不整長方形。 長軸100~170×短軸90~100×深さ14~30cm。 土師器・須恵器、磚板。 図面134-0129。 SD68、SX12、擾乱に切られる。SB11、SK122~128と重複する。
S B11	図面027、図版021・022
調査地区 グリッド 規模 方 柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	西側調査地区。 (4~6, 21・22) 区。 桁行2間(7.2m)乃至3間以上×梁行2間(6.4m)。 北東~南西棟。建物方位は座標北に対して47°東へ偏している。 梁行3.2m等間。 隅丸方形。 長軸88~110×短軸79~100×深さ15~32cm。 土師器・須恵器、木片、種子。 図面133-0108。 擾乱に切られる。SB10、SK127・128、SX12と重複する。
S B12	図面028、図版023
調査地区 グリッド 規模 方 柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	西側調査地区。 (9~11, 20~22) 区。 桁行6間(14.5m)×梁行2間(5.2m?)以上。 北西~南東棟。建物方位は座標北に対して43°西へ偏している。 桁行P 2-1・P 3-1間のみ2m、他2.5m等間、梁行2.6m等間。 不整橢円形乃至橢円形。 長軸69~120×短軸47~87×深さ18~40cm。 土師器・須恵器、木片。 図面133-0123。 SB13、SK132を切る。SB14、SK133~139と重複する。周囲に溝SD69・70が巡る。
S B13	図面029、図版023
調査地区 グリッド 規模 方 柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	西側調査地区。 (9~10, 21~22) 区。 北東~南西1間(2.0m)乃至2間以上×北西~南東2間(4.0m)。 北東~南西乃至北西~南東棟。棟の方向を北西~南東として、建物方位は座標北に対して41°西へ偏している。 北東~南西2.0m等間、北西~南東2.0m等間。 隅丸方形乃至橢円形。 長軸46~112×短軸33~45×深さ8~32cm。 須恵器。 なし。 擾乱、SB12、SK137に切られる。SK133~136・139を切る。SK138と重複する。

S B14	図面029、図版023・025
調査地区 グリッド 規模 方 柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	<p>西側調査地区。 (10・11・20・21) 区。 北東～南西1間 (2.0m以上?) 乃至2間以上×北西～南東2間 (3.4m)。 北東～南西乃至北西～南東様。棟の方向を北西～南東として、建物方位は座標北に対して46°西へ偏している。 北東～南西2.0m以上、北西～南東1.7m等間。 棚円形乃至圓丸方形。 長軸60～80×短軸39～57×深さ21～24cm。 須恵器。 図面133～0118。 掘乱に切られる。S B12と重複する。</p>
S B15	図面030、図版023・024・025
調査地区 グリッド 規模 方 柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	<p>西側調査地区。 (9・11・18～20) 区。 衍行3間 (7.5m) × 梁行2間 (5.0m)。 北西～南東様。建物方位は座標北に対して41°西へ偏している。 衍行2.5m等間、梁行2.5m等間。 圓丸方形乃至楕円形。 長軸71～130×短軸57～99×深さ26～50cm。 上部器・須恵器、木片。 図面133～0114、図面134～0136。 掘乱に切られる。S K140と重複する。</p>
S B16	図面031、図版026・027
調査地区 グリッド 規模 方 柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	<p>中央調査地区。 (16～18・14・15) 区。 衍行3間 (6.0m) × 梁行2間 (4.0m)。 北西～南東様。建物方位は座標北に対して43°西へ偏している。 衍行2.0m等間、梁行2.0等間。 不整楕円形乃至圓丸方形。 長軸36～124×短軸35～116×深さ14～52cm。 土師器・須恵器、種子。 図面133～0107・0111・0127、図面134～0131。 S A07、S D85に切られる。S K157～162と重複する。</p>
S B17	図面031、図版026・027
調査地区 グリッド 規模 方 柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	<p>中央調査地区。 (16・17・14) 区。 北東～南西1間乃至2間以上×北西～南東2間 (4.0m) 乃至3間以上。 北東～南西乃至北西～南東様。棟の方向を北西～南東として、建物方位は座標北に対して43°西へ偏している。 北西～南東2.0m等間。 圓丸方形。 長軸94～128×短軸78～128×深さ38～50cm。 上部器・須恵器。 図面133・134・0101～0103・0105・0110・0116・0119・0124・0125・0128・0130・0133・0137・S B17、S K164に切られる。S K165を切る。S K166と重複する。</p>

S B18	図面032、図版027
調査地区 グリッド 規模 方 向 柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	中央調査地区。 (18・19、13~15) 区。 桁行3間(6.0m)×梁行2間(4.0m)。 北西~南東棟。建物方位は座標北に対して36°西へ偏している。 桁行2.0m等間。 不整楕円形。 長軸70~108×短軸60~85×深さ15~35cm。 土師器・須恵器。 図面133-0121。 SK169に切られる。SK170・171と重複する。
S B19	図面033、図版027・028
調査地区 グリッド 規模 方 向 柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	中央調査地区。 (17~19、13~14) 区。 桁行(北西~南東)3間(6.0m)×梁行(北西~南西)2間?(5.0m?)。 北西~南東棟?。北西~南東棟として、建物方位は座標北に対して46°西へ偏している。 桁行2.0m等間、梁行2.5m等間。 不整楕円形乃至楕円形。 長軸57~156×短軸44~93×深さ15~58cm。 土師器・須恵器。 図面133-0104、図面134-0134・0138。 SK176に切られる。SK172・177を切る。SK173・174・178~183・185~188と重複する。
S B20	図面034、図版029
調査地区 グリッド 規模 方 向 柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	中央調査地区。 (20~22、11~12) 区。 北東~南西2間(4.0m?)以上×北西~南東4間(7.5m)。 北東~南西棟乃至北西~南東棟、棟の方向を北西~南東として建物方位は座標北に対して60°西へ偏している。 北東~南東2.0m等間、底1.5m、北東~南西2.0m等間。 不整楕円形乃至楕円形。 長軸57~92×短軸40~53×深さ30~60cm。 土師器・須恵器。 図面133-134-0106・0112・0113・0115・0117・0120・0122・0126・0132・0133・0139・0140。 底を持つ。SX13に切られる。
※図示した遺物	
S B09: 図面133-0109。 S B10: 図面134-0129。 S B11: 図面133-0108。 S B12: 図面133-0123。 S B14: 図面133-0118。 S B15: 図面133-0114、図面134-0136。 S B16: 図面133-0107・0111・0127、図面134-0131。 S B17: 図面133-0101-0103・0105・0110・0116・0119・0124・0125・0128、図面134-0130・0135・0137。 S B18: 図面133-0121。 S B19: 図面133-0104、図面134-0134・0138。 S B20: 図面133-0106・0112・0113・0115・0117・0120・0122・0126、図面134-0132・0133・0139・0140。	

別表2

東木津遺跡、柵址一覧表

S A 06	図面035
調査地区 グリッド 規模 方 柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	西側調査地区。 (2・3、23・24)区。 3間(6.0m)。 柵列方向は座標北に対して50° 東へ偏している。 2.0m等間。 不整橢円形乃至楕円形。 長軸23~58×短軸23~55×深さ10~28cm。 なし。 なし。 S B 08と重複する。
S A 07	図面035
調査地区 グリッド 規模 方 柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	中央調査地区。 (17・18、15・16)区。 3間(6.0m)。 柵列方向は座標北に対して40° 西へ偏している。 2.0m等間。 隅丸長方形。 長軸100~120×短軸60~90×深さ20~26cm。 土師器・須恵器。 図面125~6068の一部。 S D 85に切られる。S B 16を切る。S K 156と重複する。
S A 07	図面035
調査地区 グリッド 規模 方 柱間寸法 掘り方平面形 掘り方規模 出土遺物 図示遺物 備考	中央調査地区。 (18~21、13~16)区。 5間(14.3m)。 柵列方向は座標北に対して42° 西へ偏している。 柱間不同、北西から、2.8m・3.4m・2.9m・2.8m・2.4mとなる。 不整橢円形。 長軸40~86×短軸21~66×深さ12~25cm。 土師器。 なし。 S K 168と重複する。

別表3

東木津遺跡、土坑一覧表

番号	地区・グリッド	平面形	規模	備考
S K 100	西側調査地区 (4, 27) 区	不整形	長軸1.14m 短軸0.31m 深さ11cm	出土遺物: なし。
S K 101	西側調査地区 (3, 25) 区	不整形	長軸0.98m 短軸0.33m 深さは不明	S D63に切られる。 出土遺物: なし。
S K 102	西側調査地区 (3, 25) 区	不整橢円形	長軸0.26m 短軸0.12m 深さ17cm	出土遺物: なし。
S K 103	西側調査地区 (3, 25) 区	不整形	長軸1.38m 短軸0.71m 深さ4cm	出土遺物: なし。
S K 104	西側調査地区 (3, 24) 区	不整形	長軸1.18m 短軸0.35m 深さは不明	出土遺物: 須恵器。
S K 105	西側調査地区 (3, 23) 区	不整橢円形	長軸1.13m 短軸0.59m 深さ16cm	S B09と重複する。 出土遺物: なし。
S K 106	西側調査地区 (3, 23) 区	不整橢円形?	長軸1.07m 短軸0.48m 深さ15cm	S B09と重複する。 出土遺物: なし。
S K 107	西側調査地区 (3, 23) 区	不整橢円形	長軸0.90m 短軸0.84m 深さ13cm	S B09と重複する。 出土遺物: 土師器・須恵器。
S K 108	西側調査地区 (3, 22・23) 区	不整方形	長軸1.36m 短軸0.96m 深さ30cm	出土遺物: 土師器・須恵器。
S K 109	西側調査地区 (6, 25) 区	不整形	長軸1.48m 短軸1.41m 深さ26cm	S K110・111を切る。 出土遺物: 須恵器。
S K 110	西側調査地区 (6, 25) 区	不整形	長軸0.73m 短軸0.71m 深さ27cm	S K109に切られる。 出土遺物: 土師器・須恵器。

番号	地区・グリッド	平面形	規模	備考
S K111	西側調査地区 (6, 24) 区	不整形	長軸0.86m 短軸0.45m 深さ14cm	S K109に切られる。S K112を切る。 出土遺物；土師器。
S K112	西側調査地区 (5, 6, 24-25) 区	隅丸長方形	長軸2.34m 短軸0.77m 深さ33cm	S K111に切られる。S K113を切る。 出土遺物；須恵器、木片。
S K113	西側調査地区 (5, 24-25) 区	不整楕円形？	長軸1.60m 短軸1.19m 深さ35cm	S K112、S D63に切られる。 出土遺物；土師器、須恵器、木片。
S K114	西側調査地区 (6, 7, 24) 区	不整形	長軸2.51m 短軸2.20m 深さ30cm	出土遺物；土師器、須恵器、木片、櫛羽口。
S K115	西側調査地区 (7, 24) 区	不整形	長軸1.29m 短軸0.98m 深さ30cm	出土遺物；土師器、須恵器。
S K116	西側調査地区 (6, 7, 24) 区	不整円形	長軸1.41m 短軸1.39m 深さ22cm	出土遺物；土師器、須恵器。
S K117	西側調査地区 (7, 24) 区	不整方形	長軸1.67m 短軸1.18m 深さ21cm	出土遺物；土師器、須恵器。
S K118	西側調査地区 (7, 23-24) 区	不整楕円形	長軸2.54m 短軸0.48m 深さは不明	出土遺物；須恵器。
S K119	西側調査地区 (6, 23-24) 区	不整形	長軸2.76m 短軸1.49m 深さ17cm	出土遺物；須恵器・越中瀬戸、櫛羽口。
S K120	西側調査地区 (6, 22-23) 区	不整形	長軸0.97m 短軸0.58m 深さ15cm	出土遺物；なし。
S K121	西側調査地区 (5, 6, 22) 区	不整形	長軸1.33m 短軸1.24m 深さ25cm	出土遺物；土師器、須恵器。
S K122	西側調査地区 (5, 22) 区	不整楕円形	長軸1.00m 短軸0.70m 深さ11cm	S K123を切る。S B10と重複する。 出土遺物；土師器。
S K123	西側調査地区 (5, 22) 区	楕円形？	長軸0.66m 短軸0.52m 深さ20cm	S K122に切られる。S B10と重複する。 出土遺物；なし。
S K124	西側調査地区 (5, 22) 区	不整楕円形	長軸1.21m 短軸1.00m 深さ19cm	S B10と重複する。 出土遺物；土師器、須恵器。

番号	地区・グリッド	平面形	規模	備考
S K125	西側調査地区 (4, 22) 区	不整形	長軸1.30m 短軸0.60m 深さ18cm	擾乱、S K126に切られる。S B10と重複する。 出土遺物：土師器。
S K126	西側調査地区 (4, 5, 22) 区	不整橢円形	長軸1.21m 短軸0.61m 深さ18cm	S K125を切る。S B10と重複する。 出土遺物：土師器・須恵器。
S K127	西側調査地区 (5, 22) 区	不整橢円形	長軸1.55m 短軸1.15m 深さ22cm	S K128を切る。S B10・11と重複する。 出土遺物：土師器・須恵器。
S K128	西側調査地区 (5, 22) 区	不整形	長軸1.78m 短軸1.20m 深さ20cm	S K127、S X12に切られる。S B10・11と重複する。 出土遺物：土師器・須恵器。
S K129	西側調査地区 (7, 8, 20) 区	不整形	長軸1.71m 短軸0.36m 深さ8cm	出土遺物：なし。
S K130	西側調査地区 (8, 19) 区	不整円形	長軸0.80m 短軸0.77m 深さ26cm	出土遺物：土師器・須恵器。
S K131	西側調査地区 (9, 18・19) 区	隅丸方形？	長軸0.76m 短軸0.70m 深さ16cm	出土遺物：土師器・須恵器。
S K132	西側調査地区 (9, 21) 区	隅丸方形？	長軸0.61m 短軸0.56m 深さ22cm	S B12に切られる。 出土遺物：土師器。
S K133	西側調査地区 (10, 21) 区	不整形	長軸3.24m 短軸0.93m 深さ20cm	S B13に切られる。S K134を切る。S B12と重複する。 出土遺物：土師器・越中漬戸。
S K134	西側調査地区 (9・10, 21・22) 区	不整形	長軸1.82m 短軸0.50m 深さ16cm	S B13、S K133、櫻乱に切られる。S B12と重複する。 出土遺物：土師器・須恵器。
S K135	西側調査地区 (9, 21) 区	不整橢円形	長軸0.98m 短軸0.90m 深さ16cm	S B13に切られる。S B12と重複する。 出土遺物：土師器・須恵器。
S K136	西側調査地区 (9・10, 21) 区	不整形	長軸1.30m 短軸0.73m 深さ25cm	S B13に切られる。S B12と重複する。 出土遺物：土師器。
S K137	西側調査地区 (10, 21) 区	不整方形	長軸1.35m 短軸0.80m 深さ22cm	S B13、S K138を切る。S B12と重複する。 出土遺物：土師器・須恵器・越中漬戸。
S K138	西側調査地区 (10, 21) 区	不整橢円形？	長軸1.57m 短軸0.76m 深さ36cm	S K137に切られる。S B12・13と重複する。 出土遺物：土師器・須恵器。

番号	地区・グリッド	平面形	規模	備考
S K139	西側調査地区 (10, 21) 区	不整形	長軸0.86m 短軸0.26m 深さ20cm	S B13に切られる。S B12と重複する。 出土遺物；なし。
S K140	西側調査地区 (9, 20) 区	不整橢円形	長軸1.25m 短軸0.46m 深さ32cm	S B15と重複する。 出土遺物；土師漆。
S K141	西側調査地区 (11, 19・20) 区	不整橢円形	長軸0.77m 短軸0.70m 深さ16cm	出土遺物；なし。
S K142	西側調査地区 (11, 19) 区	不整橢円形	長軸0.87m 短軸0.58m 深さ17cm	出土遺物；土師器・須恵器・柱根。
S K143	西側調査地区 (10, 18) 区	橢円形？	長軸1.70m 短軸0.72m 深さ16cm	出土遺物；なし。
S K144	西側調査地区 (14, 19) 区	不整橢円形？	長軸0.89m 短軸0.71m 深さ27cm	S D60に切られる。 出土遺物；なし。
S K145	西側調査地区 (14, 18・19) 区	橢円形	長軸1.21m 短軸0.84m 深さ10cm	出土遺物；土師器・須恵器・輪羽口。
S K146	西側調査地区 (13, 18) 区	不整形	長軸1.60m 短軸1.00m 深さ52cm	S D60に切られる。S K147を切る。 出土遺物；なし。
S K147	西側調査地区 (13, 18) 区	不整橢円形？	長軸1.21m 短軸0.98m 深さ28cm	S K146、S D60に切られる。 出土遺物；須恵器、木片。
S K148	西側調査地区 (15, 18) 区	不整形	長軸1.00m 短軸0.62m 深さ18cm	出土遺物；土師器・須恵器。
S K149	西側調査地区 (13・14, 17) 区	不整形	長軸1.53m 短軸0.29m 深さ20cm	出土遺物；土師器・須恵器。
S K150	中央調査地区 (16, 16) 区	不整円形	長軸0.92m 短軸0.90m 深さ20cm	出土遺物；土師器・須恵器。
S K151	中央調査地区 (16・17, 16) 区	不整橢円形	長軸1.00m 短軸0.50m 深さ4cm	出土遺物；なし。
S K152	中央調査地区 (17・18, 16) 区	不整橢円形？	長軸1.10m 短軸0.90m 深さ24cm	S D85に切られる。 出土遺物；なし。

番号	地区・グリッド	平面形	規模	備考
S K153	中央調査地区 (18, 16) 区	椭円形	長軸1.36m 短軸1.10m 深さ18cm	出土遺物；土師器。
S K154	中央調査地区 (19, 16) 区	不整形？	長軸1.10m 短軸1.00m 深さ21cm	出土遺物；土師器・須恵器。
S K155	中央調査地区 (17, 15・16) 区	不整椭円形	長軸1.20m 短軸1.00m 深さ26cm	出土遺物；土師器・須恵器。
S K156	中央調査地区 (17, 15) 区	不整椭円形	長軸0.86m 短軸0.66m 深さ23cm	S D85に切られる。S A07と重複する。 出土遺物；土師器・須恵器。
S K157	中央調査地区 (17, 15) 区	不整方形	長軸0.82m 短軸0.70m 深さ28cm	S D85に切られる。S B16と重複する。 出土遺物；土師器・須恵器。
S K158	中央調査地区 (17, 15) 区	不整方形	長軸0.82m 短軸0.62m 深さ14cm	S B16と重複する。 出土遺物；土師器・須恵器。
S K159	中央調査地区 (17, 14・15) 区	隅丸方形？	長軸1.20m 短軸0.64m 深さ14cm	S D85に切られる。S B16と重複する。 出土遺物；土師器・須恵器。
S K160	中央調査地区 (17, 14・15) 区	隅丸方形？	長軸0.80m 短軸0.54m 深さ24cm	S D85に切られる。S B16と重複する。 出土遺物；土師器。
S K161	中央調査地区 (17, 14) 区	隅丸方形？	長軸0.60m 短軸0.50m 深さ11cm	S D85に切られる。S B16と重複する。 出土遺物；なし。
S K162	中央調査地区 (17・18, 14) 区	不整椭円形	長軸1.00m 短軸0.80m 深さ52cm	S K172に切られる。S B16と重複する。 出土遺物；土師器・須恵器。
S K163	中央調査地区 (16, 14) 区	不整椭円形	長軸0.80m 短軸0.54m 深さ18cm	出土遺物；なし。
S K164	中央調査地区 (16, 14) 区	隅丸方形？	長軸0.72m 短軸0.30m 深さ20cm	S B17を切る。 出土遺物；なし。
S K165	中央調査地区 (16, 14) 区	隅丸方形？	長軸0.74m 短軸0.58m 深さ12cm	S B17、S K166に切られる。 出土遺物；なし。
S K166	中央調査地区 (16, 14) 区	不整椭円形	長軸0.82m 短軸0.64m 深さ21cm	S K165を切る。S B17と重複する。 出土遺物；なし。

番号	地区・グリッド	平面形規模	備考
S K167	中央調査地区 (17, 14) 区	楕円形	長軸1.10m 短軸0.70m 深さ24cm S D85に切られる。 出土遺物；土師器・須恵器。
S K168	中央調査地区 (19・20, 14) 区	不整椭円形	長軸2.82m 短軸0.60m 深さ26cm S A08と重複する。 出土遺物；土師器・須恵器。
S K169	中央調査地区 (19, 13・14) 区	不整長方形	長軸4.60m 短軸0.90m 深さ22cm S B18を切る。 出土遺物；土師器・須恵器、木片。
S K170	中央調査地区 (19, 13・14) 区	楕円形	長軸0.70m 短軸0.60m 深さ28cm S K171を切る。S B18と重複する。 出土遺物；なし。
S K171	中央調査地区 (19, 13・14) 区	不整形形	長軸0.60m 短軸0.55m 深さ12cm S K170に切られる。S B18と重複する。 出土遺物；土師器。
S K172	中央調査地区 (18, 14) 区	不整椭円形	長軸0.76m 短軸0.70m 深さ36cm S B19に切られる。S K162を切る。 出土遺物；土師器。
S K173	中央調査地区 (17・18, 14) 区	不整椭円形	長軸0.80m 短軸0.48m 深さ34cm S B19と重複する。 出土遺物；須恵器。
S K174	中央調査地区 (18, 13・14) 区	隅丸方形	長軸0.90m 短軸0.68m 深さ24cm S K179に切られる。S B19と重複する。 出土遺物；なし。
S K175	中央調査地区 (17, 14) 区	不整形形	長軸0.82m 短軸0.68m 深さ28cm 出土遺物；土師器。
S K176	中央調査地区 (17, 14) 区	不整形形	長軸0.64m 短軸0.50m 深さは不明 S B19, S K177を切る。 出土遺物；土師器・須恵器。
S K177	中央調査地区 (17, 14) 区	不整椭円形？	長軸1.10m 短軸0.60m 深さ18cm S B19, S K176に切られる。 出土遺物；土師器。
S K178	中央調査地区 (18, 13) 区	不整椭円形	長軸1.08m 短軸0.78m 深さ14cm ピットに切られる。S B19と重複する。 出土遺物；なし。
S K179	中央調査地区 (18, 13) 区	不整形形	長軸2.45m 短軸1.10m 深さ46cm S K180・183に切られる。S K174を切る。 S B19と重複する。 出土遺物；土師器。
S K180	中央調査地区 (18, 13) 区	不整椭円形？	長軸0.92m 短軸0.78m 深さ38cm S K179・181を切る。S B19と重複する。 出土遺物；土師器・須恵器。

番号	地区・グリッド	平面形	規模	備考
S K181	中央調査地区 (18, 13) 区	楕円形?	長軸0.54m 短軸0.50m 深さ32cm	S K180に切られる。S B19と重複する。 出土遺物: 土師器。
S K182	中央調査地区 (18, 13) 区	楕円形	長軸0.92m 短軸0.76m 深さ26cm	S B19と重複する。 出土遺物: 土師器。
S K183	中央調査地区 (17・18, 13) 区	不整円形	長軸1.21m 短軸1.15m 深さ50cm	S K179を切る。S B19と重複する。 出土遺物: 土師器・須恵器。
S K184	中央調査地区 (17, 13・14) 区	椭丸方形	長軸0.56m 短軸0.44m 深さ18cm	出土遺物: なし。
S K185	中央調査地区 (17, 13・14) 区	不整楕円形	長軸1.00m 短軸0.70m 深さ20cm	S B19と重複する。 出土遺物: 須恵器。
S K186	中央調査地区 (17, 13) 区	不整楕円形	長軸0.96m 短軸0.60m 深さ7cm	S B19と重複する。 出土遺物: 土師器。
S K187	中央調査地区 (17・18, 13) 区	円形	長軸0.70m 短軸0.60m 深さ25cm	S B19と重複する。 出土遺物: なし。
S K188	中央調査地区 (17・18, 13) 区	不整長方形?	長軸2.30m 短軸0.36m 深さ22cm	S B19と重複する。 出土遺物: 土師器・須恵器。
S K189	中央調査地区 (18・19, 13・14) 区	不整円形	長軸0.90m 短軸0.70m 深さ15cm	出土遺物: 土師器・須恵器。
S K190	中央調査地区 (19, 13) 区	不整形	長軸1.60m 短軸0.80m 深さ46cm	出土遺物: 土師器・須恵器・轆羽口。
S K191	中央調査地区 (19, 13) 区	不整方形	長軸0.90m 短軸0.76m 深さ13cm	出土遺物: 土師器・須恵器。
S K192	中央調査地区 (18・19, 13) 区	不整長方形	長軸2.80m 短軸0.70m 深さ23cm	出土遺物: 土師器・須恵器。
S K193	中央調査地区 (18, 13) 区	円形	長軸0.74m 短軸0.64m 深さ26cm	出土遺物: 土師器。
S K194	中央調査地区 (21, 13・14) 区	不整形	長軸2.90m 短軸0.80m 深さ32cm	S D44・90を切る。 出土遺物: 土師器・須恵器。

番号	地区・グリッド	平面形	規模	備考
S K195	中央調査地区 (20, 12) 区	隅丸方形	長軸0.92m 短軸0.46m 深さ5cm	S X13を切る。 出土遺物；土師器・須恵器。
S K196	中央調査地区 (21・22, 12・13) 区	不整橢円形	長軸1.16m 短軸0.84m 深さ5cm	S X13を切る。S F01と重複する。 出土遺物；なし。
S K197	中央調査地区 (21, 12) 区	不整橢円形	長軸1.90m 短軸1.00m 深さ8cm	出土遺物；なし。
S K198	中央調査地区 (22, 12) 区	不整形	長軸1.72m 短軸0.34m 深さ24cm	出土遺物；土師器・須恵器。
S K199	中央調査地区 (22・23, 13) 区	不整形	長軸1.10m 短軸0.88m 深さ36cm	S F01、S D93に切られる。 出土遺物；土師器・須恵器。
S K200	中央調査地区 (22, 11) 区	不整橢円形	長軸0.70m 短軸0.60m 深さ40cm	出土遺物；なし。
S K201	中央調査地区 (24, 12) 区	不整橢円形	長軸0.86m 短軸0.30m 深さ10cm	出土遺物；なし。
S K202	中央調査地区 (23, 12) 区	不整橢円形？	長軸1.58m 短軸0.68m 深さ30cm	S F01、S D93に切られる。 出土遺物；なし。
S K203	中央調査地区 (23・24, 12) 区	隅丸長方形	長軸1.24m 短軸0.80m 深さ9cm	S F01と重複する。 出土遺物；なし。
S K204	中央調査地区 (23, 11) 区	不整橢円形	長軸1.30m 短軸0.88m 深さ36cm	S D94を切る。 出土遺物；土師器・須恵器。
S K205	中央調査地区 (24, 11) 区	隅丸方形	1辺0.80~0.90m 深さ9cm	S F01と重複する。 出土遺物；なし。
S K206	中央調査地区 (24, 11) 区	不整形	長軸0.96m 短軸0.60m 深さ17cm	S F01と重複する。 出土遺物；須恵器。
S K207	中央調査地区 (24, 11) 区	不整形	長軸1.06m 短軸0.76m 深さ14cm	S F01、S D94を切る。 出土遺物；須恵器。
S K208	中央調査地区 (23・24, 10) 区	不整形	長軸1.28m 短軸0.20m 深さ10cm	出土遺物；なし。

番号	地区・グリッド	平面形	規模	備考
S K209	中央調査地区 (25, 10・11) 区	楕円形	長軸1.48m 短軸0.48m 深さ11cm	S F01と重複する。 出土遺物:なし。
S K210	中央調査地区 (26, 11) 区	不整楕円形	長軸0.98m 短軸0.48m 深さ48cm	S F01と重複する。 出土遺物:なし。
S K211	中央調査地区 (26, 10) 区	楕円形	長軸0.70m 短軸0.64m 深さ6cm	S F01, S D95に切られる。 出土遺物:なし。
S K212	中央調査地区 (25, 10) 区	楕円形	長軸1.68m 短軸0.36m 深さ4cm	出土遺物:なし。
S K213	中央調査地区 (25, 9・10) 区	不整楕円形	長軸1.40m 短軸1.00m 深さ23cm	出土遺物:土師器・須恵器。
S K214	中央調査地区 (25, 9) 区	不整楕円形	長軸1.34m 短軸0.26m 深さ25cm	出土遺物:土師器。
S K215	中央調査地区 (27, 10・11) 区	不整形	長軸3.20m以上 短軸2.10m 深さ28cm	S F02, S D18に切られる。 出土遺物:土師器。
S K216	中央調査地区 (26・27, 10) 区	楕円形	長軸0.80m 短軸0.50m 深さ8cm	S F02と重複する。 出土遺物:土師器。
S K217	中央調査地区 (26, 9) 区	隅丸方形?	長軸0.80m 短軸0.46m 深さ6cm	S F02, S D100に切られる。 出土遺物:なし。
S K218	中央調査地区 (29, 9) 区	不整方形	長軸1.22m 短軸1.04m 深さ7cm	出土遺物:土師器。
S K219	東側調査地区 (35・36, 4) 区	不整楕円形	長軸2.20m 短軸1.90m 深さ40cm	出土遺物:土師器・須恵器・蓋巾・木片。
※図示した遺物				
S K107: 図面075-3016。				
S K128: 図面124-6053。				
S K142: 図面075-3002。				
S K169: 図面124-6066の一部、図面125-6074・6088、図面126-6096・6097・6110、図面127-6124の一部。				
S K190: 図面124-6066の一部、図面127-6124の一部。				
S K194: 図面123-6023・6034、図面124-6051・6060の一部、6127、図面125-6069、図面126-6103。				
S K198: 図面123-6037の一部、図面124-6056の一部。				
S K204: 図面125-6089・6092。				
S K214: 図面074-2033。				
S K219: 図面141-8034。				

別表 4

東木津遺跡、溝一覧表

番号	地区・グリッド	方 向	規 模	備 考
S D18	中央調査地区 (27・28, 7~10) 区	北北東~南南西	長さ14.50m以上 幅0.80~1.50m 深さ80cm	S F02側溝。S K215を切る。 出土遺物：土師器・須恵器、木製品。
S D25	中央調査地区 (27, 10・11) 区	北北東~南南西	長さ0.80m以上 幅約0.20m 深さ18cm	S F02側溝。 出土遺物：土師器。
S D44	中央調査地区 (19~21, 12~14) 区	北東~南西	長さ13.20m以上 幅0.40~1.00m 深さ40cm	想定区割り溝。S X13を切る。S K194に切られる。 出土遺物：土師器・須恵器。
S D60	西側調査地区 (10~14, 16~19) 区	南西~北東	長さ17.80m以上 幅4.00~8.40m 深さ88cm	S X11を付隨。S X18に切られる。S K144・146・147、SD72を切る。 出土遺物：土師器・須恵器、木製品。
S D61	西側調査地区 (4・5, 26・27) 区	北西~南東	長さ6.88m以上 幅0.26~0.46m 深さ17cm	想定区割り溝。 出土遺物：土師器。
S D62	西側調査地区 (3・4, 25~27) 区	北西~南東	長さ7.14m以上 幅0.77~1.14m 深さ21cm	想定区割り溝。S D63に切られる。S D64を切る。 出土遺物：土師器・須恵器。
S D63	西側調査地区 (3~6, 23~26) 区	北西~南東 北東~南西 (屈曲する)	長さ24.70m以上 幅0.28~0.67m 深さ15cm	想定区割り溝。S K101・113、SD62を切る。 出土遺物：土師器・須恵器。
S D64	西側調査地区 (5, 25・26) 区	北東~南西 北西~南東 (屈曲する)	長さ8.80m以上 幅0.48~1.08m 深さ24cm	想定区割り溝。S D62に切られる。 出土遺物：土師器・須恵器。
S D65	西側調査地区 (6, 25) 区	北西~南東	長さ1.36m以上 幅0.57~0.76m 深さ21cm	出土遺物；須恵器。
S D66	西側調査地区 (6・7, 24・25) 区	北東~南西	長さ1.48m以上 幅0.66~0.74m 深さ17cm	出土遺物；須恵器。
S D67	西側調査地区 (3・4, 22・23) 区	北東~南西	長さ6.35m以上 幅0.73~1.28m 深さ29cm	S B09を切る。 出土遺物：土師器・須恵器・珠。

番号	地区・グリッド	方 向	規 模	備 考
S D68	西側調査地区 (7, 20) 区	南北	長さ4.85m以上 幅0.32~1.20m 深さ10cm	S B10を切る。 出土遺物：土師器・越中漬戸・鉄。
S D69	西側調査地区 (9・10, 20・21) 区	北西~南東	長さ12.18m以上 幅0.32~0.64m 深さ12cm	想定区割り溝。 出土遺物：土師器・須恵器。
S D70	西側調査地区 (11, 20) 区	北東~南西	長さ3.19m以上 幅0.42~0.70m 深さ30cm	想定区割り溝。 出土遺物：土師器・須恵器。
S D71	西側調査地区 (11・12, 18~20) 区	北東~南西	長さ7.20m以上 幅0.71~1.30m 深さ22cm	想定区割り溝。S D72に切られる。 出土遺物：土師器・須恵器、木製品、種子。
S D72	西側調査地区 (10~12, 18・19) 区	北東~南西 (屈曲する)	長さ10.30m以上 幅0.47~0.91m 深さ22cm	想定区割り溝。S D71を切る。S D60 に切られる。出土遺物：土師器・須 恵器、木製品、種子。
S D73	西側調査地区 (12~15, 16~18) 区	北東~南西 (弯曲する)	長さ19.40m以上 幅0.30~1.55m 深さ19cm	出土遺物：土師器・須恵器・珠洲、木 片、砥石、種子。
S D74	西側調査地区 (15・16, 17) 区	東北東~西南西	長さ5.20m以上 幅0.77~1.39m 深さ11cm	出土遺物：土師器・須恵器。
S D75	西側調査地区 (14・15, 16・17) 区	北西~南東	長さ1.62m 幅0.37~0.78m 深さ20cm	S D78に切られる。 出土遺物：土師器。
S D76	西側調査地区 (14, 16) 区	北~南東	長さ1.33m 幅0.35~0.57m 深さ18cm	S D77に切られる。 出土遺物：なし。
S D77	西側調査地区 (14, 16) 区	東北東~西南西	長さ3.28m 幅0.38~0.78m 深さ15cm	S D78に切られる。S D76を切る。 出土遺物：なし。
S D78	西側・中央調査地区 (13~18, 16・17) 区	東~南西 (弯曲する)	長さ21.40m以上 幅0.70~2.10m 深さ24cm	S D85に切られる。S D75・77・79を 切る。出土遺物：土師器・須恵器・青 磁・越中漬戸・木片。
S D79	西側調査地区 (15, 16) 区	北北東~南南西	長さ2.24m 幅0.24~0.64m 深さ29cm	S D78に切られる。 出土遺物：なし。
S D80	西側調査地区 (14・15, 15) 区	北東~南西	長さ2.00m以上 幅0.40~0.60m 深さ19cm	S D81を切る。 出土遺物：土師器・須恵器。
S D81	西側・中央調査地区 (14~16, 15・16) 区	北西~南東	長さ7.40m 幅0.34~0.52m 深さ22cm	想定区割り溝。S D80に切られる。S D82を切る。 出土遺物：土師器・須恵器。

番号	地区・グリッド	方 向	規 模	備 考
S D82	中央調査地区 (15・16・15) 区	東西	長さ3.50m以上 幅0.58~1.30m 深さ12cm	S D81に切られる。 出土遺物；土師器・須恵器。
S D83	中央調査地区 (16・14・15) 区	北北東~南南西	長さ2.00m以上 幅0.20~0.70m 深さ36cm	S D82に切られる。 出土遺物；土師器。
S D84	中央調査地区 (17・18・16) 区	北北西~南南東	長さ3.50m 幅0.70~1.40m 深さ28cm	S D85に切られる。 出土遺物；土師器・須恵器。
S D85	中央調査地区 (17・18・13~17) 区	北北東~南南西	長さ15.50m以上 幅1.00~2.70m 深さ64cm	S B16、S A07、S K152・156・157・ 159~161・167、S D78・84を切る。 出土遺物；土師器・須恵器・木製品。
S D86	中央調査地区 (20・21・14) 区	北西~南東	長さ3.34m 幅0.30m 深さ22cm	S D87を切る。 出土遺物；なし。
S D87	中央調査地区 (21・14) 区	北西~南東	長さ0.70m以上 幅0.30m 深さ4cm	S D86に切られる。 出土遺物；なし。
S D88	中央調査地区 (19・12・13) 区	北東~南西	長さ1.84m以上 幅0.20~0.44m 深さ10cm	S D89を切る。 出土遺物；なし。
S D89	中央調査地区 (19・12・13) 区	北西~南東	長さ1.86m 幅0.14~0.20m 深さ4cm	S D88に切られる。 出土遺物；なし。
S D90	中央調査地区 (21・22・13・14) 区	北東~南西 西北西~東南東 (弯曲する)	長さ5.50m以上 幅0.30m 深さ14cm	S K194に切られる。 出土遺物；土師器。
S D91	中央調査地区 (21・22・13) 区	西北西~東南東	長さ7.40m 幅0.50~1.00m 深さ7cm	出土遺物；土師器・須恵器・木片・繩 割口。
S D92	中央調査地区 (22~24・13) 区	西北西~東南東 (屈曲する)	長さ7.30m以上 幅0.30~1.00m 深さ28cm	出土遺物；土師器・須恵器。
S D93	中央調査地区 (21~26・11~13) 区	西北西~東南東	長さ27.20m 幅0.50~1.00m 深さ30cm	S F01側溝。 S K199・202を切る。 出土遺物；土師器・須恵器・木片。
S D94	中央調査地区 (23~25・11~12) 区	西北西~東南東	長さ10.70m 幅0.50~0.70m 深さ46cm	S F01側溝。 S K204・207に切られる。 出土遺物；土師器・須恵器。
S D95	中央調査地区 (25・26・10・11) 区	西北西~東南東	長さ7.00m 幅0.30~0.80m 深さ24cm	S F01側溝。 S K211、S D96を切る。 出土遺物；土師器・須恵器。

番号	地区・グリッド	方 向	規 模	備 考
S D96	中央調査地区 (25, 10) 区	北東～南西	長さ1.84m 幅0.28～0.40m 深さ6cm	S D95に切られる。 出土遺物；なし。
S D97	中央調査地区 (26, 11) 区	北北東～南南西	長さ1.30m以上 幅0.40～0.60m 深さ34cm	出土遺物；土師器・須恵器。
S D98	中央調査地区 (26, 9・10) 区	北西～南東 (弯曲する)	長さ5.00m 幅0.40～1.20m 深さ5cm	S D100に切られる。 出土遺物；土師器・須恵器。
S D99	中央調査地区 (25・26, 8・9) 区	北北東～南南西 (屈曲する)	長さ4.60m 幅0.36～1.02m 深さ28cm	S D100に切られる。 出土遺物；土師器。
S D100	中央調査地区 (26, 8・9) 区	北北東～南南西	長さ7.10m以上 幅0.60～0.90m 深さ35cm	S F02側溝。 SK217、S D98・99を切る。 出土遺物；土師器・須恵器。
S D101	中央調査地区 (27, 8) 区	北東～南西	長さ1.56m以上 幅0.26～0.40m 深さ26cm	S X16に切られる。 出土遺物；なし。
※図示した遺物				
S D18	図面122-6005-6007、図面123-6024、図面124-6048・6055・6057・6119、図面125-6080・6081・6083、 図面126-6106、図面127-6121、図面153-8134、図面158-8177、(6006は一部の出土)。			
S D44	図面122-5008、図面124-6060の一部、図面125-6084、図面127-6126。			
S D60	図面076-082-4001-4168、図面083-121-5001-5926、図面134-0201-0206、図面137-8001-8002・ 8005-8007、図面138-8008-8013、図面139-8016-8018・8020-8022・8023、図面140-8024-8025・8028 -8030・8032・8033、図面141-8035-8038・8040-8045・8047、図面142-8048-8051・8053・8054・8056- 8058、図面143-8059-8073・8075、図面144-8076-8086、図面145-8087-8089・8098、図面146-8090- 8097・8099、図面147-8101-8103、図面148-8104-8106、図面149-8107-8110、図面150-8111-8113、 図面151-8116-8122、図面152-8124-8131、図面153-8132・8133・8135・8136・8139-8143、図面154- 8144-8150・8152-8154・8156-8158、図面156-8162-8166、図面157-8167-8174、図面158-8175・8176 -8178、図面159-8181-8190・8192・8193、図面160-8194-8196・8198・8200、図面161-8201-8202・82 04-8206。			
S D62	図面075-3006-3018。			
S D67	図面075-3013-3027。			
S D69	図面075-3007。			
S D70	図面075-3003。			
S D71	図面075-3001、図面153-8137、図面154-8159、図面160-8197。			
S D72	図面152-8151。			
S D73	図面075-3004・3005・3017・3024・3025。			
S D84	図面125-6068の一部。			
S D85	図面122-6001・6009・6014、図面121-6032・6061・6067・6068の一部・6094、図面125-6071・6073・60 75・6079・6082・6087・6091、図面126-6108、図面127-6123・6129・6130。			
S D91	図面122-6010、図面123-6019・6022の一部・6025・6032、図面124-6054、図面126-6098・6101。			
S D93	図面122-6011・6013、図面123-6020・6022の一部・6027・6029・6036・6038・6039・6041・6042、図面 124-6050・6064・6065、図面126-6095・6099・6100・6102・6104・6105・6113・6116。			
S D94	図面123-6016・6026・6037の一部、図面124-6047・6056の一部・6063、図面125-6077。			
S D95	図面122-6006の一部・6012、図面123-6028、図面124-6049・6058・6062。			
S D100	図面073-2039、図面124-6059、図面127-6122。			

別表5 石塚遺跡、土器類観察表

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
1. 弥生時代の土器類					
1101	051	弥生土器・高杯	—	高杯の脚部・柱状部より上方は欠損、脚下部に凹孔が4箇所付く。 鉢A 1類。口縁部は直線的に延びる。	SX01W
1102	051	弥生土器・鉢	16.2	鉢A 2類。口縁部は内窵して外上方へ拡がる。	SX01W
1103	051	弥生土器・鉢	14.0	鉢A 1類。立ち上がった口縁部から垂下する部分が付く、口端部外面は1.5条の櫛描羽状文が廻る。	SX01W
1104	051	弥生土器・壺	28.6	壺A 1類。立ち上がった口縁部から垂下する部分が付く、口端部外面は1.5条の櫛描羽状文が廻る。	SX01W
1105	051	弥生土器・壺	26.9	壺A 1類。立ち上がった口縁部から垂下する部分が付く、口端部外面は2条の櫛描羽状文が廻る。	SX01W
1106	051	弥生土器・壺	13.0	壺A 1類。口端部外面に1.5条の櫛描羽状文が廻る。頸部は、内面が刷毛目、外側が刷毛目・ヘラ磨き。	SX01W
1107	051	弥生土器・壺	11.4	壺A 1類。口端部外面に1.5条の櫛描羽状文が廻る。頸部は刷毛目。	SK161
1108	052	弥生土器・壺	13.4	壺B 1 a類。口縁部は上方に延びた後、外上方へ拡がる、口端部は波状にする。口縫・胴上部は、内外面とも刷毛目。	SX01W
1109	052	弥生土器・壺	14.4	壺B 1 c類。緩くくの字形状に折れる口縁部が付く、口端部は素文。胴下半部内面以外、刷毛目調整が基本。	SX01W
1110	052	弥生土器・壺	—	壺B 1 e類。壺の近傍、1109の同一個体と推定される。	SX01W
1111	052	弥生土器・壺	16.2	壺B 2 a類。口縁部は外反する、口端部を波状にする。刷毛目調整が基本、内面は刷毛上部・底部がナデ、外面部下部は跳ねらへラ磨き。	SX01W
1112	052	弥生土器・壺	16.3	壺B 2 a類。口縁部は外反する、口端部を波状にする。	SX01W
1113	052	弥生土器・壺	13.0	壺B 2 b類。口縁部は外反する、口端部外面は櫛描斜行文が廻る。刷毛目調整が基本。内面は、胴上部がナデを加える。胴下・底部はナデ。外側は、胴部がやや密なヘラ磨きを加える。	SD62
1114	052	弥生土器・壺	18.1	壺B 2 b類。口縁部は内外とも赤彩。口端部外面は櫛描交叉文が廻る。口縁部は、内面がナデ・ヘラ磨き、外側が刷毛目でややヘラ磨き。	SX01W
1115	053	弥生土器・壺	20.2	壺C 1 b類。外側は赤彩、口縁部はすばまり外方へ開く。口端部内面に2.5条の櫛描羽状文が廻る。	SX01W
1116	053	弥生土器・壺	20.6	壺C 1 b類。口縁部は、内面全体と外面上方が赤彩。口縫部は外上方へ拡がる。口縫部内面は、1条の櫛描羽状文と半截竹葉状の文様が廻る。頸部外面には廻り2条の沈線文が廻る。	SX01W
1117	053	弥生土器・壺	18.5	壺C 2 b類。口縫部内面は2条の櫛描羽状文が廻る、口端部外面は櫛描刻み目文が廻る、頸部外面は廻り突帯が廻り、沈線文が3条横に廻る。	SX01W
1118	053	弥生土器・壺	19.3	壺C 2 b類。口縫部は、内面が3条の櫛描短線文・円形浮文等、外側が櫛描刻み目文が廻る、頸・胴上部外側は、4条の櫛描直線文・5条の櫛描横線文が廻り、円形浮文が付く。	SZ02
1119	053	弥生土器・壺	18.4	壺C 2 b類。口縫部は外反して外上方へ開く、口端部は、内面が1.5条の櫛描羽状文、外側が櫛描斜行短線文が廻る。	SK165
1120	053	弥生土器・壺	19.3	壺C 2 b類。口縫部は外反して外上方へ開く、口縫部は、内面が2条の櫛描羽状文、外側が櫛描刻み目文が廻る。	SZ08

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
1121	053	弥生土器・壺	19.4	壺C 2 b類。口端部は、内面が2条の櫛描羽状文、外面が櫛描縦状文が廻る。	SK161
1122	054	弥生土器・壺	17.2	壺C 2 b類。口端部は、内面が2条の櫛描羽状文・円形浮文・櫛描垂下文、外面が交叉する櫛描刻み目文が廻る。	SX01W
1123	054	弥生土器・壺	13.9	壺C 2 b類。口端部は、内面に3条の櫛描短線文、外面が櫛描刻み目文が廻る。	SK163
1124	054	弥生土器・壺	14.1	壺C 3 箇。口端部上面に貼り付け突帶が付き、1条の櫛描羽状文が廻る、口端部外下面に櫛描刻み目文が廻る。	SD62
1125	051	弥生土器・壺	10.6	頸部が細長く延び、口縁部は外反する、素文。	SZ08
1126	051	弥生土器・壺	7.5	頸部が細長く延び、口縁部は外上方へ抵がる、素文。	SX01W
1127	051	弥生土器・壺	-	頸部が細長く延びる、口縁部は欠損する、肩部外側は3条の櫛描横線文・竹管文が廻る。	SK165
1128	051	弥生土器・壺	-	外来系の上器、口縁部と底部は欠損する。内面は胴上部がナデ、胴中央下部が刷毛目、外面は全体的にヘラ磨き、胴上部はヘラ描文。	SX01W
1129	054	弥生土器・壺	-	外面は赤彩、頸部外面に突帶が廻り、櫛描交叉文が付く。	SZ08
1130	054	弥生土器・壺	-	壺の胴上・中央部。胴部外側は、櫛描縦状文・竹管文が3組廻る。	SX01W
1131	054	弥生土器・壺	-	壺の頸・胴・底部分、口縁部は欠損している、刷毛目調整が基本。	表土
1132	054	弥生土器・壺	-	壺の頸・胴部、口縁・底部分は欠損している、刷毛目調整が基本。	SX01W
1133	055	弥生土器・壺	-	壺の胴下・底部分、刷毛目調整が基本。	SK163
1134	055	弥生土器・壺	-	壺の胴下・底部分、胴下・底部外面はヘラ削り。	SZ08
1135	055	弥生土器・壺	-	壺の胴下・底部分、刷毛目調整が基本。	SD62
1136	055	弥生土器・壺	-	壺の胴下・底部分、底面に木の葉文が付く。	SX01W
1137	055	弥生土器・壺	-	壺の胴下・底部分。 ※ S Z08とS D61から出土。	SZ08他
1138	054	弥生土器・壺	-	壺の脚部台、外面に竹管文が廻る。	表土
1139	054	弥生土器・壺	-	壺の脚部台。	表土
1140	056	弥生土器・壺	9.5	無頸壺A 1 a類。口端部に円孔が付く、口縁・胴上部には、2条の櫛描横線文・3条の櫛描縦状文・4状のヘラ描山形文が廻る。刷毛目調整が基本、外面の刷毛目は圓面では省略。	SX01W
1141	056	弥生土器・壺	10.4	無頸壺A 1 b類。口縁・胴上部は外面赤彩。口端部外面に1条の櫛描羽状文が廻る。内面は刷毛目・指圧、外面は刷毛目・ナデ。	SX01W
1142	056	弥生土器・壺	9.2	無頸壺A 1 d類。口端部に円孔が付く、胴上部外面に、繩文・ヘラ描横線文・ヘラ描山形文が廻る。	SK159
1143	056	弥生土器・壺	10.0	無頸壺A 1 e類。口端部に円孔が付く、磨滅している。	SX01W
1144	056	弥生土器・壺	8.8	無頸壺A 1 e類。口端部に円孔が付く、内面は刷毛目、外面はナデ。	SD62
1145	056	弥生土器・壺	9.6	無頸壺A 1 e類。口端部に円孔が付く、内面ナデ・指圧、外面ナデ。	SX01W
1146	056	弥生土器・壺	10.2	無頸壺A 1 e類。内面は刷毛目で下部はナデる、外面はヘラ磨き・ナデ。	SX01W
1147	056	弥生土器・壺	9.5	無頸壺A 2類。口端部に円孔が付く。全体的にナデだが、やや磨滅している。	SX01W
1148	056	弥生土器・壺	7.3	無頸壺A 2類。口端部に円孔が付く。	SX01W
1149	056	弥生土器・壺	11.3	無頸壺A 3 b類。口縁部上面に突帶を貼り付け、櫛描交叉文が廻り、円孔が付く。	SK164
1150	056	弥生土器・壺	18.8	無形壺B類。素文。口端部に円孔が付く。刷毛目で調整が基本、胴下・底部外面はヘラ削り。	SX01W

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
1151	054	弥生土器・甕	-	壺蓋。外面はヘラ描沈線文が織杉状に4方へ付く、円孔が2つ1組で1箇所確認される。	SX159
1152	057	弥生土器・甕	21.1	甕A 1 b - α類。口端部は、内面が1.5条の櫛描羽状文、外面が櫛描刻み目文が廻る。	SX01W
1153	057	弥生土器・甕	15.7	甕A 1 b - γ類。口端部は櫛描刻み目文が廻る。	SX01W
1154	057	弥生土器・甕	16.0	甕A 1 c類。口端部はやや丸く終り、素文。	表土
1155	057	弥生土器・甕	15.8	甕A 1 c類。口端部はやや丸く終り、素文。	SX01W
1156	057	弥生土器・甕	14.8	甕A 1 c類。口端部はやや丸く終り、素文。	SX01W
1157	057	弥生土器・甕	15.6	甕A 1 c類。口端部はやや丸く終り、素文。	SX01W
1158	057	弥生土器・甕	12.1	甕A 1 c類。口端部はやや丸く終り、素文。	SX01W
1159	058	弥生土器・甕	26.8	甕A 2 a類。口端部は波状になる。	SZ08
1160	058	弥生土器・甕	22.2	甕A 2 a類。口端部は波状になる。内面はナデで平滑になる、外面は弱い刷毛目。	SX01W
1161	058	弥生土器・甕	25.2	甕A 2 b - α類。口端部は、内面に3条の櫛描羽状文、外面に櫛描刻み目文が廻る。	SX01W
1162	058	弥生土器・甕	22.3	甕A 2 b - α類。口端部は、内面に1条の櫛描羽状文、外面に櫛描刻み目文が廻る。	SX01E
1163	058	弥生土器・甕	19.9	甕A 2 b - α類。口端部は、内面に2条の櫛描羽状文、外面に櫛描刻み目文が廻る。	SX01W
1164	058	弥生土器・甕	23.1	甕A 2 b - α類。口端部は、内面に1.5条の櫛描羽状文、外面に櫛描刻み目文が廻る。	SX01W
1165	058	弥生土器・甕	22.8	甕A 2 b - α類。口端部は、内面に3条の櫛描短線文、外面に櫛描刻み目文が廻る。	SX01W
1166	059	弥生土器・甕	20.2	甕A 2 b - β類。口端部内面は櫛描刻み目文が廻る。刷毛目調整が基本。胴部内面はナデが主体。	SX01W
1167	059	弥生土器・甕	21.7	甕A 2 b - β類。口端部内面は1.5条の櫛描羽状文が廻る。	SK161
1168	059	弥生土器・甕	21.4	甕A 2 b - β類。口端部内面は円形文が廻る。刷毛目調整が基本。	SX01W
1169	059	弥生土器・甕	26.9	甕A 2 b - γ類。口端部外表面は櫛描刻み目文が廻る。	SD62
1170	059	弥生土器・甕	20.2	甕A 2 b - γ類。口端部外表面は櫛描刻み目文が廻る。	SX01W
1171	059	弥生土器・甕	20.2	甕A 2 b - γ類。口端部外表面は櫛描刻み目文が廻る。	SX01W
1172	059	弥生土器・甕	20.5	甕A 2 b - γ類。口端部外表面は櫛描刻み目文が廻る。	SZ08
1173	059	弥生土器・甕	15.7	甕A 2 b - β類。口端部外表面は櫛描刻み目文が廻る。やや小型の甕。刷毛目調整が基本。胴下半部内面はナデが主体。	SX01W
1174	060	弥生土器・甕	22.1	甕A 2 c類。口端部は素文。底部は穿孔されている。刷毛目調整が基本。内面はナデを加える。	SX01W
1175	060	弥生土器・甕	23.8	甕A 2 c類。口端部は素文。	SX01W
1176	060	弥生土器・甕	19.8	甕A 2 c類。口端部は素文。	SX01W
1177	060	弥生土器・甕	18.2	甕A 2 c類。口端部は素文。	SX01W
1178	060	弥生土器・甕	16.0	甕A 2 c類。口端部は素文。刷毛目調整で、内面はナデを加える。	SD62
1179	060	弥生土器・甕	18.6	甕A 2 c類。口端部は素文。刷毛目調整で、内面はナデを加える。	SX01W
1180	060	弥生土器・甕	26.6	甕A 2 c類。口端部は素文。	SK164
1181	057	弥生土器・甕	20.5	甕B 2類。口端部は綱い受口状になる。胴部は内外面とも弱い刷毛目調整。	SX01W

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
1182	057	弥生土器・甕	16.0	甕B 2類。口縁部はやや受口状になる。	SX01W
1183	057	弥生土器・甕	16.7	甕の口縁・肩部。口端部は短く外方へ開く。	SX01W
1184	060	弥生土器・甕	-	甕の胴下・底部。	SD62
1185	060	弥生土器・甕	-	甕の胴下・底部。	SK161
1186	057	弥生土器・甕	-	甕の底・脚台部。	SX01W
1187	057	弥生土器・甕	-	甕の底・脚台部。	SX01W

2. 古墳時代前期の土器類

1201	061	土師器・壺	-	複合口縁の壺? 口縁部は欠損している。外面は赤彩、胴部は、内面が指圧・ナデ、外面がヘラ磨き。	SX01E
1202	061	土師器・壺	12.3	複合口縁の壺。底部中央を傷かに欠損するが、丸底の底部と推定。内面口縁部と外面の口縁・胴上半部はヘラ磨きが主体。	SX01W
1203	061	土師器・壺	13.6	複合口縁の壺。	SX01E
1204	061	土師器・壺	-	複合口縁の壺? 口縁部は欠損している。	SX01E
1205	061	土師器・壺	9.8	複合口縁の壺。頸部以下を欠損するが、1206と同一個体の可能性がある。口縁部はヘラ磨き、口端部内面と外面は赤彩。	SX01W
1206	061	土師器・壺	-	複合口縁の壺? 頸部以上を欠損するが、1205と同一個体の可能性がある。内面はナデ、外面はヘラ磨き、底面はナデ。	SX01W
1207	061	土師器・壺	6.8	小型丸底壺。内面は、口縁部が横ナデ、胴底部がナデ、外面は、口縁部が横ナデ、胴上中央部がナデ・指圧、胴下底部がヘラ削り。	SX01E
1208	061	土師器・壺	14.4	やや縱長球形の胴部に、くの字状に折れる口縁部が付く。口縁部内面はヘラ磨き、外面は、胴上中央部が刷毛目、胴下部がヘラ磨き。	SX01E
1209	062	土師器・甕	21.4	倒卵形の胴部に外反して外上方に拡がる口縁部が付く。内面は口縁部が横ナデ、胴部が刷毛目・ナデ、外面は頭部が刷毛目。	SX01W
1210	062	土師器・甕	13.1	張りのない胴上部に、外反して短く立ち上がる口縁部が付く。口縁部は横ナデ、胴上部は、内面がナデ、外面が刷毛目。	SX01E
1211	062	土師器・甕	16.8	外反して外上方に拡がる口縁部は、横ナデにより口唇面を形成している。刷毛目調整が基本で、胴下底部はヘラ削り。	SX01E
1212	062	土師器・甕	13.4	外反して外上方に拡がる口縁部は、横ナデにより口唇面を形成し、上下へつまみ上げたようになる。刷毛目調整が基本。	SX01W
1213	062	土師器・甕	17.0	複合口縁の甕、磨減しており、調整等は不明。	SX01E
1214	062	土師器・甕	18.5	複合口縁の甕、胴部は、内面がヘラ削り、外面が刷毛目。	SD62
1215	062	土師器・甕	11.8	外反して外上方に拡がる口縁部は、横ナデにより口唇面を形成し、上下へつまみ上げたようになる。刷毛目調整が基本。	SX01W
1216	062	土師器・甕	12.5	複合口縁の甕、胴部は、内面がヘラ削り、外面が刷毛目。	SD62
1217	062	土師器・甕	14.7	複合口縁の甕、胴部は、内面がヘラ削り、外面が刷毛目。	SX01W

3. 奈良平安時代の土器類

1301	063	土師器・鉢	19.0	口縁部はくの字状に折れる。	SX01E
1302	063	土師器・甕	20.0	口端部はやや肥厚しつみ上げる。	SX01E
1303	063	土師器・甕	21.5	口端部は巻き込んでいる。	SX01W
1304	063	須恵器・杯A	12.3	底部はヘラ切り。	表土
1305	063	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	表上

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
1306	063	須恵器・杯A	13.2	底部はヘラ切り、口縁部は欠損している。	SX01E
1307	063	須恵器・杯A	—	底部はヘラ切り、口縁部は欠損している。	SX01E
1308	063	須恵器・杯B	16.2	底部はヘラ切り。	SX01E
1309	063	須恵器・杯B	15.2	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	SX01E
1310	063	須恵器・杯B	15.1	底部はヘラ切り、底部内面は研磨、やや墨付着。	SX01E
1311	063	須恵器・杯B	13.2	底部はヘラ切り。	表土
1312	063	須恵器・杯B	—	底部はヘラ切り、口縁部は欠損している。	SX01E
1313	063	須恵器・杯B	—	底部はヘラ切り、口縁部は欠損している。	SX01E
1314	063	須恵器・杯B	—	底部はヘラ切り、口縁部は欠損している、全体的に自然釉。	SX01E
1315	063	須恵器・杯	—	双耳杯、耳部は基部のみ残存。	SX01E
1316	063	須恵器・杯	18.0	杯の口縁部片。	SX01E
1317	063	須恵器・杯	16.6	杯の口縁部片。	SX01E
1318	063	須恵器・杯	9.0	杯の口縁部片。	SX01E
1319	063	須恵器・杯蓋	17.5	宝珠形つまみが付く、天井部はナデ、天井部外表面はヘラ削り。	SX01E
1320	063	須恵器・杯蓋	16.7	宝珠形つまみが付く、天井部外表面はヘラ削り。	SX01E
1321	063	須恵器・杯蓋	17.5	天井部中央は欠損している、天井部外表面はヘラ削り。	SX01E
1322	063	須恵器・杯蓋	10.2	天井部中央は欠損している、天井部外表面はヘラ切り痕。	SX01E
1323	063	須恵器・横瓶	11.9	内面はあて具痕、外表面は叩目。	SX01E
4. 中近世の土器類					
1401	064	土師器・皿	15.4	非クロコの土師器、内面と口縁部外表面は横ナデ、底部外表面はナデ。	SX01E
1402	064	土師器・皿	15.0	非クロコの土師器、内面と口縁部外表面は横ナデ、底部外表面はナデ。	SX01E
1403	064	土師器・皿	14.0	非クロコの土師器、内面と口縁部外表面は横ナデ、底部外表面はナデ。	SX01E
1404	064	土師器・皿	13.3	非クロコの土師器、内面と口縁部外表面は横ナデ、底部外表面はナデ。	SX01E
1405	064	土師器・皿	13.0	非クロコの土師器、内面と口縁部外表面は横ナデ、底部外表面はナデ。	SX01E
1406	064	土師器・皿	12.2	非クロコの土師器、内面と口縁部外表面は横ナデ、底部外表面はナデ。	表土
1407	064	土師器・皿	12.2	非クロコの土師器、内面と口縁部外表面は横ナデ、底部外表面へラ削り。	SX01E
1408	064	土師器・皿	10.6	非クロコの土師器、内面と口縁部外表面は横ナデ、底部外表面はナデ。	SX01E
1409	064	土師器・皿	9.7	非クロコの土師器、内面と口縁部外表面は横ナデ、底部外表面はナデ。	SX01E
1410	064	土師器・皿	8.8	非クロコの土師器、内面と口縁部外表面は横ナデ、底部外表面はナデ。	SX01E
1411	064	土師器・皿	11.4	非クロコの土師器、内面と口縁部外表面は横ナデ、底部外表面はナデ。	SX01E
1412	064	珠洲・鉢	40.0	オロシ口が確認できる。	表土
1413	064	珠洲・壺	24.2	中型壺の口縁部。	SX01E
1414	064	珠洲・壺	62.4	壺の口縁部、口端部は玉縁状に肥厚する。	表土
1415	064	珠洲・壺	65.6	壺の口縁部、口端部は玉縁状に肥厚する。	表土
1416	064	越中漬口・椀	12.0	椀の口縁部。	表土
1417	064	越中漬戸・皿	15.0	皿の口縁部。	表土
1418	064	越中漬口・椀皿	—	椀皿の底・高台部。	表土
1419	064	越中漬戸・椀皿	—	椀皿の底・高台部。	表土
1420	064	越中漬口・椀皿	—	椀皿の底・高台部。	表土
1421	064	越中漬口・壺	7.4	小型の壺、おはぐろ壺、底部に墨書「上幸」。	SX01E

別表6 東木津遺跡、土器類観察表

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
1. 古墳時代の土器類					
2001	071	土師器・高杯	19.2	脚部内面以外は全体的にヘラ磨き。	東側地区
2002	071	土師器・高杯	19.0	全体的にヘラ磨き。	東側地区
2003	071	土師器・高杯	16.2	脚部内面以外は全体的にヘラ磨き、一部に刷毛目。	東側地区
2004	071	土師器・高杯	18.3	杯部はヘラ磨き。	東側地区
2005	071	土師器・高杯	14.4	杯部はヘラ磨き。	東側地区
2006	071	土師器・高杯	—	脚部内面以外赤彩、杯底部内面と脚部外面はヘラ磨き。	東側地区
2007	071	土師器・高杯	—	脚部は、内面がナデ、刷毛目・ヘラ状具等、外面がヘラ磨き。	東側地区
2008	071	土師器・高杯	—	内面は刷毛目等、外面はヘラ磨き。	東側地区
2009	071	土師器・高杯	—	脚上部は全体的にヘラ磨き。	東側地区
2010	071	土師器・杯	12.2	外面赤彩、内面は横ナデ・ナデ、外面は刷毛目・指圧・ヘラ削り。	東側地区
2011	072	土師器・壺	18.5	大型の壺で底部は欠損、肩部外面は刷毛目。	東側地区
2012	073	土師器・壺	17.0	肩部は刷毛目。	東側地区
2013	073	土師器・壺	14.0	肩部は刷毛目。	東側地区
2014	071	土師器・壺	9.2	全面赤彩、全体的にヘラ磨き。	東側地区
2015	071	土師器・壺	10.3	口縁部は横ナデ。	東側地区
2016	071	土師器・壺	7.9	肩部はナデ、底部はヘラ削り。	東側地区
2017	071	土師器・壺	7.3	外面赤彩、口縁部外面はヘラ磨き。	東側地区
2018	071	土師器・壺	13.0	全面赤彩、全体的にヘラ磨き。	東側地区
2019	071	土師器・壺	11.4	肩部外面は刷毛目。	中央地区
2020	071	土師器・壺	11.8	全面赤彩、口縁部と肩上部外面はヘラ磨き。	東側地区
2021	073	土師器・壺	—	底部片・内面は刷毛目・外面はヘラ磨き・ヘラ削り。	東側地区
2022	073	土師器・壺	—	底部片・刷毛目・ナデ。	東側地区
2023	073	土師器・壺	—	外面赤彩、底部片・肩下・底部外面はヘラ磨き、底面はヘラ削り。	東側地区
2024	073	土師器・壺	—	外面赤彩・脚部片・脚部内面はヘラ磨き。	東側地区
2025	072	土師器・壺把手	—	全面赤彩、沈線が入る。	東側地区
2026	072	土師器・壺蓋	6.9	天井部はナデ、口縁部は横ナデ・磨滅している。	中央地区
2027	072	土師器・器台	28.8	外面に棗が付き抜がる口縁部、全体的にヘラ磨き。	東側地区
2028	072	土師器・器台	23.6	外面に棗が付き抜がる口縁部、全体的にヘラ磨き。	東側地区
2029	072	土師器・器台	—	杯部と脚部外面は赤彩。	東側地区
2030	072	土師器・器台	—	杯部と脚部外面はヘラ磨き、脚部内面は横ナデ・ヘラ削り。	東側地区
2031	072	土師器・器台	—	外面赤彩、脚部に円孔が付く。	東側地区
2032	072	土師器・器台	—	脚部内面以外赤彩、杯部と脚部外面はヘラ磨き。	東側地区
2033	074	土師器・壺	16.8	口縁部外面に疑問線文、肩部は、内面がヘラ削り・外面が刷毛目。	中央地区
2034	074	土師器・壺	18.5	口縁部外面に疑問線文、肩部内面はヘラ削り。	東側地区
2035	074	土師器・壺	15.8	肩上部外面は刷毛目・ナデ。	東側地区
2036	074	土師器・壺	15.1	肩部内面は刷毛目。	東側地区

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
2037	074	土師器・甕	14.0	肩部は、内面がナデ・指圧、外面が刷毛目。	東側地区
2038	074	土師器・甕	13.0	胴部は、内面がナデ、外面が刷毛目・ナデ、外面に煤。	東側地区
2039	073	土師器・甕	14.0	胴上部外面は刷毛目。	中央地区
2040	073	土師器・甕	17.6	肩部は、内面がヘラ削り、外面が刷毛目。	東側地区
2041	073	土師器・甕	16.8	肩部は、内面がナデ、外面が刷毛目。	東側地区
2042	073	土師器・甕	17.0	肩部内面はナデ。	東側地区
2043	073	土師器・甕	15.7	肩部内面は刷毛目。	中央地区
2044	073	土師器・甕	15.2	肩部は、内面がヘラ削り、外面が刷毛目。	東側地区
2045	073	土師器・甕	14.0	胴上部は刷毛目。	東側地区
2046	073	土師器・甕	14.9	肩部は、内面がヘラ削り、外面が刷毛目。	東側地区
2047	074	土師器・甕	14.5	胴部内面がナデ・ヘラ削り、外面が刷毛目で一部ヘラ削り、外面煤。	中央地区
2048	074	土師器・甕	20.0	肩部は、内面がナデ、外面が刷毛目。	東側地区
2049	074	土師器・甕	15.2	胴上部は、内面がナデ・指圧、外面が刷毛目、外面に煤。	東側地区
2050	074	土師器・甕	14.0	胴上部は、内面がナデ、外面が刷毛目、外面に煤。	東側地区
2051	074	土師器・甕	15.4	胴部は、内面が刷毛目・ナデ、外面が刷毛目・指圧。	東側地区

2. 奈良平安時代の土器類、西側調査地区・溝SD60以外の出土土器

3001	075	土師器・椀	12.5	全面赤彩、底部糸切り。	SD71
3002	075	土師器・皿	20.4	全面赤彩、高盤の凹部が残存、脚部は欠損、全体的にヘラ磨き。	SK142
3003	075	土師器・甕	11.9	胴部外面はカキ目、底部はナデ。	SD70
3004	075	須恵器・杯A	13.9	底部はヘラ切り。	SD73
3005	075	須恵器・杯A	12.7	底部はヘラ切り。	SD73
3006	075	須恵器・杯A	12.6	底部はヘラ切り。	SD62
3007	075	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	SD69
3008	075	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	表上
3009	075	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	表七
3010	075	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り。	表土
3011	075	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	表土
3012	075	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、口縁部内面に少量、外面に多量の油煙。	SP04
3013	075	須恵器・杯A	11.6	底部は糸切り。	SD67
3014	075	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	表土
3015	075	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	表土
3016	075	須恵器・杯B	14.5	底部はヘラ切り。	SK107
3017	075	須恵器・杯B	13.6	底部はヘラ切り。	SD73
3018	075	須恵器・杯B	11.5	底部はヘラ切り、やや軟質。	SD62
3019	075	須恵器・杯B	11.1	底部はヘラ切り、内面全体に降灰物。	表土
3020	075	須恵器・杯蓋	16.5	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	表土
3021	075	須恵器・杯蓋	15.2	宝珠形つまみが付く。	表上
3022	075	須恵器・杯蓋	12.1	宝珠形つまみが付く。	表土
3023	075	須恵器・杯蓋	11.9	宝珠形つまみが付く、内面にやや墨付着。	表上
3024	075	須恵器・杯蓋	11.8	宝珠形つまみが付く、大井部外面はヘラ削り。	SD73

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
3025	075	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く。	SD73
3026	075	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	表七
3027	075	須恵器・杯蓋	11.3	宝珠形つまみが付く。	SD67

3. 奈良平安時代の上器類、西側調査地区・溝S D60出土上器、土師器

4001	076	土師器・椀	14.6	底部は糸切り。	I・2層
4002	076	土師器・椀	14.4	底部は糸切り。	II・1層
4003	076	土師器・椀	12.7	内面と口縁・体上部外面はヘラ磨き、体下・底部外面回転ヘラ削り。	2層
1004	076	土師器・椀	12.7	底部は糸切り。※4003: 口端部内面に1箇所、外面に多量の油煙。	2層
4005	076	土師器・椀	12.6	底部は糸切り、体部外面に墨書き「竹原」倒位。	2層
4006	076	土師器・椀	12.6	底部は糸切り。	1層
4007	076	土師器・椀	12.4	底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	1層
4008	076	土師器・椀	12.4	底部は糸切り、体下部外面はヘラ削り。	2層
4009	076	土師器・椀	12.3	底部は糸切り。	2層
4010	076	土師器・椀	12.2	底部は糸切り。	I・4層
4011	076	土師器・椀	12.1	底部は糸切り。	1層
4012	076	土師器・椀	11.9	底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	3層
4013	076	土師器・椀	11.9	底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	2層
4014	076	土師器・椀	11.9	底部は糸切り、体部外面に墨書き「田中」正位。	1層
4015	076	土師器・椀	11.8	外面は回転ヘラ削り=ヘラ磨き。	2層
4016	076	土師器・椀	11.8	内面はヘラ磨き、外表面は回転ヘラ削り=ヘラ磨き、底部に糸切り痕。	1層
4017	076	土師器・椀	11.8	外面は回転ヘラ削り=ヘラ磨き。	2層
4018	076	土師器・椀	11.8	底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体部外面はヘラ削り。	I・2層
4019	076	土師器・椀	11.8	底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	1層
4020	076	土師器・椀	11.8	底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	2層
4021	076	土師器・椀	11.8	底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	2~4層
4022	076	土師器・椀	11.7	内面はヘラ磨き、外表面は回転ヘラ削り=ヘラ磨き、底部に糸切り痕。	1層
4023	076	土師器・椀	11.7	内面はヘラ磨き、体下・底部外面はヘラ削り、外表面に多量の油煙。	I・2層
4024	076	土師器・椀	11.6	底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体部外面はヘラ削り。	2~4層
4025	076	土師器・椀	11.6	底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体部外面はヘラ削り。	I・2層
4026	076	土師器・椀	11.6	底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体部外面はヘラ削り。	2層
4027	076	土師器・椀	11.6	底部は糸切り、内面はヘラ磨き。	2層
4028	077	土師器・椀	11.6	底部は糸切り、内面はヘラ磨き。	2層
4029	077	土師器・椀	11.4	底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体部外面はヘラ削り。	3層
4030	077	土師器・椀	11.4	体・底部外面は回転ヘラ削り、底部に糸切り痕、漆付着。	II・1・2層
4031	077	土師器・椀	11.3	底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	2・5層
4032	077	土師器・椀	11.2	底部は静止糸切り、内面はヘラ磨き、体部外面はヘラ削り。	1・2層
4033	077	土師器・椀	11.0	底部は糸切り? 内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	2層
4034	077	土師器・椀	10.8	全体的にヘラ磨き、体部外面にヘラ削り痕、底部に糸切り痕。	1・2・5層
4035	077	土師器・椀	10.8	底部は糸切り。	1・2層
4036	077	土師器・椀	12.7	全面赤彩、内面はヘラ磨き、底部外面はヘラ削り。	2層
4037	077	土師器・椀	12.7	全面赤彩、底部は糸切り、内面はヘラ磨き。	1・2層

番号	四面	種類	口径	特徴	出土位置
4038	077	土師器・椀	12.2	全面赤彩、底部糸切り、内面ヘラ磨き、体下部外面ヘラ削り。	1・2層
4039	077	土師器・椀	12.0	全面赤彩、体・底部外面はヘラ削り。	1・2層
4040	077	土師器・椀	11.9	全面赤彩、内面ヘラ磨き、体・底部外面回転ヘラ削り、口端部油煙。	2層
4041	077	土師器・椀	11.8	全面赤彩、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	2層
4042	077	土師器・椀	11.7	全面赤彩、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体部外面はヘラ削り。	2層
4043	077	土師器・椀	11.6	全面赤彩、底部は糸切り、体下部外面回転ヘラ削り、他はヘラ磨き。	2・3層
4044	077	土師器・椀	11.6	全面赤彩、底部は糸切り。	1・2層
4045	077	土師器・椀	11.5	全面赤彩、底部は糸切り、内面と口縁、体部外面はヘラ磨き。	1・2層
4046	077	土師器・椀	11.4	全面赤彩、底部外周、体部外面回転ヘラ削り、底部外面墨書き「キ」。	2層
4047	077	土師器・椀	11.4	全面赤彩、内面はヘラ磨き、体・底部外面はヘラ削り。	2層
4048	077	土師器・椀	11.1	全面赤彩、底部は糸切り、体部と底部外周の外面はヘラ削り。	2~4層
4049	077	土師器・椀	9.5	全面赤彩、底部糸切り、体部外面回転ヘラ削り、他はヘラ磨き。	2~4層
4050	077	土師器・椀	16.8	全面赤彩、高台付、内面と口縁、体部外面はヘラ磨き。	1~3層
4051	077	土師器・椀	13.4	全面赤彩、口縁部は回転ヘラ磨き。	2層
4052	078	土師器・椀	16.2	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き。	2・3層
4053	078	土師器・椀	16.0	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体部外面はヘラ削り。	2・3層
4054	078	土師器・椀	16.0	内面黒色、底部は糸切り、内面と口縁、体部外面はヘラ磨き。	2層
4055	078	土師器・椀	15.0	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体部外面はヘラ削り。	2層
4056	078	土師器・椀	12.6	内面黒色、内面はヘラ磨き、体下・底部外面はヘラ削り。	1~3層
4057	078	土師器・椀	12.6	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体部外面はヘラ削り。	3・4層
4058	078	土師器・椀	12.4	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	1~3層
4059	078	土師器・椀	12.4	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体部外面はヘラ削り。	2・3層
4060	078	土師器・椀	12.2	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き。	2層
4061	078	土師器・椀	12.2	内面黒色、底部は静止糸切り、体部外面はヘラ削り。	3層
4062	078	土師器・椀	12.1	内面黒色、静止糸切り、体部外面ヘラ削り、底部外面ヘラ記号「×」。	3・4層
4063	078	土師器・椀	12.1	内面黒色、内面はヘラ磨き、体下・底部外面はヘラ削り。	2・3・5層
4064	078	土師器・椀	12.1	内面黒色、底部は静止糸切り、内面ヘラ磨き、体下部外面ヘラ削り。	3層
4065	078	土師器・椀	12.1	内面黒色、底部は静止糸切り、内面はヘラ磨き、体部外面ヘラ削り。	4層
4066	078	土師器・椀	12.1	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	2層
4067	078	土師器・椀	12.1	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	2層
4068	078	土師器・椀	12.1	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き。	2層
4069	078	土師器・椀	12.1	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き。	1層
4070	078	土師器・椀	12.0	内面黒色、体下・底部外面はヘラ削り、糸切り痕。	2層
4071	078	土師器・椀	12.0	内面黒色、内面はヘラ磨き、体・底部外面はヘラ削り、糸切り痕。	1・2層
4072	078	土師器・椀	12.0	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	1層
4073	078	土師器・椀	12.0	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体部外面はヘラ削り。	3・4層
4074	078	土師器・椀	11.9	内面黒色、底部は静止糸切り、内面はヘラ磨き。	1・2層
4075	078	土師器・椀	11.8	内面黒色、底部は静止糸切り、体下部外面はヘラ削り。	3・4層
4076	078	土師器・椀	11.8	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	3・4層
4077	079	土師器・椀	11.8	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	3・4層
4078	079	土師器・椀	11.8	内面黒色、底部は静止糸切り、体下部外面はヘラ削り。	2層
4079	079	土師器・椀	11.8	内面黒色、底部は静止糸切り、体下部外面はヘラ削り。	2層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
4080	079	土師器・碗	11.8	内面黒色、内面はヘラ磨き、体・底部外面はヘラ削り。	II-1・2層
4081	079	土師器・碗	11.7	内面黒色、内面はヘラ磨き、体・底部外面はヘラ削り。	2・3層
4082	079	土師器・碗	11.7	内面黒色、底部は静止糸切り、内面はヘラ磨き、体部外面ヘラ削り。	1層
4083	079	土師器・碗	11.6	内面黒色、内面はヘラ磨き、体下・底部外面はヘラ削り。	3・4層
4084	079	土師器・碗	11.6	内面黒色、底部静止糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面ヘラ削り。	2・5層
4085	079	土師器・碗	11.6	内面黒色、体・底部外面はヘラ削り、底部に糸切り痕。	2・3層
4086	079	土師器・碗	11.6	内面黒色、底部は静止糸切り、内面はヘラ磨き。	2層
4087	079	土師器・碗	11.6	内面黒色、底部静止糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面ヘラ削り。	1・2層
4088	079	土師器・碗	11.5	内面黒色、内面はヘラ磨き、体・底部外面は回転ヘラ削り。	2層
4089	079	土師器・碗	11.4	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	2・5層
4090	079	土師器・碗	11.4	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	2・5層
4091	079	土師器・碗	11.3	内面黒色、底部糸切り、体下部外面底部は回転ヘラ削り、油煙。	2層
4092	079	土師器・碗	11.2	内面黒色、内面はヘラ磨き、体・底部外面はヘラ削り。	2層
4093	079	土師器・碗	11.1	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	1・2層
4094	079	土師器・碗	11.0	内面黒色、底部は静止糸切り、内面ヘラ磨き、体部外面はヘラ削り。	2・3層
4095	079	土師器・碗	10.8	内面黒色、底部は糸切り、内面ヘラ磨き、底部内面に花弁状の暗文。	2層
4096	079	土師器・碗	10.5	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	2層
4097	079	土師器・碗	13.7	内面黒色、内面はヘラ磨き、体部外面はヘラ削り。	2・3層
4098	079	土師器・碗	11.5	内面黒色、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	2・5層
4099	079	土師器・碗	11.4	内面黒色、内面はヘラ磨き、内面に漆付着。	2~4層
4100	079	土師器・碗	—	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	1層
4101	079	土師器・碗	—	内面黒色、底部は静止糸切り、体下部外面はヘラ削り。	2~4・5層
4102	079	土師器・碗	—	内面黒色、体・底部内面はヘラ磨き、体・底部外面はヘラ削り。	1・2層
4103	079	土師器・碗	—	内面黒色、底部は静止糸切り、体下部外面はヘラ削り。	2・4層
4104	079	土師器・碗	—	内面黒色、底部は静止糸切り、体下部外面はヘラ削り。	2層
4105	080	土師器・碗	12.8	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、体下・底部外面回転ヘラ削り。	2層
4106	080	土師器・碗	12.5	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、体・底部外面はヘラ削り。	1・3層
4107	080	土師器・碗	12.2	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、体・底部外面はヘラ削り。	3層
4108	080	土師器・碗	12.2	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、体・底部外面はヘラ削り。	1~5層
4109	080	土師器・碗	12.2	内面黒色外面赤彩、底部は糸切り、内面はヘラ磨き。	2・3層
4110	080	土師器・碗	12.2	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、体・底部外面はヘラ削り。	3層
4111	080	土師器・碗	12.2	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、体・底部外面はヘラ削り。	3・4層
4112	080	土師器・碗	12.0	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、体・底部外面はヘラ削り。	2層
4113	080	土師器・碗	12.0	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、体・底部外面はヘラ削り。	3層
4114	080	土師器・碗	12.0	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、体・底部外面はヘラ削り。	3層
4115	080	土師器・碗	12.0	内面黒色外面赤彩、全体的にヘラ磨き。	2・4層
4116	080	土師器・碗	12.0	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、底部外面はナデ。	1・2層
4117	080	土師器・碗	11.9	内面黒色外面赤彩、底部外面はヘラ削り、他はヘラ磨き。	3層
4118	080	土師器・碗	11.8	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、底部外面は回転ヘラ削り。	2・3層
4119	080	土師器・碗	11.8	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、体下・底部外面回転ヘラ削り。	1~3層
4120	080	土師器・碗	11.8	内面黒色外面赤彩、底部は静止糸切り、内面はヘラ磨き。	2~4層

番号	画面	種類	口澤	特徴	出土地
4121	080	土師器・椀	11.8	内面黒色外面赤彩、全体的にヘラ磨き。	1~4層
4122	080	土師器・椀	11.8	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、体・底部外面はヘラ削り。	3層
4123	080	土師器・椀	11.6	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、体・底部外面は回転ヘラ削り。	2~4層
4124	080	土師器・椀	11.6	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、体・底部外面は回転ヘラ削り。	1・2層
4125	080	土師器・椀	11.6	内面黒色外面赤彩、底部は糸切り、体部外面はヘラ削り。	2~4層
4126	080	土師器・椀	11.6	内面黒色外面赤彩、底部は糸切り、底部外周は回転ヘラ削り。	3層
4127	080	土師器・椀	11.6	内面黒色外面赤彩、底部は糸切り、体下部外面はヘラ削り。	4層
4128	080	土師器・椀	11.6	内面黒色外面赤彩、底部は静止糸切り、内面はヘラ磨き。	1・2層
4129	080	土師器・椀	11.4	内面黒色外面赤彩、底部は糸切り、体下・底部外周は回転ヘラ削り。	2・3層
4130	080	土師器・椀	11.4	内面黒色外面赤彩、底部は糸切り、体下部外面はヘラ削り、油煙。	3層
4131	080	土師器・椀	11.2	内面黒色外面赤彩、内面はヘラ磨き、体・底部外面はヘラ削り。	1層
4132	080	土師器・椀	—	内面黒色外面赤彩、体下・底部外面は回転ヘラ削り。	2~4層
4133	081	土師器・皿	15.7	高盤の皿部、皿部内面はヘラ磨き。	2・3層
4134	081	土師器・皿	—	高盤の脚部・柱状部外面はヘラ磨き。	3層
4135	081	土師器・皿	16.0	底部はヘラ切り？内面は回転ヘラ磨き・ヘラ磨き、外面はヘラ磨き。	1・2・4層
4136	081	土師器・皿	14.0	底部外周はヘラ削り、内面はヘラ磨き。	2層
4137	081	土師器・皿	13.7	底部中央は糸切り、底部外周はヘラ削り、内面はヘラ磨き。	2層
4138	081	土師器・皿	13.4	底部中央は糸切り、底部外周はヘラ削り、内面はヘラ磨き。	2層
4139	081	土師器・皿	13.3	底部はヘラ削り、内面はヘラ磨き。	2層
4140	081	土師器・皿	12.9	底部中央は糸切り、底部外周はヘラ削り、内面はヘラ磨き。	2層
4141	081	土師器・皿	14.6	底部糸切り、内面ヘラ磨き、外面回転ヘラ削り=回転ヘラ磨き主体。	2層
4142	081	土師器・皿	14.4	底部糸切り、内面ヘラ磨き、外面回転ヘラ削り=回転ヘラ磨き主体。	1層
4143	081	土師器・皿	13.6	底部は糸切り、底部内面はややナデ。	1層
4144	081	土師器・皿	13.3	底部糸切り、内面ヘラ磨き、外面回転ヘラ削り=回転ヘラ磨き主体。	2・3層
4145	081	土師器・皿	12.8	内面と口縁部外面はヘラ磨き、底部外面はヘラ削り・糸切り痕。	1・2層
4146	081	土師器・皿	—	底部は糸切り・外周回転ヘラ削り、口縁部と底部外面に墨書き。	1・2層
4147	081	土師器・皿	17.7	全面赤彩、高盤の皿部、全体的にヘラ磨き。	1~3層
4148	081	土師器・皿	16.8	全面赤彩、高台付皿、皿部は全体的にヘラ磨き。	1・2層
4149	081	土師器・皿	15.6	全面赤彩、全体的に回転を利用したヘラ磨き。	1・2・4層
4150	081	土師器・皿	15.4	全面赤彩、全体的に回転を利用したヘラ磨き。	1~3層
4151	081	土師器・皿	16.7	全面赤彩、底部は、内面がナデ、外面がヘラ削り・ナデ。	2・4層
4152	081	土師器・皿	15.0	全面赤彩、底部外面はナデ。	2層
4153	081	土師器・皿	14.8	全面赤彩、内面はヘラ磨き、外面は回転ヘラ削り=回転ヘラ磨き。	II・1層
4154	081	土師器・皿	14.7	全面赤彩、内面と口縁下部はヘラ磨き、底部外面はヘラ削り。	1・2層
4155	081	土師器・皿	14.0	全面赤彩、底部外面は一部ヘラ削り・ナデ。	II層
4156	081	土師器・皿	13.4	全面赤彩、内面と底部外面はヘラ磨き。	2~4層
4157	081	土師器・皿	13.1	全面赤彩、全体的にヘラ磨き、底部はヘラ削り後ヘラ磨き。	2・4層
4158	081	土師器・皿	13.0	全面赤彩、全体的にヘラ磨き、底部はヘラ削り後ヘラ磨き。	1~3層
4159	081	土師器・皿	13.0	全面赤彩、内面はヘラ磨き、底部外面はヘラ削り。	1・2・5層
4160	081	土師器・皿	13.9	全面赤彩、高台付皿、底部は糸切り、底部内面はヘラ磨き。	2・3層
4161	081	土師器・皿	13.5	全面赤彩、高台付皿、底部は糸切り？底部外面に墨付着。	1~4層
4162	081	土師器・皿蓋	13.8	外面赤彩、全体的に横ナデ。	2・4層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
4163	082	土師器・甕	16.0	胴下部外面はヘラ削り、外面に縁。	2~4層
4164	082	土師器・甕	14.6	横ナデ。	3層
4165	082	土師器・甕	12.8	胴下半部外面はヘラ削り。	1層
4166	082	土師器・甕	33.9	胴上半部外面はカキ目、胴下半・底部外面はヘラ削り。	1~4層
4167	082	土師器・鍋	36.8	胴上半部はカキ目、胴下半部外面はヘラ削り。	1~2層
4168	082	土師器・鍋	34.1	胴上半部はカキ目、胴下半部外面はヘラ削り。	1~2・5層

4. 奈良平安時代の土器類、西側調査地X・溝S D60出土土器、須恵器

5001	083	須恵器・杯A	15.1	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「キ」。	2~4層
5002	083	須恵器・杯A	14.8	底部はヘラ切り、ゆがんでいる。口径最大15.8cm。	1~3層
5003	083	須恵器・杯A	14.4	底部はヘラ切り、ゆがんでいる。	1~2層
5004	083	須恵器・杯A	14.2	底部はヘラ切り。	1層
5005	083	須恵器・杯A	14.0	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「小口」。	1~3層
5006	083	須恵器・杯A	13.8	底部はヘラ切り。	2層
5007	083	須恵器・杯A	13.4	底部はヘラ切り。	2層
5008	083	須恵器・杯A	12.9	底部はヘラ切り。	3層
5009	083	須恵器・杯A	12.9	底部はヘラ切り、体部外面に沈線が5条通る。	1層
5010	083	須恵器・杯A	12.9	底部はヘラ切り、口縁部と底部外面に少量の油煙。	2~3層
5011	083	須恵器・杯A	12.9	底部はヘラ切り。	2層
5012	083	須恵器・杯A	12.8	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「松木」。	2~4層
5013	083	須恵器・杯A	12.8	底部はヘラ切り。	1~4層
5014	083	須恵器・杯A	12.8	底部はヘラ切り。	4層
5015	083	須恵器・杯A	12.8	底部はヘラ切り、口縁部に少量の油煙。	1~2層
5016	083	須恵器・杯A	12.7	底部はヘラ切り。	3~4層
5017	083	須恵器・杯A	12.7	底部はヘラ切り、全体的に多量の油煙。	2層
5018	083	須恵器・杯A	12.7	底部はヘラ切り。	1~3層
5019	083	須恵器・杯A	12.7	底部はヘラ切り、口縁部に少量の油煙。	3層
5020	083	須恵器・杯A	12.7	底部はヘラ切り。	1~3層
5021	083	須恵器・杯A	12.7	底部はヘラ切り、底部外面墨付着。	1層
5022	083	須恵器・杯A	12.7	底部はヘラ切り。	4層
5023	083	須恵器・杯A	12.7	底部はヘラ切り、底部内面がやや研磨されている。	2~4層
5024	083	須恵器・杯A	12.7	底部はヘラ切り。	1~2層
5025	084	須恵器・杯A	12.6	底部はヘラ切り、口縁部に多量の油煙。	2~3層
5026	084	須恵器・杯A	12.6	底部はヘラ切り、口縁部に少量の油煙。	3層
5027	084	須恵器・杯A	12.6	底部はヘラ切り。	1層
5028	084	須恵器・杯A	12.6	底部はヘラ切り。	3層
5029	084	須恵器・杯A	12.6	底部はヘラ切り。	3層
5030	084	須恵器・杯A	12.6	底部はヘラ切り。	2~5層
5031	084	須恵器・杯A	12.6	底部はヘラ切り。	4層
5032	084	須恵器・杯A	12.6	底部はヘラ切り。	2~4層
5033	084	須恵器・杯A	12.6	底部はヘラ切り。	2~3層
5034	084	須恵器・杯A	12.6	底部はヘラ切り。	3~4層

番号	図面	種類	口径	特徴	出上位置
5035	084	須恵器・杯A	12.6	底部はヘラ切り。	2層
5036	084	須恵器・杯A	12.5	底部はヘラ切り、内面に漆・漆紙付着。	2~4層
5037	084	須恵器・杯A	12.5	底部はヘラ切り、体・底部外面に墨付着。	2~4層
5038	084	須恵器・杯A	12.5	底部はヘラ切り、底部内外面に墨付着。	2層
5039	084	須恵器・杯A	12.5	底部はヘラ切り。	1層
5040	084	須恵器・杯A	12.5	底部はヘラ切り。	3層
5041	084	須恵器・杯A	12.5	底部はヘラ切り。	1層
5042	084	須恵器・杯A	12.5	底部はヘラ切り、底部内面に墨付着。	1・3層
5043	084	須恵器・杯A	12.5	底部はヘラ切り。	4層
5044	084	須恵器・杯A	12.5	底部はヘラ切り、外面上に多量の油煙。	1層
5045	084	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り、体部外面にヘラ記号「=」。	2層
5046	084	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り、外面上全体に墨付着。	2層
5047	084	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り、外面上に少量の油煙。	1層
5048	084	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り、内面上に多量の油煙。	2~4層
5049	084	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り、やや軟質。	2・3層
5050	084	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り。	1層
5051	084	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	4層
5052	084	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り、やや軟質。	2層
5053	084	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り、口端部3箇所に油煙。	2層
5054	085	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り。	2層
5055	085	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り。	1層
5056	085	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り。	2~4層
5057	085	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り。	2層
5058	085	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り、口縁部内面に中量、外面上に少量の油煙。	2・3層
5059	085	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り。	1・4層
5060	085	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り。	2層
5061	085	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り、口端部に少量の油煙。	2層
5062	085	須恵器・杯A	12.3	底部はヘラ切り、やや焼成不良。	1層
5063	085	須恵器・杯A	12.3	底部はヘラ切り、全体的に多量の油煙。	1層
5064	085	須恵器・杯A	12.3	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2層
5065	085	須恵器・杯A	12.3	底部はヘラ切り、口縁部と体部外面上に多量の油煙。	4層
5066	085	須恵器・杯A	12.3	底部はヘラ切り。	2・5層
5067	085	須恵器・杯A	12.3	底部はヘラ切り。	2層
5068	085	須恵器・杯A	12.3	底部はヘラ切り。	2・3層
5069	085	須恵器・杯A	12.3	底部はヘラ切り。	2~4層
5070	085	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、底部外面上にヘラ記号「×」。	4層
5071	085	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、体部外面上に墨書「キ」。	1層
5072	085	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、体部外面上に墨書「キ」。	1層
5073	085	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、底部内面ナデ、底部外面上墨書「□」、ゆがんでる。	2・4層
5074	085	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、体部外面上にヘラ記号「-?」。	3層
5075	085	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	4層
5076	085	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、口端部に中量の油煙。	3層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5077	085	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	2・3層
5078	085	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2・4層
5079	085	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、口縁・体部に中量の油煙。	2・4層
5080	085	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、口縁部外面に少量の油煙。	1・3層
5081	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	1・2層
5082	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、口縁部に少量の油煙。	1・3層
5083	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	2・4層
5084	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	2・5層
5085	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、口縁部に中量の油煙。	2層
5086	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	4層
5087	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	1層
5088	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	1・2層
5089	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	3層
5090	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	2・3層
5091	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、口端部に多量の油煙。	2層
5092	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、焼成不良。	2・3層
5093	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	1・5層
5094	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	2・4層
5095	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	2・3層
5096	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	2層
5097	086	須恵器・杯A	12.2	底部は糸切り。	3・4層
5098	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	4層
5099	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	2層
5100	086	須恵器・杯A	12.2	体下・底部外面は手持ちヘラ削り。	1・2・4層
5101	086	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、底部内面ナデ、ヘラ記号「×」、口縁部少量油煙。	2・3層
5102	086	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	4層
5103	086	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	1層
5104	086	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	3・4層
5105	086	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	4層
5106	086	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り、全体的に多量の油煙。	2・4層
5107	086	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り、全体的に墨が点在。	2層
5108	086	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	2層
5109	087	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り、体下・底部内面に多量の油煙。	1・3層
5110	087	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	2層
5111	087	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り、口端部外面に少量の油煙。	2層
5112	087	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	1層
5113	087	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	2・3層
5114	087	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	1層
5115	087	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	4層
5116	087	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	2・5層
5117	087	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り、全体的に多量の油煙。	1・2層
5118	087	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	3・4層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5119	087	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	3・4層
5120	087	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	2・5層
5121	087	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	2・3層
5122	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	2層
5123	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り、体部外面にヘラ記号「=」。	3層
5124	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	1・4層
5125	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	3層
5126	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	2層
5127	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	2・4層
5128	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	3・4層
5129	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	3・4層
5130	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	1・2・4層
5131	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2・3層
5132	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	2・4層
5133	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2層
5134	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	1層
5135	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、底部外面に墨付着。	2層
5136	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	3・4層
5137	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	3層
5138	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り、口端部に少量の油煙。	2層
5139	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	1・2層
5140	087	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	3層
5141	088	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り、外面に多量の油煙。	2層
5142	088	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	2・4層
5143	088	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	3層
5144	088	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	2層
5145	088	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	1・4層
5146	088	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、口縁部外面に少量の油煙。	2・4層
5147	088	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、口端部2箇所に油煙。	2・3層
5148	088	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り、焼成不良。	2・4層
5149	088	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	3層
5150	088	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り、口縁部に中量の油煙。	2層
5151	088	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	2層
5152	088	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	2・3層
5153	088	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り、口縁部外面に少量の油煙。	3・4層
5154	088	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	2層
5155	088	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、底部外面に墨書「キ」。	1層
5156	088	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「家万呂」横位、口縁部中量油煙。	3・4層
5157	088	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り、体部外面にヘラ記号「=」。	2層
5158	088	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り。	2層
5159	088	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り。	1層
5160	088	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り、口端部に少量の油煙。	2層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5161	088	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り。	4層
5162	088	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り。	2層
5163	088	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り。	2層
5164	088	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り。	4層
5165	088	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り。	2・4層
5166	088	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り、口縁部に中量の油煙。	2層
5167	088	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り。	II・1・3層
5168	088	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り、口縁部に多量の油煙。	4層
5169	089	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り。	1・2層
5170	089	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り。	2・4層
5171	089	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り、沙がんでいる。	3・4層
5172	089	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り。	1層
5173	089	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り。	2層
5174	089	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、焼成不良。	2層
5175	089	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り。	2・4層
5176	089	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り、口縁部に多量、底部外面に中量の油煙。	1・3・4層
5177	089	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り、底部内面は研磨され、墨付着。	2・4層
5178	089	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、口縁部に少量の油煙。	2層
5179	089	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り、口端部と体部外面に中量の油煙。	1・2・5層
5180	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り、体部外面に墨書き「キ」、口縁部に多量の油煙。	2層
5181	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り、体部外面に墨書き「キ」、口端・体部に少量の油煙。	1・2層
5182	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	3層
5183	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	1層
5184	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	2層
5185	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	1・3層
5186	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	1層
5187	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	2層
5188	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	2層
5189	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	2・3層
5190	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、口端部1箇所と底部多量の油煙。	2層
5191	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2層
5192	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り、外面に多量の油煙。	2・3層
5193	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	2・3層
5194	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り、やや軟質。	2・5層
5195	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	1・3層
5196	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	2・4層
5197	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り、口縁部に中量の油煙。	3層
5198	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	2層
5199	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	II・1層
5200	089	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り、口端部に中量の油煙。	1層
5201	090	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	II・1層
5202	090	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	1・2・3・5層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5203	090	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2層
5204	090	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り、口縁部に多量の油煙。	2層
5205	090	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2~4層
5206	090	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り、口端部内面と休下部に少量の油煙。	1層
5207	090	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	3~4層
5208	090	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	3層
5209	090	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	2層
5210	090	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	2層
5211	090	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り、口縁・体部外面に多量の油煙。	2層
5212	090	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	2層
5213	090	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	2~4層
5214	090	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	2~3層
5215	090	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り、口端部1箇所に油煙。	3~4層
5216	090	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	2~4層
5217	090	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「キ」内面に漆付着。	1~2層
5218	090	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ」。	2層
5219	090	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ」。	1層
5220	090	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「解」。	3層
5221	090	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、底部内面にヘラ文字。	2~4層
5222	090	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、やや軟質。	4層
5223	090	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	1層
5224	090	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	2~3層
5225	090	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2層
5226	090	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	2層
5227	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	1~4層
5228	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	2層
5229	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、内面に多量に漆付着。	2~5層
5230	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	2層
5231	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	1層
5232	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	3~4層
5233	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	3~4層
5234	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、口端部1箇所に油煙。	3層
5235	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	2層
5236	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	1~3~4層
5237	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	2~5層
5238	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、内面に漆付着。	3~4層
5239	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	2層
5240	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	1層
5241	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、やや軟質。	2層
5242	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	2層
5243	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	1~3層
5244	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、体部外面に中量の油煙。	2層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5245	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	3層
5246	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、内面に漆付着。	2~4層
5247	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、口端部に少量、体・底部外面に多量の油煙。	2~4層
5248	091	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	1~2層
5249	091	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、体部外面にヘラ記号「一」。	2~4層
5250	091	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、体部外面にヘラ記号「×」。	2~4層
5251	091	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、口縁部に中量、体部外面に多量の油煙。	2層
5252	091	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2~3層
5253	091	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	2層
5254	091	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	4層
5255	091	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	4層
5256	091	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、底部内面にヘラ記号「一」。	2層
5257	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「第」。	1層
5258	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「キ」、口縁部に中量の油煙。	2~3層
5259	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「キ」、口縁・体部外面多量油煙。	2層
5260	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	4層
5261	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	2~3層
5262	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	1~2層
5263	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	2~4層
5264	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、口端部内面に中量の油煙。	1~3~4層
5265	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、全体的に多量の油煙。	3層
5266	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、口端部に数箇所の油煙。	2層
5267	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、口縁部に中量の油煙。	1~2層
5268	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	2層
5269	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	4層
5270	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	1~3層
5271	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	1~2~4層
5272	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	2層
5273	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	3層
5274	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、底部内面にナデ。	2~5層
5275	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、口縁部に中量の油煙。	2~4層
5276	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、口端部内面に降灰物。	II~1層
5277	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	2層
5278	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	2~4層
5279	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	1~4層
5280	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、口縁部に中量の油煙。	3層
5281	092	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	4層
5282	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、口端部と体・底部外面に中量の油煙。	2層
5283	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	4層
5284	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	2~4層
5285	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	2~5層
5286	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、口縁部に中量の油煙。	2~3層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5287	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	2・3層
5288	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	2層
5289	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2・3層
5290	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、やや軟質。	2層
5291	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、口縁部に多量の油煙。	2・4層
5292	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2・3層
5293	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	2~4層
5294	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、口縁部に中量の油煙。	2層
5295	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	1・2層
5296	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	2層
5297	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	2層
5298	093	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	2~4層
5299	093	須恵器・杯A	11.6	底部は糸切り。	4層
5300	093	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ」。	1・2層
5301	093	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ」、口端部に1箇所の油煙。	1層
5302	093	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り、軟質、口縁・体部に中量、底部外面に少量の油煙。	1・2層
5303	093	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り、全体的に研磨され、墨付着。	3層
5304	093	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り、内面に墨付着。	4層
5305	093	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り。	3層
5306	093	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り。	2・4層
5307	093	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り。	2層
5308	093	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り。	1層
5309	093	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り、口縁部に多量の油煙。	2~4層
5310	093	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り。	4層
5311	093	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り。	2・4層
5312	093	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り、口縁・体部内面に中量の油煙。	2・4層
5313	093	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り。	2層
5314	094	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り、口縁部内面に中量の油煙。	2~4層
5315	094	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2・3層
5316	094	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り、口縁部内面に少量の油煙。	1・2層
5317	094	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り。	1・3層
5318	094	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り、口端部に少量の油煙。	3層
5319	094	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り、口端部に少量の油煙。	2層
5320	094	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り、口縁部に少量の油煙。	4層
5321	094	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り、内面に墨付着。	2~4層
5322	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ」。	2層
5323	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ」。	2層
5324	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ」。	2層
5325	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ」。	2層
5326	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、底部外面に墨書「キ」。	2層
5327	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「キ」、口縁部に少量の油煙。	1層
5328	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、底部内面にヘラ記号「-」。	2層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5329	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、体部外面ヘラ記号「×」、口端部に1箇所の油煙。	2層
5330	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、口縁部内面に少量の油煙。	4層
5331	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2層
5332	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	2層
5333	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	2層
5334	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	3層
5335	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	3層
5336	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	3層
5337	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、全体的に少量の油煙。	1層
5338	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2層
5339	094	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2~4層
5340	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、口縁、体部外面に中量の油煙。	1層
5341	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	1層
5342	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、口縁部外面に少量の油煙。	2~4層
5343	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	2~4.5層
5344	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	2層
5345	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	2層
5346	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	3~4層
5347	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、口縁部に中量の油煙。	1層
5348	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、口縁部に少量の油煙。	2層
5349	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、内面に漆付着。	2~3層
5350	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	2~3層
5351	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、口端部に1箇所の油煙。	2層
5352	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、内面と口縁、体部外面に少量の油煙。	2層
5353	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、口縁、体部外面に少量の油煙。	2~3層
5354	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	2層
5355	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	3層
5356	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	2~4層
5357	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、口縁部に少量の油煙。	3~4層
5358	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	2層
5359	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	1層
5360	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、口端部内面に少量の油煙。	2~4層
5361	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	2層
5362	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、口端部に1箇所の油煙。	2~5層
5363	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	1層
5364	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2層
5365	095	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	3~4層
5366	095	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「二合」。	3層
5367	095	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「一」。	2層
5368	095	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り、体部外面にヘラ記号「×」。	2層
5369	095	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り、体部外面にヘラ記号「×」。	3~4層
5370	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り。	4層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5371	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り。	2層
5372	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り。	2~4層
5373	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り、口縁部内面に中量の油煙。	2層
5374	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り。	1層
5375	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り。	4層
5376	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り。	1~2層
5377	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り。	2層
5378	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り、底部内面に付着物。	3層
5379	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り。	3~4層
5380	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り、全体的に多量の油煙。	3層
5381	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り、口縁部内面に多量の油煙。	3~4層
5382	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2層
5383	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り。	4層
5384	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り。	1~4層
5385	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り、内面に漆状付着物。	2~5層
5386	096	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り。	3~4層
5387	096	須恵器・杯A	11.3	底部は余切り。	3~4層
5388	096	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り、底部外間に墨書き「庄」。	2層
5389	096	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り、体部外間に墨書き「井」。	2~5層
5390	096	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	1~2層
5391	096	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	1層
5392	096	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り、口縁部内面に2箇所の油煙。	3~4層
5393	096	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	2~4層
5394	096	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2~4層
5395	096	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り、ゆがんでいる。	3~4層
5396	096	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	2層
5397	096	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り、全体的に多量の油煙。	2~3層
5398	096	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り、口縁部に少量の油煙。	2~4層
5399	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	2~5層
5400	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り、内面に若干漆状のもの付着。	2~4層
5401	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	3~4層
5402	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	1~2層
5403	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	3層
5404	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	2層
5405	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	1層
5406	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	2層
5407	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	2層
5408	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	2層
5409	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	1~2~5層
5410	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	2層
5411	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	1層
5412	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り、口縁部に多量の油煙。	2層

番号	図面	種類	寸法	特徴	出上位置
5413	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り、全体的に多量の油煙。	1・2層
5414	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	2層
5415	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	1・2層
5416	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	2層
5417	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	2層
5418	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り、口縁部に少量の油煙。	2層
5419	097	須恵器・杯A	11.2	底部は糸切り。	2~4層
5420	097	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	3・4層
5421	097	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ」。	2層
5422	097	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ」。	1~3層
5423	097	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り、体部外面にヘラ記号「一?」。	2層
5424	097	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り、体部外面にヘラ記号「一」。	1層
5425	097	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り。	1層
5426	097	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り。	2層
5427	097	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り、口縁部に少量の油煙。	2層
5428	097	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り。	4層
5429	097	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	1層
5430	098	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り。	2・4層
5431	098	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り。	1・3層
5432	098	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り。	1・2層
5433	098	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り、口端部に1箇所の油煙。	2層
5434	098	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り。	2層
5435	098	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り。	2層
5436	098	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り。	2・4層
5437	098	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り。	1・3・4層
5438	098	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り。	2層
5439	098	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り。	2層
5440	098	須恵器・杯A	11.1	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、やや軟質。	2・4層
5441	098	須恵器・杯A	11.1	底部は糸切り。	1・2層
5442	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り、武部外面に墨書「南」。	4層
5443	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り、体部外面にヘラ記号「X」、ゆがんでいる。	3・4層
5444	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り。	2層
5445	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り。	2層
5446	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り。	1~3層
5447	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り。	3層
5448	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り。	4層
5449	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り。	1層
5450	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り。	2層
5451	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2層
5452	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り。	4層
5453	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、口縁・体部に多量の油煙。	2層
5454	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り。	2層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5455	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り。	2層
5456	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り。	1~5層
5457	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り。	3~4層
5458	098	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り。	2層
5459	098	須恵器・杯A	10.9	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	3層
5460	099	須恵器・杯A	10.9	底部はヘラ切り、内面に墨付着。	3~4層
5461	099	須恵器・杯A	10.9	底部はヘラ切り。	3~4層
5462	099	須恵器・杯A	10.9	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	1~2層
5463	099	須恵器・杯A	10.9	底部はヘラ切り。	2層
5464	099	須恵器・杯A	10.9	底部はヘラ切り。	2層
5465	099	須恵器・杯A	10.9	底部は手持ちヘラ削り、口縁・体部に多量の油煙。	3層
5466	099	須恵器・杯A	10.9	底部は糸切り、底部外面に墨付着。	1層
5467	099	須恵器・杯A	10.8	底部はヘラ切りで一部ヘラ削り、体部外面にヘラ記号「-?」。	1~3~4層
5468	099	須恵器・杯A	10.8	底部はヘラ切り。	2~4層
5469	099	須恵器・杯A	10.8	底部はヘラ切り。	1層
5470	099	須恵器・杯A	10.8	底部はヘラ切り。	2層
5471	099	須恵器・杯A	10.8	底部はヘラ切り。	4層
5472	099	須恵器・杯A	10.8	底部はヘラ切り。	2~4層
5473	099	須恵器・杯A	10.8	底部はヘラ切り、底部内面に墨付着。	2層
5474	099	須恵器・杯A	10.8	底部はヘラ切り。	3層
5475	099	須恵器・杯A	10.8	底部はヘラ切り、口縁部に少量の油煙。	1~2層
5476	099	須恵器・杯A	10.8	底部はヘラ切り。	2層
5477	099	須恵器・杯A	10.7	底部はヘラ切り、外面に少量の油煙。	2層
5478	099	須恵器・杯A	10.7	底部はヘラ切り。	2層
5479	099	須恵器・杯A	10.7	底部はヘラ切り。	1~2層
5480	099	須恵器・杯A	10.7	底部はヘラ切り。	4層
5481	099	須恵器・杯A	10.7	底部はヘラ切り、底部内面に少量の漆、底部外面に少量の墨付着。	2層
5482	099	須恵器・杯A	10.6	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、焼成不良。	1層
5483	099	須恵器・杯A	10.6	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、ゆがんでいる。	2層
5484	099	須恵器・杯A	10.6	底部はヘラ切り。	3~4層
5485	099	須恵器・杯A	10.6	底部はヘラ切り、口縁部に少量の油煙。	2層
5486	099	須恵器・杯A	10.6	底部はヘラ切り。	1層
5487	099	須恵器・杯A	10.5	底部はヘラ切り。	3層
5488	099	須恵器・杯A	10.4	体下部・底部外面は手持ちヘラ削り、体部外面にヘラ記号「-」。	3~4層
5489	099	須恵器・杯A	10.3	底部はヘラ切り。	2層
5490	099	須恵器・杯A	-	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「明家」。	II層
5491	100	須恵器・杯A	-	底部はヘラ切り、底部外側に墨書「南」。	1層
5492	100	須恵器・杯A	-	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「南」、ヘラ記号「-?」。	1~2層
5493	100	須恵器・杯A	-	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「中」。	II層
5494	100	須恵器・杯A	-	底部はヘラ切り、底部外面にヘラ記号「=」。	II~1層
5495	100	須恵器・杯A	-	底部はヘラ切り、底部外面にヘラ記号「×」。	4層
5496	100	須恵器・杯B	16.1	底部はヘラ削り、底部外面にヘラ記号「=?」。	4層

番号	両面	種類	口径	特徴	出土位置
5497	100	須恵器・杯B	16.6	底部はヘラ切り。	II・1・3・5層
5498	100	須恵器・杯B	15.6	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	3・4層
5499	100	須恵器・杯B	15.6	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	3・4層
5500	100	須恵器・杯B	15.6	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2～4層
5501	100	須恵器・杯B	15.9	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	4層
5502	100	須恵器・杯B	15.5	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	I・2層
5503	100	須恵器・杯B	15.4	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、体部外側ヘラ記号「X」。	2・4層
5504	100	須恵器・杯B	15.4	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	3・4層
5505	100	須恵器・杯B	15.1	底部はヘラ切り、底部外側に墨書「寺万巳」、ヘラ記号「一」。	I・2層
5506	101	須恵器・杯B	14.8	底部はヘラ切り。	1・2・5層
5507	101	須恵器・杯B	14.8	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2層
5508	101	須恵器・杯B	14.7	底部はヘラ切り。	2・5層
5509	101	須恵器・杯B	14.5	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、体部外側にヘラ記号「一」。	3・4層
5510	101	須恵器・杯B	14.2	底部はヘラ切り、体部外側に墨書「大」正位。	1層
5511	101	須恵器・杯B	14.2	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	I・2層
5512	101	須恵器・杯B	14.1	底部はヘラ切り。	1層
5513	101	須恵器・杯B	13.9	底部はヘラ切り。	1層
5514	101	須恵器・杯B	13.3	底部はヘラ切り。	2・4・5層
5515	101	須恵器・杯B	13.1	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	1～4層
5516	101	須恵器・杯B	13.0	底部はヘラ切り、底部外側ヘラ記号「一」。	3層
5517	101	須恵器・杯B	13.0	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、底部内側ヘラ記号「一？」。	II層
5518	101	須恵器・杯B	13.0	底部はヘラ切り、体部外側に1条の沈線が彫る。	3・4層
5519	101	須恵器・杯B	12.8	底部はヘラ切り。	4層
5520	101	須恵器・杯B	12.7	底部はヘラ切り、体部外側に墨書「達」横位。	1層
5521	101	須恵器・杯B	12.7	底部はヘラ切り。	4層
5522	101	須恵器・杯B	12.5	底部はヘラ切り。	2・5層
5523	101	須恵器・杯B	12.4	底部はヘラ切り。	4層
5524	101	須恵器・杯B	12.3	底部はヘラ切り。	2層
5525	101	須恵器・杯B	12.3	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、口端部に少量の油煙。	4層
5526	101	須恵器・杯B	12.3	底部はヘラ切り。	2・3・5層
5527	102	須恵器・杯B	12.2	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2層
5528	102	須恵器・杯B	12.2	底部はヘラ切り。	1・2・5層
5529	102	須恵器・杯B	12.1	底部はヘラ切り。	2層
5530	102	須恵器・杯B	12.0	底部はヘラ切り。	3・4層
5531	102	須恵器・杯B	11.7	底部はヘラ切り、底部外側に墨書「成賣」。	1・3層
5532	102	須恵器・杯B	11.7	底部はヘラ切り。	1・2・5層
5533	102	須恵器・杯B	11.7	底部はヘラ切り。	1・3層
5534	102	須恵器・杯B	11.7	底部はヘラ切り、底部外側ヘラ記号「X」。	1層
5535	102	須恵器・杯B	11.6	底部はヘラ切り、底部内面に灰灰物。	1・2・4層
5536	102	須恵器・杯B	11.6	底部はヘラ切り、体・底部内面に墨付着。	4層
5537	102	須恵器・杯B	11.6	底部はヘラ切り、内面に少量の漆付着。	3・4層
5538	102	須恵器・杯B	11.6	底部はヘラ切り。	2・3層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5539	102	須恵器・杯B	11.5	底部はヘラ切り、内面に少量の漆付着。	1・3層
5540	102	須恵器・杯B	11.5	底部はヘラ切り。	1層
5541	102	須恵器・杯B	11.4	底部はヘラ切り。	3層
5542	102	須恵器・杯B	11.4	底部はヘラ切り、体部外面に1条の沈線が残る。	4層
5543	102	須恵器・杯B	11.4	底部はヘラ切り、口縁・体部外面にやや自然釉。	4層
5544	102	須恵器・杯B	11.4	底部はヘラ切り、やや軟質。	1・2層
5545	102	須恵器・杯B	11.3	底部はヘラ切り、体部外面墨書「キ」、底部外面ヘラ記号「一」。	1・2層
5546	102	須恵器・杯B	11.3	底部はヘラ切り。	3・4層
5547	102	須恵器・杯B	11.3	底部はヘラ切り。	2層
5548	103	須恵器・杯B	11.3	底部はヘラ切り。	2・4層
5549	103	須恵器・杯B	11.2	底部はヘラ切り、底部外面に墨付着。	2~4層
5550	103	須恵器・杯B	11.2	底部はヘラ切り、全体的に多量の油煙。	1~4層
5551	103	須恵器・杯B	11.2	底部はヘラ切り、やや軟質。	1・3層
5552	103	須恵器・杯B	11.2	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	1層
5553	103	須恵器・杯B	11.2	底部はヘラ切り。	2~4層
5554	103	須恵器・杯B	11.2	底部はヘラ切り。	1層
5555	103	須恵器・杯B	11.1	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「平」、体部外面に墨書「口」。	2層
5556	103	須恵器・杯B	11.1	底部はヘラ切り。	1~3層
5557	103	須恵器・杯B	11.1	底部はヘラ切り、底部外面に墨付着。	2・3層
5558	103	須恵器・杯B	11.1	底部はヘラ切り。	2層
5559	103	須恵器・杯B	11.1	底部はヘラ切り、焼成不良。	1層
5560	103	須恵器・杯B	11.1	底部はヘラ切り。	4層
5561	103	須恵器・杯B	11.1	底部はヘラ切り、内面に重ね焼の跡。	1層
5562	103	須恵器・杯B	11.1	底部はヘラ切り。	2層
5563	103	須恵器・杯B	11.0	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ」。	1・2・4層
5564	103	須恵器・杯B	11.0	底部はヘラ切り。	1層
5565	103	須恵器・杯B	11.0	底部はヘラ切り、底部外面にヘラ記号「X」。	2・5層
5566	103	須恵器・杯B	11.0	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、底部内面にヘラ記号「*」。	1層
5567	103	須恵器・杯B	11.0	底部はヘラ切り。	2層
5568	103	須恵器・杯B	11.0	底部はヘラ切り。	1層
5569	103	須恵器・杯B	11.0	底部はヘラ切り。	4層
5570	103	須恵器・杯B	11.0	底部はヘラ切り。	3層
5571	104	須恵器・杯B	11.0	底部はヘラ切り。	2・5層
5572	104	須恵器・杯B	11.0	底部はヘラ切り、体部外面にヘラ記号「一?」。	3・4層
5573	104	須恵器・杯B	10.9	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ?」。	1・2層
5574	104	須恵器・杯B	10.9	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、体・底部外面に障灰物。	1層
5575	104	須恵器・杯B	10.9	底部はヘラ切り、内面に重ね焼の跡。	1層
5576	104	須恵器・杯B	10.9	底部はヘラ切り。	2層
5577	104	須恵器・杯B	10.9	底部はヘラ切り。	II・1層
5578	104	須恵器・杯B	10.8	底部はヘラ切り、体部外面にヘラ記号「一」。	1層
5579	104	須恵器・杯B	10.8	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ?」。	2・3層
5580	104	須恵器・杯B	10.8	底部はヘラ切り、底部外面にヘラ記号「X」。	1層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5581	104	須恵器・杯B	10.8	底部はヘラ切り、口縁、体・底部外面に中量の油煙。	1・3層
5582	104	須恵器・杯B	10.8	底部は糸切り。	2・4層
5583	104	須恵器・杯B	10.8	底部はヘラ切り。	2・5層
5584	104	須恵器・杯B	10.8	底部はヘラ切り、底部外面に少量の墨付着。	2~4層
5585	104	須恵器・杯B	10.8	底部はヘラ切り。	1・3層
5586	104	須恵器・杯B	10.8	底部はヘラ切り。	1層
5587	104	須恵器・杯B	10.7	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「靜」。	4層
5588	104	須恵器・杯B	10.7	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ」。	2層
5589	104	須恵器・杯B	10.7	底部はヘラ切り。	4層
5590	104	須恵器・杯B	10.7	底部はヘラ切り。	1~3層
5591	104	須恵器・杯B	10.7	底部はヘラ切り。	1~3層
5592	104	須恵器・杯B	10.6	底部はヘラ切り、底部外面墨書「川相」、体部外面ヘラ記号「-」。	4層
5593	105	須恵器・杯B	10.6	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「キ」。	2層
5594	105	須恵器・杯B	10.6	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「×」。	4層
5595	105	須恵器・杯B	10.6	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「キ」。	1層
5596	105	須恵器・杯B	10.6	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ」。	2層
5597	105	須恵器・杯B	10.6	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ」。	1・2・3層
5598	105	須恵器・杯B	10.6	底部はヘラ切り、底部外面にヘラ記号「×」。	3・4層
5599	105	須恵器・杯B	10.6	底部はヘラ切り。	2・4層
5600	105	須恵器・杯B	10.6	底部はヘラ切り、外面全体に降灰物。	1~3層
5601	105	須恵器・杯B	10.6	底部はヘラ切り。	1~3層
5602	105	須恵器・杯B	10.6	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	2層
5603	105	須恵器・杯B	10.6	底部はヘラ切り、ゆがんでいる。	2・4層
5604	105	須恵器・杯B	10.6	底部はヘラ切り。	2層
5605	105	須恵器・杯B	10.5	底部はヘラ切り。	2層
5606	105	須恵器・杯B	10.5	底部はヘラ切り、内外に降灰物。	3・4層
5607	105	須恵器・杯B	10.5	底部はヘラ切り。	2層
5608	105	須恵器・杯B	10.5	底部はヘラ切り。	2層
5609	105	須恵器・杯B	10.5	底部はヘラ切り。	2層
5610	105	須恵器・杯B	10.4	底部はヘラ切り、底部外面にヘラ記号「×」。	3・4層
5611	106	須恵器・杯B	10.4	底部はヘラ切り。	2・3層
5612	106	須恵器・杯B	10.4	底部はヘラ切り。	4層
5613	106	須恵器・杯B	10.4	底部はヘラ切り、ゆがんでいる、底部内面に降灰物。	4層
5614	106	須恵器・杯B	10.4	底部はヘラ切り。	1・2層
5615	106	須恵器・杯B	10.4	底部はヘラ切り、口縁外面一部に薄く自然釉。	2・4層
5616	106	須恵器・杯B	10.3	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「キ」。	2層
5617	106	須恵器・杯B	10.3	底部はヘラ切り。	2・3層
5618	106	須恵器・杯B	10.3	底部はヘラ切り、全体に黒色の自然釉。	4層
5619	106	須恵器・杯B	10.3	底部はヘラ切り。	2層
5620	106	須恵器・杯B	10.3	底部はヘラ切り、口縁・体部外面に自然釉。	3・4層
5621	106	須恵器・杯B	10.3	底部はヘラ切り。	1・2・4層
5622	106	須恵器・杯B	10.2	底部はヘラ切り？体部外面に墨書「キ」。	1層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5623	106	須恵器・杯B	10.2	底部はヘラ切り、口端部に中量の油煙、全体的に薄く自然釉。	1層
5624	106	須恵器・杯B	10.2	底部はヘラ切り。	1・2層
5625	106	須恵器・杯B	10.2	底部はヘラ切り。	4層
5626	106	須恵器・杯B	10.2	底部はナデ。	1層
5627	106	須恵器・杯B	10.2	底部はヘラ切り。	2層
5628	106	須恵器・杯B	10.2	底部はヘラ切り。	3・4層
5629	106	須恵器・杯B	10.1	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「悔過」。	1層
5630	106	須恵器・杯B	10.1	底部はヘラ切り。	1・3・4層
5631	106	須恵器・杯B	10.0	底部はヘラ切り。	3層
5632	106	須恵器・杯B	10.0	底部はヘラ切り。	2・5層
5633	106	須恵器・杯B	10.0	底部は糸切り。	2・5層
5634	106	須恵器・杯B	10.0	底部はヘラ切り？外面に自然釉。	3層
5635	106	須恵器・杯B	9.8	底部は糸切り。	2・3層
5636	106	須恵器・杯B	9.3	底部は糸切り、口縁外面に1条の沈線が廻る。	2層
5637	107	須恵器・杯B	—	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、底部外面にヘラ文字「出」。	4層
5638	107	須恵器・杯B	—	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「達万呂」。	1層
5639	107	須恵器・杯B	—	底部はヘラ削り、底部内面はナデ、底部外面にヘラ記号「×」。	2・3層
5640	107	須恵器・杯B	—	底部はヘラ切り、底部外面にヘラ記号「×」。	1層
5641	107	須恵器・杯B	—	底部はヘラ切り、底部外面にヘラ記号「×」。	4層
5642	107	須恵器・杯B	—	底部はヘラ切り、底部外面にヘラ記号「×」。	1層
5643	107	須恵器・杯	12.0	体部外面に墨書「キ」。	2層
5644	107	須恵器・杯	11.8	体部外面に墨書「キ」。	2層
5645	107	須恵器・杯	11.4	体部外面に墨書「キ」。	1層
5646	107	須恵器・杯	11.4	体部外面に墨書「キ」。	3・4層
5647	107	須恵器・杯	11.5	体部外面に墨書「キ」。	1層
5648	107	須恵器・杯	11.3	体部外面に墨書「キ」。	1層
5649	107	須恵器・杯	—	体部外面に墨書「キ」。	2層
5650	107	須恵器・稜杯	10.8	底部はヘラ切り。	4層
5651	107	須恵器・稜杯	10.4	底部はヘラ切り。	1層
5652	107	須恵器・稜杯	10.4	底部はヘラ切り。	1・3層
5653	107	須恵器・稜杯	10.2	底部はヘラ切り。	4・5層
5654	107	須恵器・稜杯	12.4	体下、底部は欠損している。	1・2層
5655	107	須恵器・双耳杯	9.8	底部は糸切り、口縁下部外面に1条の沈線が廻る。	2・3層
5656	108	須恵器・杯蓋	18.7	天井部中央欠損、天井部外面ヘラ削り、口縁部内面にかえりが付く。	1層
5657	108	須恵器・杯蓋	17.2	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ、外面はヘラ削り。	3・4層
5658	108	須恵器・杯蓋	17.2	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	II・1・2層
5659	108	須恵器・杯蓋	17.1	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	2層
5660	108	須恵器・杯蓋	17.0	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ、外面はヘラ削り。	2層
5661	108	須恵器・杯蓋	16.9	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り、内面に墨書「安」。	3・4層
5662	108	須恵器・杯蓋	16.8	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ、天井部外面ヘラ削り。	2層
5663	108	須恵器・杯蓋	16.7	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	1層
5664	108	須恵器・杯蓋	16.9	宝珠形つまみが付く、天井部外面ヘラ削り、内面にヘラ記号「=」。	1～3層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5665	108	須恵器・杯蓋	16.4	宝珠形つまみが付く、天井部外面へラ削り、内面にヘラ記号「=」。	3・4層
5666	108	須恵器・杯蓋	16.4	宝珠形つまみが付く、天井部外面へラ削り、内面にヘラ記号「一」。	3・4層
5667	109	須恵器・杯蓋	16.5	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ、外面はヘラ削り。	2層
5668	109	須恵器・杯蓋	16.5	宝珠形つまみが付く。	3・4層
5669	109	須恵器・杯蓋	16.3	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	2層
5670	109	須恵器・杯蓋	16.2	宝珠形つまみが付く。	1・2層
5671	109	須恵器・杯蓋	16.0	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り、天井部に朱・降灰物。	4層
5672	109	須恵器・杯蓋	16.0	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	2・4層
5673	109	須恵器・杯蓋	15.9	宝珠形つまみが付く、外面はヘラ削り、内面にヘラ記号「×」。	1・3層
5674	109	須恵器・杯蓋	15.8	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ、外面はヘラ削り。	1・2層
5675	109	須恵器・杯蓋	15.8	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り、内面に漆付着。	1・2層
5676	109	須恵器・杯蓋	15.6	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	1~4層
5677	109	須恵器・杯蓋	15.6	宝珠形つまみが付く、口端部外面に降灰物。	2層
5678	109	須恵器・杯蓋	15.6	宝珠形つまみが付く、内面に墨書「キ?」。	1・2層
5679	109	須恵器・杯蓋	15.6	宝珠形つまみが付く、天井部外面に墨書「達万呂」。	2層
5680	110	須恵器・杯蓋	15.5	宝珠形つまみが付く、ゆがんでいる。	2層
5681	110	須恵器・杯蓋	15.5	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	2層
5682	110	須恵器・杯蓋	15.5	宝珠形つまみが付く。	2層
5683	110	須恵器・杯蓋	15.5	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	2・4・5層
5684	110	須恵器・杯蓋	15.5	宝珠形つまみが付く。	1・2層
5685	110	須恵器・杯蓋	15.3	宝珠形つまみが付く。	2層
5686	110	須恵器・杯蓋	15.1	宝珠形つまみが付く。	4層
5687	110	須恵器・杯蓋	15.1	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ、外面全体薄く自然釉。	3・4層
5688	110	須恵器・杯蓋	14.6	宝珠形つまみが付く、天井部に降灰物。	1・2・4層
5689	110	須恵器・杯蓋	13.9	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	2・4・5層
5690	110	須恵器・杯蓋	13.7	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	1~4層
5691	110	須恵器・杯蓋	13.9	宝珠形つまみが付く、内面に墨書「達万呂」。	3層
5692	110	須恵器・杯蓋	13.7	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ、外面はヘラ削り。	3層
5693	110	須恵器・杯蓋	13.7	宝珠形つまみが付く、内面はナデ・研磨、外面はヘラ削り。	4層
5694	110	須恵器・杯蓋	13.6	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ、外面はヘラ削り。	4層
5695	110	須恵器・杯蓋	13.4	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ・研磨・朱。	4層
5696	110	須恵器・杯蓋	13.4	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	II・1・3・4層
5697	110	須恵器・杯蓋	13.3	宝珠形つまみが付く、外面に降灰物。	II・1層
5698	110	須恵器・杯蓋	13.3	宝珠形つまみが付く。	2~4層
5699	110	須恵器・杯蓋	13.2	宝珠形つまみが付く。	2~4層
5700	110	須恵器・杯蓋	13.2	宝珠形つまみが付く、ゆがんでいる。	2層
5701	110	須恵器・杯蓋	13.2	宝珠形つまみが付く。	II・2~4層
5702	110	須恵器・杯蓋	13.1	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ、内面に墨、外面に降灰物。	4層
5703	110	須恵器・杯蓋	13.0	宝珠形つまみが付く、内面は研磨・墨付着。	2層
5704	110	須恵器・杯蓋	13.0	宝珠形つまみが付く。	2層
5705	110	須恵器・杯蓋	13.0	宝珠形つまみが付く。	2層
5706	110	須恵器・杯蓋	13.0	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ、ゆがんでいる。	2~4層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5707	110	須恵器・杯蓋	12.9	宝珠形つまみが付く。	2・4層
5708	110	須恵器・杯蓋	12.9	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	2・4層
5709	110	須恵器・杯蓋	12.9	宝珠形つまみが付く。	1・2層
5710	110	須恵器・杯蓋	12.9	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り、外面に薄く自然釉。	3層
5711	111	須恵器・杯蓋	12.9	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り、内面にヘラ記号「一」。	1・4層
5712	111	須恵器・杯蓋	12.9	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り、内面に墨付着。	2層
5713	111	須恵器・杯蓋	12.9	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	3層
5714	111	須恵器・杯蓋	12.8	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	3層
5715	111	須恵器・杯蓋	12.8	宝珠形つまみが付く。	2・4層
5716	111	須恵器・杯蓋	12.8	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	2・4・5層
5717	111	須恵器・杯蓋	12.8	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ、口縁部に少量の油煙。	2層
5718	111	須恵器・杯蓋	12.8	宝珠形つまみが付く、天井部内面に墨付着。	4層
5719	111	須恵器・杯蓋	12.8	宝珠形つまみが付く、天井部内面に墨付着。	2層
5720	111	須恵器・杯蓋	12.7	宝珠形つまみが付く、口縁部外面に墨書「キ」。	1・2層
5721	111	須恵器・杯蓋	12.7	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	2・5層
5722	111	須恵器・杯蓋	12.7	宝珠形つまみが付く。	2層
5723	111	須恵器・杯蓋	12.6	宝珠形つまみが付く、内面にヘラ記号「×」。	4層
5724	111	須恵器・杯蓋	12.6	宝珠形つまみが付く。	3・4層
5725	111	須恵器・杯蓋	12.6	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	2層
5726	111	須恵器・杯蓋	12.6	宝珠形つまみが付く、内面にヘラ記号「×」。	4層
5727	111	須恵器・杯蓋	12.6	宝珠形つまみが付く。	3・4層
5728	111	須恵器・杯蓋	12.6	宝珠形つまみが付く、ゆがんでいる。	3層
5729	111	須恵器・杯蓋	12.6	宝珠形つまみが付く、内外面に自然釉。	2・3層
5730	111	須恵器・杯蓋	12.6	宝珠形つまみが付く、内面に墨付着。	2層
5731	111	須恵器・杯蓋	12.6	宝珠形つまみが付く、天井部外面に降灰斑。	3層
5732	111	須恵器・杯蓋	12.5	宝珠形つまみが付く。	2層
5733	111	須恵器・杯蓋	12.5	宝珠形つまみが付く。	2層
5734	111	須恵器・杯蓋	12.5	宝珠形つまみが付く。	3・4層
5735	112	須恵器・杯蓋	12.5	宝珠形つまみが付く。	2・4・5層
5736	112	須恵器・杯蓋	12.5	宝珠形つまみが付く、内面全体に墨付着。	3・4層
5737	112	須恵器・杯蓋	12.5	宝珠形つまみが付く。	2・3層
5738	112	須恵器・杯蓋	12.4	宝珠形つまみが付く、内面にヘラ記号「-?」。	1層
5739	112	須恵器・杯蓋	12.4	宝珠形つまみが付く。	2・4層
5740	112	須恵器・杯蓋	12.4	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ、内面に墨付着。	4層
5741	112	須恵器・杯蓋	12.4	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	2層
5742	112	須恵器・杯蓋	12.4	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ、外面はヘラ削り。	2層
5743	112	須恵器・杯蓋	12.4	宝珠形つまみが付く。	4層
5744	112	須恵器・杯蓋	12.4	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ、口縁部に少量の油煙。	2層
5745	112	須恵器・杯蓋	12.4	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	1・4層
5746	112	須恵器・杯蓋	12.3	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り、内面にヘラ記号「×」。	1層
5747	112	須恵器・杯蓋	12.3	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り、口縁部外面墨書「 =」。	1層
5748	112	須恵器・杯蓋	12.3	宝珠形つまみが付く。	2・5層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5749	112	須恵器・杯蓋	12.3	宝珠形つまみが付く、口縁部内面に薄く降灰物。	4層
5750	112	須恵器・杯蓋	12.3	宝珠形つまみが付く。	1・2・3・5層
5751	112	須恵器・杯蓋	12.3	宝珠形つまみが付く。	2層
5752	112	須恵器・杯蓋	12.3	宝珠形つまみが付く、大井部外面はヘラ削り。	4層
5753	112	須恵器・杯蓋	12.3	宝珠形つまみが付く。	2～4層
5754	112	須恵器・杯蓋	12.3	宝珠形つまみが付く、大井部内面はナデ。	2・5層
5755	112	須恵器・杯蓋	12.3	宝珠形つまみが付く、内面はナデ・全体的に墨付着・部分的に研磨。	2層
5756	112	須恵器・杯蓋	12.3	宝珠形つまみが付く。	2層
5757	112	須恵器・杯蓋	12.2	宝珠形つまみが付く。	2層
5758	112	須恵器・杯蓋	12.2	宝珠形つまみが付く、内面に墨付着。	2層
5759	112	須恵器・杯蓋	12.2	宝珠形つまみが付く、大井部外面ヘラ削り、口縁部外面降灰物。	4層
5760	112	須恵器・杯蓋	12.2	宝珠形つまみが付く。	2層
5761	112	須恵器・杯蓋	12.2	宝珠形つまみが付く、内面に墨付着、口縁部外面に自然釉。	2・3層
5762	112	須恵器・杯蓋	12.2	宝珠形つまみが付く、内面全体に降灰物。	1・2層
5763	113	須恵器・杯蓋	12.2	宝珠形つまみが付く、口縁部外面に薄く降灰物。	1層
5764	113	須恵器・杯蓋	12.2	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	1・2層
5765	113	須恵器・杯蓋	12.2	宝珠形つまみが付く、大井部内面に墨付着、天井部外面はヘラ削り。	3・4層
5766	113	須恵器・杯蓋	12.2	宝珠形つまみが付く。	II・1層
5767	113	須恵器・杯蓋	12.1	宝珠形つまみが付く、大井部外面はヘラ削り、外面に墨書「静」。	3層
5768	113	須恵器・杯蓋	12.1	宝珠形つまみが付く、内面にヘラ記号「-?」。	1～3層
5769	113	須恵器・杯蓋	12.1	宝珠形つまみが付く。	3・4層
5770	113	須恵器・杯蓋	12.1	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ・外面に墨書3箇所。	1層
5771	113	須恵器・杯蓋	12.1	宝珠形つまみが付く、口縁部外面に墨書「キ」。	1・2層
5772	113	須恵器・杯蓋	12.1	宝珠形つまみが付く、内面に墨書「キ」。	2層
5773	113	須恵器・杯蓋	12.1	宝珠形つまみが付く、口縁部外面に降灰物。	1層
5774	113	須恵器・杯蓋	12.1	宝珠形つまみが付く、ややぬがんでいる。	2層
5775	113	須恵器・杯蓋	12.0	宝珠形つまみが付く、天井部内面ナデ・大井部外面墨書「寺万昌」。	3・4層
5776	113	須恵器・杯蓋	12.0	宝珠形つまみが付く、外面はヘラ削り、内面にヘラ記号「-」。	2層
5777	113	須恵器・杯蓋	12.0	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ・外面はヘラ削り。	2層
5778	113	須恵器・杯蓋	12.0	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り・外面全体に降灰物。	4層
5779	113	須恵器・杯蓋	12.0	宝珠形つまみが付く。	3・4層
5780	114	須恵器・杯蓋	12.0	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	2層
5781	114	須恵器・杯蓋	12.0	宝珠形つまみが付く。	1層
5782	114	須恵器・杯蓋	12.0	宝珠形つまみが付く。	3層
5783	114	須恵器・杯蓋	12.0	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	1層
5784	114	須恵器・杯蓋	12.0	宝珠形つまみが付く。	3層
5785	114	須恵器・杯蓋	11.9	宝珠形つまみが付く、内面に墨書「悔過」。	2層
5786	114	須恵器・杯蓋	11.9	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	2層
5787	114	須恵器・杯蓋	11.9	宝珠形つまみが付く、ゆがんでいる。	2・3層
5788	114	須恵器・杯蓋	11.9	宝珠形つまみが付く。	2層
5789	114	須恵器・杯蓋	11.9	宝珠形つまみが付く、内面に墨書「キ」。	3層
5790	114	須恵器・杯蓋	11.9	宝珠形つまみが付く、天井部内面ヘラ記号「-」、口縁部少量油焼。	2層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5791	114	須恵器・杯蓋	11.9	宝珠形つまみが付く、天井部内面に墨付着、口縁部内面に自然釉。	1層
5792	114	須恵器・杯蓋	11.9	宝珠形つまみが付く。	2層
5793	114	須恵器・杯蓋	11.9	宝珠形つまみが付く。	2・3層
5794	114	須恵器・杯蓋	11.9	宝珠形つまみが付く、口縁部内面に降灰物。	3層
5795	114	須恵器・杯蓋	11.9	宝珠形つまみが付く、内面全体と口縁部外面に自然釉。	2層
5796	114	須恵器・杯蓋	11.9	宝珠形つまみが付く、大井部内面はナデ。	3・4層
5797	114	須恵器・杯蓋	11.8	宝珠形つまみが付く、外面に墨書「キ」。	1層
5798	114	須恵器・杯蓋	11.8	宝珠形つまみが付く、内面にヘラ記付「一」。	4層
5799	114	須恵器・杯蓋	11.8	宝珠形つまみが付く、大井部内面はナデ、ゆがんでる。	3・4層
5800	114	須恵器・杯蓋	11.8	宝珠形つまみが付く。	2層
5801	114	須恵器・杯蓋	11.8	宝珠形つまみが付く。	1・3層
5802	115	須恵器・杯蓋	11.8	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	2・4層
5803	115	須恵器・杯蓋	11.8	宝珠形つまみが付く、内面に墨付着、口端部内面に少量の油煙。	2層
5804	115	須恵器・杯蓋	11.8	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	3・4層
5805	115	須恵器・杯蓋	11.8	宝珠形つまみが付く。	2層
5806	115	須恵器・杯蓋	11.8	宝珠形つまみが付く。	2層
5807	115	須恵器・杯蓋	11.8	宝珠形つまみが付く、大井部内面はナデ。	2層
5808	115	須恵器・杯蓋	11.7	宝珠形つまみが付く、口縁部内面に自然釉。	3層
5809	115	須恵器・杯蓋	11.7	宝珠形つまみが付く。	2層
5810	115	須恵器・杯蓋	11.7	宝珠形つまみが付く。	2・4層
5811	115	須恵器・杯蓋	11.7	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	2層
5812	115	須恵器・杯蓋	11.7	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	2・4層
5813	115	須恵器・杯蓋	11.7	宝珠形つまみが付く、内面に墨書「キ」、内面に墨付着。	2層
5814	115	須恵器・杯蓋	11.7	宝珠形つまみが付く、口縁部外面墨書「キ、□」、内面多量の油煙。	3層
5815	115	須恵器・杯蓋	11.7	宝珠形つまみが付く、大井部外面に墨書「達」。	2・5層
5816	115	須恵器・杯蓋	11.7	宝珠形つまみが付く。	3・4層
5817	115	須恵器・杯蓋	11.7	宝珠形つまみが付く、内面にヘラ記号「一」、内面に墨付着。	2・3層
5818	115	須恵器・杯蓋	11.7	宝珠形つまみが付く、内面に墨付着。	2層
5819	115	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く、内面に墨書「石見」。	3層
5820	115	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く、天井部外面に墨書「宅」。	1層
5821	115	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く、内面に墨付着。	2層
5822	116	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く、口縁部内面墨書「キ」、口縁部外面墨書「キ」。	2層
5823	116	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ、内面に朱。	2層
5824	116	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く。	1層
5825	116	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く。	2層
5826	116	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く、内面はナデ、口縁部外面に重ね焼きの跡。	2層
5827	116	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く。	2層
5828	116	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く。	1・3層
5829	116	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く。	2層
5830	116	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く、内面に墨付着。	2・3層
5831	116	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く、大きくゆがんでる、内面に薄く降灰物。	1層
5832	116	須恵器・杯蓋	11.6	宝珠形つまみが付く。	2層

番号	圓面	種類	口径	特徴	出土位置
5833	116	須恵器・杯蓋	11.5	宝珠形つまみが付く、天井部外面に降灰物。	2層
5834	116	須恵器・杯蓋	11.5	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	2層
5835	116	須恵器・杯蓋	11.5	宝珠形つまみが付く。	2層
5836	116	須恵器・杯蓋	11.5	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	1層
5837	116	須恵器・杯蓋	11.5	宝珠形つまみが付く。	2層
5838	116	須恵器・杯蓋	11.5	宝珠形つまみが付く。	1層
5839	116	須恵器・杯蓋	11.4	宝珠形つまみが付く、口縁部内面にヘラ記号「×」。	2層
5840	116	須恵器・杯蓋	11.4	宝珠形つまみが付く、口縁部内面墨書「キ」、口縁部外面墨書「キ」。	2・4層
5841	116	須恵器・杯蓋	11.4	宝珠形つまみが付く、外面に墨書「比与」・「口」。	3層
5842	116	須恵器・杯蓋	11.4	宝珠形つまみが付く、天井部内面少量の墨、口縁部に薄く降灰物。	2・3層
5843	116	須恵器・杯蓋	11.4	宝珠形つまみが付く。	2層
5844	117	須恵器・杯蓋	11.4	宝珠形つまみが付く、内面にヘラ記号「一」。	2層
5845	117	須恵器・杯蓋	11.4	宝珠形つまみが付く、口縁部内面に降灰物。	2層
5846	117	須恵器・杯蓋	11.4	宝珠形つまみが付く、口端部外面は薄い自然釉。	2層
5847	117	須恵器・杯蓋	11.4	宝珠形つまみが付く。	1層
5848	117	須恵器・杯蓋	11.4	宝珠形つまみが付く、内面に多量の油煙。	1層
5849	117	須恵器・杯蓋	11.4	宝珠形つまみが付く。	II・1層
5850	117	須恵器・杯蓋	11.4	宝珠形つまみが付く、内面全体に墨付着、外面に多量の油煙。	2層
5851	117	須恵器・杯蓋	11.4	宝珠形つまみが付く、外面に中量の油煙。	2層
5852	117	須恵器・杯蓋	11.4	宝珠形つまみが付く、内面全体に朱、口端部内面に少量の油煙。	1・2層
5853	117	須恵器・杯蓋	11.3	宝珠形つまみが付く、口縁部内面に墨書「達万昌」。	3・4層
5854	117	須恵器・杯蓋	11.3	宝珠形つまみが付く。	2層
5855	117	須恵器・杯蓋	11.3	宝珠形つまみが付く。	2層
5856	117	須恵器・杯蓋	11.3	宝珠形つまみが付く。	2層
5857	117	須恵器・杯蓋	11.3	宝珠形つまみが付く。	2層
5858	117	須恵器・杯蓋	11.3	宝珠形つまみが付く。	2層
5859	117	須恵器・杯蓋	11.3	宝珠形つまみが付く、外表面全体に自然釉。	1・2・3・5層
5860	117	須恵器・杯蓋	11.2	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	2層
5861	117	須恵器・杯蓋	11.2	宝珠形つまみが付く。	4層
5862	117	須恵器・杯蓋	11.2	宝珠形つまみが付く、大井部内面はナデ。	2・5層
5863	117	須恵器・杯蓋	11.2	宝珠形つまみが付く。	2・5層
5864	117	須恵器・杯蓋	11.2	宝珠形つまみが付く。	1層
5865	117	須恵器・杯蓋	11.2	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	2・4層
5866	117	須恵器・杯蓋	11.1	宝珠形つまみが付く。	2層
5867	117	須恵器・杯蓋	11.0	宝珠形つまみが付く、口縁部内面に墨書「キ」。	1層
5868	117	須恵器・杯蓋	11.0	宝珠形つまみが付く、口縁部内面は緑白色の自然釉。	1・3・4層
5869	117	須恵器・杯蓋	11.0	宝珠形つまみが付く。	2層
5870	117	須恵器・杯蓋	11.0	宝珠形つまみが付く。	1・2層
5871	117	須恵器・杯蓋	11.0	宝珠形つまみが付く、口縁部外面に自然釉。	2層
5872	117	須恵器・杯蓋	11.0	宝珠形つまみが付く。	1層
5873	118	須恵器・杯蓋	11.0	宝珠形つまみが付く。	2層
5874	118	須恵器・杯蓋	11.0	宝珠形つまみが付く。	2層

番号	画面	種類	口径	特徴	出土位置
5875	118	須恵器・杯蓋	10.9	宝珠形つまみが付く。	2層
5876	118	須恵器・杯蓋	10.9	宝珠形つまみが付く。	2層
5877	118	須恵器・杯蓋	10.8	宝珠形つまみが付く、天井部外面へラ削り、口縁部内面薄く自然釉。	2~4層
5878	118	須恵器・杯蓋	10.8	宝珠形つまみが付く。	1層
5879	118	須恵器・杯蓋	10.8	宝珠形つまみが付く、内面に少量の墨付着。	2層
5880	118	須恵器・杯蓋	10.8	宝珠形つまみが付く。	1~2~5層
5881	118	須恵器・杯蓋	10.7	宝珠形つまみが付く。	2層
5882	118	須恵器・杯蓋	10.7	宝珠形つまみが付く。	1~3層
5883	118	須恵器・杯蓋	10.6	宝珠形つまみが付く。	1~2~4層
5884	118	須恵器・杯蓋	10.2	宝珠形つまみが付く、内面ほぼ全体と外面に少量の墨付着。	1層
5885	118	須恵器・杯蓋	13.4	つまみは欠損している、天井部内面はナデ。	1~2層
5886	118	須恵器・杯蓋	12.9	つまみは欠損している。	3~4層
5887	118	須恵器・杯蓋	12.4	つまみは欠損している、天井部内面はナデ。	2層
5888	118	須恵器・杯蓋	12.0	つまみは欠損している、天井部内面はナデ。	1~2層
5889	118	須恵器・杯蓋	11.2	つまみは欠損している。	2層
5890	118	須恵器・杯蓋	11.1	つまみは欠損している、天井部内面はナデ。	II-1~2層
5891	118	須恵器・杯蓋	19.6	天井部中央は欠損している。	1~4層
5892	118	須恵器・杯蓋	12.7	天井部中央は欠損している、天井部内面はナデ、外面はヘラ削り。	3~4層
5893	118	須恵器・杯蓋	12.7	天井部中央は欠損している。	1~2~3~5層
5894	118	須恵器・杯蓋	12.4	天井部中央は欠損している、天井部外面に墨書「=」。	2層
5895	118	須恵器・杯蓋	12.4	天井部中央は欠損している。	2層
5896	118	須恵器・杯蓋	12.4	天井部中央は欠損している。	1~3層
5897	118	須恵器・杯蓋	11.8	天井部中央は欠損している、天井部外面に墨書「□」。	2層
5898	118	須恵器・杯蓋	11.4	天井部中央は欠損している。	1層
5899	118	須恵器・杯蓋	11.2	天井部中央は欠損している。	2層
5900	118	須恵器・杯蓋	—	天井部の小破片、外面に墨書「平?」。	1層
5901	119	須恵器・鉢	33.7	把手が付く。体部外面は、上部がカキ目、下部が手持ちヘラ削り。	2層
5902	119	須恵器・蓋	25.5	広口蓋、口縁部内面にヘラ記号「×」。	1層
5903	119	須恵器・蓋	27.4	広口蓋、口縁部は外面に接をなして、外上方へ立ち上がる。	3層
5904	119	須恵器・蓋	—	広口蓋？ 頭部に沈線が1条逕る、胸下部外面は手持ちヘラ削り。	1~2層
5905	119	須恵器・笠	10.5	短頭笠。肩部外面はカキ目、胴下・底部外面は手持ちヘラ削り。	1~2~4層
5906	119	須恵器・笠	8.6	短頭笠、高台付。肩部に沈線が2条逕る、胸下半部外面はヘラ削り。	3層
5907	119	須恵器・笠蓋	12.1	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ・研磨。	2層
5908	119	須恵器・笠蓋	10.7	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	1~3層
5909	119	須恵器・笠蓋	12.2	宝珠形つまみが付く、大井部外面はヘラ削り、大井部内面は降灰物。	II-1~2層
5910	119	須恵器・笠蓋	11.0	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ、天井部外面に自然釉。	1~3層
5911	119	須恵器・蓋蓋	11.2	つまみは欠損している、天井部外面はヘラ削りされ沈線が廻る。	1~3層
5912	119	須恵器・蓋蓋	12.1	天井部中央は欠損している、大井部外面はヘラ削り。	3層
5913	119	須恵器・蓋蓋	—	口縁部は欠損している、宝珠形つまみが付く、天井部外面に自然釉。	3層
5914	120	須恵器・瓶	12.2	双耳瓶の口頭部？	1層
5915	120	須恵器・縦頭瓶	—	縦頭瓶、高台付、口頭部と高台部は欠損している。	1層
5916	120	須恵器・縦頭瓶	—	縦頭瓶、口頭部と胸下半・底部は欠損している。	1層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
5917	120	須恵器・横瓶	12.1	口縁部と片側の胴上部が残存、胴上部外面にヘラ文字「布忍郷」。	1~4層
5918	120	須恵器・横瓶	9.1	口縁部片と左右の胴中央部片を中心に残存、復元的に固化。	1~4層
5919	121	須恵器・横瓶	10.9	内面は刷毛目・あて具痕、外面はカキ目・即日。	1~2・4層
5920	121	須恵器・横瓶	10.0	横瓶の口頭部。	4層
5921	121	須恵器・横瓶	10.8	横瓶の口頭部。	2・5層
5922	121	須恵器・甕	23.6	小型の甕。口唇面は内傾する。	1層
5923	121	須恵器・甕	29.6	口縁部内面と肩部外面にカキ目。	3層
5924	121	須恵器・甕	34.8	口縁部外面に波状文が彫る。	2層
5925	121	須恵器・甕	49.8	口縁部外面に波状文が彫る。	1層
5926	121	須恵器・甕	57.1	口縁部外面に波状文が彫る。	1層

5. 奈良平安時代の土器類、中央調査地区出土土器

6001	122	土師器・碗	10.8	全面赤彩、内面はヘラ磨き。	SD85
6002	122	土師器・椀	12.4	全面赤彩、内面は磨き？体下・底部外面は回転ヘラ削り。	表土
6003	122	土師器・椀	12.7	全面黒色、内面と口縁部外面ヘラ磨き、体下・底部外面はヘラ削り。	表土
6004	122	土師器・椀	12.4	全面黒色、内面と口縁部外面ヘラ磨き、体下・底部外面はヘラ削り。	表土
6005	122	土師器・椀	11.9	全面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き。	SD18
6006	122	土師器・椀	15.5	全面黒色外面赤彩、内面ヘラ磨き、体下・底部外面回転ヘラ削り。	SD18他
6007	122	土師器・甕	22.0	肩部外面はカキ目、肩部外面に様。※6006：S D18と S D95から出た。	SD18
6008	122	土師器・甕	22.0	口縁下部内面と肩部はカキ目。	SD44
6009	122	土師器・甕	20.7	磨滅している。	SD85
6010	122	土師器・甕	16.2	胴上部は、内面がカキ目・刷毛目、外面がカキ目。	SD91
6011	122	土師器・甕	16.1	胴上部はカキ目。	SD93
6012	122	土師器・甕	13.8	胴下部外面はヘラ削り、胴上・中央部外面に剥離。	SD95
6013	122	土師器・鍋	35.0	体下部内面は刷毛目、体部外面はカキ目・ヘラ削り。	SD93
6014	122	土師器・鍋	32.4	体部は、内面が刷毛目、外面がカキ目。	SD85
6015	123	須恵器・杯A	12.8	底部はヘラ切り。	SK13
6016	123	須恵器・杯A	12.6	底部はヘラ切り。	SD94
6017	123	須恵器・杯A	12.6	底部はヘラ切り。	表土
6018	123	須恵器・杯A	12.6	底部はヘラ切り。	表土
6019	123	須恵器・杯A	12.5	底部はヘラ切り。	SD91
6020	123	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り。	SD93
6021	123	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	表土
6022	123	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り、底部外面にヘラ記号「×」。	SD91他
6023	123	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り。 ※6002：S D91と S D93から出土。	SK194
6024	123	須恵器・杯A	12.3	底部はヘラ切り。	SD18
6025	123	須恵器・杯A	12.3	底部はヘラ切り。	SD91
6026	123	須恵器・杯A	12.3	底部はヘラ切り。	SD94
6027	123	須恵器・杯A	12.3	底部はヘラ切り。 ※6028：口縁部と体底部外面に中量の油焼。	SD93
6028	123	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、体部外面にヘラ記号「×」。	SD95
6029	123	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、やや軟質。	SD93
6030	123	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、やや軟質。	ビット

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
6031	123	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	表土
6032	123	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り。	SD91
6033	123	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り、やや軟質。	表土
6034	123	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り、やや軟質。	SK194
6035	123	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	表土
6036	123	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り、やや軟質。	SD93
6037	123	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。※SK198とSD94から出土。	SK198他
6038	123	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り、やや軟質、内面に擦付着。	SD93
6039	123	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	SD93
6040	123	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	SX16
6041	123	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	SD93
6042	123	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	SD93
6043	123	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	表土
6044	123	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	表土
6045	124	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	表土
6046	124	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	表土
6047	124	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	SD94
6048	124	須恵器・杯A	11.8	底部は糸切り。	SD18
6049	124	須恵器・杯A	11.8	底部は糸切り。	SD95
6050	124	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、やや軟質。	SD93
6051	124	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、やや軟質。	SK194
6052	124	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、やや軟質。	SD85
6053	124	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	SK128
6054	124	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	SD91
6055	124	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	SD18
6056	124	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り。※SK198とSD94から出土。	SK198他
6057	124	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り。	SD18
6058	124	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、やや軟質。	SD95
6059	124	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	SD100
6060	124	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、やや軟質。※SK194とSD44とSX13から出土。	SK194他
6061	124	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、やや軟質。	SD85
6062	124	須恵器・杯A	11.3	底部は糸切り、2次的焼成を受けている。	SD95
6063	124	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	SD94
6064	124	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り。	SD93
6065	124	須恵器・杯A	10.8	底部はヘラ切り、口端部に多量の油煙。	SD93
6066	124	須恵器・杯A	10.8	底部はヘラ切り。※SK169とSK190から出土。	SK169他
6067	124	須恵器・杯A	—	底部はヘラ切り、底部外縁に墨書き「ギ」。	SD85
6068	125	須恵器・杯B	15.6	底部はヘラ切り。※SA07とSD84・85から出土。	SA07他
6069	125	須恵器・杯B	15.4	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	SK194
6070	125	須恵器・杯B	14.4	底部は、内面はナデ、外縁がヘラ削り。	表土
6071	125	須恵器・杯B	14.1	底部はヘラ切り。	SD85
6072	125	須恵器・杯B	14.0	底部はヘラ切り。	ビット

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
6073	125	須恵器・杯B	14.0	底部はヘラ切り。	SD85
6074	125	須恵器・杯B	14.0	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、底部外面にヘラ記号「×」。	SK169
6075	125	須恵器・杯B	13.0	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	SD85
6076	125	須恵器・杯B	12.5	底部はヘラ切り？	表土
6077	125	須恵器・杯B	11.9	底部はヘラ切り。	SD94
6078	125	須恵器・杯B	11.5	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	表土
6079	125	須恵器・杯B	11.4	底部はヘラ切り。	SD85
6080	125	須恵器・杯B	11.3	底部はヘラ切り。	SD18
6081	125	須恵器・杯B	11.0	底部はヘラ切り、口縁部内面に中量の油煙。	SD18
6082	125	須恵器・杯B	11.0	底部はヘラ切り。	SD85
6083	125	須恵器・杯B	11.0	底部はヘラ切り。	SD18
6084	125	須恵器・杯B	10.9	底部はヘラ切り。	SD44
6085	125	須恵器・杯B	10.9	底部はヘラ切り。	表土
6086	125	須恵器・杯B	10.8	底部はヘラ切り。	表土
6087	125	須恵器・杯B	10.6	底部はヘラ切り。	SD85
6088	125	須恵器・杯B	10.4	底部はヘラ切り、ゆがんでいる。	SK169
6089	125	須恵器・杯B	10.3	底部はヘラ切り、内外に自然釉。	SK201
6090	125	須恵器・杯B	9.9	底部はヘラ切り。	表土
6091	125	須恵器・杯B	—	底部はヘラ切り、底部外面は研磨・墨付着。	SD85
6092	125	須恵器・杯B	—	底部はヘラ切り、底部外面にヘラ記号「×」。	SK201
6093	124	須恵器・縫杯	11.4	底部はヘラ切り。	表土
6094	124	須恵器・縫杯	12.3	体下部外縁はヘラ削り。	SD85
6095	126	須恵器・杯蓋	18.4	宝珠形つまみが付く、天井部外面に緑灰色の自然釉。	SD93
6096	126	須恵器・杯蓋	16.0	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り、内面にヘラ記号「×」。	SK169
6097	126	須恵器・杯蓋	15.7	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	SK169
6098	126	須恵器・杯蓋	14.8	宝珠形つまみが付く？	SD91
6099	126	須恵器・杯蓋	14.6	宝珠形つまみが付く。	SD93
6100	126	須恵器・杯蓋	14.4	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	SD93
6101	126	須恵器・杯蓋	14.0	宝珠形つまみが付く、内面にヘラ記号「×」。	SD91
6102	126	須恵器・杯蓋	14.0	宝珠形つまみが付く、天井部は、内面がナデ、外縁がヘラ削り。	SD93
6103	126	須恵器・杯蓋	13.2	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り、濃緑色の自然釉。	SK194
6104	126	須恵器・杯蓋	13.1	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	SD93
6105	126	須恵器・杯蓋	12.9	宝珠形つまみが付く。	SD93
6106	126	須恵器・杯蓋	12.9	宝珠形つまみが付く。	SD18
6107	126	須恵器・杯蓋	12.6	宝珠形つまみが付く、天井部内面はナデ。	SK16
6108	126	須恵器・杯蓋	12.6	宝珠形つまみが付く。	SD85
6109	126	須恵器・杯蓋	12.5	宝珠形つまみが付く、内面に黄緑の自然釉。	表土
6110	126	須恵器・杯蓋	12.0	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	SK169
6111	126	須恵器・杯蓋	11.4	宝珠形つまみが付く、口縁部内面に薄い降灰物。	ビオ
6112	126	須恵器・杯蓋	11.2	宝珠形つまみが付く。	表土
6113	126	須恵器・杯蓋	17.8	大井部中央は欠損している、内面ナデ、天井部外面はヘラ削り。	SD93
6114	126	須恵器・杯蓋	16.3	天井部中央は欠損している。	表土

番号	圓面	種類	L径	特徴	出土位置
6115	126	須恵器・杯蓋	—	宝珠形つまみが付く、大井部外面へラ削り、内面にヘラ記号「X」。	表土
6116	126	須恵器・杯蓋	—	宝珠形つまみが付く、内面にヘラ記号「X」。	SD93
6117	126	須恵器・杯蓋	—	宝珠形つまみが付く、内面にヘラ記号「?」。	表土
6118	124	須恵器・鉢	21.6	口端部は内傾する。	表土
6119	124	須恵器・鉢	—	底部は糸切り。	SD18
6120	127	須恵器・壺	—	胴上部外面はヘラ削り、肩部外間に沈線が1条廻る。	表土
6121	127	須恵器・壺	11.5	蓋付の壺の口縁部、口端部に受部が付く。	SD18
6122	127	須恵器・壺	—	広口壺、口縁部外間に2条の沈線が廻る、口端部は欠損している。	SD100
6123	127	須恵器・壺	8.5	短頸壺、肩部外間に2条の沈線が廻る。	SD85
6124	127	須恵器・壺	—	短頸壺? 壺の肩胴上部。 ※SK169とSK190から出土。	SK169他
6125	127	須恵器・壺	10.9	短頸壺、胴中央部は、内面があて具痕、外側が叩目。	SX16
6126	127	須恵器・壺	10.9	短頸壺。	SD44
6127	124	須恵器・壺蓋	13.5	天井部中央は欠損している、天井部外面に暗緑灰色の自然釉。	SK194
6128	124	須恵器・壺蓋	13.7	天井部中央は欠損している、天井部外面に降灰物。	表土
6129	127	須恵器・甕	36.4	肩部外面に叩目。	SD85
6130	127	須恵器・甕	53.2	肩部は、内面があて具痕、外側が叩目。	SD85

6. 奈良平安時代の土器類、東側調査地区出土土器

7001	128	土師器・椀	13.0	底部は糸切り。	SX06
7002	128	土師器・椀	12.6	底部は糸切り。	SX06
7003	128	土師器・椀	12.4	底部は糸切り。	SX06
7004	128	土師器・椀	12.2	底部は糸切り。	SX06
7005	128	土師器・椀	11.7	底部は糸切り。	SX06
7006	128	土師器・椀	11.3	底部は糸切り。	SX06
7007	128	土師器・椀	10.8	底部は糸切り、体部外面に墨書2箇所。	SX06
7008	128	土師器・椀	13.8	口縁・体部片。	SX06
7009	128	土師器・椀	12.8	口縁・体部片。	SX06
7010	128	土師器・椀	—	底部は糸切り。	SX06
7011	128	土師器・椀	13.0	内面黒色、底部は糸切り、内面はヘラ磨き、体下部外面はヘラ削り。	SX06
7012	128	土師器・椀	12.3	内面黒色外面赤彩、底部にヘラ切り痕、体底部外面は回転ヘラ削り。	SX06
7013	128	土師器・皿	12.9	底部外面は回転ヘラ削り、他は横ナデ・ヘラ磨き。	SX06
7014	128	土師器・皿	21.6	全面赤彩、底部外面はヘラ削り。	表土
7015	128	土師器・皿	—	全面赤彩、底部外面は2次的横ナデ。	SX06
7016	129	土師器・鉢	17.9	体部外面はヘラ削り。	SX06
7017	129	土師器・鉢	17.8	口縁・脚部は横ナデ・カキ目、底部内面が刷毛目、外側がヘラ削り。	SX06
7018	129	土師器・鉢	22.0	体部は、内面が横ナデ・カキ目、外側がカキ目・ヘラ削り。	SX06
7019	129	土師器・鉢	20.6	体部は、内面がカキ目、外側がカキ目・ヘラ削り。	SX06
7020	129	土師器・鉢	21.0	体部外面はカキ目、体上部内外に煤付着。	SX06
7021	129	土師器・甕	23.0	胴上部はカキ目。	SX06
7022	129	土師器・甕	23.0	胴上部は、内面が横ナデ・カキ目、外側がカキ目。	SX06
7023	129	土師器・甕	21.0	胴上部は、内面がカキ目、外側が横ナデ・カキ目。	SX06
7024	129	土師器・甕	19.4	口縁部内面と胴上部はカキ目。	SX06

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
7025	129	土師器・甕	14.7	底部外面はナデ、指圧、外面に大きく煤。	SX06
7026	129	土師器・甕	12.3	体下・底部外面はヘラ削り。	SX06
7027	129	土師器・甕	12.0	外面に煤。	SX06
7028	130	須恵器・杯A	13.8	底部はヘラ切り、底部内面研磨、外面に多量の油煙。	SX06
7029	130	須恵器・杯A	13.3	底部はヘラ切り。	SX06
7030	130	須恵器・杯A	12.8	底部はヘラ切り、底部内面にヘラ記号「×」。	SX06
7031	130	須恵器・杯A	12.5	底部はヘラ切り、体部外面に墨書「八」倒位。	SX06
7032	130	須恵器・杯A	12.5	底部はヘラ切り、内面に多量の油煙。	SX06
7033	130	須恵器・杯A	12.5	底部はヘラ切り、口縁部に中量の油煙。	SX06
7034	130	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、口縁部内面に少量の油煙。	SX06
7035	130	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、全体的に多量の油煙。	SX06
7036	130	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、全体的に多量の油煙。	SX06
7037	130	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、内面に多量の油煙。	SX06
7038	130	須恵器・杯A	12.2	底部はヘラ切り、全体的に多量の油煙。	SX06
7039	130	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	SX06
7040	130	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り、底部内面ヘラ記号「=」、底部外面墨書「悔過」。	SX06
7041	130	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	SX06
7042	130	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	SX06
7043	130	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り、口縁部に少量の油煙。	SX06
7044	130	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り、底部内面にヘラ記号「一？」。	SX06
7045	130	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り、底部内面はナデ、全体的に多量の油煙。	SX06
7046	130	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り、口縁部に少量の油煙。	SX06
7047	130	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	SX06
7048	130	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	SX06
7049	130	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り、口縁・体部に中量の油煙。	SX06
7050	130	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	SX06
7051	130	須恵器・杯A	11.6	底部は糸切り。	SX06
7052	130	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り。	SX06
7053	131	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	SX06
7054	131	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	SX06
7055	131	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り、やや軟質。	SX06
7056	131	須恵器・杯A	10.9	底部はヘラ切り、底部内面の3分の1程に墨付着。	SX06
7057	131	須恵器・杯A	9.6	底部はヘラ切り、口縁部に中量の油煙。	SX06
7058	131	須恵器・杯A	9.3	底部はヘラ切り、全体的に多量の油煙。	SX06
7059	131	須恵器・杯B	16.2	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	SX06
7060	131	須恵器・杯B	15.8	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	SX06
7061	131	須恵器・杯B	15.6	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	SX06
7062	131	須恵器・杯B	15.3	底部はヘラ切り、刷毛状具、底部内面はナデ。	SX06
7063	131	須恵器・杯B	14.2	底部はヘラ切り。	SX06
7064	131	須恵器・杯B	12.8	底部はヘラ切り。	SX06
7065	131	須恵器・杯B	12.7	底部はヘラ切り。	SX06
7066	131	須恵器・杯B	12.6	底部はヘラ切り、体下・底部内面はナデ。	SX06

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
7067	131	須恵器・杯B	11.8	底部はヘラ切り。	SX06
7068	131	須恵器・杯B	11.7	底部はヘラ切り。	SX06
7069	131	須恵器・杯B	11.2	底部はヘラ切り。	SX06
7070	131	須恵器・杯B	11.1	底部はヘラ切り。	SX06
7071	131	須恵器・杯B	11.0	底部はヘラ切り、底部外面にヘラ記号「-」。	SX06
7072	131	須恵器・杯B	10.6	底部は糸切り。	SX06
7073	131	須恵器・杯B	10.4	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「□」。	SX06
7074	131	須恵器・杯B	10.0	底部はヘラ切り。	SX06
7075	131	須恵器・杯B	-	底部はヘラ切り、底部外面に墨書「悔過」。	SX06
7076	128	須恵器・棱杯	-	底部はヘラ切り、底部内面はナデ。	SX06
7077	132	須恵器・杯蓋	18.3	天井部は欠損している、口縁部内面にかえりが付く。	SX06
7078	132	須恵器・杯蓋	18.4	宝珠形つまみが付く、内面に墨書「□」。	SX06
7079	132	須恵器・杯蓋	15.4	宝珠形つまみが付く、天井部外縁はヘラ削り。	SX06
7080	132	須恵器・杯蓋	14.6	宝珠形つまみが付く。	SX06
7081	132	須恵器・杯蓋	14.2	宝珠形つまみが付く。	SX06
7082	132	須恵器・杯蓋	13.2	宝珠形つまみが付く。	SX06
7083	132	須恵器・杯蓋	13.0	宝珠形つまみが付く、内面ヘラ記号「×」、内面墨、外面は降灰物。	SX06
7084	132	須恵器・杯蓋	12.4	宝珠形つまみが付く。	SX06
7085	132	須恵器・杯蓋	12.1	宝珠形つまみが付く、内面はやや研磨・やや墨付着。	SX06
7086	132	須恵器・杯蓋	12.1	つまみは欠損している、内面は研磨・墨付着。	SX06
7087	132	須恵器・杯蓋	11.9	宝珠形つまみが付く、内面はナデ・研磨・墨付着。	SX06
7088	132	須恵器・杯蓋	11.9	宝珠形つまみが付く、天井部に降灰物（自然釉）。	SX06
7089	132	須恵器・杯蓋	11.8	宝珠形つまみが付く、内面全体に墨付着。	SX06
7090	132	須恵器・杯蓋	11.1	宝珠形つまみが付く、内面にヘラ記号「×」・墨付着。	SX06
7091	132	須恵器・杯蓋	11.0	宝珠形つまみが付く。	SX06
7092	132	須恵器・杯蓋	17.6	天井部中央は欠損している。	SX06
7093	132	須恵器・杯蓋	16.4	天井部中央は欠損している、内面はナデ・墨付着。	SX06
7094	128	須恵器・鉢	26.7	肩部は、上方に1条、下方に2条の沈線が確認。外面にカキ目。	SX06
7095	128	須恵器・鉢	31.0	体部外縁はカキ目。	SX06
7096	128	須恵器・壺	-	底部はヘラ切り。	SX06
7097	132	須恵器・横腹	9.0	中央部が残存。	SX06
7098	128	須恵器・甕	33.8	口端面はつまみ上げたように内側して立ち上がる。	SX06

7. 奈良平安時代の土器類、獨立柱建物址出土上器

0101	133	土師器・椀	12.8	全面赤彩。	SB17
0102	133	土師器・椀	11.7	全面赤彩。	SB17
0103	133	土師器・皿	-	底部に糸切り痕、内面はヘラ磨き、外面は回転ヘラ削り。	SB17
0104	133	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り、軟質。	SB19
0105	133	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	SB17
0106	133	須恵器・杯A	10.8	底部はヘラ切り。	SB20
0107	133	須恵器・杯A	-	底部はヘラ切り。	SB16
0108	133	須恵器・杯A	-	底部はヘラ切り、底部外面にヘラ記号「-」。	SB11

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
0109	133	須恵器・杯A	—	底部はヘラ切り。	SB09
0110	133	須恵器・杯A	—	底部はヘラ切り。	SB17
0111	133	須恵器・杯A	—	底部はヘラ切り。	SB16
0112	133	須恵器・杯A	—	底部はヘラ切り。	SB20
0113	133	須恵器・杯B	14.4	底部外面は2次的横ナデ。	SB20
0114	133	須恵器・杯B	12.5	底部はヘラ切り。	SB15
0115	133	須恵器・杯B	12.2	底部はヘラ切り。	SB20
0116	133	須恵器・杯B	11.7	底部はヘラ切り。	SB17
0117	133	須恵器・杯B	—	底部はヘラ切り。	SB20
0118	133	須恵器・杯B	—	底部はヘラ切り。	SB14
0119	133	須恵器・杯B	—	底部はヘラ切り。	SB17
0120	133	須恵器・杯	13.9	杯の口縁部。	SB20
0121	133	須恵器・杯	13.7	杯の口縁部。	SB18
0122	133	須恵器・杯	12.4	杯の口縁部。	SB20
0123	133	須恵器・杯	12.8	杯の口縁部。	SB12
0124	133	須恵器・杯	12.2	杯の口縁部。	SB17
0125	133	須恵器・杯	11.8	杯の口縁部。	SB17
0126	133	須恵器・杯	11.9	杯の口縁部。	SB20
0127	133	須恵器・杯	11.5	杯の口縁部。	SB16
0128	133	須恵器・杯	11.4	杯の口縁部。	SB17
0129	134	須恵器・杯蓋	14.0	宝珠形のつまみが付く、天井部内面はナデ、内面に墨付着。	SB10
0130	134	須恵器・杯蓋	—	宝珠形つまみが付く。	SB17
0131	134	須恵器・杯蓋	16.9	天井部中央は欠損している。	SB16
0132	134	須恵器・杯蓋	14.7	蓋の口縁部。	SB20
0133	134	須恵器・杯蓋	14.0	天井部中央は欠損している。	SB20
0134	134	須恵器・杯蓋	13.7	蓋の口縁部。	SB19
0135	134	須恵器・杯蓋	13.6	蓋の口縁部。	SB17
0136	134	須恵器・杯蓋	12.3	蓋の口縁部。	SB15
0137	134	須恵器・杯蓋	11.6	天井部中央は欠損している。	SB17
0138	134	須恵器・杯蓋	11.3	蓋の口縁部。	SB19
0139	134	須恵器・横瓶	—	横瓶の小破片、外面上にカキ目。	SB20
0140	133	須恵器・蓋	11.8	宝珠形つまみが付く、天井部外面はヘラ削り。	SB20

8. 古代・中世の土器類

0201	134	土師器・鉢	11.4	小型の深鉢、全体的に剥離している。	SD60
0202	134	土師器・鉢	4.4	ミニチュア土器。	東側地区
0203	134	土師器・甌	—	底部片、外面とも刷毛目。	東側地区
0204	134	土師器・皿	9.8	ロクロ使用の土師器皿、底部は糸切り。	中央地区
0205	134	土師器・皿	7.4	口縁下部外山回転ヘラ削り、底部静止糸切り、内面に墨、油煙付着。	中央地区
0206	134	青磁・碗	15.8	口縁部片、外面は墨を持つ花弁が廻る。	SD60
0207	134	青磁・碗	—	底部片。	中央地区
0208	134	白磁・碗	—	底部片。	中央地区

別表 7

東木津遺跡、木製品観察表

番号	図面	図版	種別	細別	特徴	出土位置
8001	137	061	木筒	木筒	全長250、幅34、厚6.0、完存？短骨形？	SD601層
8002	137	060	木筒	木筒	残存長95、幅24、厚7.0、下端欠損。	SD602層
8003	137	060	木筒	木筒	残存長164、幅20、厚3.0、片側端欠損。	東側SX06
8004	137	060	木筒	木筒	全長154、幅21、厚5.0、短骨形。	東側SX06
8005	137	060	木筒	木筒	全長142、幅13、厚6.0、略完存。主頭・下端斜先形。	SD602層
8006	137	060	木筒	木筒	全長122、幅12、厚5.5、略完存。主頭・斜先形。	SD602層
8007	137	060	木筒	木筒	残存長109、幅12、厚6.0、下端欠損。左右切込・主頭形。	SD602層
8008	138	061	木筒	木筒	全長128、幅16、厚3.0、略完存。左右切込・主頭・斜先形。	SD602層
8009	138	061	木筒	木筒	残存長122、幅20、厚7.0、下端欠損。左右切込・主頭？	SD602層
8010	138	061	木筒	木筒	残存長70、幅12、厚5.0、上端欠損。下端主頭形。	SD602層
8011	138	061	木筒	木筒	残存長92、幅17、厚4.5、下端欠損。下端斜先形。	SD602層
8012	138	062	木筒	木筒形	全長135、幅27、厚6.0、略完存。左右切込・下端主頭形。	SD601層
8013	138	062	木筒	木筒形	全長119、幅15、厚5.0、略完存。左右切込・下端主頭形。	SD601層
8014	138	062	木筒	木筒形	全長84、幅34、厚6.0、略完存。左右切込・下端主頭形。	SD602層
8015	138	062	木筒	木筒形	全長90、幅35、厚8.0、略完存。左右切込・下端主頭形。	SD601層
8016	139	062	木筒	木筒形	全長130、幅23、厚5.5、略完存。左右切込・下端主頭形。	SD601層
8017	139	062	木筒	木筒形	残存長60、幅17、厚4.0、下端欠損。左右切込・上端主頭形。	SD601層
8018	139	062	木筒	木筒形	残存長57、幅22、厚5.0、下端欠損。左右切込・上端主頭形。	SD601層
8019	139	062	木筒	木筒形	残存長176、幅29、厚5.0、下端欠損。左右切込・方頭形。	東側SX06
8020	139	062	木筒	木筒形	残存長130、幅26、厚8.0、下端欠損。左右切込・方頭形。	SD601層
8021	139	062	木筒	木筒形	残存長93、幅25、厚9.5、下端欠損。左右切込・方頭形。	東側SX06
8022	139	062	木筒	木筒形	残存長156、幅26、厚7.0、上端欠損。下端主頭形。	SD601層
8023	139	062	木筒	木筒形	残存長94、幅30、厚7.5、上端欠損。下端主頭形。	SD601層
8024	140	063	祭祀用品	人形	全長382、幅32、厚6.5、略完存。頭部主頭状、コ字状脚切欠。	SD604層
8025	140	063	祭祀用品	人形	全長227、幅19、厚4.0、略完存。頭部主頭状、コ字状脚切欠。	SD601層
8026	140	063	祭祀用品	人形	残存長213、幅24、厚9.0、脚欠損。主頭状頭部。	東側SX06
8027	140	063	祭祀用品	人形	残存長208、幅23、厚4.5、脚欠損。主頭状頭部。	東側SX06
8028	140	063	祭祀用品	人形	残存長81、幅27、厚2.5、頭部残存。鳥帽子・目等の墨書き。	SD602層
8029	140	063	祭祀用品	人形	残存長54、幅26、厚4.0、頭部残存。主頭状頭部。	SD602層
8030	140	063	祭祀用品	人形	残存長52、幅32、厚4.0、頭部残存。円頭状頭部。	SD602層
8031	140	063	祭祀用品	人形	残存長43、幅18、厚6.0、頭部残存。主頭状頭部。	東側SX06
8032	140	063	祭祀用品	人形	残存長51、幅30、厚5.0、頭部残存。主頭状頭部。	SD602層
8033	140	063	祭祀用品	人形	残存長52、幅29、厚4.0、頭部残存。主頭状頭部。	SD602層
8034	141	064	祭祀用品	畜巾	全長160、幅12、厚5.0、略完存。両端が主頭状。	東SK219
8035	141	064	祭祀用品	畜巾	全長111、幅22、厚4.0、完存。両端が主頭状。	SD602層
8036	141	064	祭祀用品	畜巾	残存長92、幅14、厚4.5、上方欠損。下端主頭状。	SD601層
8037	141	064	祭祀用品	畜巾	残存長69、幅13、厚4.0、上方欠損。下端主頭状。	SD602層
8038	141	064	祭祀用品	畜巾	残存長83、幅20、厚5.0、上方欠損。下端主頭状。	SD601層

番号	図面	図版	種別	細別	特徴	出土位置
8039	141	064	祭祀用品	斎串	残存長128、幅12、厚3.0、上方欠損。下端主頭状。	西側SP04
8040	141	064	祭祀用品	斎串	全長147、幅15、厚4.0、略完存。上端主頭状、下端劍先状。	SD601層
8041	141	064	祭祀用品	斎串	残存長134、幅21、厚6.0、下方欠損。上端主頭状。下端劍先状？	SD602層
8042	141	064	祭祀用品	斎串	全長130、幅18、厚3.0、略完存。上端主頭状、下端劍先状。	SD601層
8043	141	064	祭祀用品	斎串	全長141、幅17、厚4.0、略完存。上端主頭状、下端劍先状。	SD601層
8044	141	064	祭祀用品	斎串	全長130、幅17、厚3.0、略完存。上端主頭状、下端劍先状。	SD601層
8045	141	064	祭祀用品	斎串	全長132、幅17、厚4.0、略完存。上端主頭状、下端劍先状。	SD601層
8046	141	064	祭祀用品	斎串	全長127、幅13、厚4.0、略完存。上端主頭状、下端劍先状。	西側SP04
8047	141	064	祭祀用品	斎串	全長123、幅19、厚4.0、略完存。上端主頭状、下端劍先状。	SD602層
8048	142	065	祭祀用品	斎串	全長305、幅25、厚6.0、略完存。上端主頭状、下端劍先状。	SD602層
8049	142	064	祭祀用品	斎串	全長107、幅18、厚4.0、略完存。上端主頭状、下端劍先状。	SD602層
8050	142	065	祭祀用品	斎串	残存長112、幅17、厚2.0、下方欠損。上端主頭状。下端劍先状？	SD601層
8051	142	065	祭祀用品	斎串	全長112、幅18、厚4.0、略完存。上端主頭状、下端劍先状。	SD602層
8052	142	065	祭祀用品	斎串	全長110、幅15、厚3.0、略完存。上端主頭状、下端劍先状。	東側SX06
8053	142	065	祭祀用品	斎串	残存長100、幅16、厚6.0、下方欠損。上端主頭状。	SD602層
8054	142	065	祭祀用品	斎串	全長115、幅15、厚4.0、略完存。上端主頭状、下端劍先状。	SD601層
8055	142	065	祭祀用品	斎串	全長138、幅19、厚4.0、略完存。上端主頭状、下端劍先状。	西側SP04
8056	142	065	祭祀用品	斎串	全長126、幅17、厚2.5、略完存。上端主頭状、下端劍先状。	SD602層
8057	142	065	祭祀用品	斎串	全長116、幅14、厚2.0、略完存。上端主頭状、下端劍先状。	SD601層
8058	142	065	祭祀用品	斎串	全長121、幅17、厚2.5、略完存。上端主頭状、下端劍先状。	SD601層
8059	143	065	祭祀用品	斎串	残存長92、幅18、厚2.0、下方欠損。上端主頭状。下端劍先状？	SD601層
8060	143	066	祭祀用品	斎串	残存長77、幅12、厚3.5、下方欠損。上端主頭状。	SD602層
8061	143	064	祭祀用品	斎串	残存長60、幅15、厚3.0、下方欠損。上端主頭状。	SD601層
8062	143	064	祭祀用品	斎串	残存長50、幅11、厚1.5、下方欠損。上端主頭状。	SD602層
8063	143	064	祭祀用品	斎串	残存長51、幅17、厚4.0、下方欠損。上端主頭状。	SD601層
8064	143	066	祭祀用品	斎串	残存長52、幅20、厚2.5、下方欠損。上端主頭状。	SD602層
8065	143	066	祭祀用品	斎串	残存長46、幅12、厚4.5、下方欠損。上端主頭状。	SD604層
8066	143	065	祭祀用品	斎串	残存長108、幅14、厚5.0、下方欠損。上端主頭状。	SD604層
8067	143	065	祭祀用品	斎串	残存長90、幅22、厚6.5、下方欠損。上端主頭状。	SD602層
8068	143	066	祭祀用品	斎串	残存長64、幅17、厚3.5、下方欠損。上端主頭状。	SD602層
8069	143	066	祭祀用品	斎串	残存長58、幅12、厚4.0、下方欠損。上端主頭状。	SD604層
8070	143	066	祭祀用品	斎串	残存長60、幅17、厚1.5、下方欠損。上端主頭状。	SD602層
8071	143	065	祭祀用品	斎串	残存長111、幅18、厚3.0、上方欠損。下端劍先状。	SD602層
8072	143	065	祭祀用品	斎串	残存長101、幅15、厚2.0、上方欠損。下端劍先状。	SD601層
8073	143	065	祭祀用品	斎串	残存長100、幅18、厚2.0、上方欠損。下端劍先状。	SD601層
8074	143	065	祭祀用品	斎串	残存長100、幅11、厚3.5、上方欠損。下端劍先状。	西側SP04
8075	143	065	祭祀用品	斎串	残存長82、幅11、厚4.0、上方欠損。下端劍先状。	SD601層
8076	144	065	祭祀用品	斎串	残存長82、幅15、厚3.0、上方欠損。下端劍先状。	SD601層
8077	144	066	祭祀用品	斎串	残存長79、幅14、厚3.0、上方欠損。下端劍先状。	SD601層
8078	144	066	祭祀用品	斎串	残存長76、幅17、厚3.0、上方欠損。下端劍先状。	SD601層
8079	144	066	祭祀用品	斎串	残存長56、幅13、厚2.5、上方欠損。下端劍先状。	SD601層
8080	144	066	祭祀用品	斎串	残存長52、幅13、厚3.0、上方欠損。下端劍先状。	SD601層

番号	国面	国版	種別	細別	特 徴	出土位置
8081	144	066	祭祀用品	斎巾	残存長66、幅15、厚5.0、上方欠損。下端劍先状。	SD602層
8082	144	066	祭祀用品	斎巾	残存長64、幅12、厚3.5、上方欠損。下端劍先状。	SD602層
8083	144	066	祭祀用品	斎巾	残存長58、幅19、厚4.0、上方欠損。下端劍先状。	SD602層
8084	144	066	祭祀用品	斎巾	残存長45、幅12、厚4.0、上方欠損。下端劍先状。	SD602層
8085	144	066	祭祀用品	斎巾	残存長26、幅12、厚1.5、上方欠損。下端劍先状。	SD602層
8086	144	066	祭祀用品	斎巾	残存長343、幅64、厚18.0、下方欠損。上端丸頭状。	SD605層
8087	145	067	祭祀用品	刀形	残存長278、幅25。刃身の切先側方残存。	SD602層
8088	145	067	祭祀用品	刀形	残存長149、幅55。刃身に茎が付く形態、刀身切先側は欠損。	SD604層
8089	145	067	祭祀用品	琴形	全長171、幅32~40。一端に弦孔が3箇所、他端に切り欠き。	SD603層
8090	146	068	服飾具	輪扇	残存長133、幅32。	SD603層
8091	146	068	服飾具	輪扇	全長200、幅15~24。	SD602層
8092	146	068	服飾具	横櫛	長方形の横櫛、肩部は九味を持つ。	SD602層
8093	146	068	服飾具	横櫛	長方形の横櫛、肩部は九味を持つ。	SD602層
8094	146	068	服飾具	横櫛	長方形の横櫛、肩部は九味を持つ。	SD601層
8095	146	068	服飾具	横櫛	長方形の横櫛、肩部は九味を持つ。	SD602層
8096	146	068	服飾具	針	残存長151。断面は円形。	SD601層
8097	146	068	服飾具	針	全長139。断面は円形。	SD601層
8098	145	067	服飾具	下駄	全長236、幅103。	SD601層
8099	146	067	服飾具	下駄	全長227、幅100。	SD601層
8100	151	072	容器	挽物	椀。	中央SD65
8101	147	069	容器	挽物	白木の盤。口径190、器高19.0、3/4残存。	SD602層
8102	147	069	容器	挽物	白木の盤。口径192、器高19.0、3/4残存。	SD602層
8103	147	069	容器	挽物	白木の盤。口径一、器高16.0、3/4残存。	SD601層
8104	148	070	容器	挽物	白木の盤。口径186、器高19.0、7/8残存。	SD602層
8105	148	070	容器	挽物	白木の盤。口径182、器高19.0、3/5残存。	SD602層
8106	148	069	容器	挽物	白木の盤。口径198、器高20.0、2/5残存。	SD602層
8107	149	070	容器	挽物	白木の盤。口径185、器高16.0、7/8残存。	SD603層
8108	149	071	容器	挽物	白木の盤。口径202、器高23.0、2/5残存。	SD602層
8109	149	070	容器	挽物	白木の盤。口径一、器高13.0、1/3残存。	SD604層
8110	149	072	容器	挽物	白木の盤。口径一、器高17.0、1/6残存。	SD603層
8111	150	071	容器	挽物	白木の盤。口径210、器高24.0、7/8残存。高台付。	SD601層
8112	150	071	容器	挽物	白木の盤。口径一、器高18.0、1/3残存。高台付。	SD602層
8113	150	071	容器	挽物	白木の盤。口径190、器高33.0、3/4残存。	SD602層
8114	151	072	容器	蓋	円形の板。径182、厚7.0、3/5残存。	東側SK06
8115	151	072	容器	蓋	円形の板。径165、厚6.0、1/2残存。	東側SK06
8116	151	072	容器	蓋	円形の板。径152、厚7.0、2/3残存。	SD602層
8117	151	072	容器	蓋	円形の板。径164、厚9.0、1/3残存。	SD601層
8118	151	072	容器	蓋	円形乃至橢円形。径207、厚6.0、1/8残存。	SD602層
8119	151	072	容器	蓋	円形の板。径231、厚7.0、1/4残存。	SD602層
8120	151	072	容器	蓋	円形の板。径184、厚7.0、1/4残存。	SD602層
8121	151	072	容器	蓋	円形の板。径170、厚8.0、1/4残存。	SD604層
8122	151	072	容器	蓋	円形の板。径212、厚10.5、1/3残存。	SD601層

番号	図面	図版	種別	細別	特徴	出土位置
8123	152	073	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径168、厚9.0、完存。木釘痕5箇所。	東側SX06
8124	152	073	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径169、厚7.0、完存。	SD604層
8125	152	073	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径172、厚10.0、完存。	SD602層
8126	152	073	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径169、厚8.0、2/3残存。	SD602層
8127	152	073	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径155、厚8.0、完存。	SD602層
8128	152	073	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径166、厚6.0、1/2残存。	SD601層
8129	152	073	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径125、厚7.0、1/3残存。	SD601層
8130	152	073	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径118、厚5.5、1/3残存。	SD602層
8131	152	073	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径112、厚6.0、1/4残存。	SD602層
8132	153	074	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径192、厚6.0、1/3残存。	SD602層
8133	153	074	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径184、厚8.5、1/3残存。	SD602層
8134	153	074	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径171、厚7.5、1/3残存。	中央SD18
8135	153	074	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径191、厚9.0、1/3残存。木釘痕1箇所。	SD602層
8136	153	074	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径181、厚8.0、1/3残存。	SD603層
8137	153	074	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径167、厚8.0、1/3残存。	西側SD71
8138	153	074	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径166、厚7.0、1/3残存。	東側SX06
8139	153	074	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径168、厚8.0、1/3残存。	SD602層
8140	153	074	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径161、厚6.0、1/3残存。	SD601層
8141	153	074	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径169、厚8.0、1/3残存。	SD601層
8142	153	074	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径109、厚8.0、2/3残存。	SD602層
8143	153	074	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径94、厚8.0、1/2残存。	SD601層
8144	154	075	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径174、厚7.0、1/4残存。	SD602層
8145	154	075	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径167、厚8.0、1/4残存。	SD602層
8146	154	075	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径153、厚6.5、1/4残存。	SD602層
8147	154	075	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径178、厚5.0、1/4残存。	SD602層
8148	154	075	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径157、厚6.5、1/4残存。	SD602層
8149	154	075	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径160、厚7.0、1/4残存。	SD602層
8150	154	075	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径161、厚9.0、1/4残存。	SD602層
8151	154	075	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径170、厚8.0、1/4残存。	西側SD72
8152	154	075	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径179、厚6.0、1/4残存。	SD601層
8153	154	075	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径176、厚5.0、1/4残存。	SD602層
8154	154	075	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径160、厚8.0、1/4残存。	SD602層
8155	154	075	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径207、厚9.0、1/4残存。	東側SX06
8156	154	075	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径177、厚8.5、1/4残存。	SD602層
8157	154	075	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径171、厚7.0、1/4残存。	SD602層
8158	154	075	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径167、厚6.0、1/4残存。	SD602層
8159	154	075	容器	曲物	円形曲物の底蓋板。径163、厚4.5、1/4残存。	西側SD71
8160	155	076	容器	曲物	楕円形曲物の底板。長径648、短径376、略完存。	東側SX06
8161	156	078	雜具	火鏡板	全長350。火切口2箇所。	東側SX06
8162	156	077	雜具	火鏡板	全長203。火切口1箇所、切込み1箇所。	SD602層
8163	156	078	雜具	火鏡棒	残存長251。断面円形、一端に焦目、中間にも焦目。	SD601層
8164	156	078	雜具	火鏡棒	残存長113。断面円形、一端に焦目。	SD603層

番号	図面	図版	種別	細別	特 徴	出土地点
8165	156	077	雜具	刷毛状具	全長160、最大幅21。刷毛部に漆が付く。 残存長134、最大幅30。	SD602層
8166	156	077	雜具	刷毛状具	全長142、幅45。片側に切込みが2箇所。	SD601層
8167	157	077	雜具	櫛	全長144、幅44。	SD601層
8168	157	077	雜具	櫛	全長136、幅45。	SD601層
8169	157	077	雜具	櫛	全長72、幅57。	SD601層
8170	157	077	雜具	櫛	全長72、幅57。	SD602層
8171	157	077	雜具	刻み目	残存長135。板状で片側に刻み目が付く。	SD601層
8172	157	077	雜具	刻み目	残存長102。板状で片側に刻み目が付く。	SD602層
8173	157	077	雜具	刻み目	残存長71。棒状で片側に刻み目が付く。	SD602層
8174	157	077	雜具	刻み目	残存長117、幅16。	SD602層
8175	158	080	棒状品	棒状品	全長562。断面多角形、一端がやや尖る。	SD602層
8176	158	079	棒状品	棒状品	残存長242。断面多角形、一端が尖る。	SD601層
8177	158	079	棒状品	棒状品	全長355。断面多角形、一端がやや尖る。他端近くに円孔。	中央SD18
8178	158	079	棒状品	棒状品	残存長159。断面が偏平で棒円形、一端が尖る。	SD601層
8179	158	079	棒状品	棒状品	全長185。断面円形、一端を斜めに切る。他端側にえぐり。	東側SX06
8180	158	079	棒状品	棒状品	全長152。断面円形、均一の太さの棒状品。	東側SX06
8181	159	079	棒状品	箸	全長256。断面多角形、一端がやや尖る。	SD602層
8182	159	079	棒状品	箸	残存長205。断面多角形、一端がやや尖る。	SD601層
8183	159	079	棒状品	箸	残存長199。断面多角形。	SD602層
8184	159	079	棒状品	箸	残存長194。断面多角形。	SD602層
8185	159	079	棒状品	箸	残存長194。断面多角形。	SD604層
8186	159	079	棒状品	箸	残存長189。断面多角形、一端がやや尖る。	SD602層
8187	159	079	棒状品	箸	残存長176。断面多角形。	SD602層
8188	159	079	棒状品	箸	残存長167。断面多角形。	SD603層
8189	159	079	棒状品	箸	残存長147。断面多角形。	SD601層
8190	159	079	棒状品	箸	残存長146。断面多角形、一端がやや尖る。	SD601層
8191	159	079	棒状品	箸	残存長149。断面多角形、一端がやや尖る。	東側SX06
8192	159	079	棒状品	箸	残存長101。断面多角形。	SD604層
8193	159	079	棒状品	箸	残存長74。断面多角形、一端がやや尖る。	SD602層
8194	160	078	用途不明	用途不明	残存長73。鑑形？一端が尖り、他端が窄り棒状となる。	SD602層
8195	160	078	用途不明	用途不明	残存長298。	SD602層
8196	160	078	用途不明	用途不明	全長190。中央部が角棒状になり、両端が細い丸棒状となる。	SD603層
8197	160	078	用途不明	用途不明	残存長240。	西側SD71
8198	160	078	用途不明	用途不明	残存長258。	SD603層
8199	160	078	用途不明	用途不明	全長325。両端に切り込みが入る。	東側SX06
8200	160	078	用途不明	用途不明	残存長127。紡織具糸巻きの横木？相欠きと軸木の一端が残存。	SD601層
8201	161	080	用途不明	用途不明	残存長685。紡織具糸巻きの横木？相欠きと軸木の一端が残存。	SD602層
8202	161	080	部材	部材	残存長326。偏平な角棒状品、一端が柄状になる。	SD601層
8203	161	080	部材	部材	全長221、幅80。片方の側縫が尖る。中央に柄穴状が付く。	東側SX06
8204	161	080	部材	部材	残存長201。偏平な角棒状品、一端に切り欠き。	SD601層
8205	161	080	部材	部材	全長202。偏平な角棒状品、一端に切り欠き。	東側SX06
8206	161	080	部材	部材	全長217。角棒状品、一端が肥厚する。片側に柄穴状が付く。	SD602層

参考文献

- 青木一彦他 1996 「射水平野の遺跡－古代北陸道を探る－」『大境』第18号 富山考古学会
- 赤坂 次郎 1992 「東海系のトレースー3・4世紀の伊勢湾治岸地域ー」『古代文化』第44巻第6号 古代学協会
- 赤坂 次郎 1996 「前方後方墳の定着－東海系文化の波及と葛藤－」『考古学研究』第43巻第2号 考古学研究会
- 安藤 広道 1999 「『柴林式土器』の成立をめぐる諸問題」『長野県考古学会誌』92号 長野県考古学会
- 池野 正男 1986 「7世紀末から8世紀前半の須恵器」『石名山窯跡発掘調査報告』 大門町教育委員会
- 池野 正男 1987 「射水丘陵における8世紀後半の須恵器窯跡」『大境』第11号 富山考古学会
- 池野 正男 1988 「射水丘陵における9・10世紀の須恵器窯跡」『大境』第12号 富山考古学会
- 池野 正男 1992 「越中における須恵器生産の終焉」『北陸古代土器研究』第2号 北陸古代土器研究会
- 池野 正男 1994 「射水丘陵窯跡群における8世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第4号 北陸古代土器研究会
- 池野 正男 1997 「越中における9世紀代の土器様相」『北陸古代土器研究』第6号 北陸古代土器研究会
- 池野 正男 1997 「越中における10・11世紀代の七器様相」『北陸の10・11世紀代の土器様相』 北陸古代土器研究会
- 伊藤 隆三 1992 「小矢部市内で発掘された古代道」『古代交通研究』創刊号 古代交通研究会
- 伊藤 隆三 1994 「小矢部市発掘の推定北陸道」『季刊考古学』第46号 雄山閣
- 上野 章 1972 「弥生土器付、古式土師器」『富山県史考古編』 富山県
- 宇野隆夫他 1989 「越中上米室」 富山大学人文学部考古学研究室
- 宇野 隆大 1994 「越中婦負郡の古代窯業生産－8世紀中頃の画期をめぐって－」『北陸古代土器研究』第4号 北陸古代土器研究会
- 岡本淳一郎 1999 「佐野台地における古墳出現期の土器について」『紀要富山考古学研究』第2号 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 金板 浩則 1996 「北陸道－その計画性および水運との結びつき」『古代を考える古代道路』 吉川弘文館
- 金子裕之他 1989 「道教と東アジア－中国・朝鮮・日本－」 人文書院
- 金子裕之他 1998 「日本の信仰遺跡」 雄山閣
- 河合 忍 1996 「北陸弥生土器様式の変遷過程－器種・用途別の計量分析を中心として－」『石川考古学研究会誌』第39号 石川考古学研究会
- 河合 忍 2000 「弥生時代中期後半における土器交流システムの変革とその背景－北陸における四線文系の土器の分析を中心として－」『石川考古学研究会誌』第43号 石川考古学研究会
- 川崎 眑 1999 「『傳厨』考」『高岡市万葉歴史館紀要』第9号 高岡市万葉歴史館
- 川崎 眑 2000 「古代史籍考二題－山海經と越中・能登木蘭－」『高岡市万葉歴史館紀要』第10号 高岡市万葉歴史館
- 菊池康明他 1991 『律令制祭祀論考』 塙書房
- 金田 章裕 1985 「条里と村落の歴史地理学研究」 大明堂
- 金田章裕他 1996 『日本古代正圖』 東京大学出版会
- 金田 章裕 1998 「古代莊園圖と景觀」 東京大学出版会
- 金田 章裕 1999 「古地圖からみた古代日本－土地制度と景觀」 中央公論社
- 久々忠義他 1984 「北陸自動車道遺跡調査報告－上市町木製品總括編－」 上市町教育委員会
- 久々忠義他 1987 「長岡移住遺跡－富山県高岡市長岡杉林遺跡発掘調査報告書－」 富山市教育委員会
- 久々 忠義 1991 「富山県大島町荒烟遺跡」 大島町教育委員会
- 久々 忠義 1999 「古墳出現期の土器について」『富山平野の出現期古墳（発表要旨・資料集）』 富山考古学会

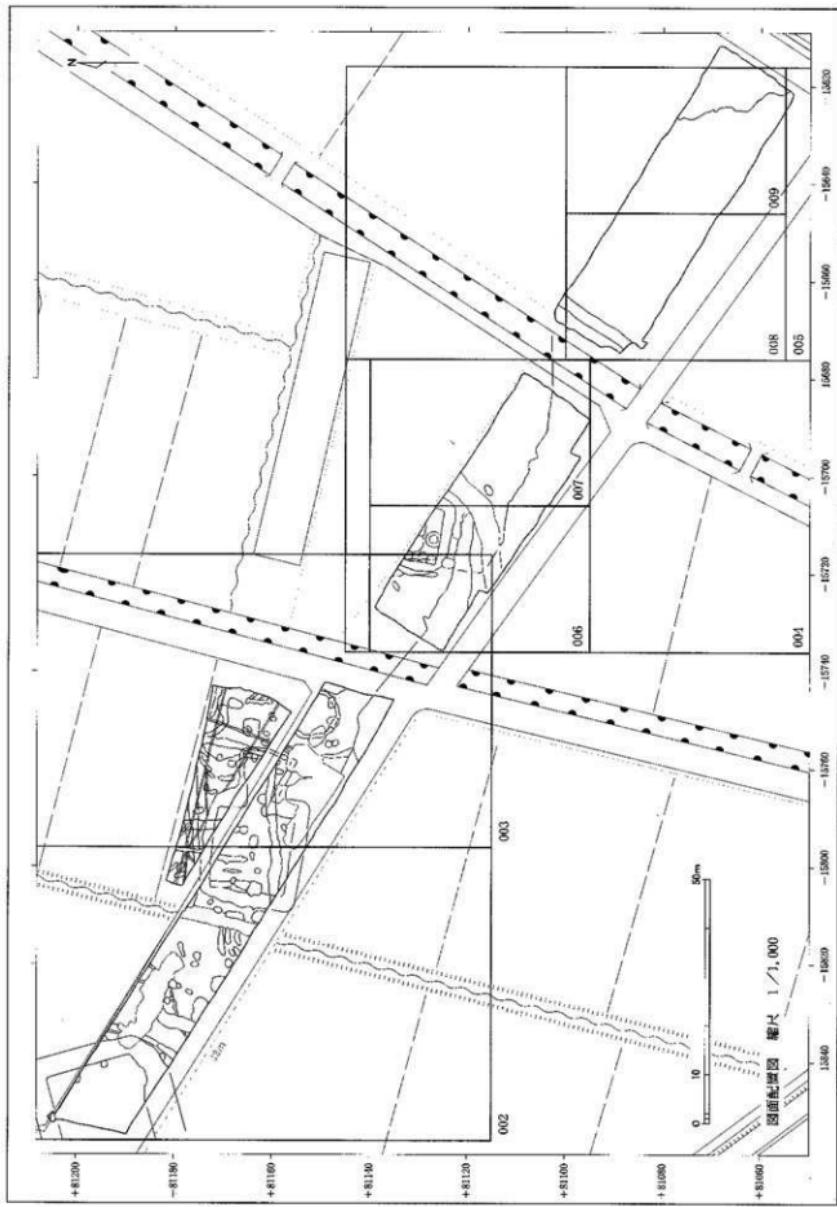
- 榎 正勝他 1996 「西念・南新保遺跡群」 金沢市教育委員会
- 斎藤 隆他 1991 「富山県富山市南中田D遺跡発掘調査報告書」 富山県埋蔵文化財センター
- 斎藤 隆他 1995 「石名田木舟遺跡発掘調査報告書」 福岡町教育委員会
- 酒井重洋他 1994 「名古山県総合運動公園内道跡発掘調査報告(4)、古倉B道跡」 富山県埋蔵文化財センター
- 坂上有紀他 2000 「県営ほ場整備事業関連発掘調査報告書・平田遺跡」 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 須田 勉 1985 「平安初期における村落内寺院の存在形態」『古代探査II』 早稲田大学出版部
- 閔 清他 1990 「富山県総合運動公園内道跡群発掘調査概要I、栗山猪原遺跡・南中田A道跡・任海鎌倉道跡・南中田C道跡」 富山県埋蔵文化財センター
- 閔 清 1994 「越中におけるクロコ上器器の焼成」『北陸古代土器研究』第4号 北陸古代土器研究会
- 高崎 光司 1989 「丸塔小考」『考古学雑誌』第74巻第3号 日本考古学会
- 高橋 浩二 1995 「越中における古墳出現期の桙相一墳墓・古墳と集落の検討から」『大境』第17号 富山考古学会
- 田嶋 明人 1986 「土師器よりみた古墳時代土器群の変遷」『漆町遺跡I』 石川県立埋蔵文化財センター
- 鈴野 和己 1997 「櫛の考古学」「考古学による日本歴史9—交易と交通」 雄山閣
- 出越 茂和 1994 「加賀におけるクロコ土器器の出現と展開」「中近世土器の基礎研究」Ⅴ 日本中世土器研究会
- 出越 茂和 1997 「北陸古代後半における皿面食器(前)」「北陸古代時研究」第6号 北陸古代土器研究会
- 出越 茂和 1997 「北陸古代後半における皿面食器(後)」「北陸古代時研究」第7号 北陸古代土器研究会
- 中尾克彦他 1992 「金沢市戸水B遺跡」 石川県立埋蔵文化財センター
- 西井 龍儀 1985 「砺波平野進出の足跡—闊辺地域の考古資料から」『砺波畠村地域研究所研究紀要』第2号 砧波畠村地域研究所
- 西片 龍儀 1988 「小矢部川左岸における須恵器生産開始期の検討—安曇口ノ部地内の窑跡から」『尚越地域研究』創刊号 尚越古代・中世史研究会
- 西井 龍儀 1994 「利波郡における分窯とその背景」『北陸古代土器研究』第4号 北陸古代土器研究会
- 橋本 正他 1978 「富山県砺波市格坪野遺跡群予備調査概要」 砧波市教育委員会
- 橋本正春他 1993 「富山県総合運動公園内道跡発掘調査報告(3)、任海遺跡・古倉A道跡・古倉B道跡」 富山県埋蔵文化財センター
- 久田 正弘 1999 「弥生時代中期の北陸と長野の関係」『長野県考古学会誌』92号 長野県考古学会
- 平川 南 1999 「新発見の『種子札』と古代の稻作」「國史學」第169号 国史学会
- 平川 南 2000 「墨書土器の研究」 古川弘文館
- 増山 仁 1988 「金沢市穂部運動公園遺跡」 金沢市教育委員会
- 増山 仁 1989 「小松式土器の再検討—小松市八日市地方遺跡出土土器の再整理を通して」『北陸の考古学II』(『石川考古学研究会誌』第32号) 石川考古学研究会
- 増山 仁 1992 「金沢市尊光寺養魚場遺跡」 金沢市教育委員会
- 森 秀典他 1987 「辻道跡・浦田遺跡発掘調査概要」 立山町教育委員会
- 安 英樹 1990 「北陸における第I・II様式の弥生土器」「石川考古学研究会誌」第33号 石川考古学研究会
- 安 英樹他 2000 「戸水B式」を考える・発表要旨集」 北陸弥生文化研究会
- 谷内尾晋司 1983 「北加賀における古墳出現期の上器について」『北陸の考古学』(『石川考古学研究会誌』第26号) 石川考古学研究会
- 山中敏史他 1998 「律令国家の地方末端支配機構をめぐって—研究集会の記録ー」 奈良国立文化財研究所
- 山中 敏史 2000 「地方官衙と末端支配」『茨城県考古学協会誌』第12号 茨城県考古学協会

報告書抄録

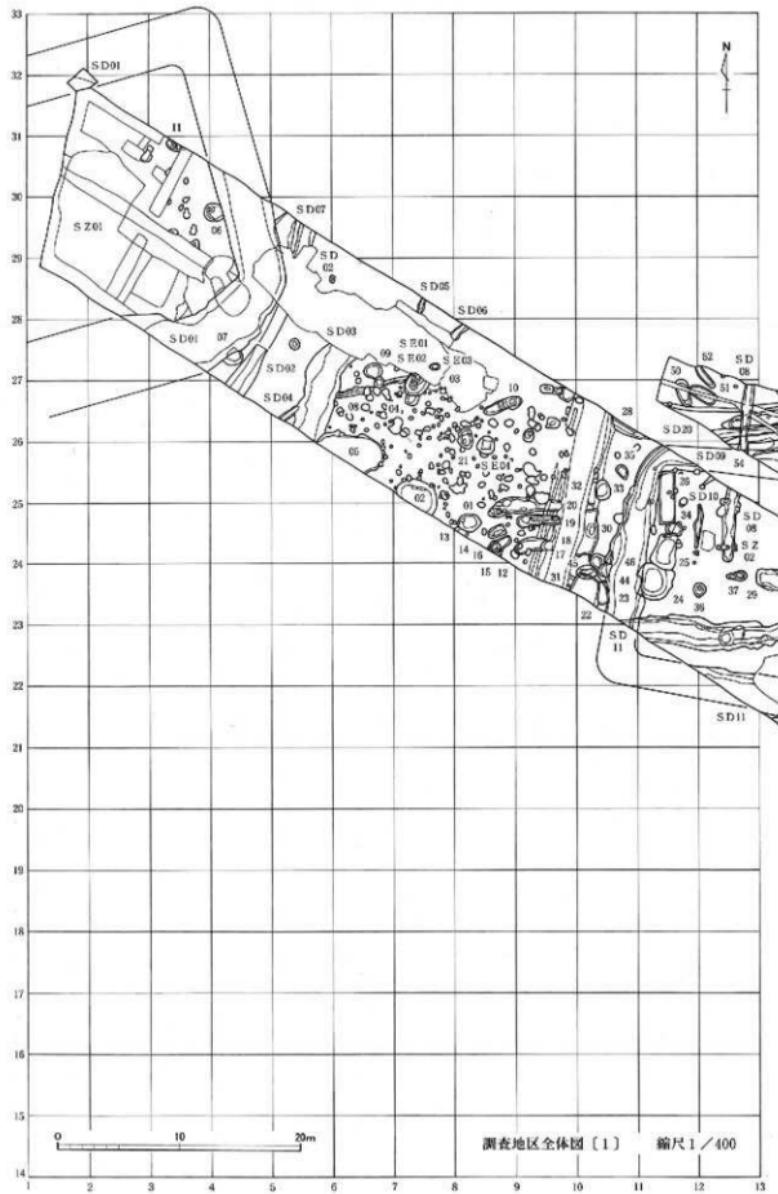
ふりがな	いしづかいせき・ひがしきづいせきちょうさほうこく							
書名	石塚遺跡・東木津遺跡調査報告							
副書名	都市計画道路下伏間江畠田線築造に伴う平成9・10年度の調査							
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第7冊							
編著者名	荒井隆、岡田一広、山口辰一							
編集機関	高岡市教育委員会							
所在地	〒933-0057 富山県高岡市広小路7番50号							
発行年月日	西暦 2001年3月30日							
ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°	°			
いし 塚 聚	たやまけんたかおかし 富山県高岡市 ねぎ 和田	016202	202158	36° 43' 52"	136° 59' 10"	970626 971225	2,226m ²	道路建設
ひがし さ 東 木 津	たやまけんたかおかし 富山県高岡市 木津	016202	202150	36° 43' 37"	136° 59' 45"	980603 990412	2,825m ²	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
石塚	集落跡	弥生時代	古墳1基 竪穴式造構1基	弥生土器、上師器、須恵器 挽物、曲物、箸 上製筋縫車、上鍬、上玉	石塚4号墳の検出			
		古墳時代	土坑9基 溝4条 凹地1基	磨製石斧、打製石斧、石鍬 石包丁、石冠、石鐵、砾石				
東木津	集落跡	奈良平安時代	掘立柱建物址14棟 棚址3基 橋梁護岸施設1箇所 道路址2条 上坑120基 溝45条 凹地1基	土師器、須恵器 木簡、木箆形、壺串、人形 刀形、琴形、輪環、横櫛 下駄、挽物、曲物、火鑊板 陶甕、瓦塔、土鍬 網約丸瓶、網筒、銅錢 紡錘車形石製品、砾石	官衙的集落の検出			

図 面

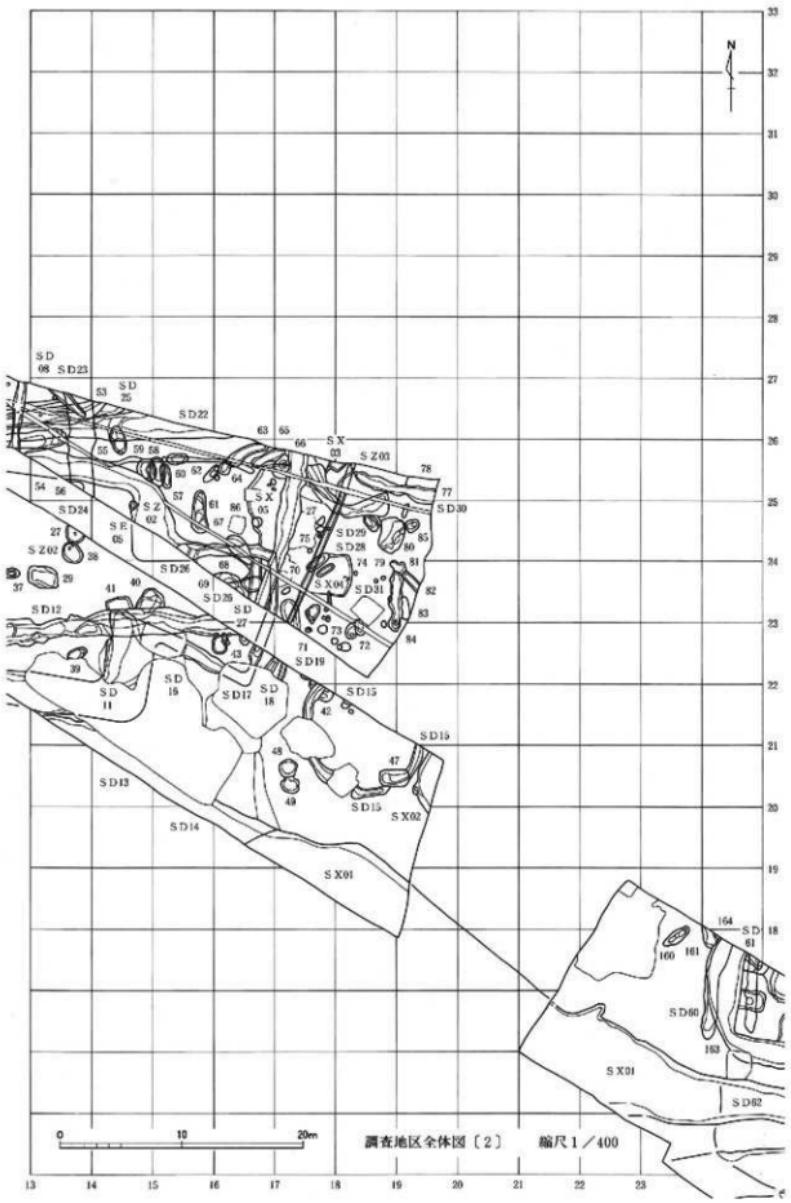
図面〇〇一 遺構実測図 石塚遺跡



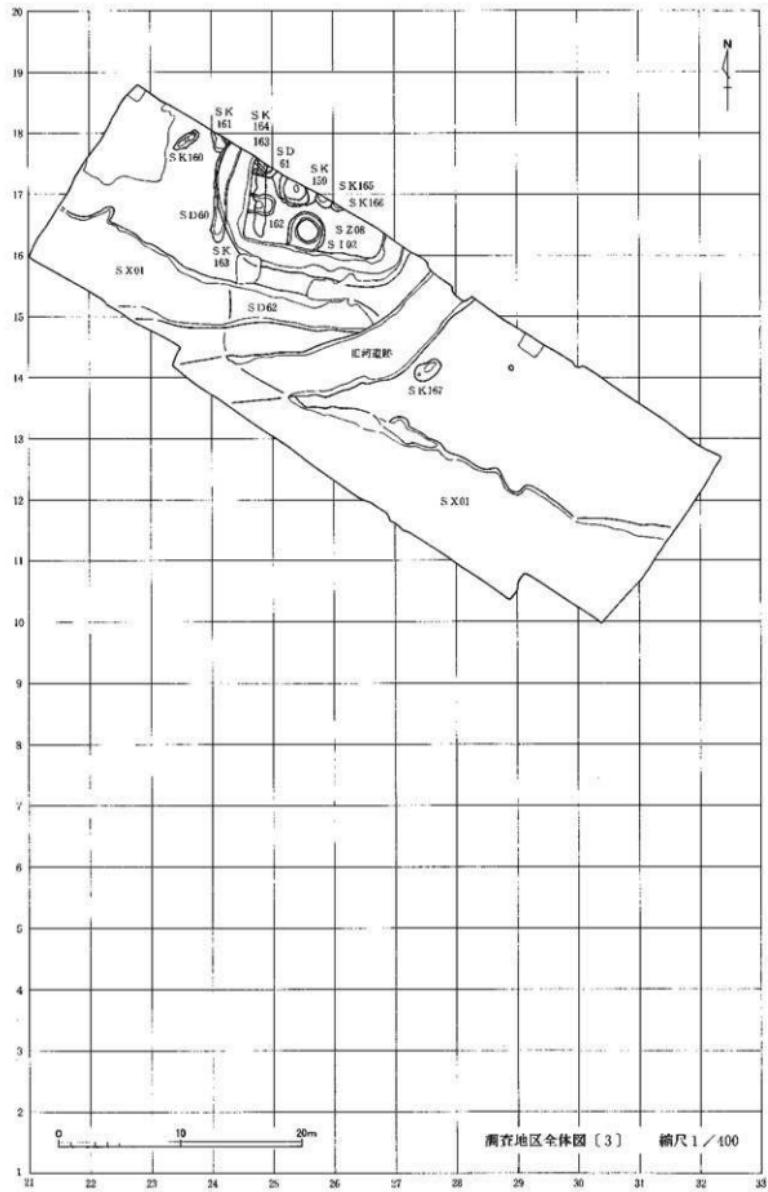
図面〇〇二
遺構実測図
石塚遺跡



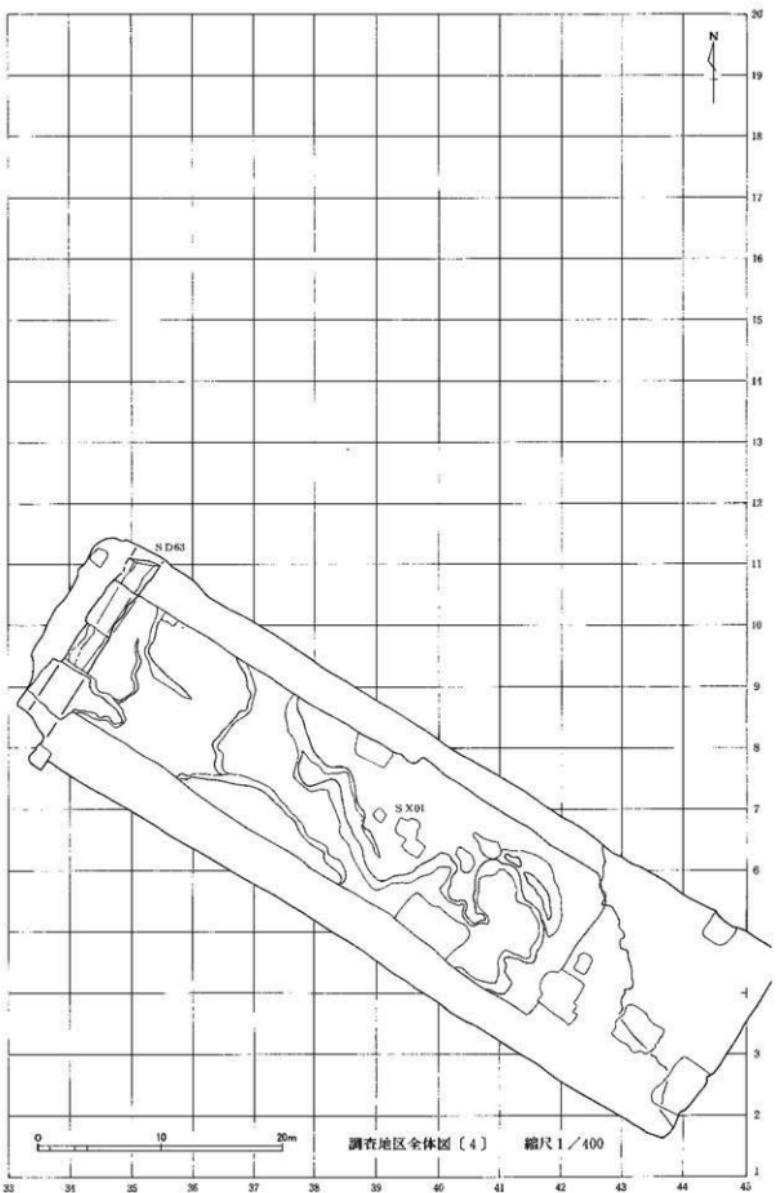
図面〇〇三 遺構実測図 石塚遺跡



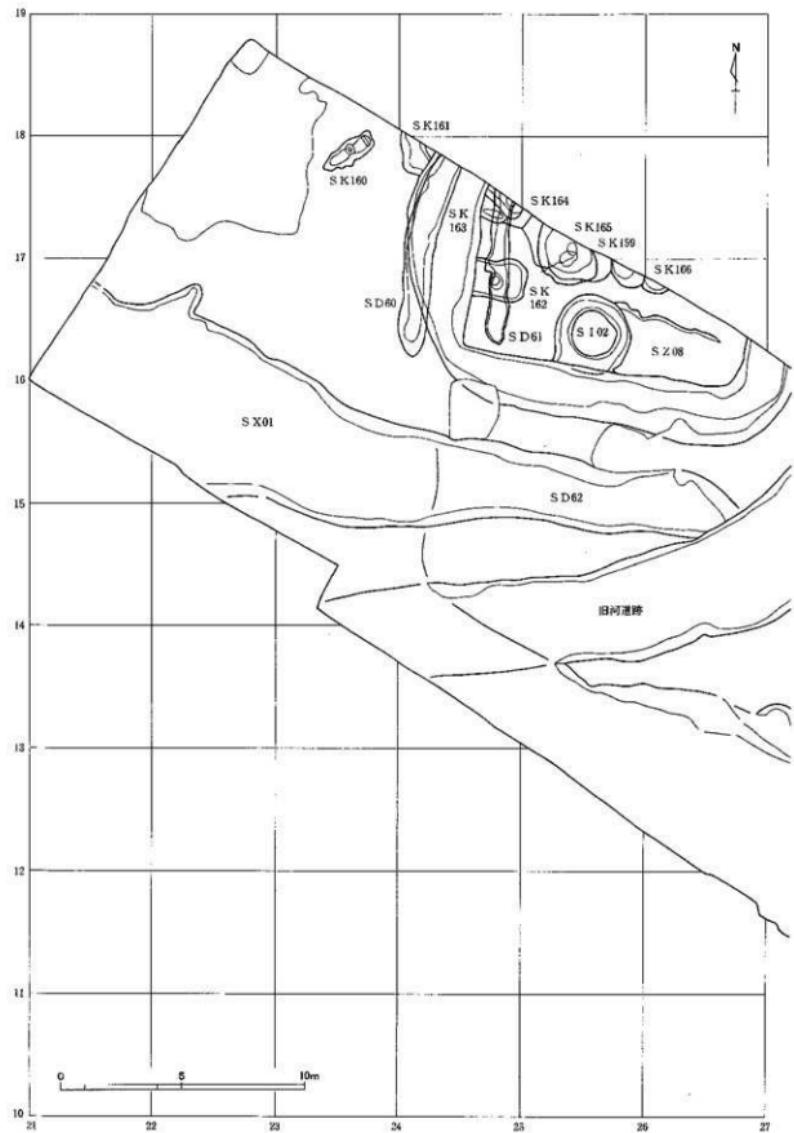
図面〇〇四
遺構実測図
石塚遺跡



図面〇〇五 遺構実測図 石塚遺跡



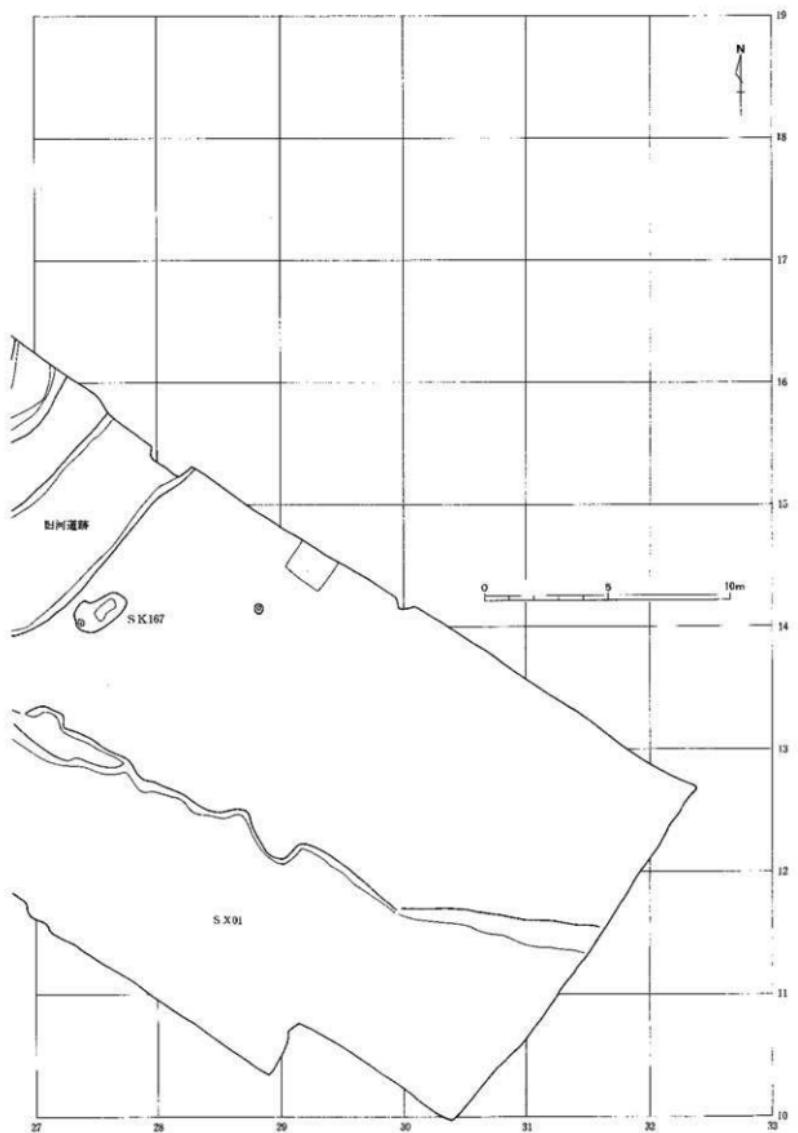
図面〇〇六 遺構実測図
石塚遺跡

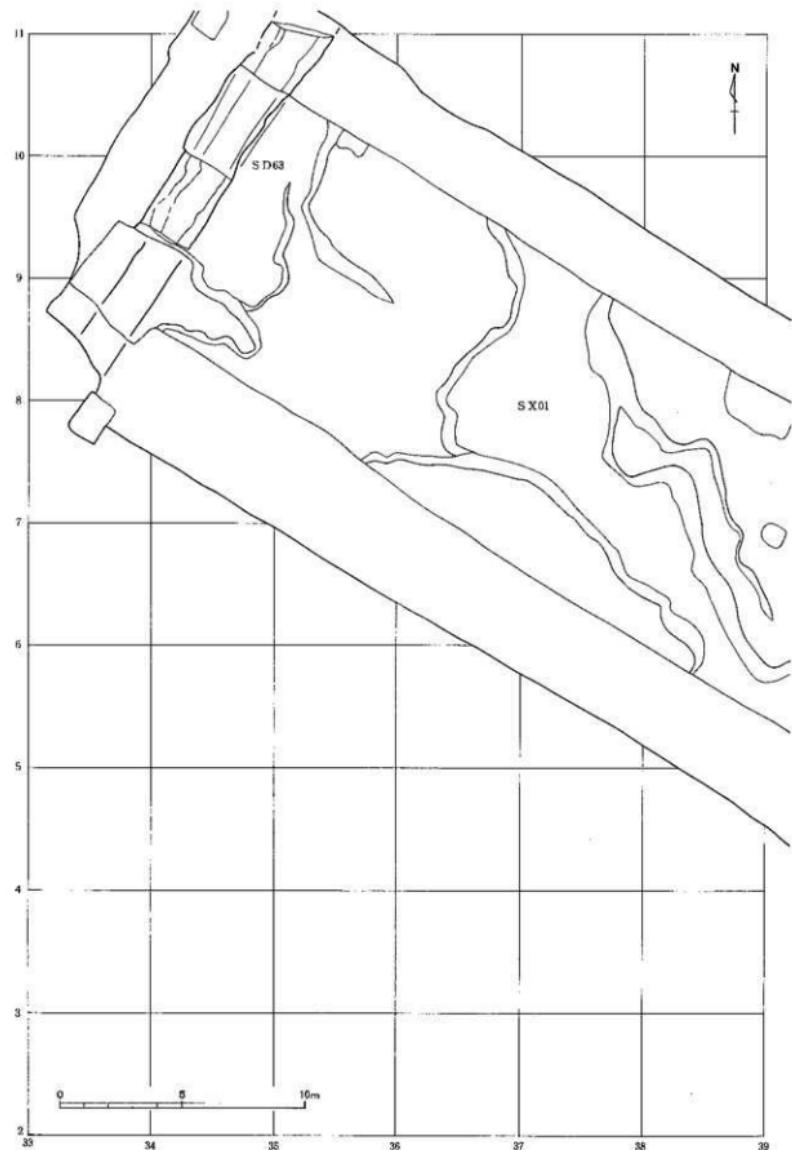


西州湖畔地区遺構平面図(1)

縮尺 1/200

図面〇〇七 遺構実測図 石塚遺跡

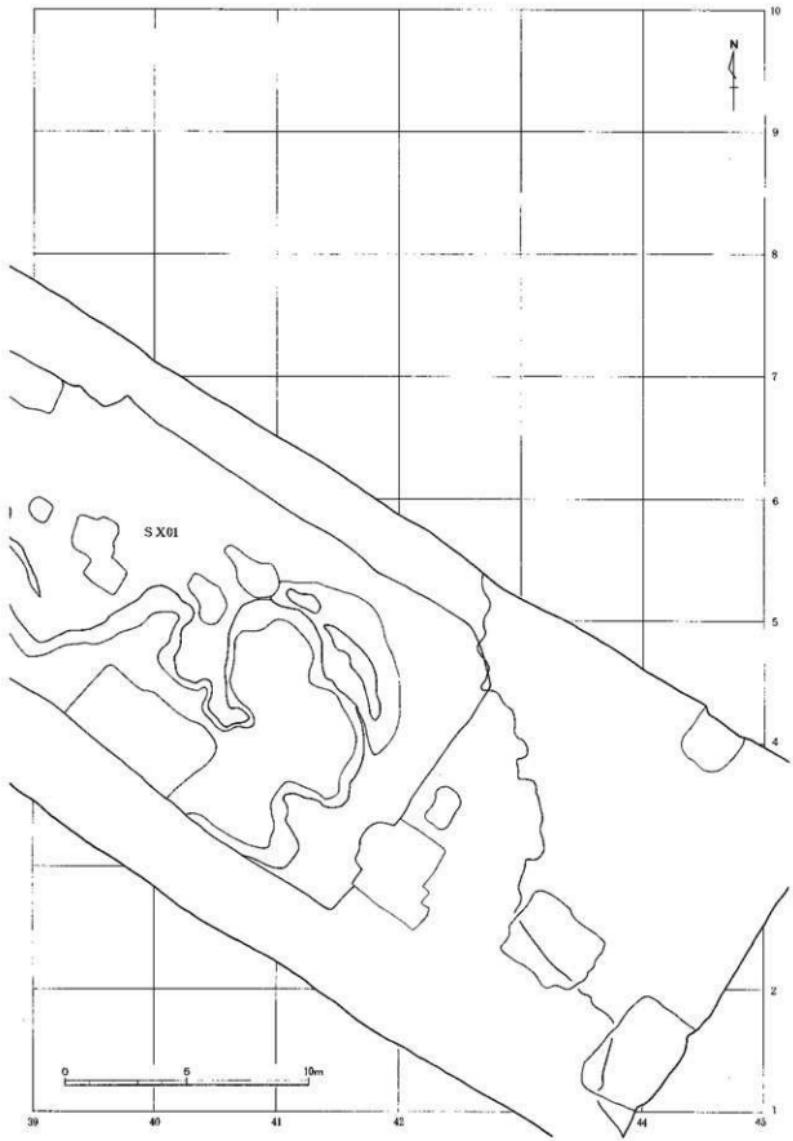




東側調査地区遺構平面図〔1〕

縮尺 1/200

図面〇〇九
遺構実測図 石塚遺跡



図面一〇〇 遺構実測図 石塚遺跡

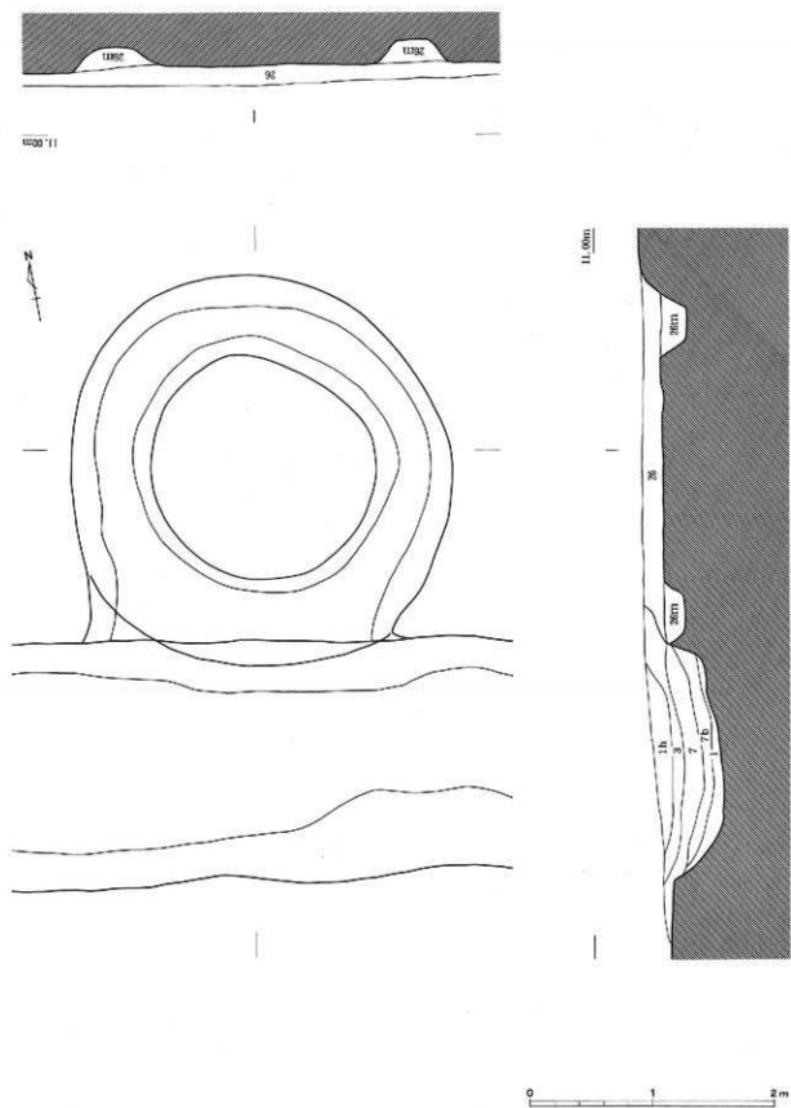


古墳 S 2.08 (石塚 4 号墳) 実測図

縮尺 1/80

図面〇一 遺構実測図

石塚遺跡

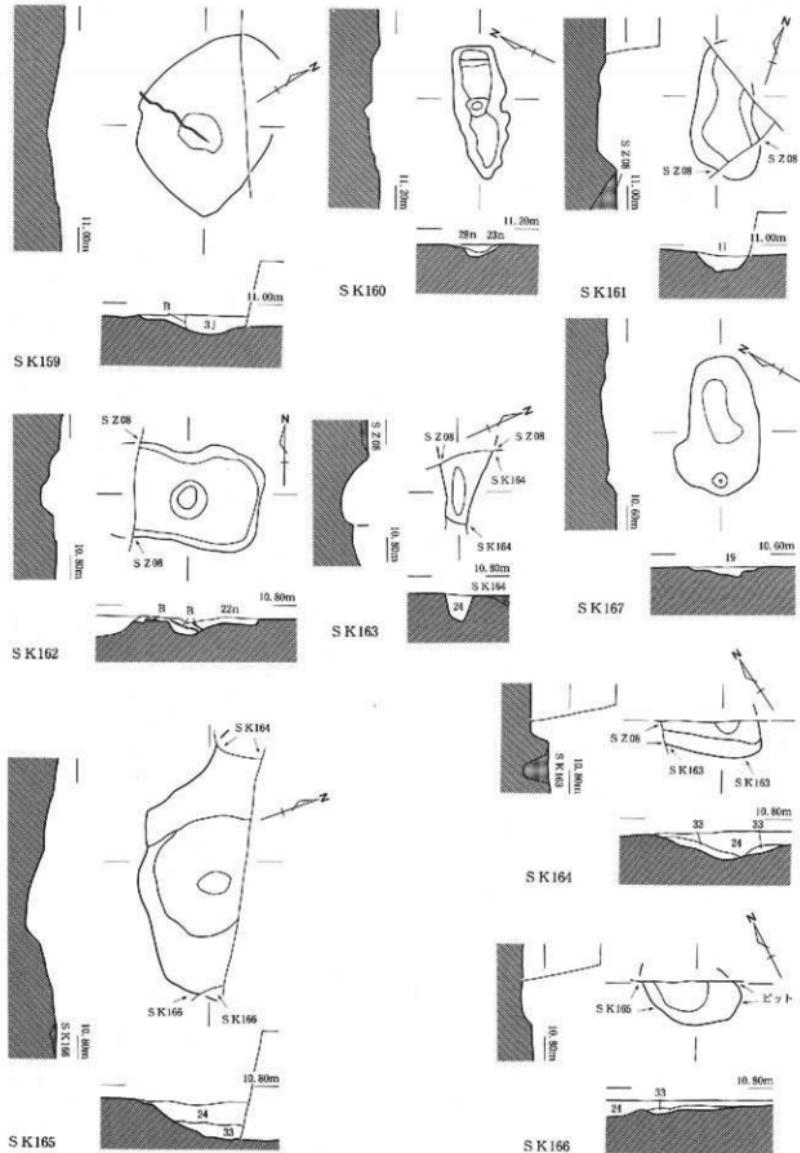


竪穴状遺構 S I 02実測図

縮尺 1/40

図面〇一二 遺構実測図

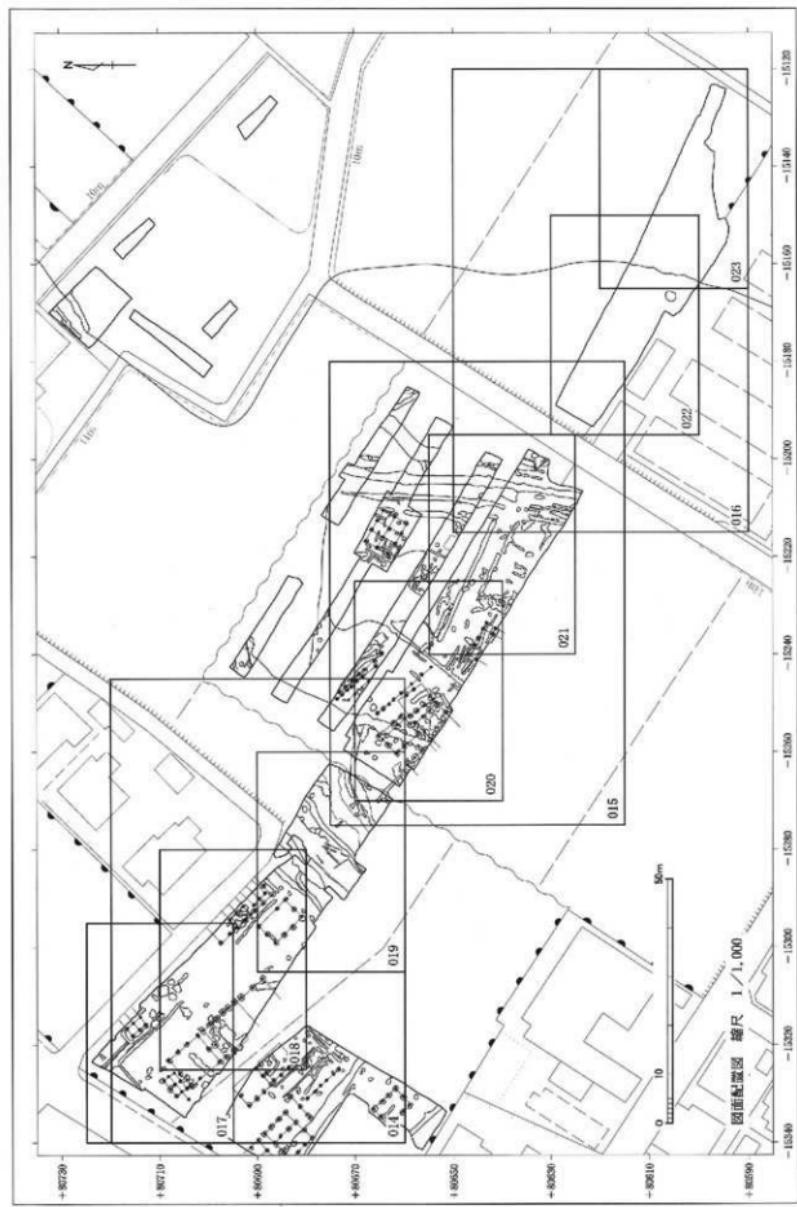
石塚遺跡



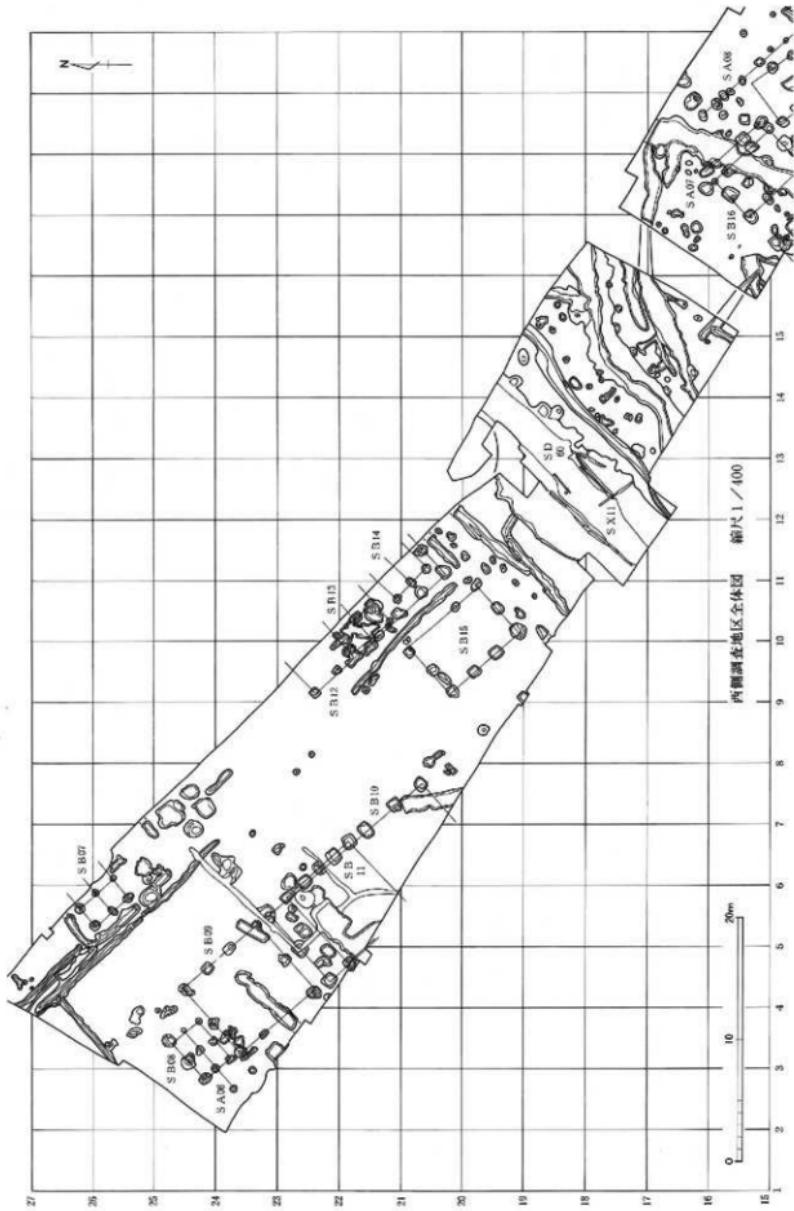
土坑実測図 縦尺1/80

0 2 4 m

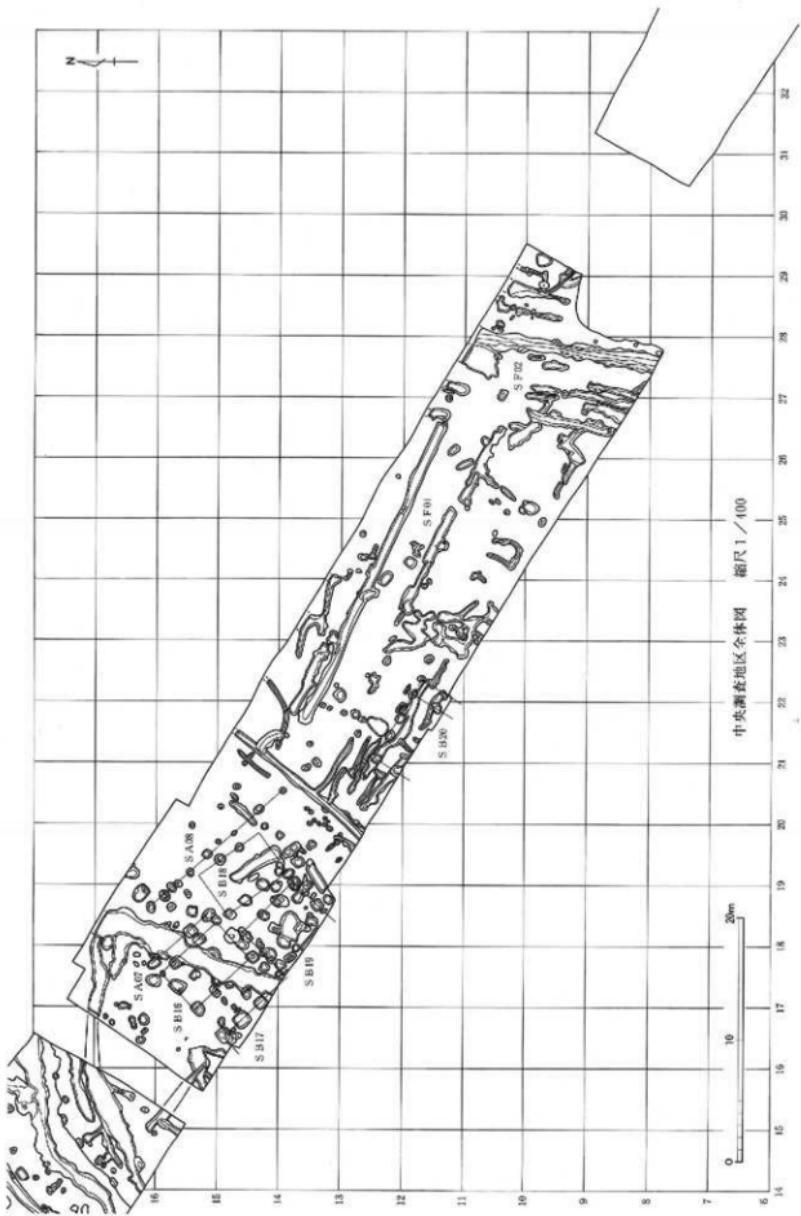
図面〇一三　遺構実測図　東木津遺跡



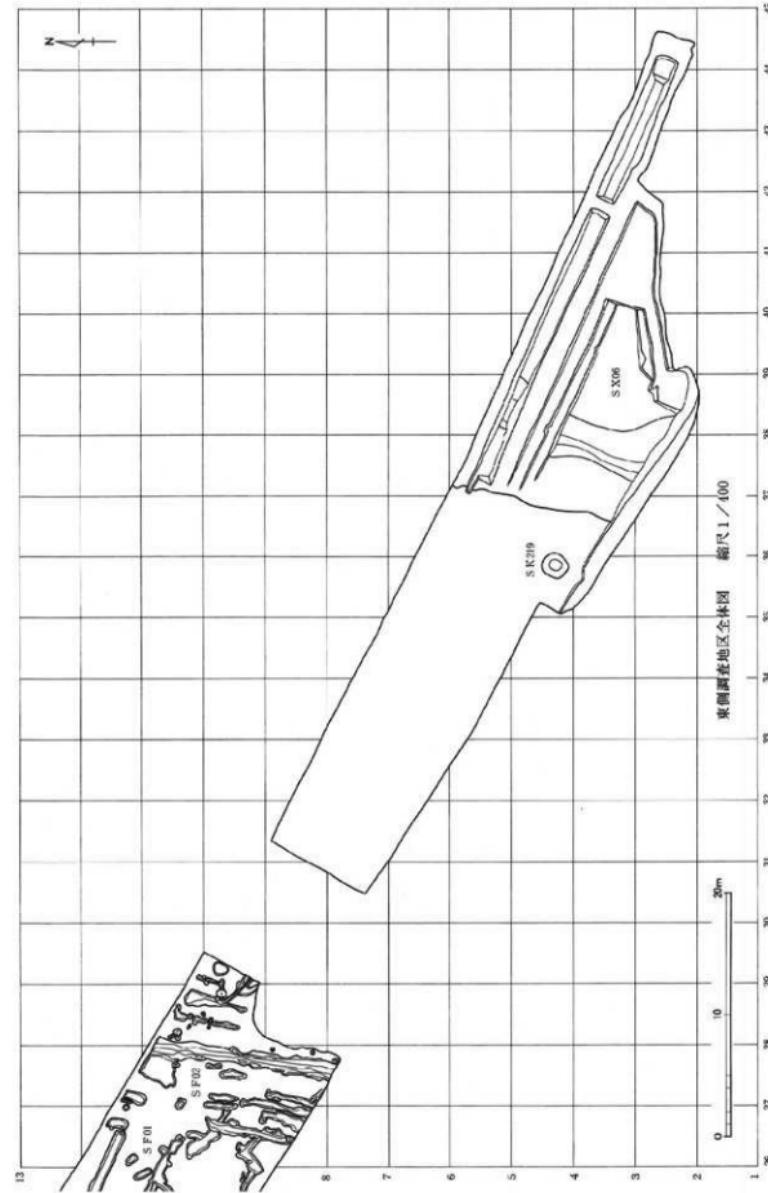
図一〇四 遺構実測図 東木津遺跡



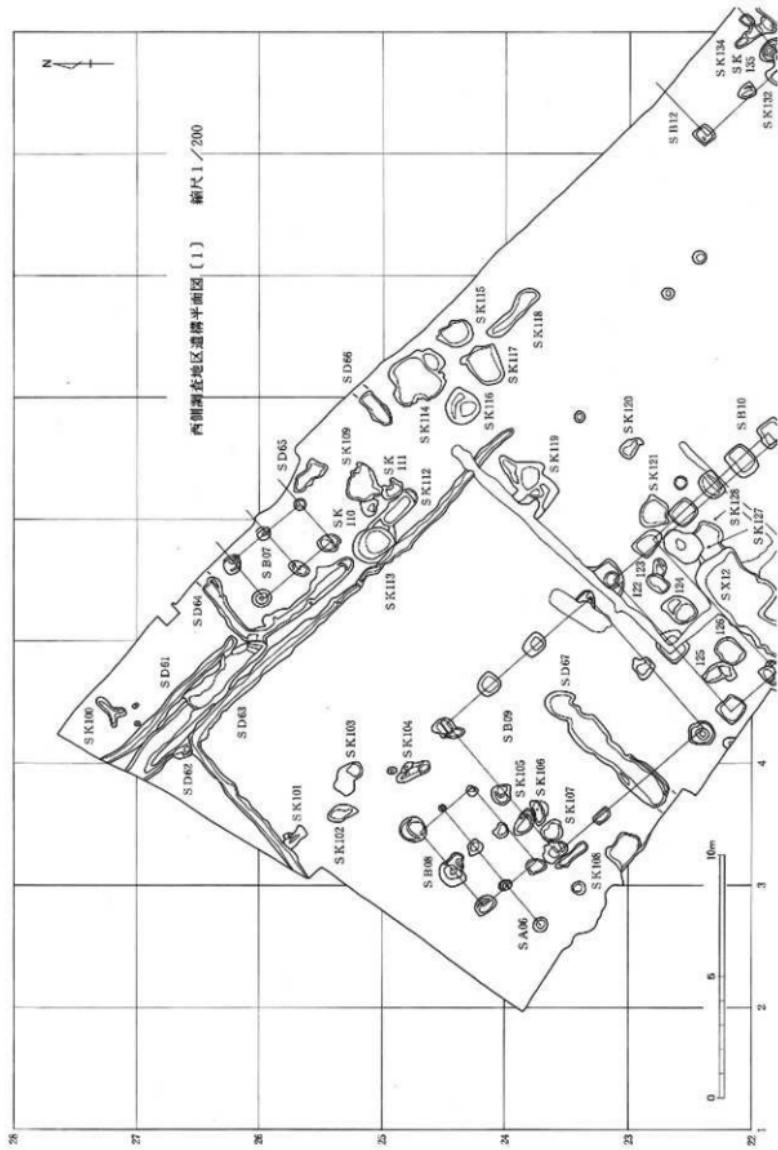
図面〇一五 遺構実測図 東木津遺跡



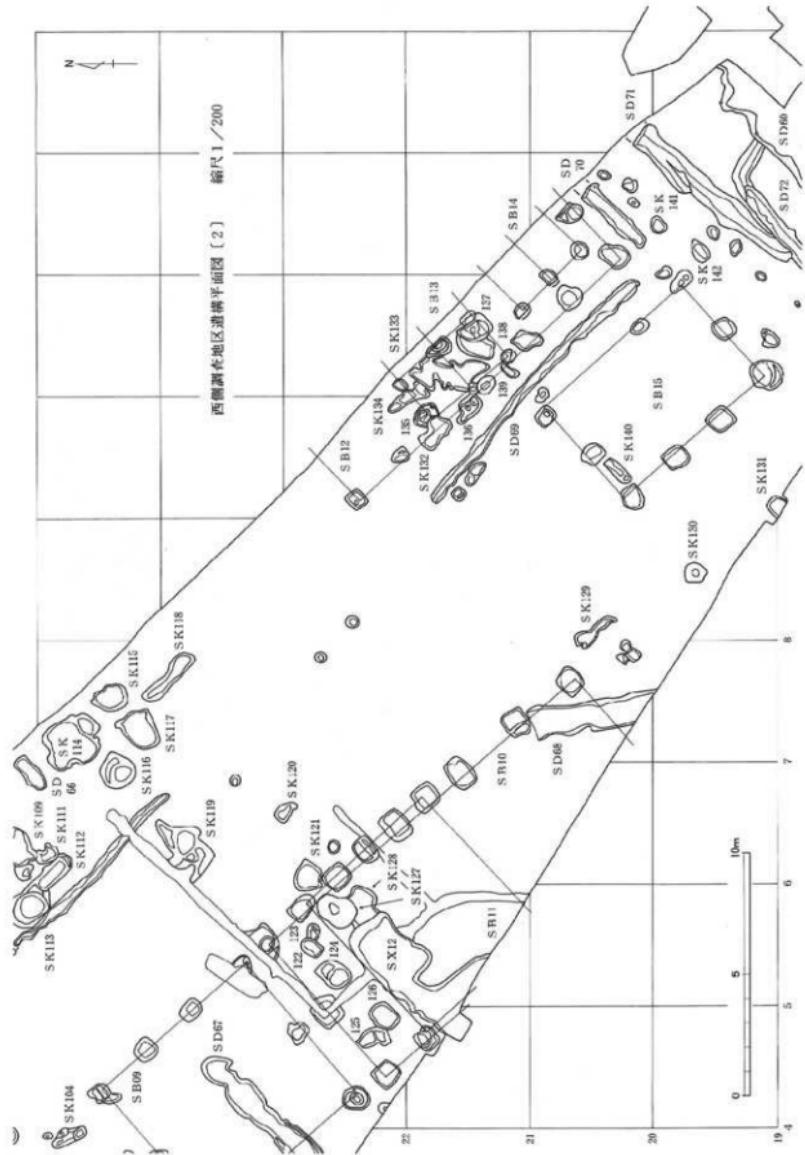
図面〇一六 遺構実測図 東木津遺跡



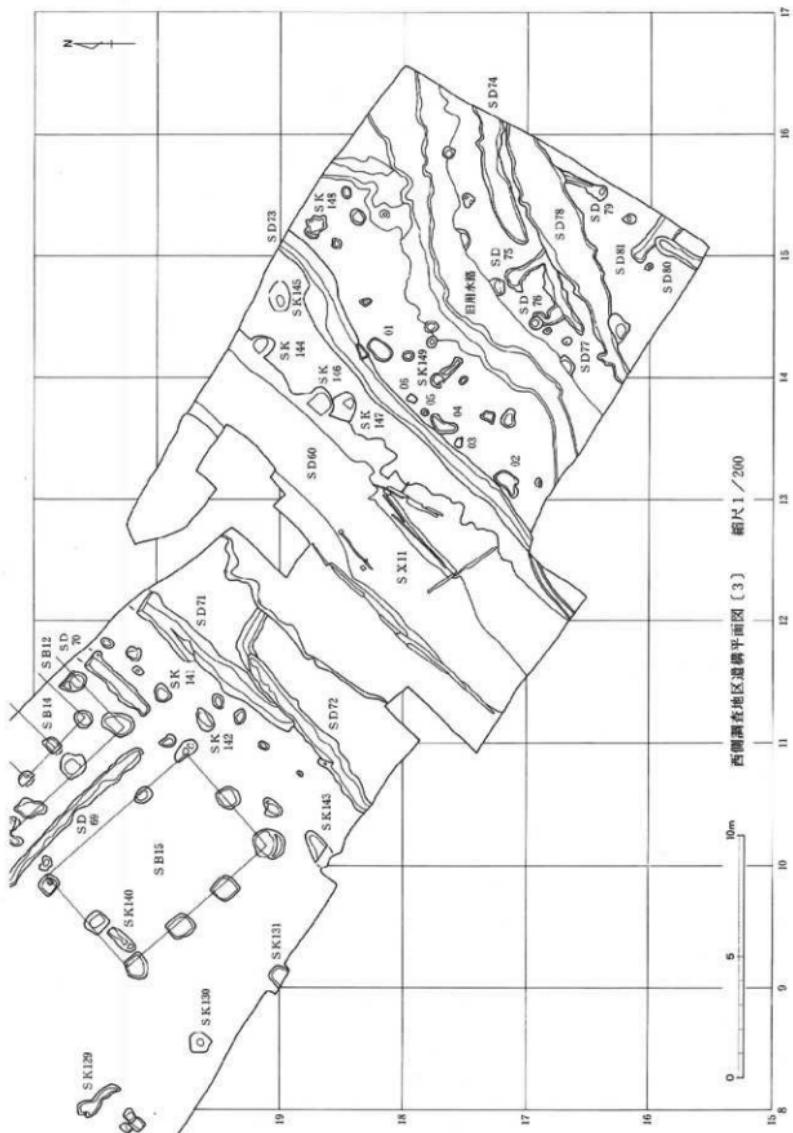
図面一〇一 遺構実測図 東木津遺跡



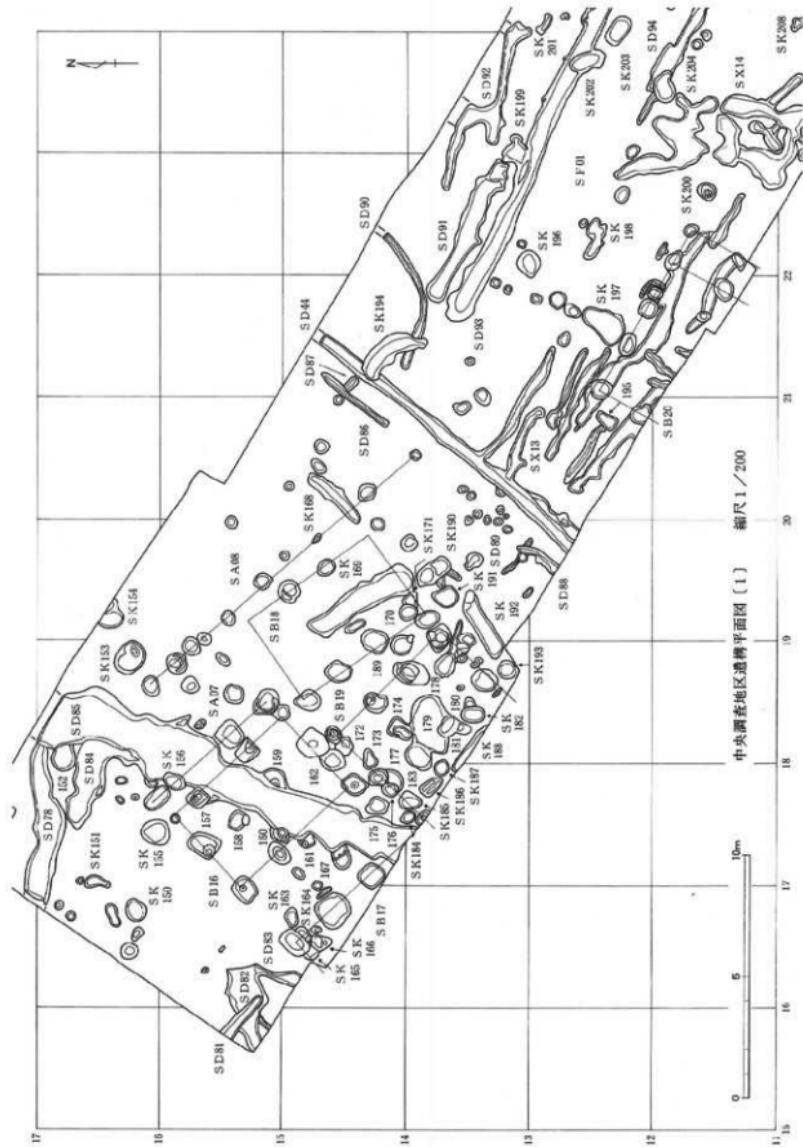
図一〇八 遺構実測図 東木津遺跡



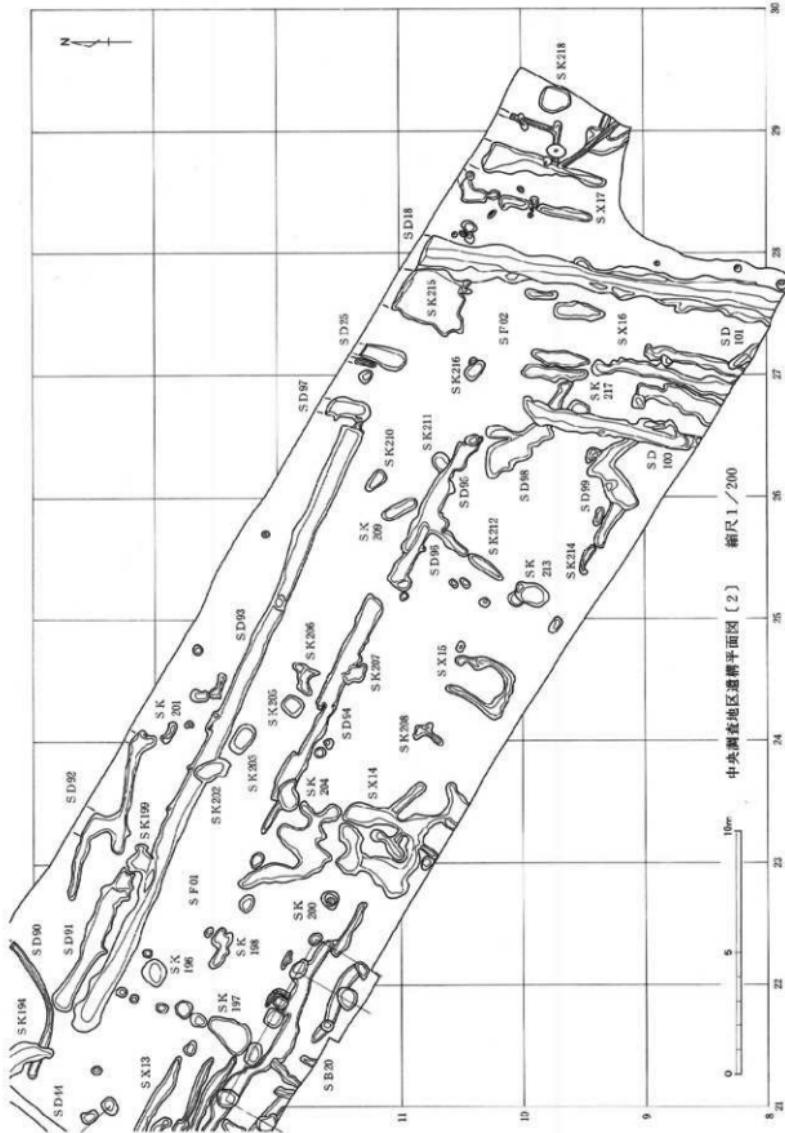
図面〇一九 遺構実測図 東木津遺跡



○110面図 遺構実測図 東木津遺跡



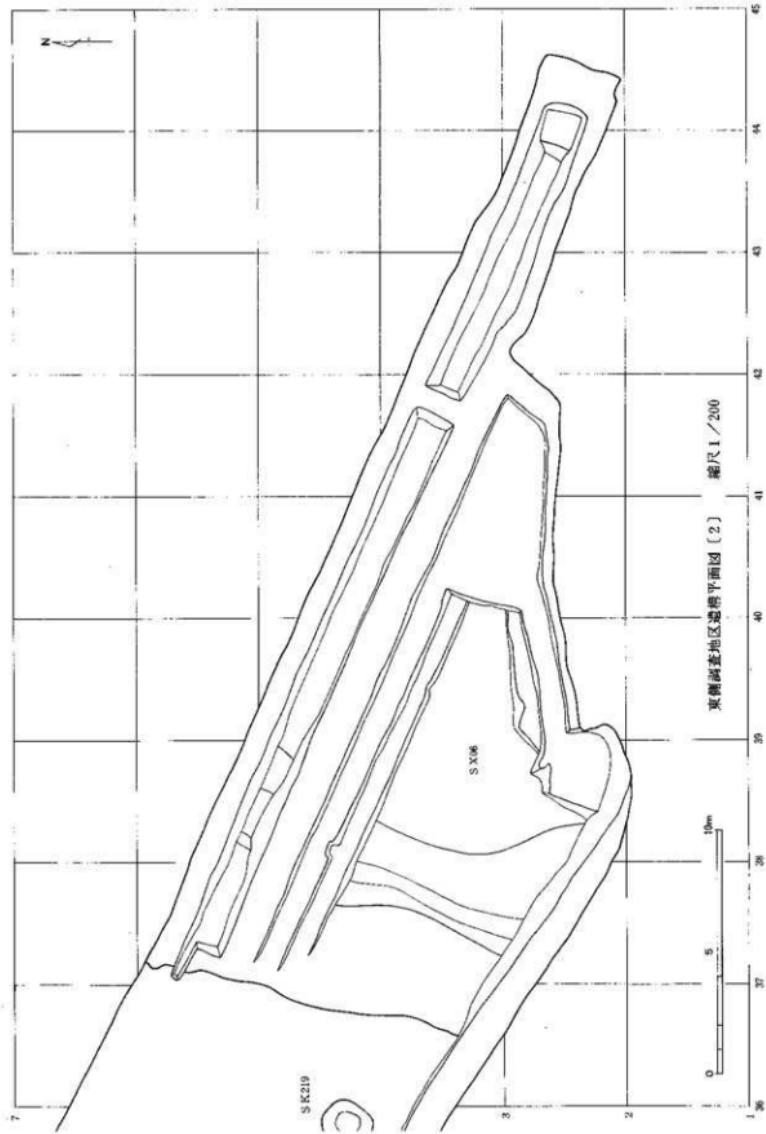
図面 II-11 遺構実測図 東木津遺跡



一一〇回図
遺構実測図 東木津遺跡



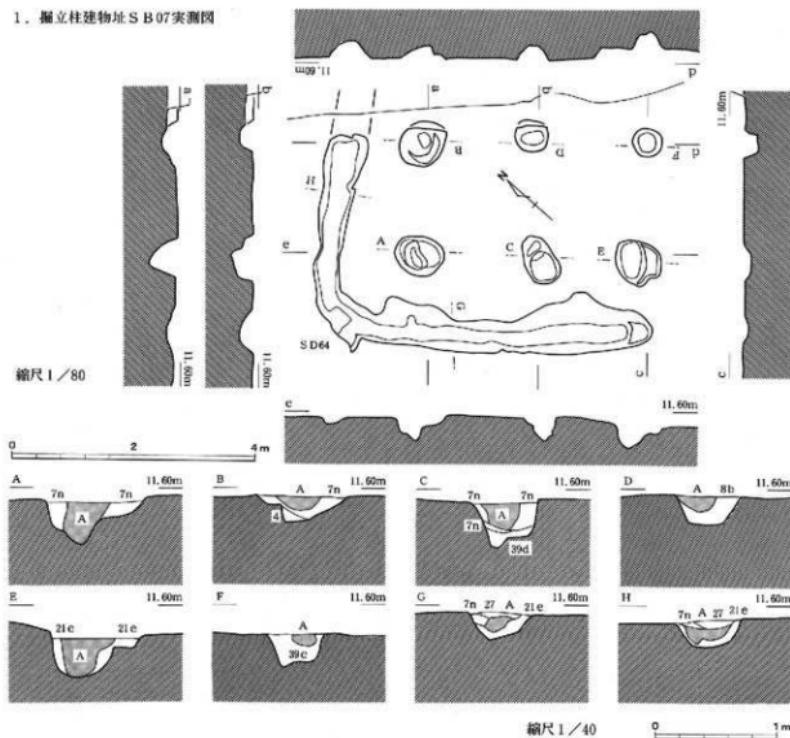
図三〇一 遺構実測図 東木津遺跡



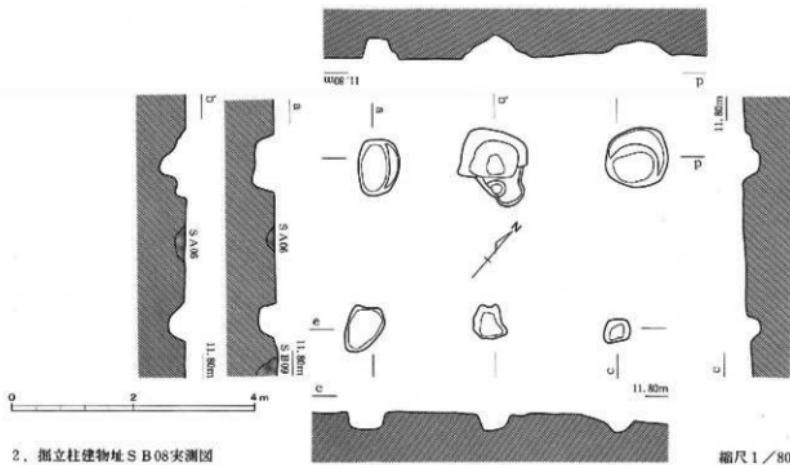
圖面〇一四 遺構実測図

東木津遺跡

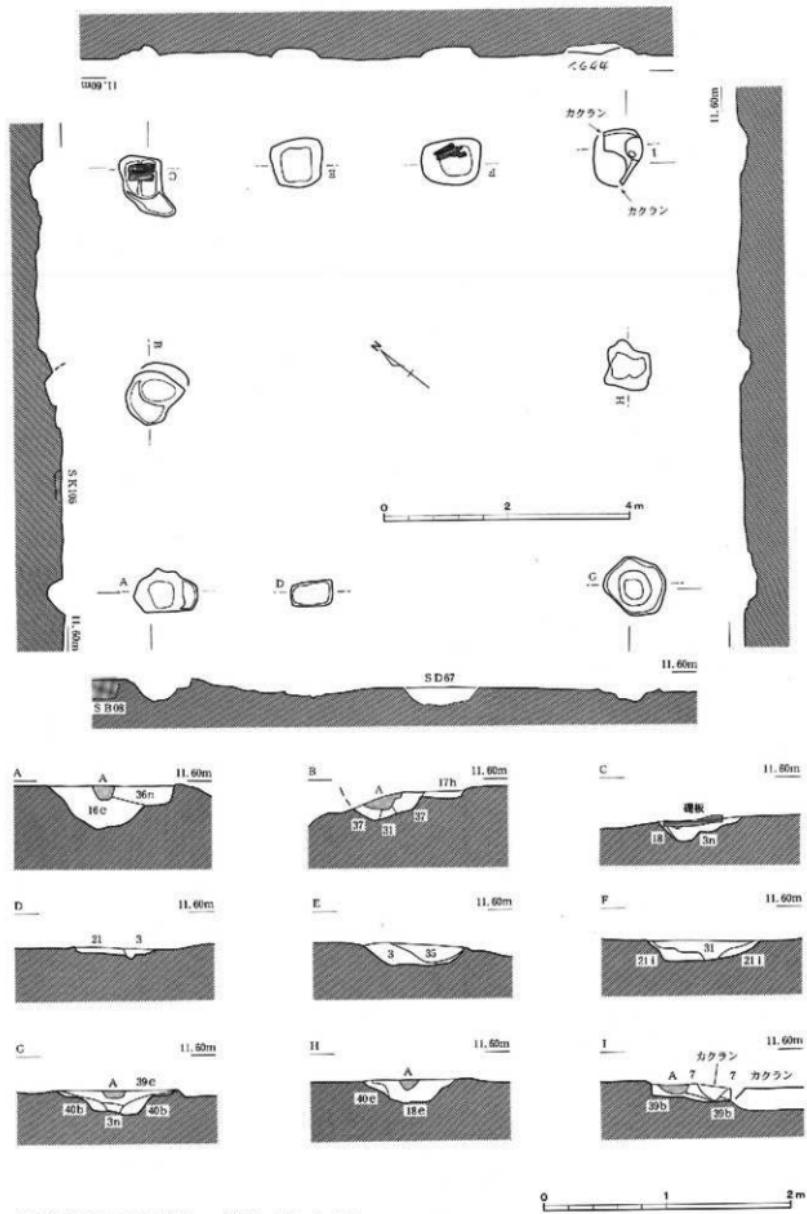
1. 捩立柱建物址 S B 07 実測図



2. 捩立柱建物址 S B 08 実測図



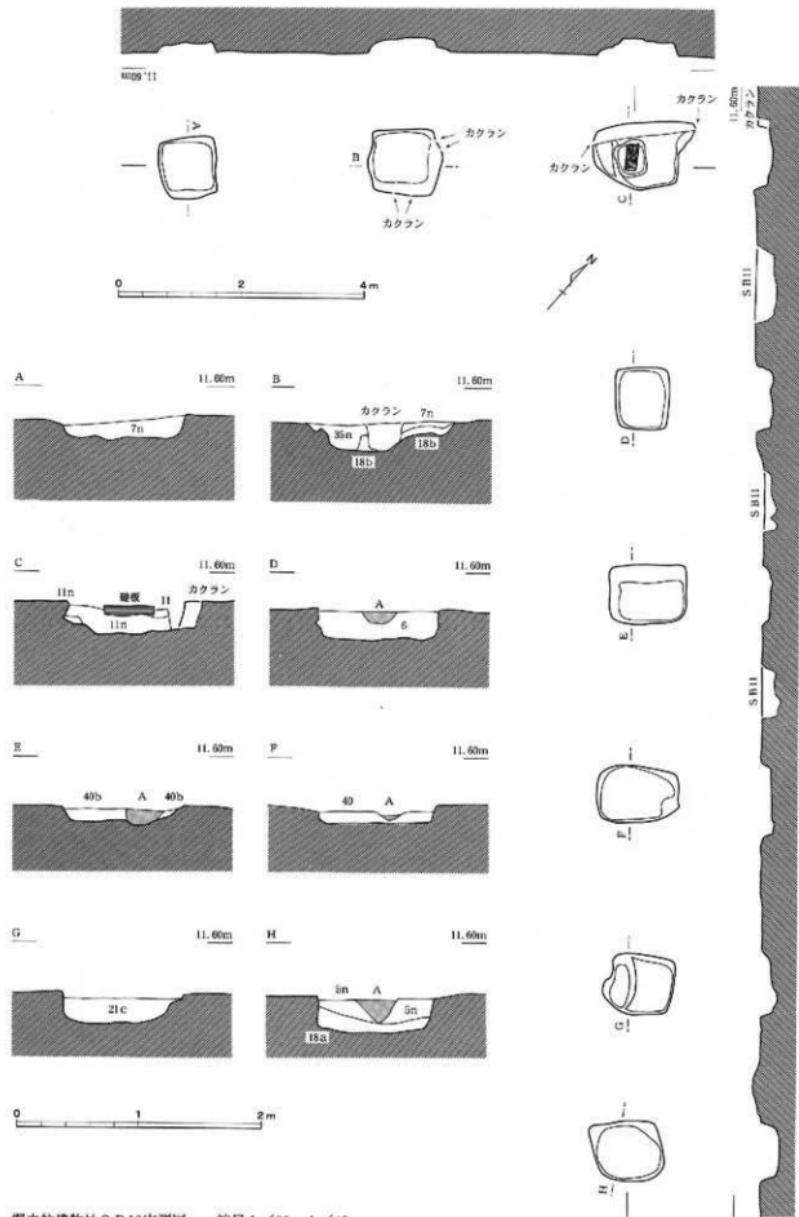
図面〇一五 遺構実測図 東木津遺跡



掘立柱建物址 S B 09実測図 線尺 1/80、1/40

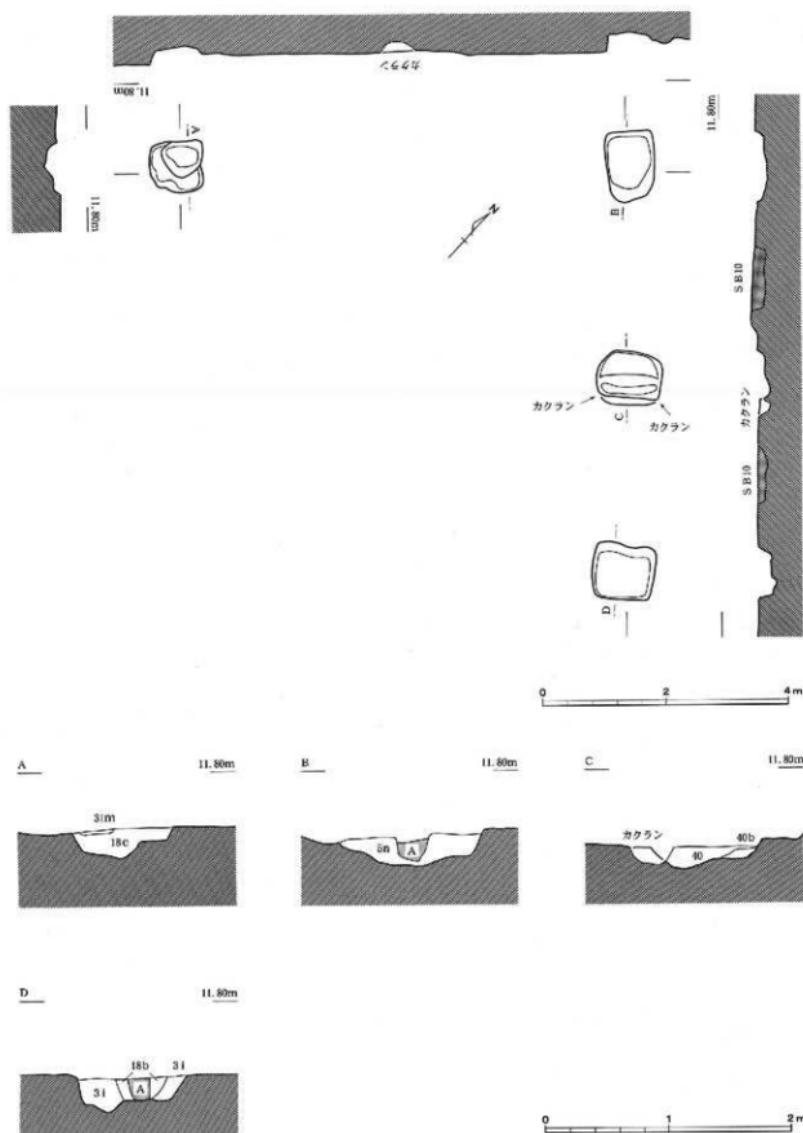
図面〇一六 遺構実測図

東木津遺跡



掘立柱建物址 S.B.II実測図 縮尺1/80、1/40

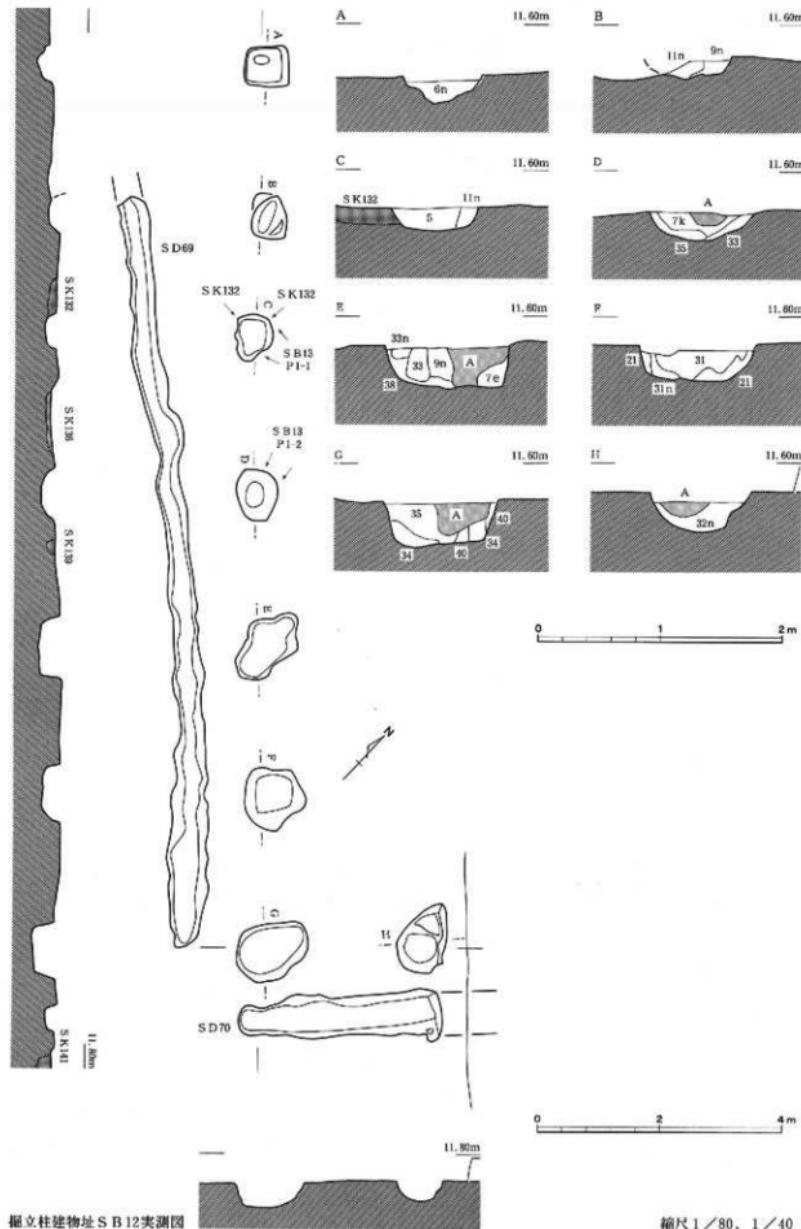
図面〇一七 遺構実測図 東木津遺跡



掘立柱建物址 S B11実測図

縮尺 1/80、1/40

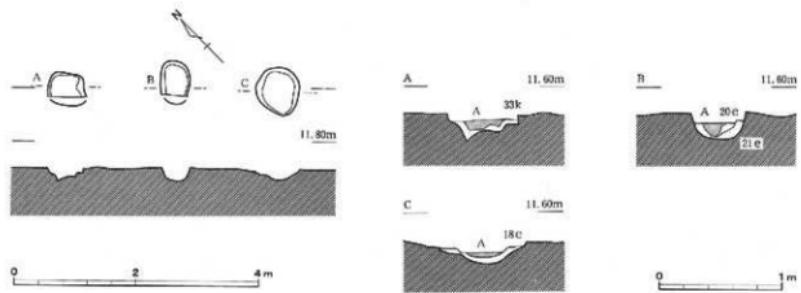
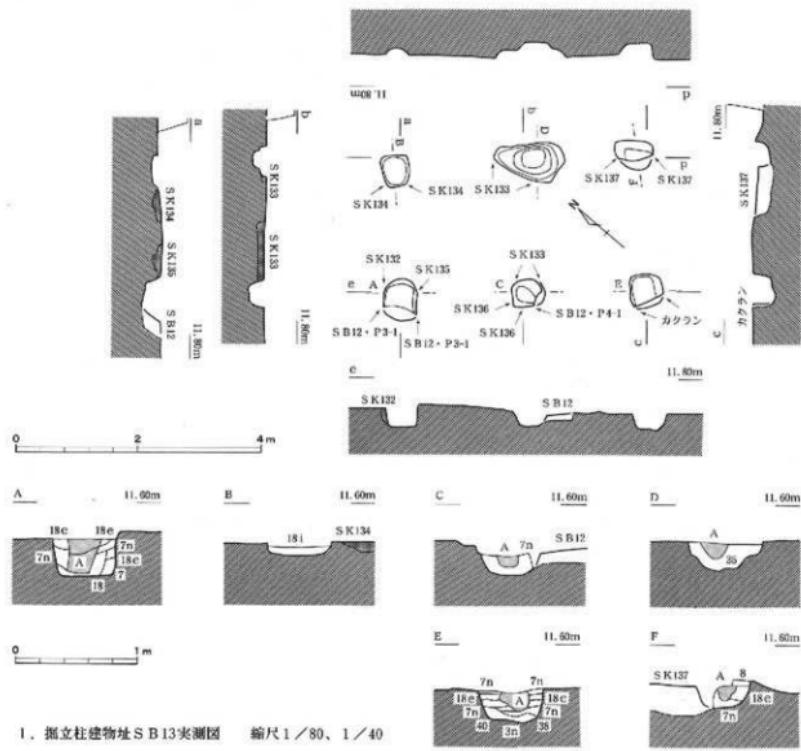
図面〇二八 遺構実測図 東木津遺跡



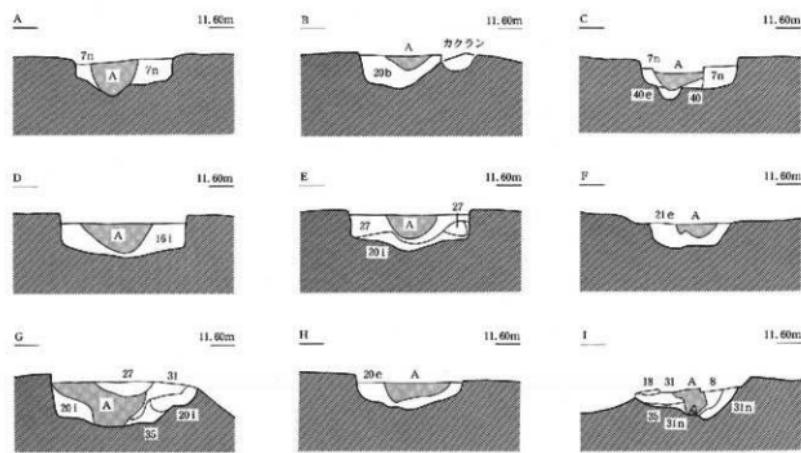
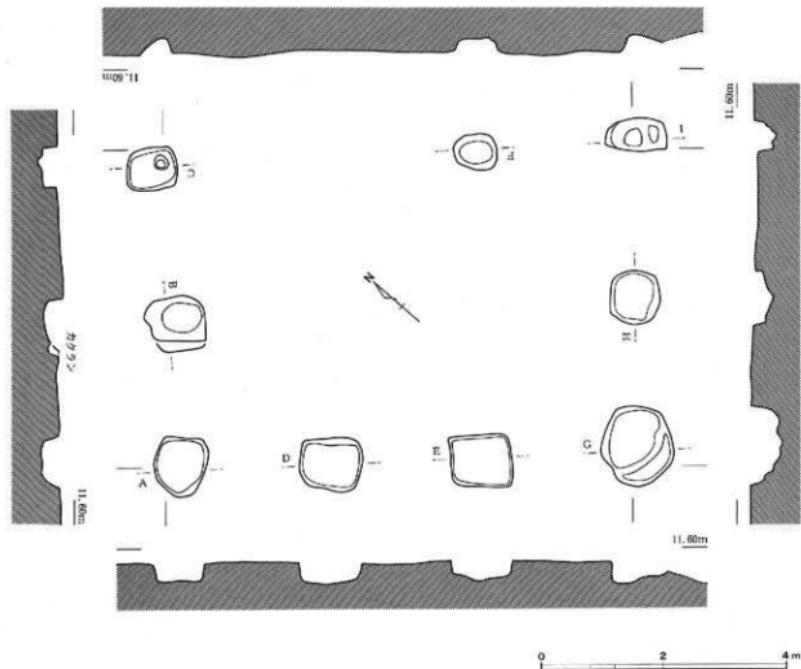
掘立柱建物址 S B12実測図

縮尺 1/80、1/40

図面〇二九 遺構実測図 東木津遺跡



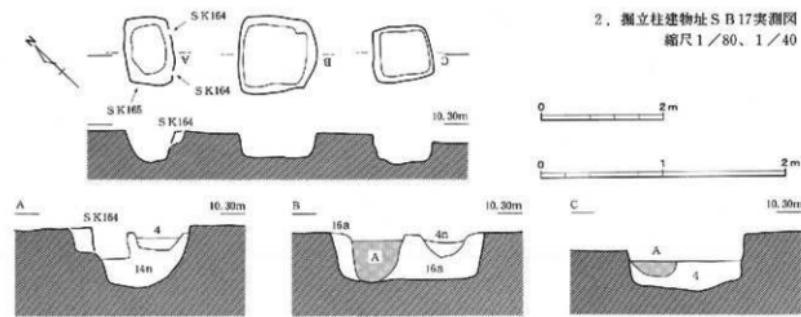
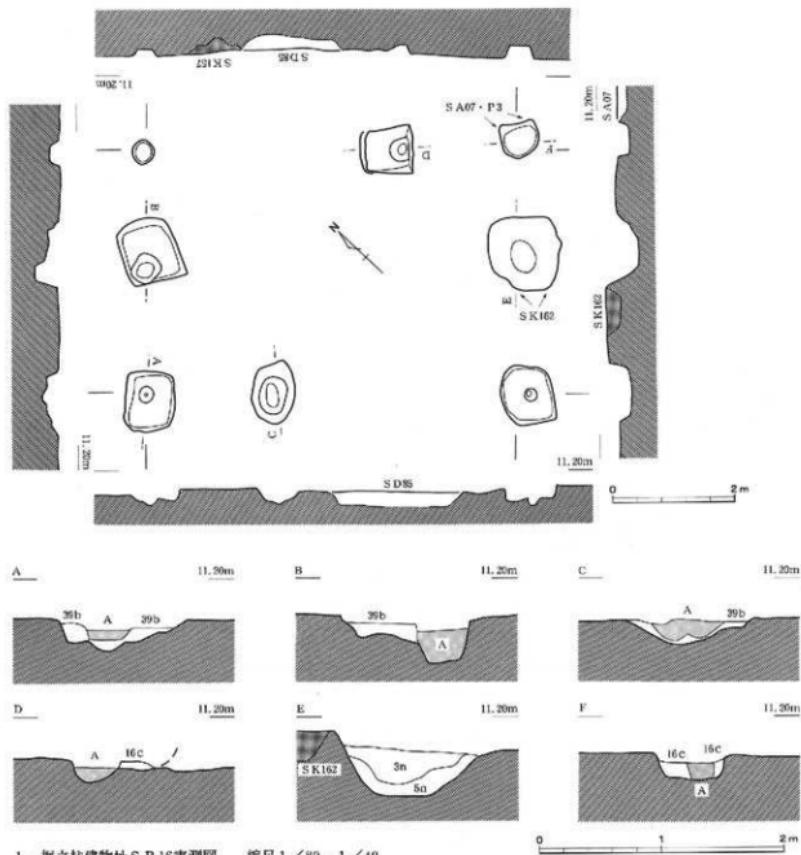
図面〇三〇 遺構実測図 東木津遺跡



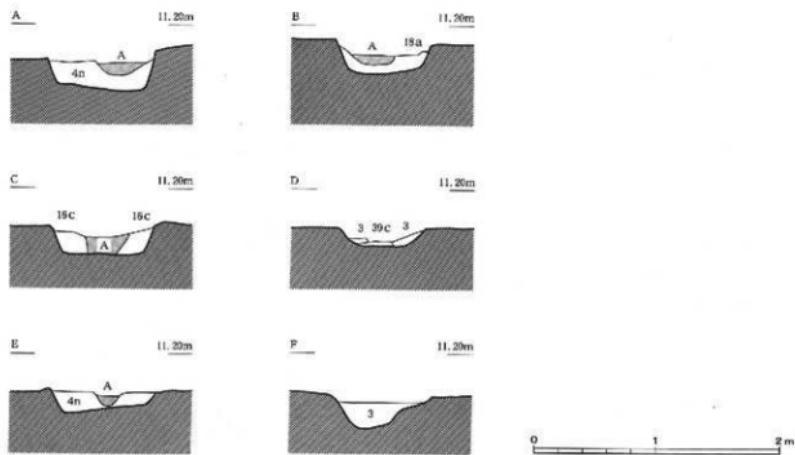
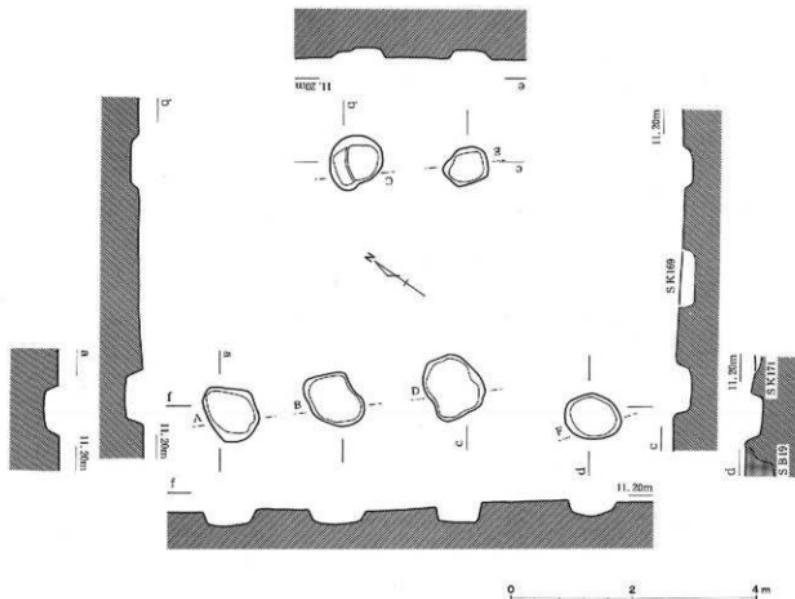
掘立柱建物址 S-B15実測図 緯尺1/80、1/40

0 1 2m

図面三一 遺構実測図 東木津遺跡



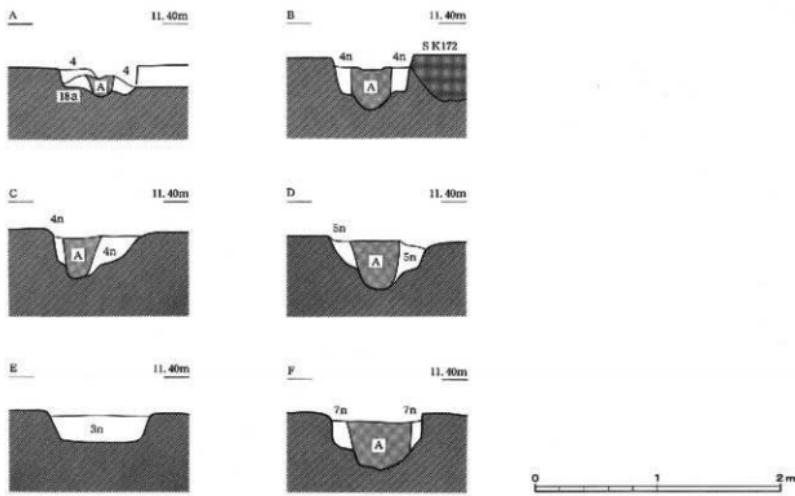
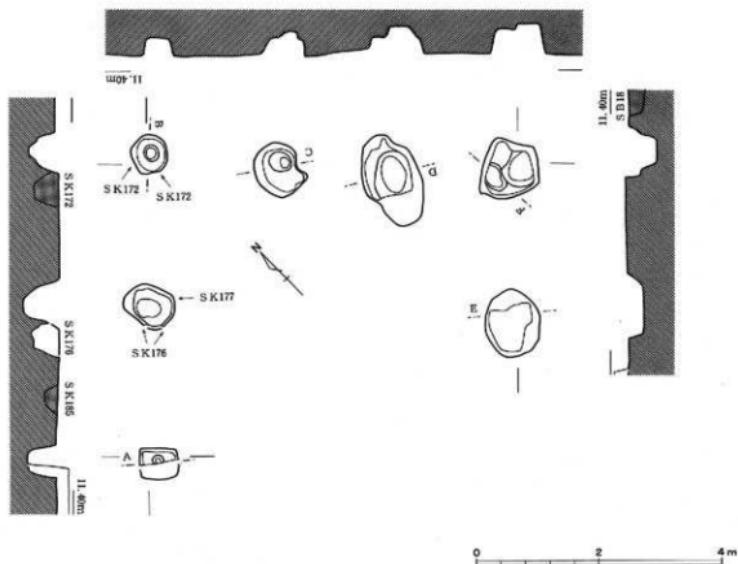
図面〇三二一 遺構実測図 東木津遺跡



掘立柱建物址 S-B18実測図

縮尺 1/80、1/40

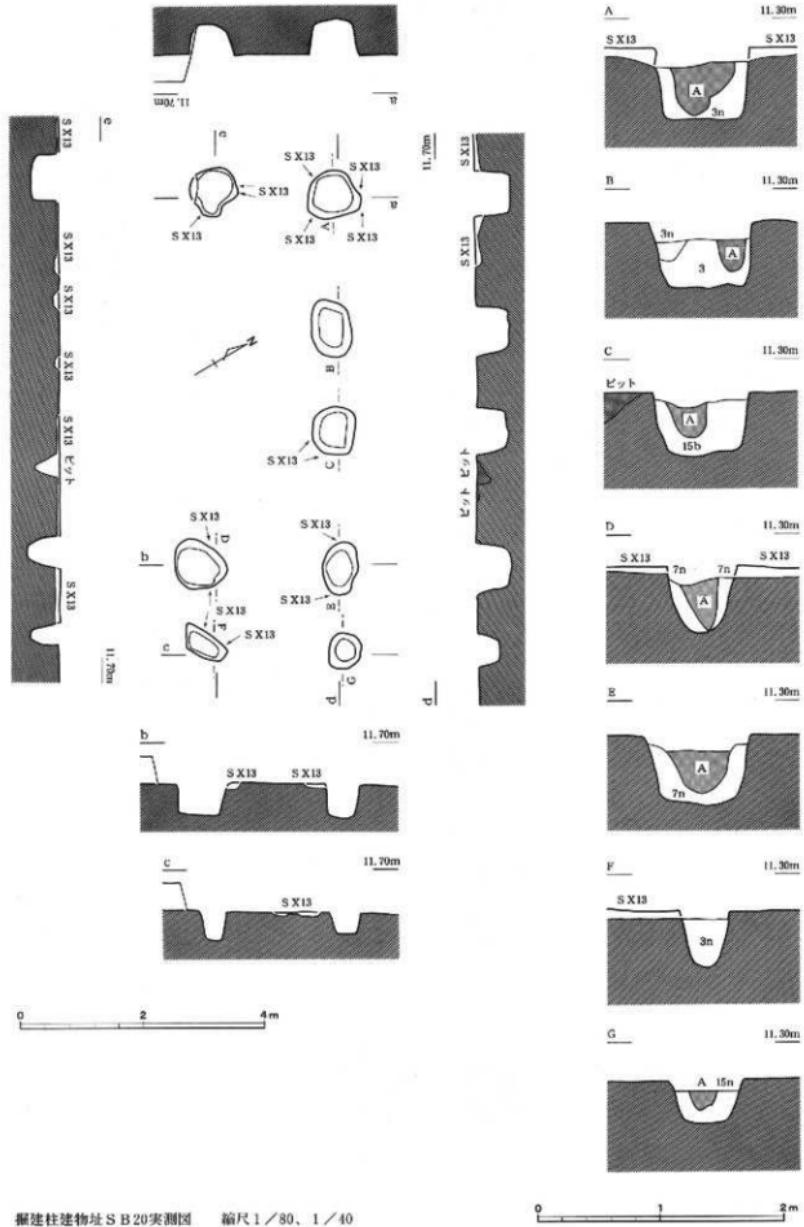
図面〇三三 造構実測図 東木津遺跡



掘立柱建物址 S B 19実測図

縮尺 1/80, 1/40

図面〇三四 遺構実測図 東木津遺跡

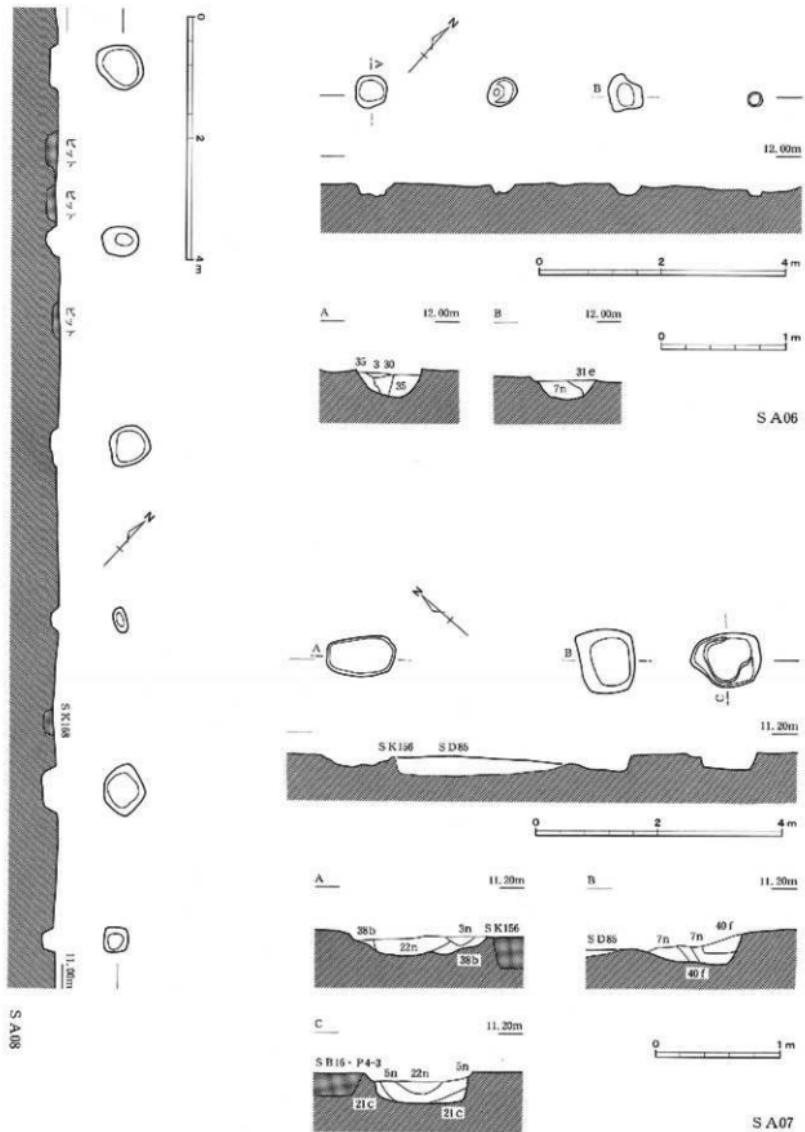


掘建柱建物址 S B 20実測図 縮尺1/80、1/40

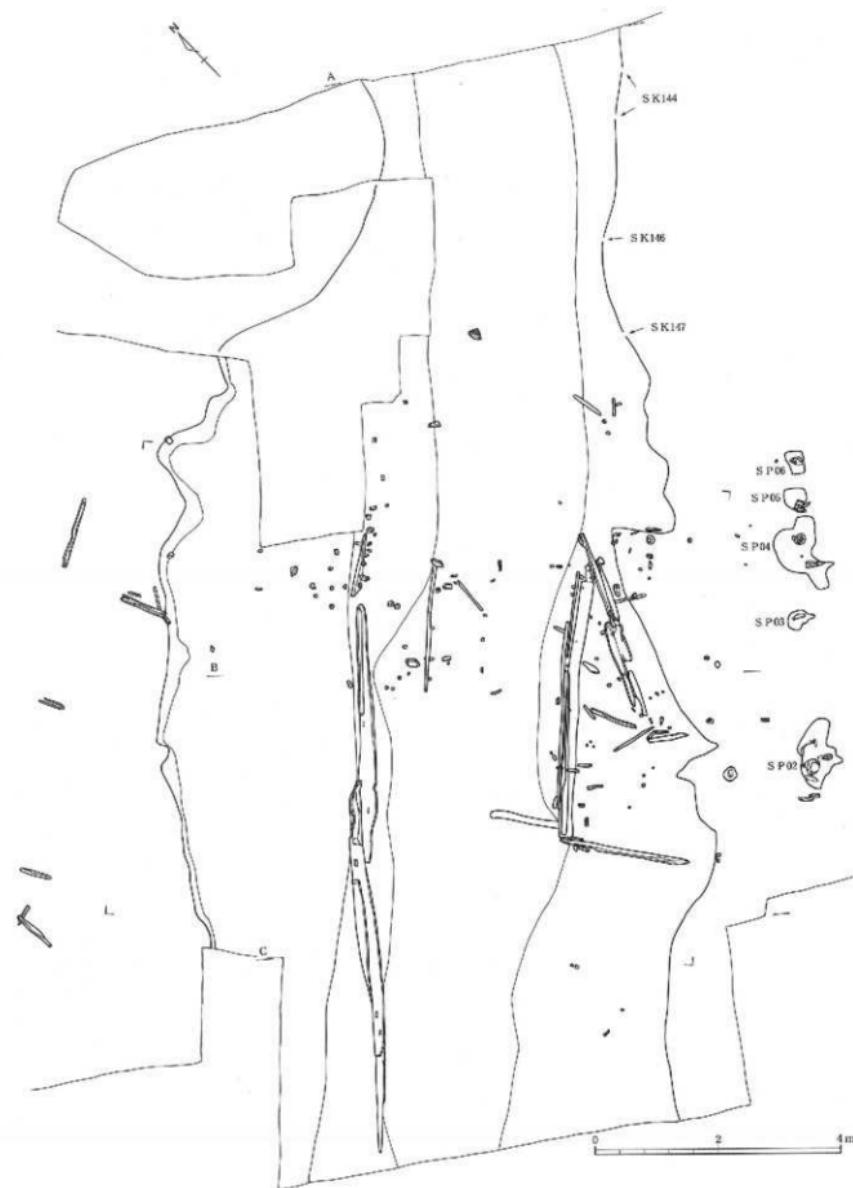
0 1 2 m

図面〇三五 遺構実測図

東木津遺跡



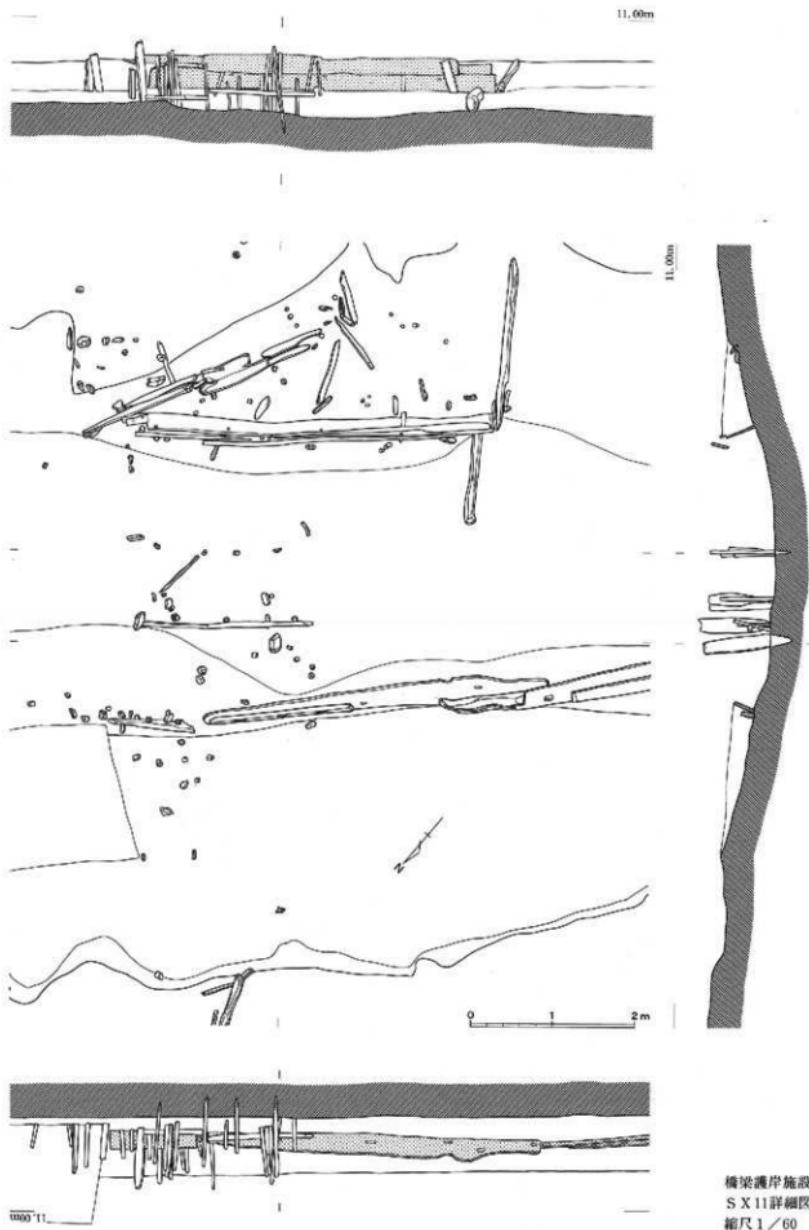
図面〇三五 遺構実測図 比尺1/80, 1/40



橋梁護岸施設 S X 11—溝 S D 60実測図

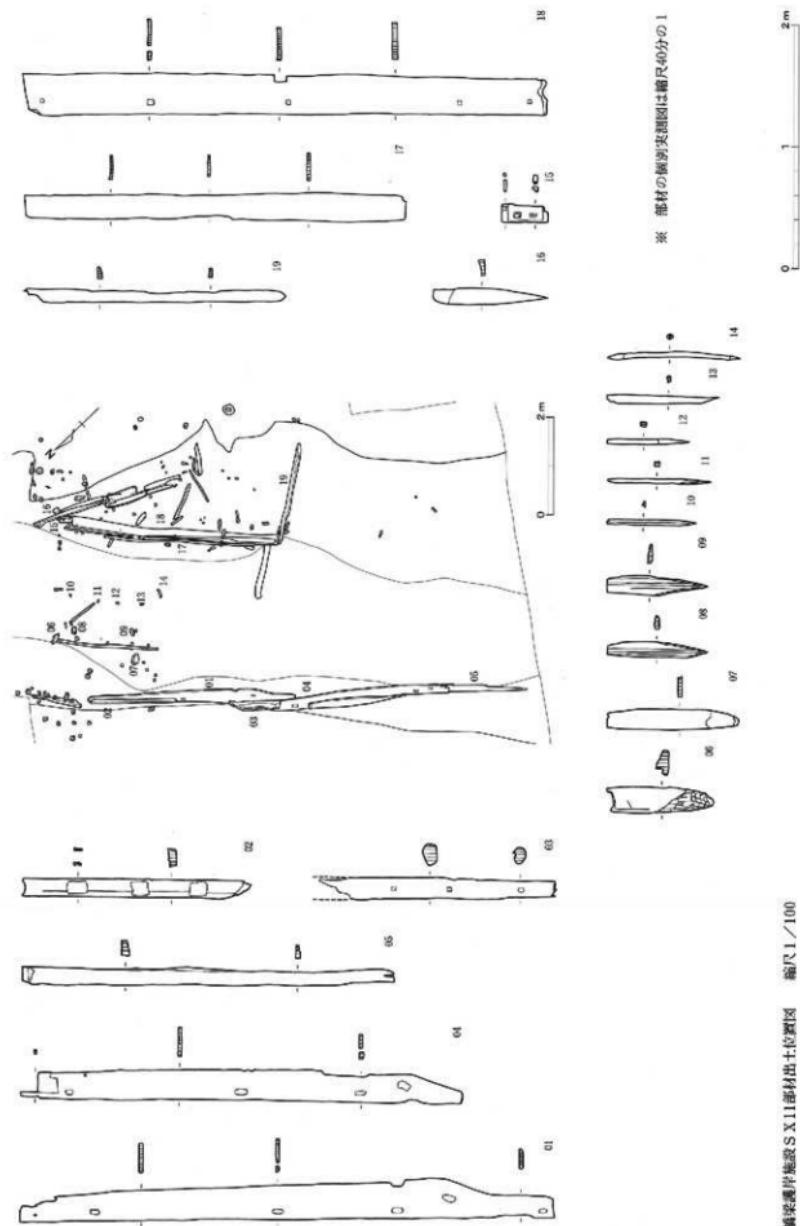
縮尺 1/80

図面〇三七 遺構実測図 東木津遺跡



橋梁護岸施設
S X 11詳細図
縮尺 1/60

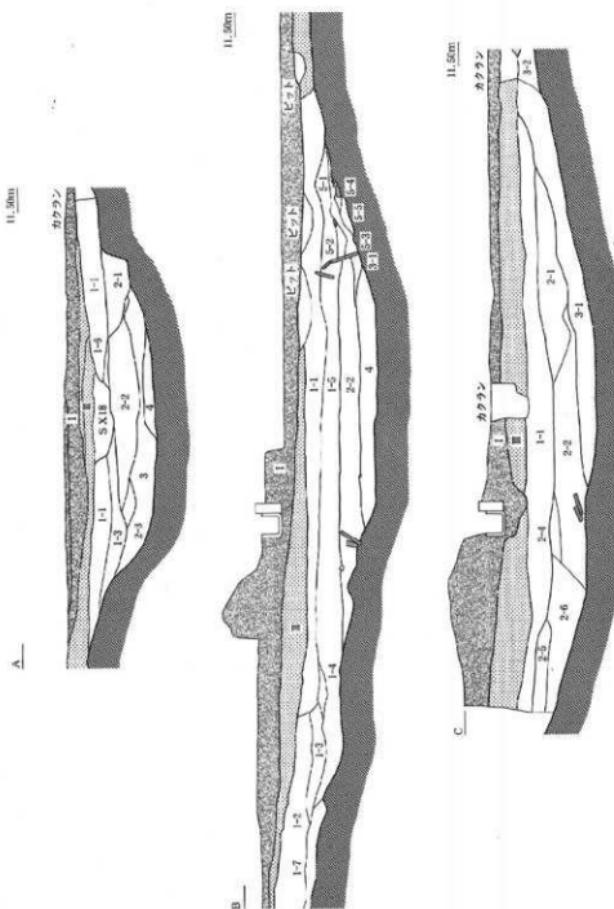
図面〇三〇八 遺構実測図 東木津遺跡



図面〇三九 遺構実測図 東木津遺跡

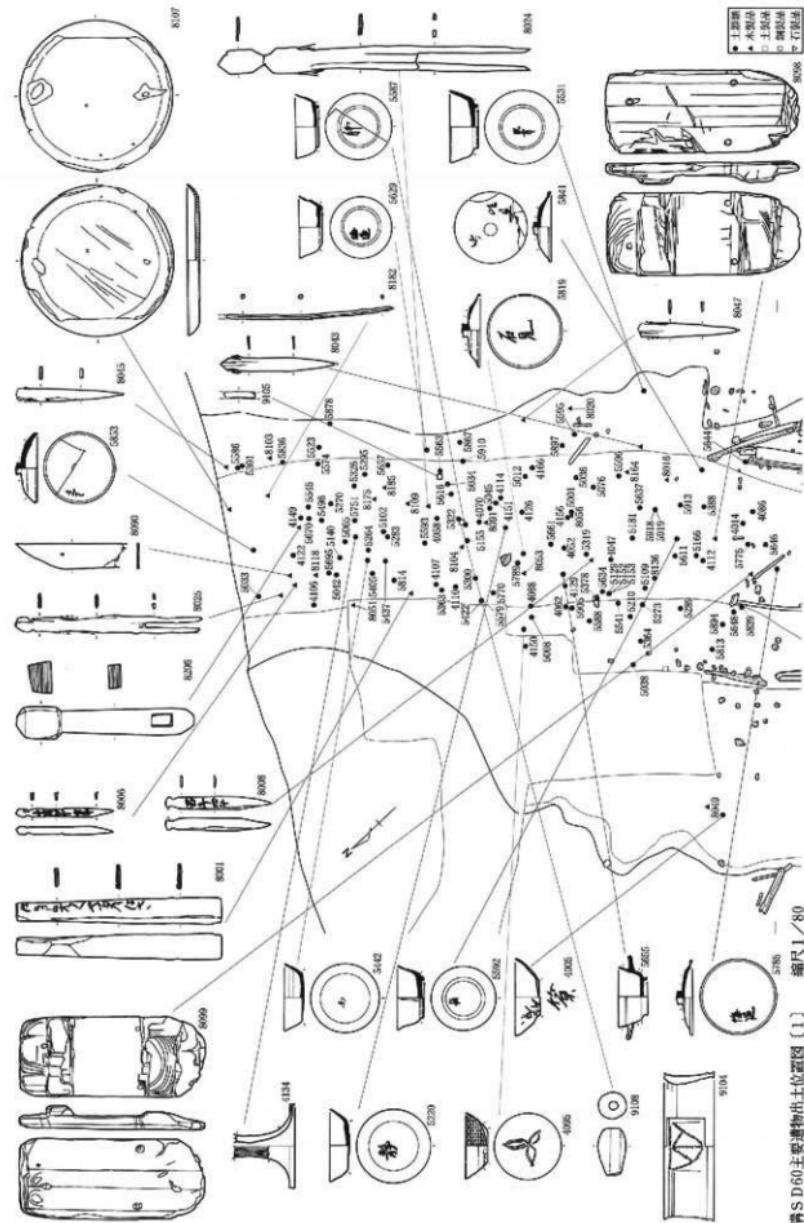
1.5m

溝SD60土壤断面図 線尺1/50



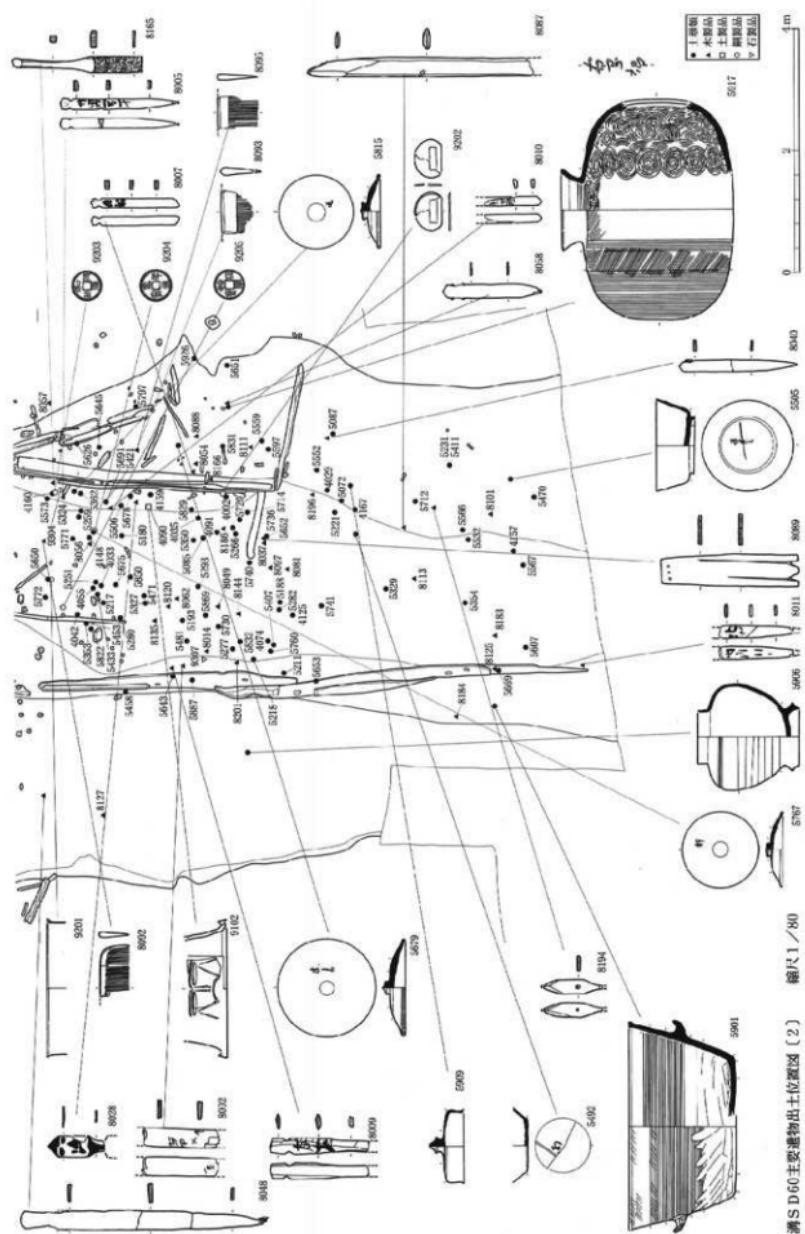
土層名	土質
第 1-1	黒褐色シルト
第 1-2	黒褐色弱粘質土
第 1-3	喜褐色弱粘質土.
1 1-4	黄褐色砂
1 1-5	黑褐色弱粘質土
1 1-6	黄褐色砂
1 1-7	喜褐色砂質土
第 2-1	黒褐色シルト
第 2-2	黒褐色砂質土
2 2-3	所褐色砂
2 2-4	喜褐色弱粘質土
2 2-5	黄褐色砂
2 2-6	黒褐色シルト
第 3-1	喜褐色弱粘質土
3-2	喜褐色弱粘質土
第 4-1	灰褐色砂
第 5-1	喜褐色弱粘質土
5-2	黑褐色砂
5-3	黑褐色弱粘質土
5-4	黄褐色砂
5-5	喜灰色砂質土

図面〇四〇 遺構実測図 東木津遺跡



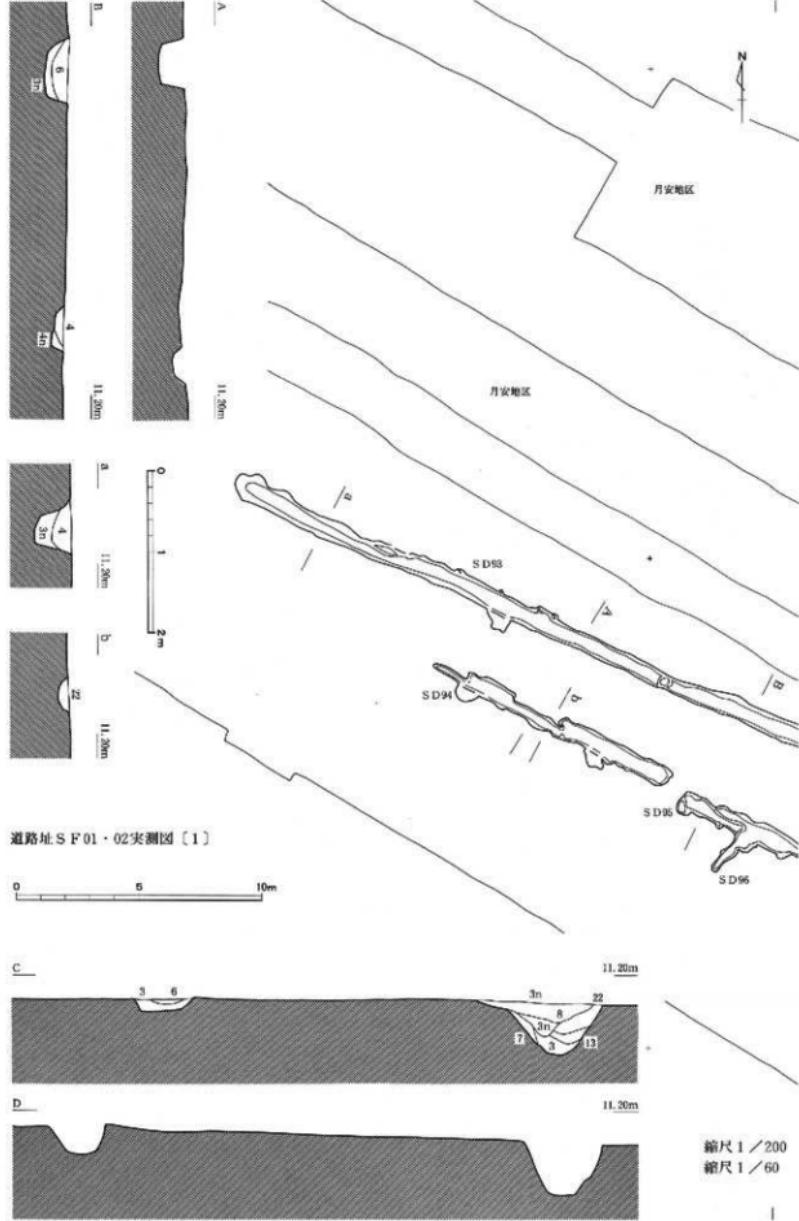
測量S60王室遺物出土位置図 [1]

圖面〇四一 遺構実測図 東木津遺跡

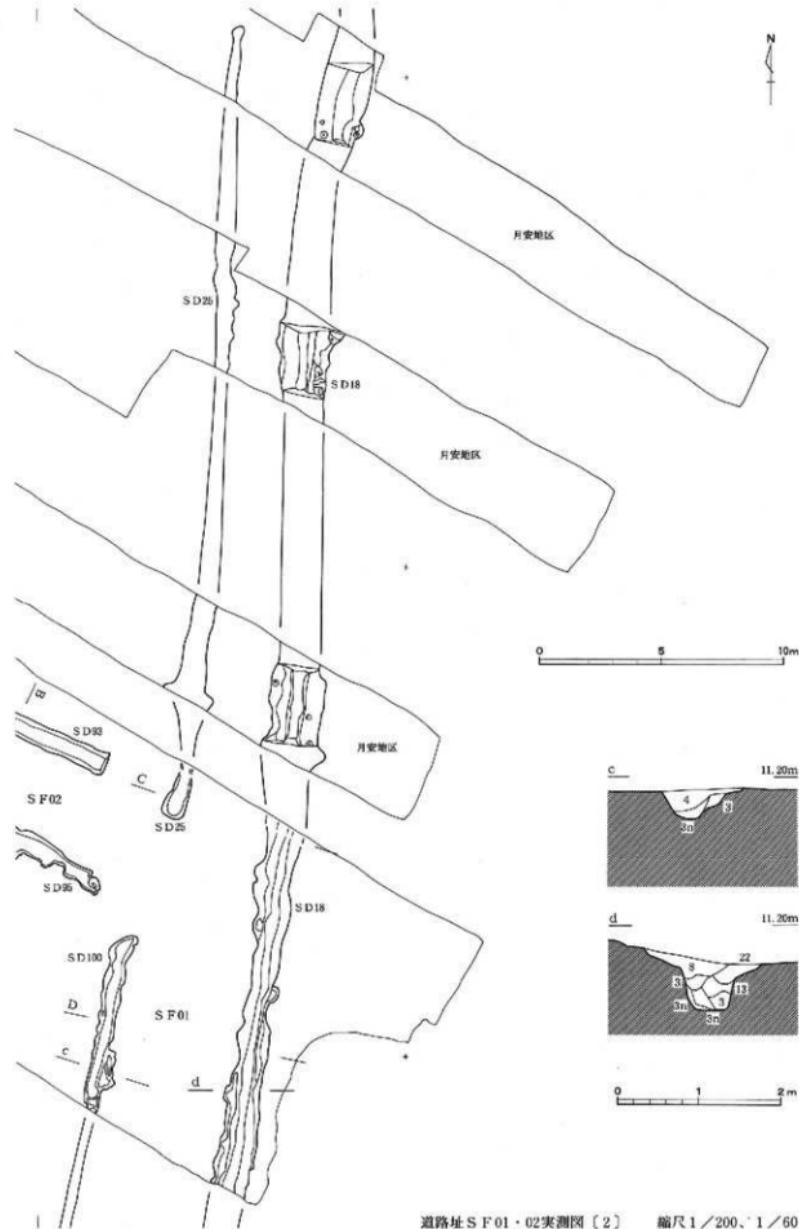


海SD60主要遺物出土位置図 [2]

図面〇四二 遺構実測図 東木津遺跡

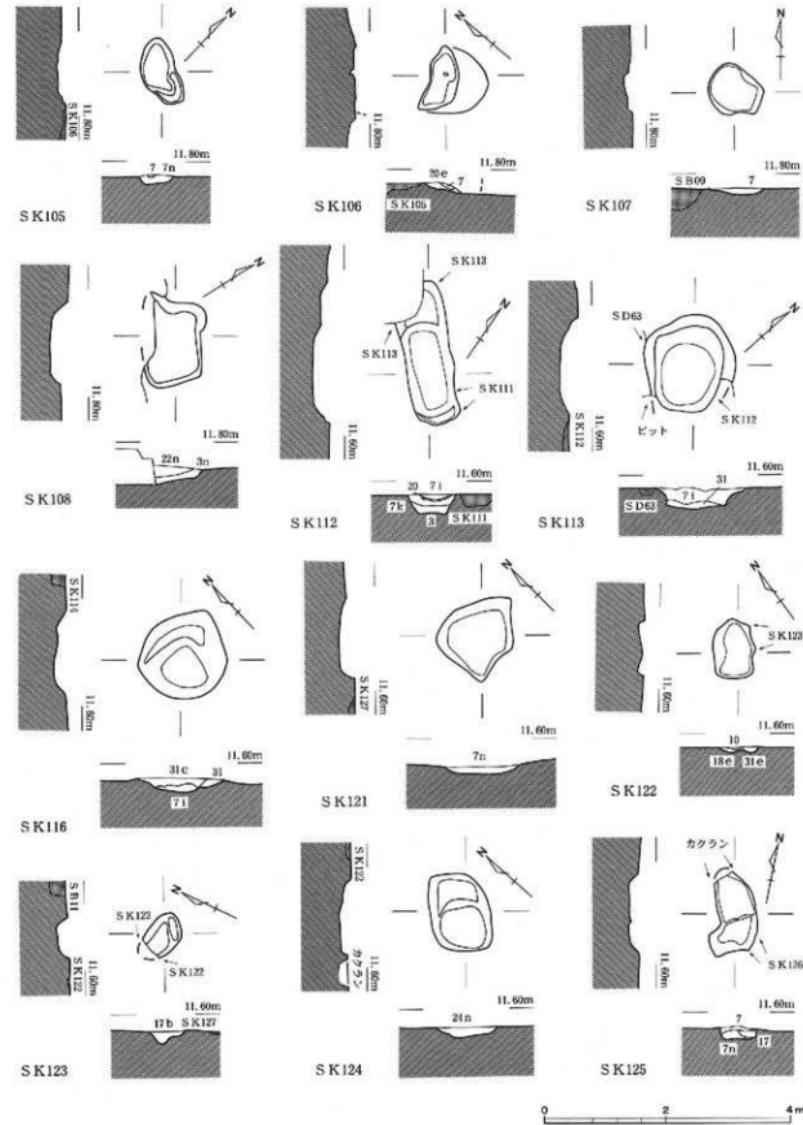


図面〇四三 遺構実測図 東木津遺跡



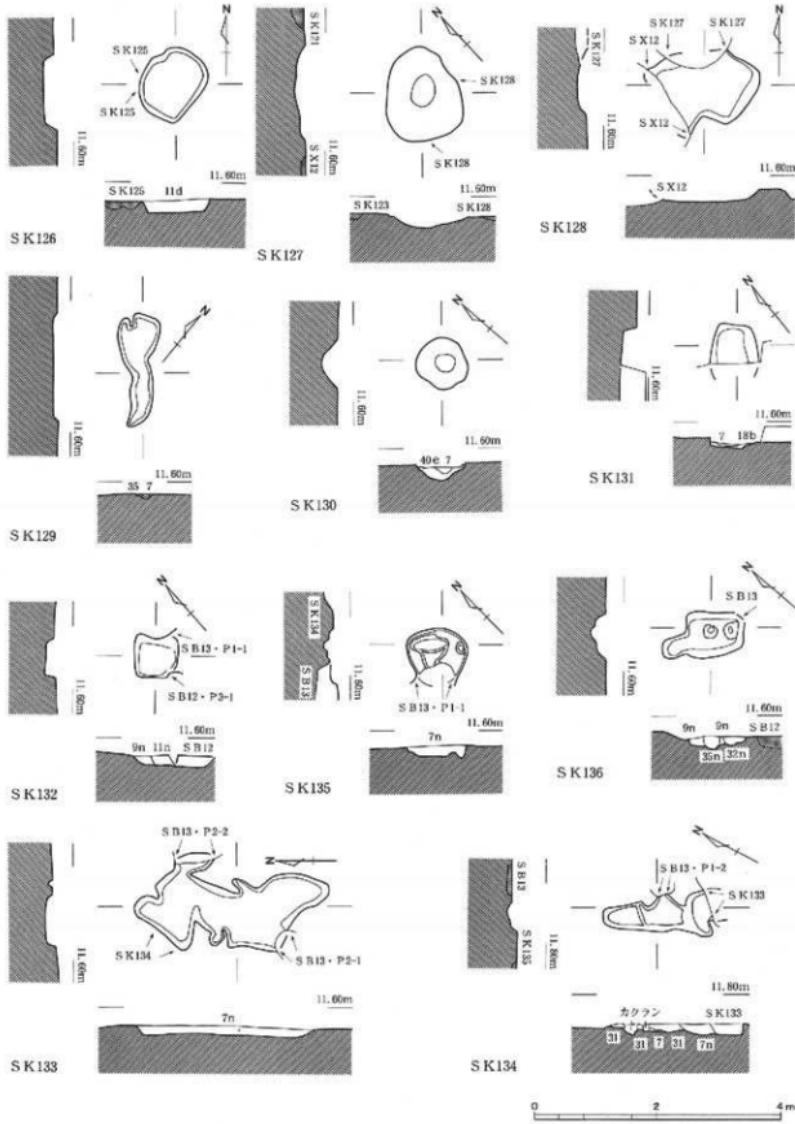
道路址 S F 01・02実測図〔2〕 編尺1/200、1/60

図面〇四四 遺構実測図 東木津遺跡



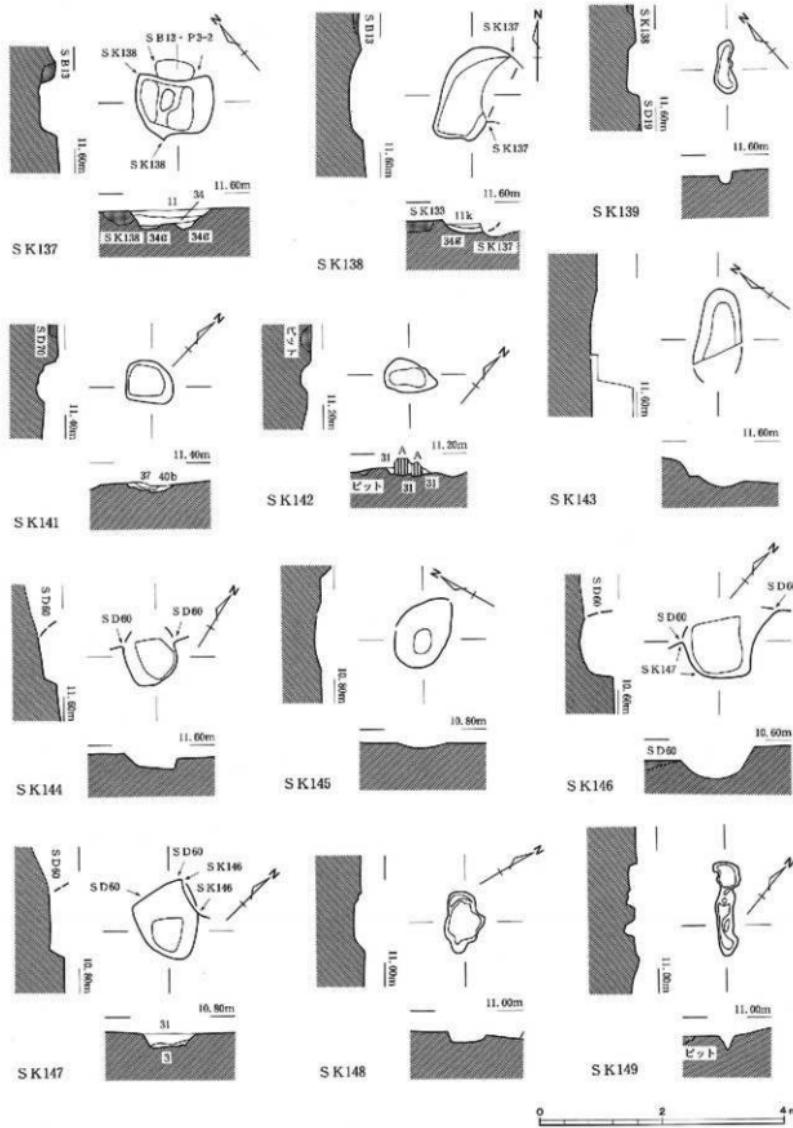
土坑実測図〔1〕：SK105～108・112・113・116・121～125

縮尺1/80



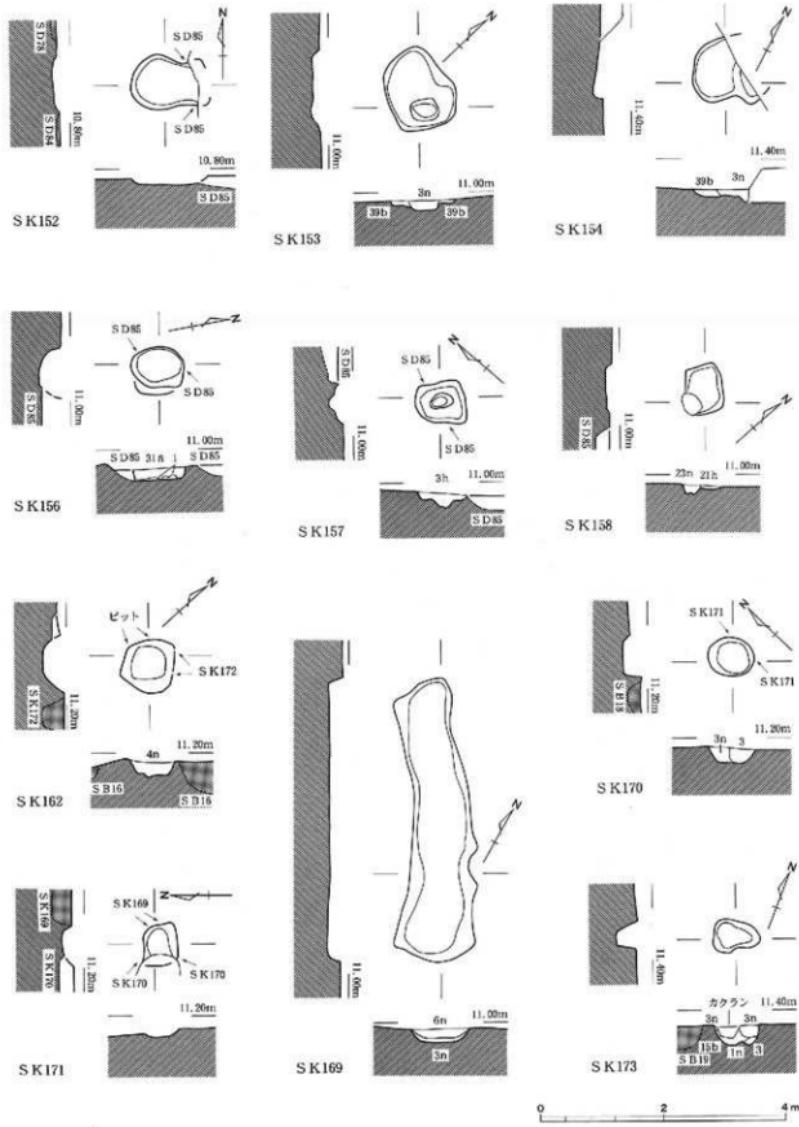
上坑実測図(?) ; SK 126~136

縮尺 1/80

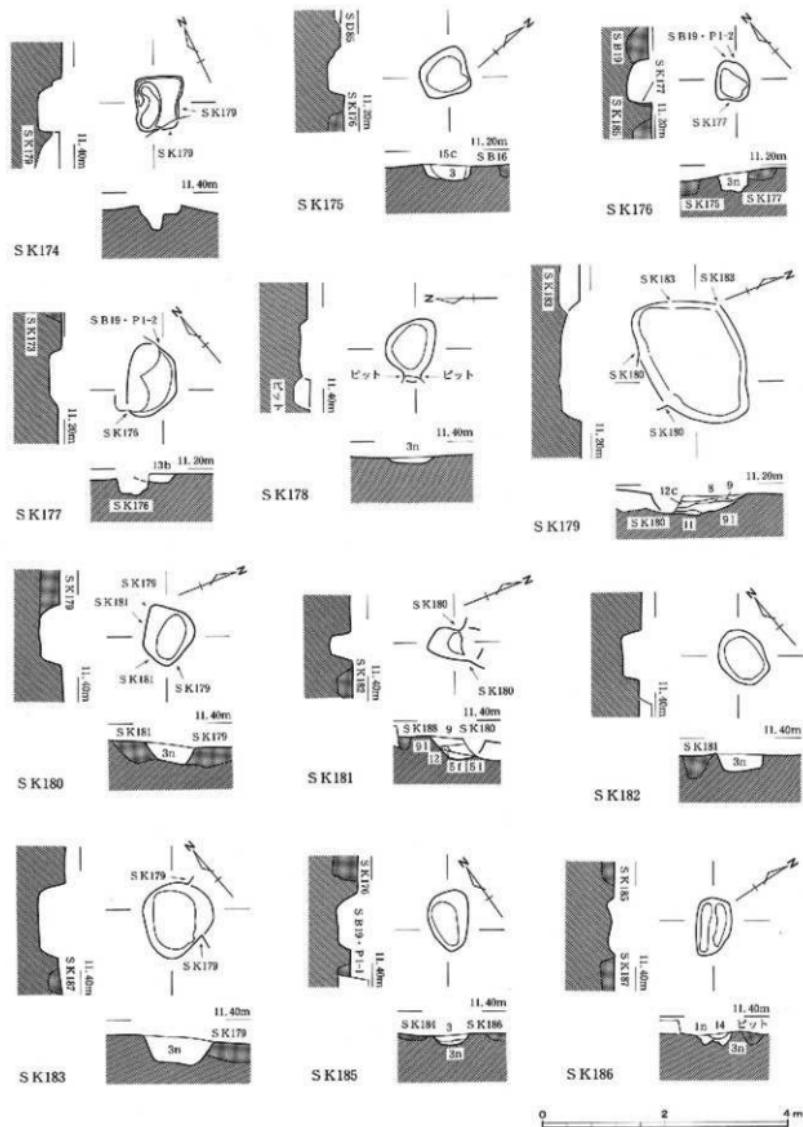


0 2 4 m

図面〇四七 遺構実測図 東木津遺跡



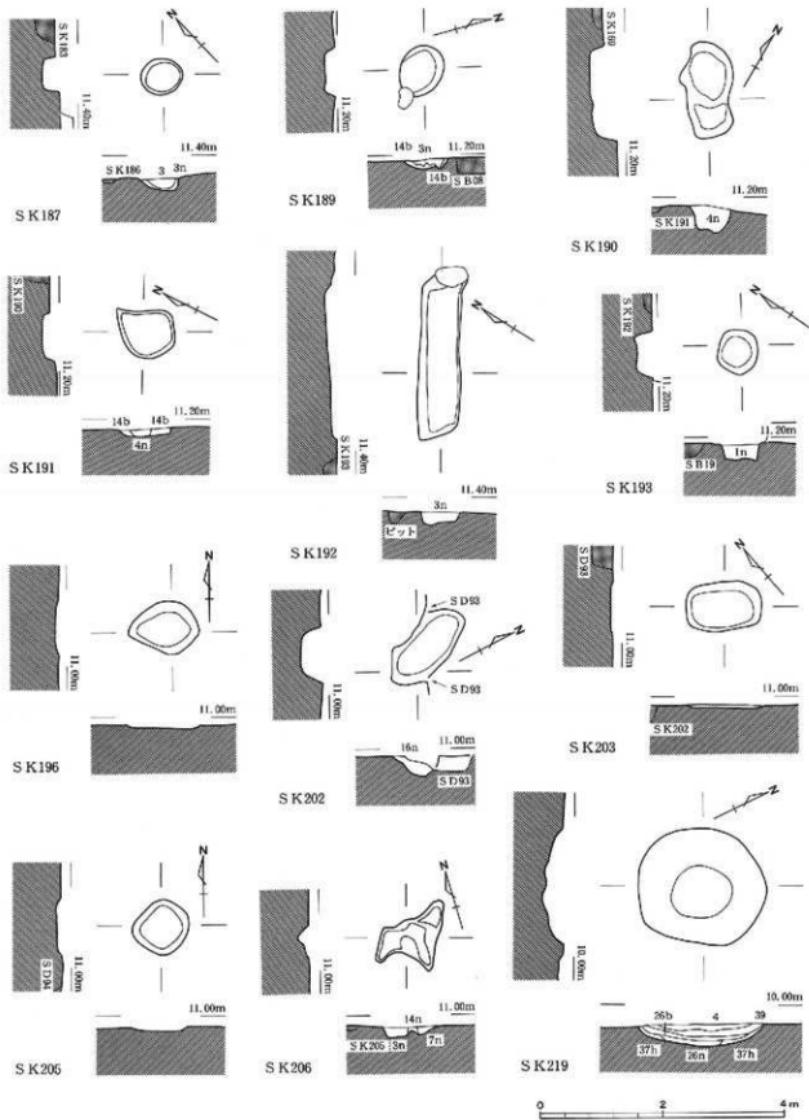
土坑実測図〔4〕：SK152～154・156～158・162・169～171・173

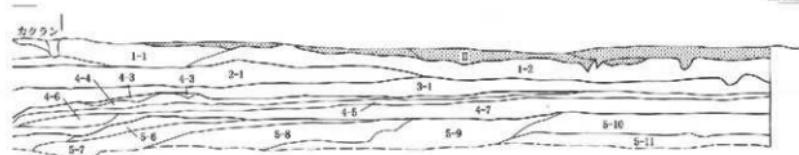
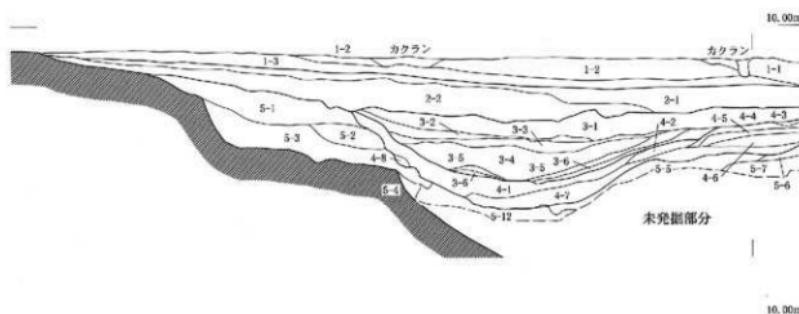
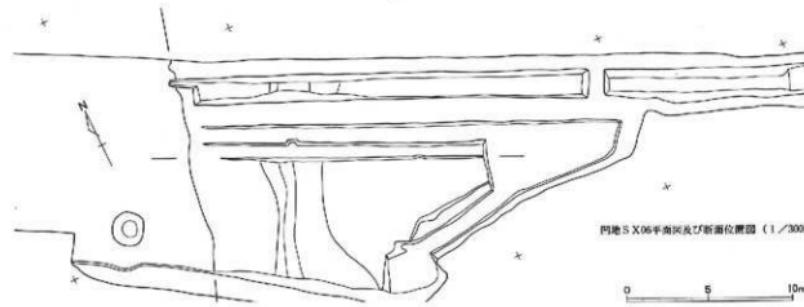


土坑実測図〔5〕；S K174～183・185・186

縮尺1/80

図面〇四九 遺構実測図 東木津遺跡

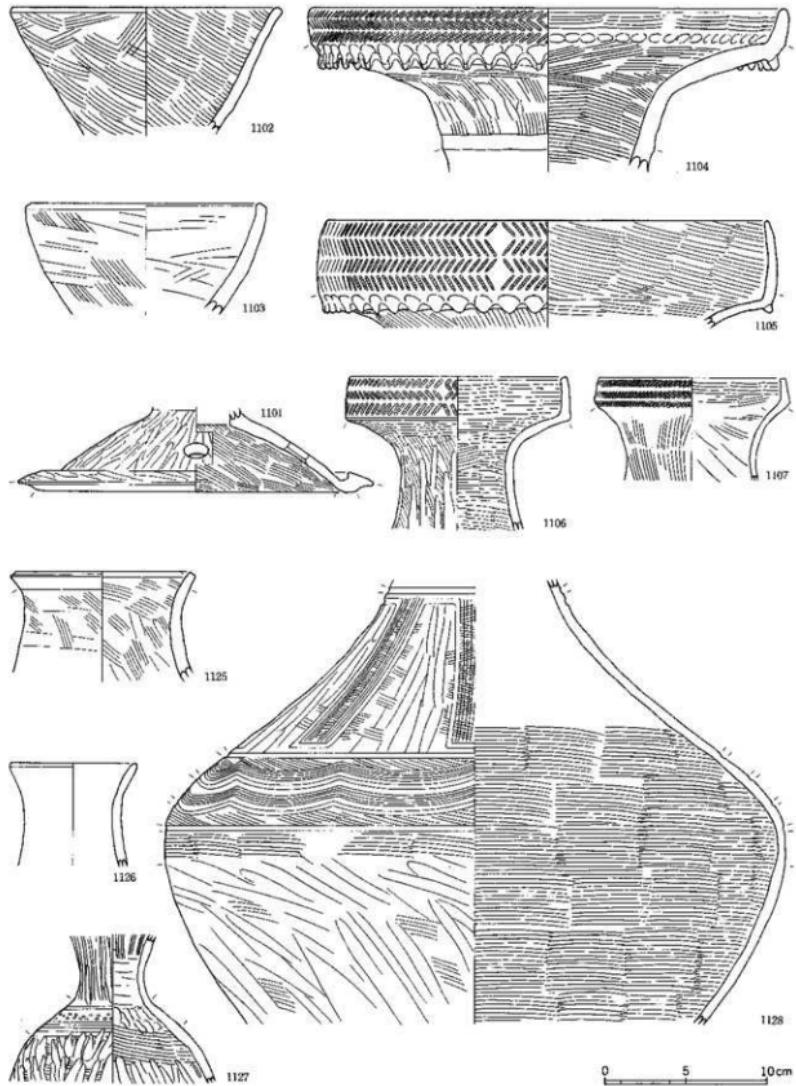




土層名	土質	土層名	土質	土層名	土質	土層名	土質
1-1	6	3-3	6a	4-5	15b	5-5	3a
1-2	1	3-4	40	4-6	6g	5-6	6
1-3	3	3-5	36	4-7	6	5-7	39
		3-6	15	4-8	20n	5-8	40d
2-1	27					5-9	11
2-2	3d	4-1	1	5-1	27	5-10	4d
		4-2	11b	5-2	20a	5-11	14
3-1	7	4-3	14b	5-3	3n	5-12	6
3-2	1n	4-4	7b	5-4	6		

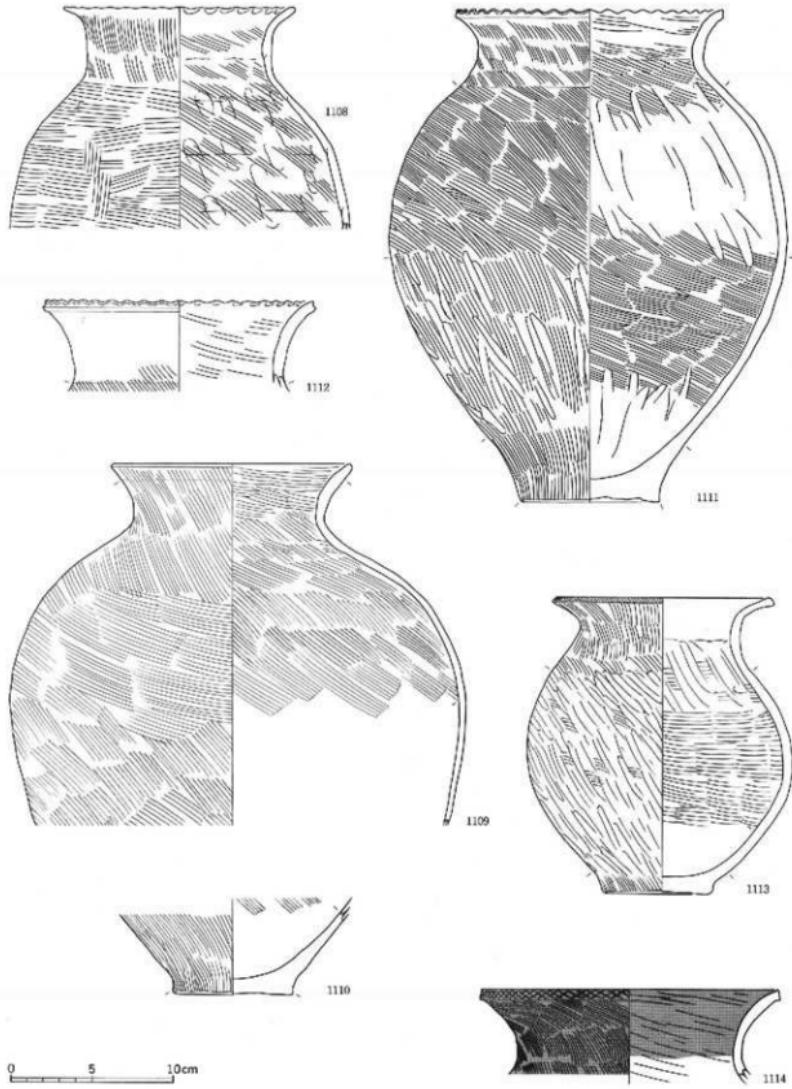
凹地S X06土層断面図 縮尺 1/60

図面〇五一 遺物実測図
石塚遺跡



0 5 10cm

図面〇五二 遺物実測図 石塚遺跡

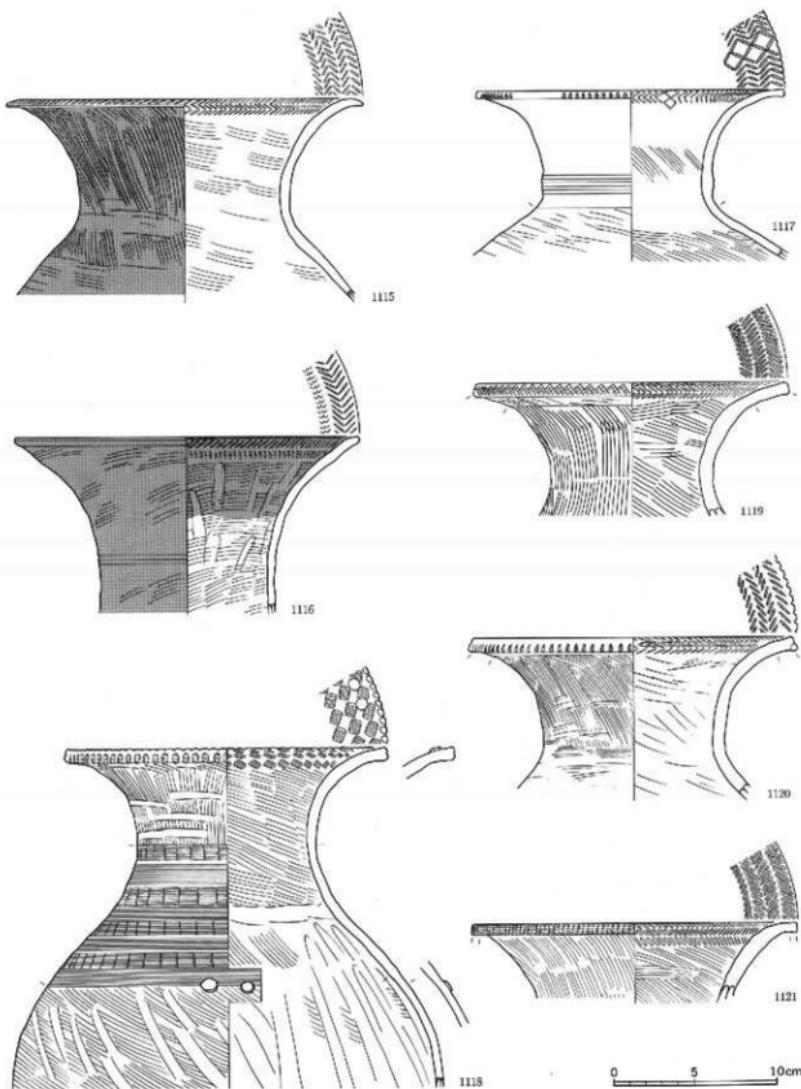


弥生時代の土器類

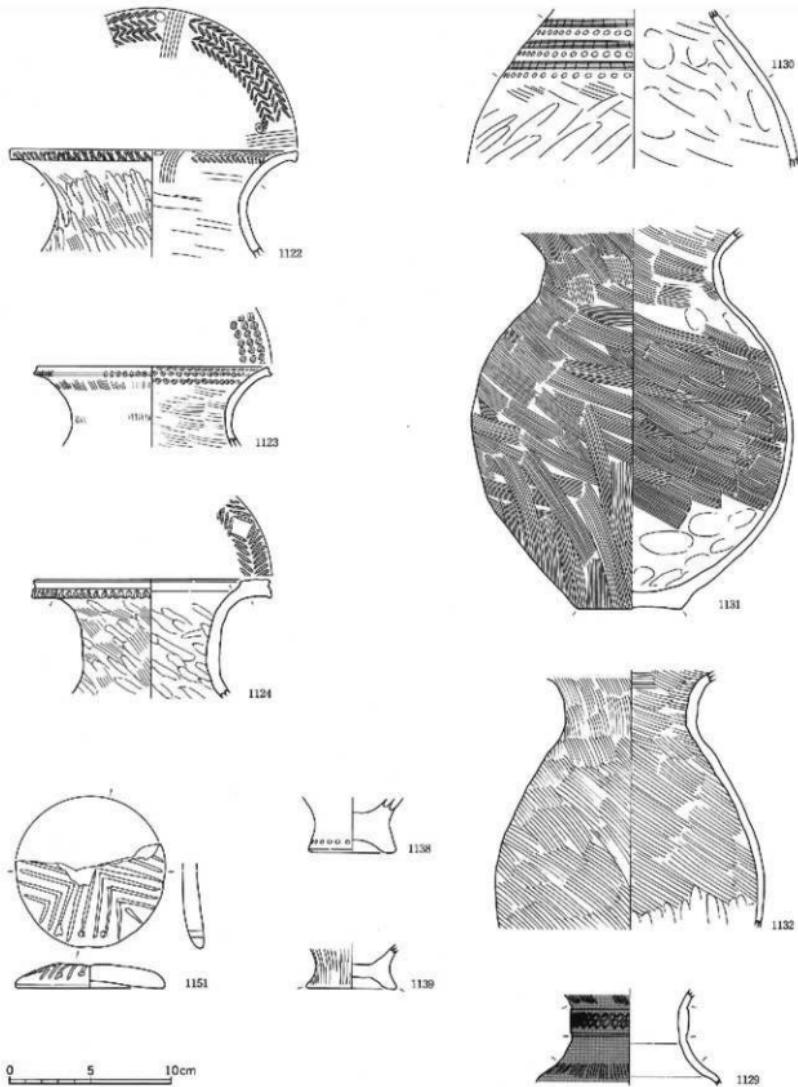
弥生土器

縮尺 1 / 3

図面〇五三 遺物実測図 石塚遺跡



図面〇五四
遺物実測図
石塚遺跡

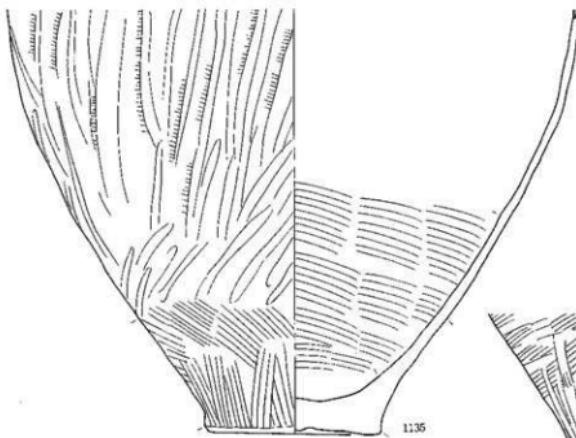
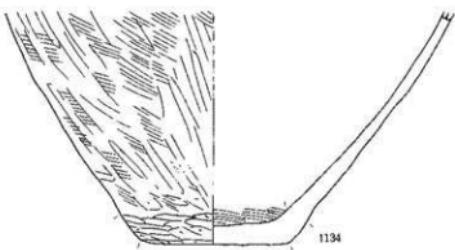
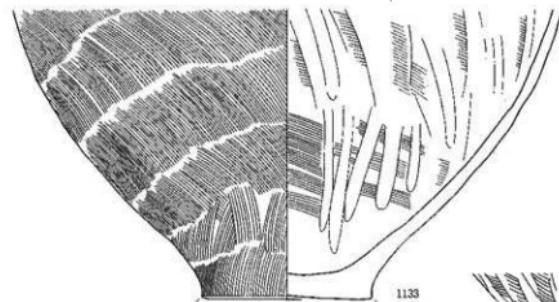


弥生時代の土器類

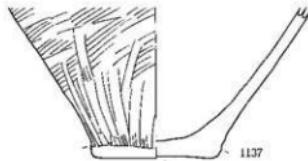
弥生土器

縮尺 1/3

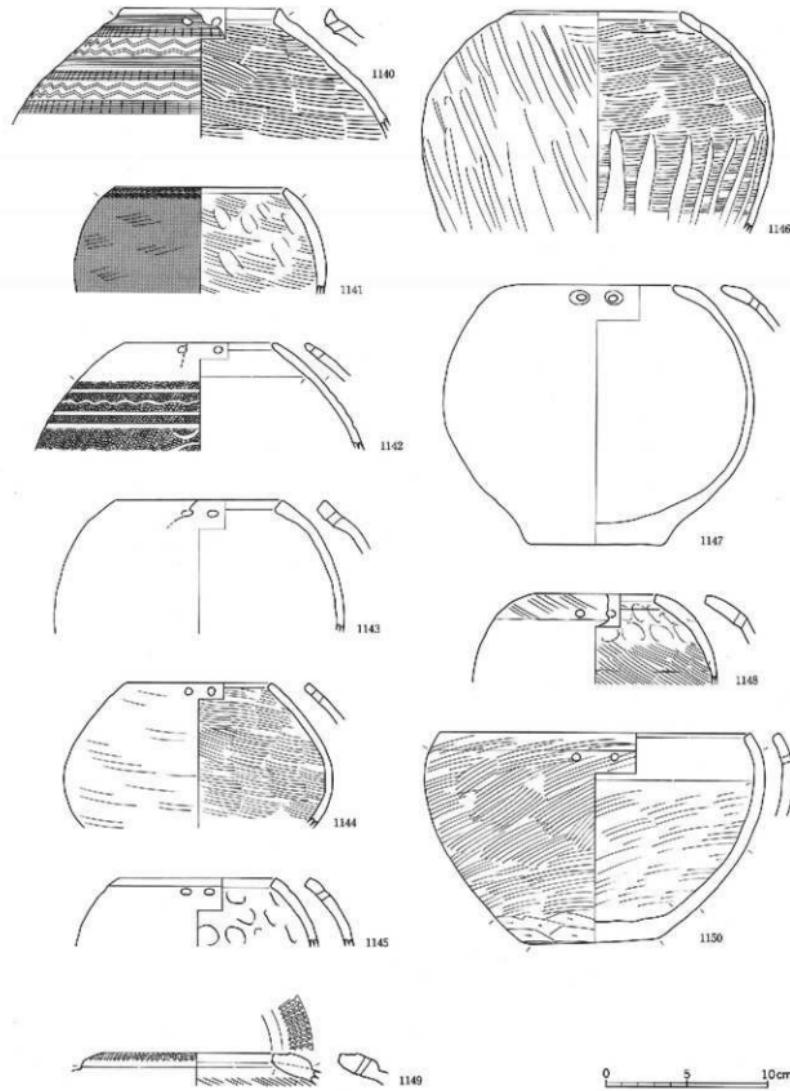
図面〇五五 遺物実測図
石塚遺跡



0 5 10 cm

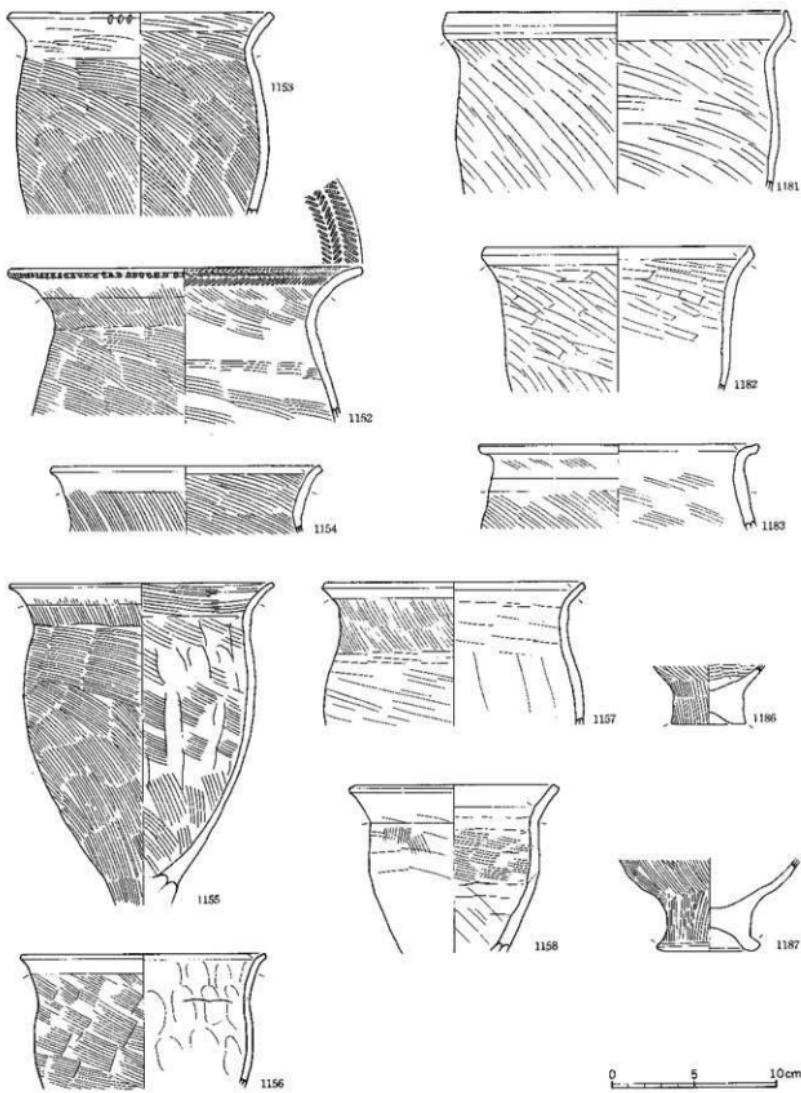


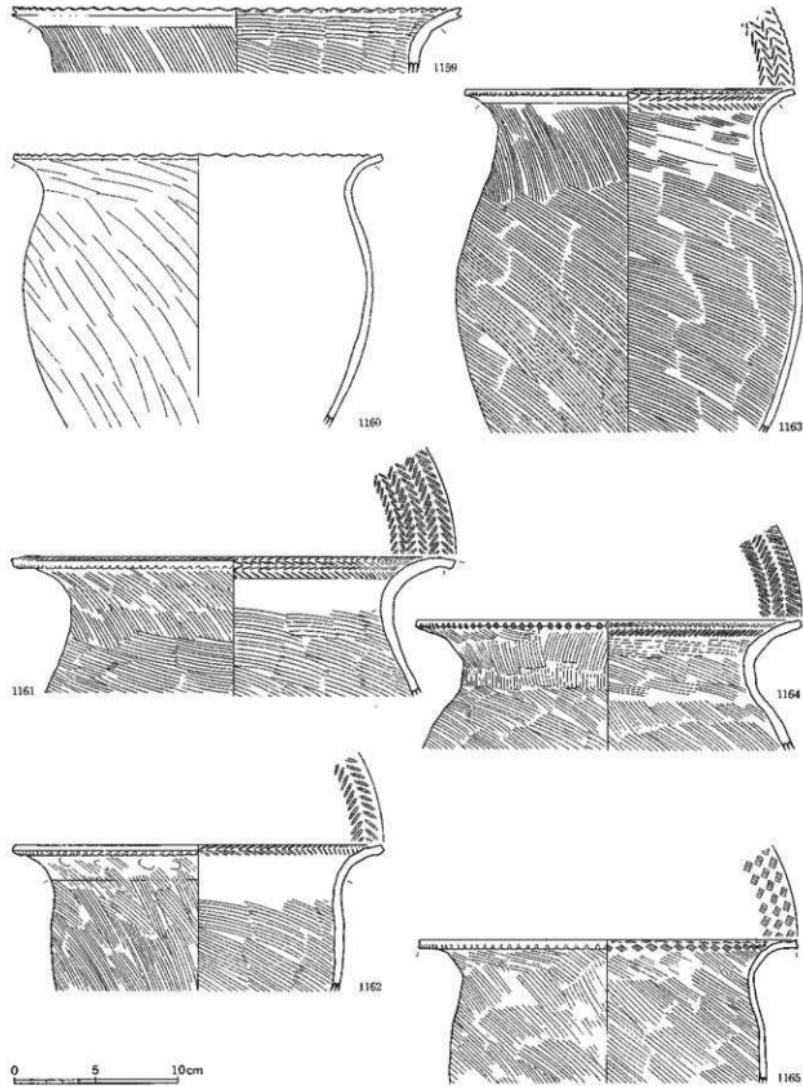
図面〇五六
遺物実測図
石塚遺跡



弥生時代の土器類
弥生土器

縮尺 1/3



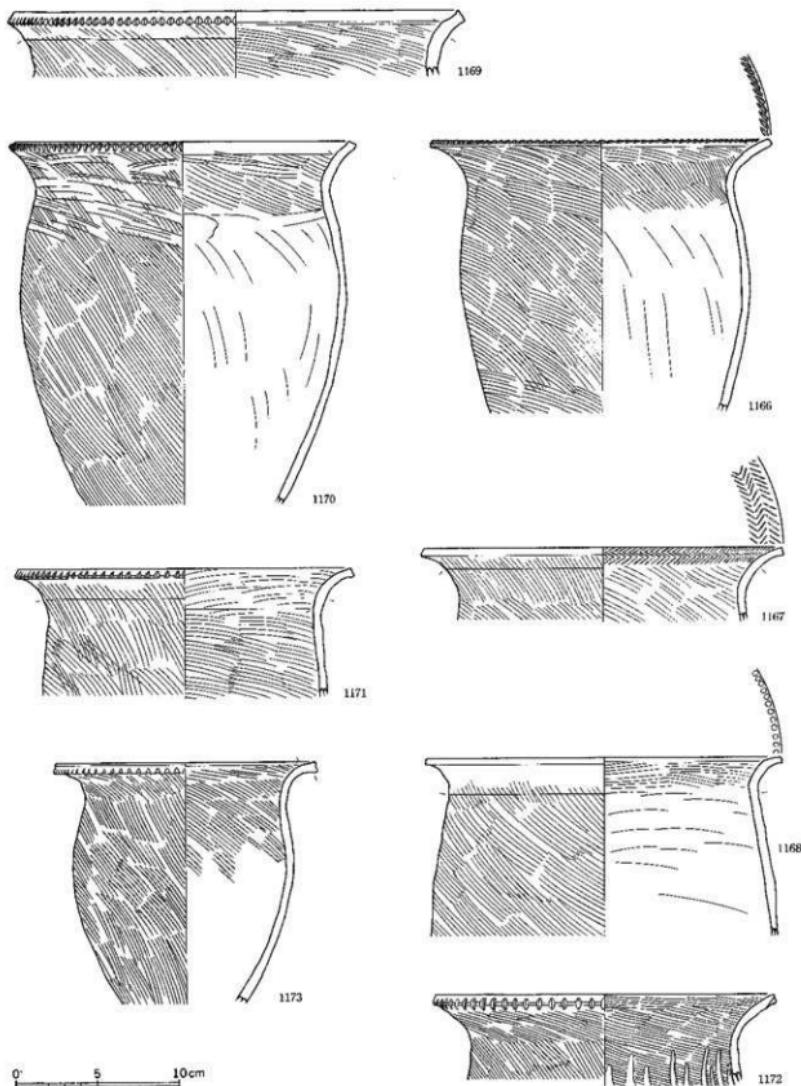


弥生時代の土器類

弥生土器

縮尺 1/3

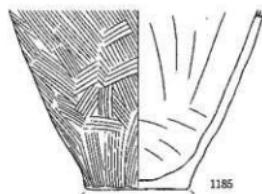
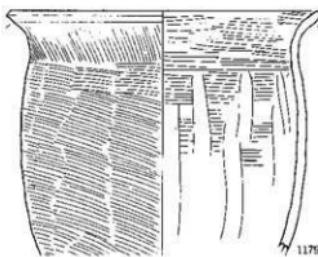
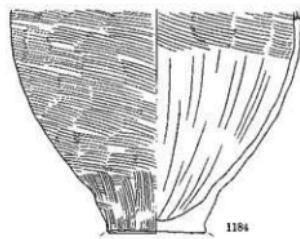
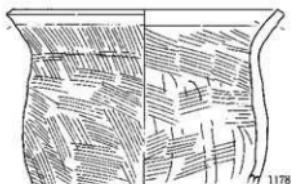
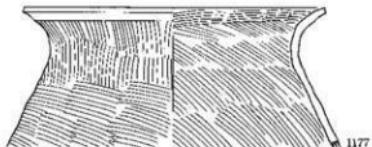
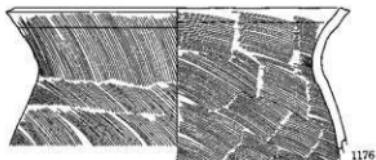
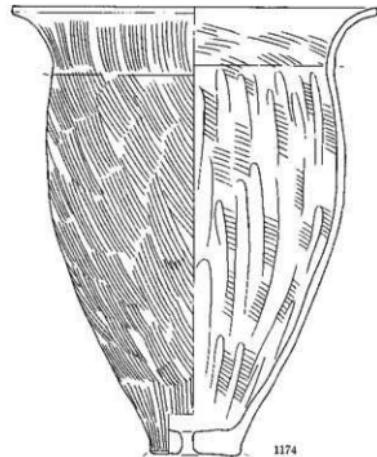
図面〇五九 遺物実測図 石塚遺跡



弥生時代の土器類

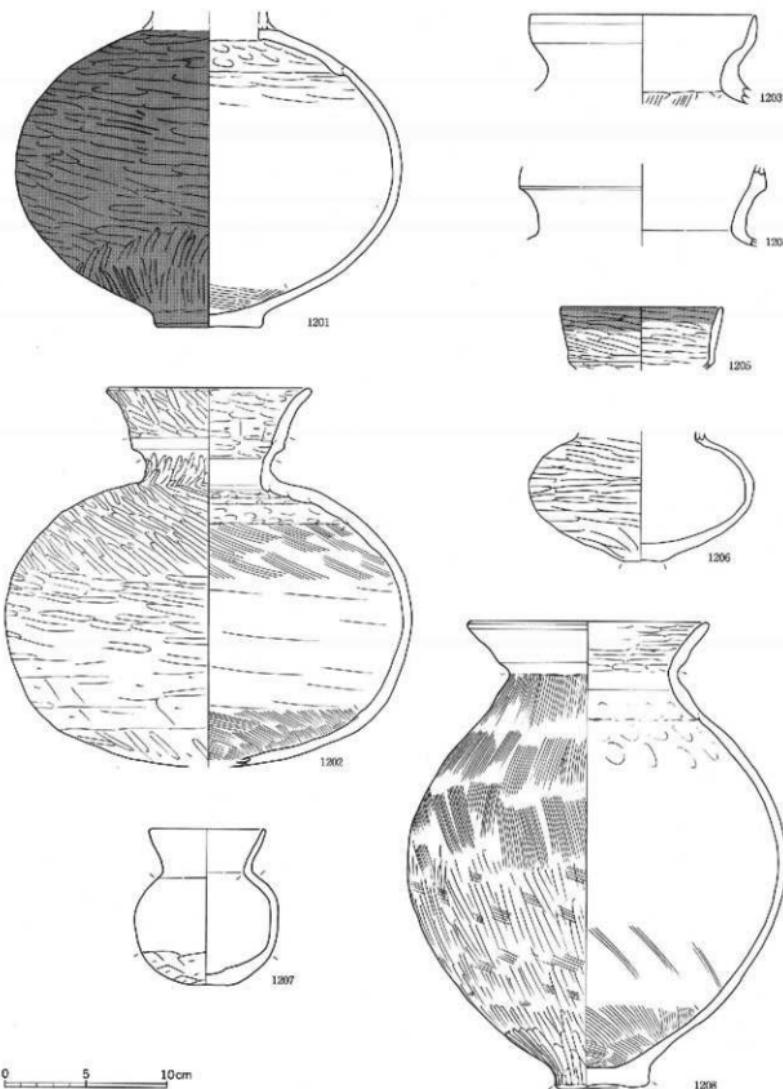
弥生土器

縮尺 1/3



0 5 10cm

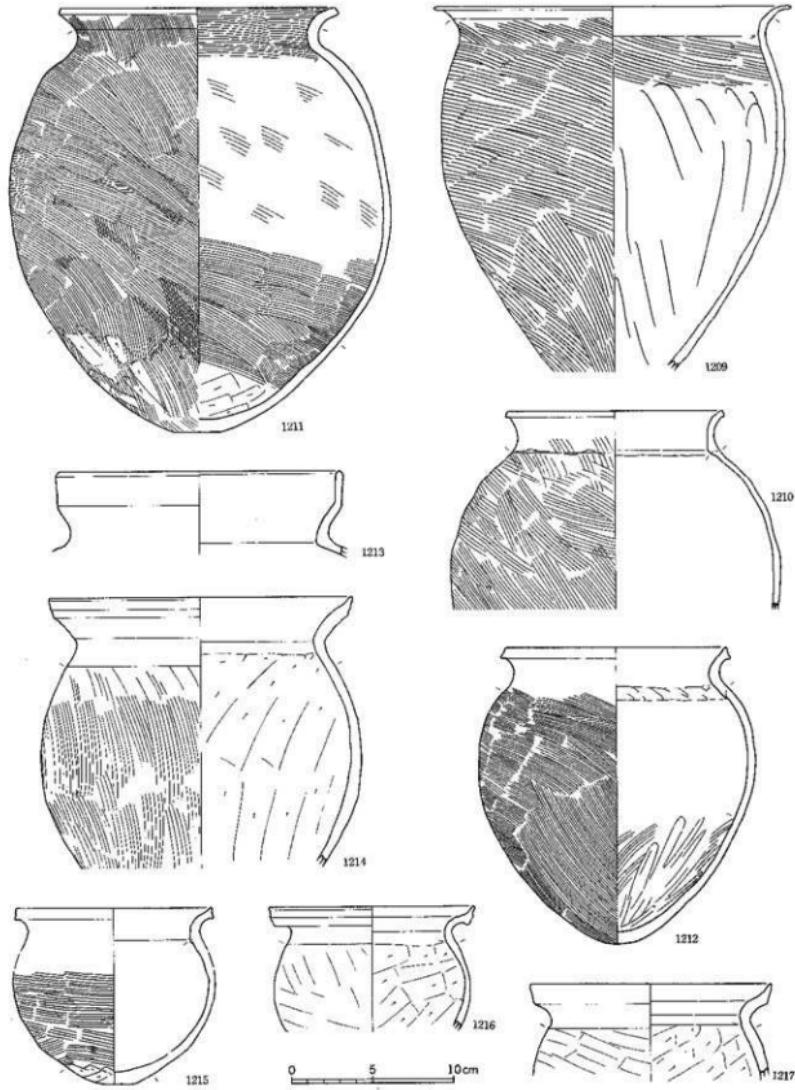
図面〇六一 遺物実測図
石塚遺跡

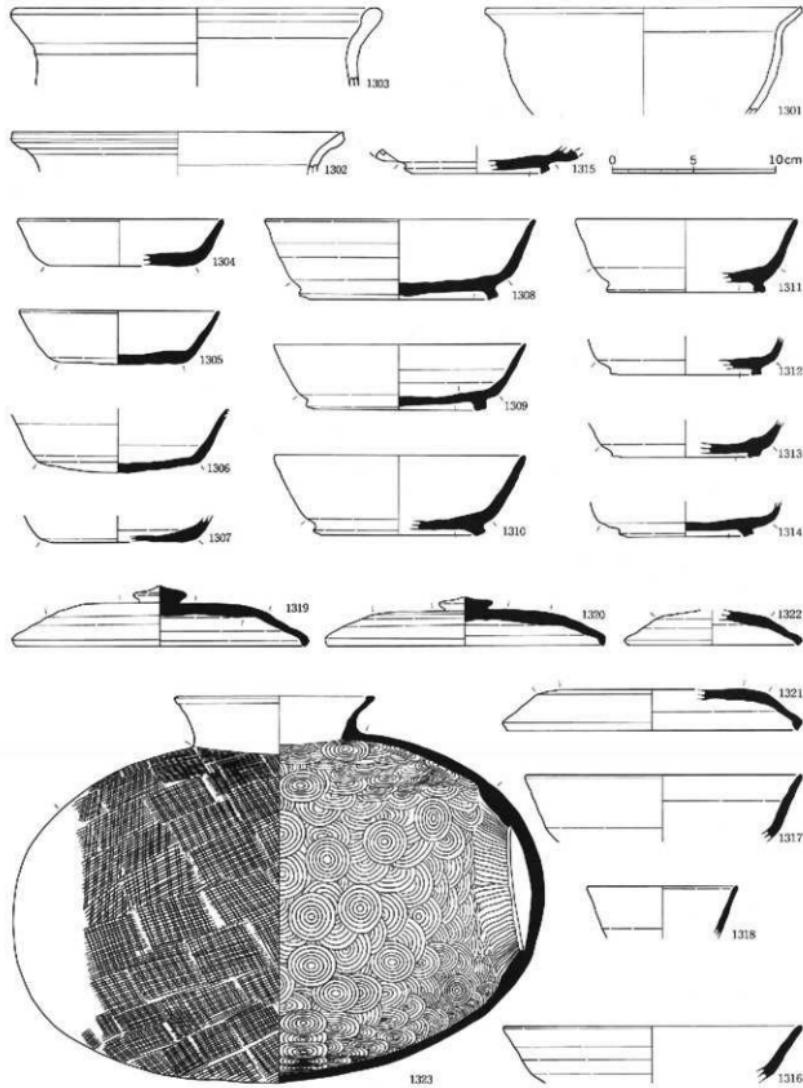


古墳時代前期の土器類

土器

縮尺 1 / 3

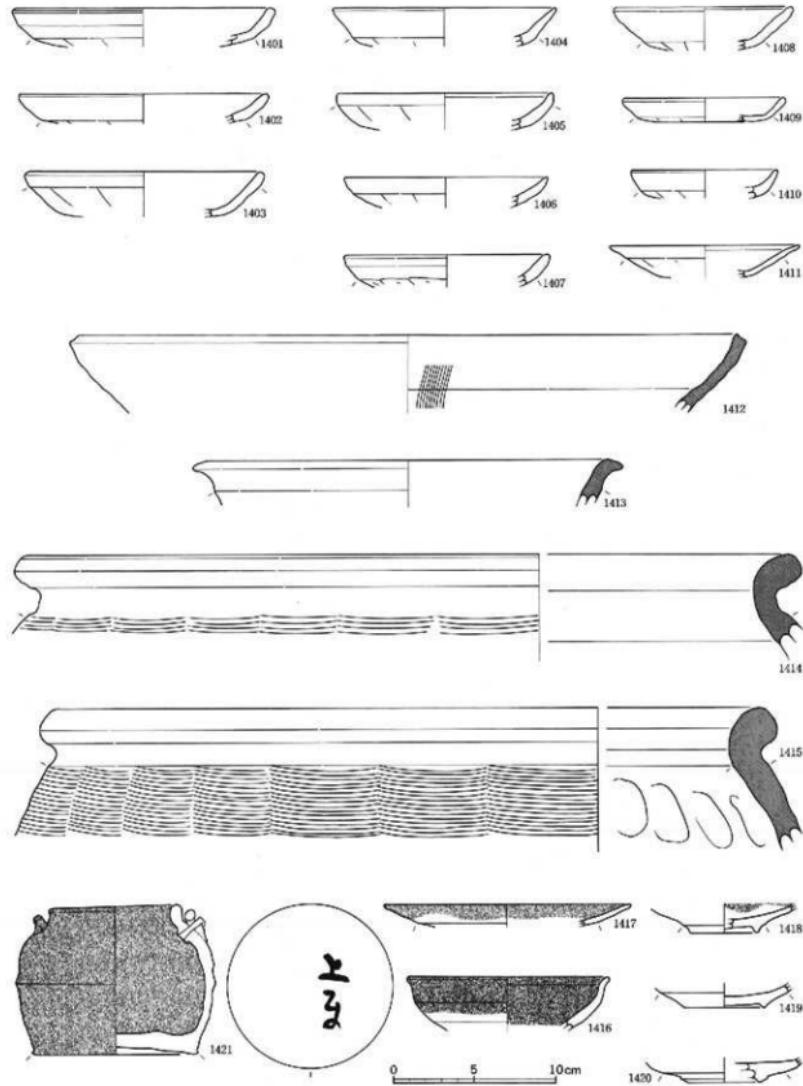




奈良平安時代の土器類

土師器：1301～1303、須恵器：1304～1323

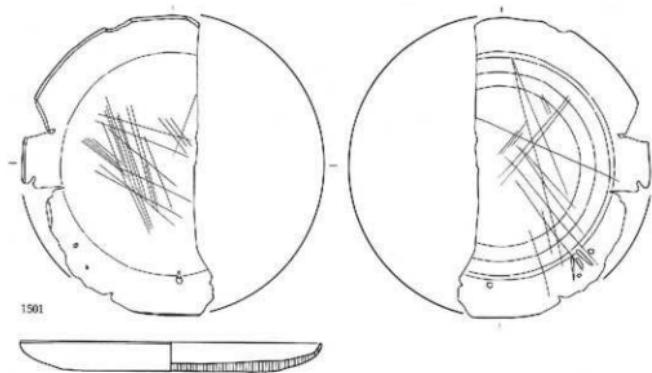
縮尺 1/3



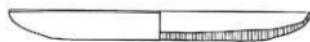
中近世の土器類

土師器：1401～1411、珠洲；1412～1415、越中瀬戸；1416～1421

縮尺1/3



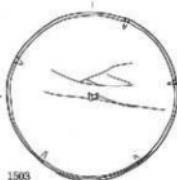
1501



1502



1504



1503



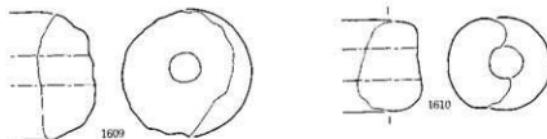
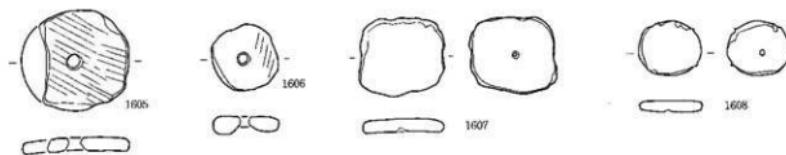
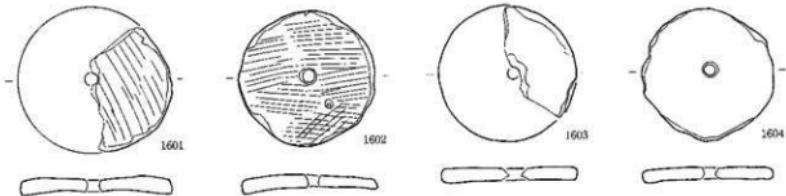
木製品

接物：1501、曲物；1502・1503、箸；1504

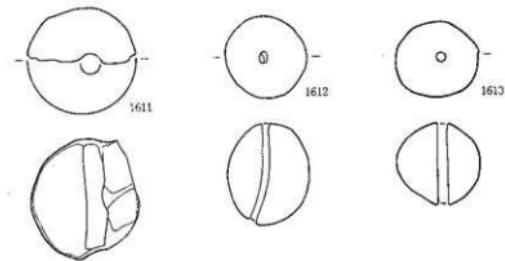
縮尺1/3

図面〇六六
遺物実測図

石塚遺跡



0 5 10 cm



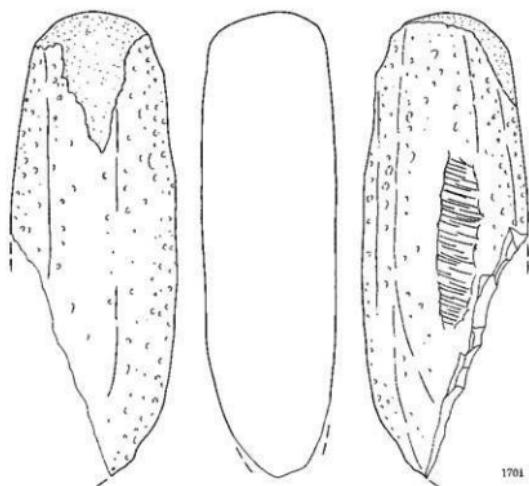
0 5 cm

土製品

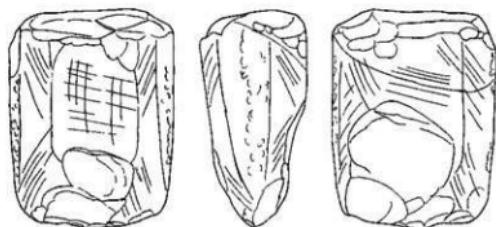
土製筋輪車：1601～1608、土鍤：1609・1610、土瓦：1611～1613

縮尺1/2、実大

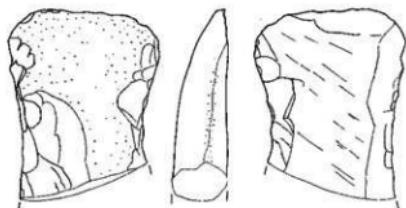
図面〇六七 遺物実測図 石塚遺跡



1701



1702



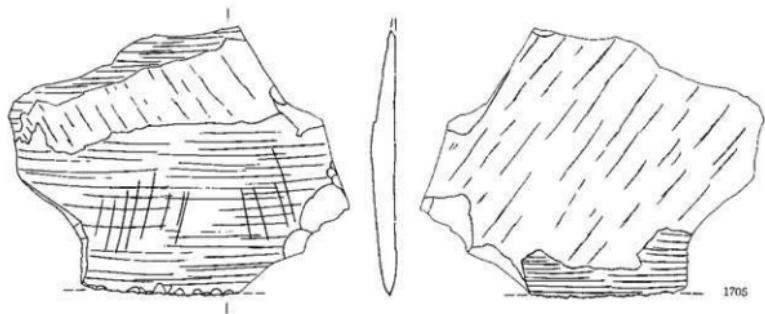
1704

0 5 10cm

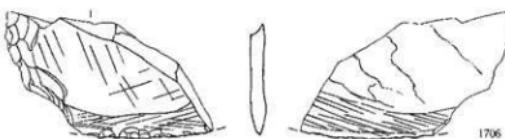
石製品

磨製石斧：1701・1702、打製石斧：1704

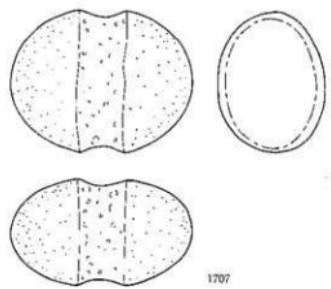
縮尺 1/2



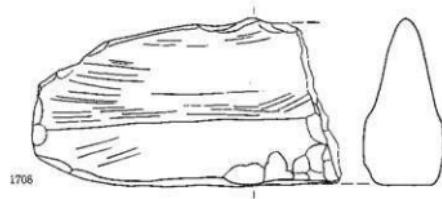
1705



1706



1707



1708

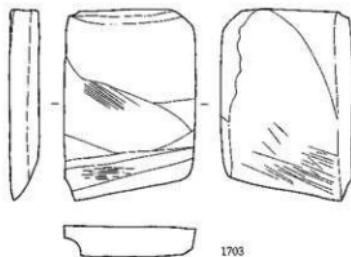
0 5 10 cm

石製品

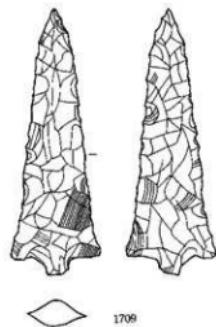
石包丁：1705・1706、石鍬：1707、石鎧：1708

縮尺 1/2

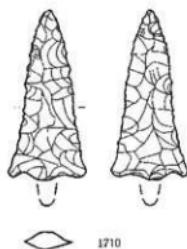
図面〇六九 遺物実測図 石塚遺跡



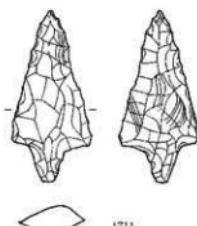
1703



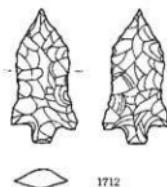
1709



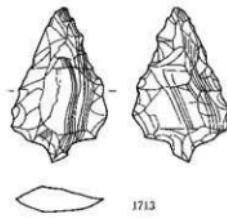
1710



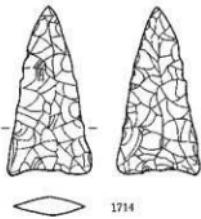
1711



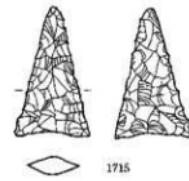
1712



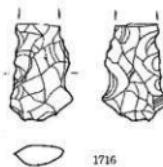
1713



1714



1715



1716

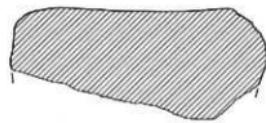
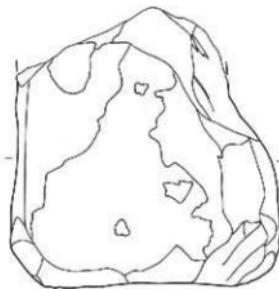
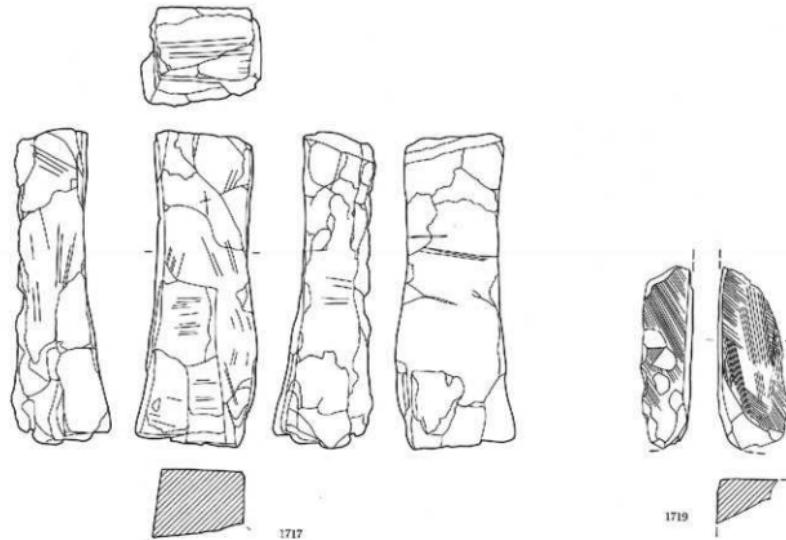
0 5 cm

石製品

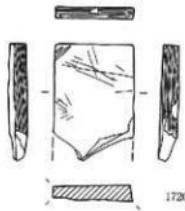
磨製石斧；1703，石錐；1709～1716

実大

図面〇七〇 遺物実測図 石塚遺跡

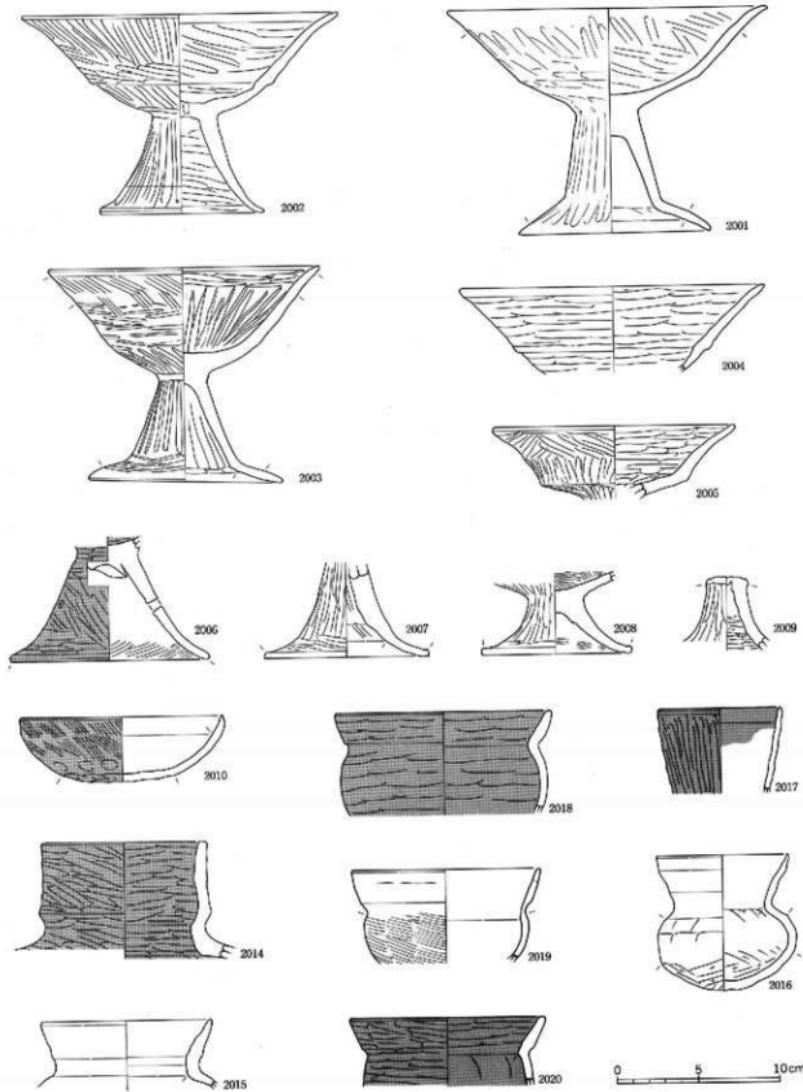


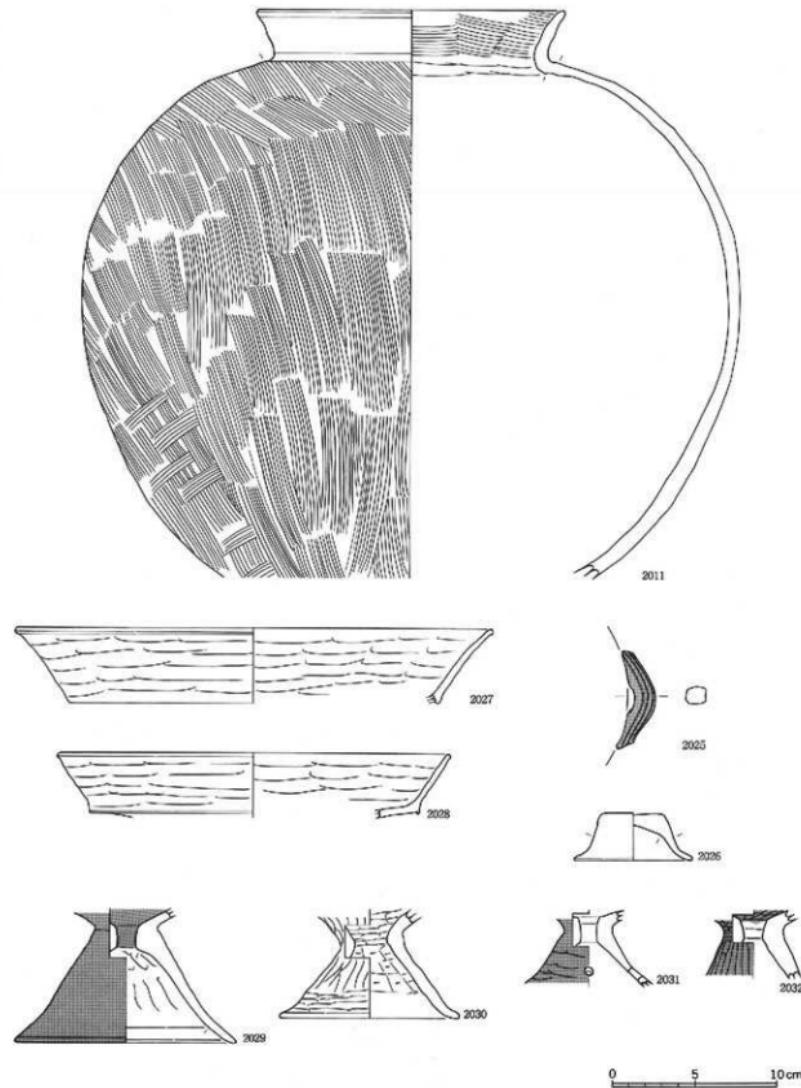
1718



1720

0 5 10 cm





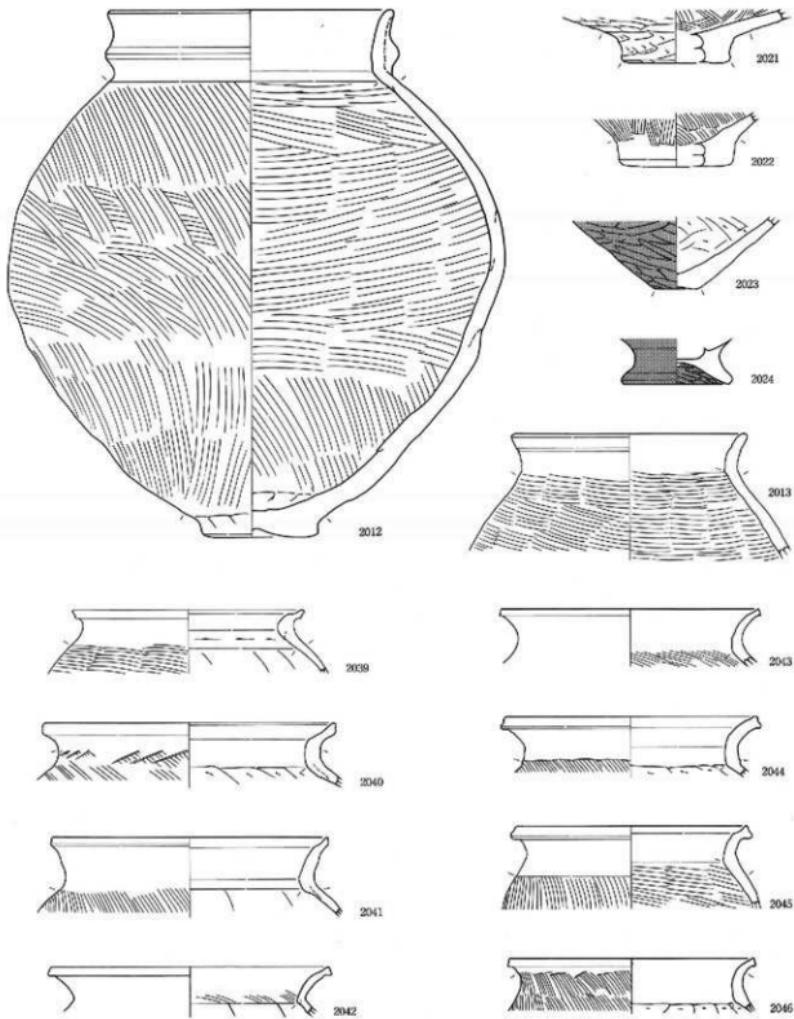
古墳時代の土器類
土師器

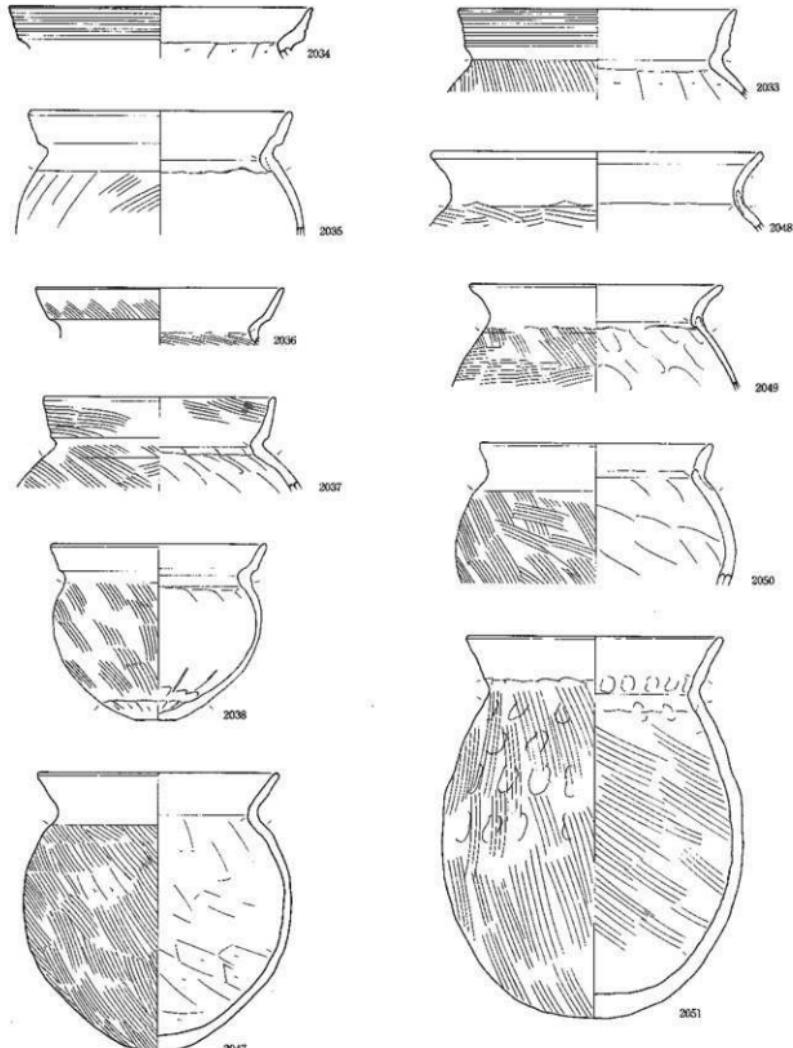
縮尺1／3

図面〇七三

遺物実測図

東木津遺跡



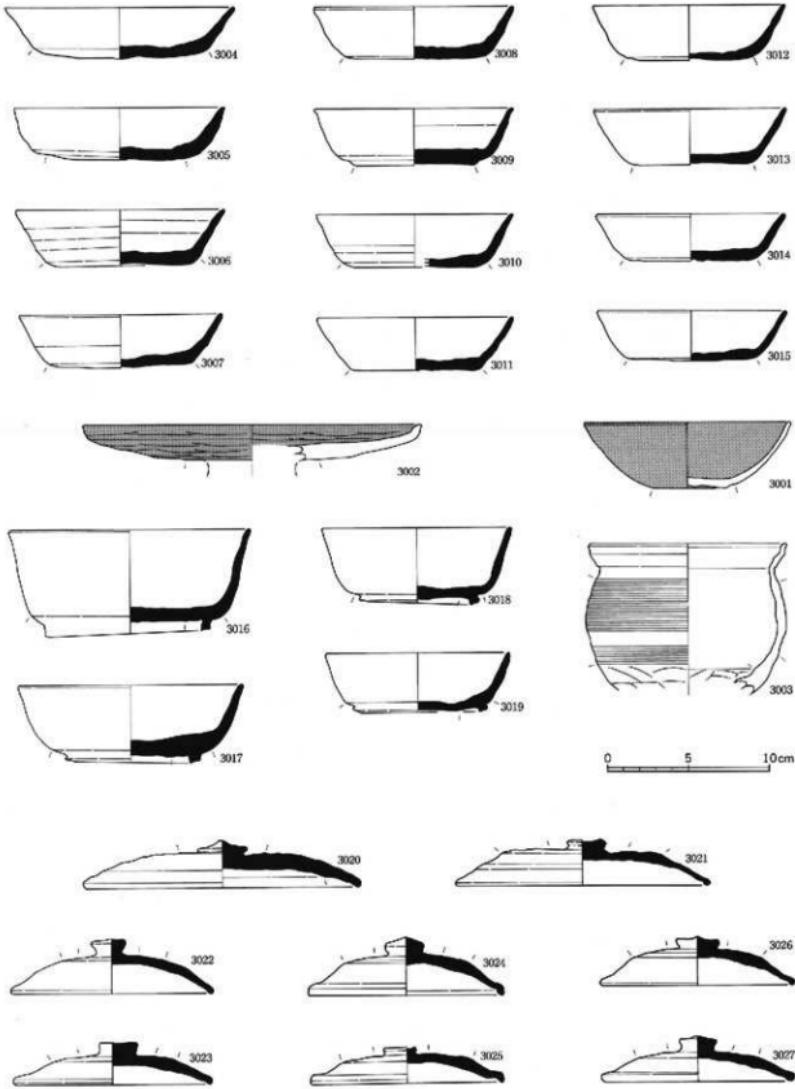


古墳時代の土器類
土師器

縮尺 1 / 3

図面〇七五 遺物実測図

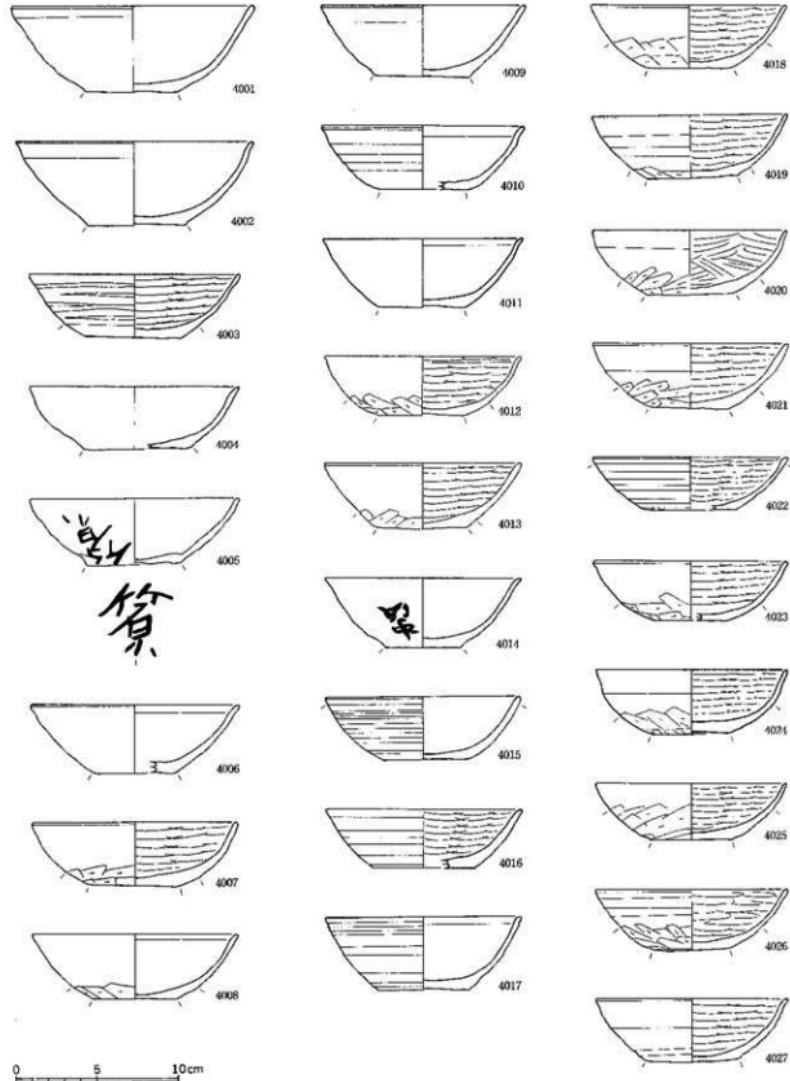
東木津遺跡



奈良平安時代の土器類 西側調査地区・溝S D60以外の出土土器

土師器：3001～3003、須恵器：3004～3027

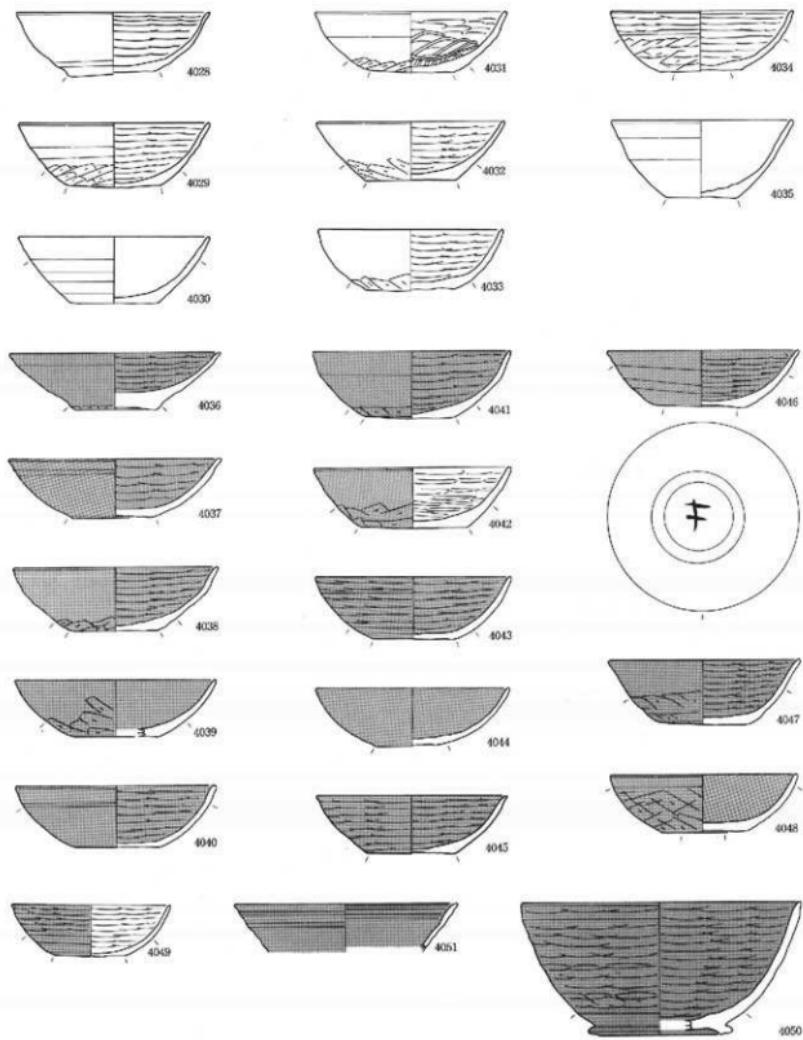
縮尺1/3



奈良平安時代の上器類 西側調査地区・溝S D60出土土器

土師器

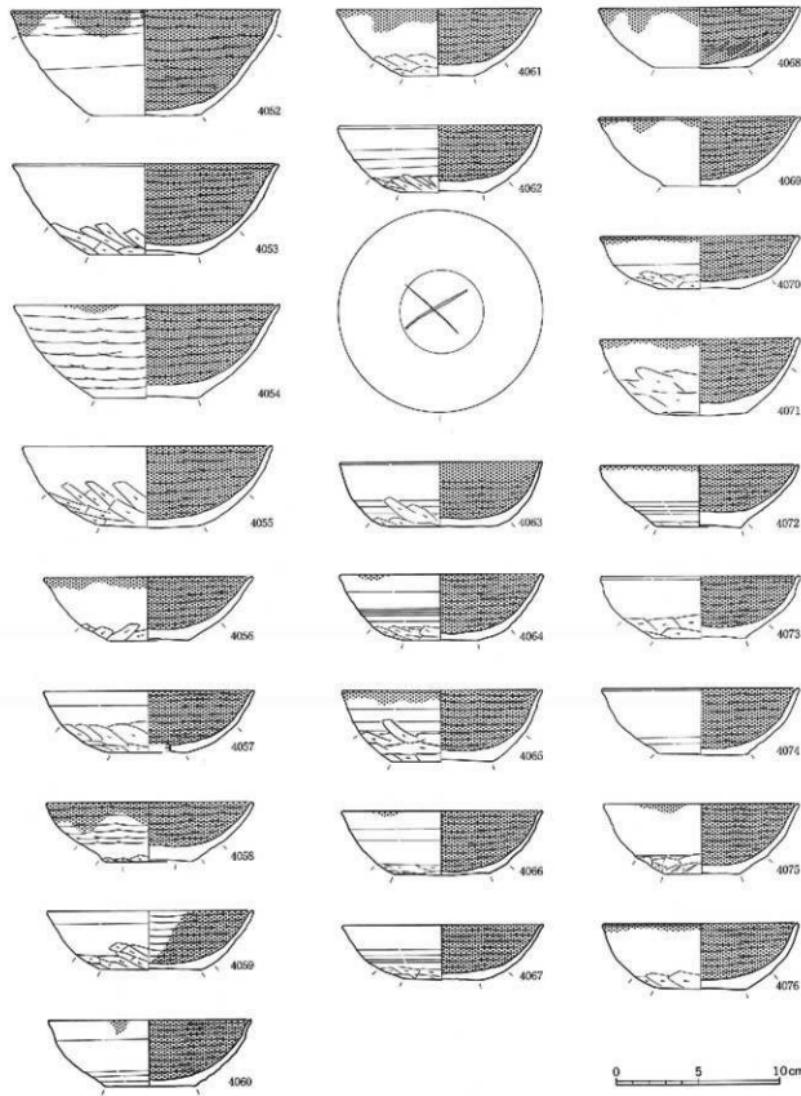
縮尺1/3



奈良平安時代の土器類 西側調査地区・溝S D60出土土器
土師器

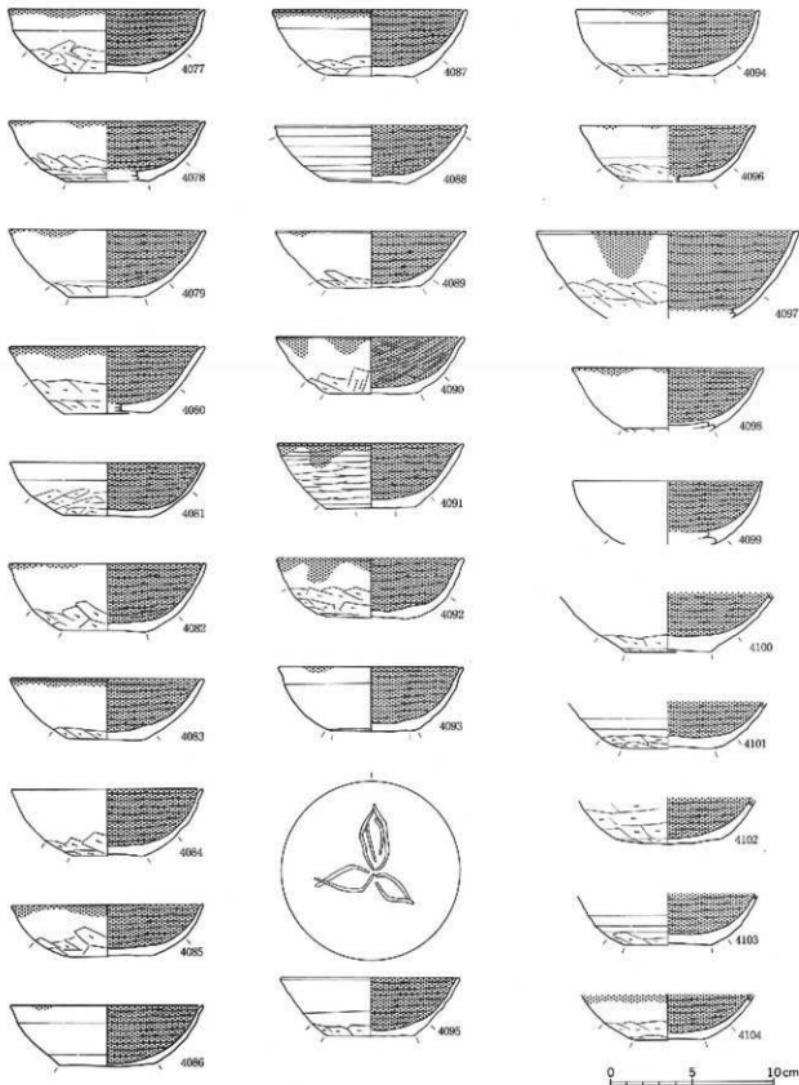
縮尺 1/3

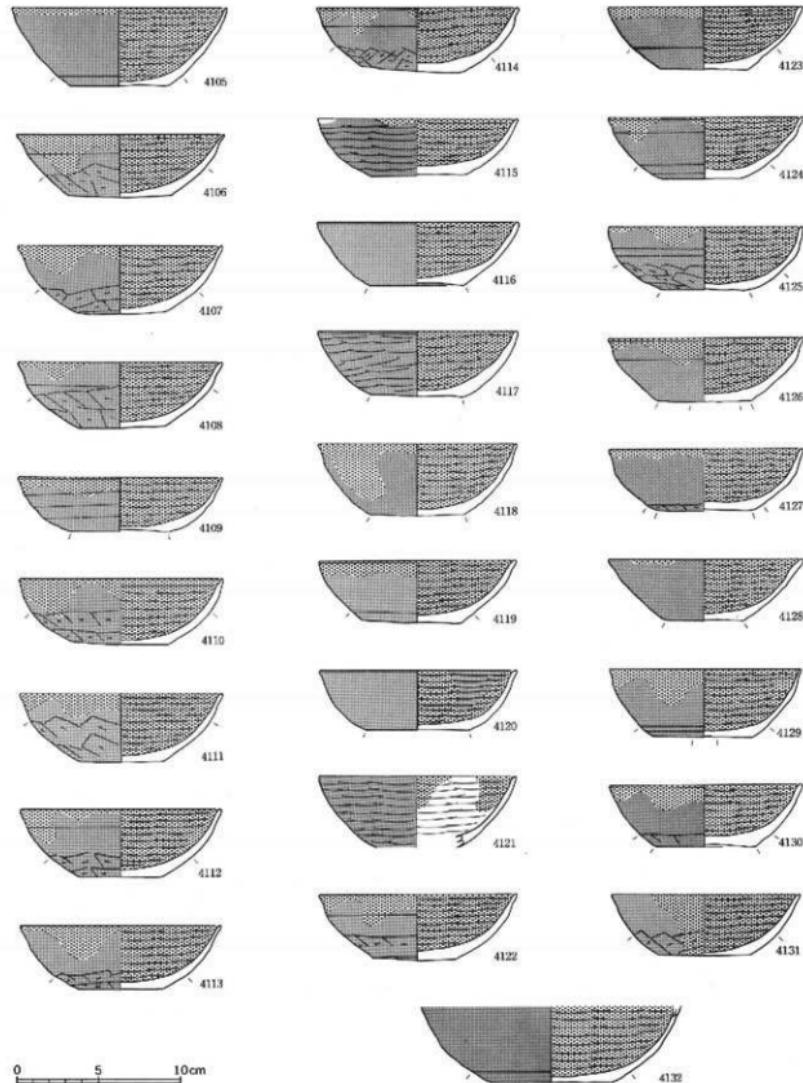
図面〇七八 遺物実測図 東木津遺跡



奈良平安時代の土器類 西館調査地区・溝 S D 60出土土器
土師器

縮尺 1/3

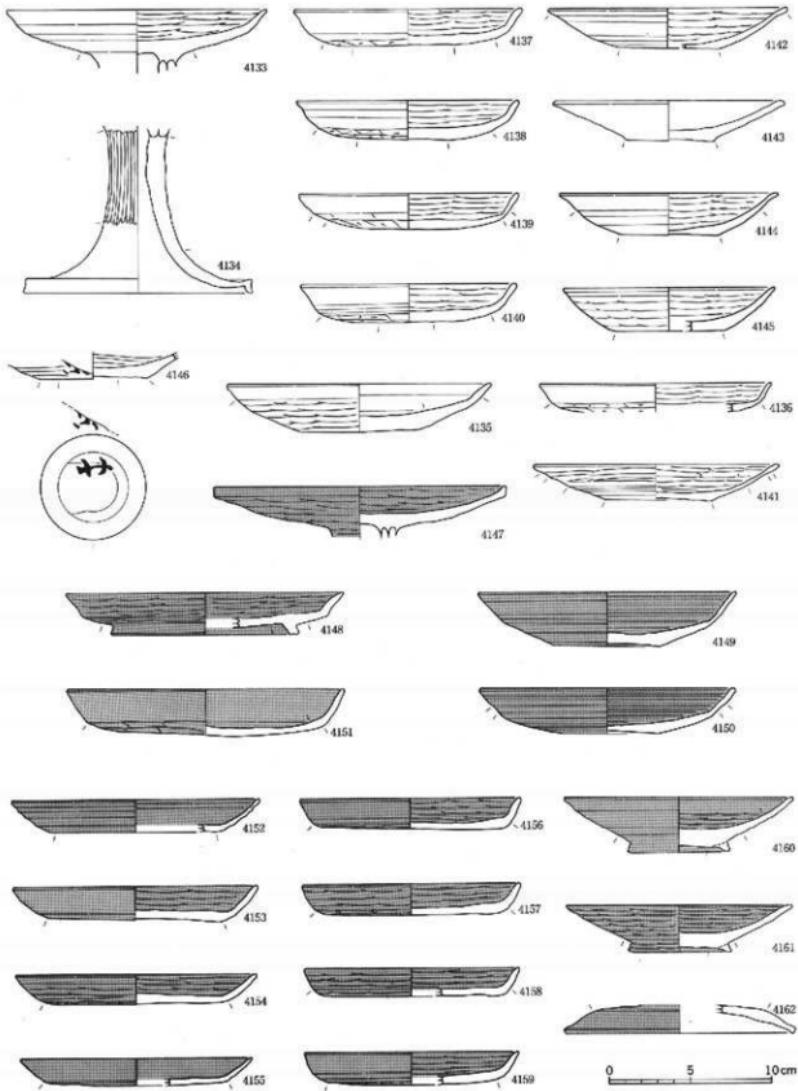




奈良平安時代の土器類 西側調査地区・溝S D60出土土器
土師器

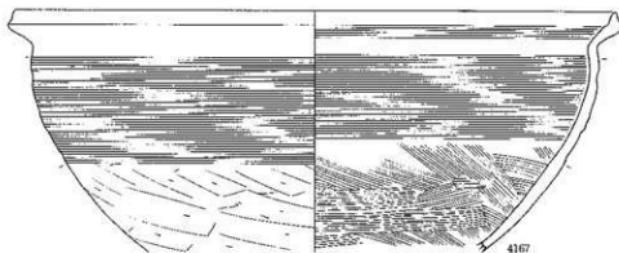
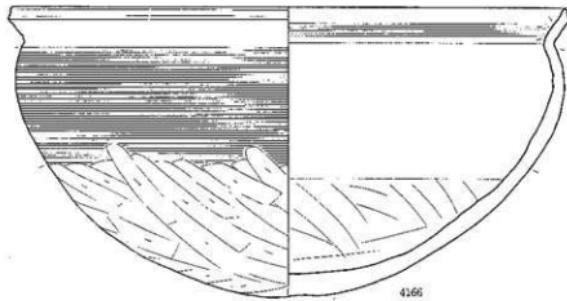
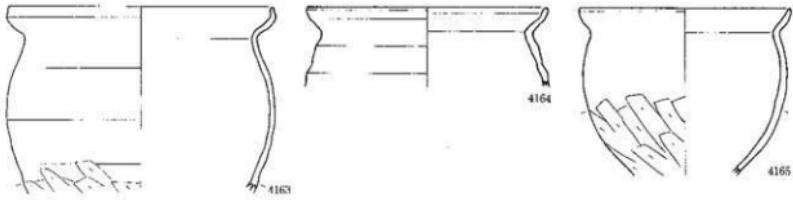
縮尺1/3

図面〇八一 遺物実測図 東木津遺跡



奈良平安時代の土器類 西側調査地区・溝S D60出土土器
土師器

縮尺1/3

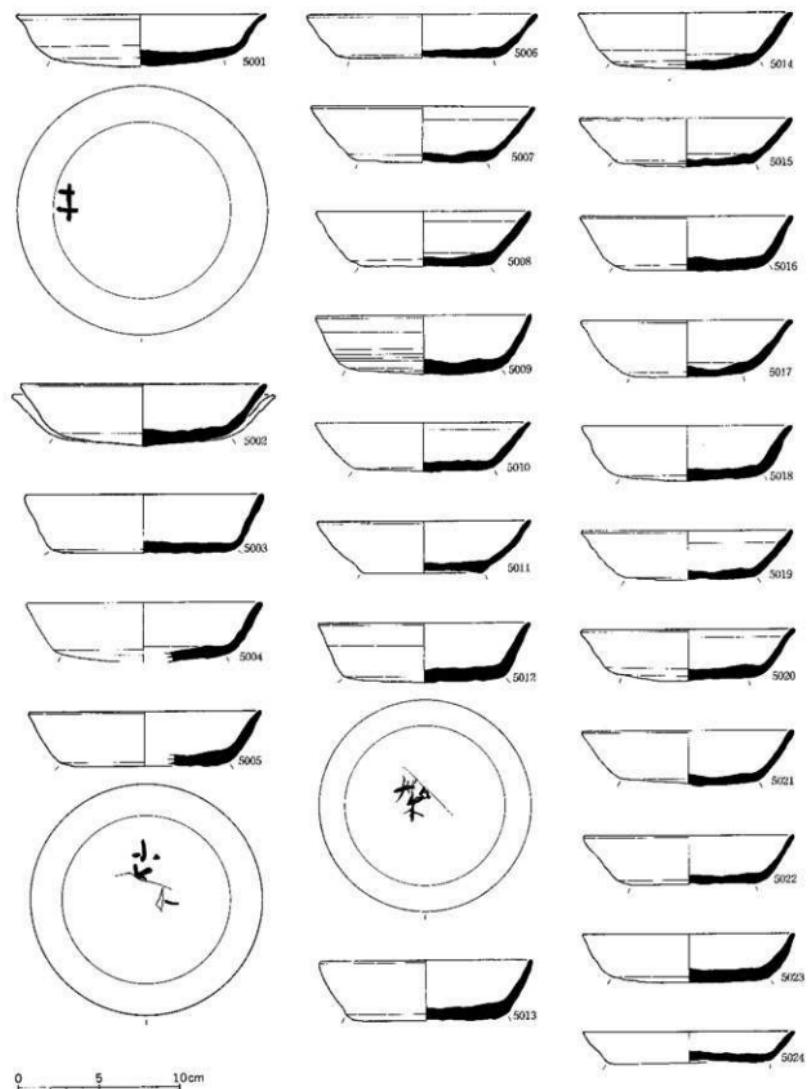


0 5 10cm

図面〇八三

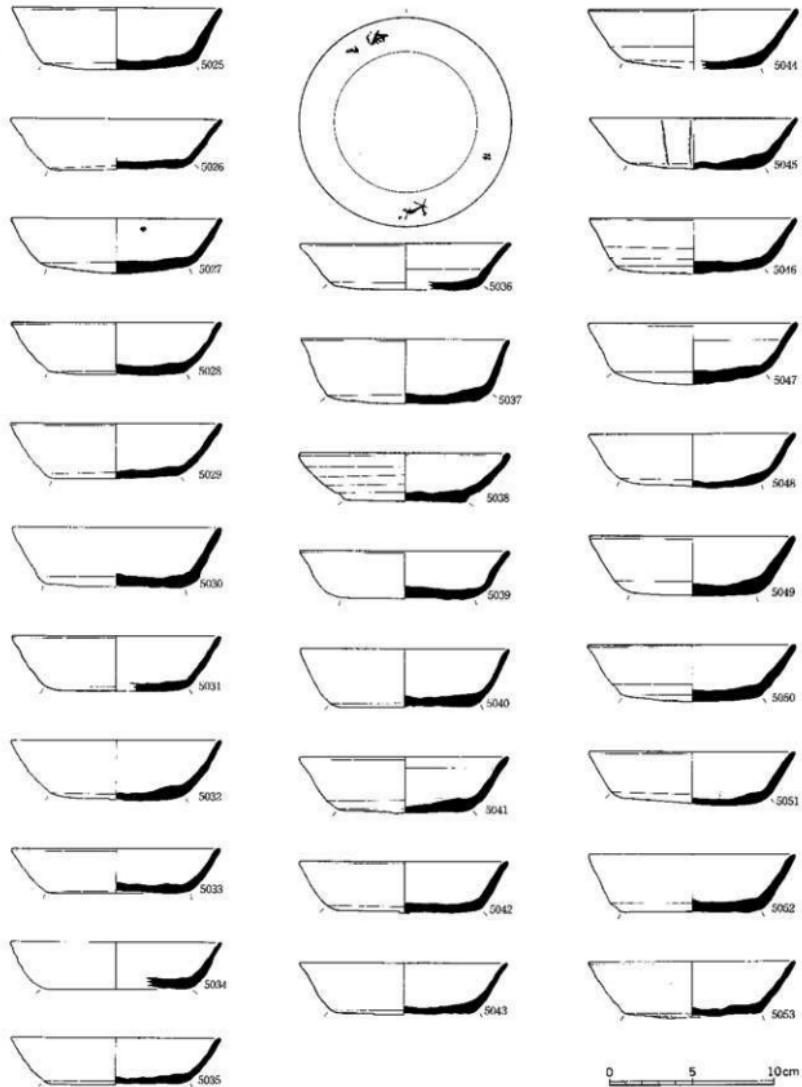
遺物実測図

東木津跡



奈良平安時代の土器類 西側調査地区・溝S D60出土上器
須恵器

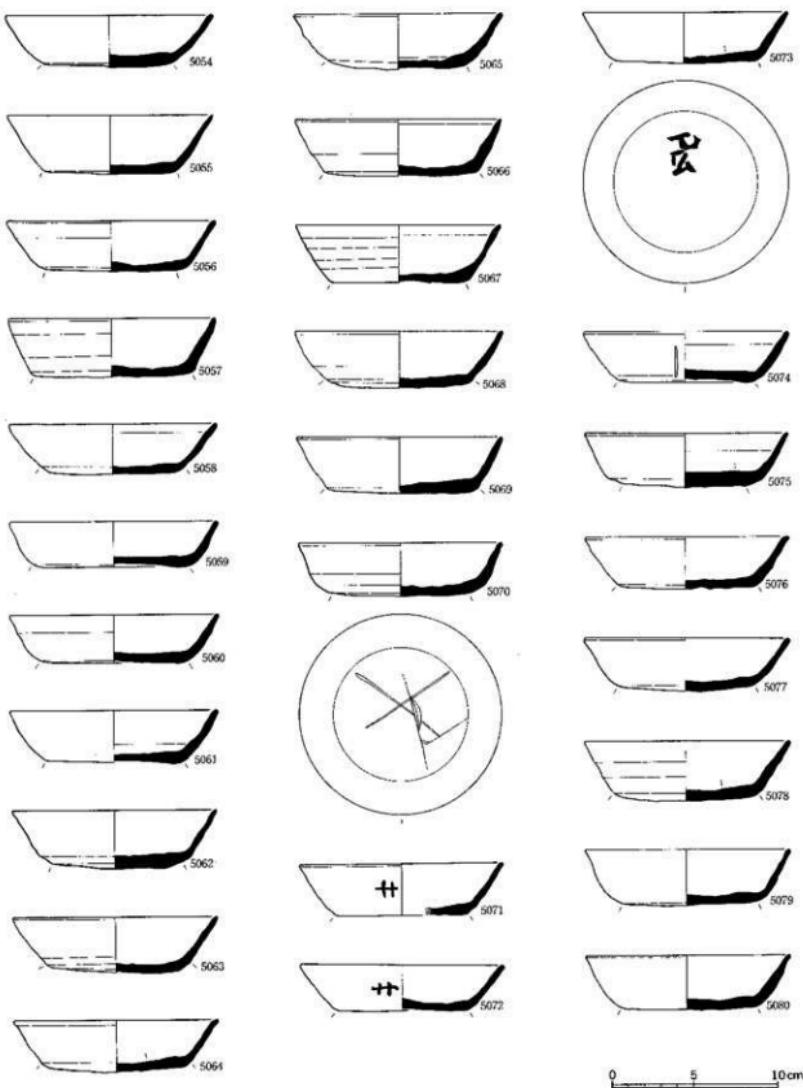
縮尺1/3



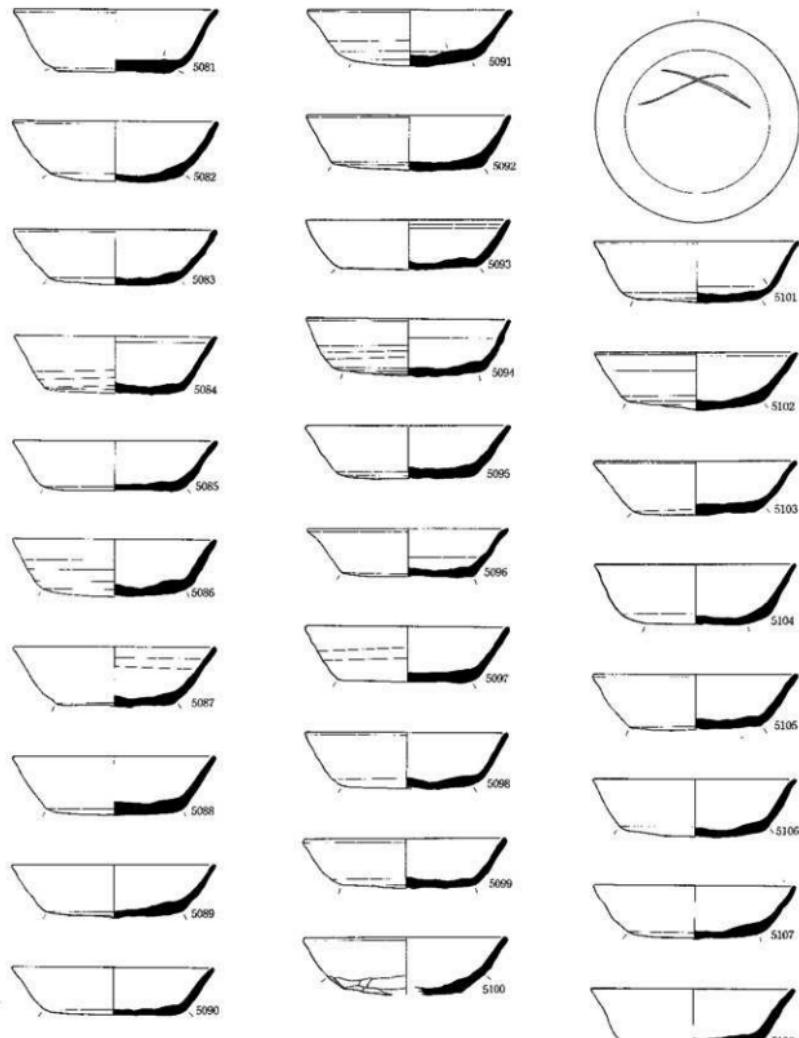
奈良平安時代の上器類 西側調査地区・溝S D60出土土器

須恵器

縮尺1/3

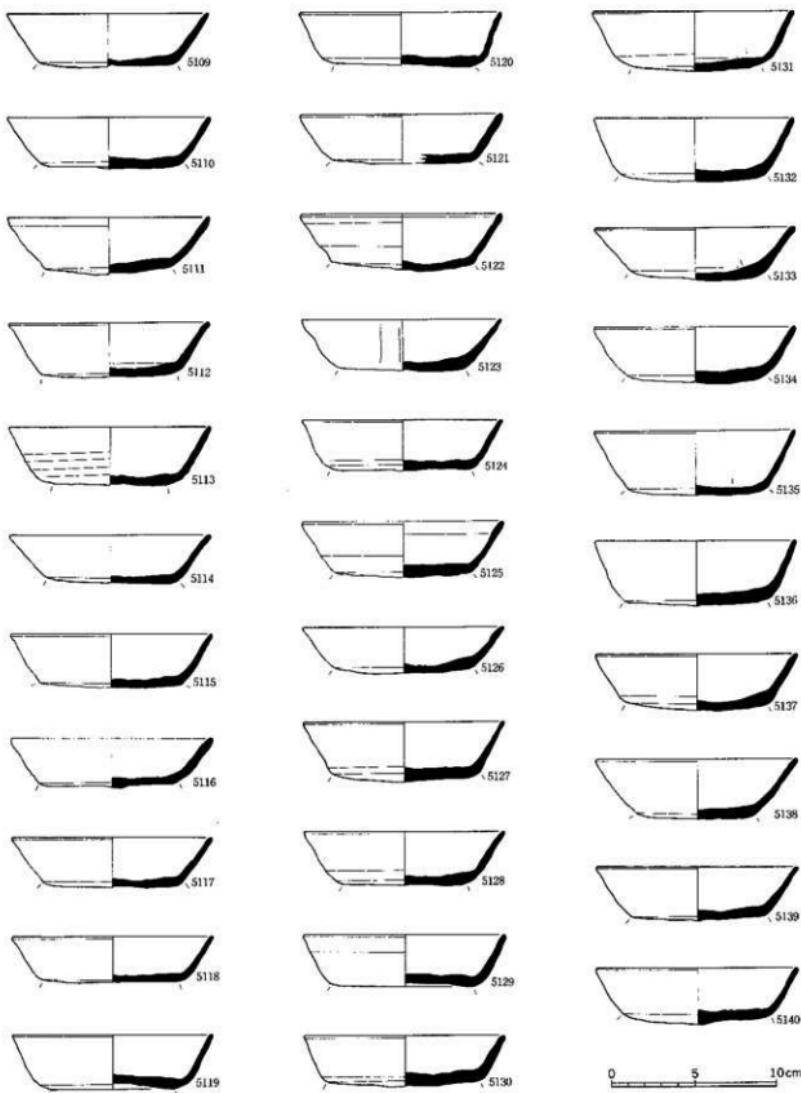


図面〇八六 遺物実測図 東木津遺跡

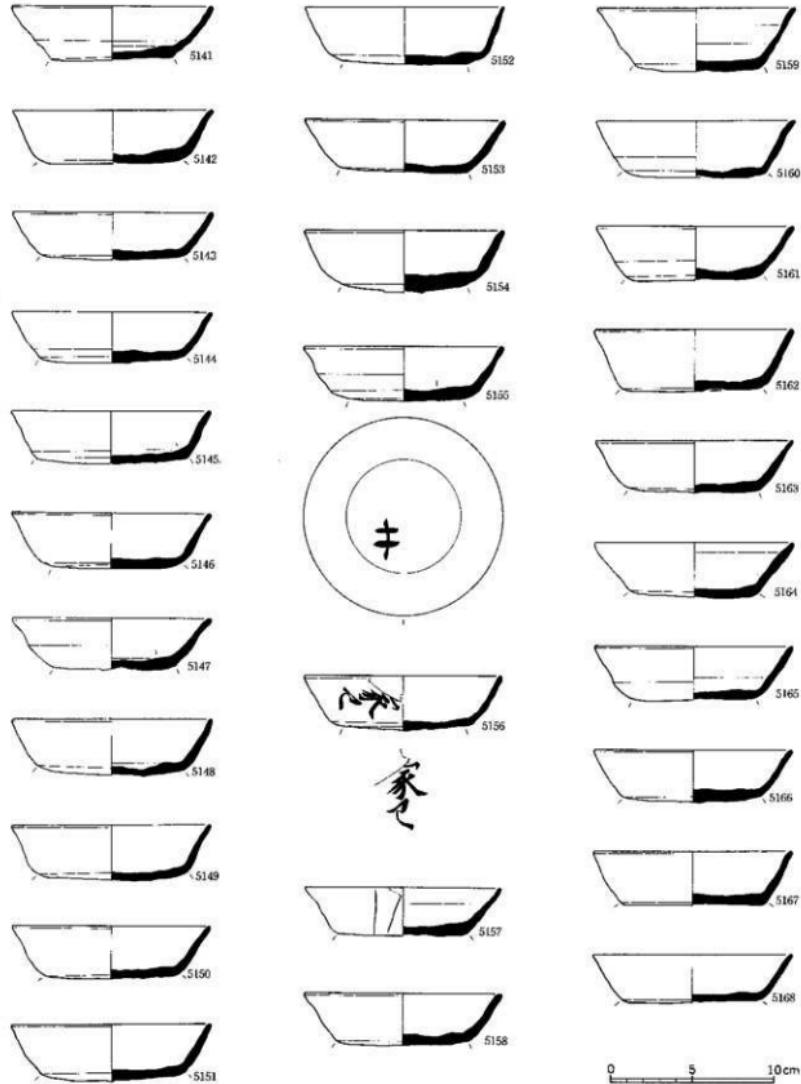


奈良平安時代の土器類 西側発査地区・溝S D60出土土器
須恵器

縮尺1/3



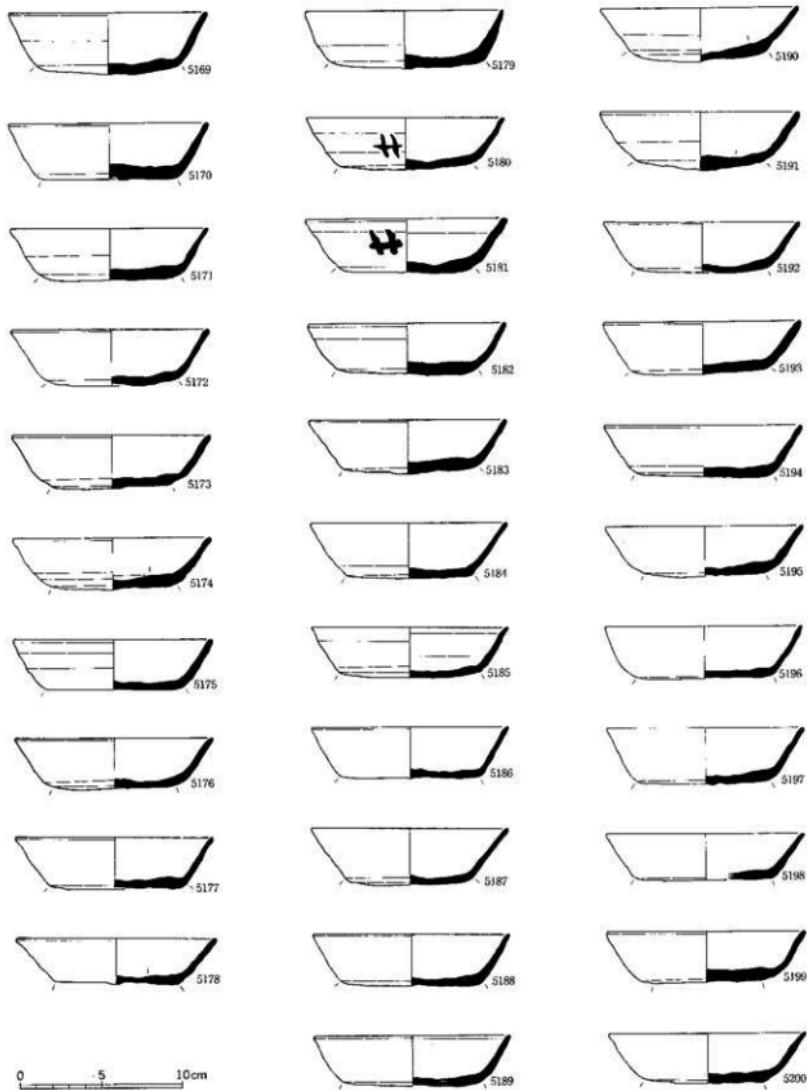
0 5 10cm



奈良平安時代の上器類 西側調査地区・溝S D60出土土器

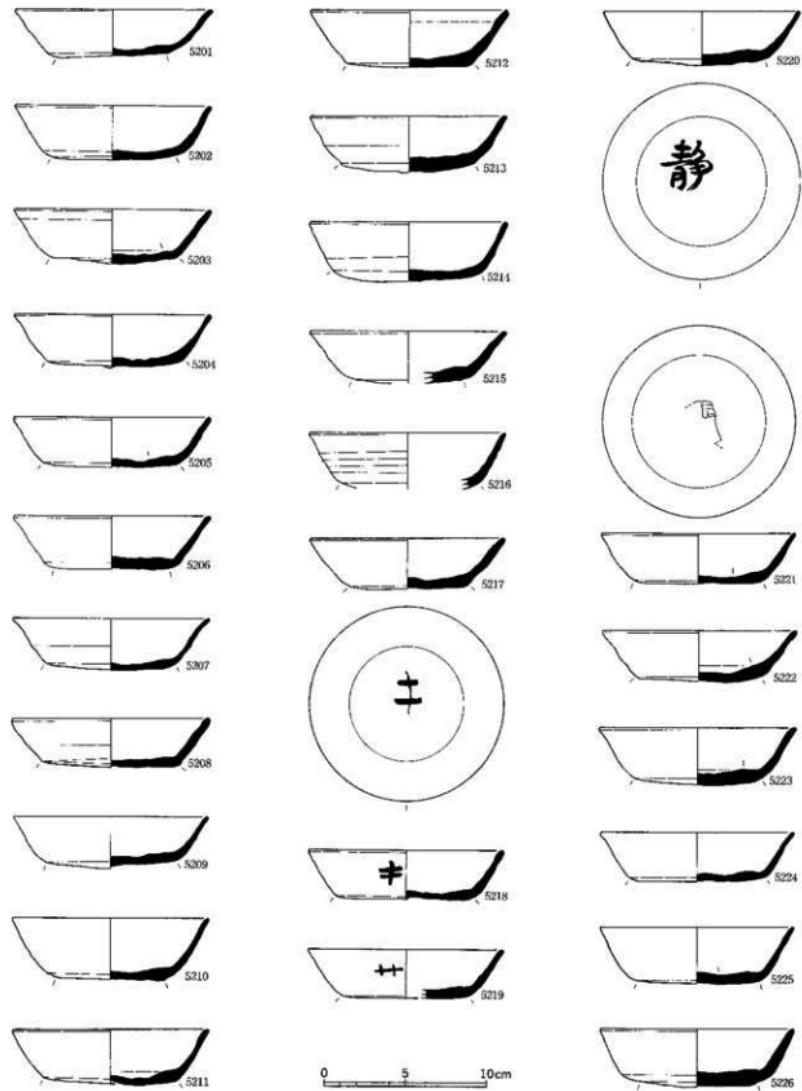
須恵器

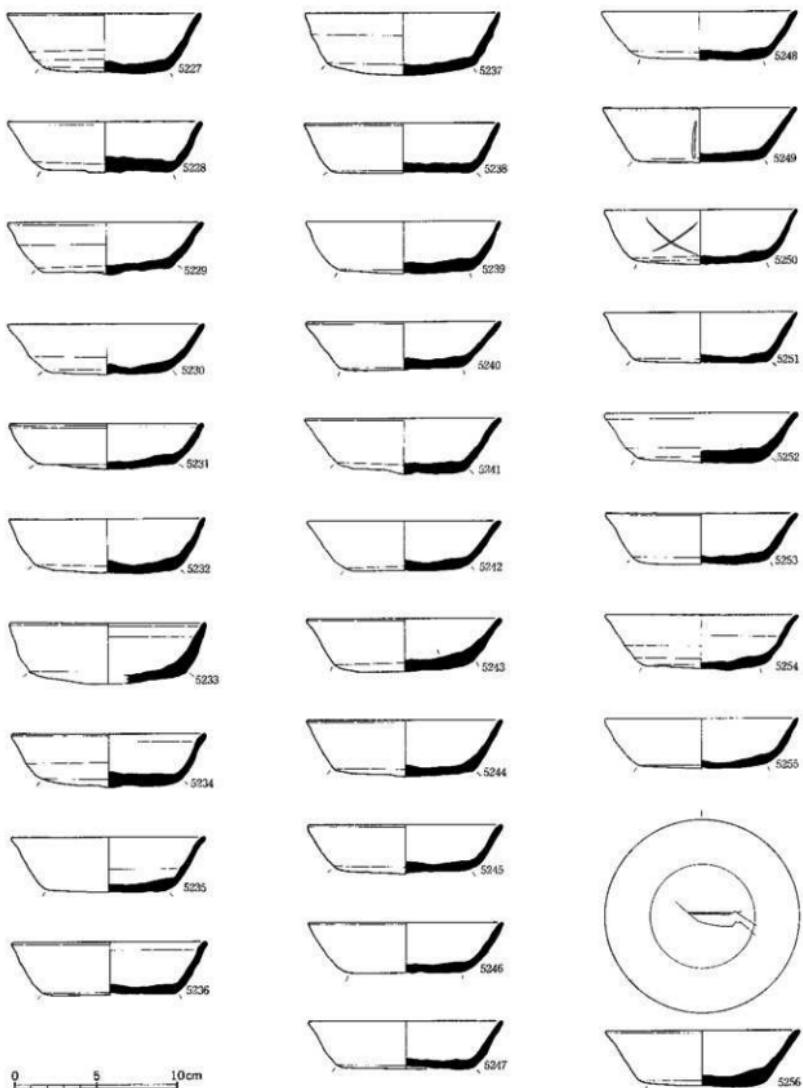
縮尺1/3

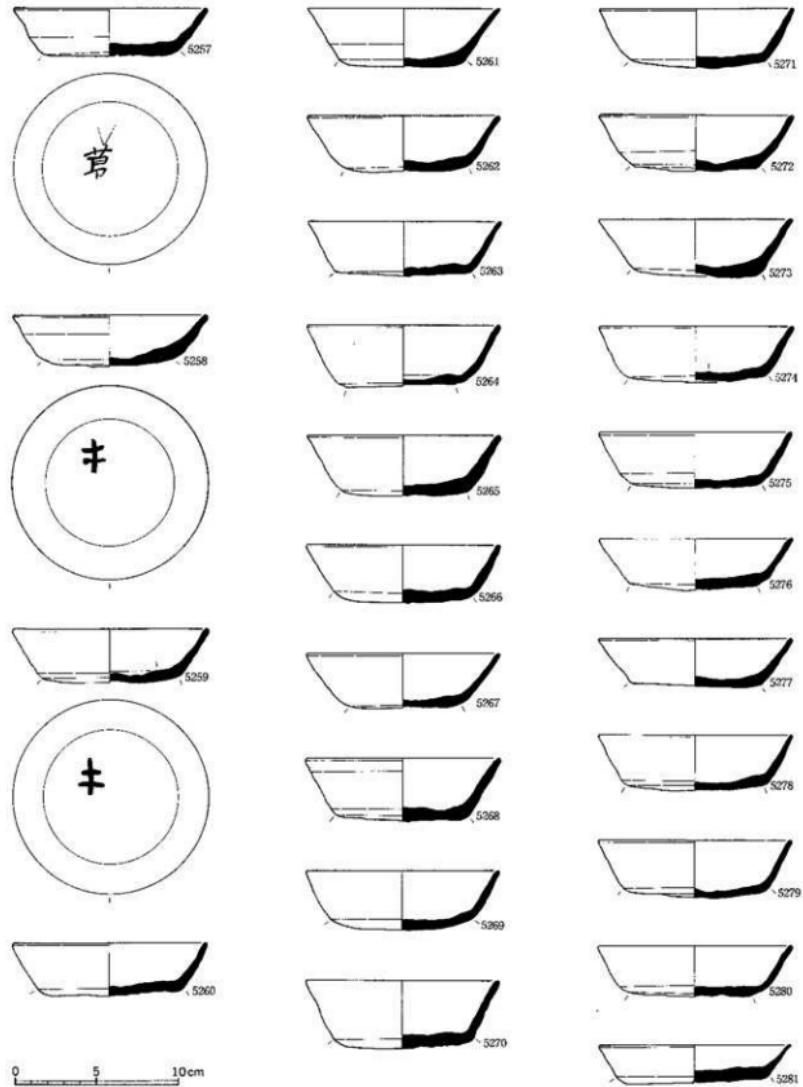


奈良平安時代の土器類 西側溝査地区・溝S D 60出土土器
須恵器

縮尺 1 / 3







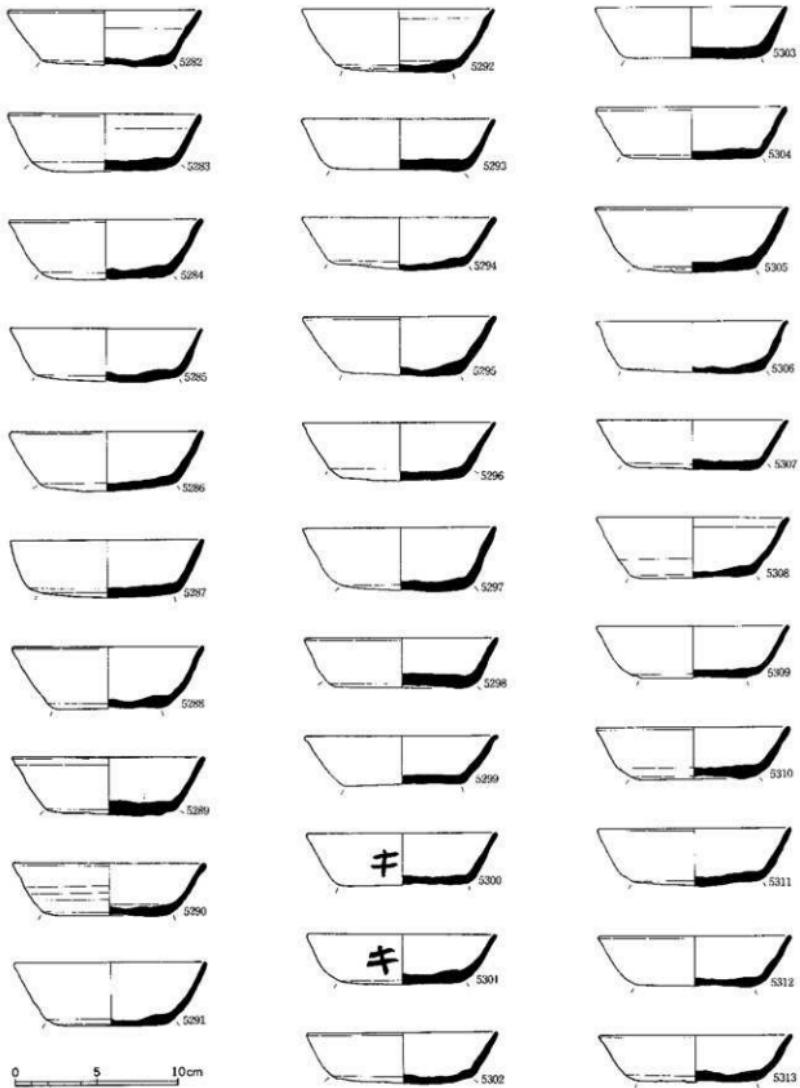
奈良平安時代の上器類 西側調査地区・溝S-D60出土七器
須恵器

縮尺1/3

図面〇九三

遺物実測図

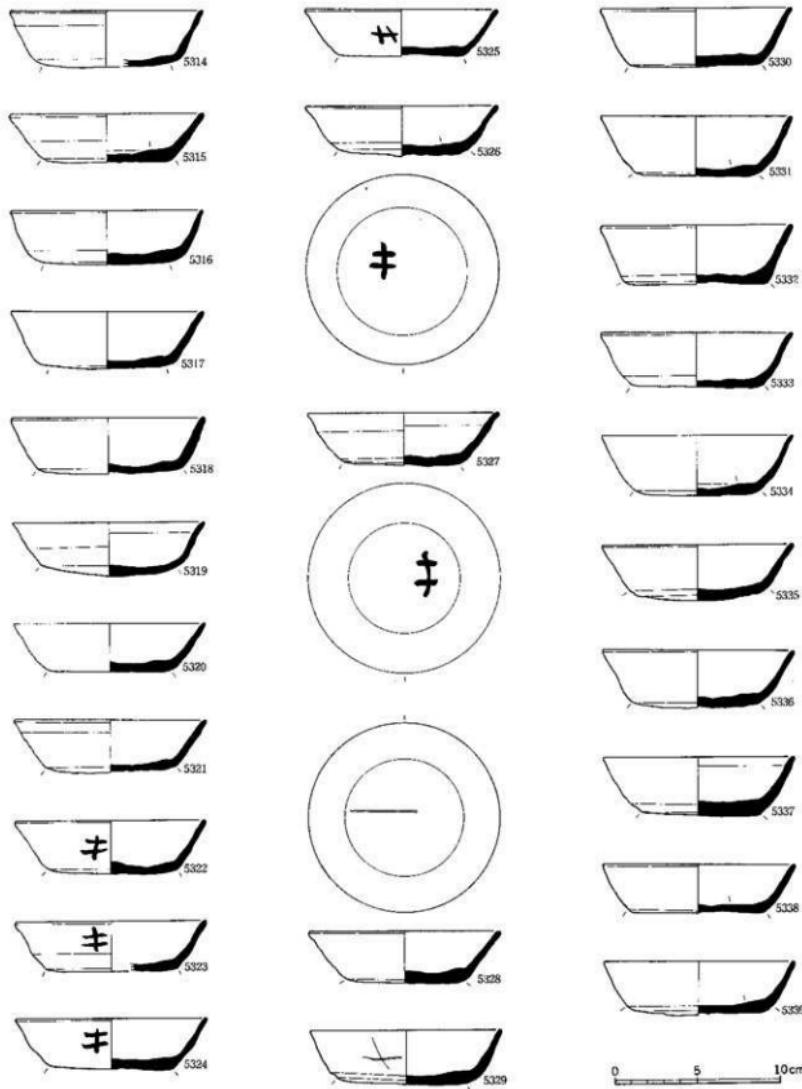
東木津遺跡



奈良平安時代の土器類 西側測量地区・溝S D 60出土上器
須恵器

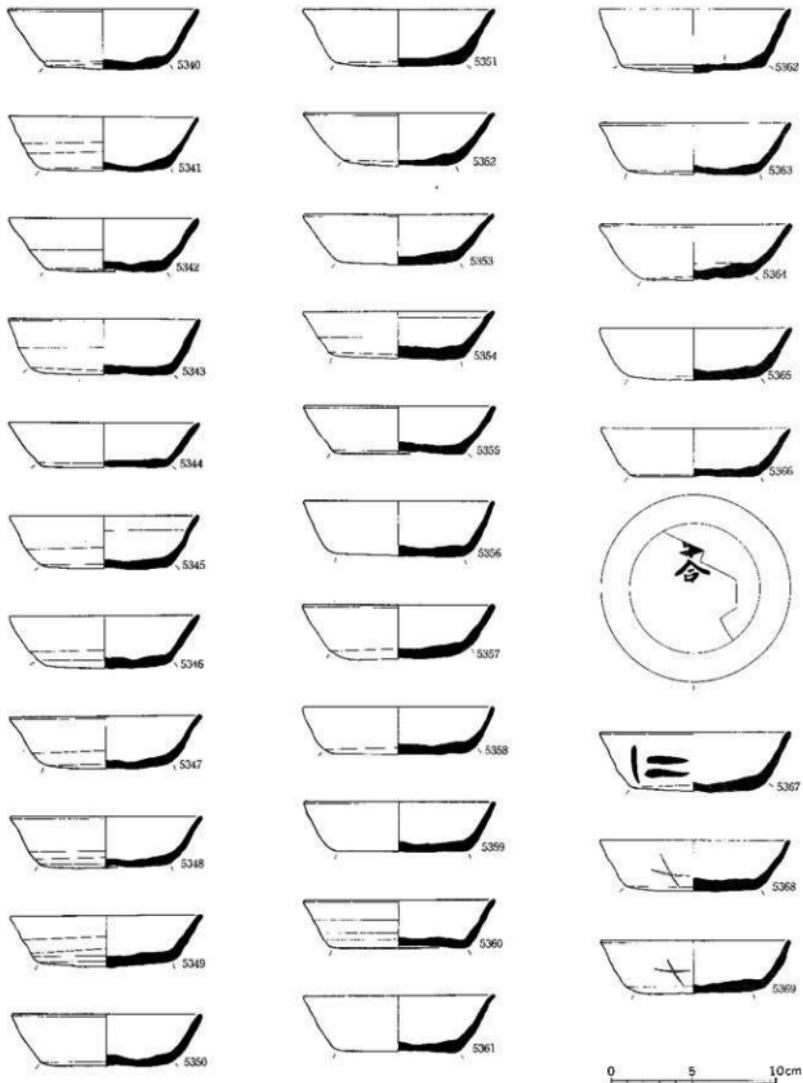
縮尺1/3

図面〇九四
遺物実測図
東木津遺跡



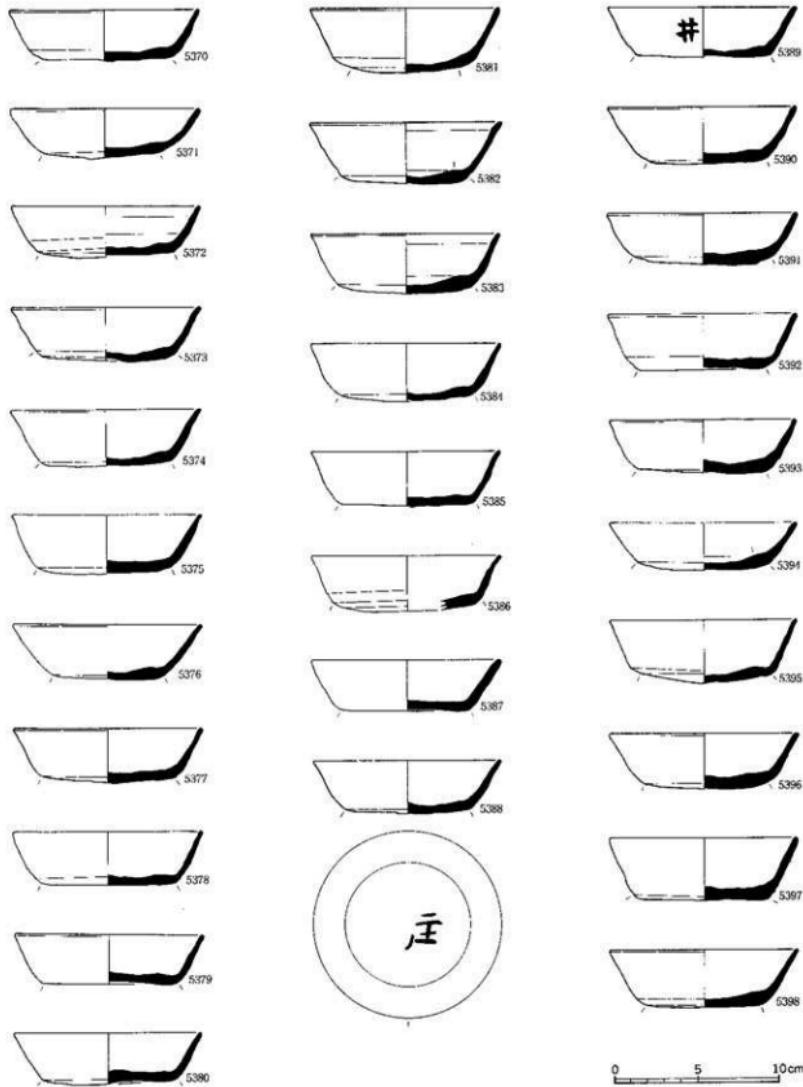
0 5 10cm

図面〇九五 遺物実測図 東木津遺跡



0 5 10cm

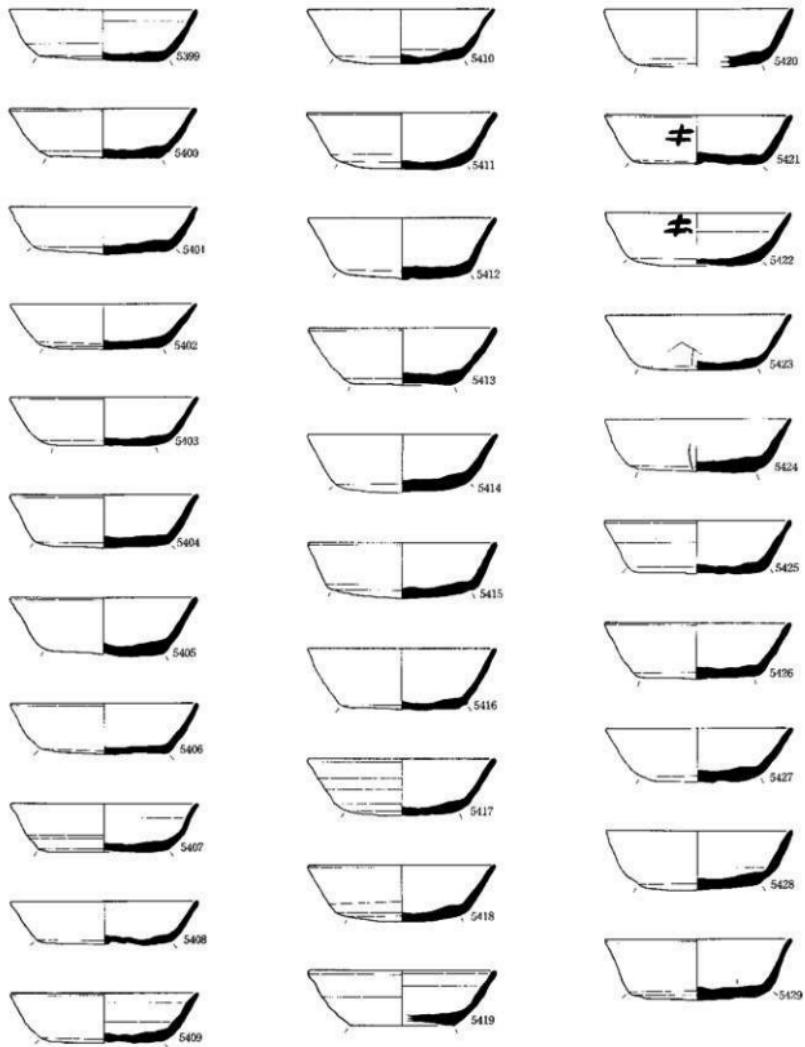
図面〇九六
遺物実測図
東木津遺跡



奈良平安時代の上巻類 西側発査地区・溝S D60出土土器
須恵器

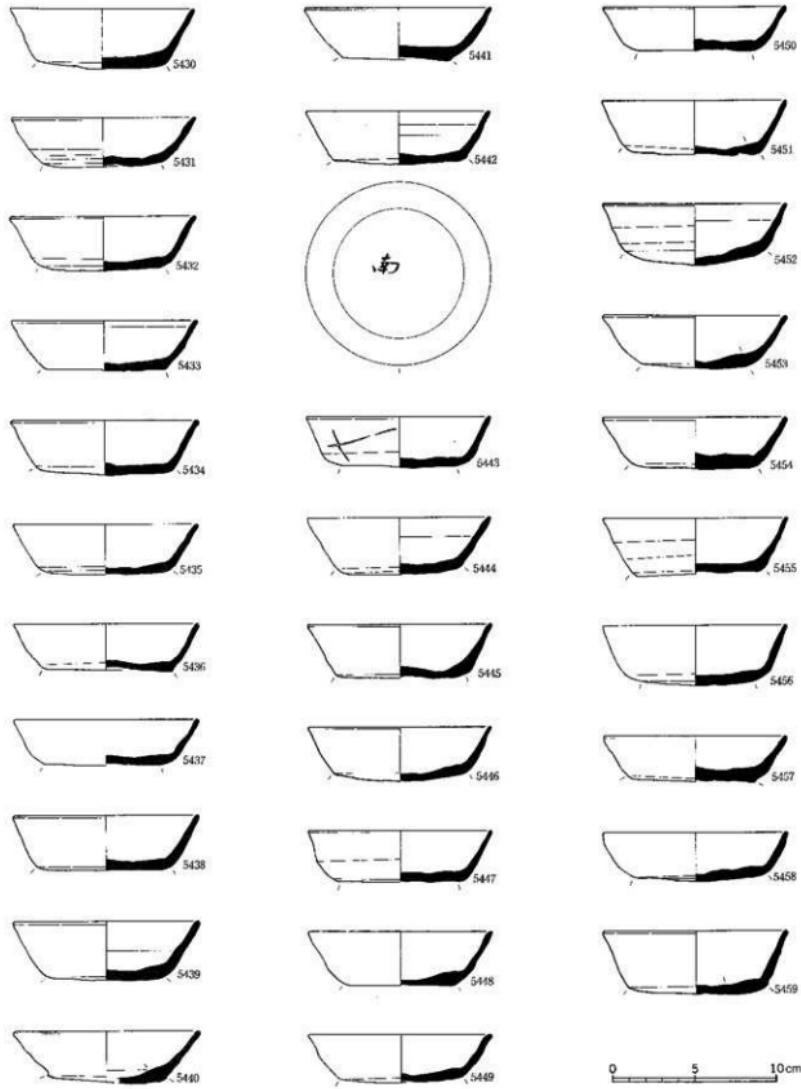
縮尺1/3

図面〇九七 遺物実測図 東木津遺跡



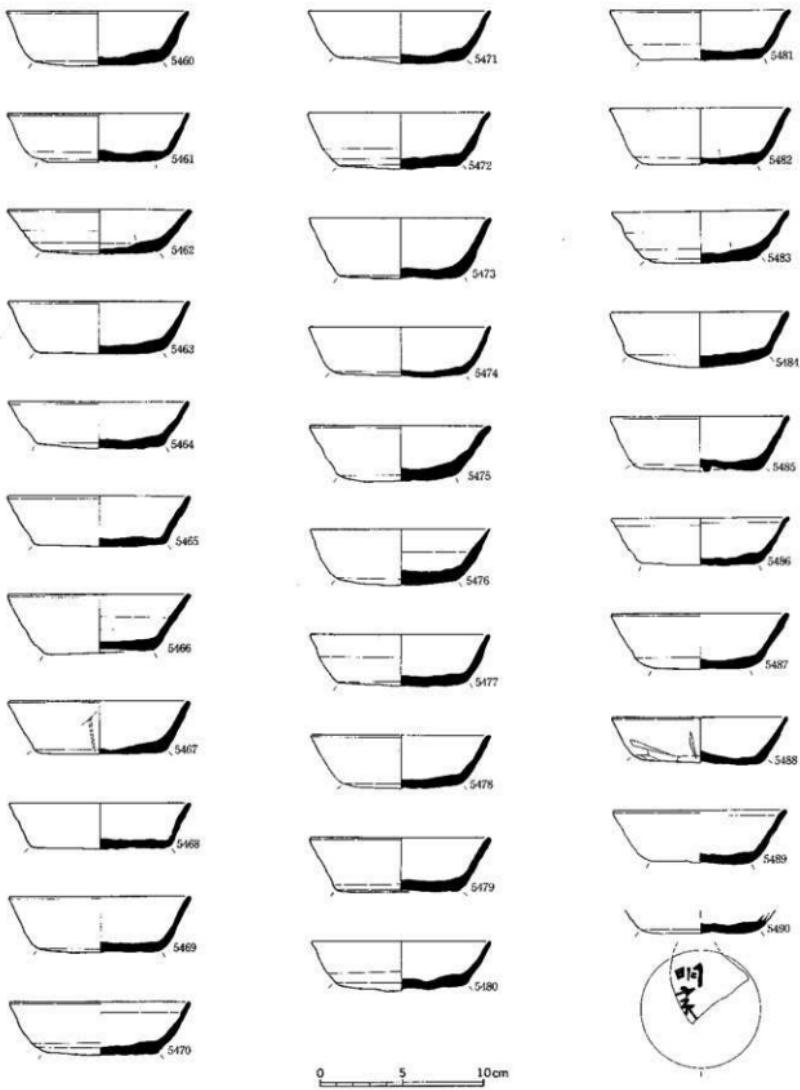
0 5 10cm

図面〇九八
遺物実測図
東木津遺跡



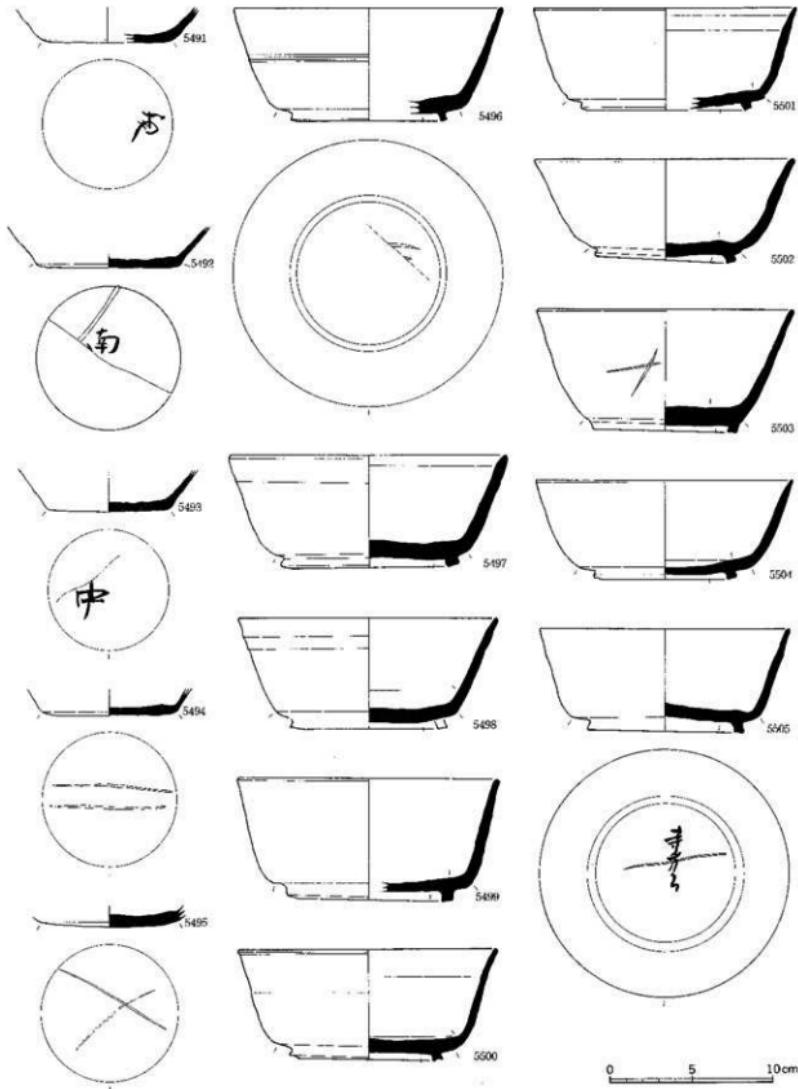
奈良平安時代の土器類 西側調査地区・溝S D 60出土土器
須恵器

縮尺 1/3



図面一〇〇 遺物実測図

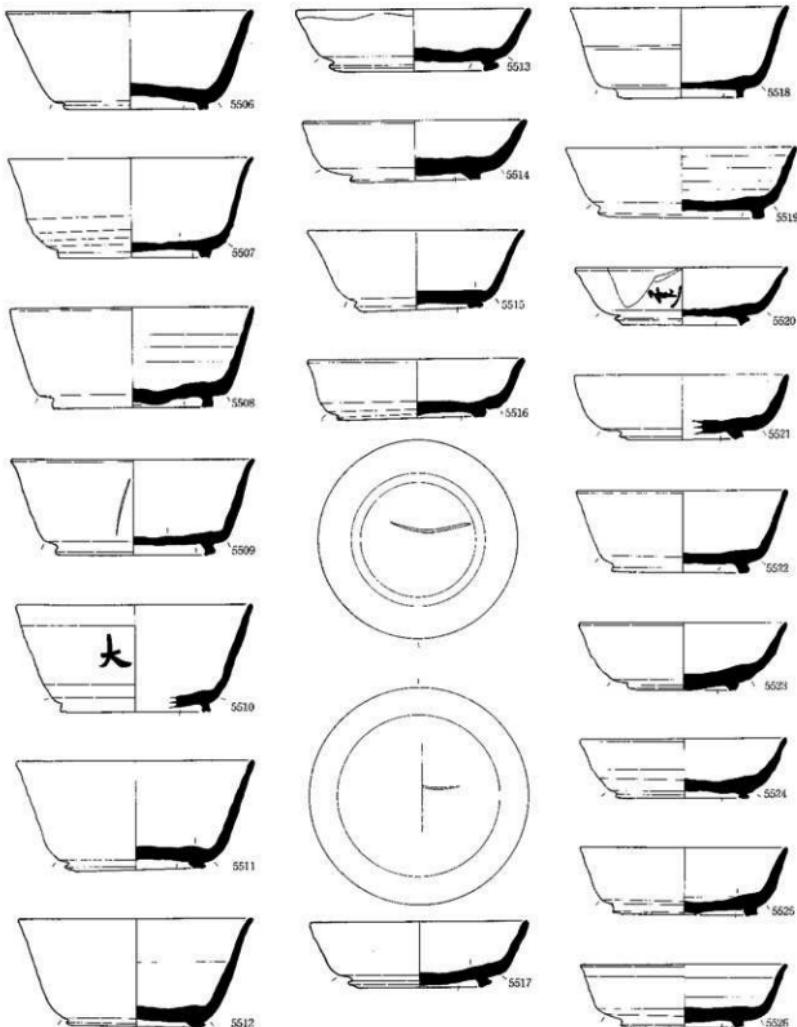
東木津遺跡



図面一〇一

遺物実測図

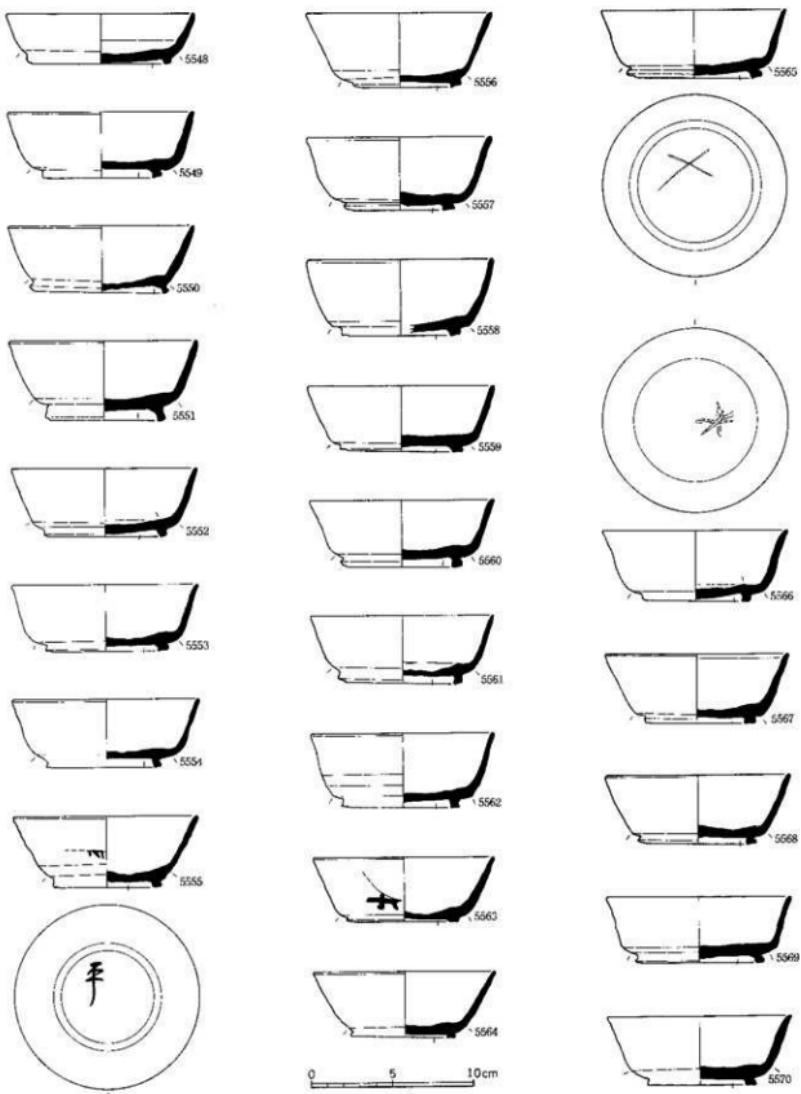
東木津遺跡

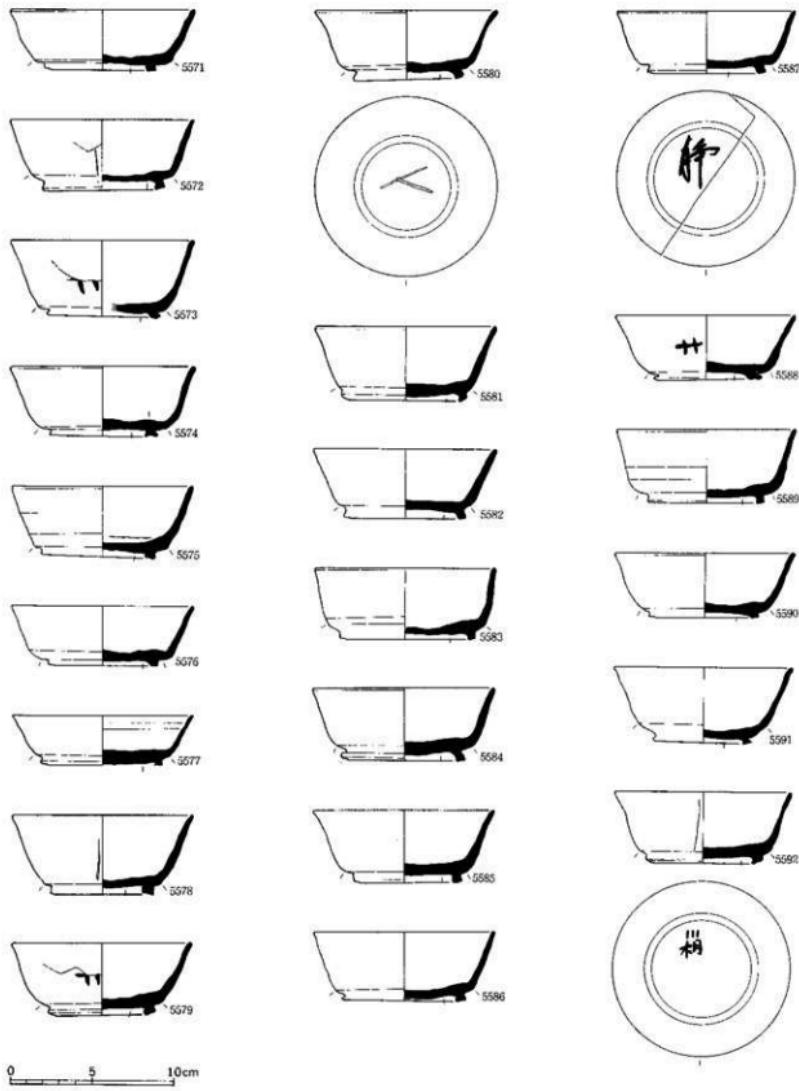


図面一〇二
遺物実測図
東木津遺跡



図面一〇三 遺物実測図 東木津遺跡





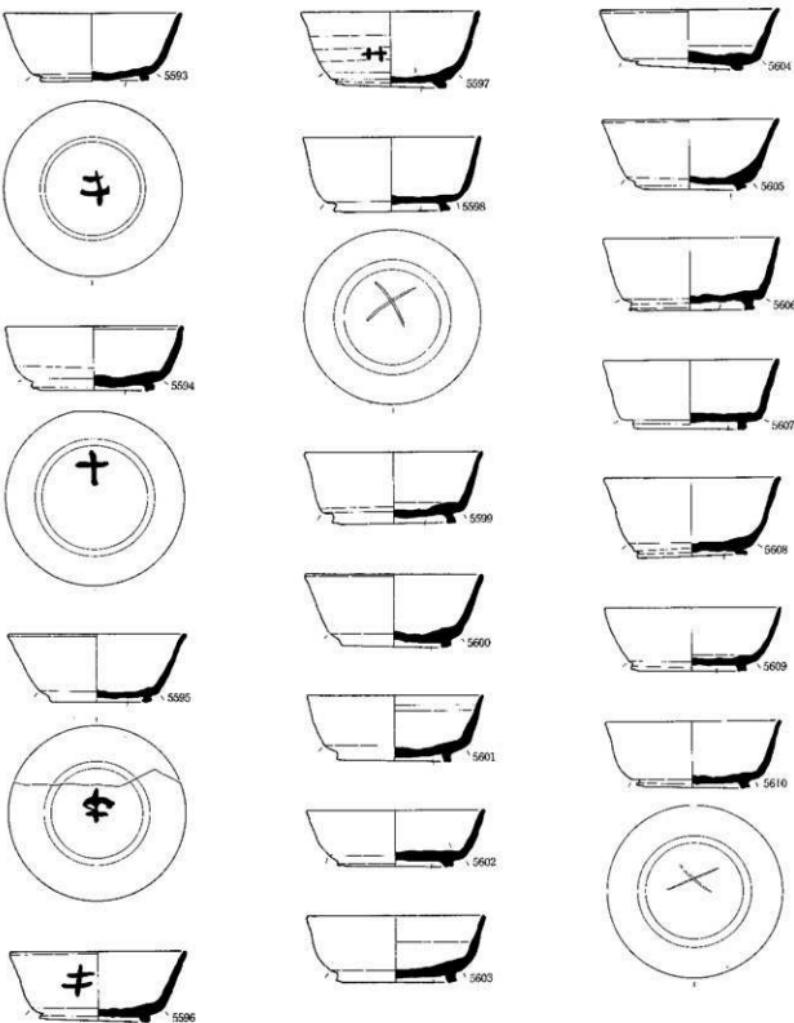
奈良平安時代の上器類 西側溝柵地区・溝 S D 60出土上器
須恵器

縮尺 1/3

図面一〇五

遺物実測図

東木津遺跡

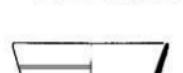
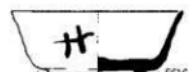
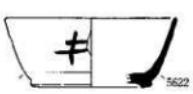
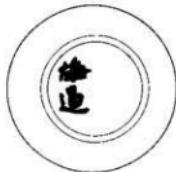
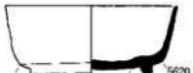
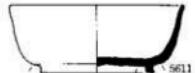


0 5 10cm

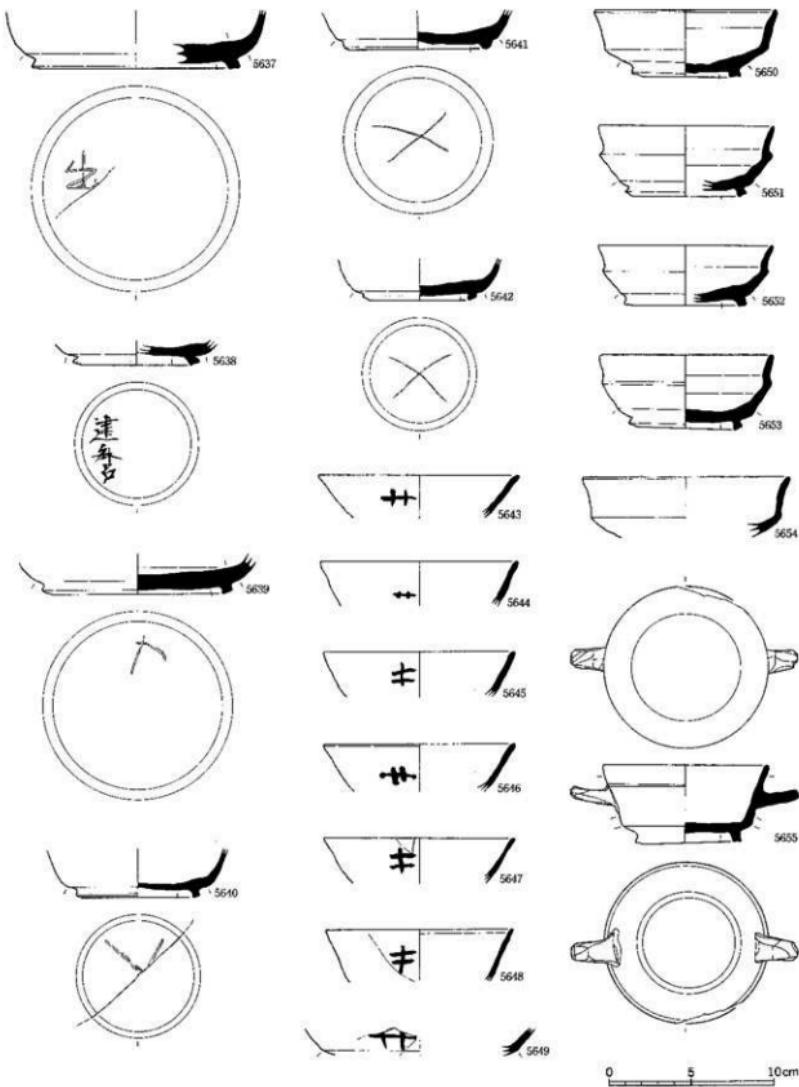
図面一〇六

遺物実測図

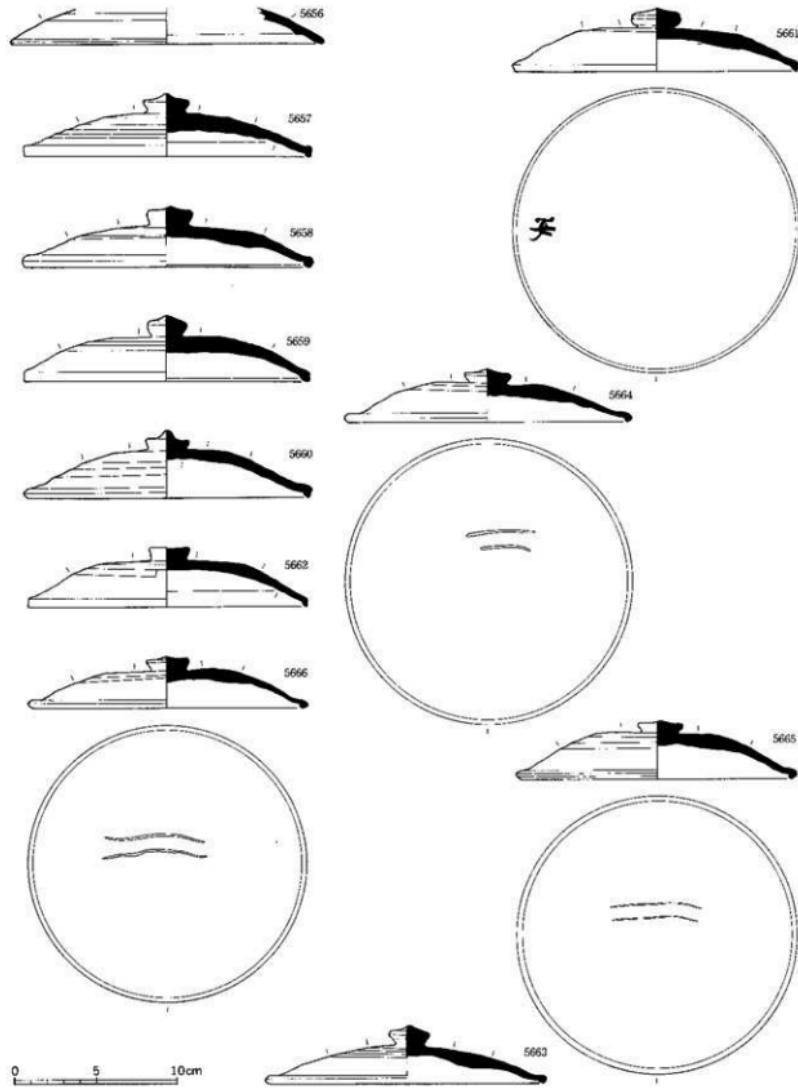
東木津遺跡



0 5 10cm



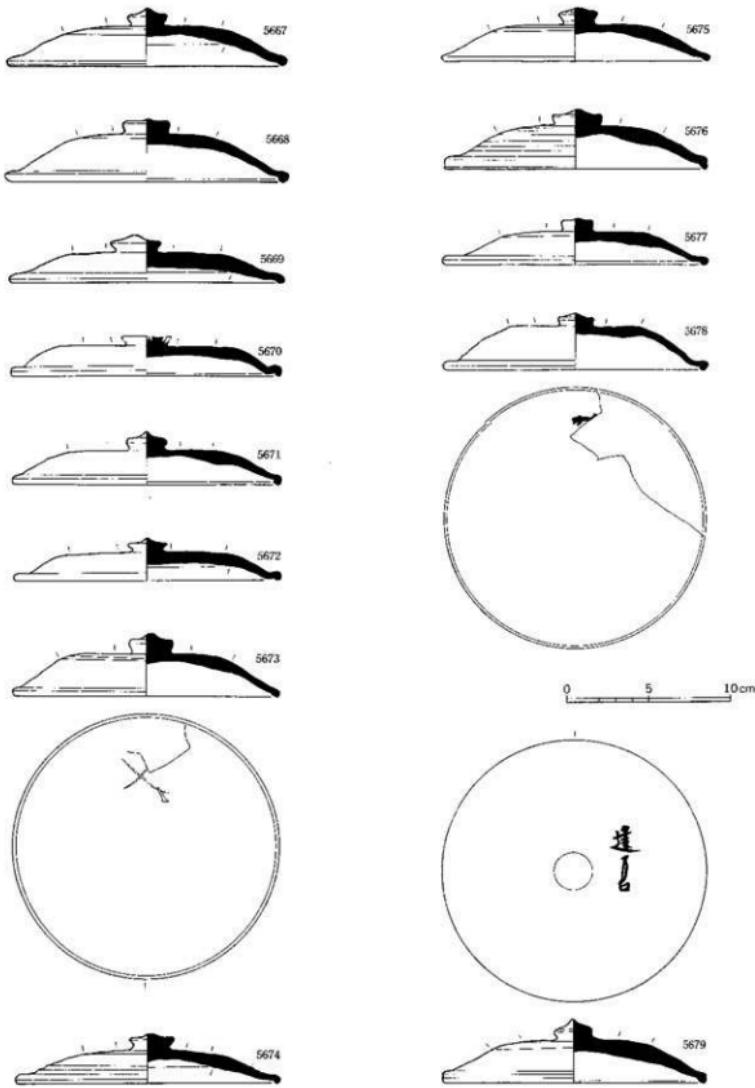
図面一〇八 遺物実測図 東木津遺跡



奈良平安時代の土器類 西側調査地区・溝S-D60出土土器
須恵器

縮尺 1/3

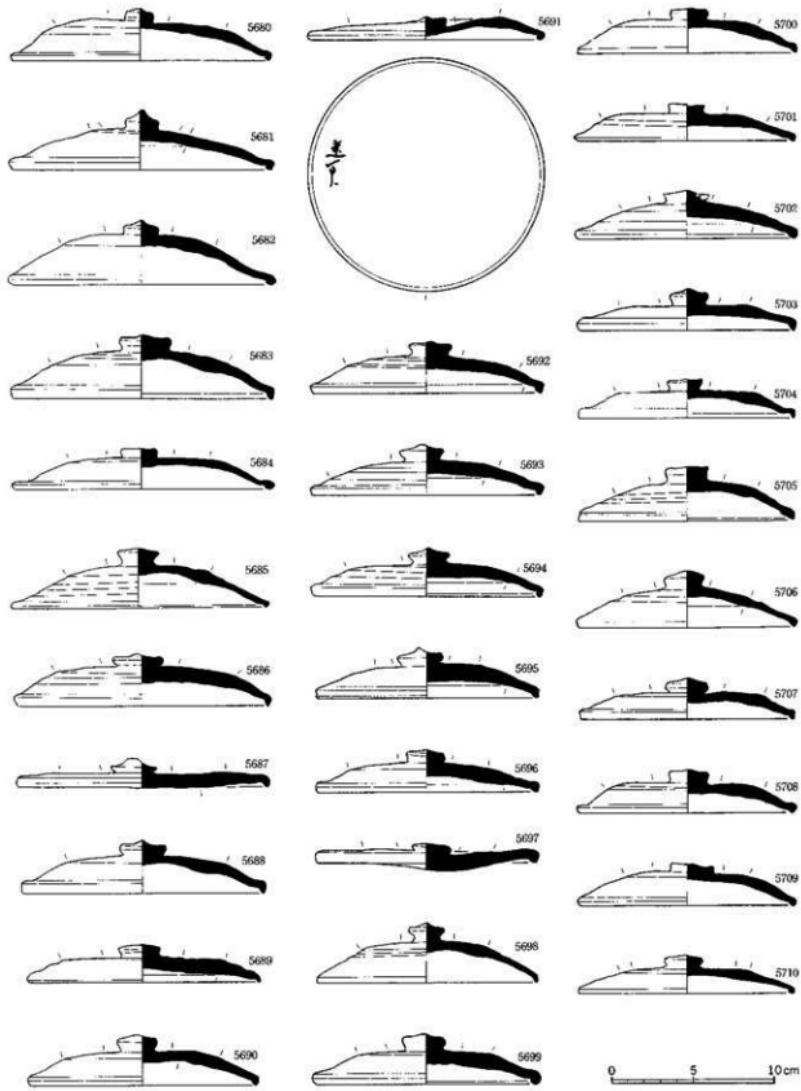
図面一〇九 造物実測図
東木津遺跡



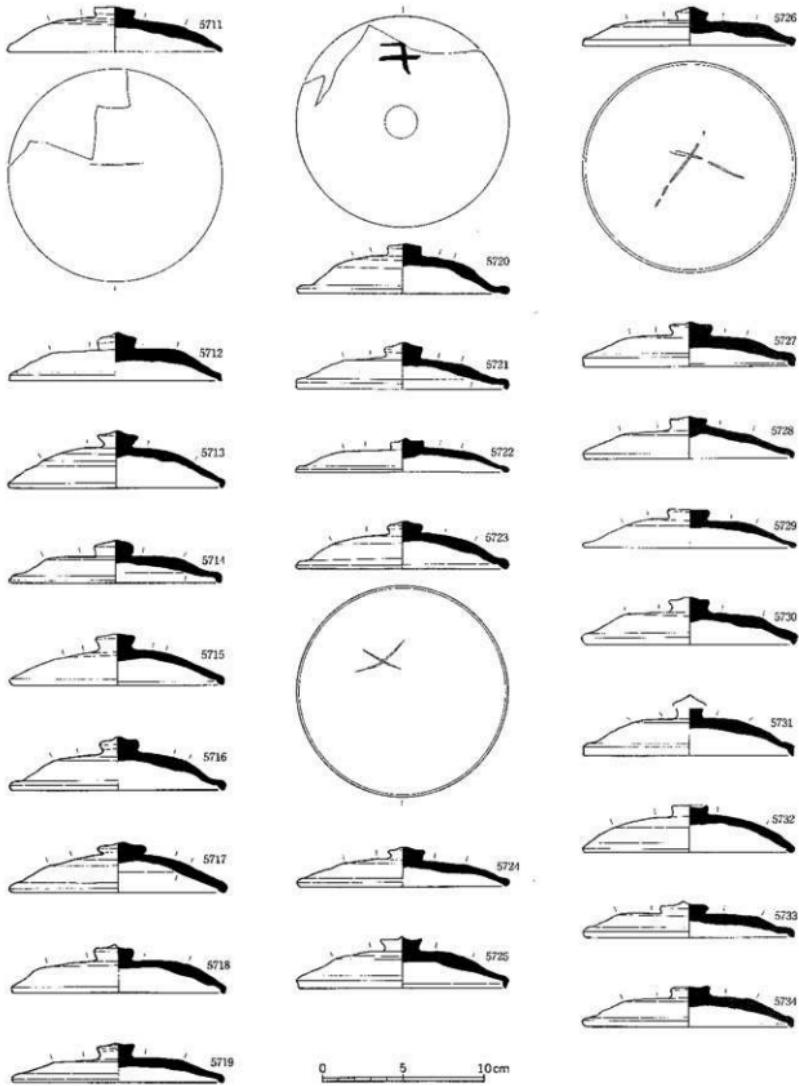
奈良平安時代の上器類 西側調査地区・溝S-D60出土土器
須恵器

縮尺1/3

図面一一〇 遺物実測図 東木津跡

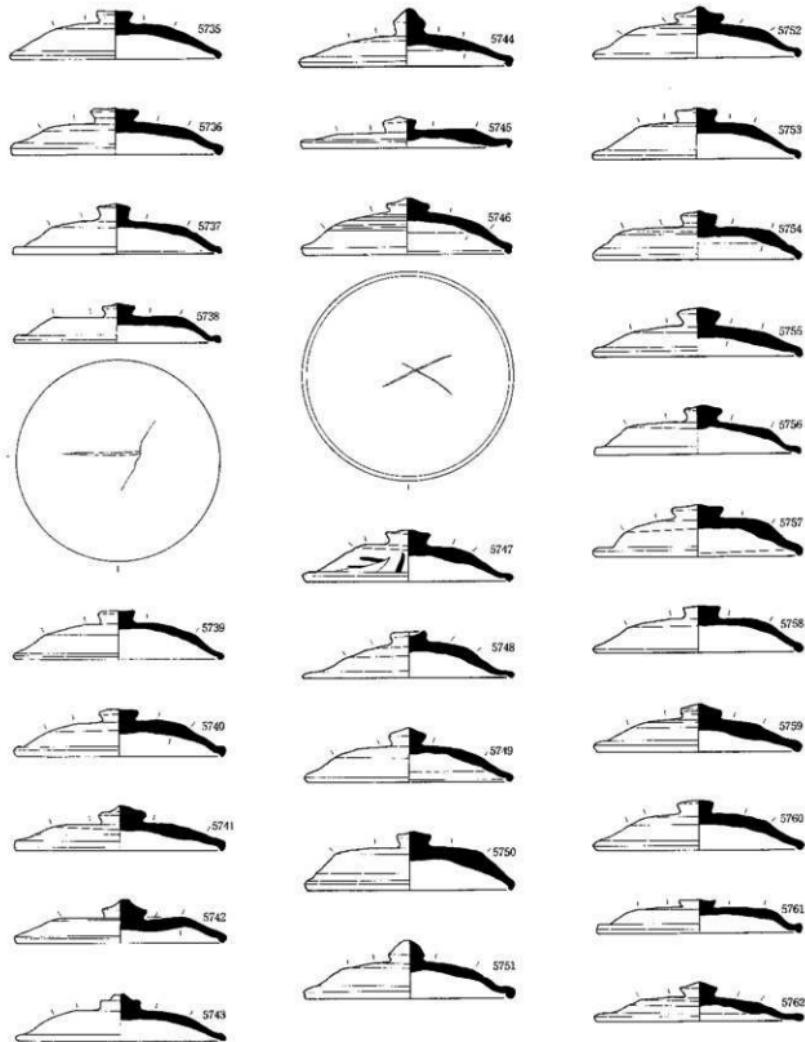


図面一一 遺物実測図 東木津遺跡



奈良平安時代の土器類 西側調査地区・溝S D60出土上器
須恵器

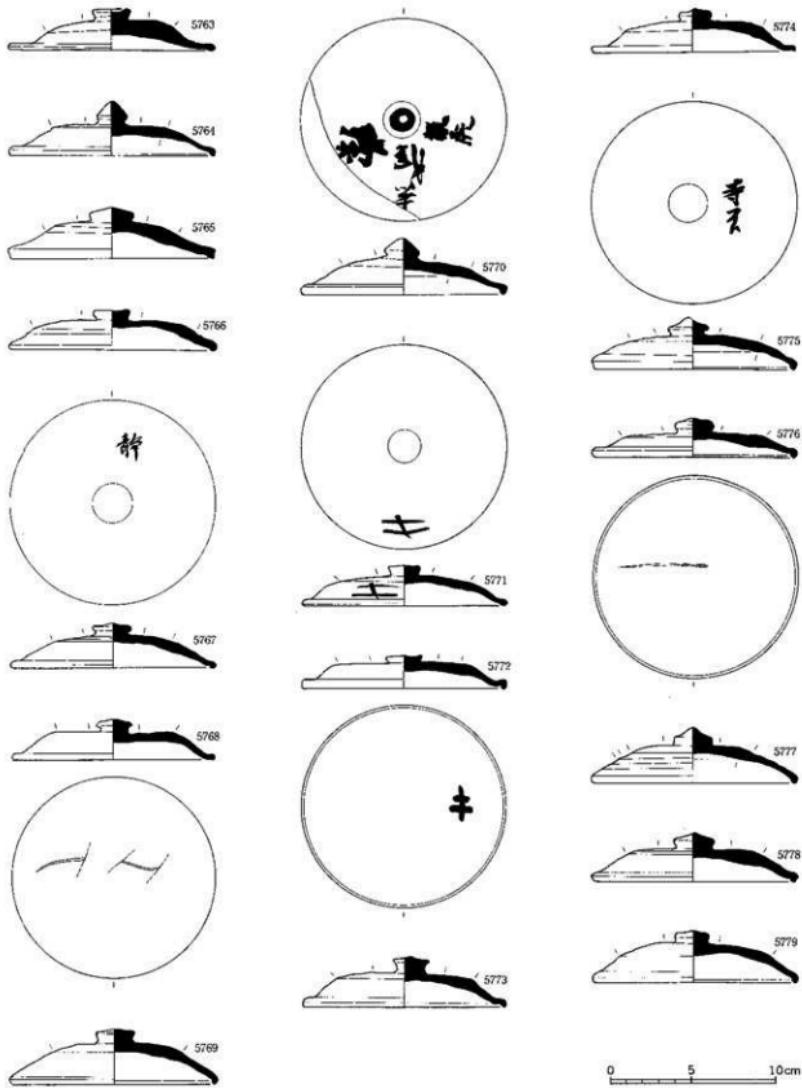
縮尺1／3



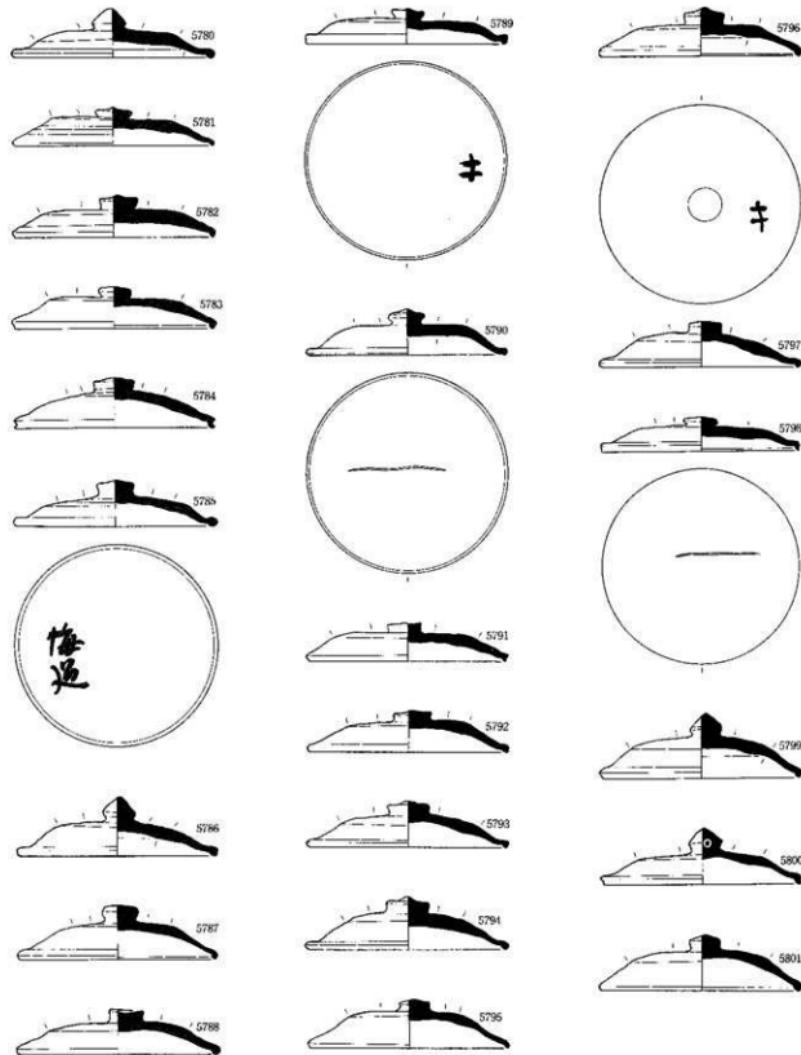
奈良平安時代の上巻類 西側溝充地区・溝S D60出土十七器
須恵器

縮尺1/3

図面一二三 遺物実測図 東木津遺跡

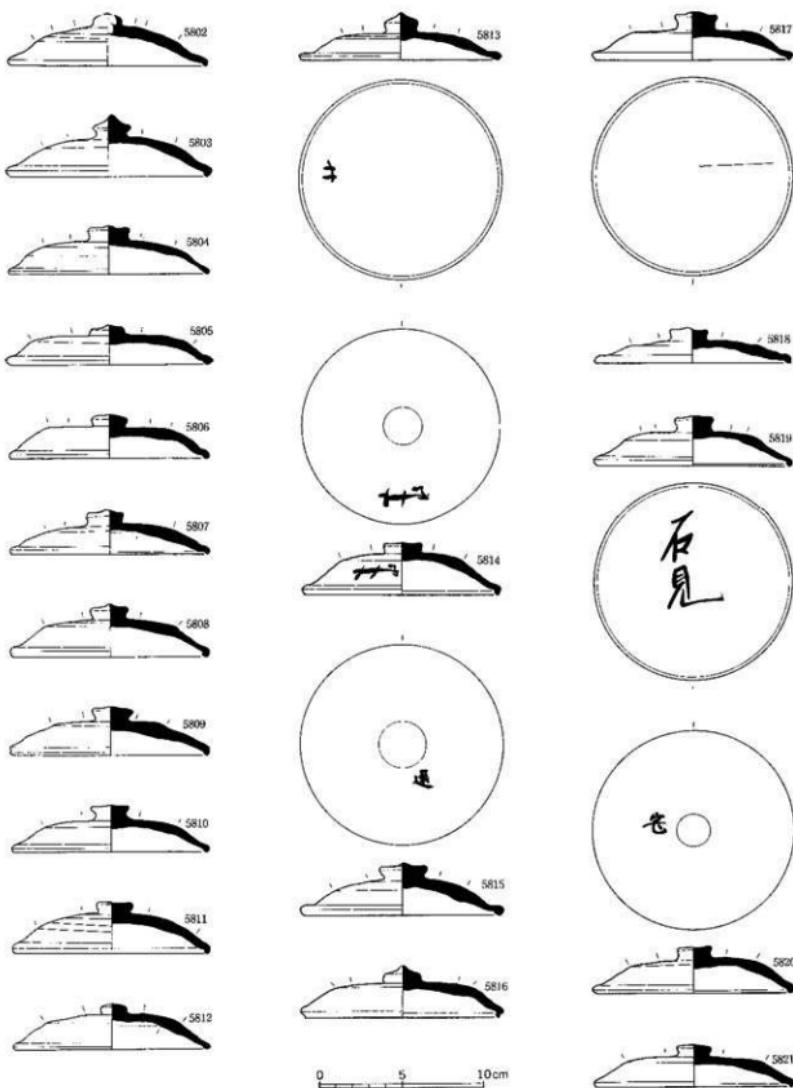


図面一四 遺物実測図 東木津遺跡

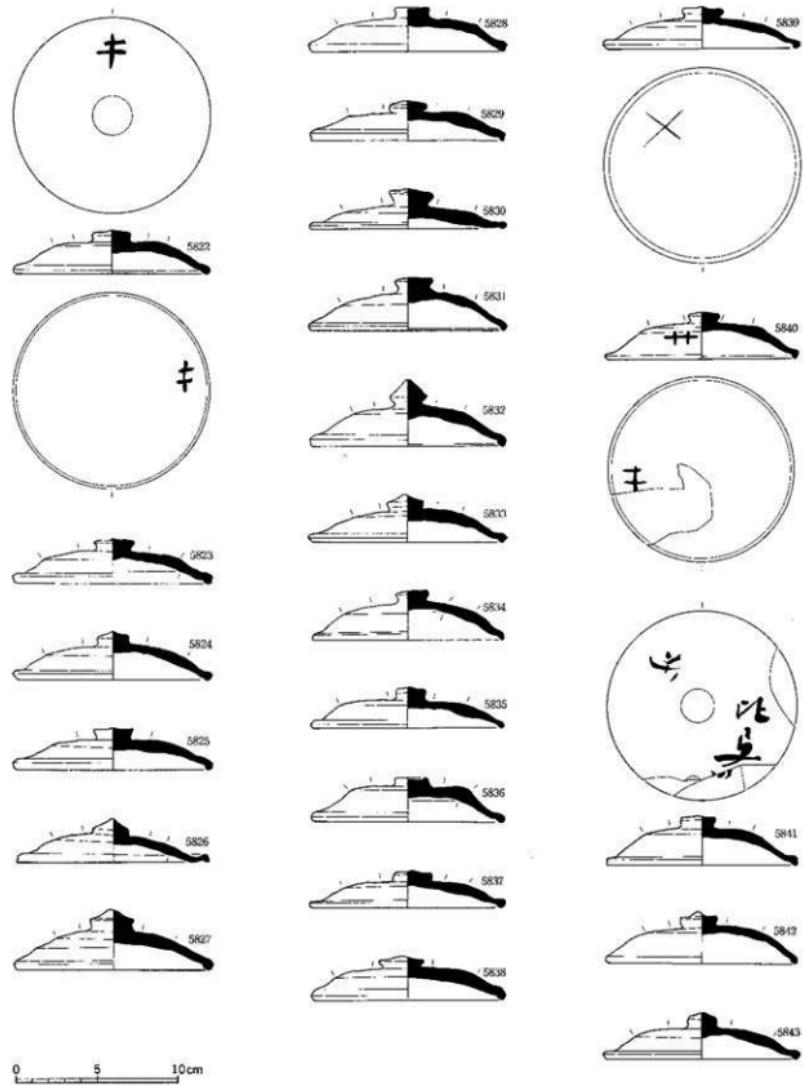


0 5 10cm

圖面一五 遺物実測図 東木津遺跡



図面一一六 遺物実測図 東木津遺跡

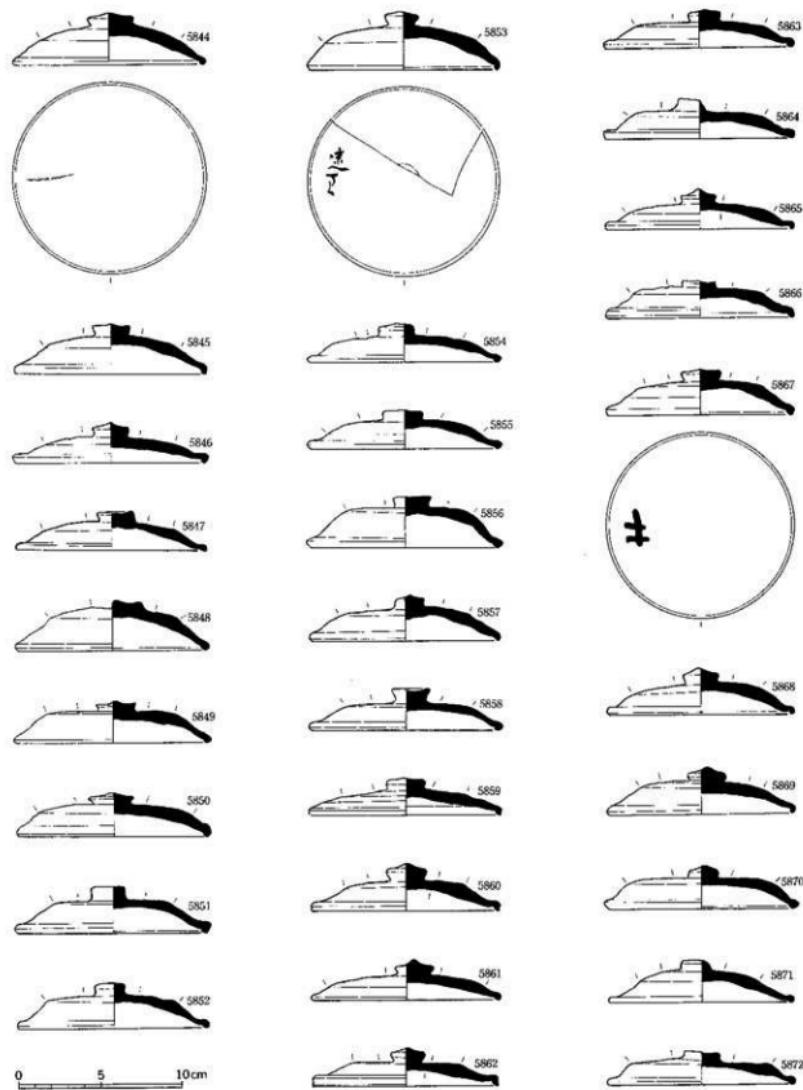


奈良平安時代の土器類 西側調査地区・溝S D60出土土器

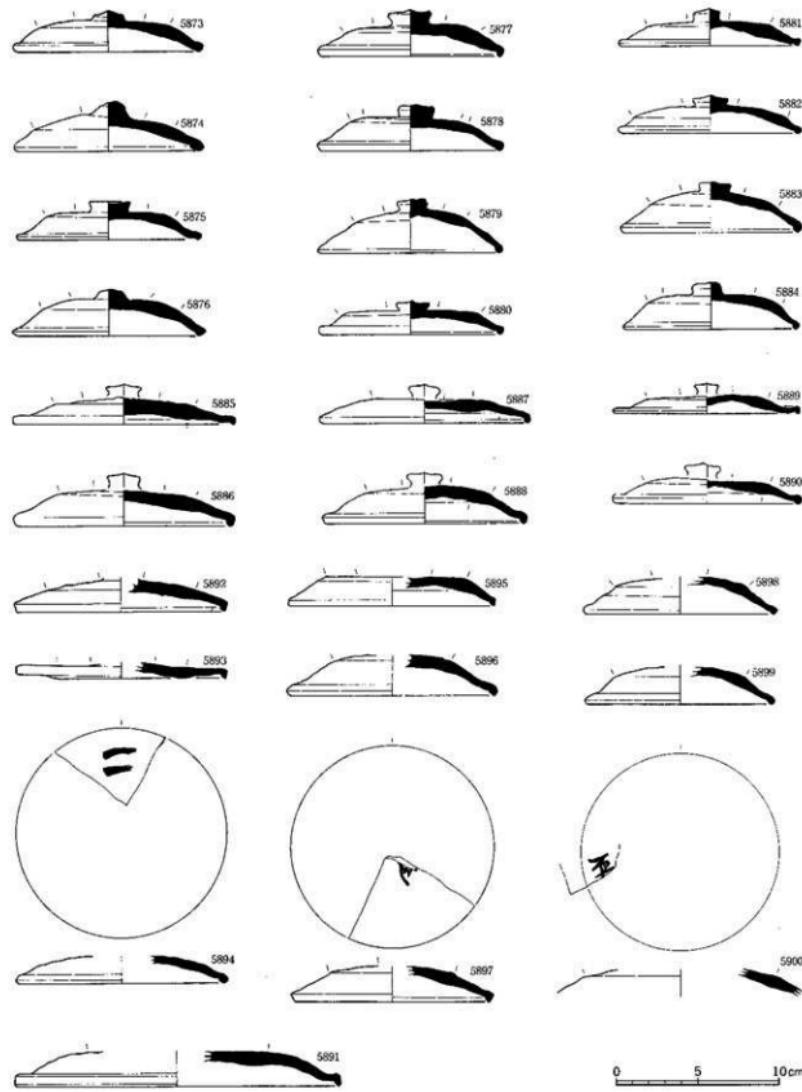
須恵器

縮尺1/3

図面二一七 遺物実測図
東木津遺跡

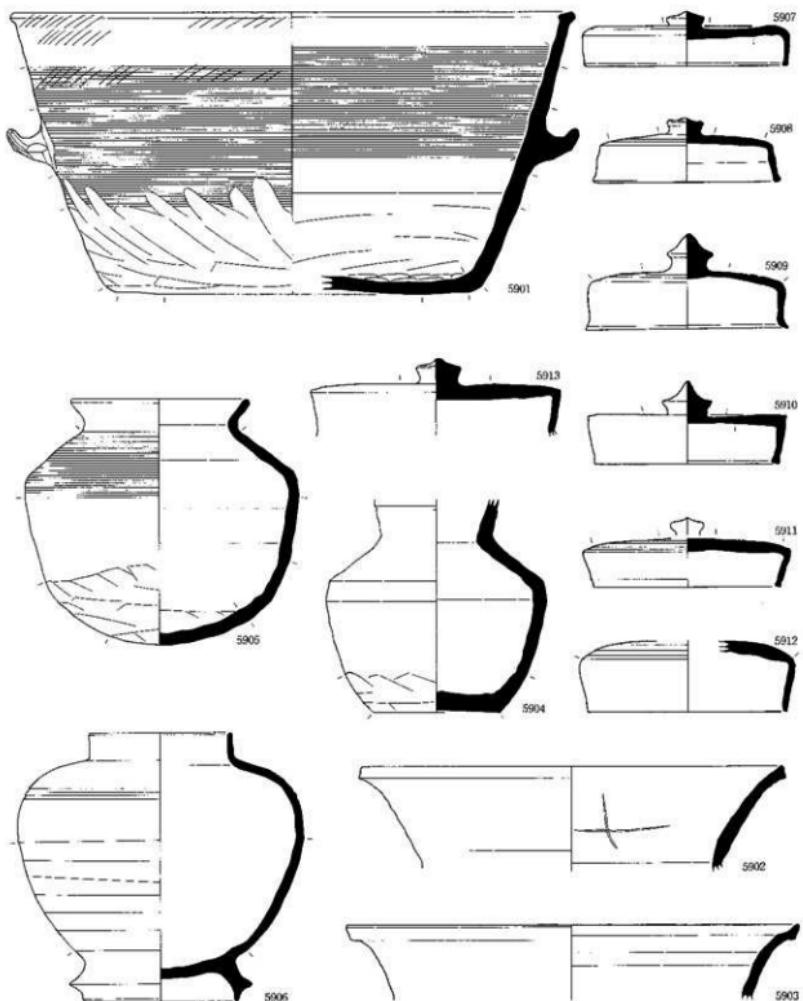


図面一一八 遺物実測図 東木津遺跡



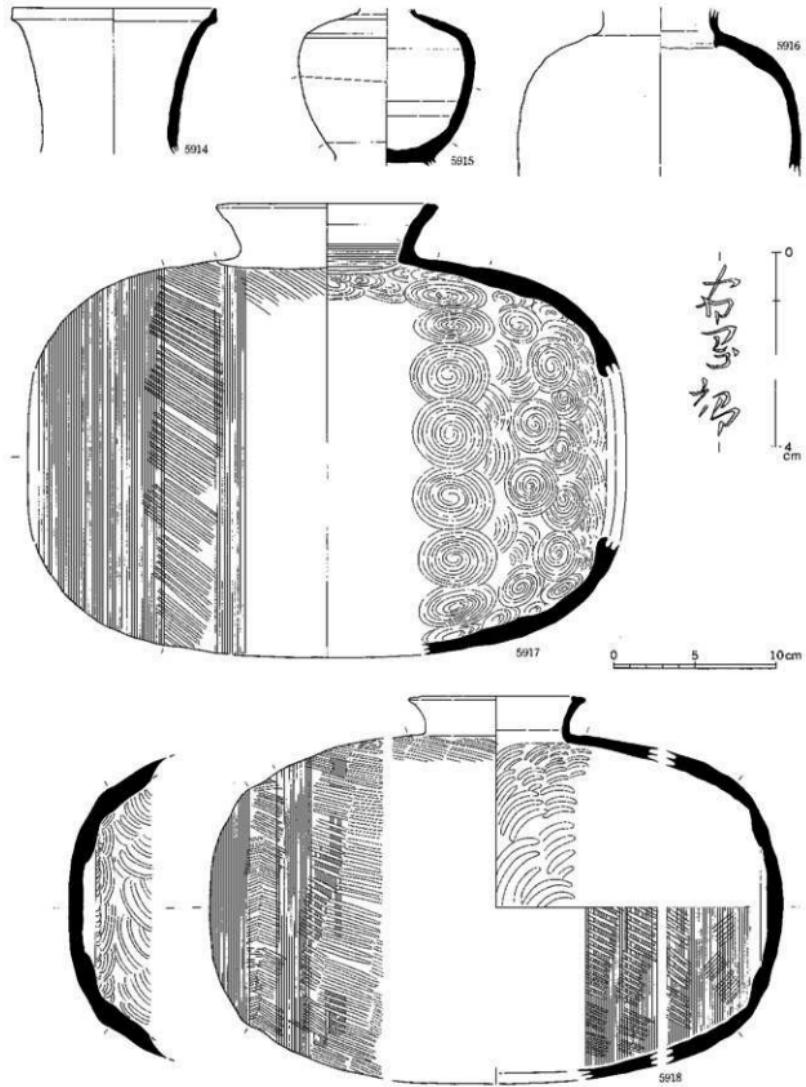
奈良平安時代の土器類 西側調査地区・溝S D60出土土器
須恵器

縮尺1/3



0 5 10cm

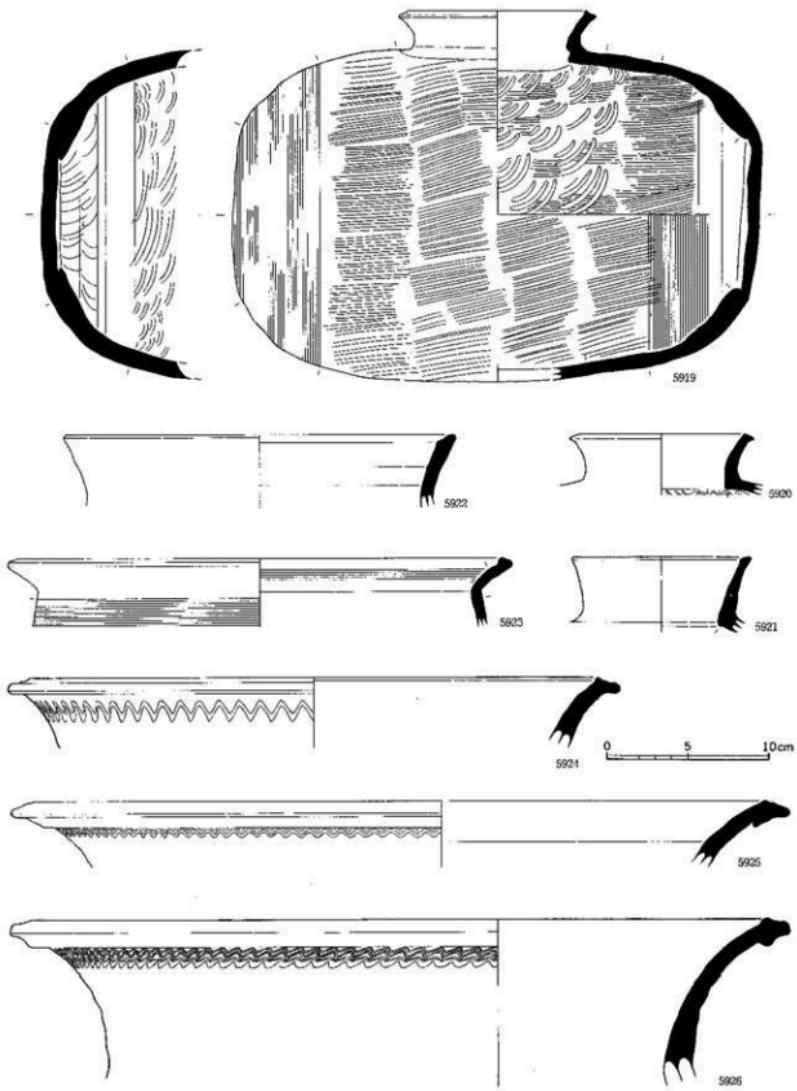
図面一二〇 遺物実測図
東木津遺跡

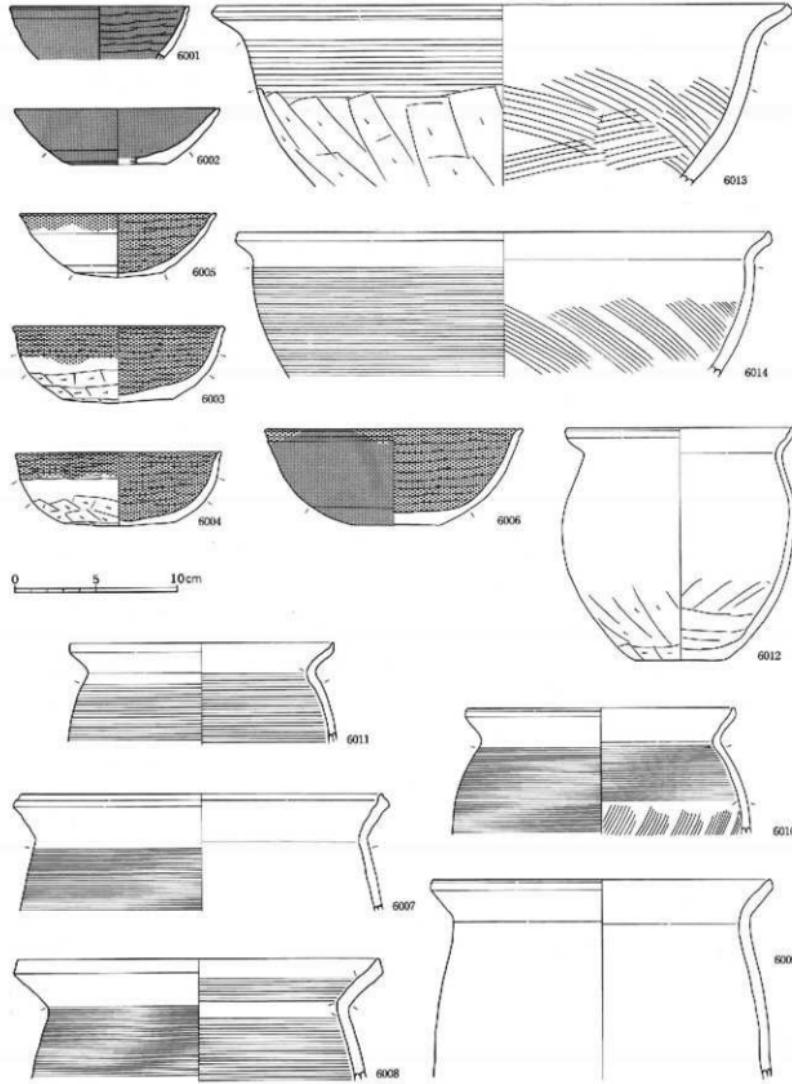


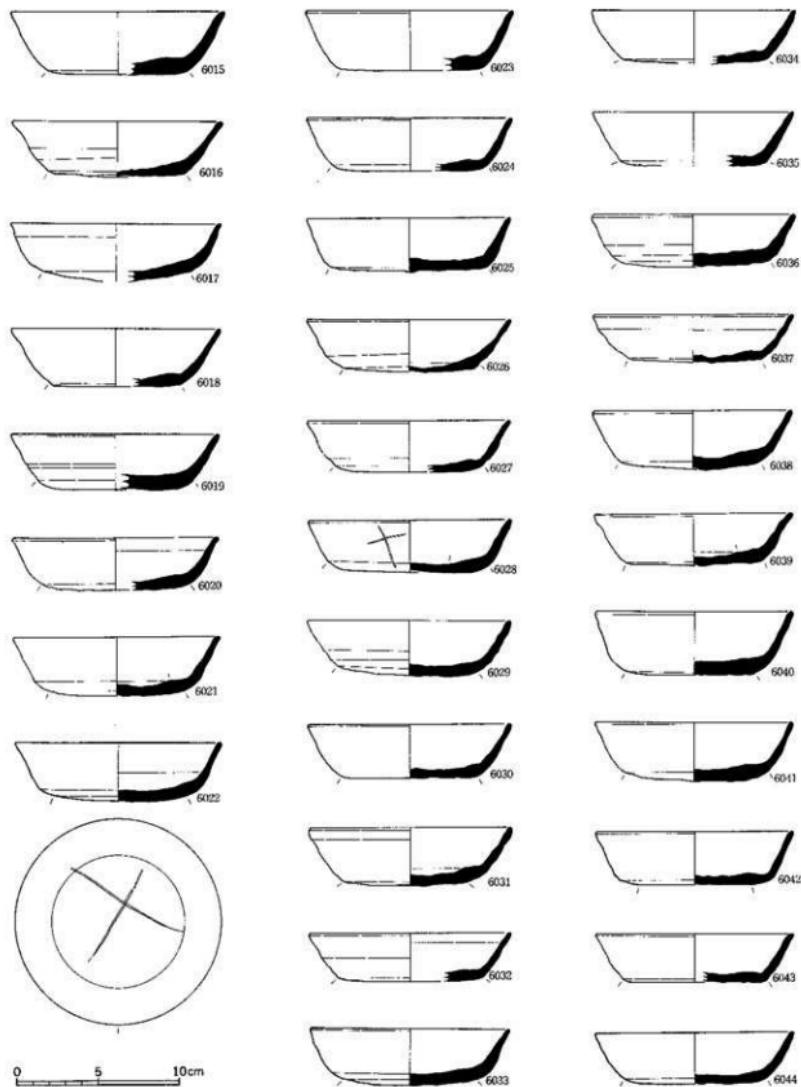
奈良平安時代の土器類 西側調査地区・溝S D60出土土器
須恵器

縮尺 1/3

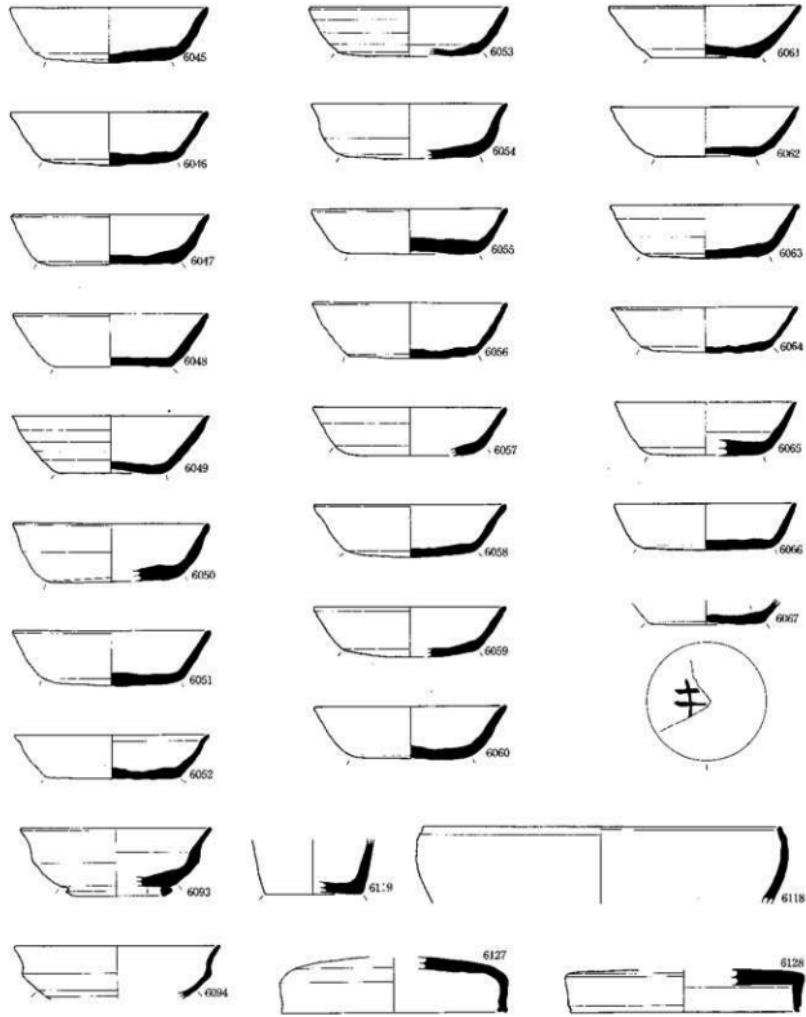
図面一二一 遺物実測図 東木津遺跡



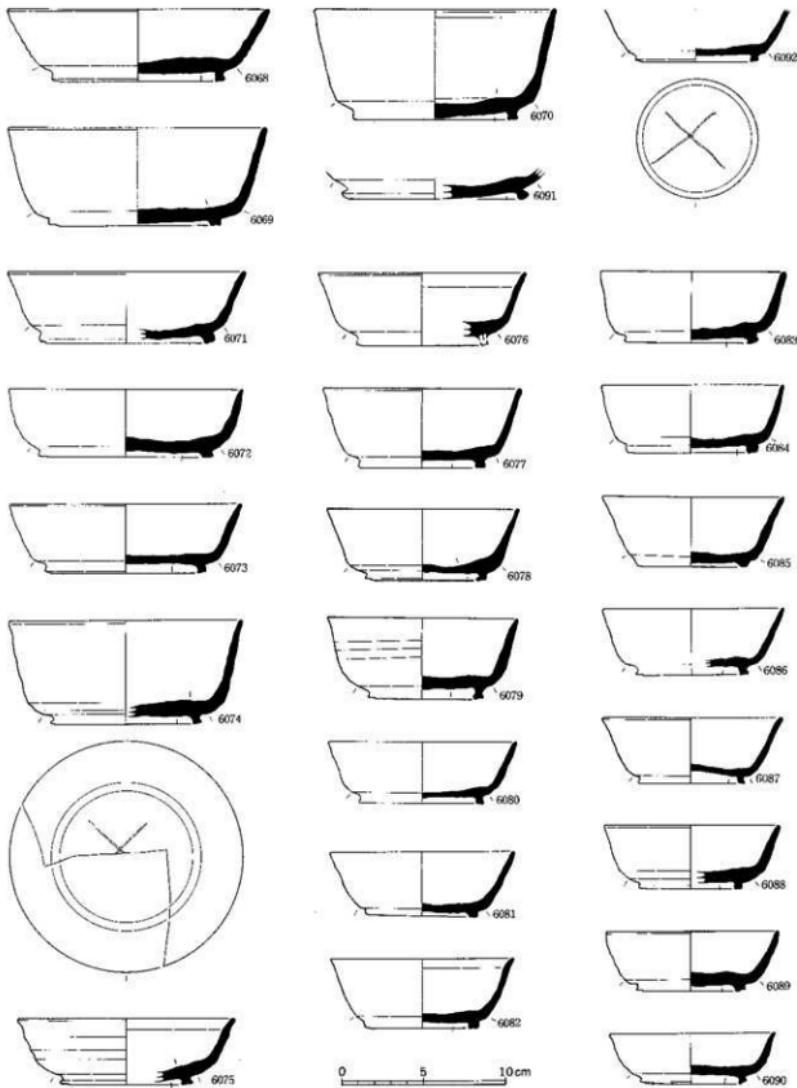




図面一二四 遺物実測図 東木津遺跡

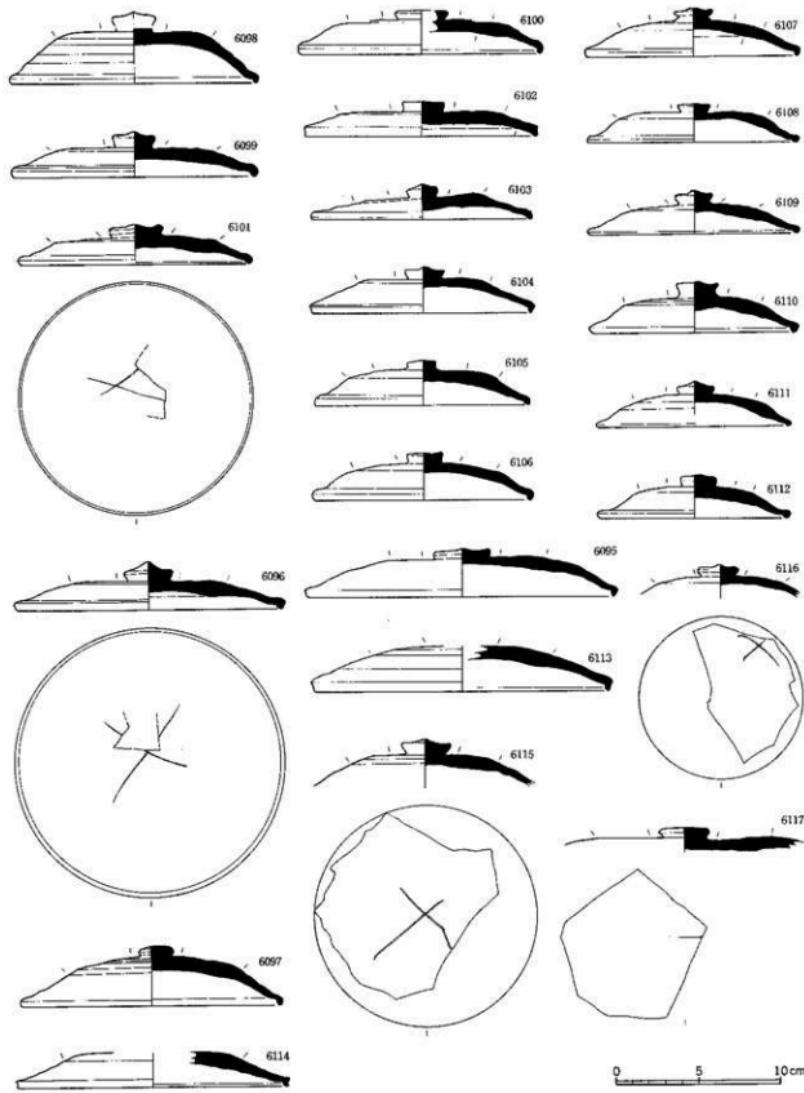


図面一二五 遺物実測図 東木津遺跡



余良平安時代の土器類 中央調査地区出土土器
須恵器

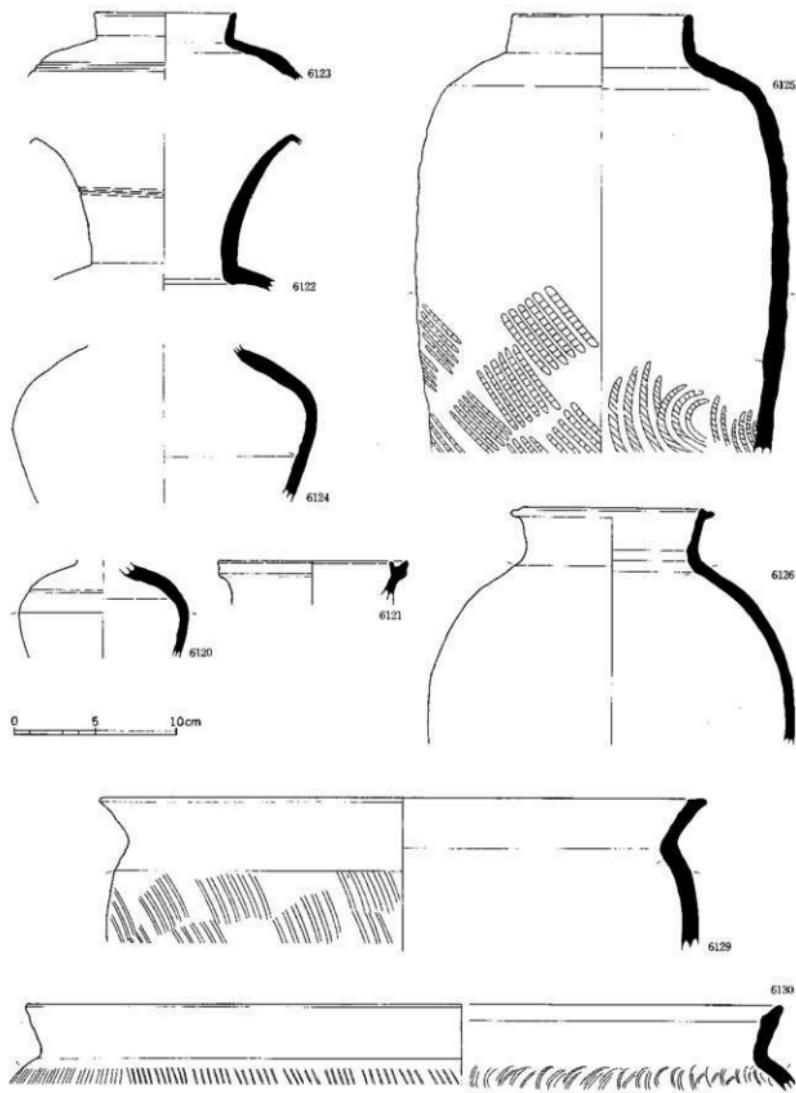
縮尺 1 / 3

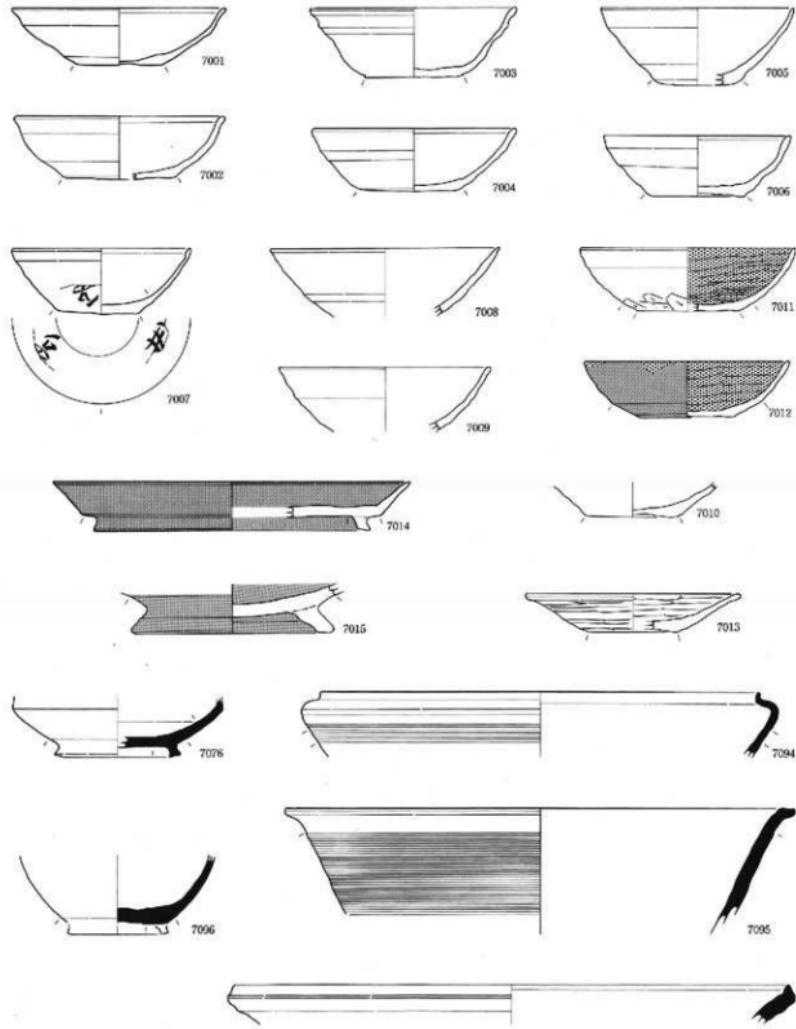


奈良平安時代の上器類 中央調査地区出土土器
須恵器

縮尺 1 / 3

図面一二七 遺物実測図 東木津遺跡



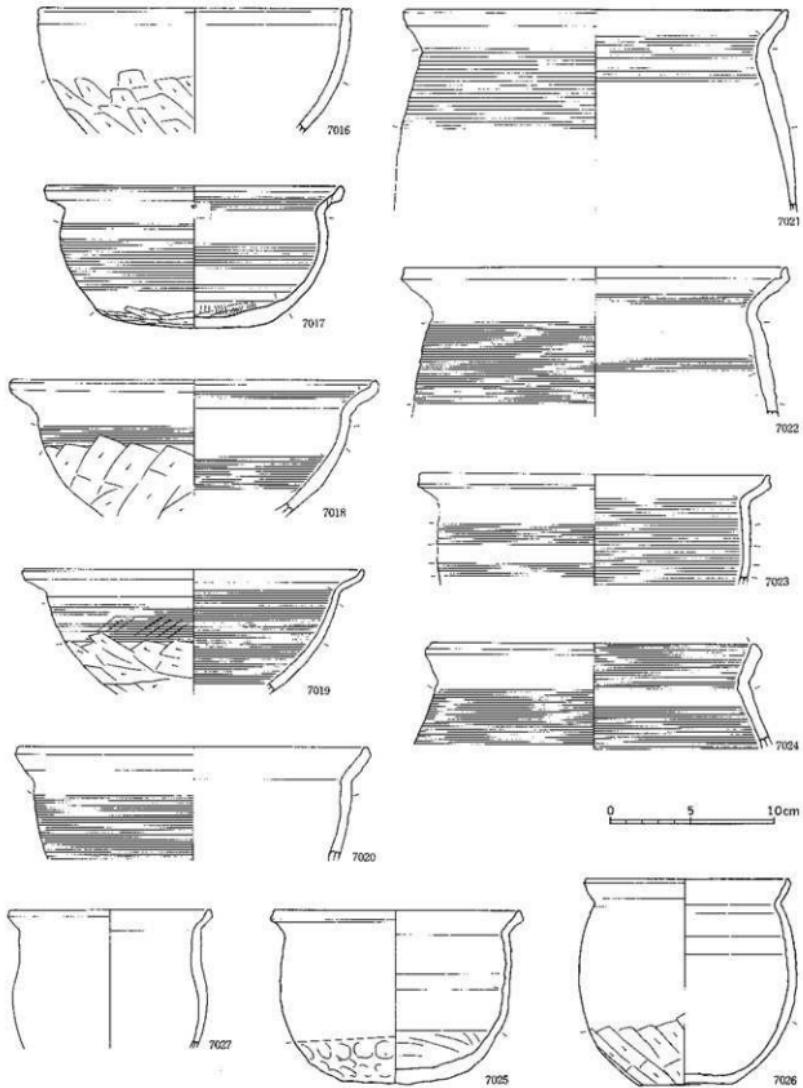


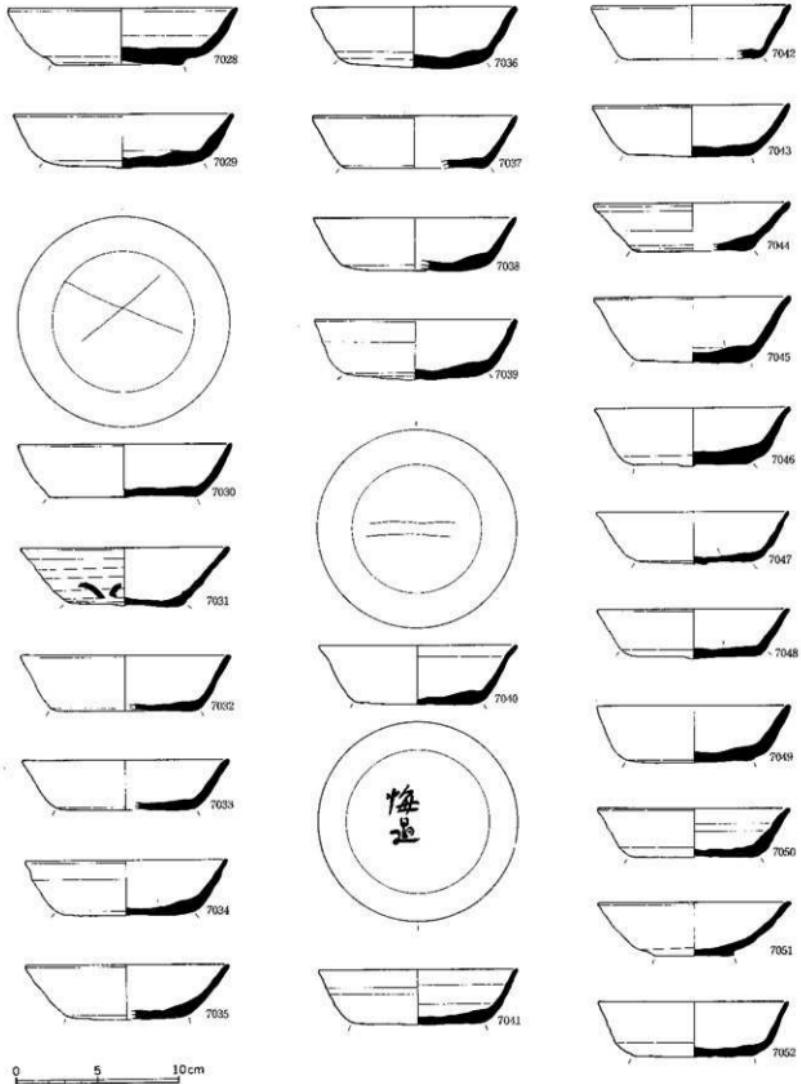
奈良平安時代の土器類 東側調査地区出土土器

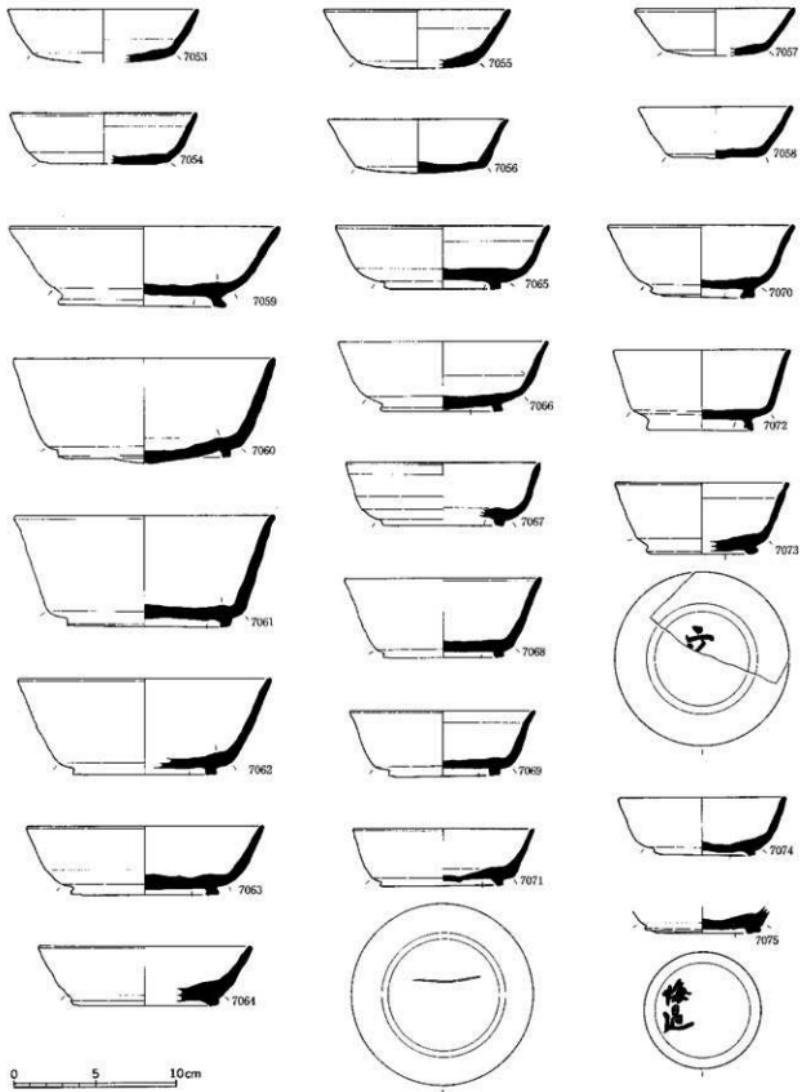
土師器；7001~7015，須惠器；7076·7094~7096·7098

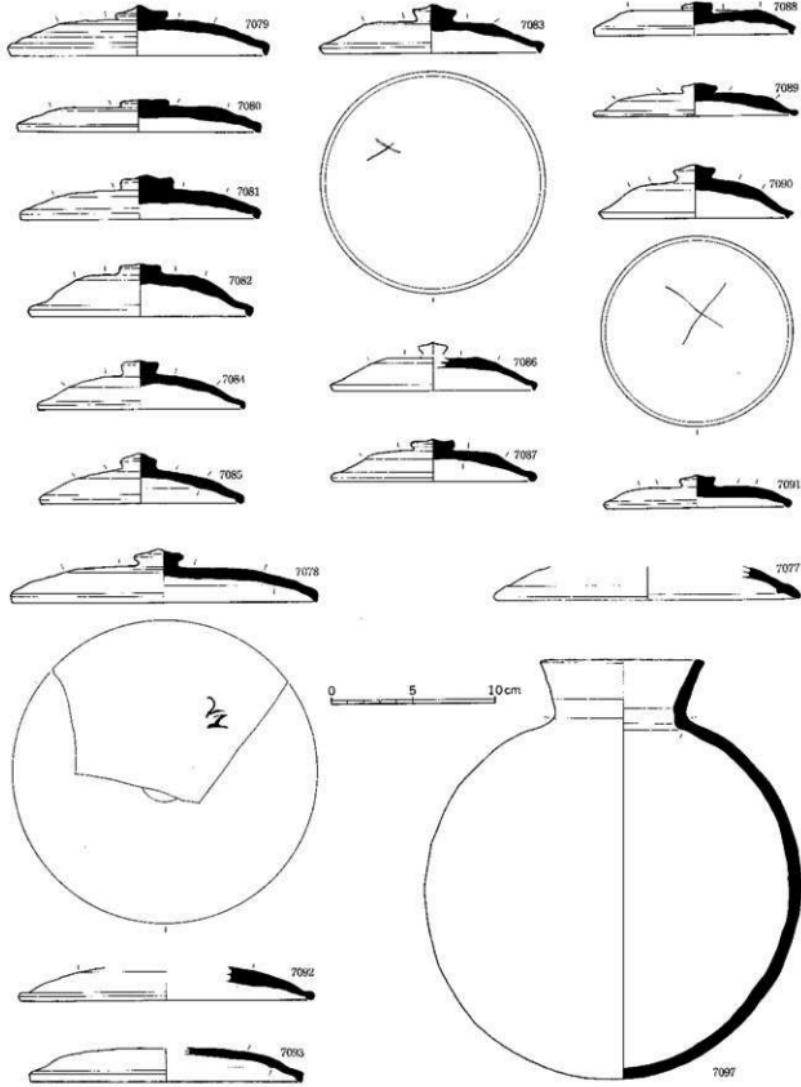
縮尺 1/3

図面一二九 遺物実測図 東木津遺跡







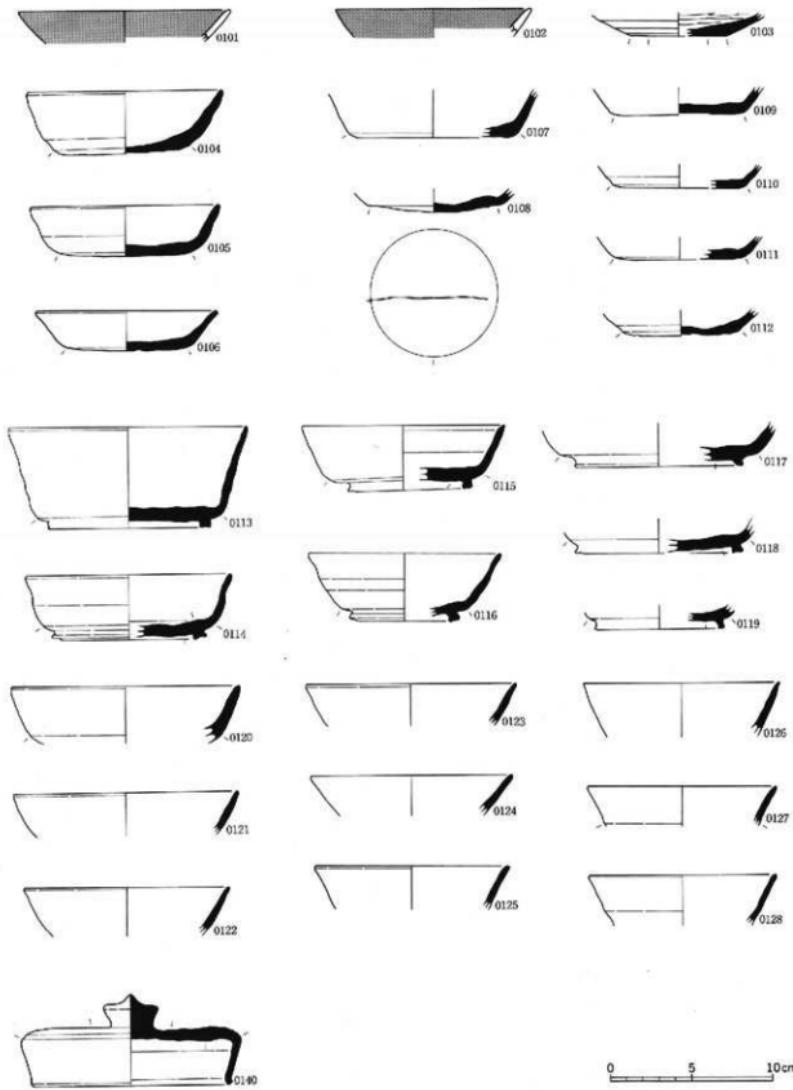


奈良平安時代の土器類 東側調査地区出土土器
須應器

縮尺 1 / 3

図面一三三 遺物実測図

東木津遺跡

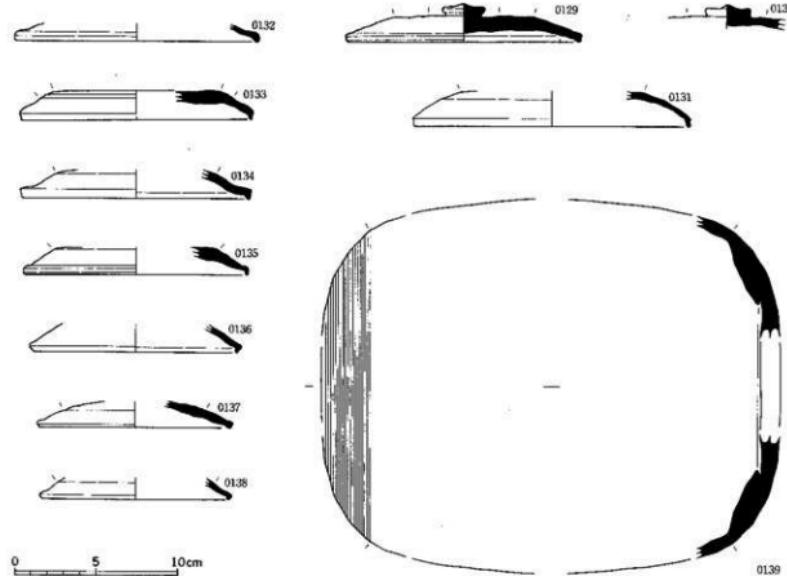


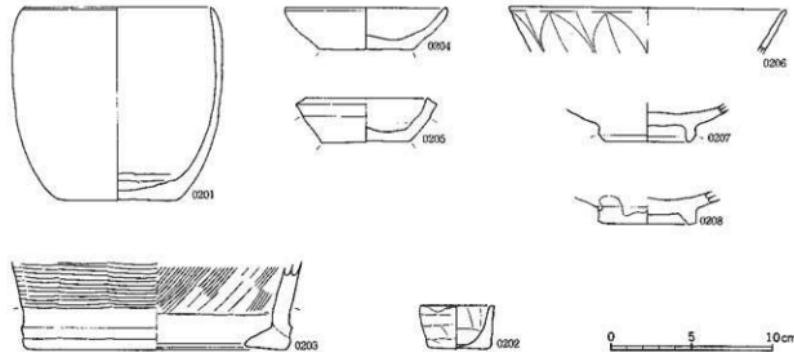
0 5 10cm

奈良平安時代の土器類 堀立柱建物址出土土器

縮尺 1 / 3

土拂器；0101～0103、須恵器；0104～0128・0140



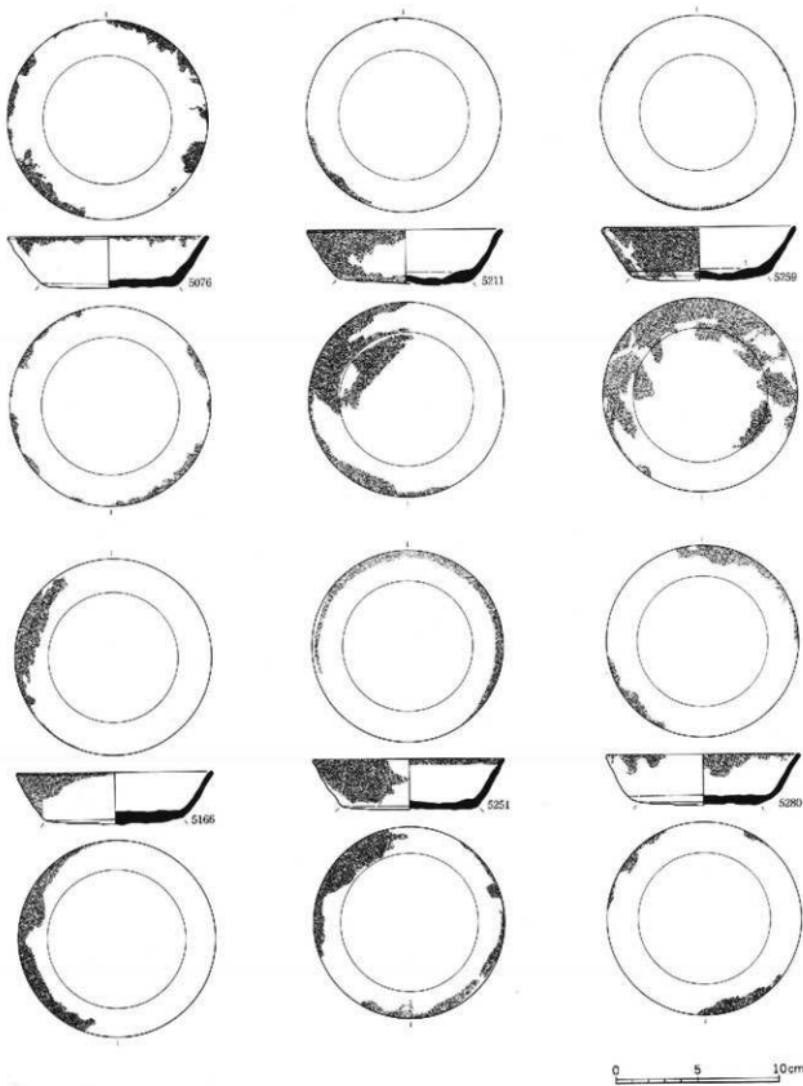


奈良平安時代の土器類 堀立柱建物址出土土器 須恵器
古代・中世の土器類 土師器：0201～0205、青磁：0206・0207、白磁：0208

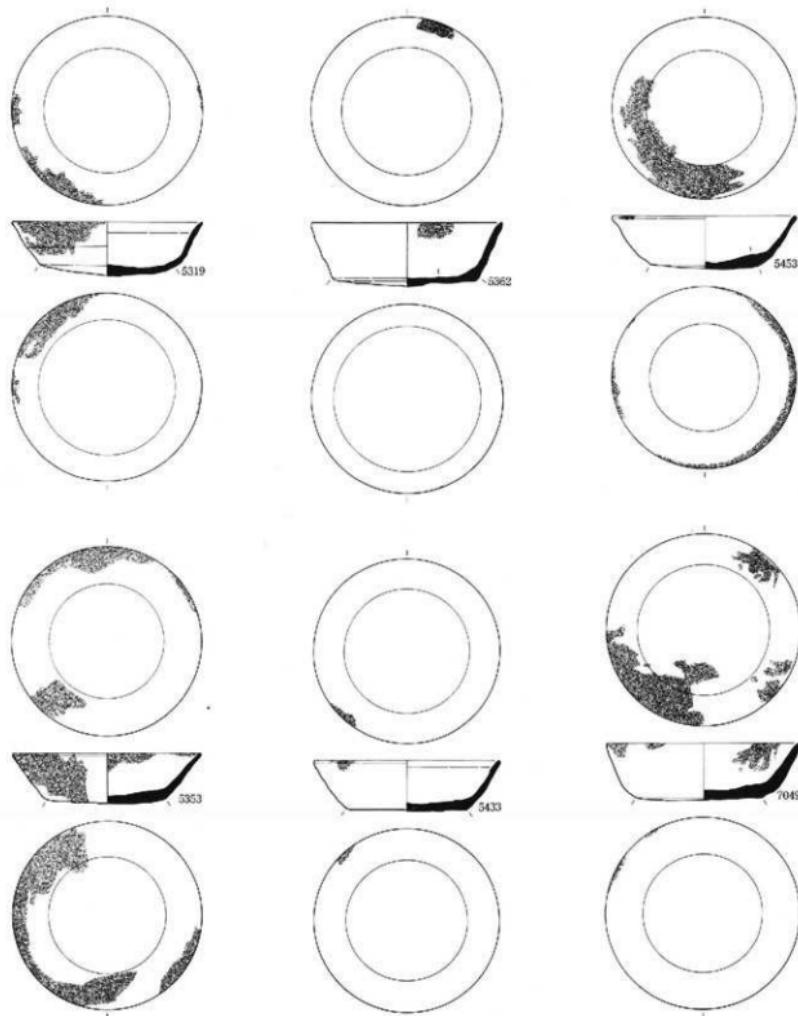
縮尺1/3
縮尺1/3

図面一三五 遺物実測図

東木津遺跡

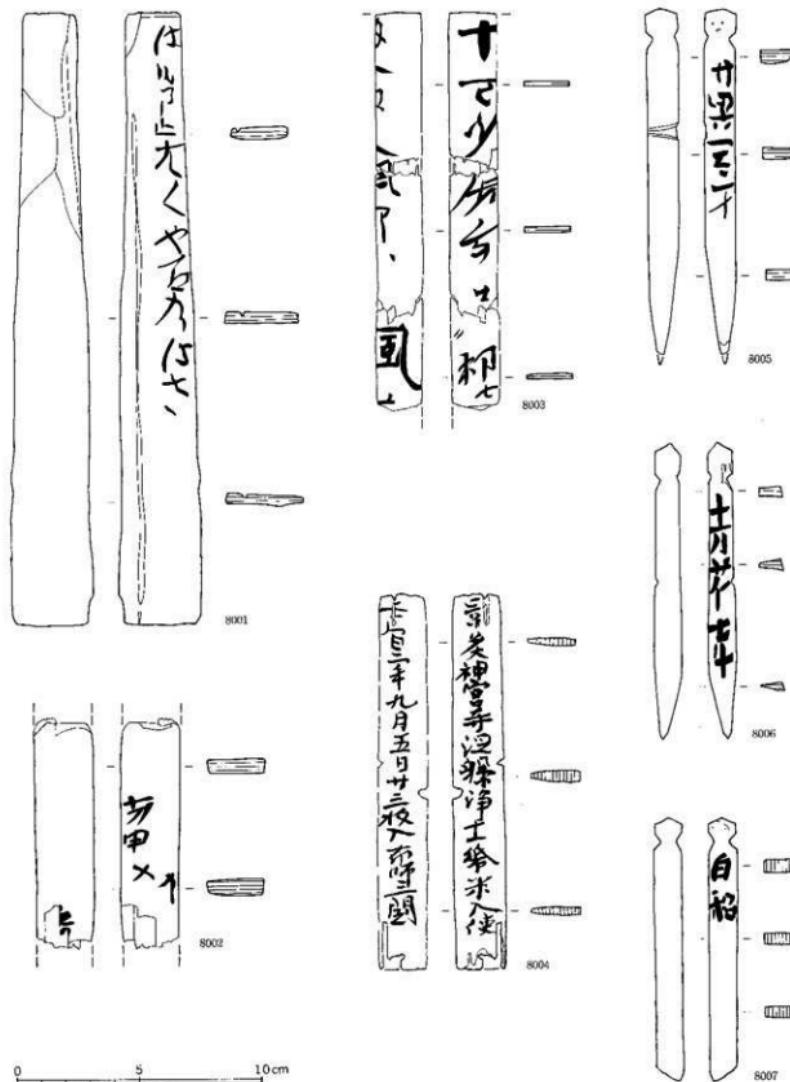


図面一三六 遺物実測図
東木津遺跡

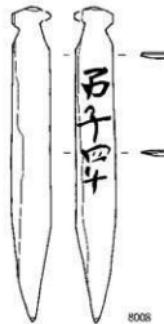


0 5 10cm

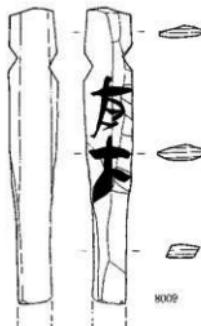
図面一三七 遺物実測図 東木津遺跡



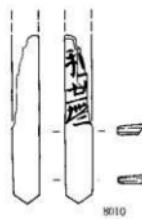
図面一三八 遺物実測図 東木津遺跡



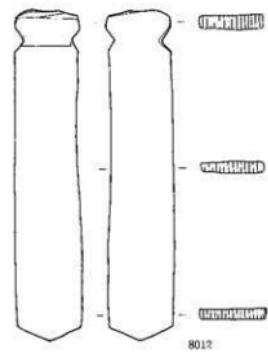
8008



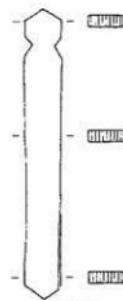
8009



8010

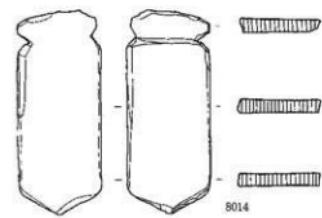


8012

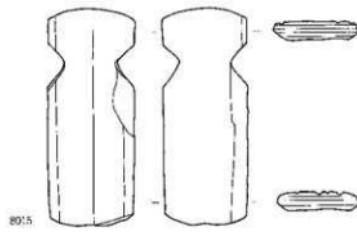


8013

0 5 10 cm



8014



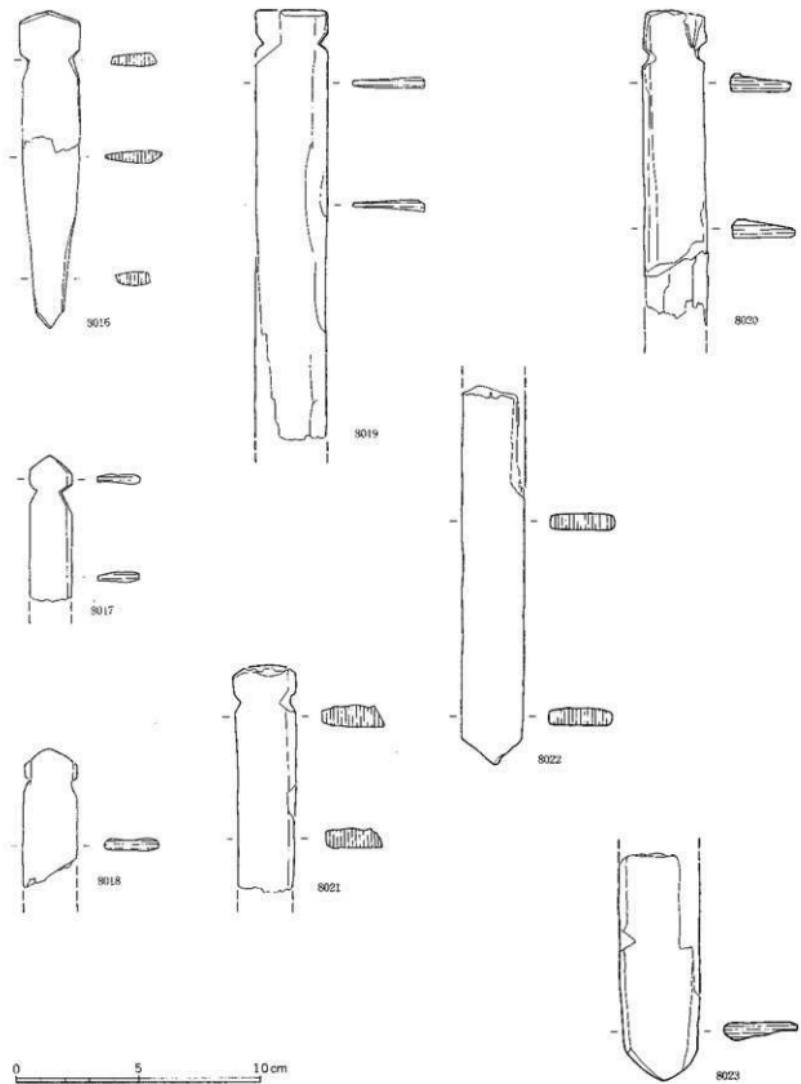
8015

木製品

木筒：8008～8011、木筒形：8012～8015

縮尺 1/2

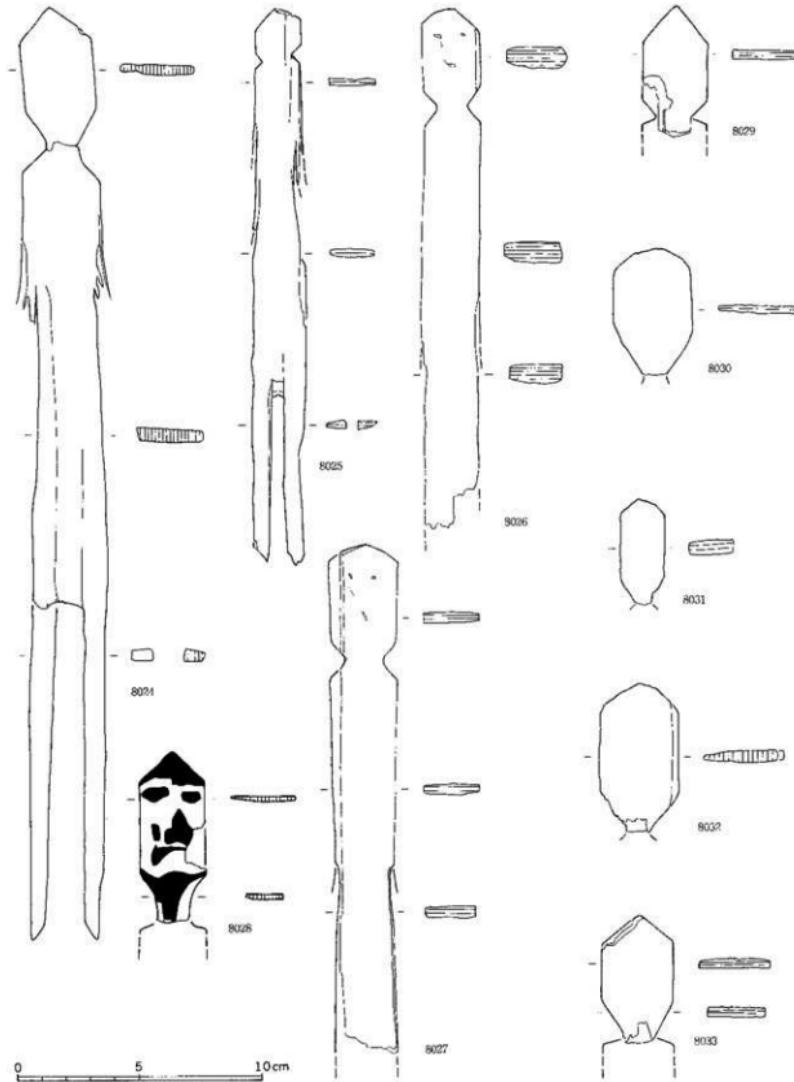
図面一三九 遺物実測図
東木津遺跡



木製品
木筒形

縮尺 1/2

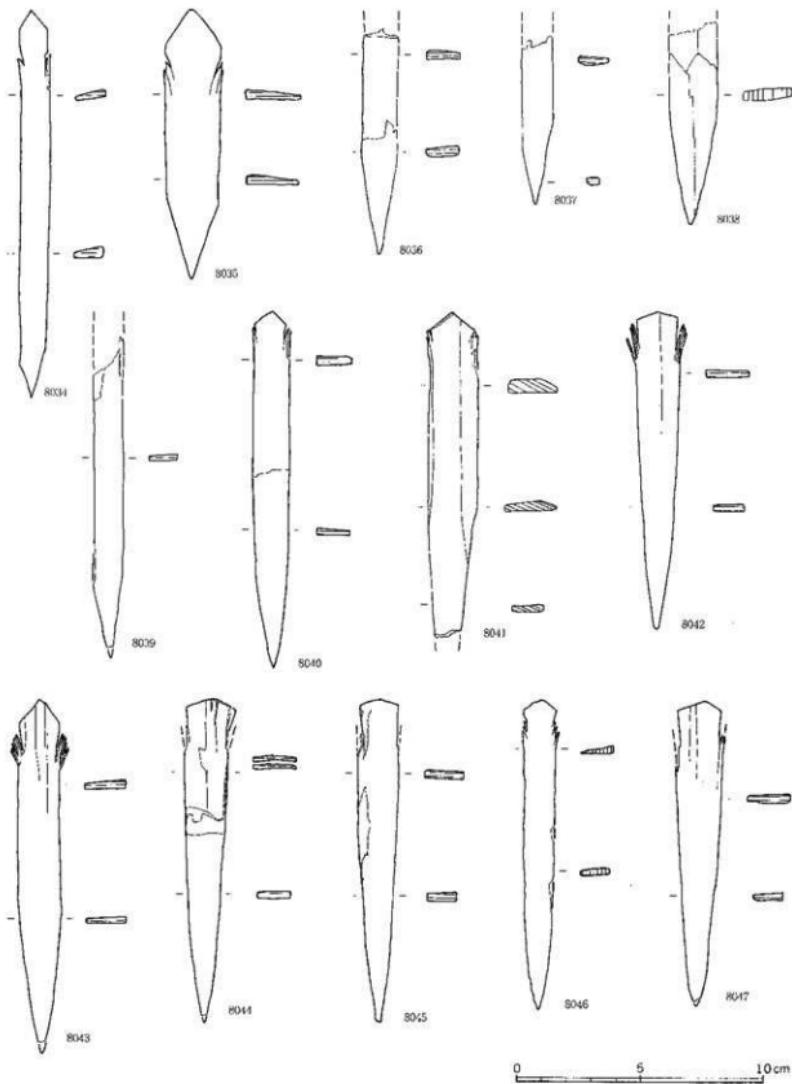
図面一四〇 遺物実測図 東木津遺跡



木製品
人形

縮尺 1/2

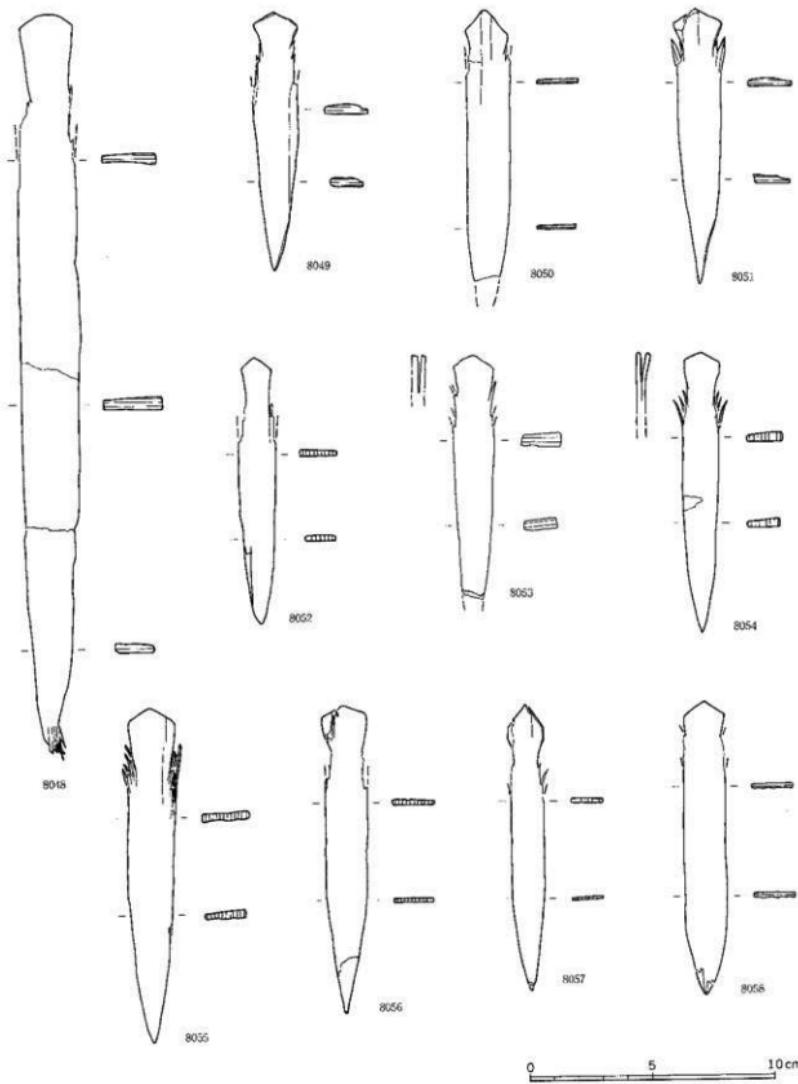
図面一四一 遺物実測図 東木津遺跡



本製品
薙車

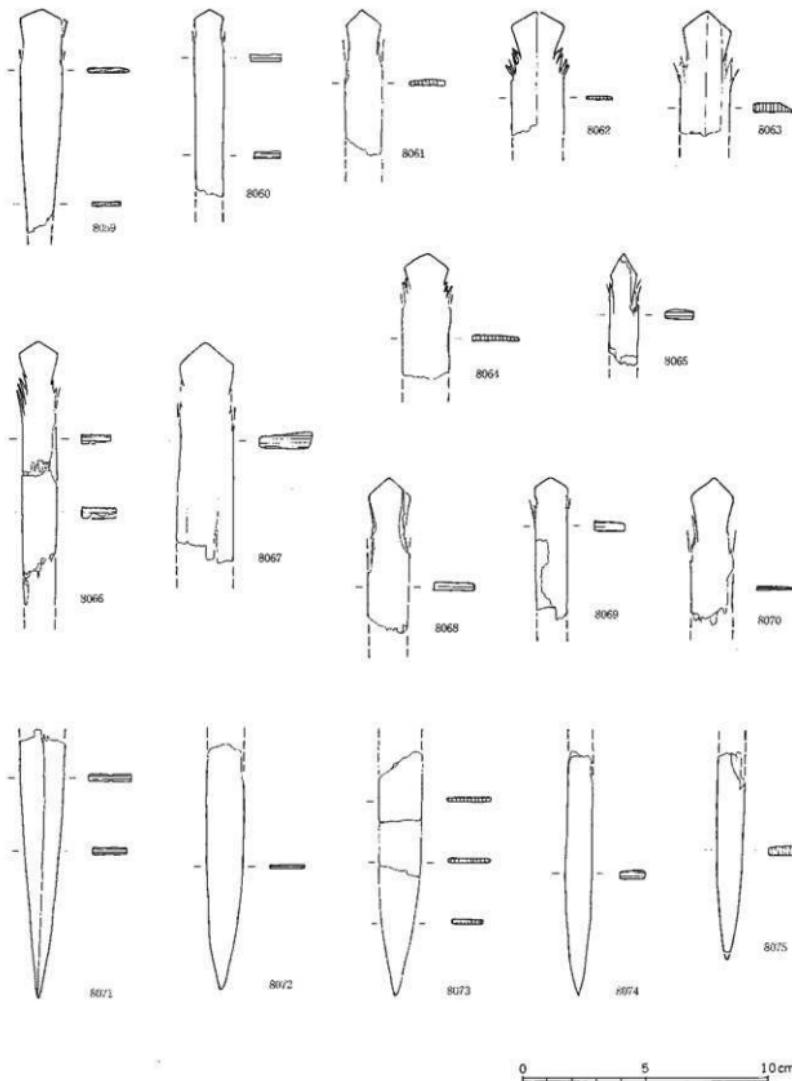
縮尺 1/2

図面一二 遺物実測図 東木津遺跡



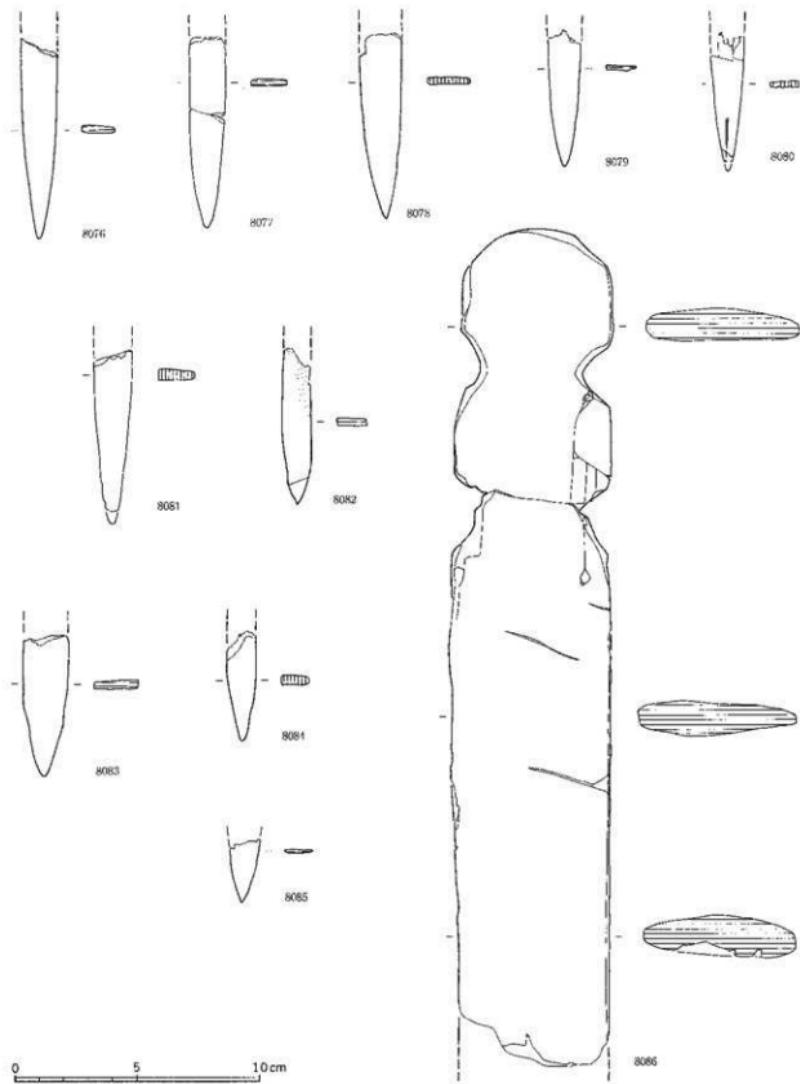
0 5 10 cm

図面一四三 遺物実測図 東木津遺跡



0 5 10 cm

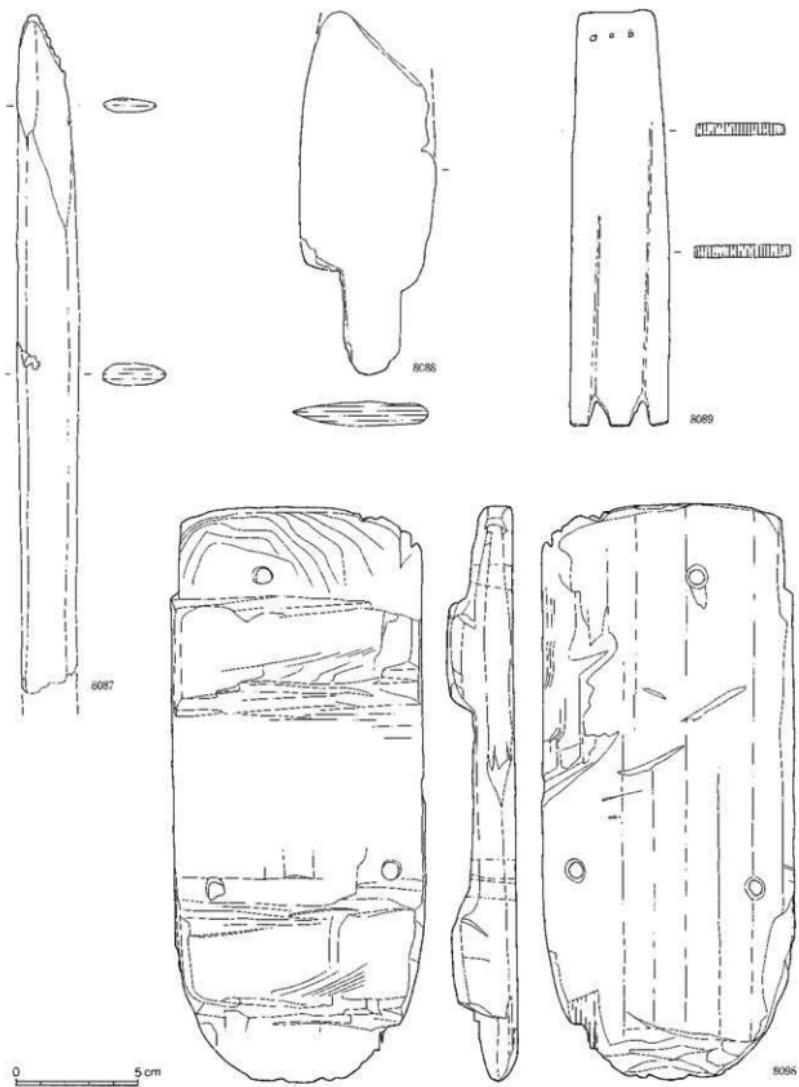
図面一四四 遺物実測図 東木津遺跡



本製品
新車

縮尺 1/2

図面一四五 遺物実測図 東木津遺跡

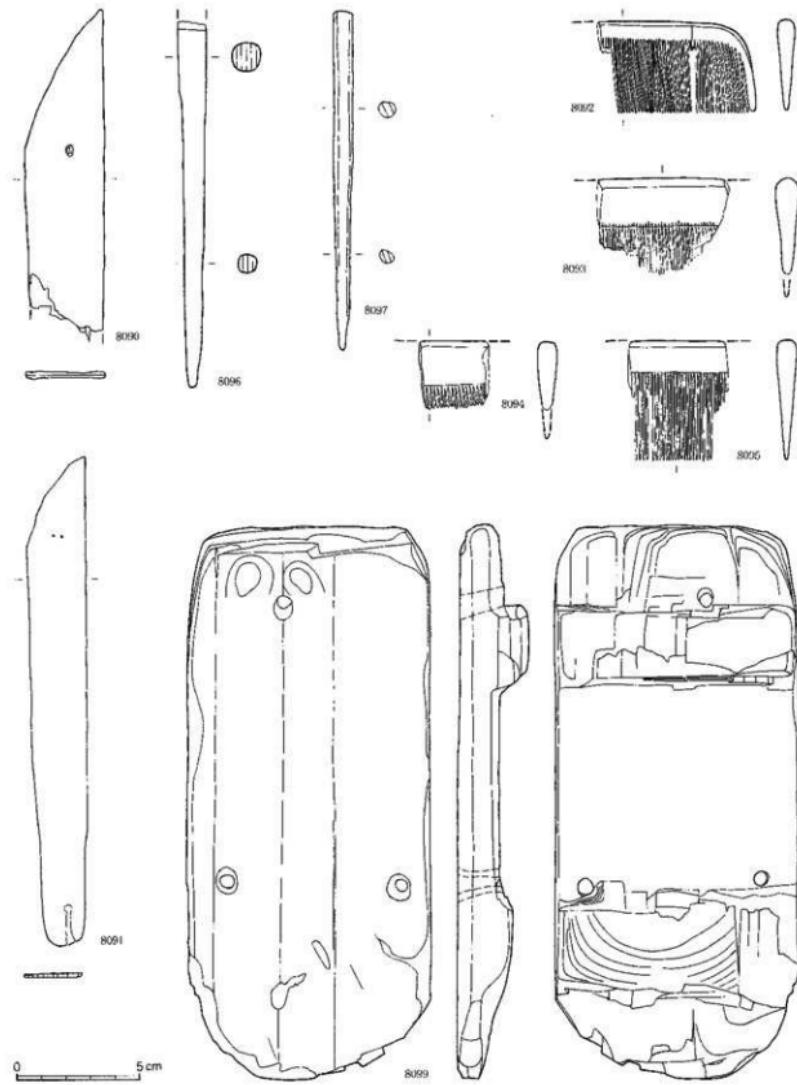


木製品

刀形：8087・8088、琴形：8089、下駄：8098

縮尺1/2

図面一四六 遺物実測図 東木津遺跡

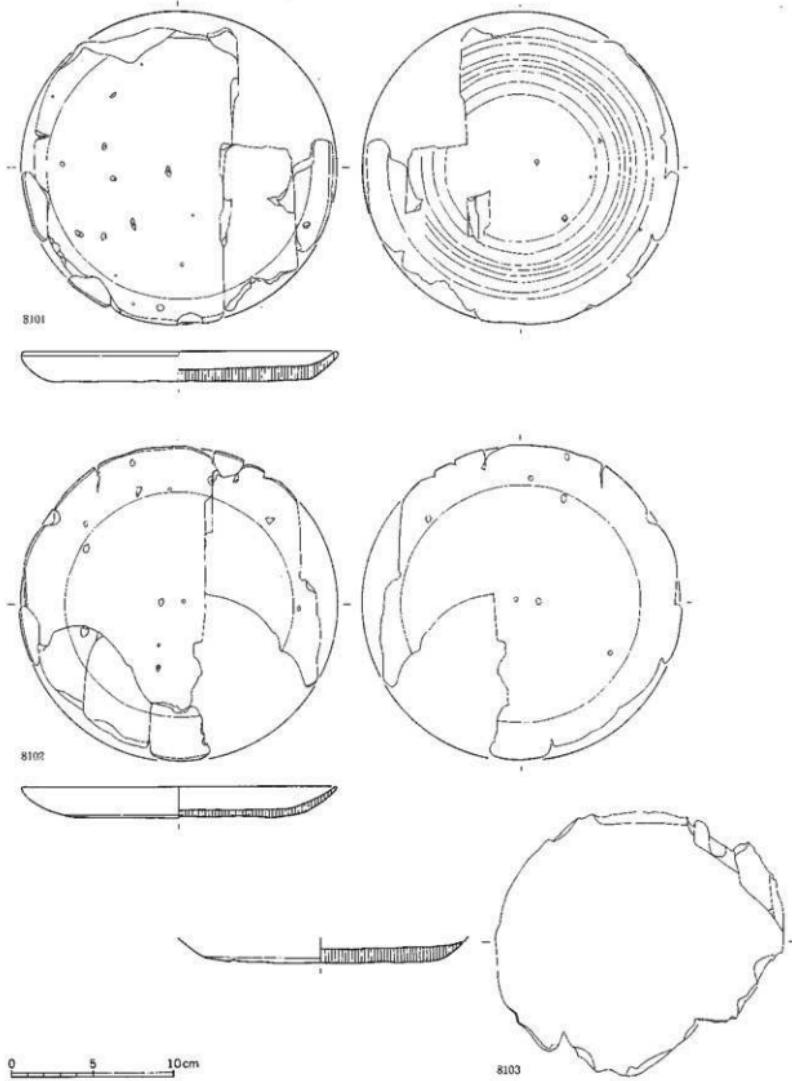


木製品

槍頭：8090・8091、横櫛：8092～8095、針：8096・8097、下駄：8099

縮尺1/2

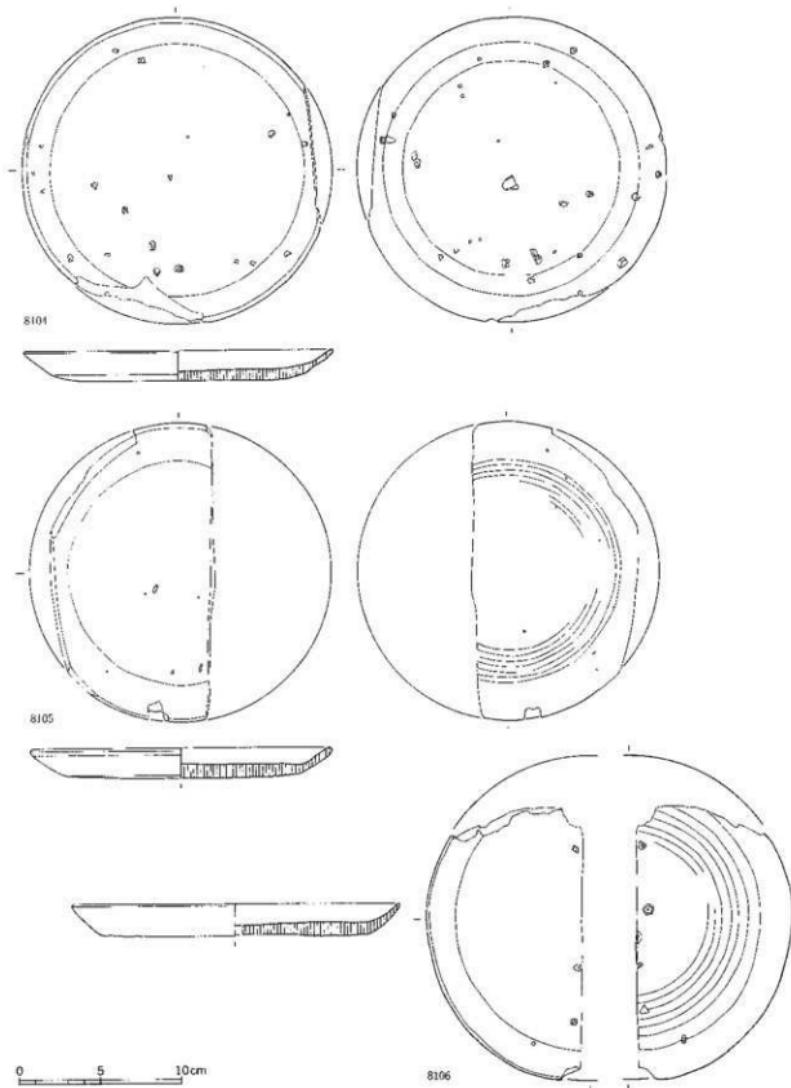
図面一四七 遺物実測図 東木津遺跡



木製品
遺物

縮尺 1 / 3

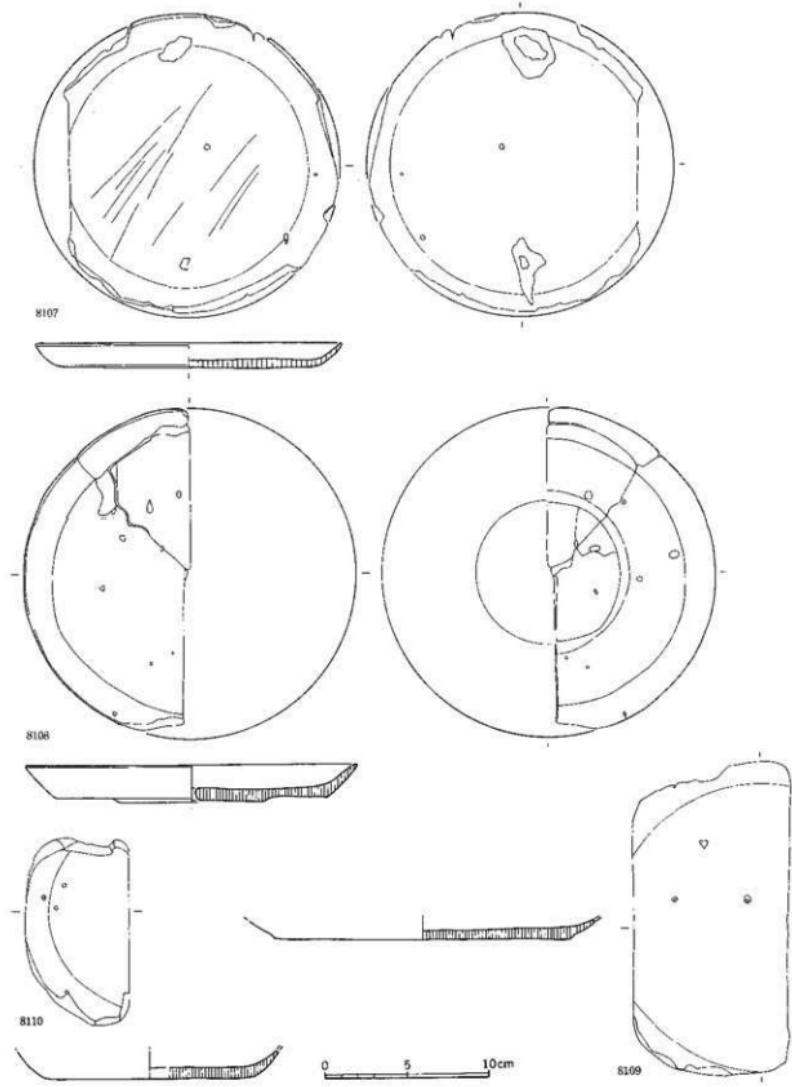
図面一四八 遺物実測図 東木津遺跡



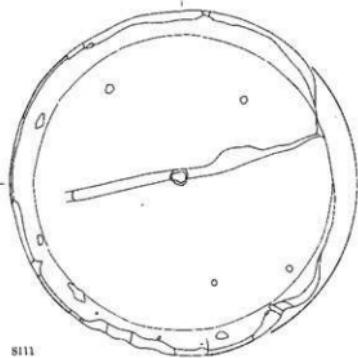
木製品
挽物

縮尺1/3

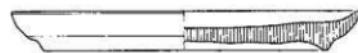
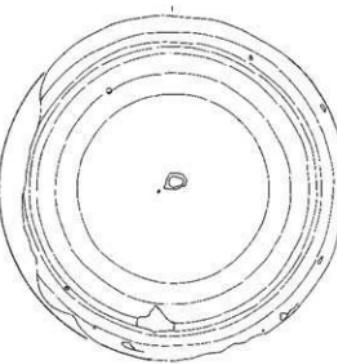
図面一四九 遺物実測図 東木津遺跡



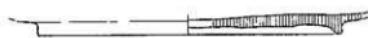
図面一五〇 遺物実測図 東木津遺跡



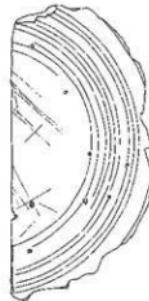
S111



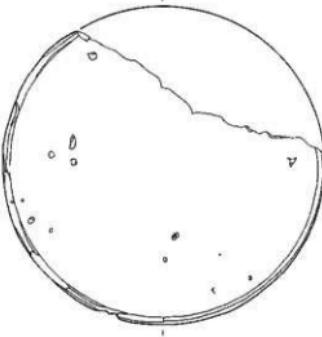
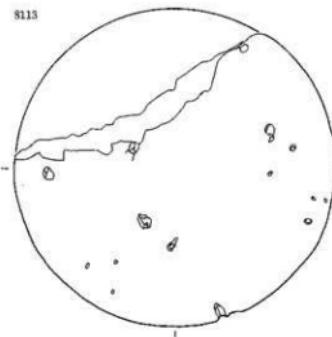
0 5 10cm



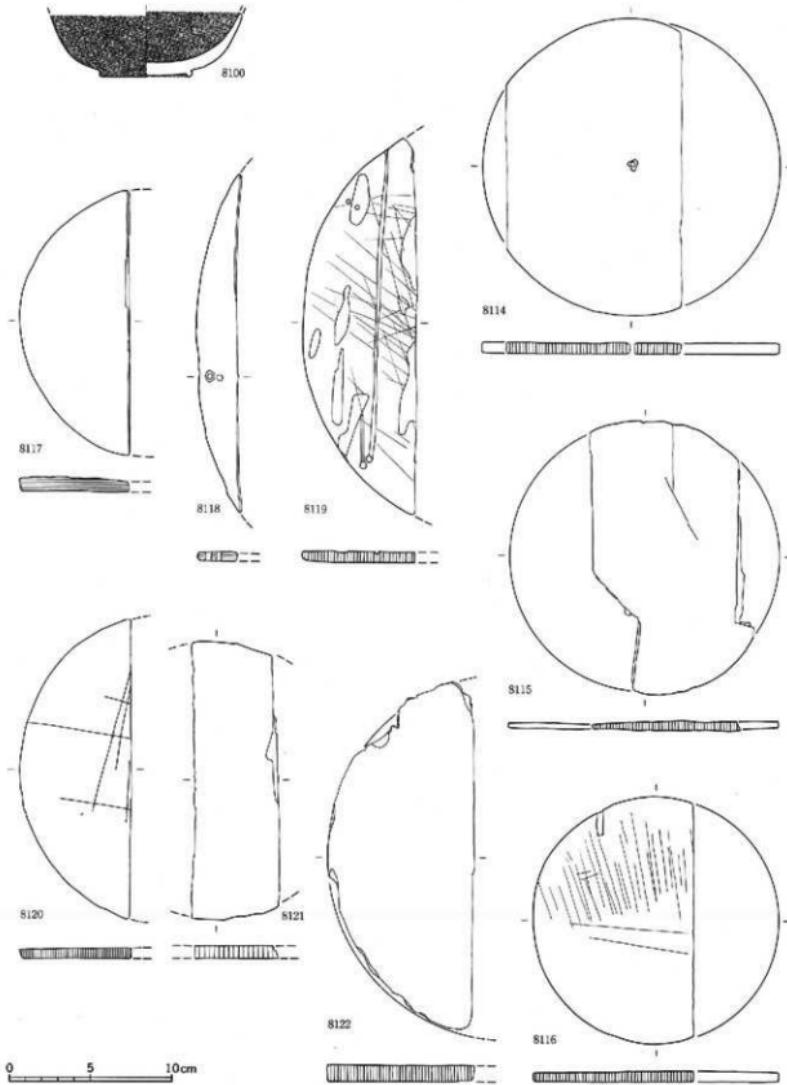
S112



S113



図面一五一 遺物実測図 東木津遺跡

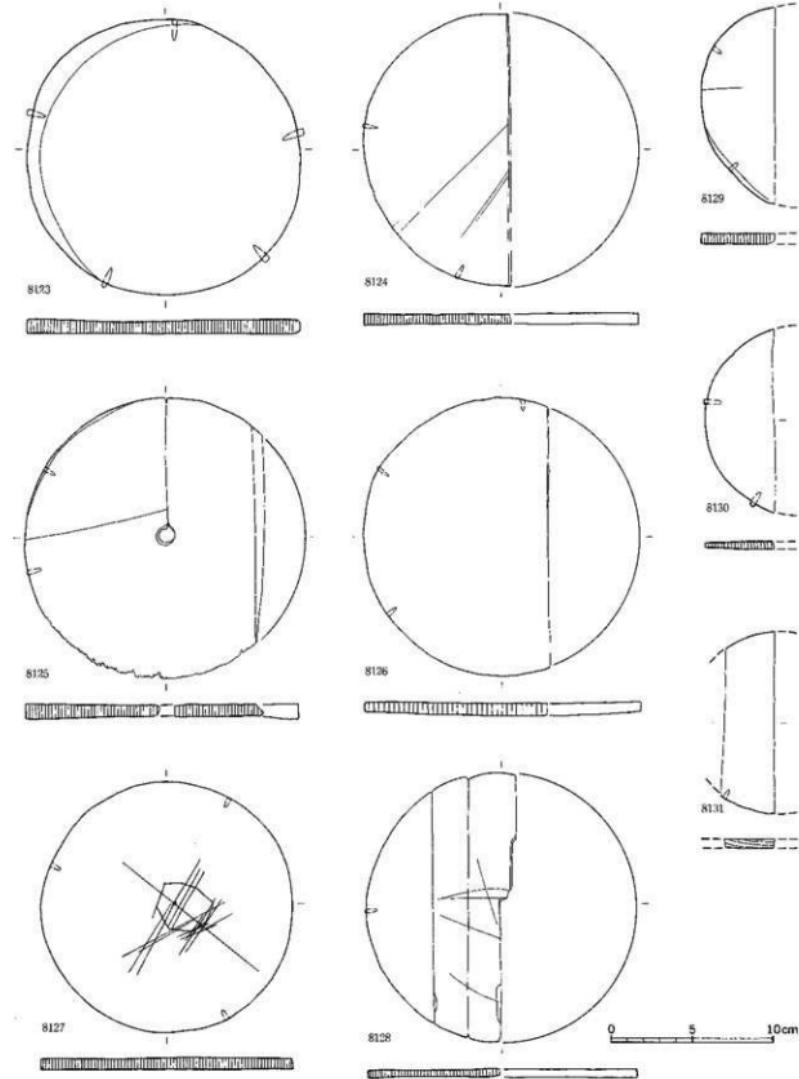


木製品

挽物：8100, 蓋：8114～8122

縮尺 1/3

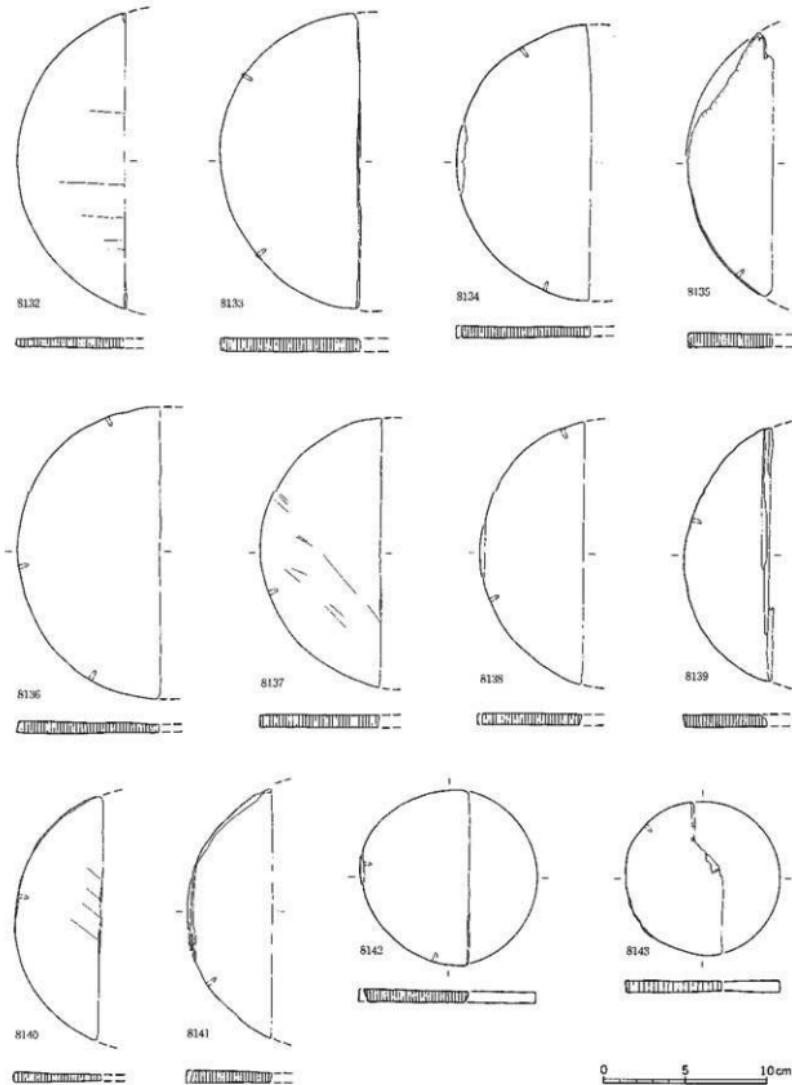
図面一五二 遺物実測図 東木津遺跡



木製品
曲物

縮尺 1/3

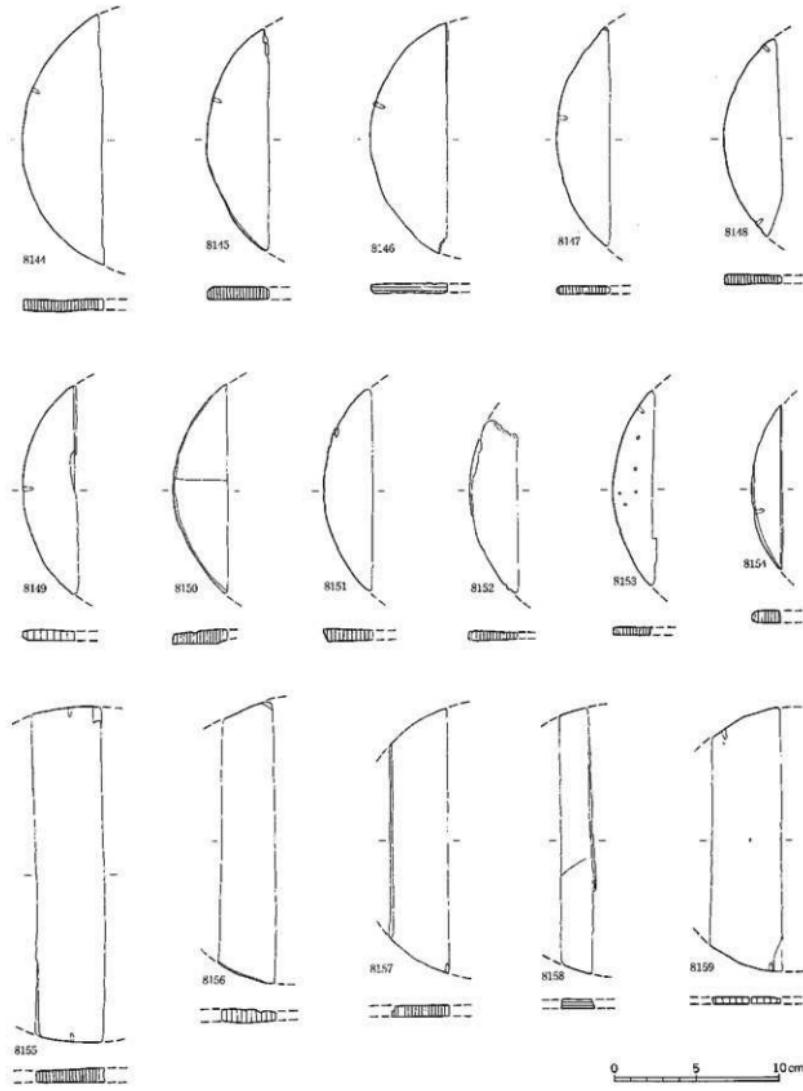
図面一五三 遺物実測図 東木津遺跡



木製品
曲物

縮尺1/3

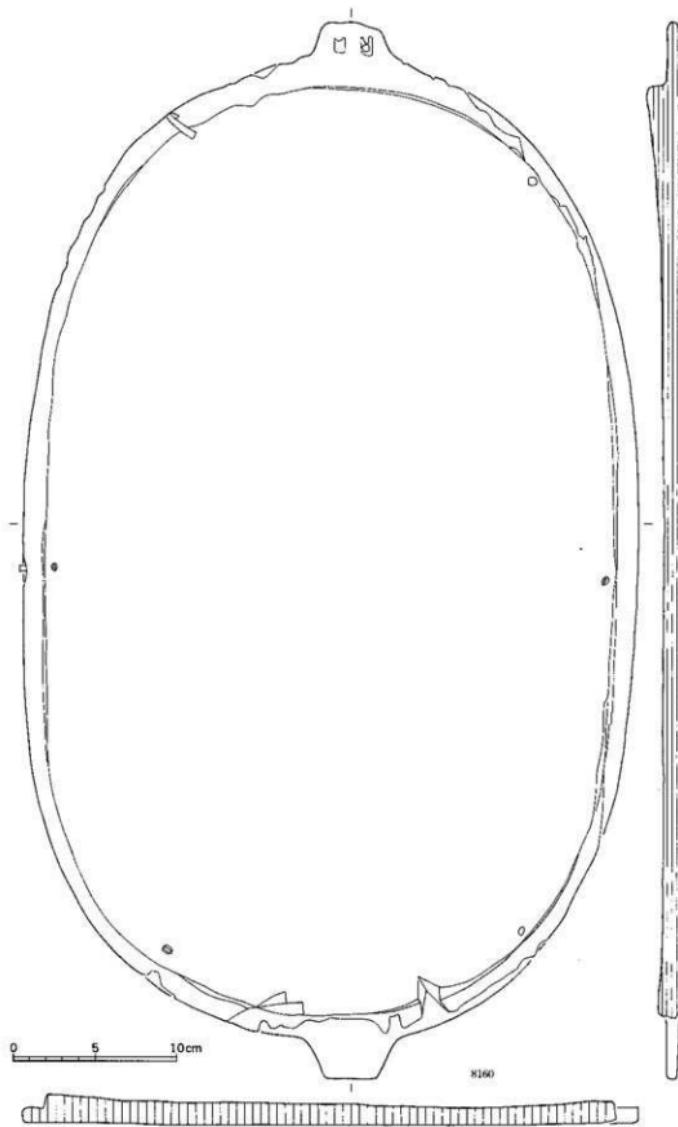
図面一五四 遺物実測図 東木津遺跡



木製品
曲物

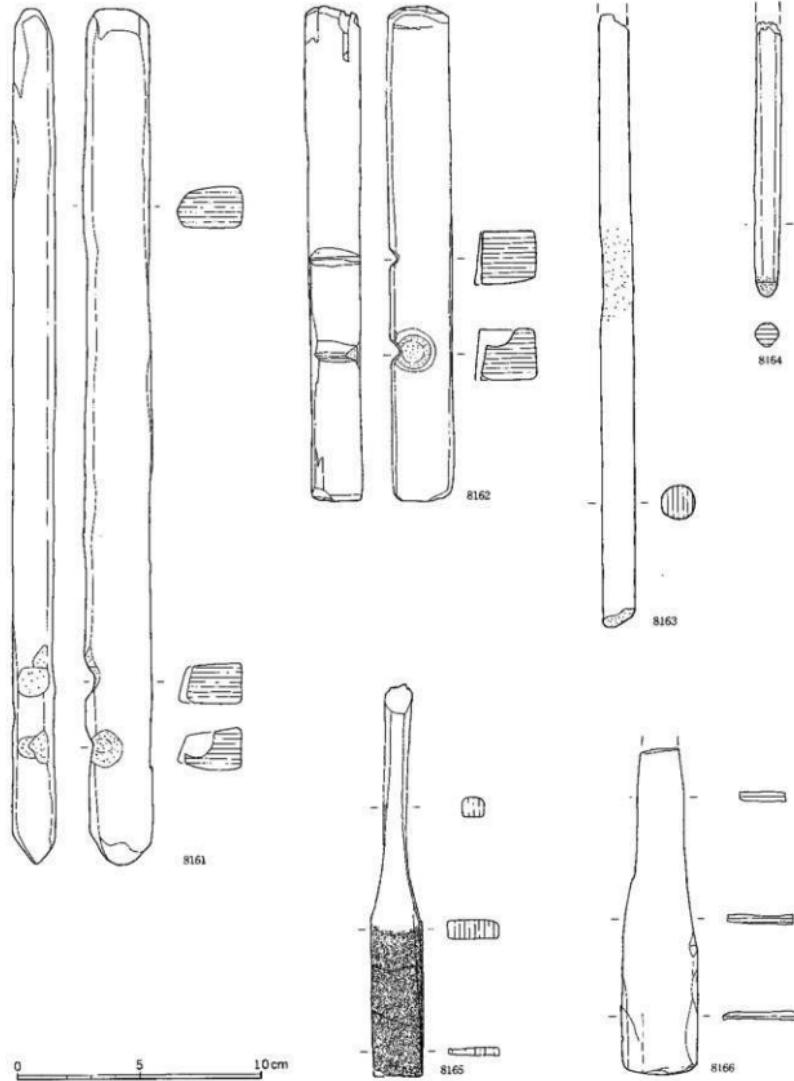
縮尺 1/3

圖面一五五 遺物実測図
東木津遺跡



縮尺 1/3

図面一五六 遺物実測図 東木津遺跡

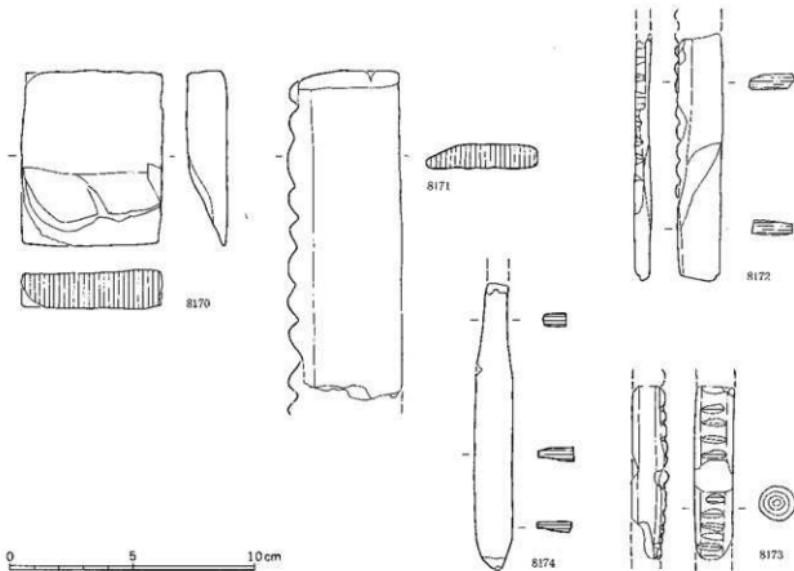
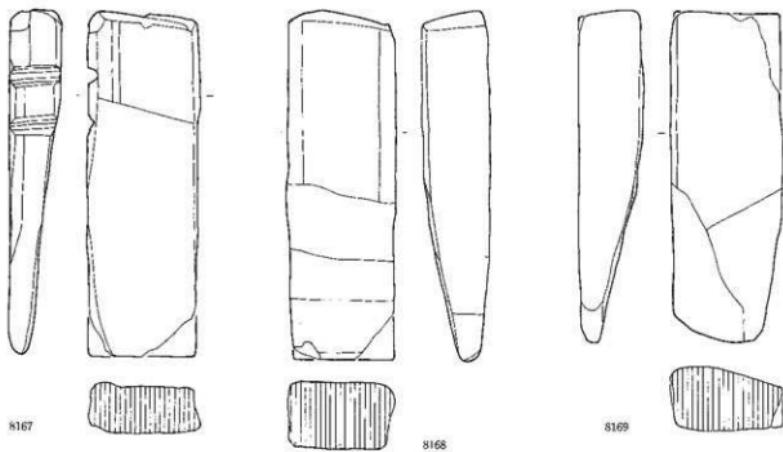


木製品

火媒板；8161・8162, 火媒棒；8163・8164, 刷毛状具；8165・8166

縮尺 1/3

図面一五七 遺物実測図 東木津遺跡

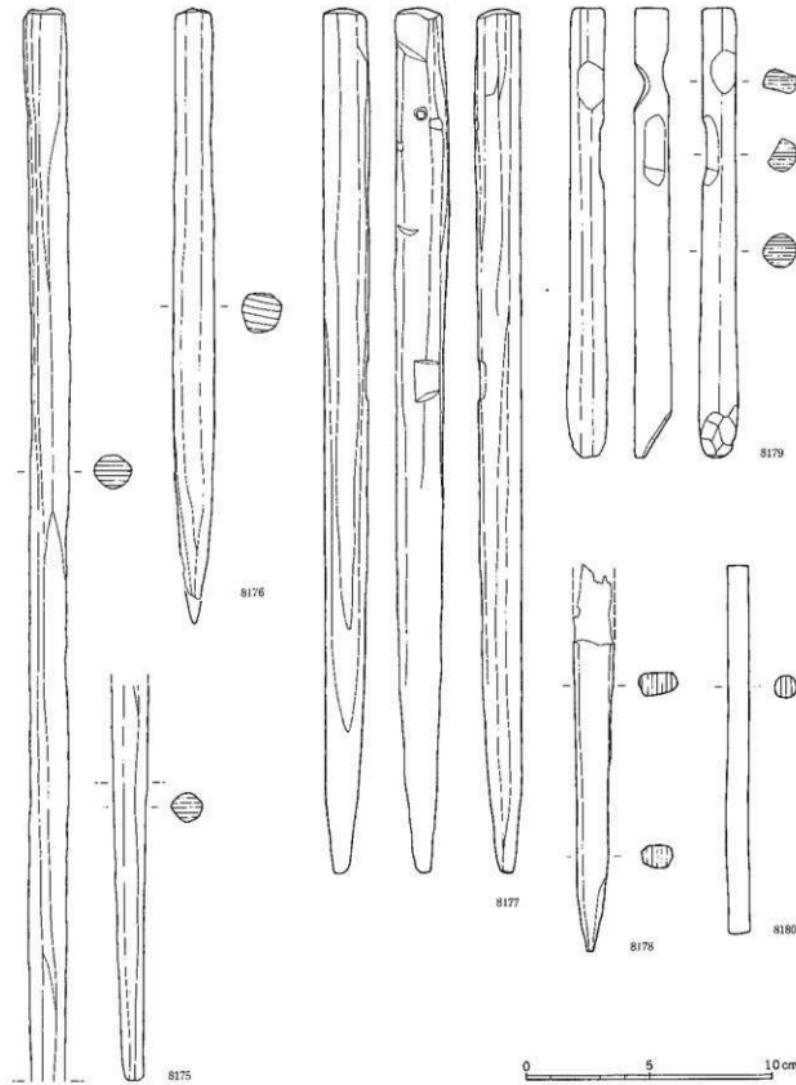


木製品

櫛：8167～8170、針：8171～8173、錐形具：8174

縮尺1/2

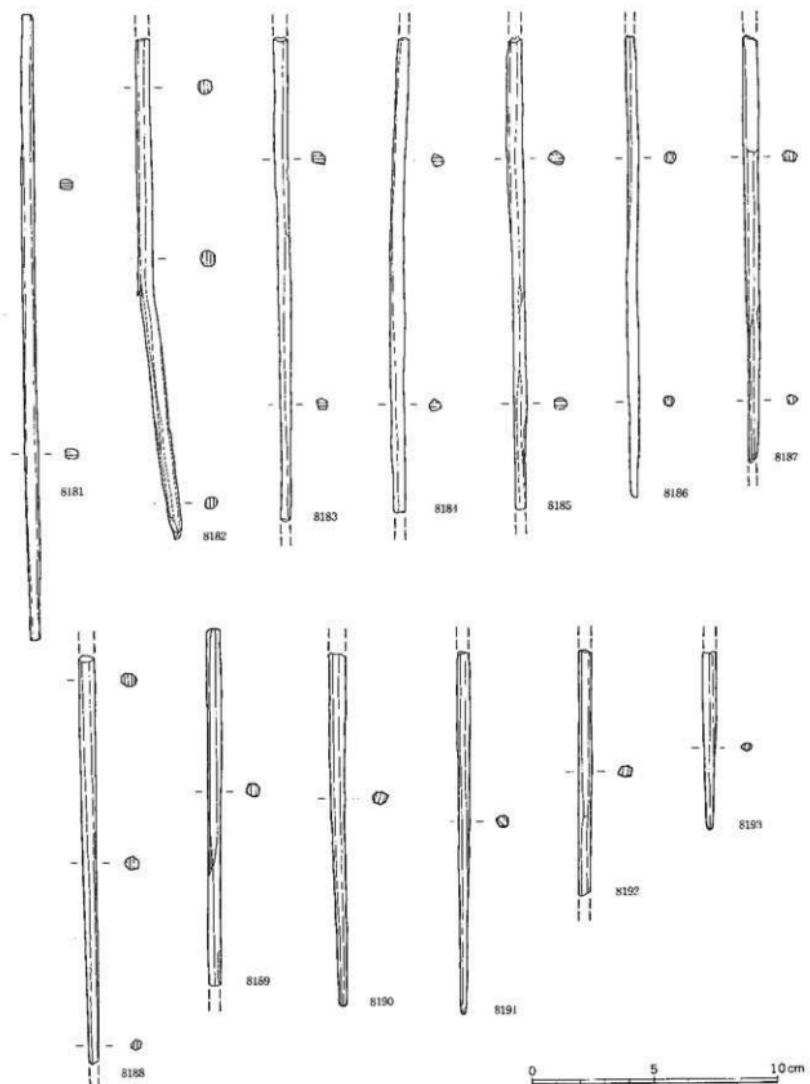
圖面一五八 遺物実測図 東木津遺跡



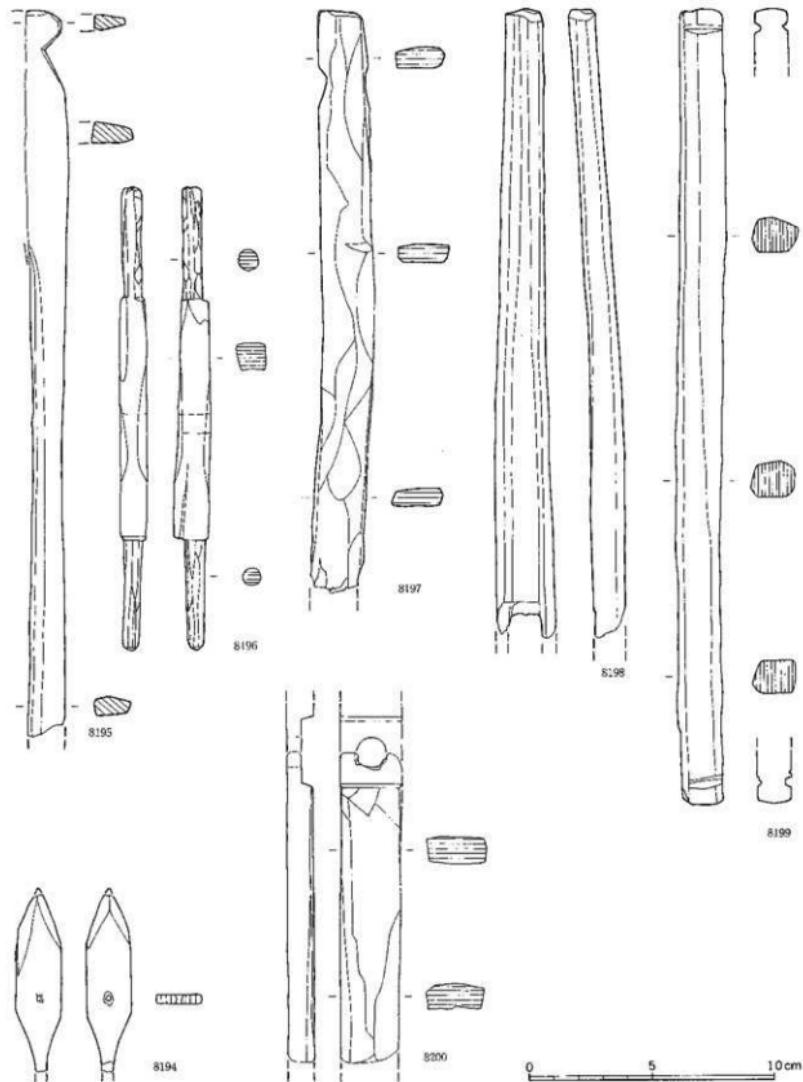
本製品
棒状品

縮尺 1/2

図面一五九 遺物実測図 東木津遺跡



図面一六〇 遺物実測図 東木津遺跡

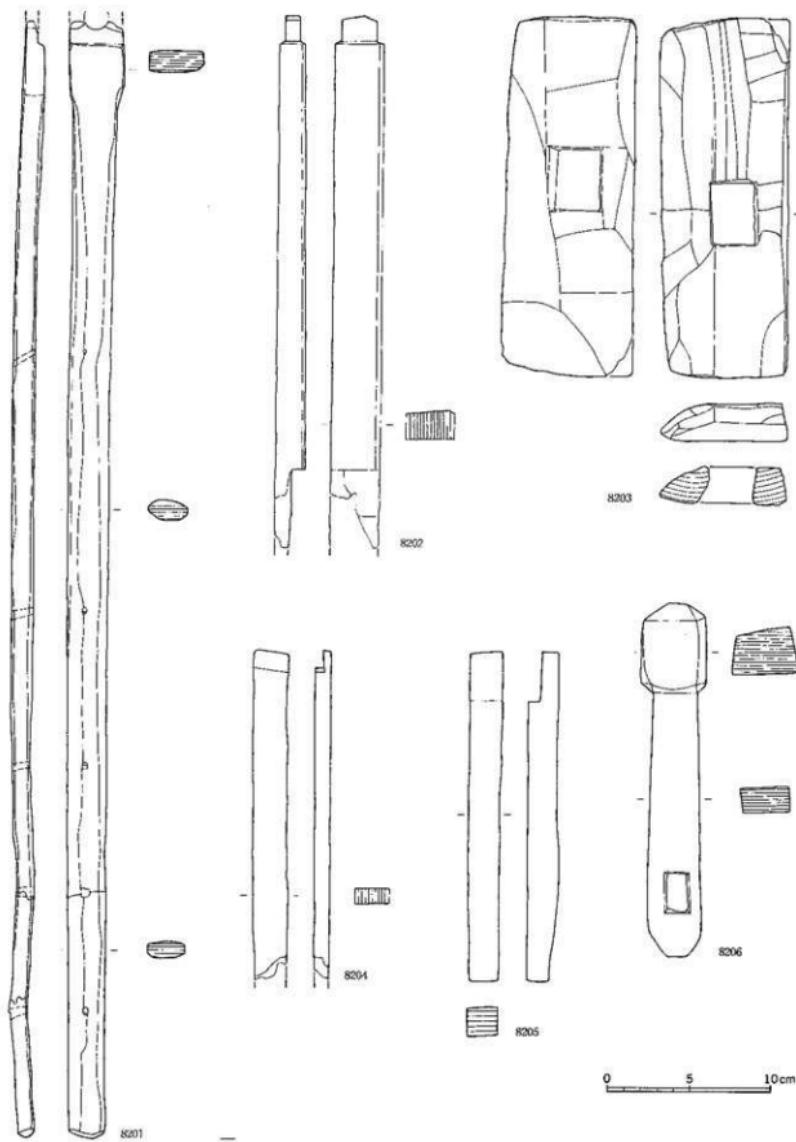


木製品

用途不明品

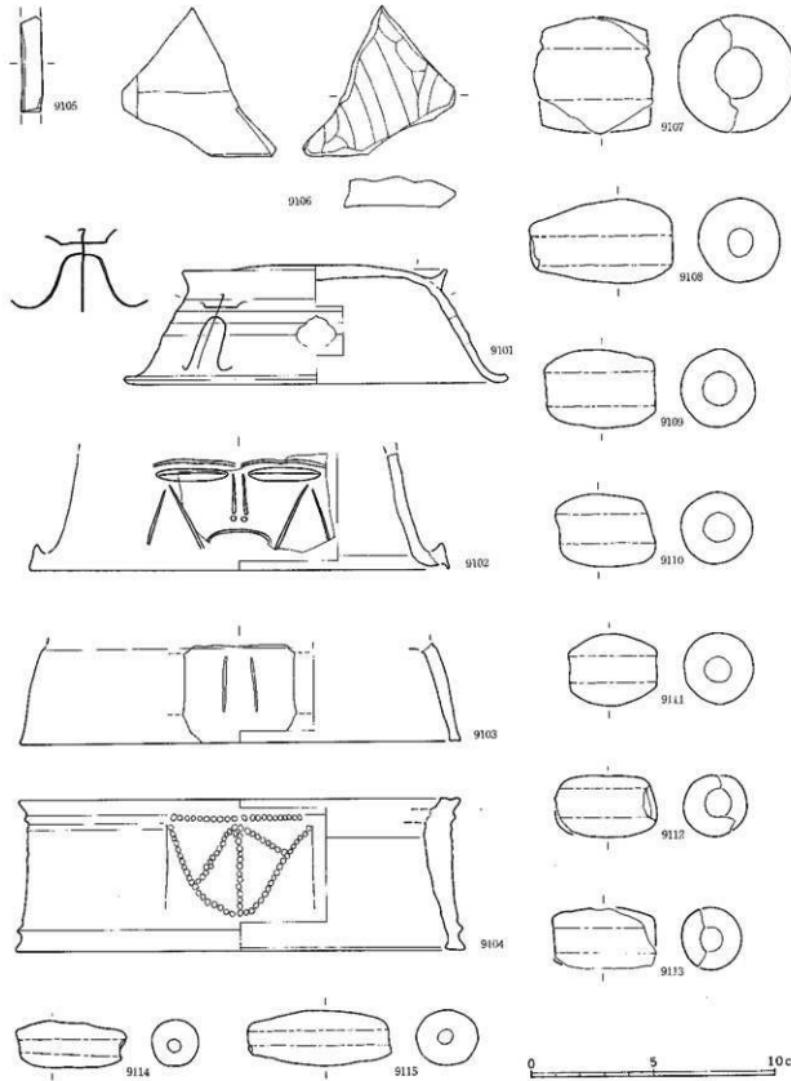
縮尺 1/2

図面一六一 遺物実測図 東木津遺跡



木製品 用途不明品：8201、部材：8202～8206

縮尺1/3

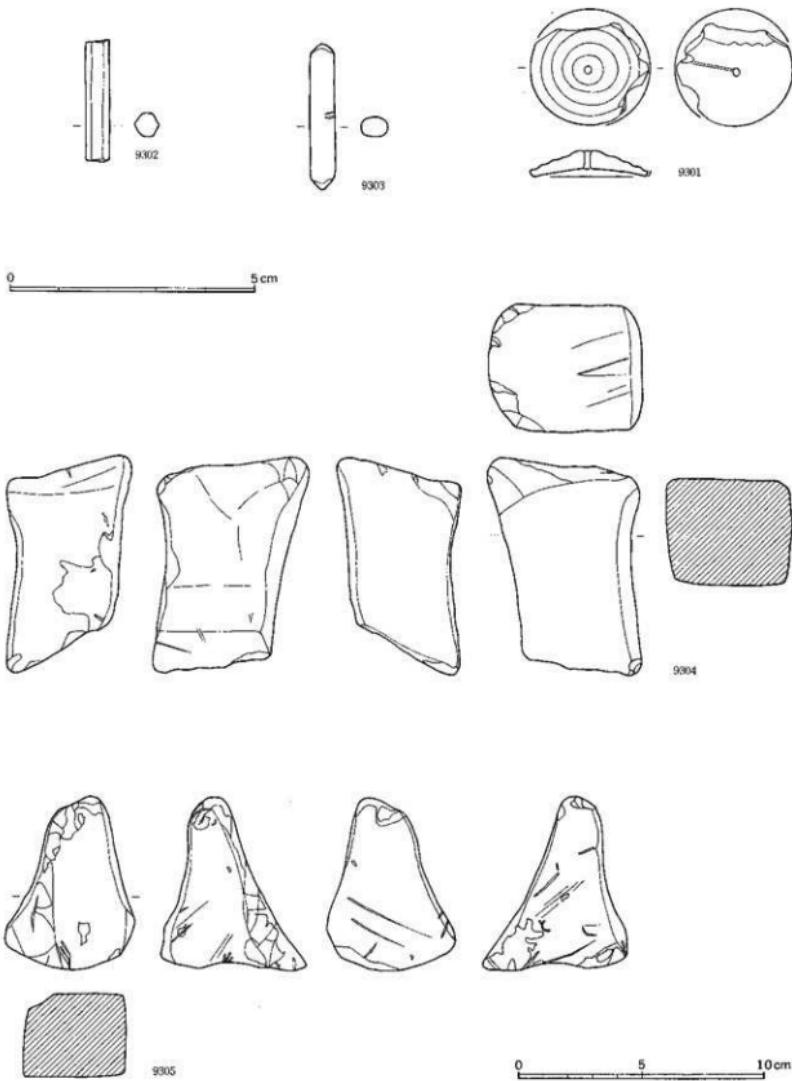


土製品

陶規: 9101~9104, 瓦塔: 9105・9106, 土鉢: 9107~9115

縮尺1/2

図面一六三 遺物実測図 東木津遺跡

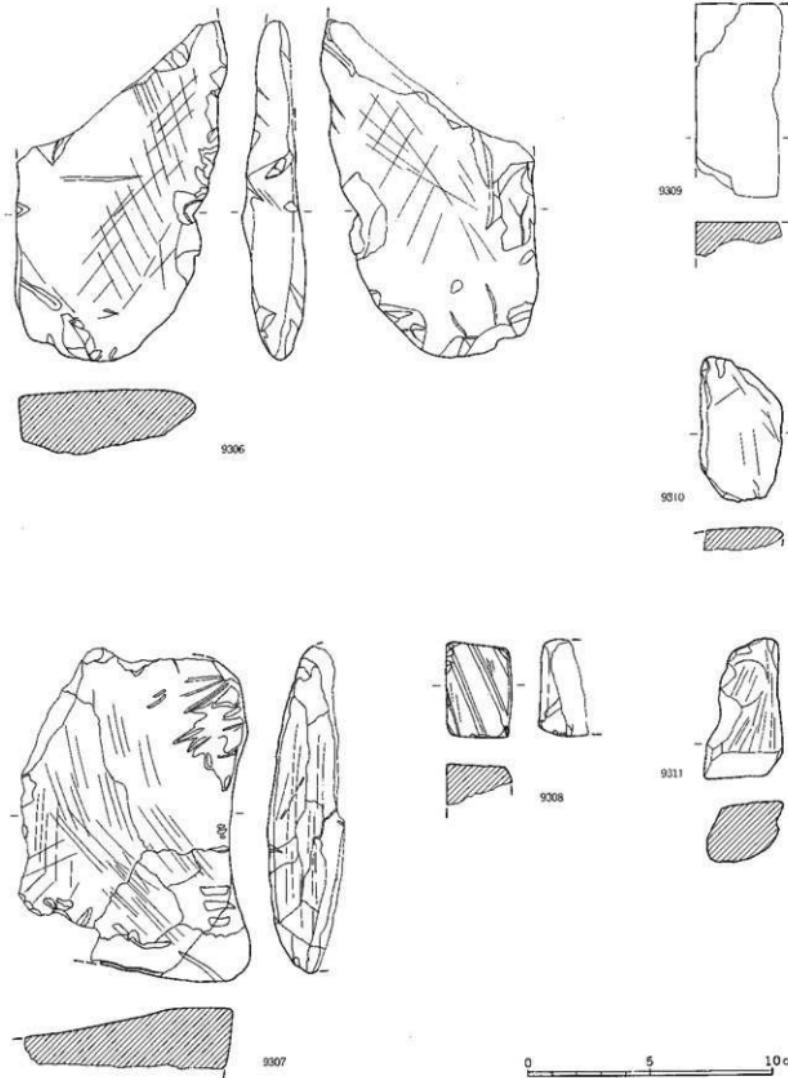


石製品

紡錘車形石製品：9301、管玉：9302、細形棒状品：9303、砥石：9304、9305

縮尺 実大・1/2

図面一六四 遺物実測図 東木津遺跡



石製品
砾石

縮尺 1 / 2

図 版



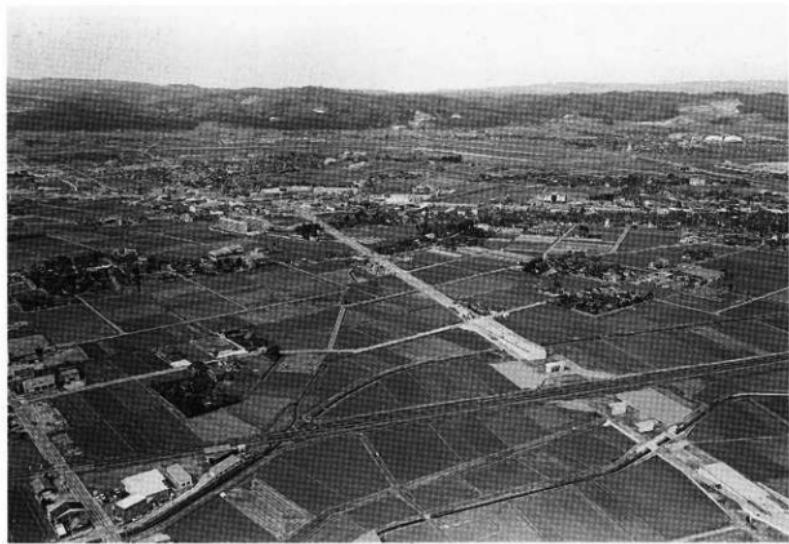
1. 遺跡遠景（西）



2. 遺跡遠景（南東）



1. 調査地区遠景（南西）



2. 調査地区遠景（南）



1. 西側調査地区遠景（南）



2. 西側調査地区全景（西）

図版〇〇四 遺構写真 石塚遺跡



1. 西側調査地区全景（北東）



2. 西側調査地区全景（南西）

圖版〇〇五
遺構写真
石塚遺跡



1. 東側調査地区遠景（南西）



2. 東側調査地区全景（南）

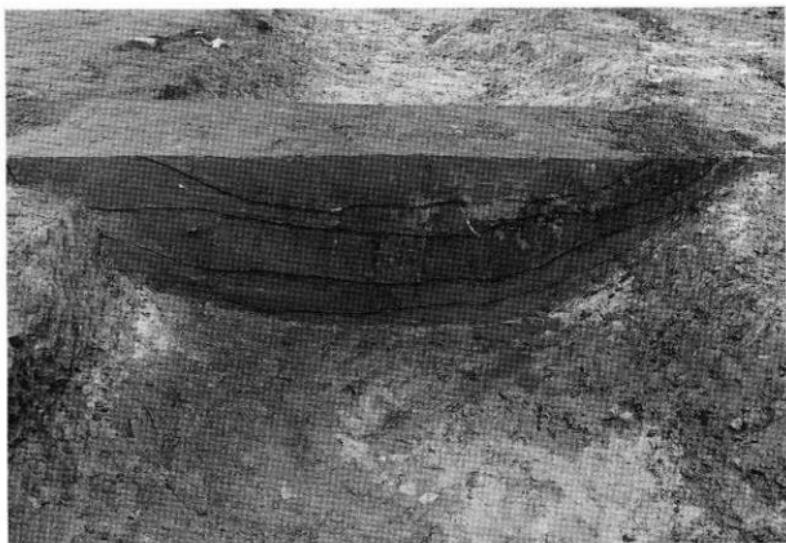
圖版〇〇六
遺構寫真 石塚遺跡



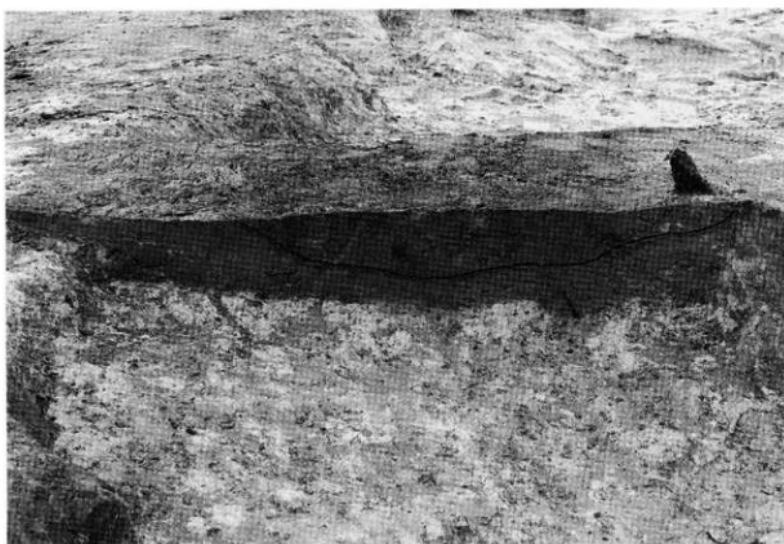
1. 古墳S Z08全景（南西）



2. 古墳S Z08全景（上方）



1. 古墳S Z08周溝断面（西）



2. 古墳S Z08周溝断面（南東）



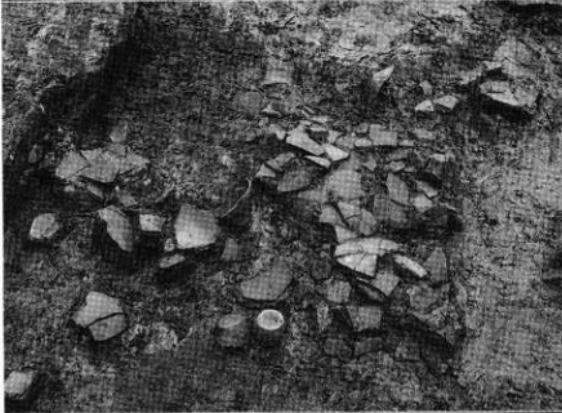
1. 壓穴狀遺構 S I 02 全景（南）



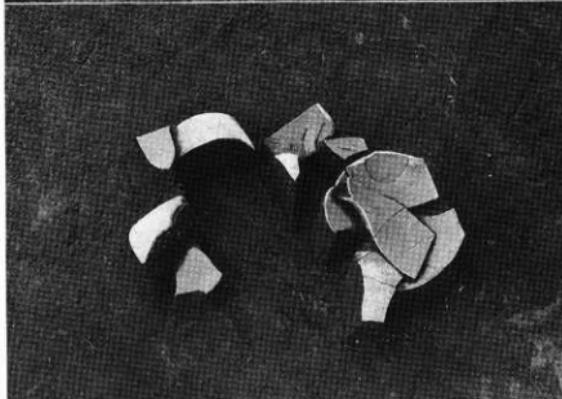
2. 壓穴狀遺構 S I 02 断面（南）



1. 両地 S X 01遺物出土状態、
弥生土器（南）



2. 両地 S X 01遺物出土状態、
弥生土器（南）



3. 両地 S X 01遺物出土状態、
須恵器（南西）

図版〇一〇 造構写真 東木津遺跡



1. 調査地区遠景（南）



2. 調査地区遠景（上方）



1. 調査地区遠景（北西）

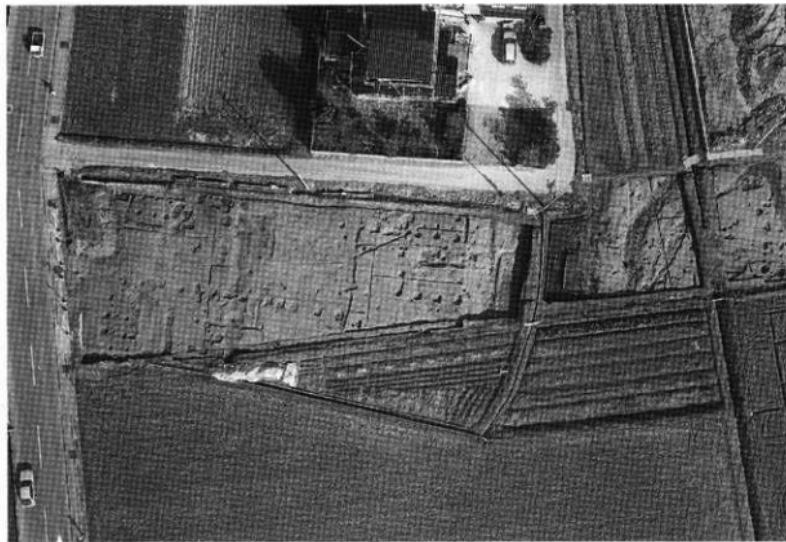


2. 調査地区遠景（南東）

図版〇一二 遺構写真 東木津遺跡



1. 西側調査地区遠景（南）



2. 西側調査地区全景（上方）

図版〇一三 遺構写真 東木津遺跡

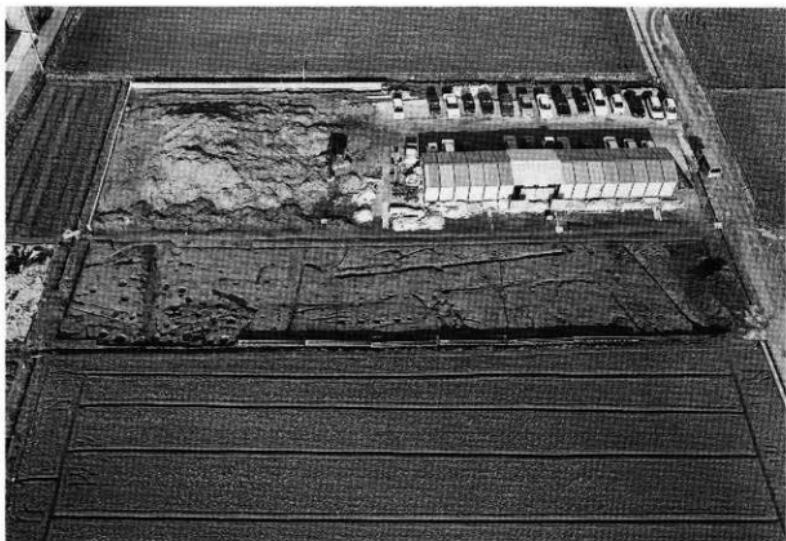


1. 西側調査地区全景（北西）

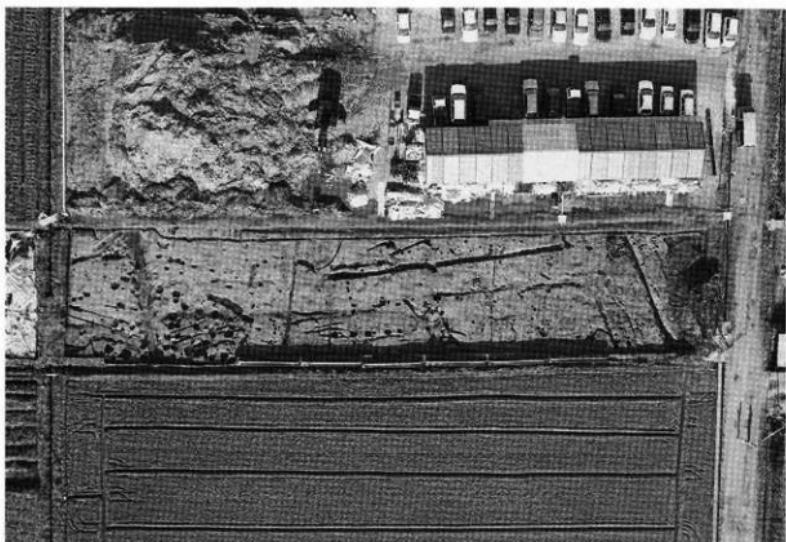


2. 西側調査地区全景（南東）

図版〇一四
遺構写真
東木津遺跡



1. 中央調査地区全景（南西）



2. 中央調査地区全景（上方）

図版〇一五 遺構写真 東木津遺跡



1. 中央調査地区全景（北西）

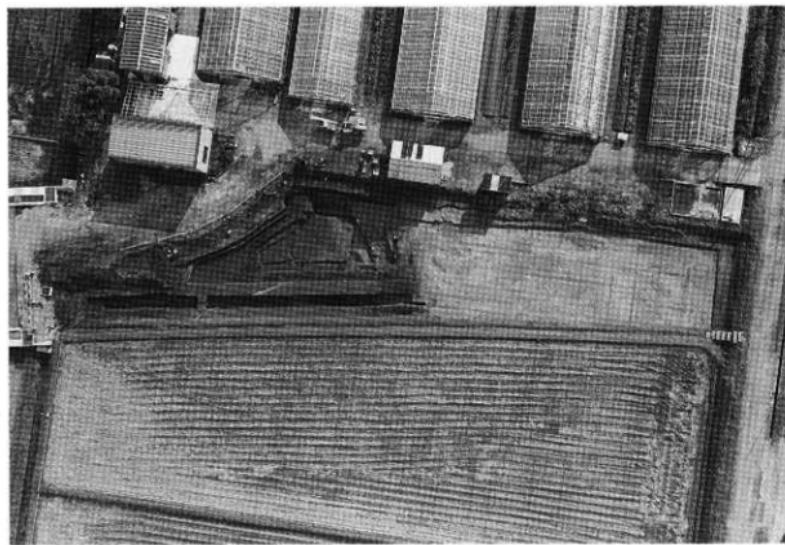


2. 中央調査地区全景（南東）

図版〇一六 遺構写真 東木津遺跡



1. 東側調査地区遠景（南西）



2. 東側調査地区全景（上方）

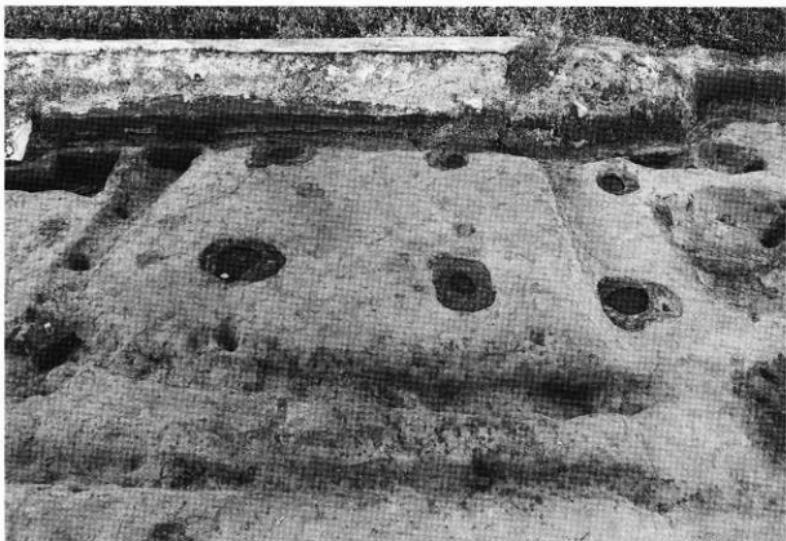


1. 東側調査地区全景（北西）

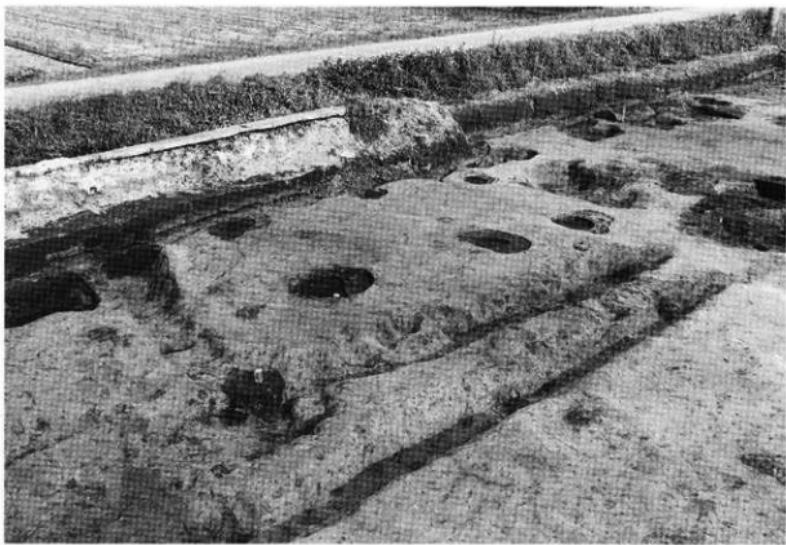


2. 東側調査地区全景（南東）

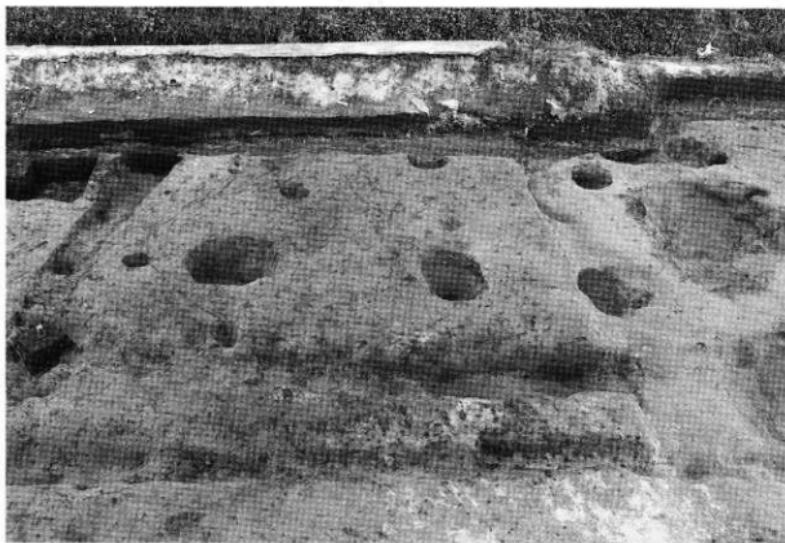
圖版〇一八 遺構写真 東木津遺跡



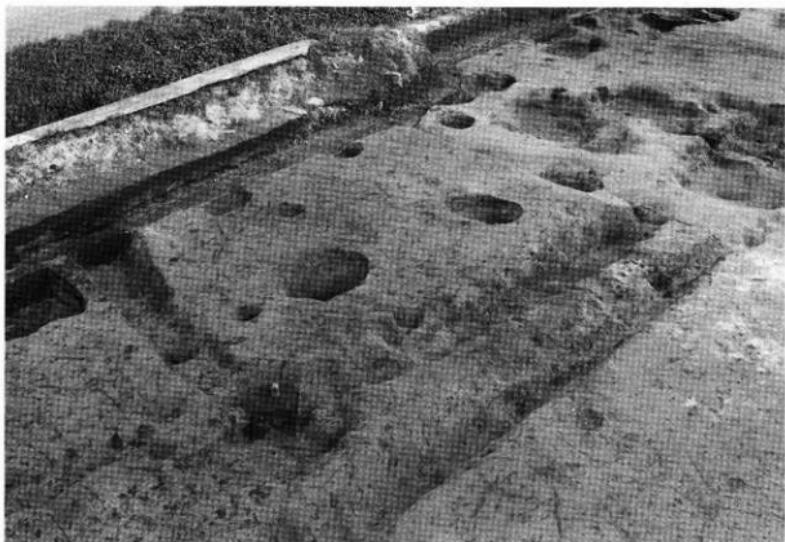
1. 挖立柱建物址 S B 07検出状態（南西）



2. 挖立柱建物址 S B 07検出状態（西）



1. 挖立柱建物址 S B 07 全景（南西）



2. 挖立柱建物址 S B 07 全景（西）



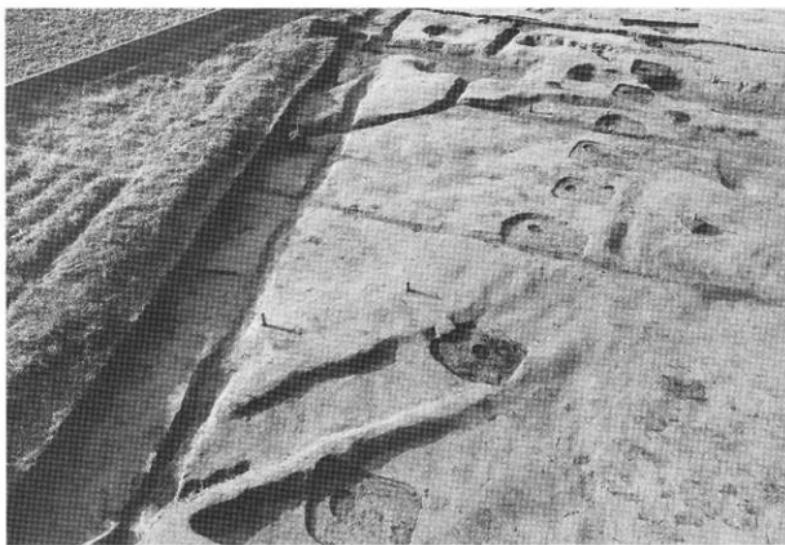
1. 掘立柱建物址 S B 08・09 全景（北西）



2. 掘立柱建物址 S B 08・09 全景（北東）



1. 掘立柱建物址 S B 10・11検出状態（北）



2. 掘立柱建物址 S B 10・11検出状態（東）

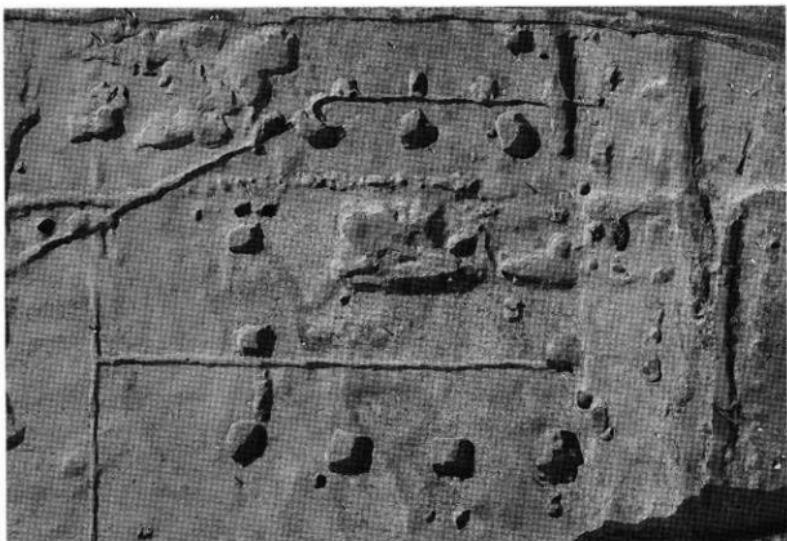
図版〇二二
遺構写真
東木津遺跡



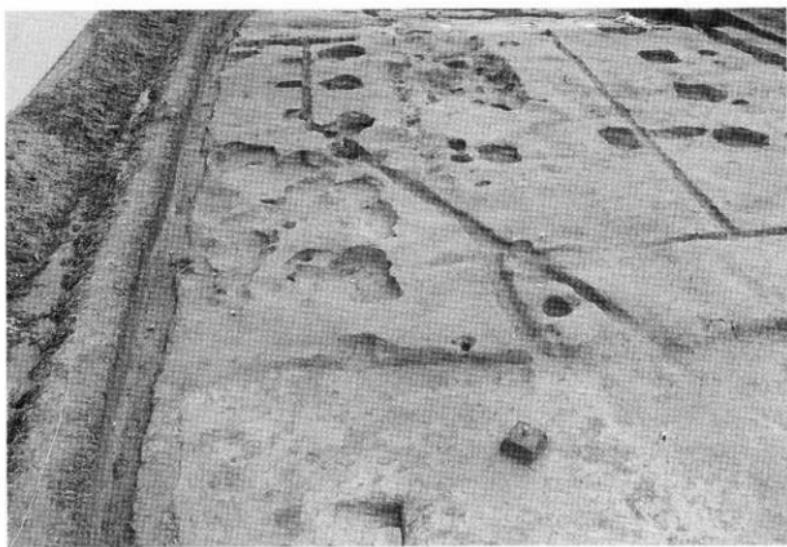
1. 挖立柱建物址 S B 10・11全景（北西）



2. 挖立柱建物址 S B 10・11全景（上方）



1. 挖立柱建物址 SB 12~15全景（上方）

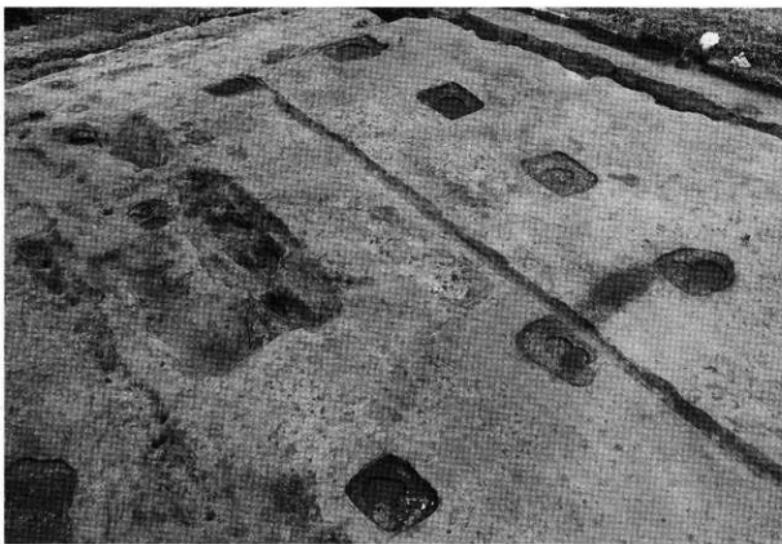


2. 挖立柱建物址 SB 12~15全景（北西）

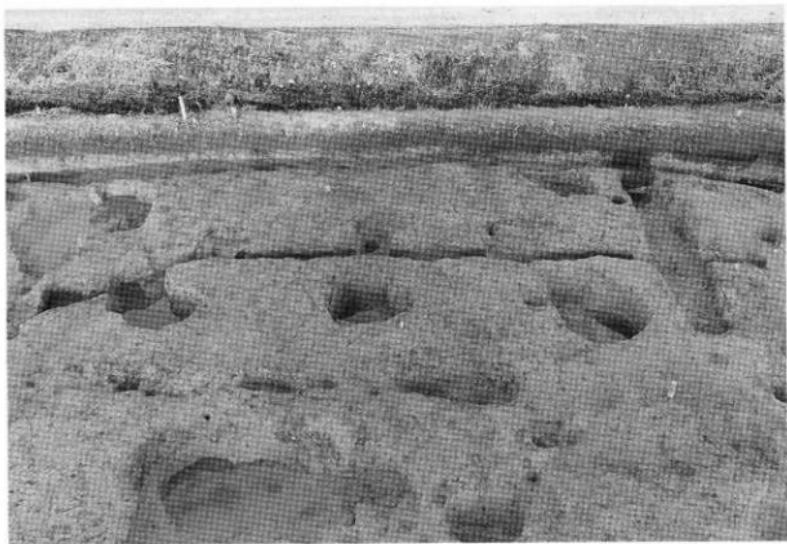
圖版〇二四 遺構寫真 東木津遺跡



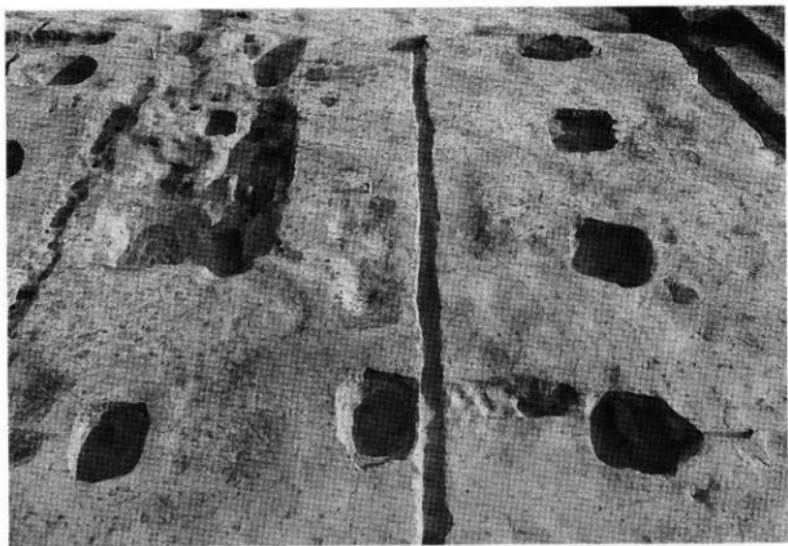
1. 挿立柱建物址 SB 15検出状態（北西）



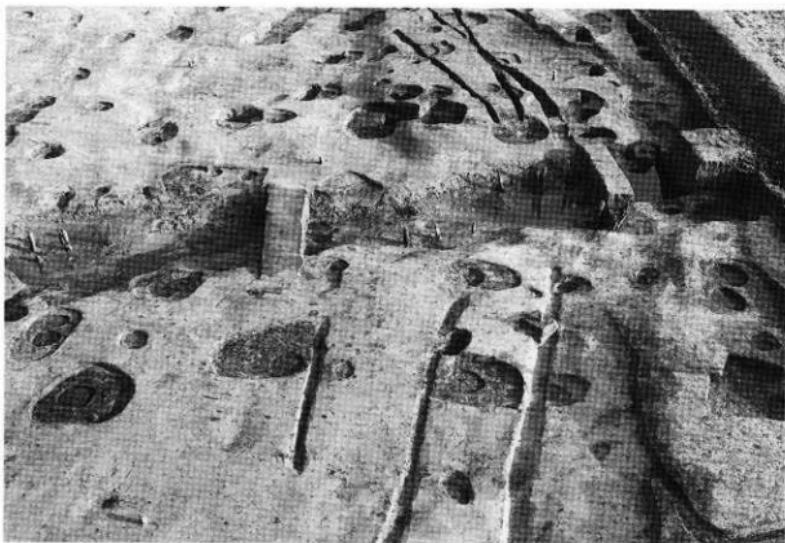
2. 挿立柱建物址 SB 15検出状態（北）



1. 摂立柱建物址 SB 14全景（南西）



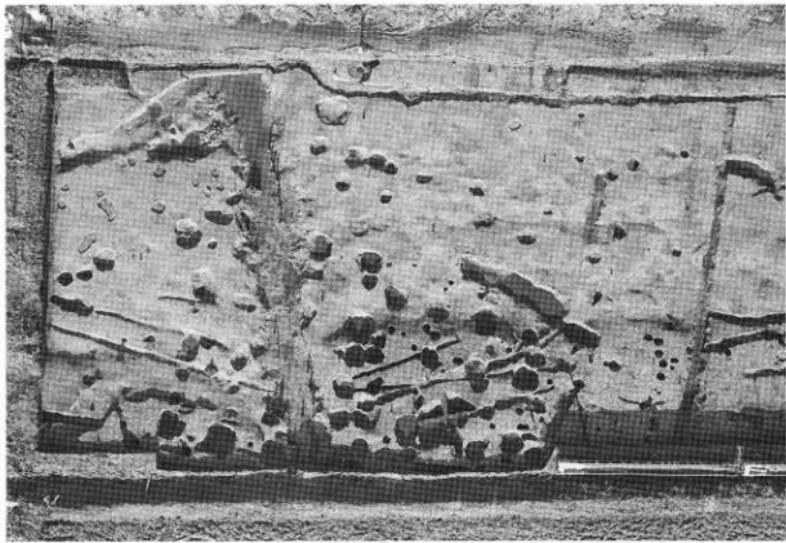
2. 摂立柱建物址 SB 15全景（北西）



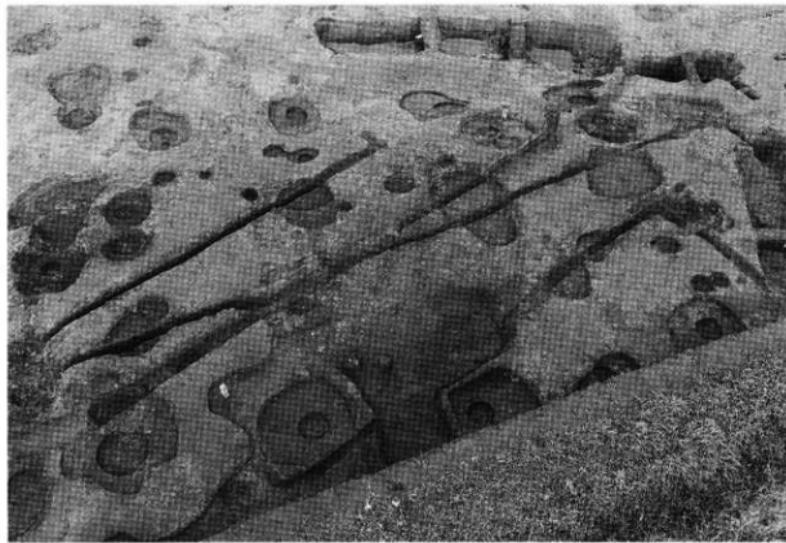
1. 挖立柱建物址 S B 16-17検出状態（北西）



2. 挖立柱建物址 S B 16・17全景（北）

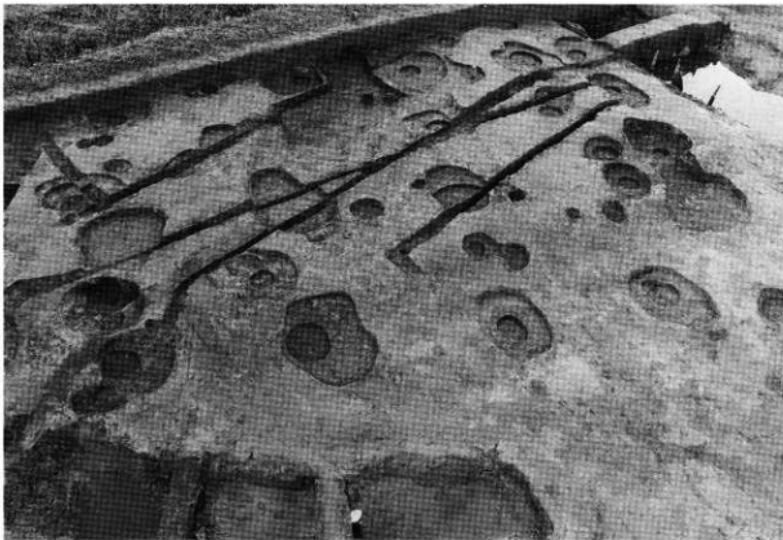


1. 挖立柱建物址 S B 16-19全景（上方）

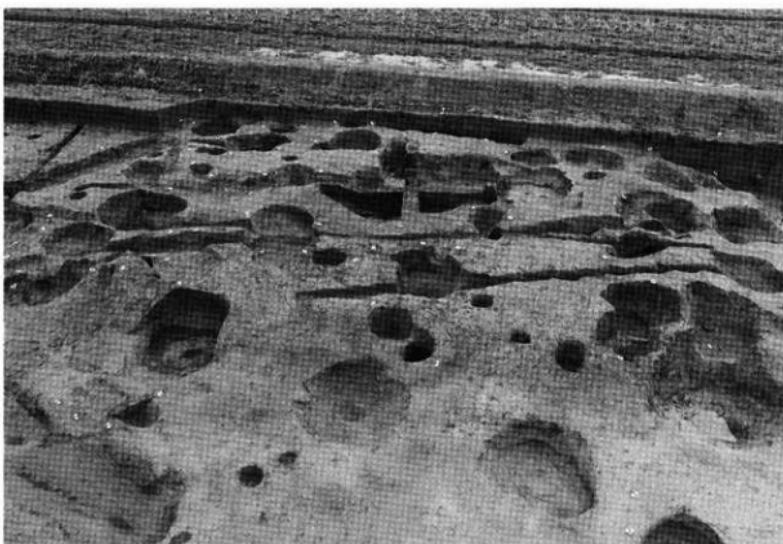


2. 挖立柱建物址 S B 18・19検出状態（南西）

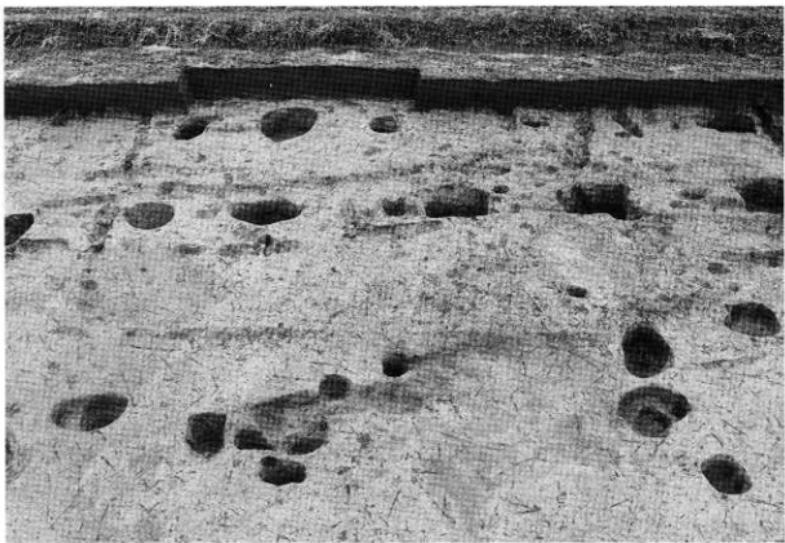
圖版〇二八 遺構写真 東木津遺跡



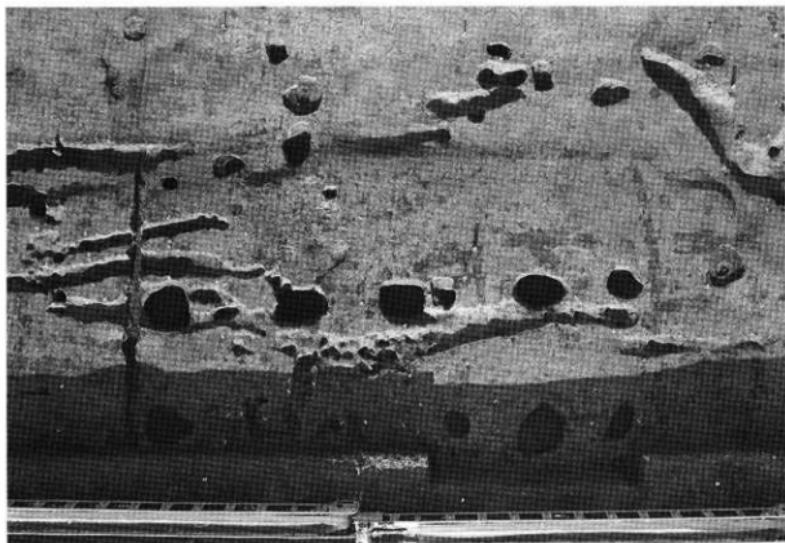
1. 挖立柱建物址SB 19検出状態（北東）



2. 挖立柱建物址SB 19全景（北西）



1. 挖立柱建物址 S B 20全景（北東）

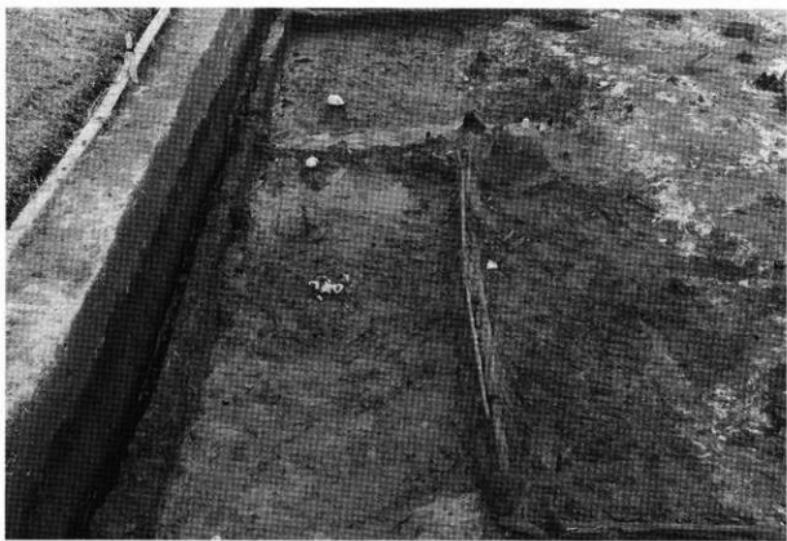


2. 挖立柱建物址 S B 20全景（上方）

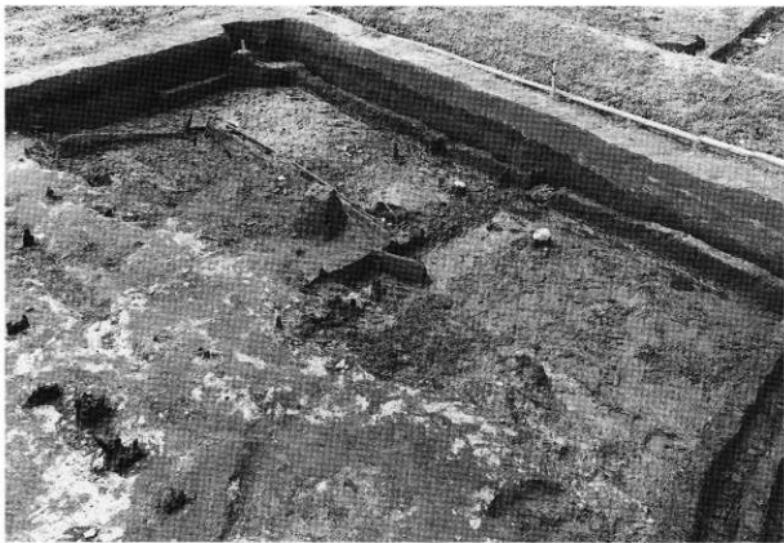
圖版〇三〇 遺構写真 東木津遺跡



1. 橋梁護岸施設 S X 11 =溝 S D 60検出状態（北東）



2. 橋梁護岸施設 S X 11 =溝 S D 60検出状態（南西）



1. 橋梁護岸施設 S X 11=溝 S D 60検出状態（東）



2. 橋梁護岸施設 S X 11=溝 S D 60検出状態（北）

圖版〇三二
遺構写真
東木津遺跡



1. 橋梁護岸施設 S X 11南東側張出部全景（南南東）



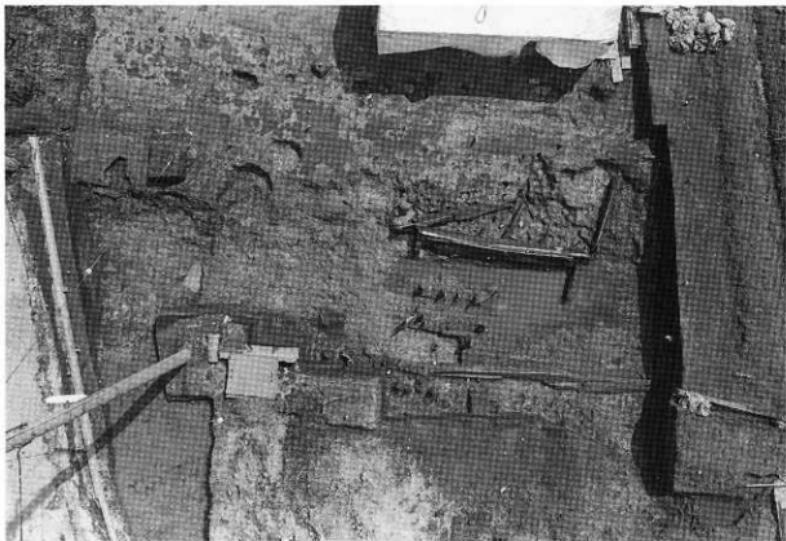
2. 橋梁護岸施設 S X 11南東側張出部断面（南西）



1. 溝S D 60全景（南西）



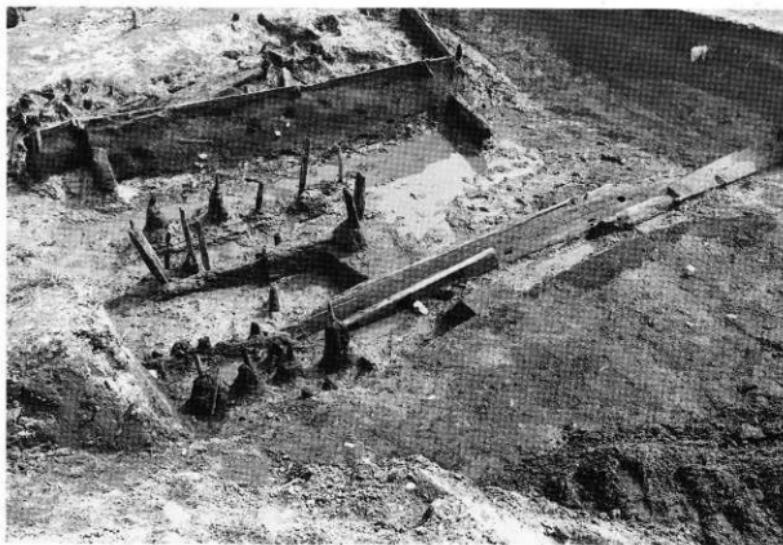
2. 溝S D 60全景（東）



1. 溝 S D 60全景（上方）



2. 橋梁護岸施設 S XII全景（上方）



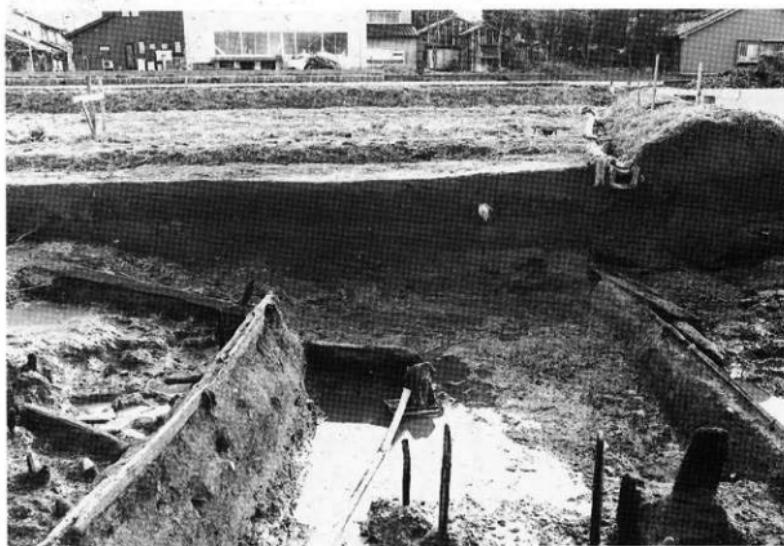
1. 橋梁護岸施設 S X 11全景（北）



2. 橋梁護岸施設 S X 11全景（南）



1. 溝 S D 60上層断面（南西）



2. 溝 S D 60上層断面（北東）



1. 溝 S D 60遺物出土状態、
土器類（南）

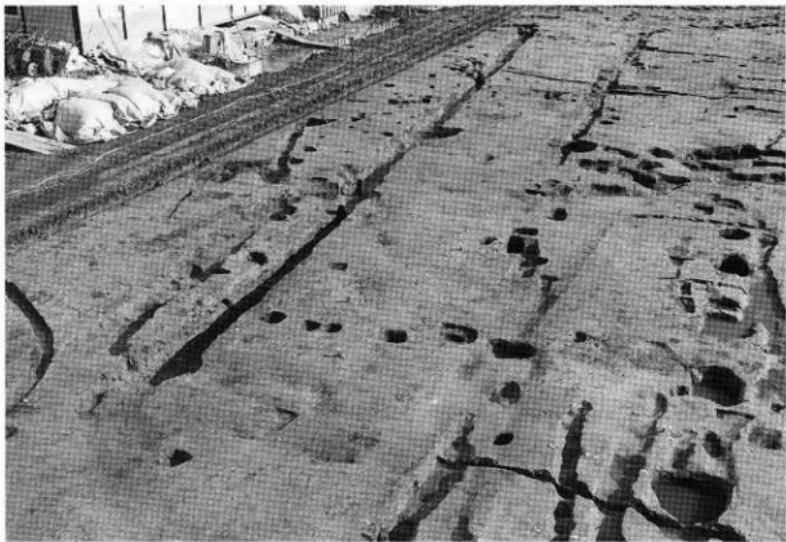


2. 溝 S D 60遺物出土状態、
土器類（南東）

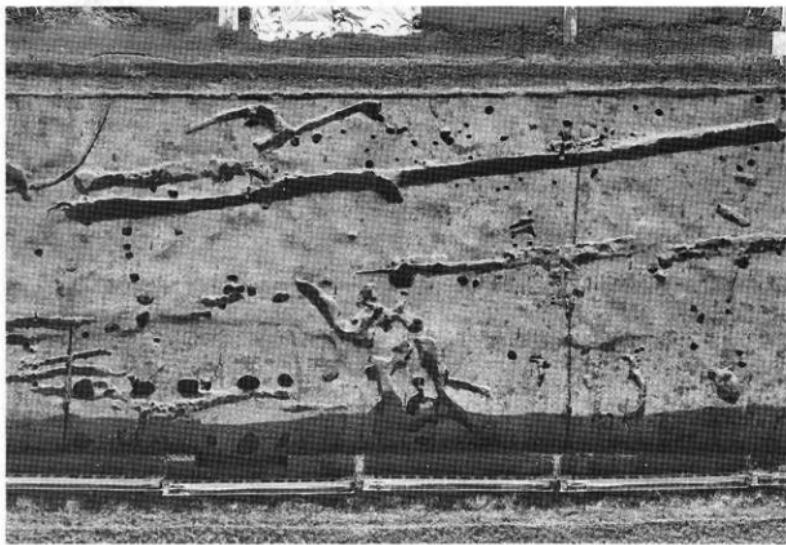


3. 溝 S D 60遺物出土状態、
土器類（南）

圖版〇三八 遺構寫真 東木津遺跡

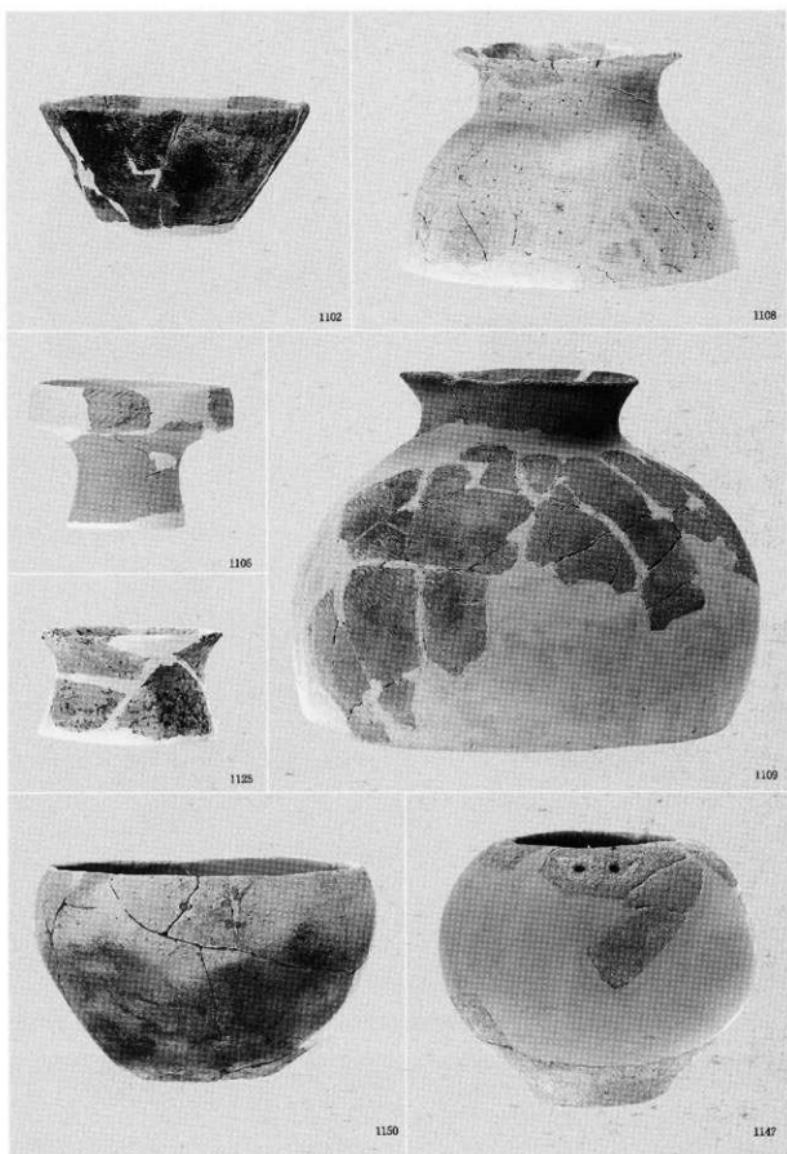


1. 道路址 S F 01全景（西）

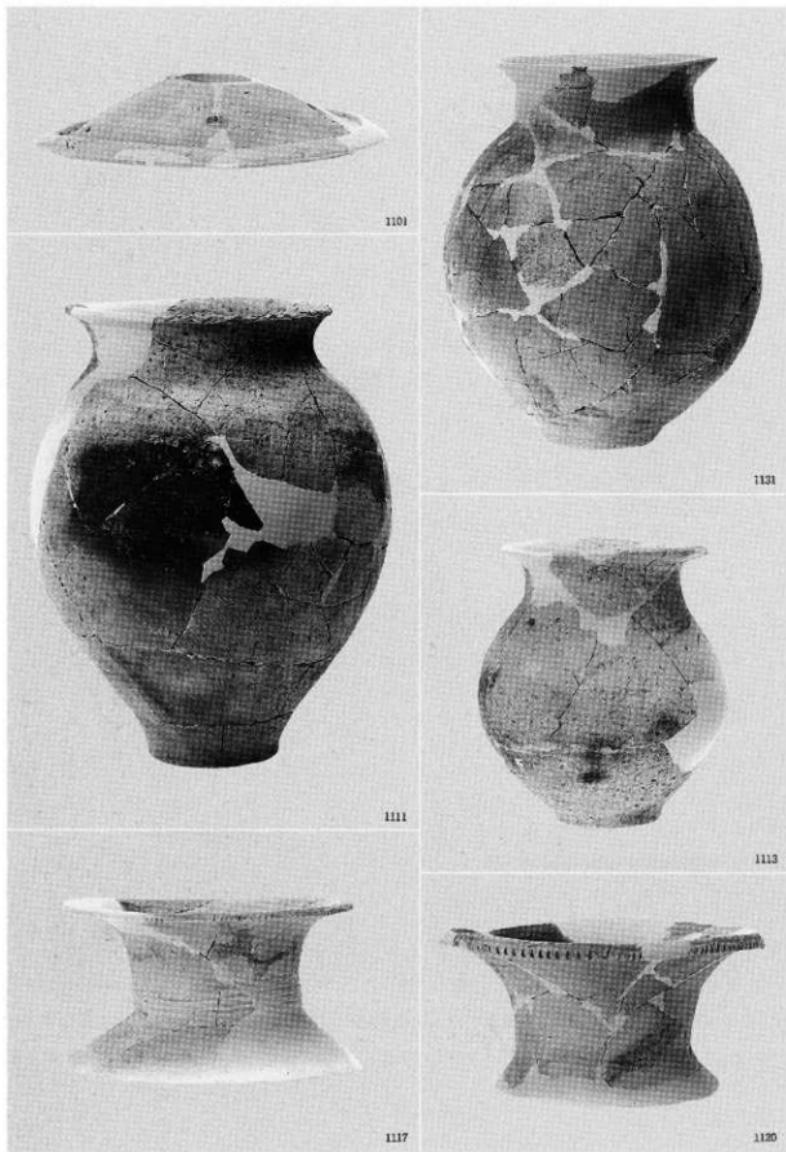


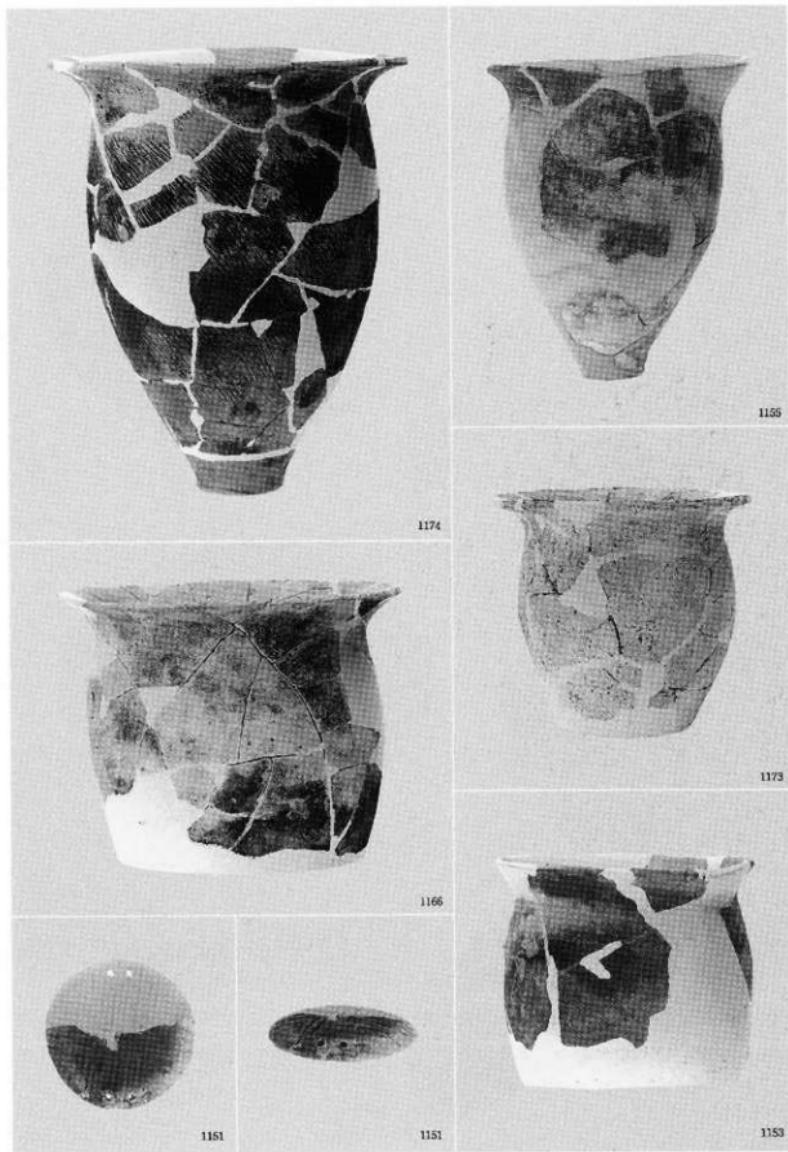
2. 道路址 S F 01全景（上方）

図版〇三九 遺物写真 石塚遺跡



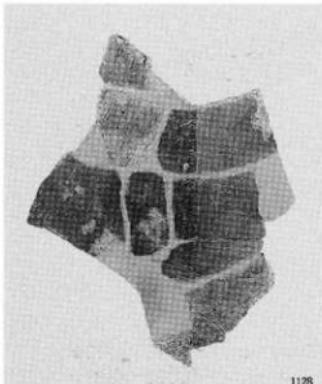
土器類 弥生土器





土器類 弥生土器

図版〇四二 遺物写真 石塚遺跡



1128



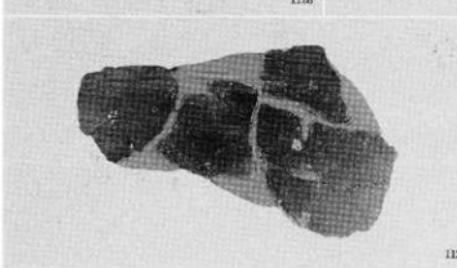
1202



1128



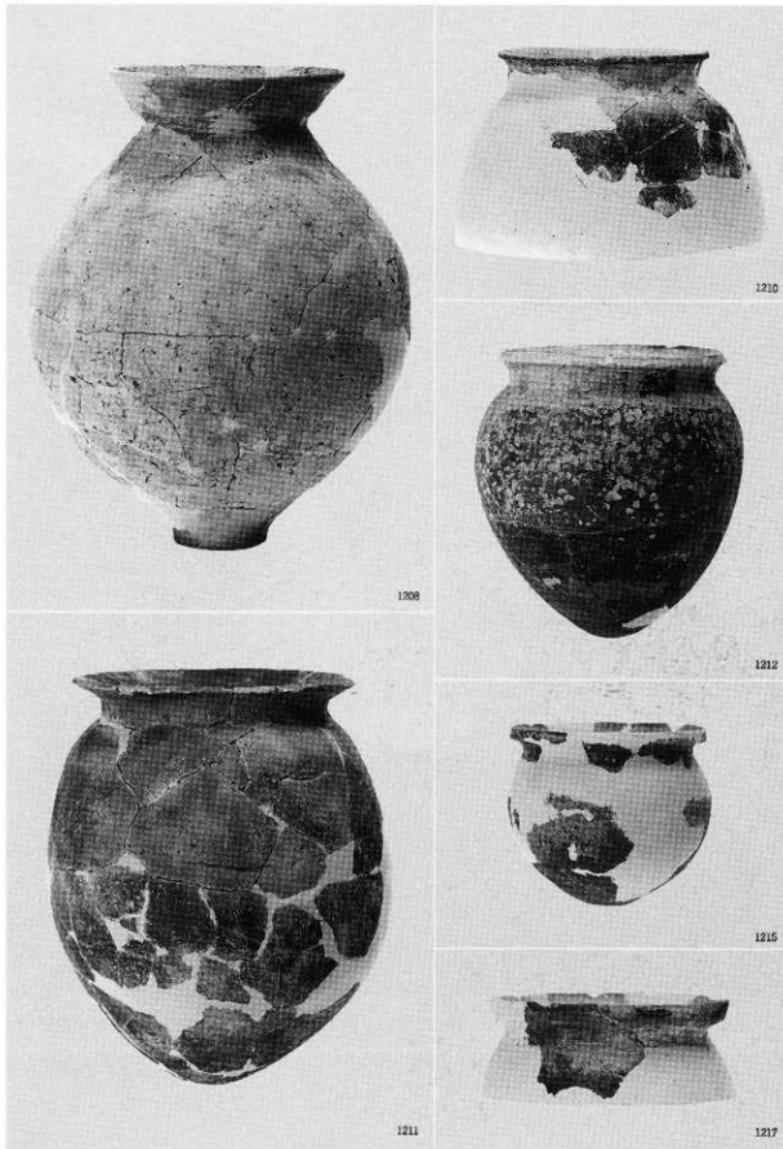
1201



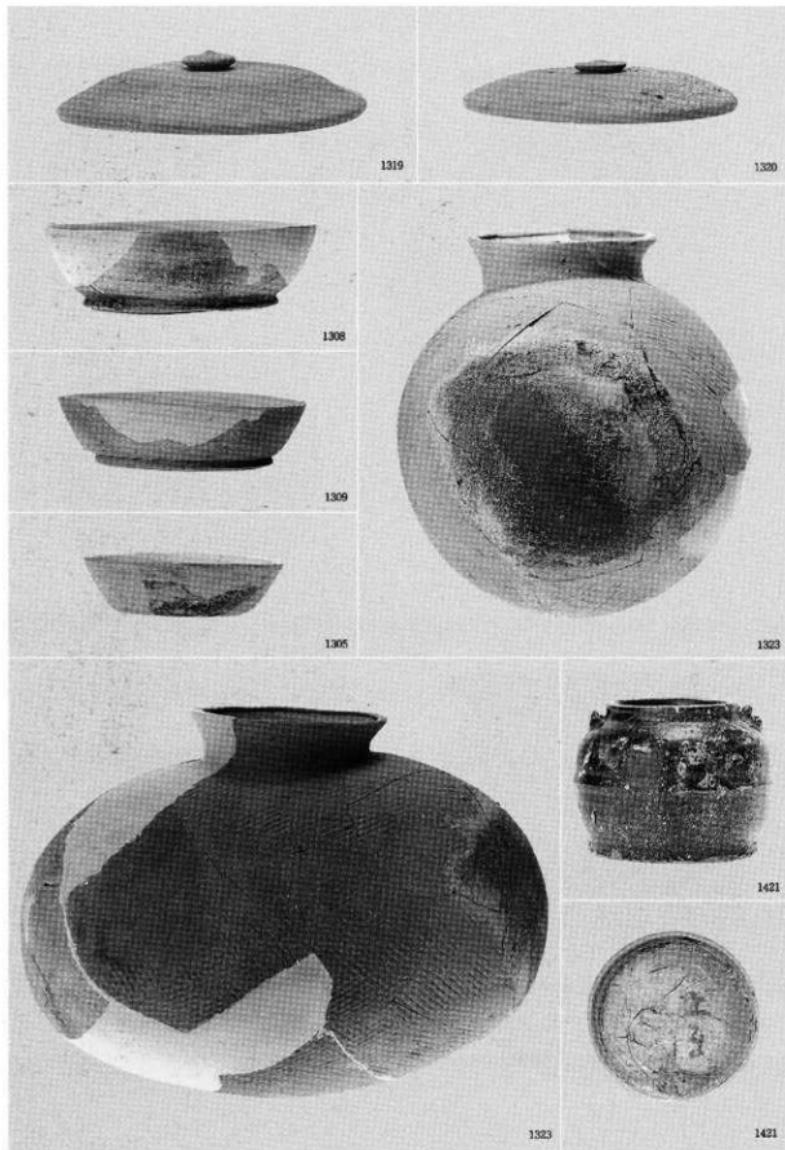
1128



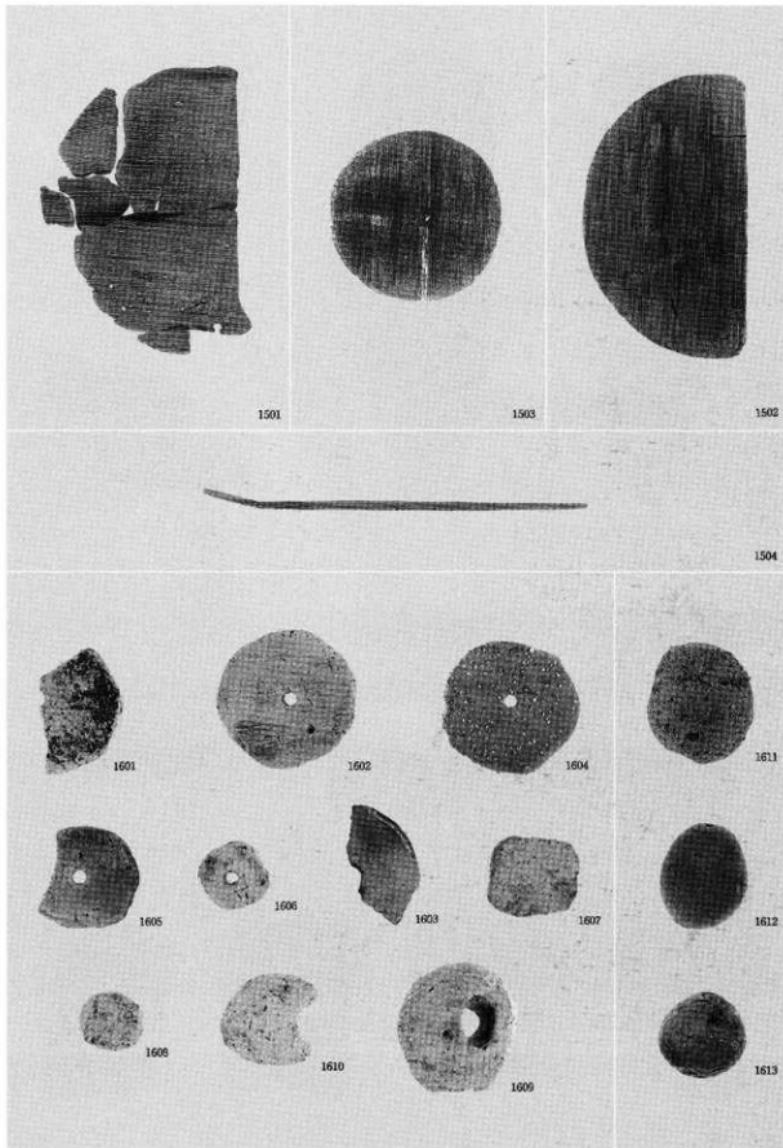
1207



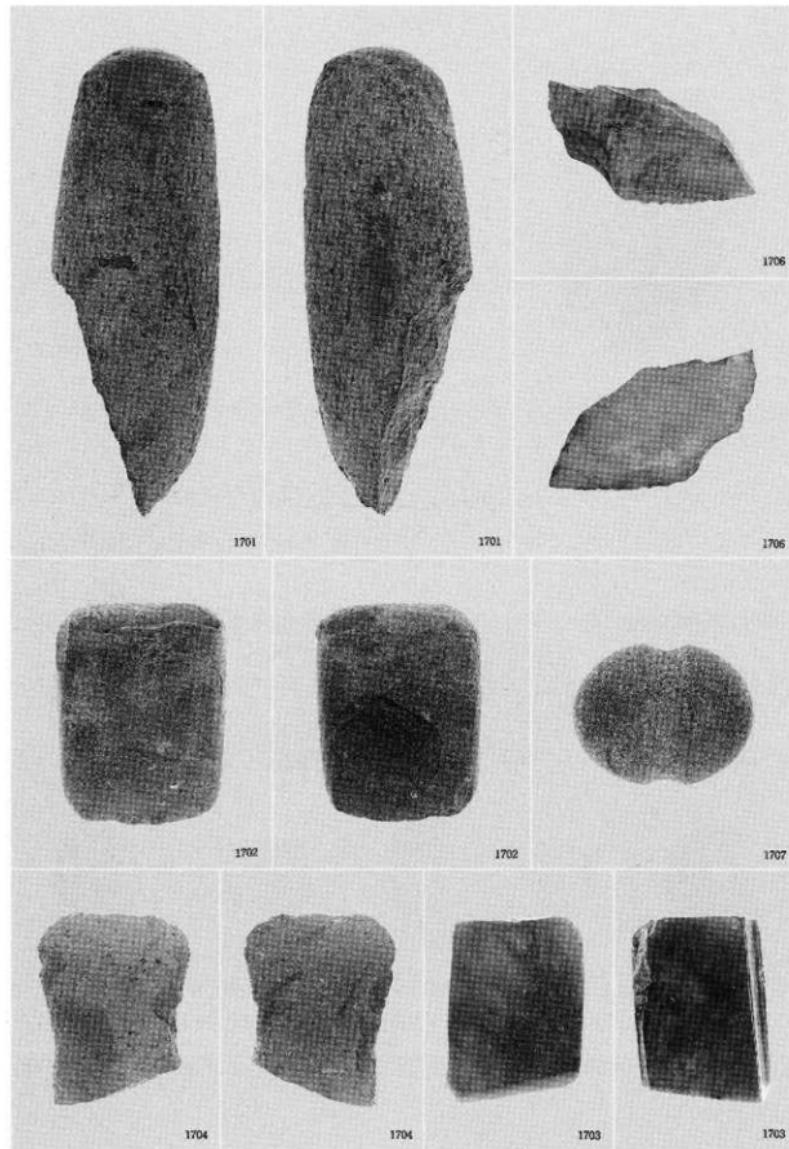
上器類 古墳時代前期の土師器



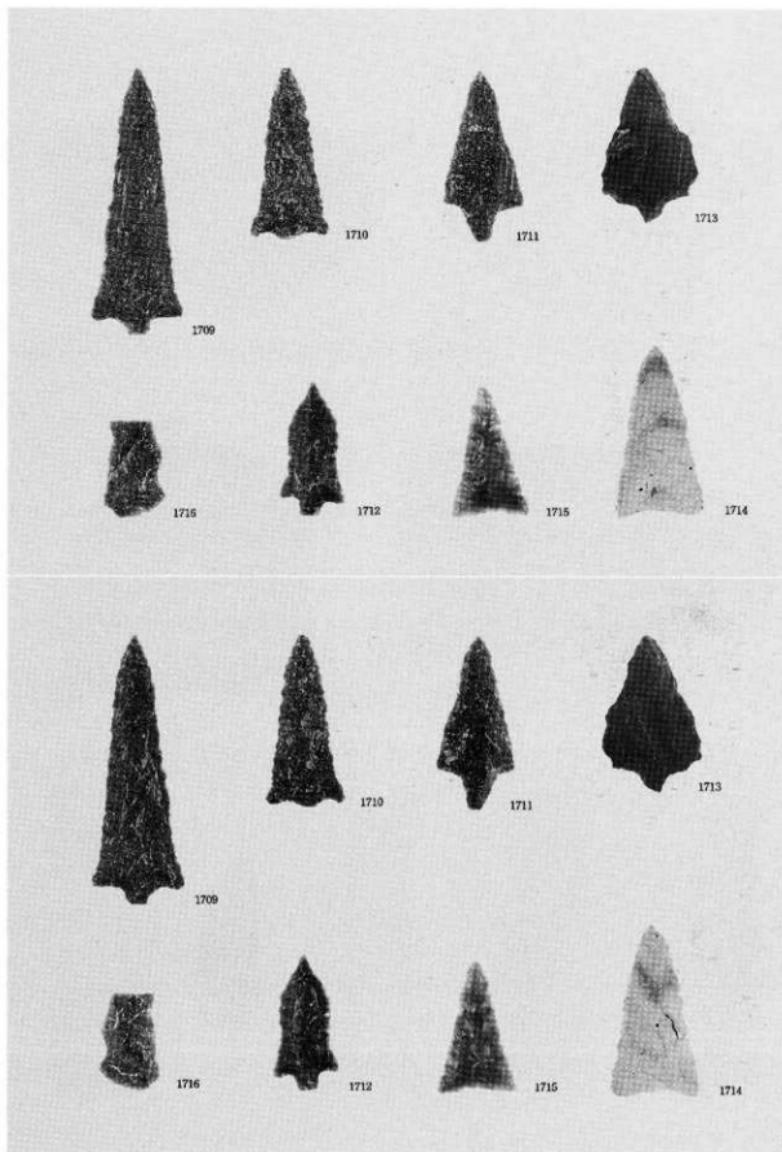
土器類 奈良平安時代の須恵器・越中瀬戸



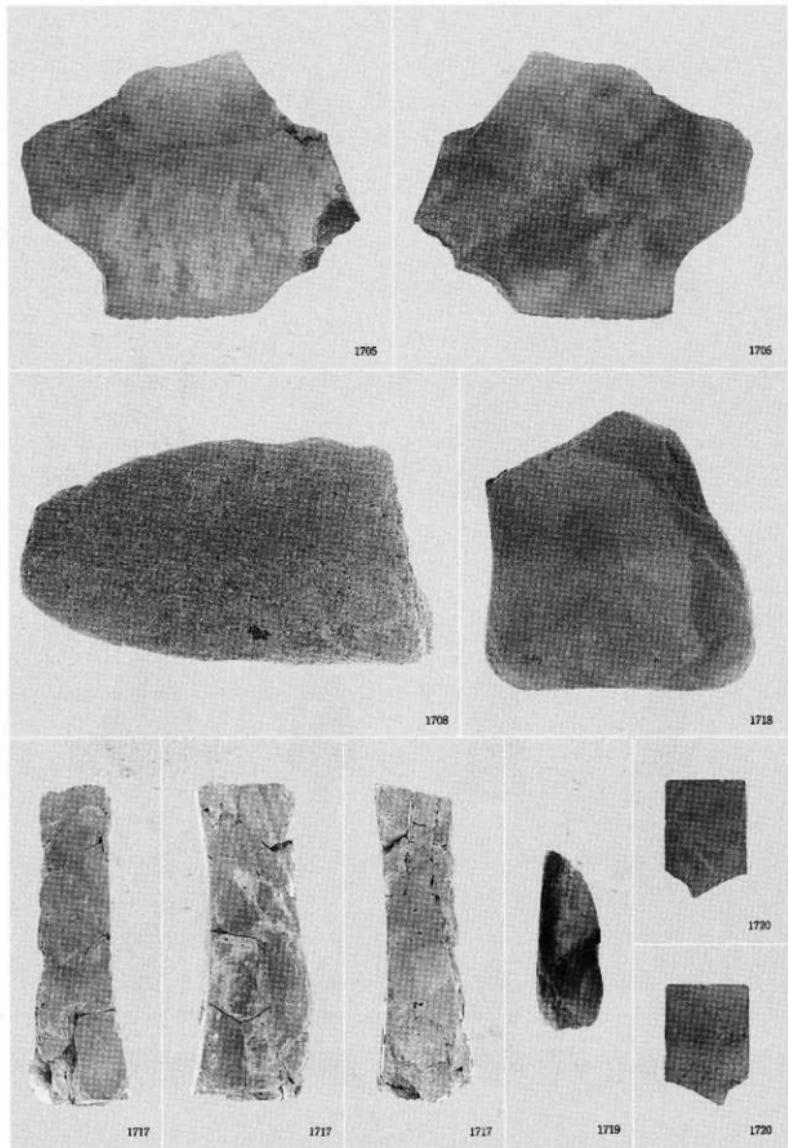
図版〇四六 遺物写真
石塚遺跡



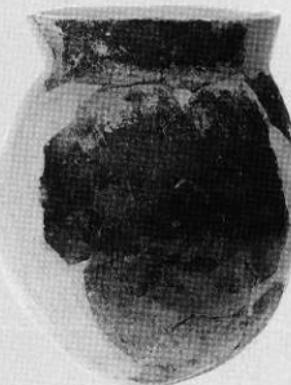
石製品



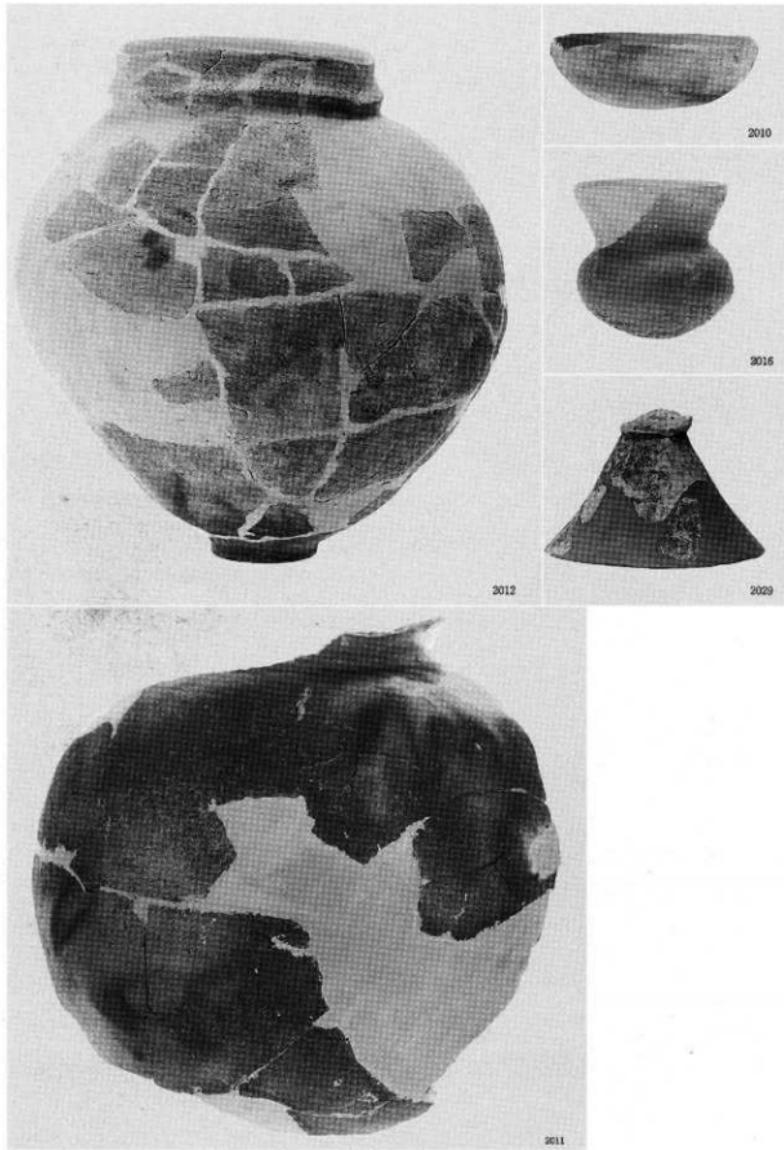
図版〇四八
遺物写真
石塚遺跡



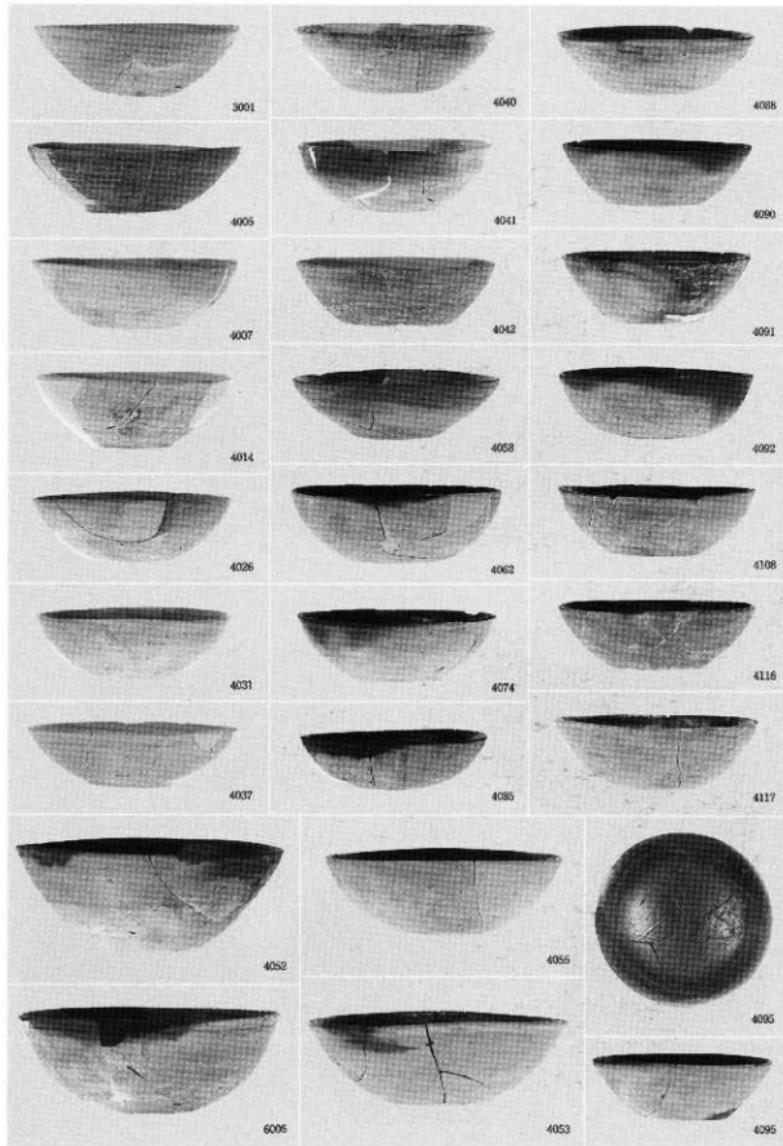
石製品



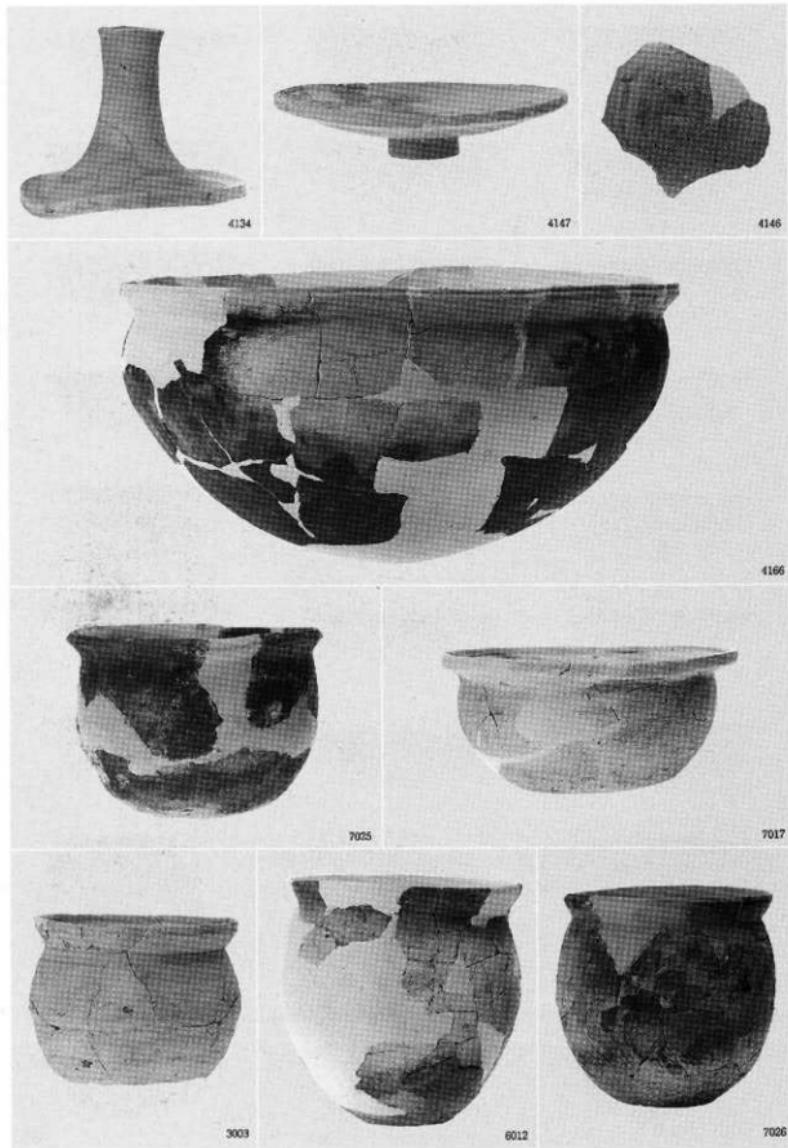
図版〇五〇 遺物写真 東木津遺跡



土器類 古墳時代の土師器

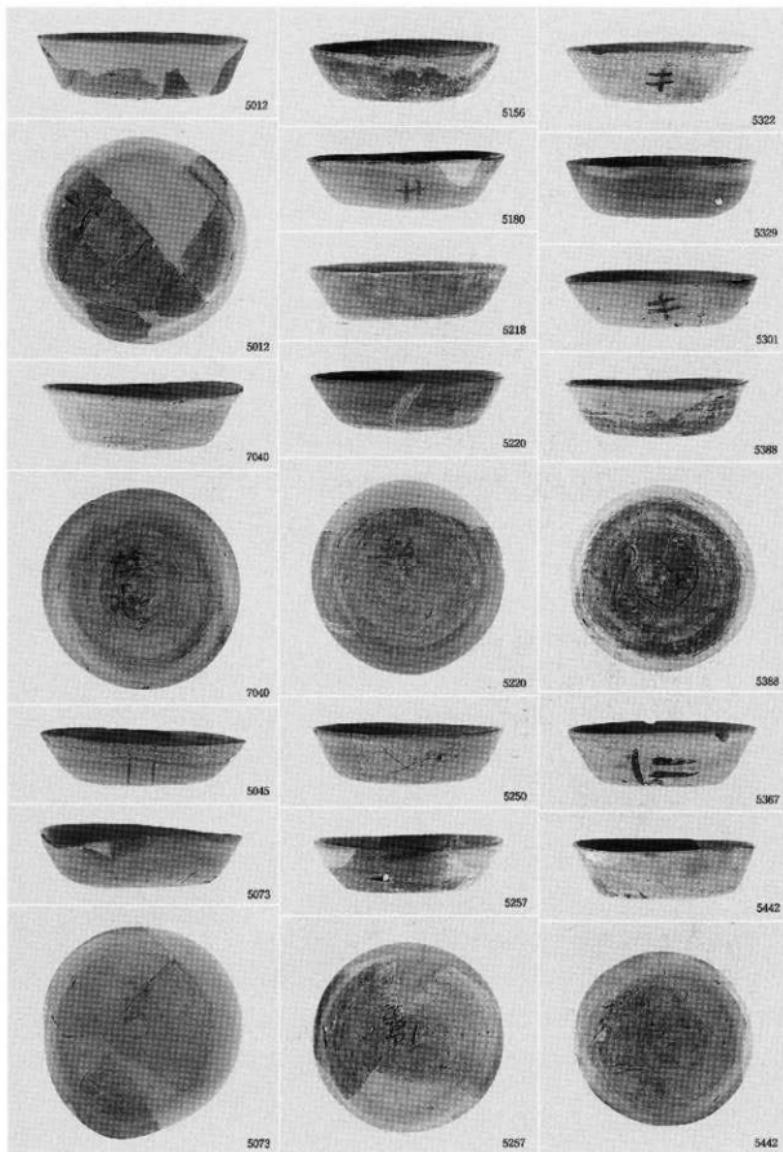


土器類 奈良平安時代の土師器

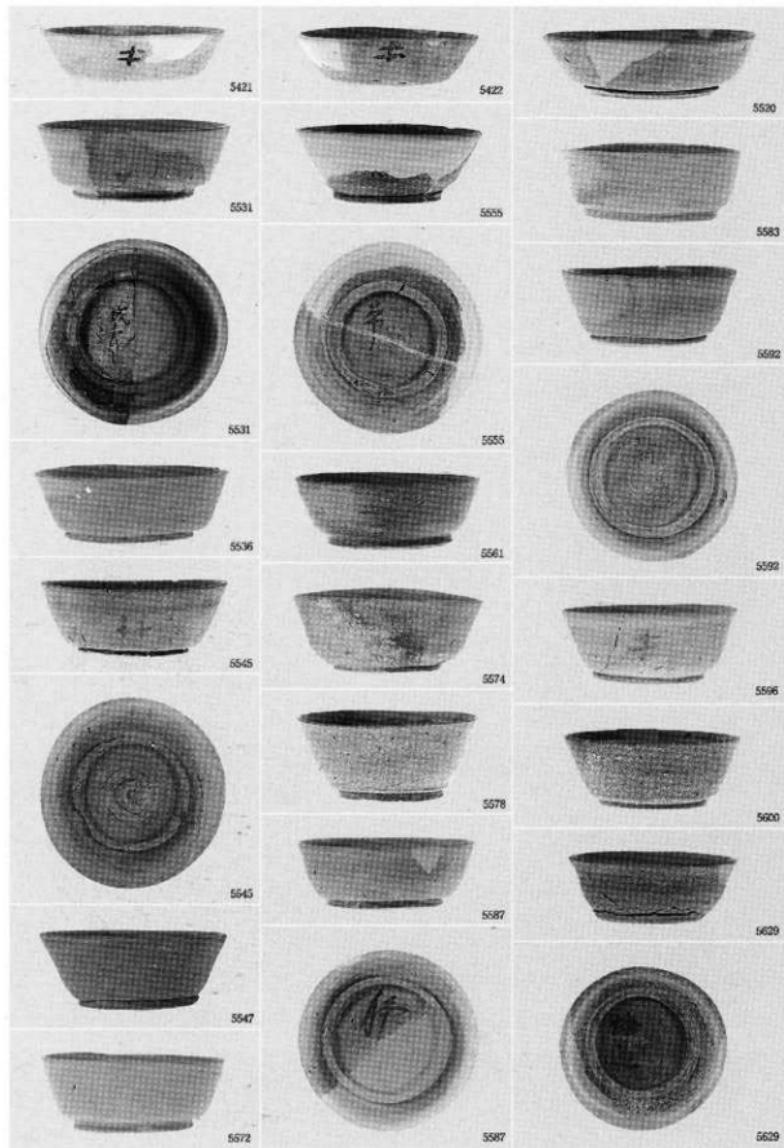


土器類 奈良平安時代の土師器

図版〇五三 遺物写真 東木津遺跡



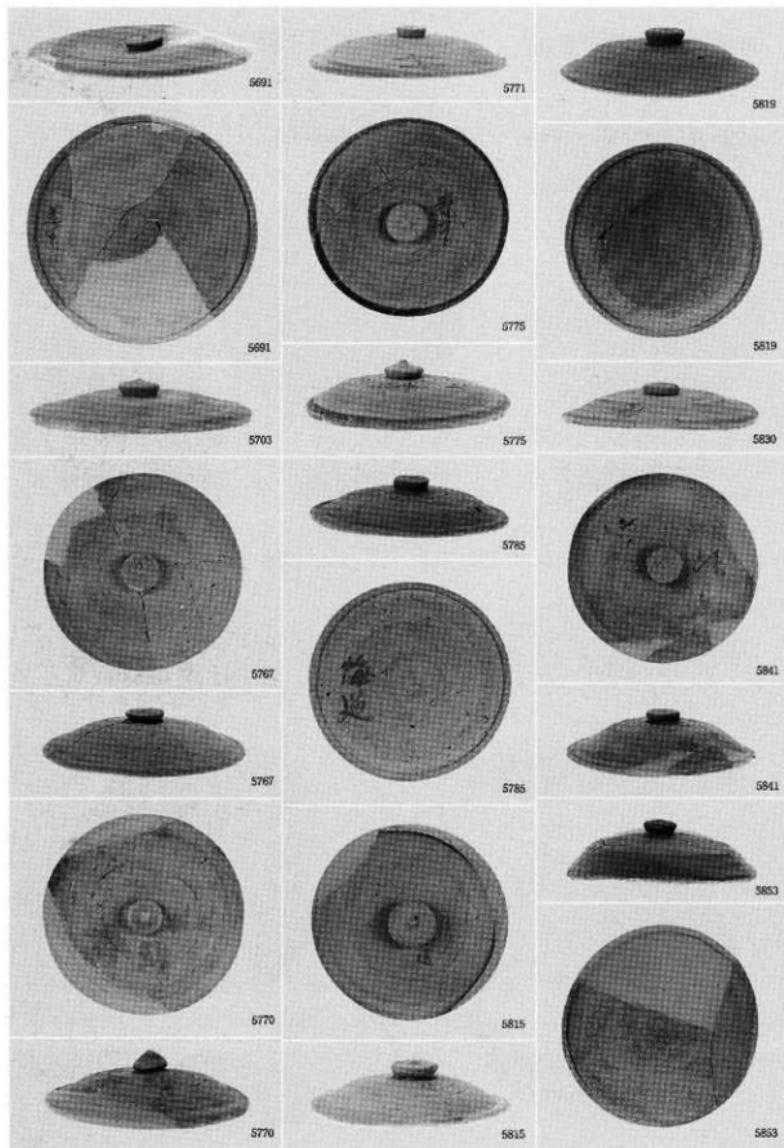
図版〇五四
遺物写真 東木津遺跡



土器類 余良平安時代の須恵器

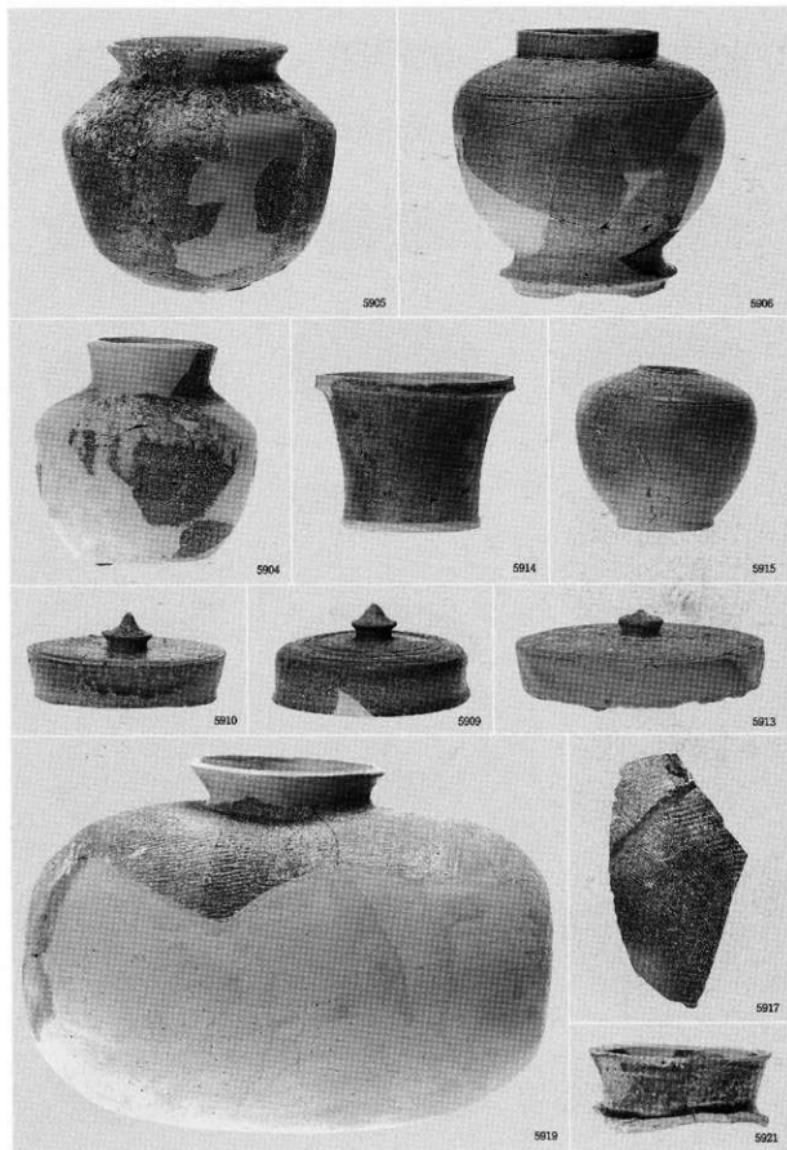
図版〇五五 遺物写真 東木津遺跡





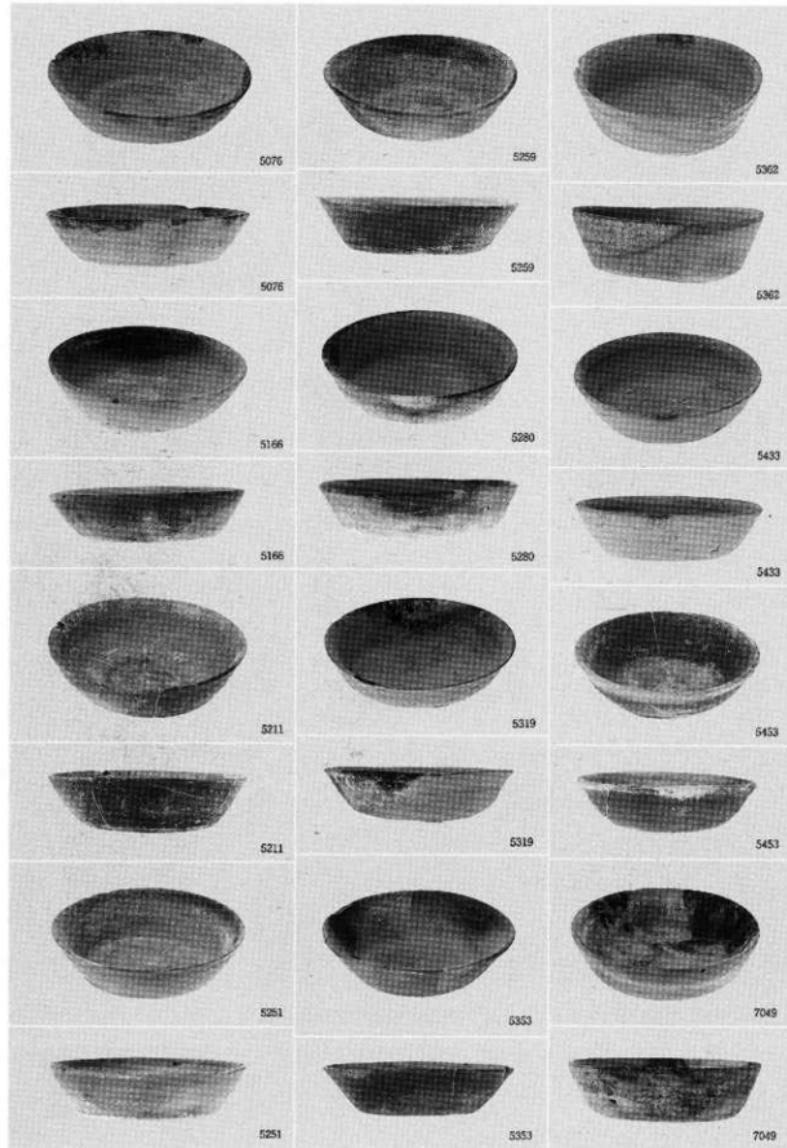
土器類 奈良平安時代の須恵器

図版〇五七 遺物写真 東木津遺跡



土器類 奈良平安時代の須恵器

図版〇五八 遺物写真 東木津遺跡



土器類 奈良平安時代の須恵器



8001



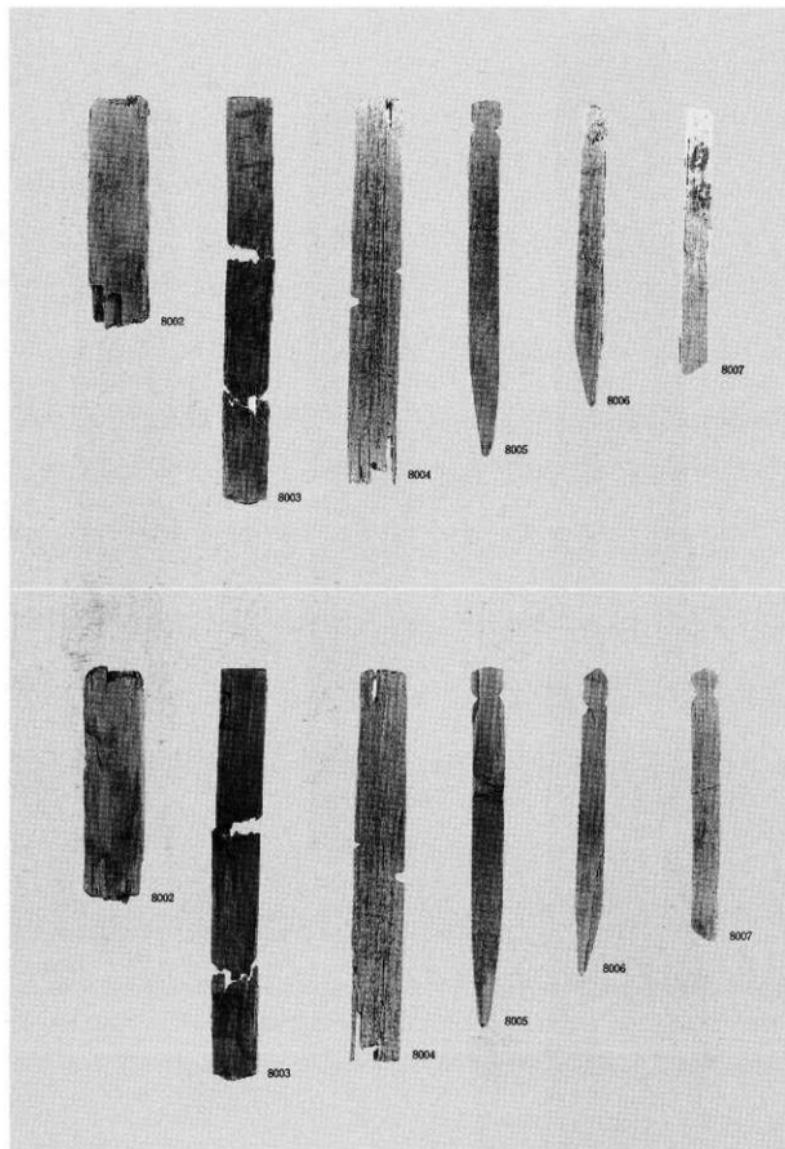
8004



8004

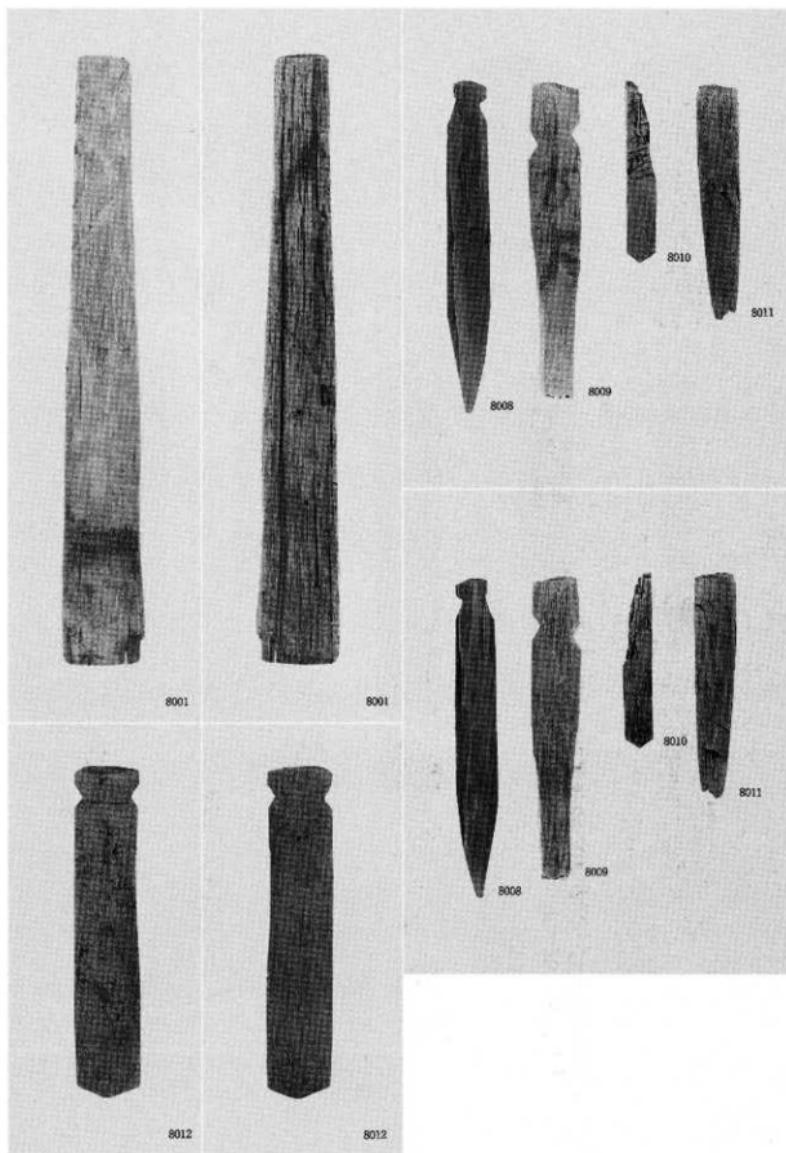
木製品 木筒

図版〇六〇 遺物写真 東木津遺跡



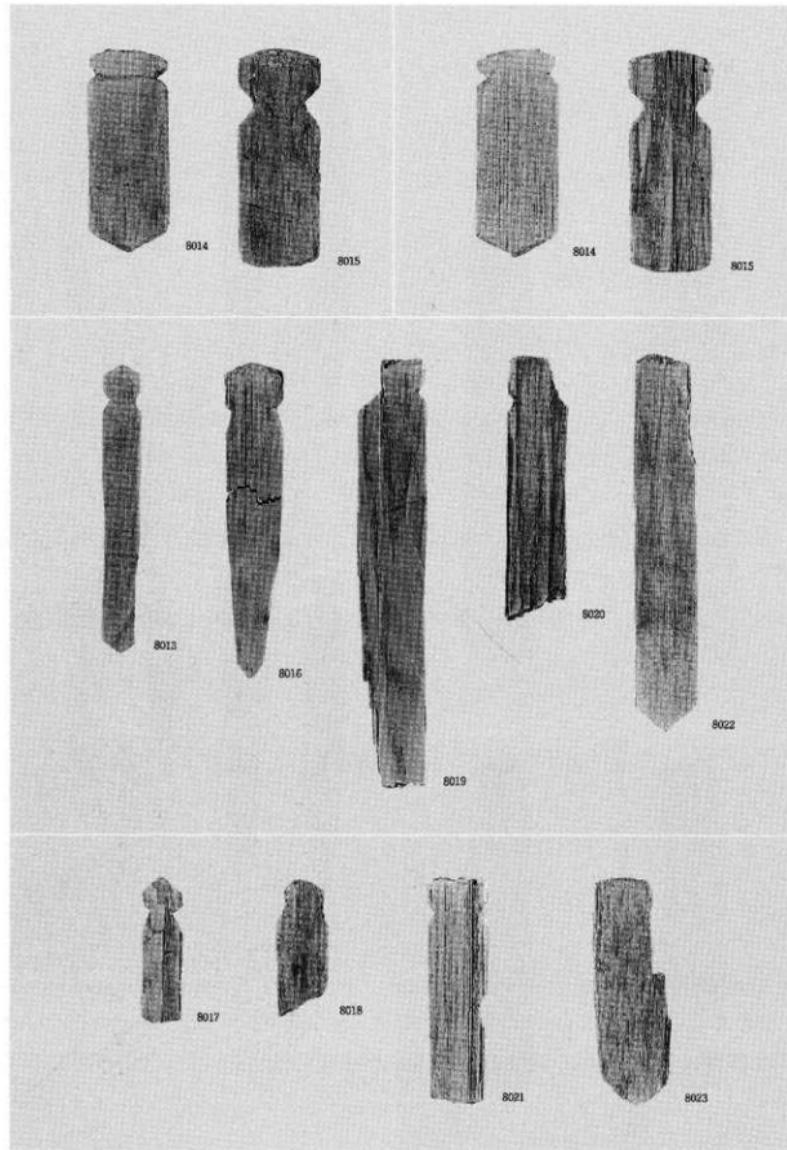
木製品 木筒

圖版〇六一 遺物写真 東木津遺跡



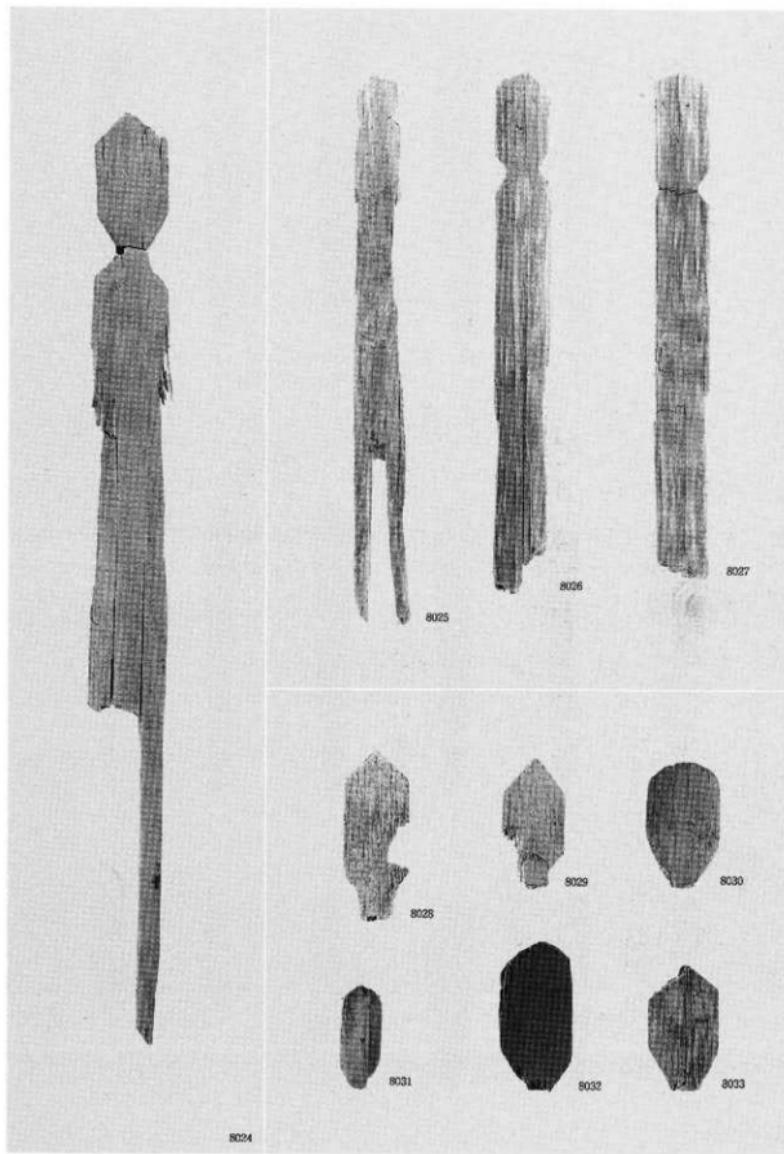
木製品 木筒

圖版〇六二 遺物写真 東木津遺跡



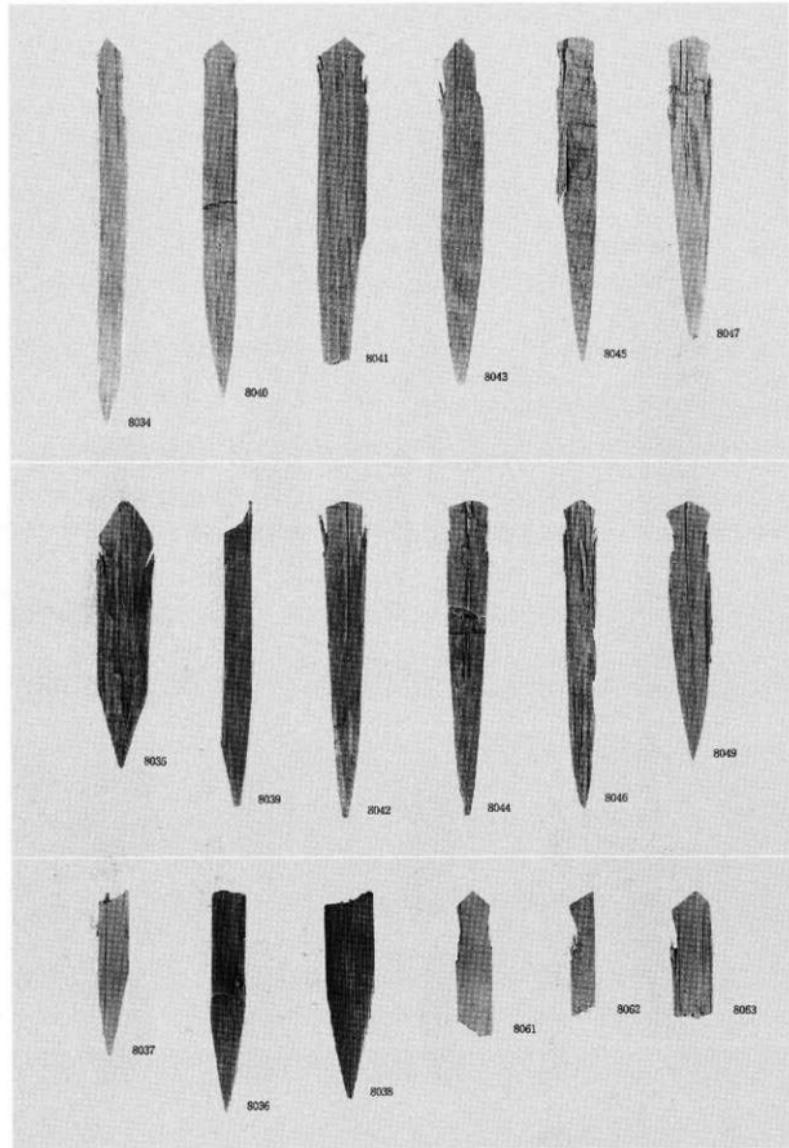
木製品 木筒形

図版〇六三 遺物写真 東木津遺跡



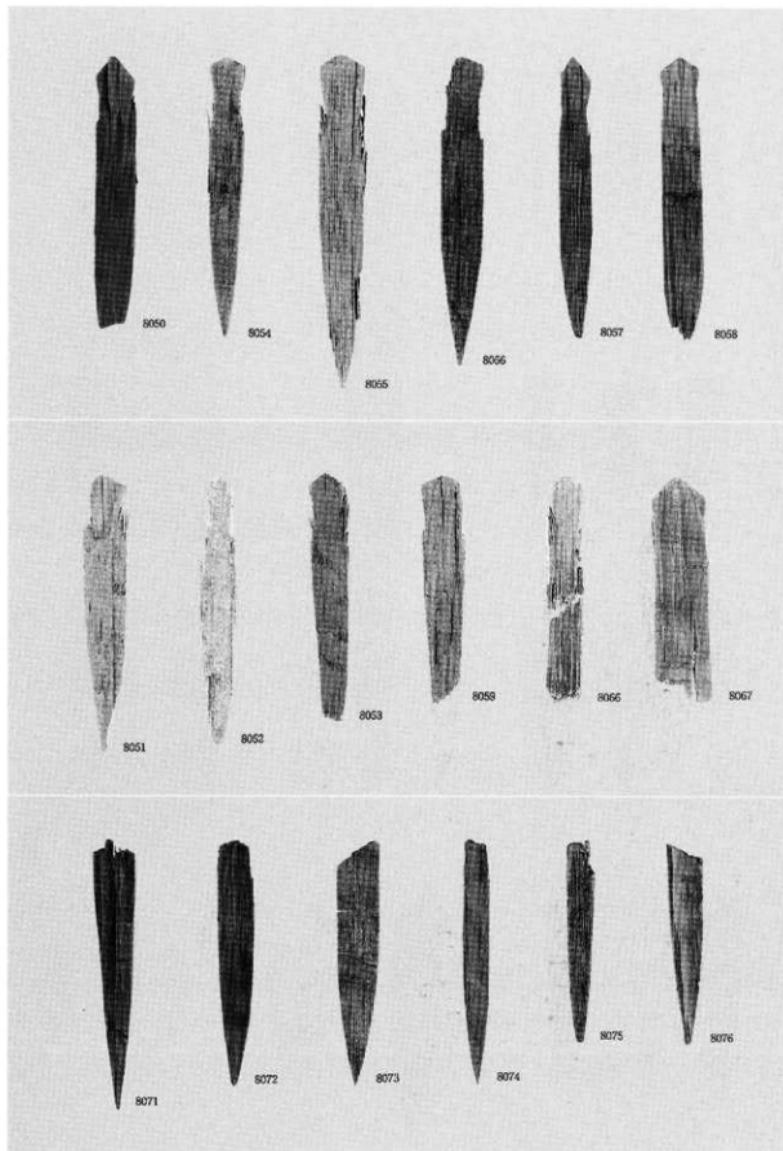
木製品 人形

圖版〇六四 遺物寫真 東木津遺跡



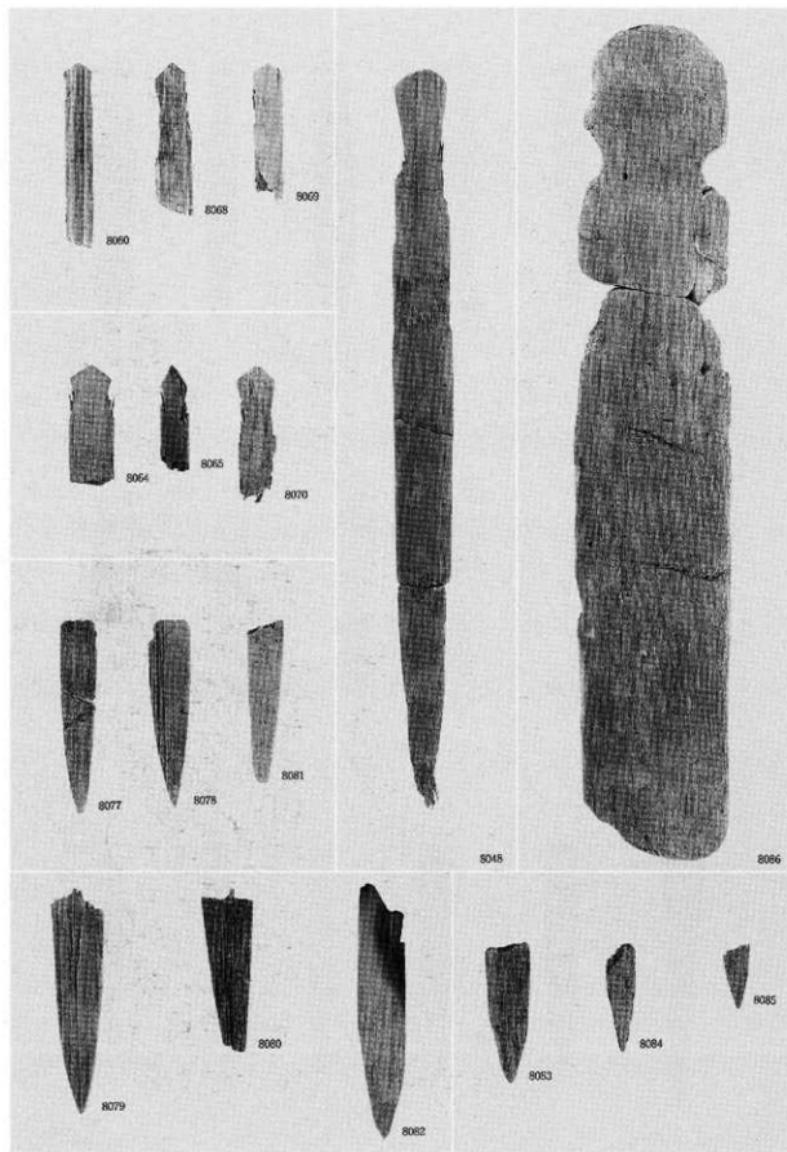
木製品 斧車

図版〇六五 遺物写真 東木津遺跡



木製品 斧
（東木津遺跡）

図版〇六六 遺物写真 東木津遺跡

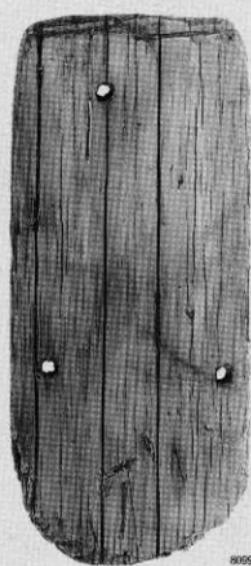
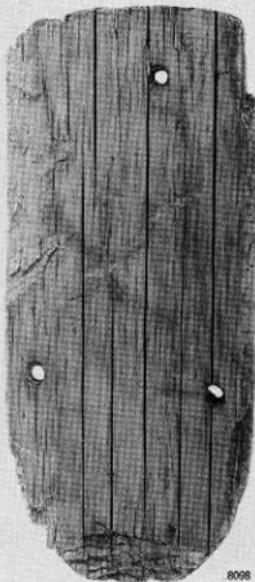


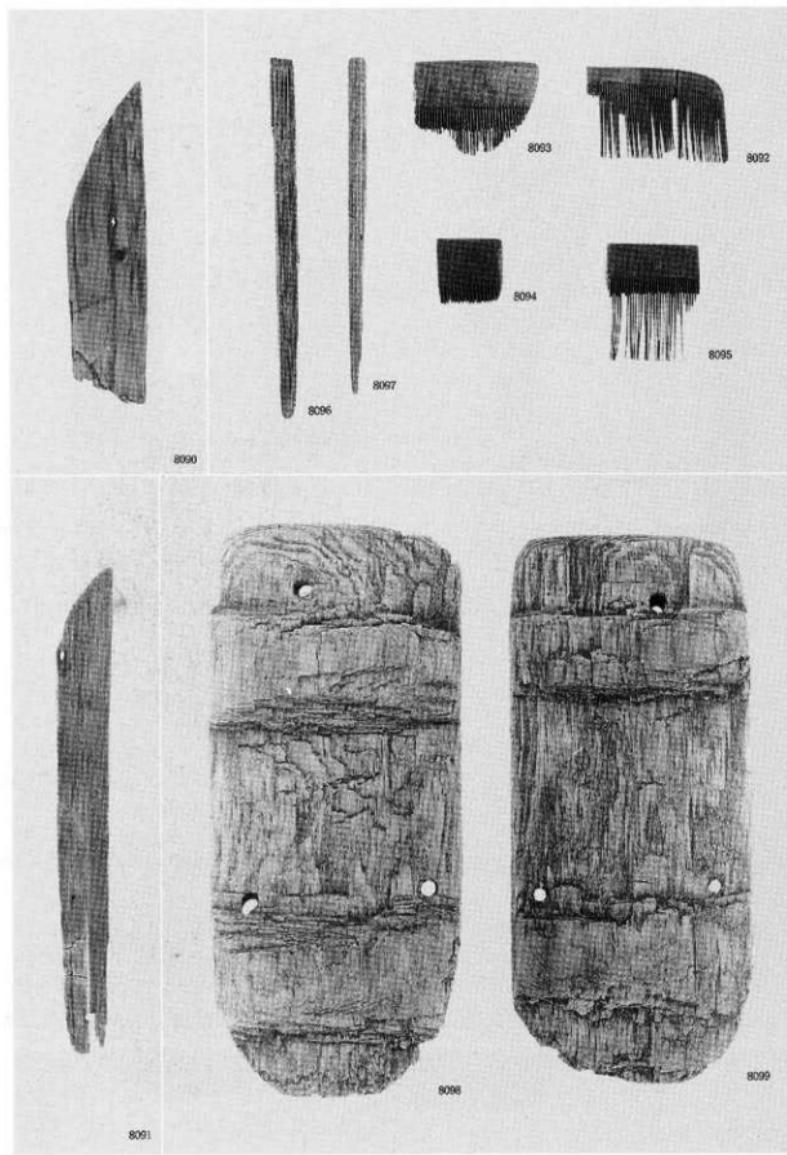
木製品 簪串

図版〇六七 遺物写真 東木津遺跡

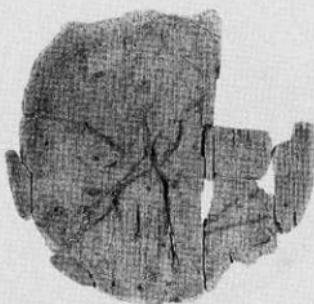


8089





木製品 服飾具



S101



S101



S102



S102



S103

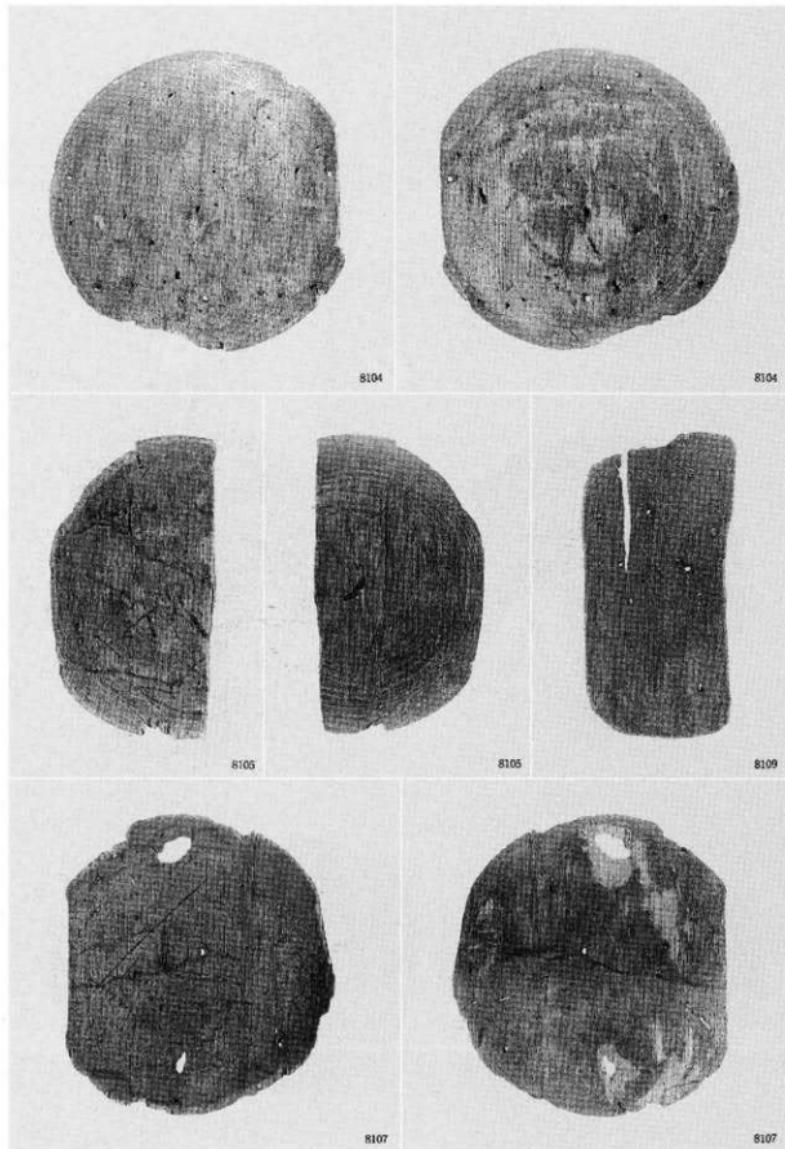


S106



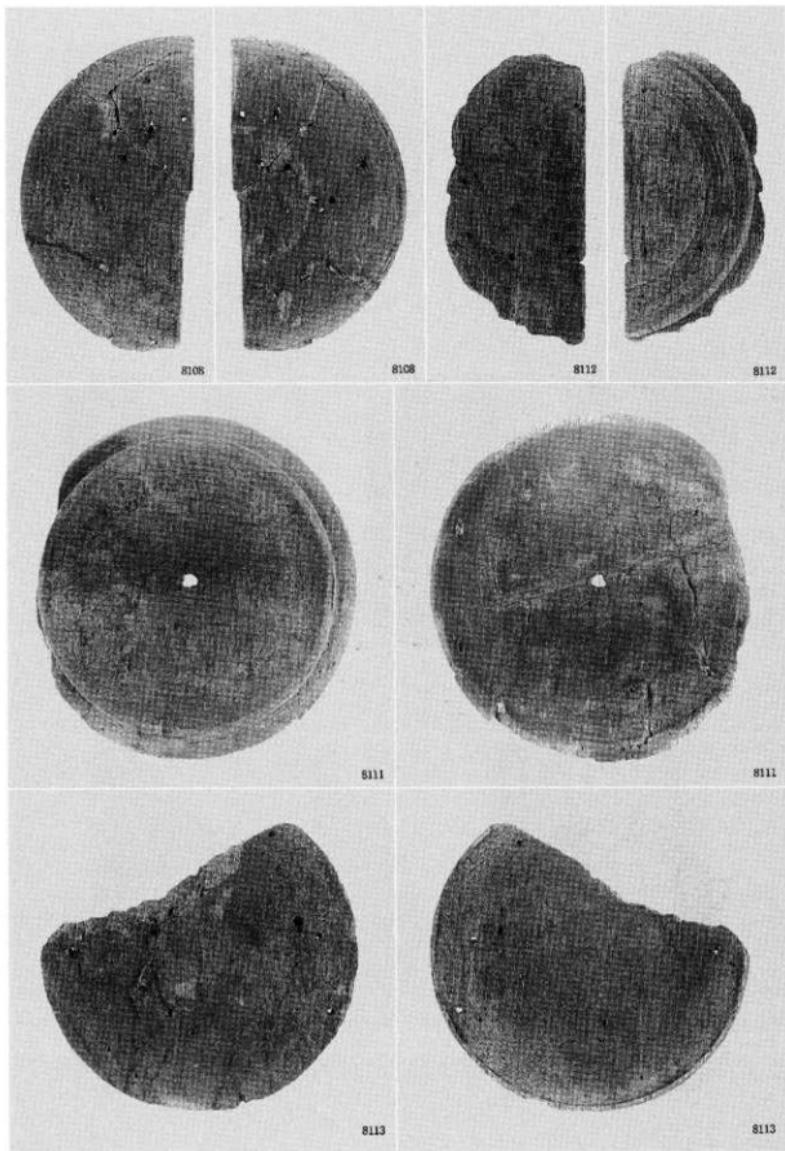
S106

図版〇七〇 遺物写真 東木津遺跡

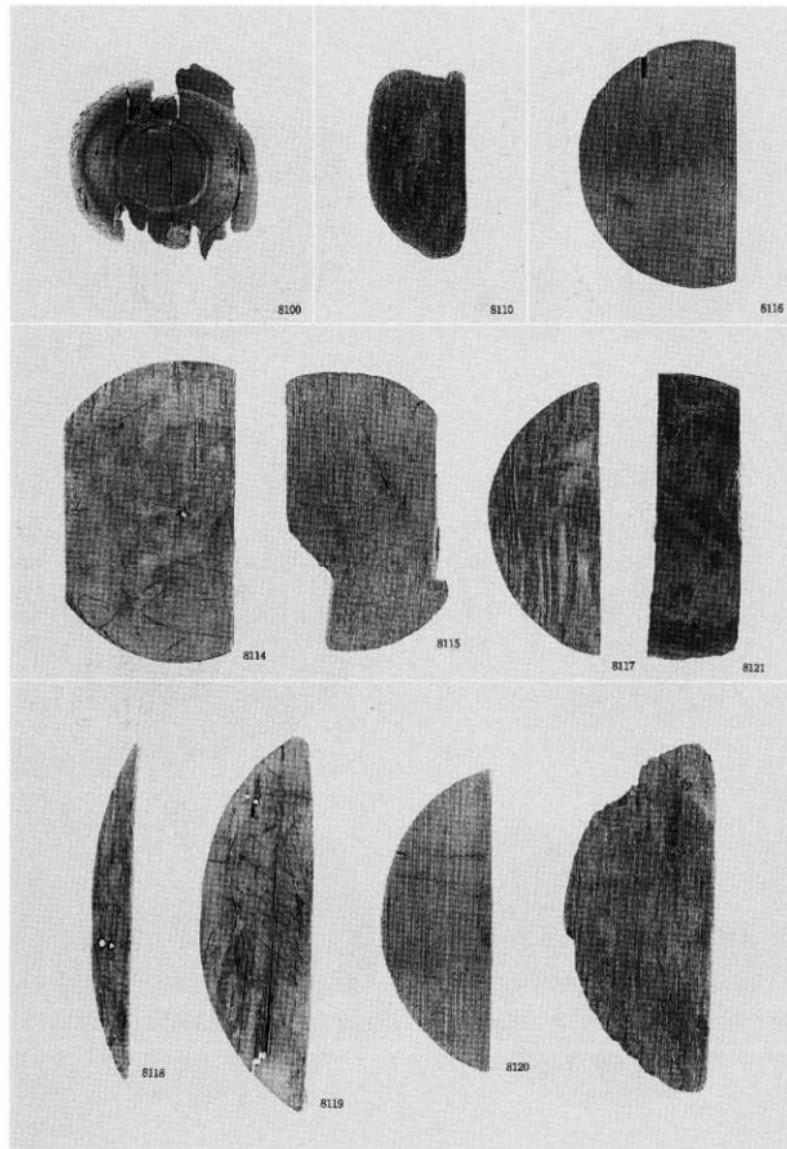


木製品 挽物

図版〇七一 遺物写真 東木津遺跡



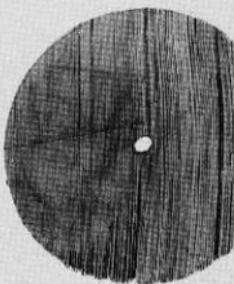
圖版〇七二 遺物写真 東木津遺跡



木製品 挽物・蓋



8123



8126



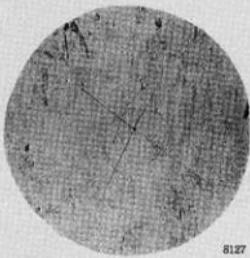
8124



8126



8128



8127



8129

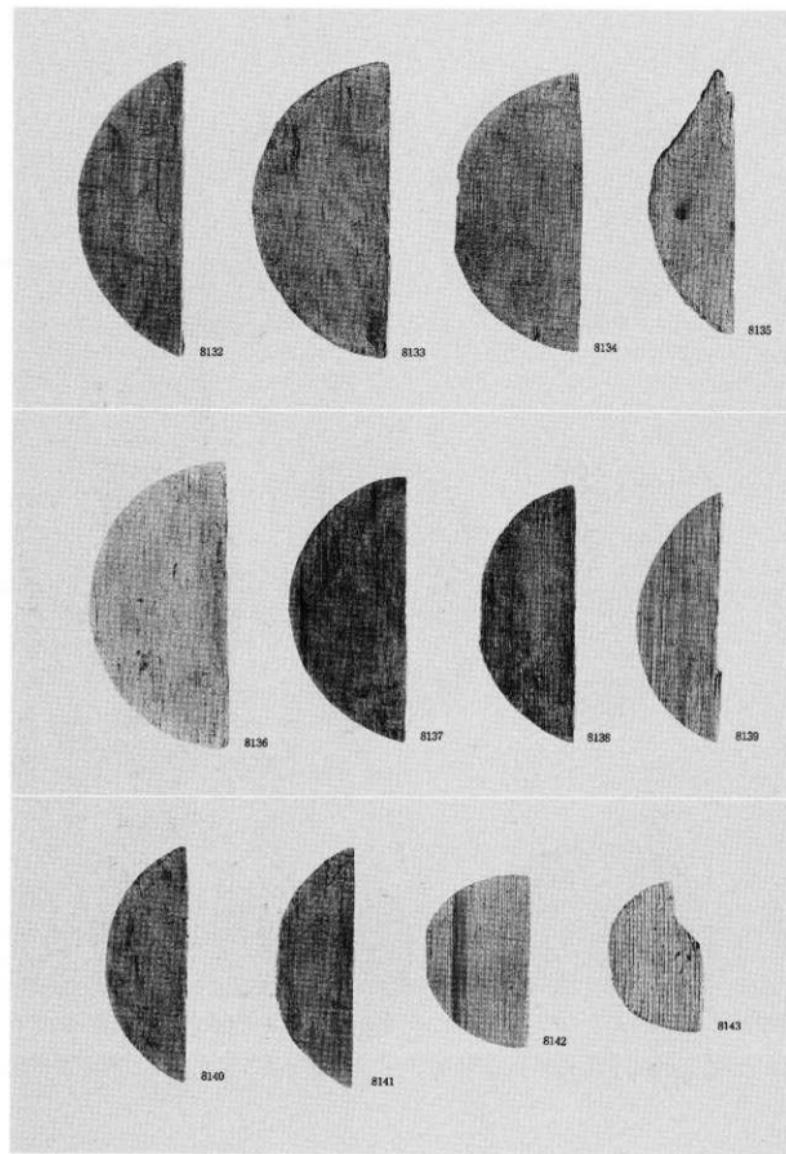


8130



8131

圖版〇七四 遺物写真 東木津遺跡



木製品 曲物



8144



8145



8146



8147



8148



8149



8150



8151



8152



8153



8154



8155



8156



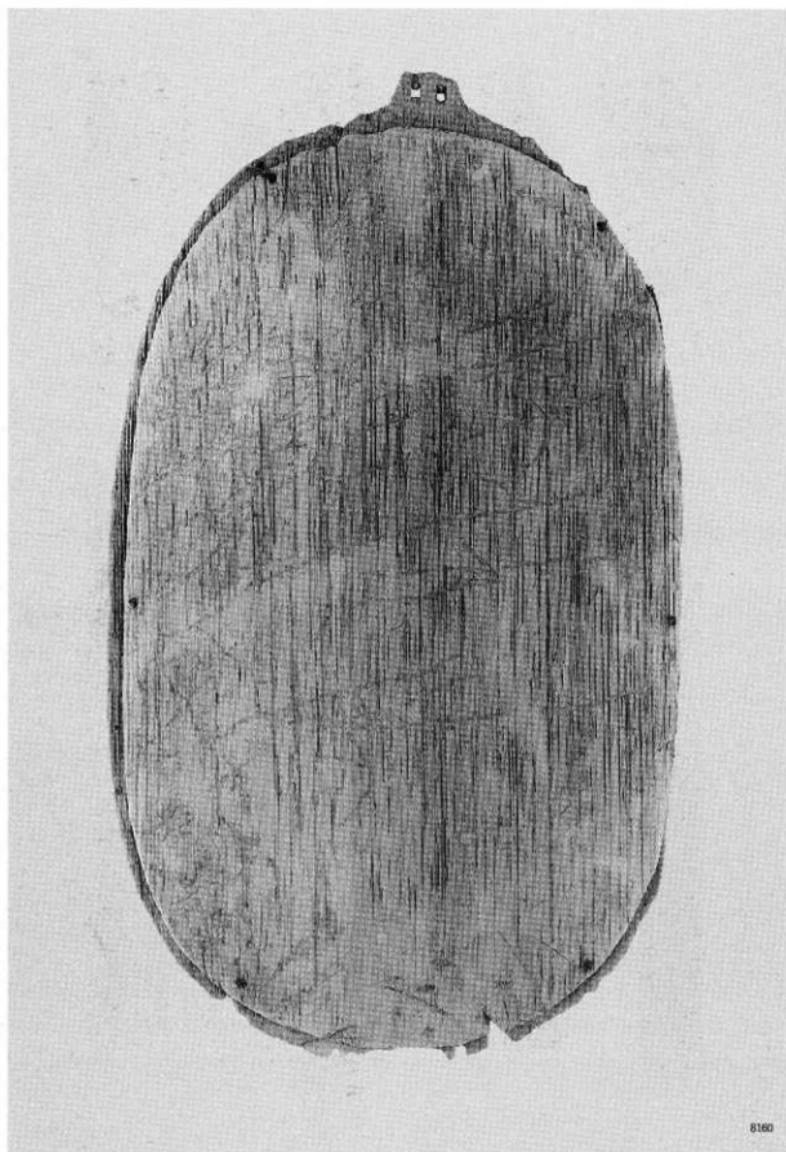
8157



8158



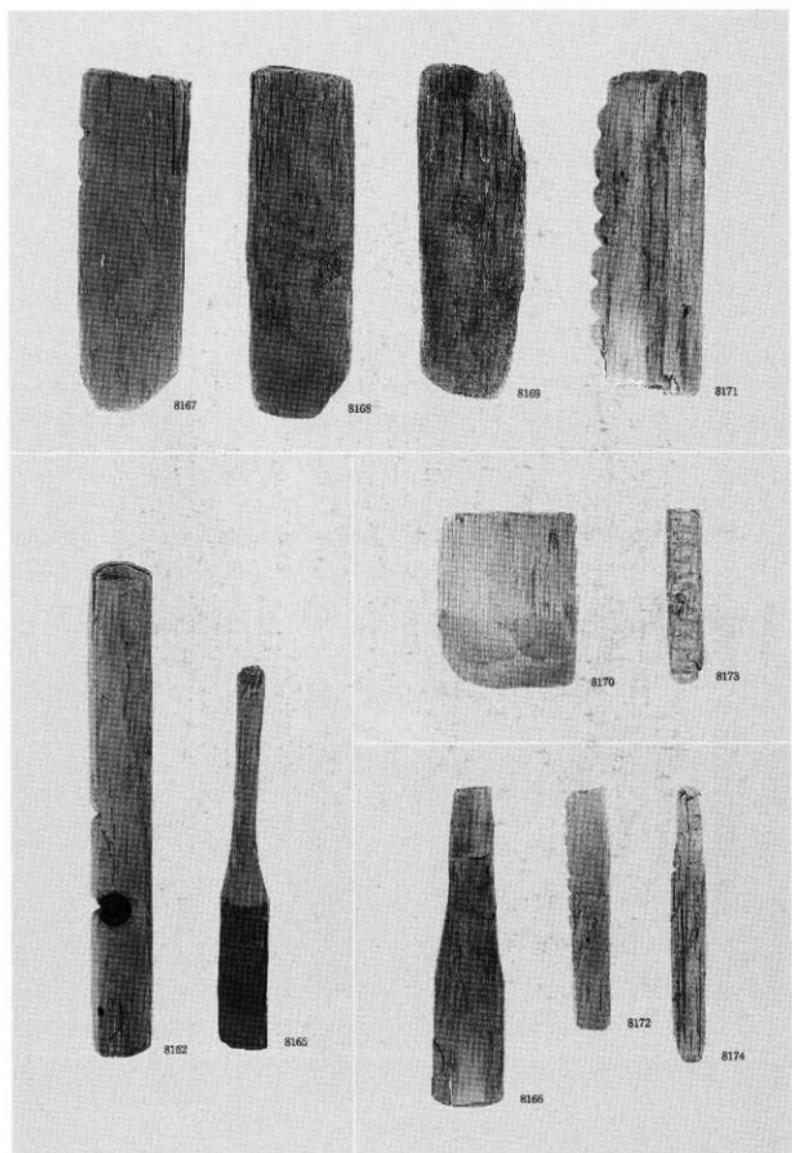
8159



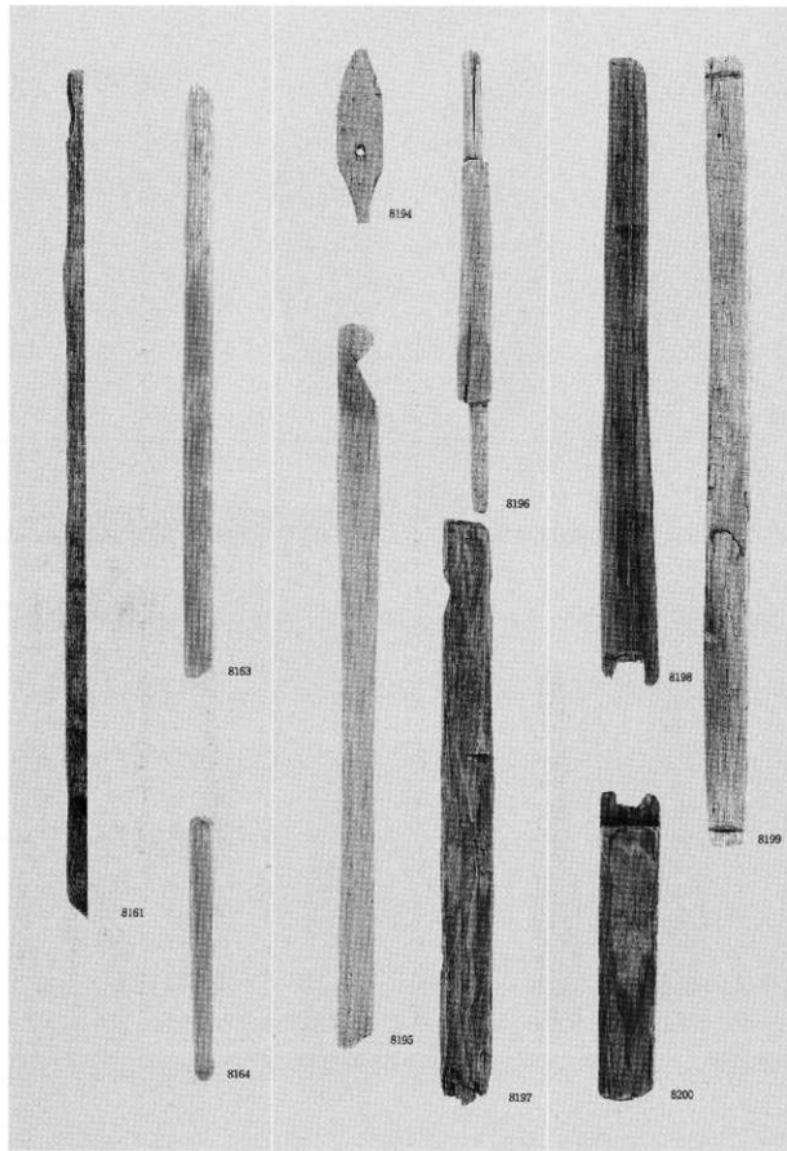
8160

木製品 曲物

図版〇七七 遺物写真 東木津遺跡

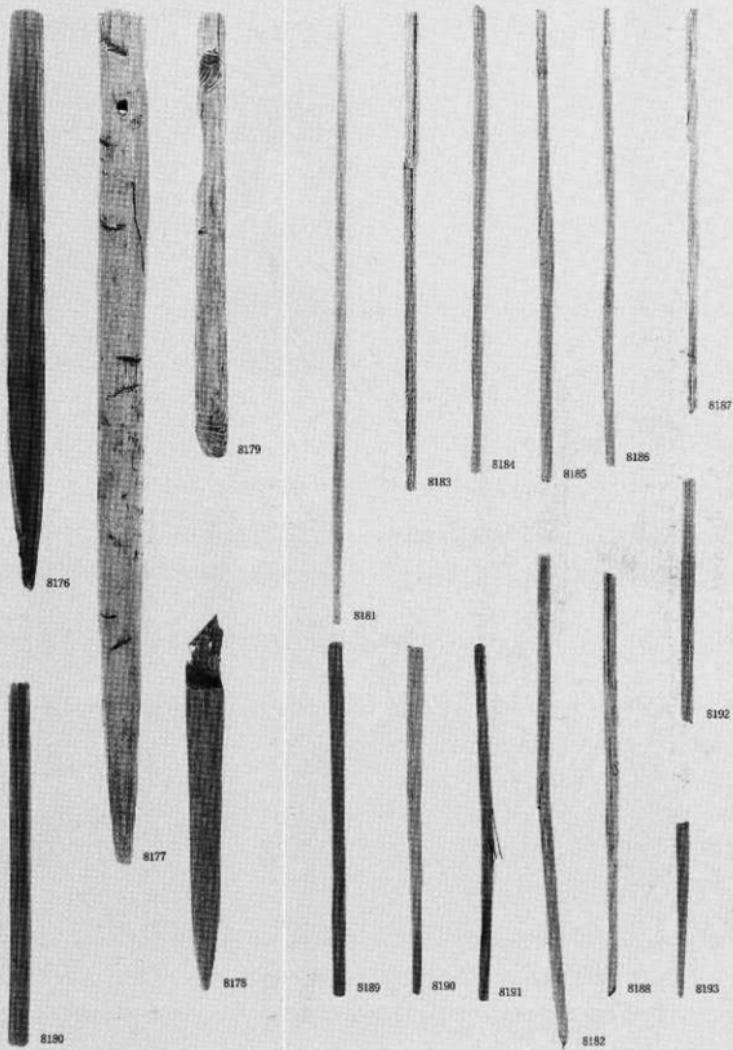


木製品 雜具



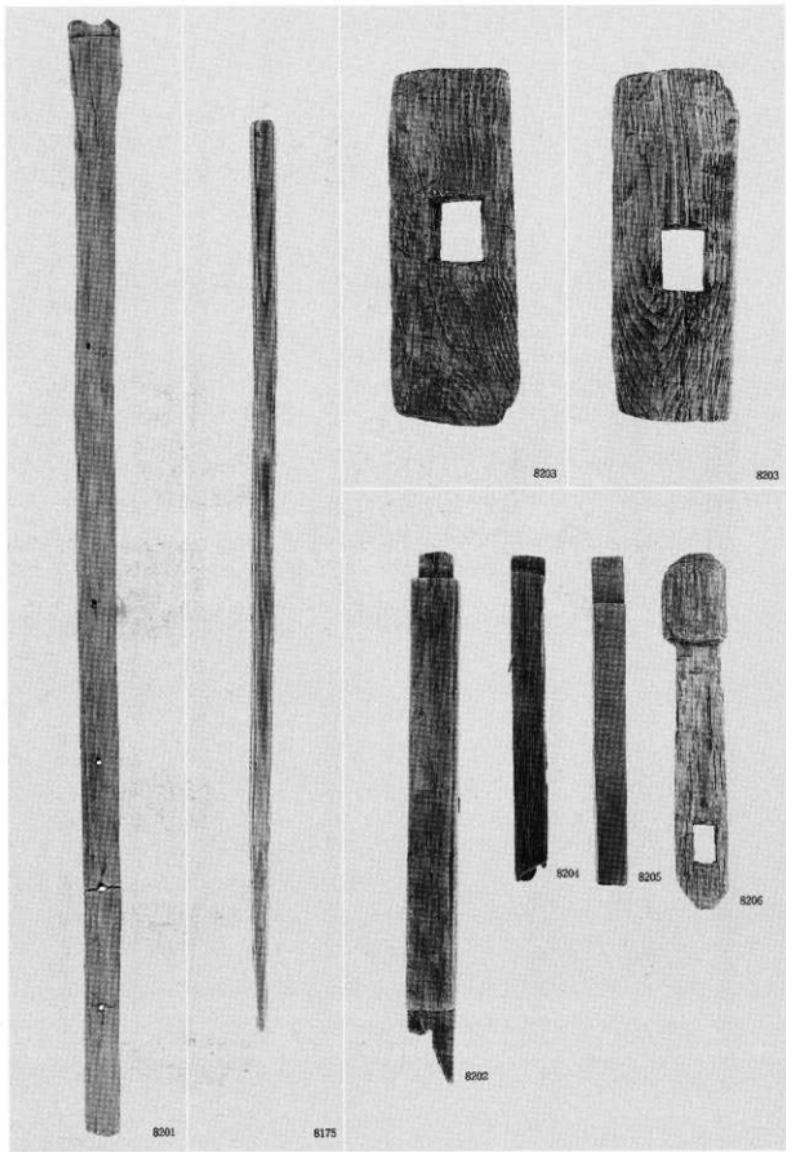
木製品 雜具・用途不明品

図版〇七九 遺物写真 東木津遺跡



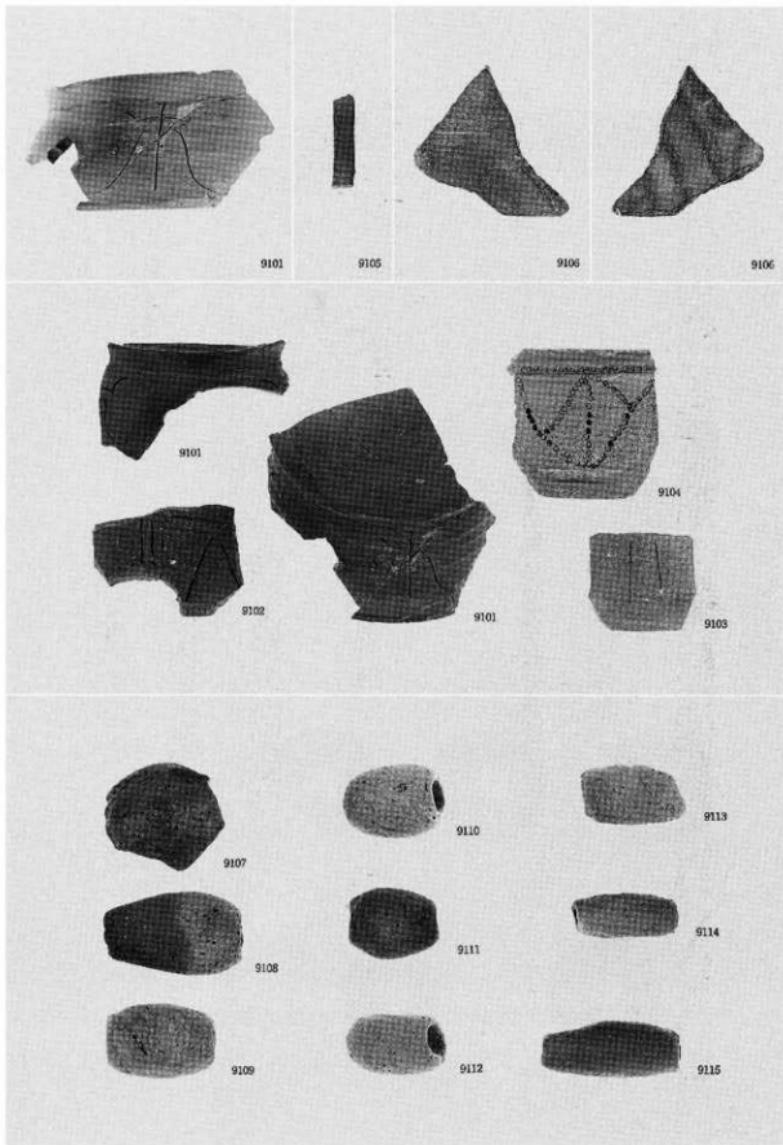
木製品 棒状品・箸

圖版〇八〇 遺物写真 東木津遺跡

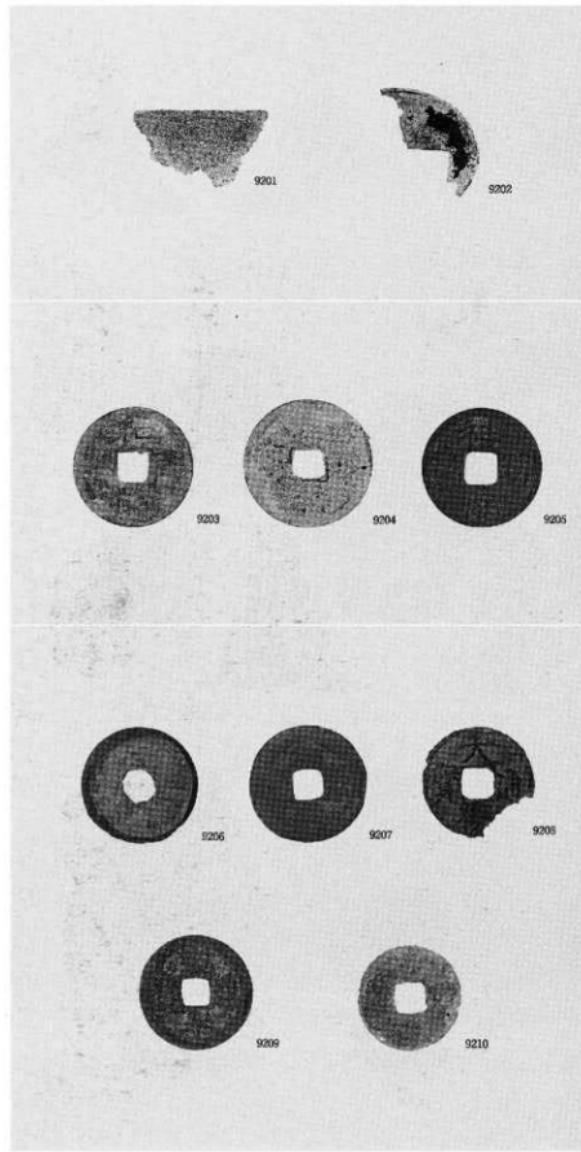


木製品 棒状品・用途不明品・部材

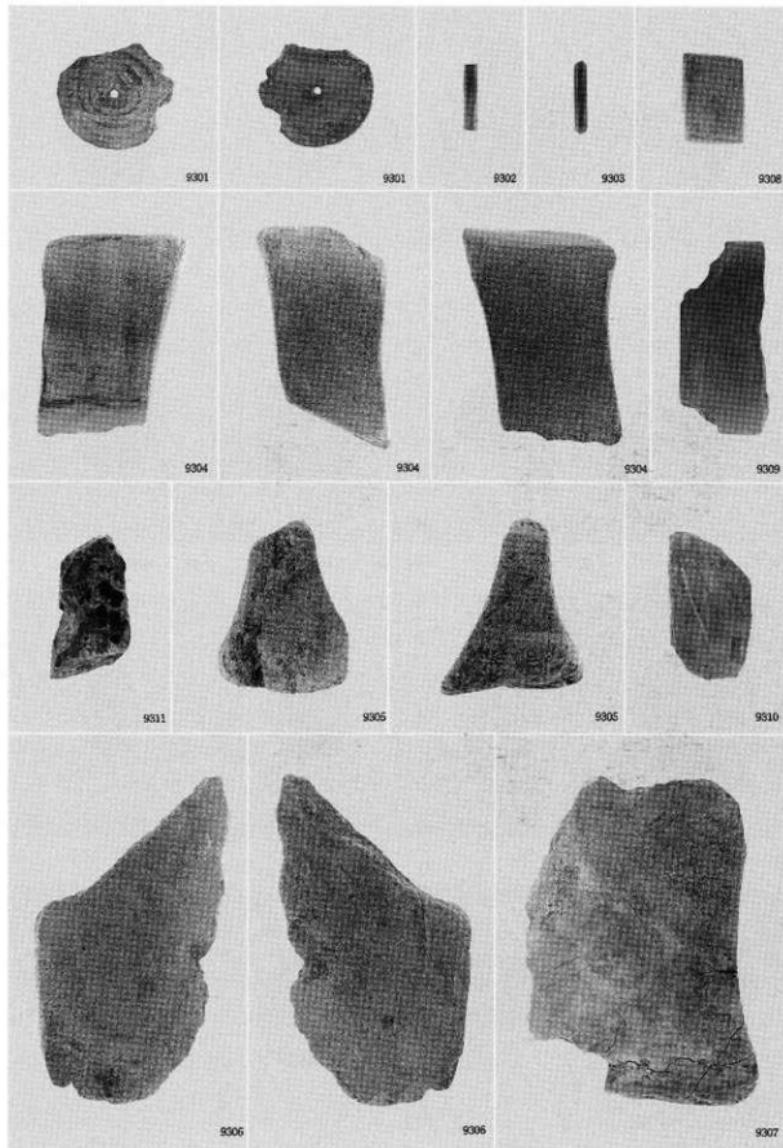
図版〇八一 遺物写真 東木津遺跡

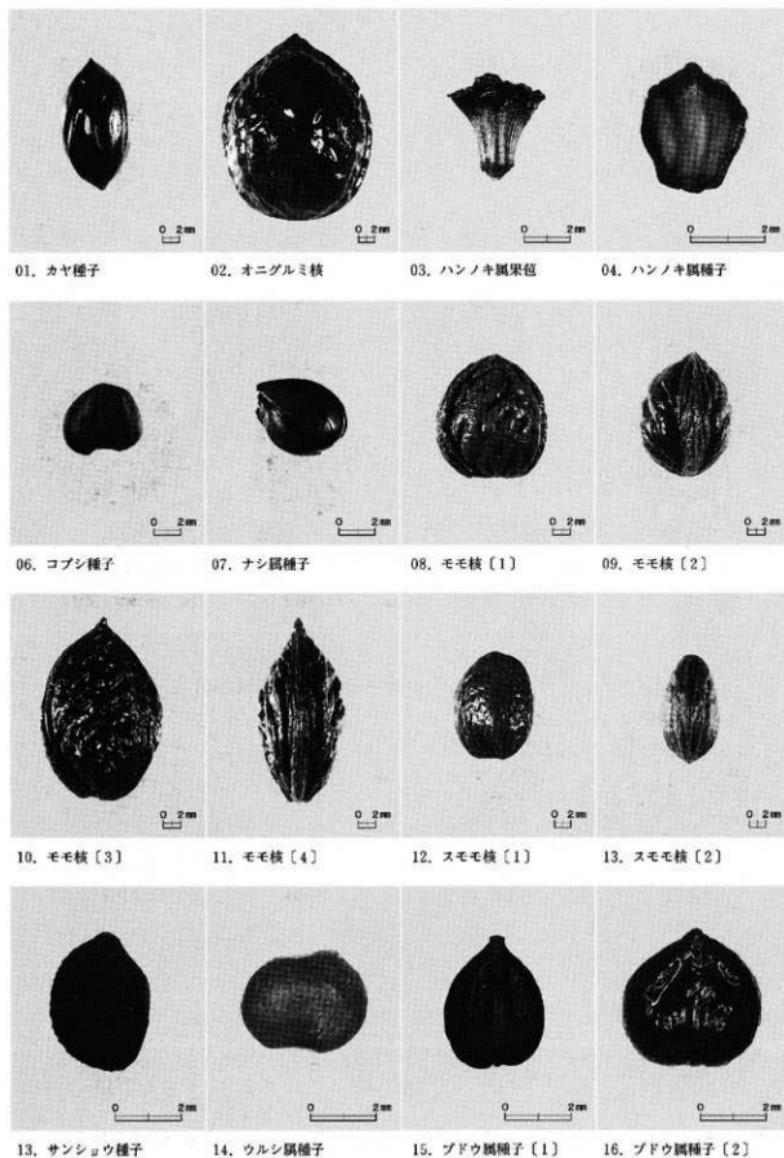


圖版〇八二
遺物写真
東木津遺跡

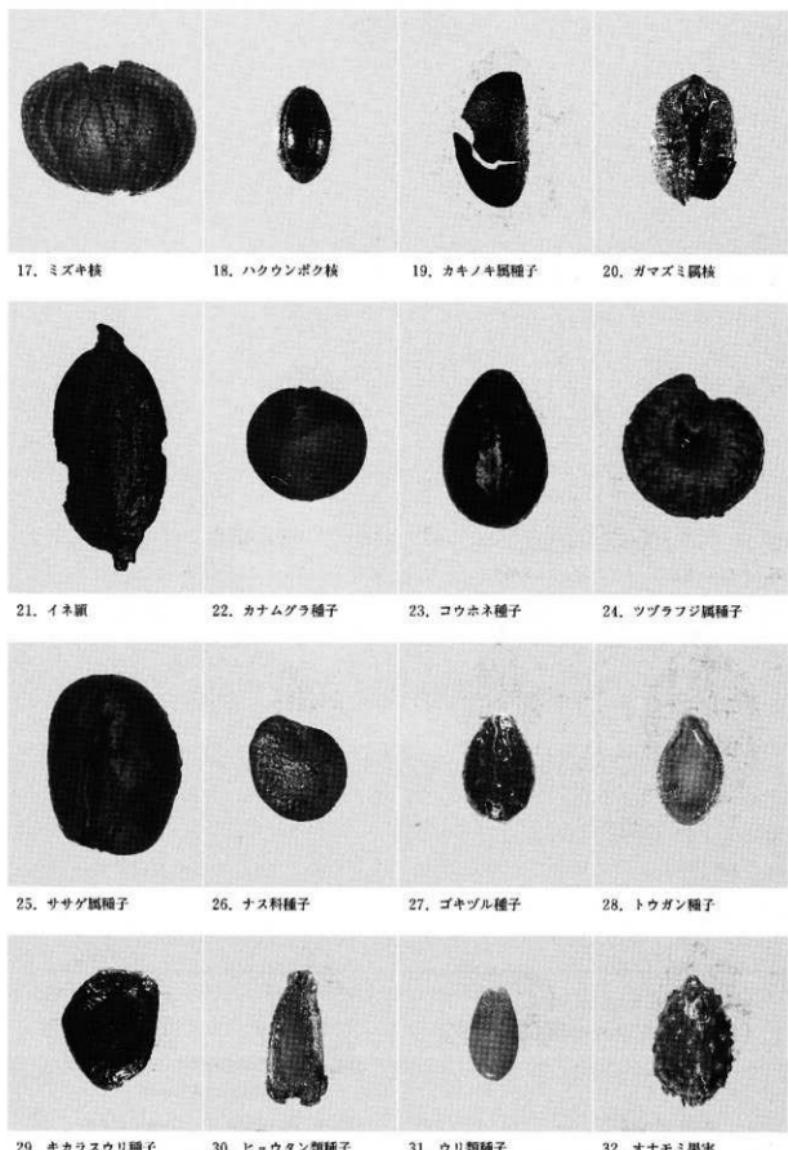


銅製品





図版〇八五 種実写真 東木津遺跡



高岡市埋蔵文化財調査報告第7冊

石塚遺跡・東木津遺跡調査報告

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路7番50号

2001年3月30日

印刷所 株式公社チューエツ高岡営業所

富山県高岡市木津458-1
